

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

(第 1 分冊)

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡
(第 1 分冊)

財団法人

茨城県教育財団

平成 19 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

(第 1 分冊)

平成 19 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



島名熊の山遺跡遠景（南西部）



第681号土坑（鑄造土坑）出土遺物

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。この一環である「つくばエクスプレス」の整備は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に島名熊の山遺跡が所在していたため、財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成7年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既当財団の文化財調査報告第120集、第133集、第149集、第166集、第174集、第190集、第214集、第236集、第264集として刊行しています。

本書は、平成16・17年度に調査を行った島名熊の山遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人 見 實 徳

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成16年度及び17年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名に所在する島名熊^{しまなくま}の山遺跡の一部である4・7・9・14・16区の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査 平成16年4月1日～平成17年3月31日，平成17年4月1日～平成18年3月31日

整 理 平成18年4月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもとに行われ、担当は以下のとおりである。

平成16年度

首席調査員兼班長	吉 原 作 平	平成16年4月1日～平成17年3月31日	主任調査員	浦 和 敏 郎	平成16年4月1日～平成16年6月30日
首席調査員	藤 田 哲 也	平成16年4月1日～平成16年6月30日	主任調査員	酒 井 雄 一	平成17年3月1日～平成17年3月31日
首席調査員	横 倉 要 次	平成16年4月1日～平成16年6月30日 平成16年12月1日～平成17年3月31日	主任調査員	渡 邊 浩 実	平成16年4月1日～平成16年6月30日
主任調査員	稲 田 義 弘	平成17年3月1日～平成17年3月31日	主任調査員	田 月 淳 一	平成16年4月1日～平成16年6月30日
主任調査員	青 木 仁 昌	平成17年2月1日～平成17年3月31日	主任調査員	杉 澤 季 展	平成17年1月1日～平成17年3月31日
主任調査員	小 松 崎 和 治	平成16年8月1日～平成16年8月31日	主任調査員	奥 沢 哲 也	平成16年4月1日～平成16年5月31日
主任調査員	石 川 武 史	平成16年6月1日～平成16年6月30日	調 査 員	早 川 麗 司	平成17年3月1日～平成17年3月31日
主任調査員	近 藤 恒 重	平成16年4月1日～平成16年5月31日 平成16年9月1日～平成16年9月30日	調 査 員	桑 村 裕	平成16年8月1日～平成16年9月30日 平成17年2月1日～平成17年3月31日

平成17年度

首席調査員兼班長	吉 原 作 平	平成17年4月1日～平成18年3月31日	主任調査員	本 橋 弘 巳	平成17年7月1日～平成17年8月31日
首席調査員	横 倉 要 次	平成17年4月1日～平成17年8月31日 平成18年1月1日～平成18年3月31日	主任調査員	齋 藤 貴 史	平成17年4月1日～平成17年5月31日
主任調査員	島 田 和 宏	平成17年6月1日～平成17年8月31日	調 査 員	小 林 健 太 郎	平成17年4月1日～平成17年9月30日
主任調査員	後 藤 孝 行	平成17年4月1日～平成17年5月31日	調 査 員	菊 池 直 哉	平成17年4月1日～平成17年5月31日 平成18年2月1日～平成18年3月31日
主任調査員	近 藤 恒 重	平成17年9月1日～平成17年9月30日	調 査 員	清 水 哲	平成17年4月1日～平成17年7月31日
主任調査員	松 本 直 人	平成17年12月1日～平成17年12月31日			平成18年1月1日～平成18年3月31日
主任調査員	市 村 俊 英	平成17年4月1日～平成17年4月30日 平成18年2月1日～平成18年3月31日			

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。

主任調査員 酒 井 雄 一 第1章第1節～第3章第3節，第6節，第8節

主任調査員 渡 邊 浩 実 第3章第4節，第5節，第8節

主任調査員 齋 藤 貴 史 第3章第7節，第8節

調 査 員 清 水 哲 第3章第7節，第8節

5 本書を作成するにあたり、鑄造土坑，鑄型片，炉壁片については京都橘大学教授五十川伸矢氏に，小金銅仏の鑄型については茨城県近代美術館主任学芸員山本哲士氏，副主任学芸員中田智則氏に，馬具については日立市郷土博物館係長片平雅俊氏に御指導頂いた。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = +7,320\text{m}$ 、 $Y = +20,200\text{m}$ の交点を基準点(A 1 a1)とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3...とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3, ...0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付けて併記した。





- 3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI - 住居跡 SB - 掘立柱建物跡 SA - 柵跡 SK - 土坑 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡
UP - 地下式墳 P - ピット PG - ピット群 TP - 陥し穴 SX - 不明遺構
遺物 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品・ガラス製品 M - 金属製品・古銭
土層 K - 攪乱

- 4 当遺跡は、『茨城県遺跡地図』（茨城県教育委員会 平成13年3月改訂）において、「熊の山遺跡」から「島名熊の山遺跡」と名称が変更されているが、本書では遺跡の整合性から平成7年度調査から継続の遺構番号を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は1200分の1、第4区全体図は250分の1、第7・9・14・16区全体図は400分の1、遺構は60分の1に縮小して掲載した。
(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉・朱墨		炉・火床面			
	竈部材・粘土・炭化材・黒色処理		油煙・煤・墨・柱痕・柱のあたり 井戸跡埋土の黒色土			
土器	土製品	石器・石製品	金属製品	自然遺物	-----	硬化面

- 6 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 7 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

- (1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、cm, gで示した。
(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、及びその他必要と思われる事項を記した。
(3) 文字資料のうち、焼成後に線刻されたものを「刻書」として記述した。

- 8 「主軸」は、竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき								
書名	島名熊の山遺跡								
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	XIII								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第280集								
編著者名	酒井雄一 渡邊浩実 齋藤貴史 清水 哲								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行年月日	2007(平成19)年3月23日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (4区)	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあざしまな あざくま 大字島名字熊の山 ばんち 1630番地	08220 - 214	36度 3分 42秒 (36度 3分 54秒)	140度 3分 41秒 (140度 3分 29秒)	21 ~ 23m	20050701 ~ 20050830	449㎡	島名・福田坪 一体型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査	
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (7区)	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあざしまな あざかとり 大字島名字香取 ばんち 1982番地	08220 - 214	36度 3分 41秒 (36度 3分 53秒)	140度 3分 46秒 (140度 3分 34秒)	19 ~ 21m	20040801 ~ 20040929	1,170㎡		
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (9区)	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあざしまな あざどうじょうまえ 大字島名字道場前 ばんち 1654-1番地ほか	08220 - 214	36度 3分 36秒 (36度 3分 48秒)	140度 3分 39秒 (140度 3分 27秒)	19 ~ 22m	20040401 ~ 20040629	2,062㎡		
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (14区)	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあざしまな あざなかだい 大字島名字仲代 ばんち 1343-1番地ほか	08220 - 214	36度 3分 53秒 (36度 4分 05秒)	140度 3分 38秒 (140度 3分 36秒)	19 ~ 22m	20040401 ~ 20040629	6,085㎡		
しまなくま やまいせき 島名熊の山遺跡 (16区)	いばらきけん 茨城県つくば市 おおあざしまな あざでら まえ 大字島名字寺ノ前 ばんち 1670番地ほか	08220 - 214	36度 3分 34秒 (36度 3分 46秒)	140度 3分 34秒 (140度 3分 22秒)	19 ~ 23m	20041201 ~ 20050324 20050401 ~ 20050831 20051201 ~ 20060323	3,840㎡ 4,297㎡ 5,964㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
島名熊の山遺跡 (4区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	13軒	土師器, 須恵器, 土製品(勾玉・小玉・球状土錘), 鉄器・鉄製品(鋤先・鎌・鏃・釘・鉈)				
		奈良	土坑	1基					
		柵跡	1列						
	平安	竪穴住居跡	9軒	土師器, 須恵器, 土製品(紡錘車)					
その他	平安	竪穴住居跡	4軒	土師器, 須恵器, 石器(砥石)					
	不明	溝跡	1条	土師器, 須恵器, 陶器, 磁器, 瓦					
島名熊の山遺跡 (7区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	2軒	土師器, 須恵器				
		奈良	竪穴住居跡	4軒					
		土坑	7基						
	平安	溝跡	1条	土師器, 須恵器, 石器(砥石), 鉄製品(鏃)					
墓域跡 その他	平安	竪穴住居跡	23軒	土師器, 須恵器, 灰釉陶器(壺・長頸瓶), 鉄器・鉄製品(鋤先・刀子・留金具・鉄鉗)					
	中世	火葬土坑	3基	鋳型片(小金銅仏)					
その他	中世	方形竪穴遺構	6基						
	不明	溝跡	3条						
			土坑	30基					
			ピット群	1か所					

島名熊の山遺跡 (9区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	4軒	土師器, 須恵器	鑄造土坑が確認され、燈籠の蓮華座や梵鐘の乳、鰐口等の鑄型片や、炉壁片などが出土している。
		平安	竪穴住居跡	15軒	土師器, 須恵器, 石器・石製品(砥石・紡錘車), 腰帯具(巡方), 鉄製品(刀子・鏃・釘), 椀状滓	
		中世	掘立柱建物跡	5棟		
		不明	土坑	9基		
島名熊の山遺跡 (14区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	28軒	土師器, 須恵器, 土製品(勾玉・土玉・球状土錘), 石器・石製品(砥石・白玉), 鉄器・鉄製品(鎌・刀子・鏃・釘), 銅製品(耳環)	南側の緩斜面部からは、中世後半の古銭や土師質土器片が出土し、多数の墓坑や火葬施設が検出されている。
		奈良	竪穴住居跡	9軒	土師器, 須恵器, 土製品(球状土錘), 鉄器・鉄製品(刀子・釘・鑿カ)	
		平安	竪穴住居跡	3軒	土師器, 須恵器, 石製品(白玉), 鉄製品(釘)	
		中・近世	土坑	1基	土師質土器(小皿), 鉄製品(釘), 古銭	
島名熊の山遺跡 (16区)	集落跡	縄文	陥し穴	1基	縄文土器, 石器(鏃・磨石・敲石・石皿)	多量の土師質土器(小皿・内耳鍋)が出土し、中世の大規模な堀跡が確認されている。また、6世紀後葉の焼失住居から、馬具(辻金具)や鋤先形鉄製品が出土している。
		古墳	竪穴住居跡	57軒	土師器, 須恵器, 土製品(勾玉・土玉・紡錘車・土錘・鈴), 石製品(勾玉・切子玉・管玉・白玉・紡錘車・石製模造品), 鉄器・鉄製品(鎌・斧・鋤先・刀子・鏃・釘・絞具・馬具), 銅製品(耳環)	
		奈良	掘立柱建物跡	3棟	土師器, 須恵器, 土製品(紡錘車・土錘), 石器・石製品(砥石・紡錘車), 鉄器・鉄製品(鎌・刀子・鏃・紡錘車・釘)	
		平安	竪穴住居跡	41軒	土師器, 須恵器, 灰釉陶器(長頸瓶・椀), 土製品(土玉・紡錘車・土馬), 石器・石製品(砥石・紡錘車), 鉄器・鉄製品(鎌・鋤先・紡錘車・鎖), 銅製品(巡方)	
要約	墓域跡	中・近世	粘土貼り土坑	4基	土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢), 陶器(天目茶碗・甕), 石器(石臼・砥石), 石塔	過去の調査結果を含めると、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡約2000軒、掘立柱建物跡約380棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今年度報告の調査区からは、台地の南東部斜面と南西部で、古墳時代から平安時代の集落跡のほか中世から近世にかけての地下式墳, 墓坑, 井戸跡とともに、大規模な堀跡や溝跡が確認されている。
		中・近世	火葬土坑	5基		
		中・近世	墓坑	9基		
		中・近世	掘立柱建物跡	5棟	土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢), 土製品(鈴), 陶器(天目茶碗・皿・小皿・甕・水滴), 石器・石製品(砥石・石臼・茶臼・硯), 石塔(五輪塔・宝篋印塔・石幢), 鉄器・鉄製品(鎌・刀子・鏃・火打具・煙管), 古銭	
要約	その他	中・近世	方形竪穴遺構	1基		
		不明	井戸跡	2基	土師器, 須恵器, 陶器(碗), 磁器(碗)	
		不明	竪穴住居跡	1軒		
		不明	溝跡	3条		
要約	その他	不明	道路跡	2条		
		不明	井戸跡	8基		
		不明	土坑	98基		
		不明	土坑	1列	陶器(碗), 磁器(碗), 瓦, 煙管	

総目次

第1分冊

序	竪穴住居跡.....83
例言	2 奈良時代の遺構と遺物.....88
凡例	竪穴住居跡.....88
抄録	3 平安時代の遺構と遺物.....98
目次	竪穴住居跡.....98
第1章 調査経緯..... 1	4 中世の遺構と遺物154
第1節 調査に至る経緯..... 1	(1) 方形竪穴遺構154
第2節 調査経過..... 1	(2) 火葬土坑159
第2章 位置と環境..... 3	5 その他の時代の遺構と遺物162
第1節 地理的環境..... 3	(1) 溝跡162
第2節 歴史的環境..... 3	(2) 土坑163
第3章 調査の成果..... 9	(3) ピット群166
第1節 遺跡の概要..... 9	6 遺構外出土遺物168
第2節 基本層序..... 9	第5節 9区の遺構と遺物170
第3節 4区の遺構と遺物.....11	1 古墳時代の遺構と遺物170
1 古墳時代の遺構と遺物.....11	竪穴住居跡170
(1) 竪穴住居跡.....11	2 平安時代の遺構と遺物180
(2) 柵跡.....47	(1) 竪穴住居跡180
(3) 土坑.....48	(2) 掘立柱建物跡213
2 奈良時代の遺構と遺物.....49	(3) 土坑221
竪穴住居跡.....49	(4) 鍛冶関連土坑229
3 平安時代の遺構と遺物.....68	3 中世の遺構と遺物234
竪穴住居跡.....68	(1) 方形竪穴遺構234
4 その他の時代の遺構と遺物.....76	(2) 井戸跡235
(1) 溝跡.....76	(3) 鑄造土坑236
(2) 井戸跡.....76	4 その他の時代の遺構と遺物239
(3) 土坑.....77	(1) 竪穴住居跡239
(4) 柱穴の可能性のある土坑.....78	(2) 道路跡240
(5) その他の土坑.....79	(3) 溝跡242
(6) 柵跡.....79	(4) 井戸跡243
5 遺構外出土遺物.....81	(5) 墓坑249
第4節 7区の遺構と遺物.....83	(6) その他の土坑251
1 古墳時代の遺構と遺物.....83	5 遺構外出土遺物262

第 2 分冊

第 6 節 14区の遺構と遺物	265	(7) 柵跡	392
1 古墳時代の遺構と遺物	265	5 その他の時代の遺構と遺物	394
竪穴住居跡	265	(1) 溝跡	394
2 奈良時代の遺構と遺物	332	(2) 墓坑の可能性のある土坑	397
(1) 竪穴住居跡	332	(3) 柱穴の可能性のある土坑	407
(2) 掘立柱建物跡	354	(4) その他の土坑	409
3 平安時代の遺構と遺物	359	(5) ピット群	414
(1) 竪穴住居跡	359	(6) 柵跡	417
(2) 土坑	363	6 遺構外出土遺物	424
4 中世の遺構と遺物	365	第 7 節 16区の遺構と遺物	427
(1) 掘立柱建物跡	365	1 縄文時代の遺構と遺物	427
(2) 方形竪穴遺構	368	陥し穴	427
(3) 地下式墳	370	2 古墳時代の遺構と遺物	427
(4) 溝跡	374	(1) 竪穴住居跡	427
(5) 火葬土坑	379	(2) 土坑	573
(6) 墓坑	384		

第 3 分冊

3 奈良時代の遺構と遺物	577	(4) 堀跡	763
(1) 竪穴住居跡	577	(5) 溝跡	787
(2) 掘立柱建物跡	611	(6) 道路跡	798
4 平安時代の遺構と遺物	617	(7) 井戸跡	801
(1) 竪穴住居跡	617	(8) 土坑	825
(2) 掘立柱建物跡	704	(9) 粘土貼り土坑	834
(3) 土坑	725	(10) 火葬土坑	838
(4) 柱穴の可能性のある土坑	727	(11) 墓坑	841
(5) 柵跡	729	(12) 墓坑の可能性のある土坑	848
5 中・近世の遺構と遺物	733	(13) 柱穴の可能性のある土坑	872
(1) 掘立柱建物跡	733	(14) ピット群	874
(2) 方形竪穴遺構	738	(15) 不明遺構	880
(3) 地下式墳	746		

第 4 分冊

6 その他の時代の遺構と遺物	893	7 遺構外出土遺物	921
(1) 土坑	893	第 8 節 まとめ	927
(2) その他の土坑	894	写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が所在する旨回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成16年3月24日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

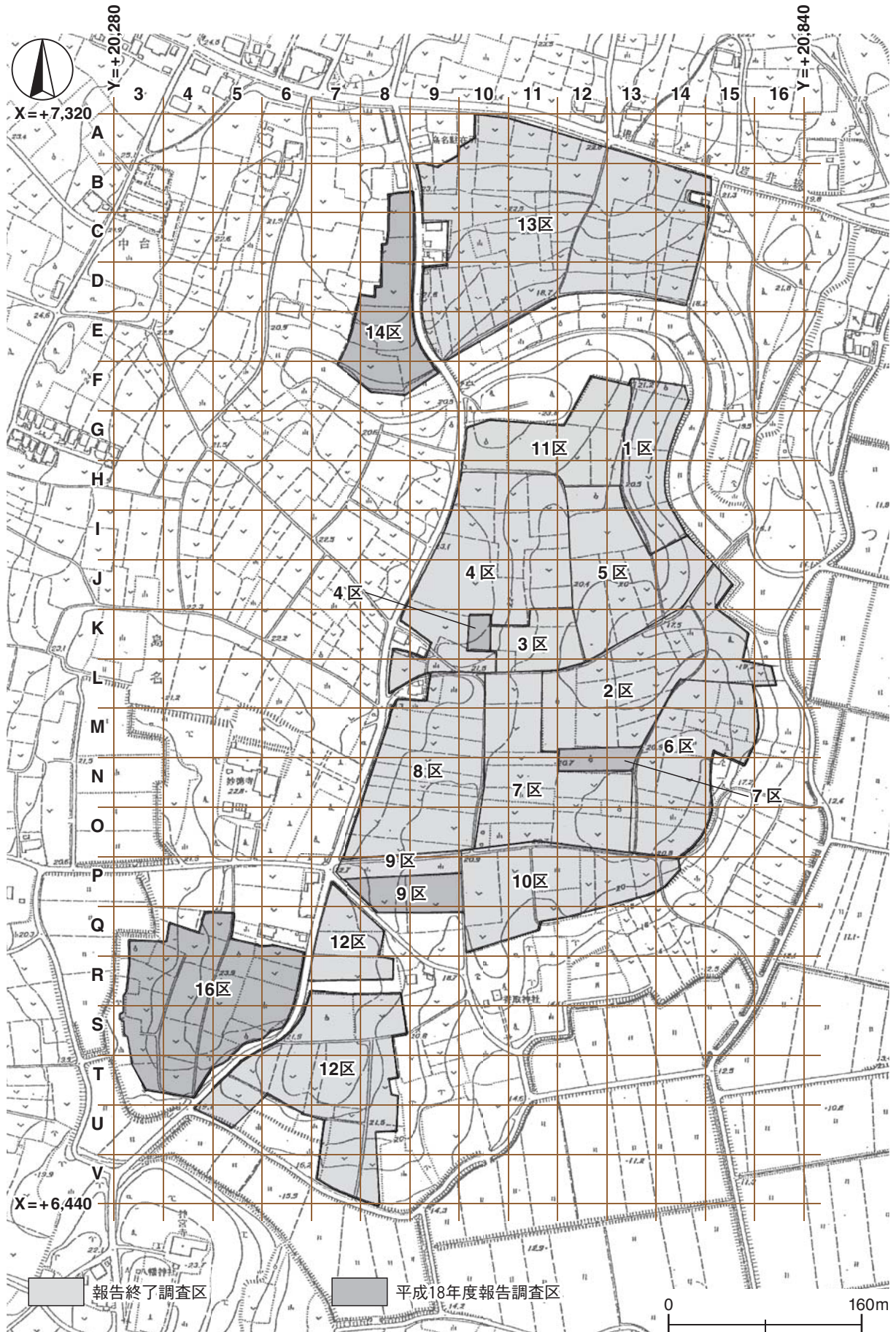
平成17年3月9日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。3月15日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、島名熊の山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成16年4月1日から平成17年3月31日、平成17年4月1日から平成18年3月31日まで島名熊の山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

島名熊の山遺跡第4・7・9・14・16区の調査は、平成16年4月1日から平成17年3月31日、平成17年4月1日から平成18年3月31日までの2年間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。なお、平成16年7・8月は第15区、10月から12月は第12・15区、平成17年9月から12月は第12・15区の発掘調査を行った。

	平成16年度												平成17年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■				■							■												■	
遺構調査	■					■					■			■							■				
遺物洗浄 注記 写真整理	■												■												
補足調査 撤収																									■



第1図 島名熊の山遺跡グリッド設定図(つくば市 研究学園都市計画図2,500分の1)

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

島名熊の山遺跡第4区は、茨城県つくば市大字島名字熊の山1630番地、同第7区は、大字島名字香取1982番地、同第9区は、大字島名字道場前1654・1番地ほか、同第14区は、大字島名字仲代1343・1番地ほか、同第16区は、大字島名字寺ノ前1670番地ほかそれぞれ所在している。

つくば市は、筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高5～10mの沖積地が発達している。さらに、両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)及び褐色の関東ローム層(0.5～2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

つくば市南西部旧谷田部町域の島名地区は、東谷田川と西谷田川に挟まれた平坦な台地上に位置している。当遺跡はその台地上の東谷田川に面した縁辺部に立地しており、標高は20～23mである。また、当遺跡を囲むように周囲には小さな谷津が入り込み、その名のように島状を呈している。この台地は主に畑地、また低地は水田としてそれぞれ利用されており、台地と水田面の比高は約10mである。当遺跡の調査前の現況は畑地であり、主に野菜畑や栗畑として利用されていた。

第2節 歴史的環境

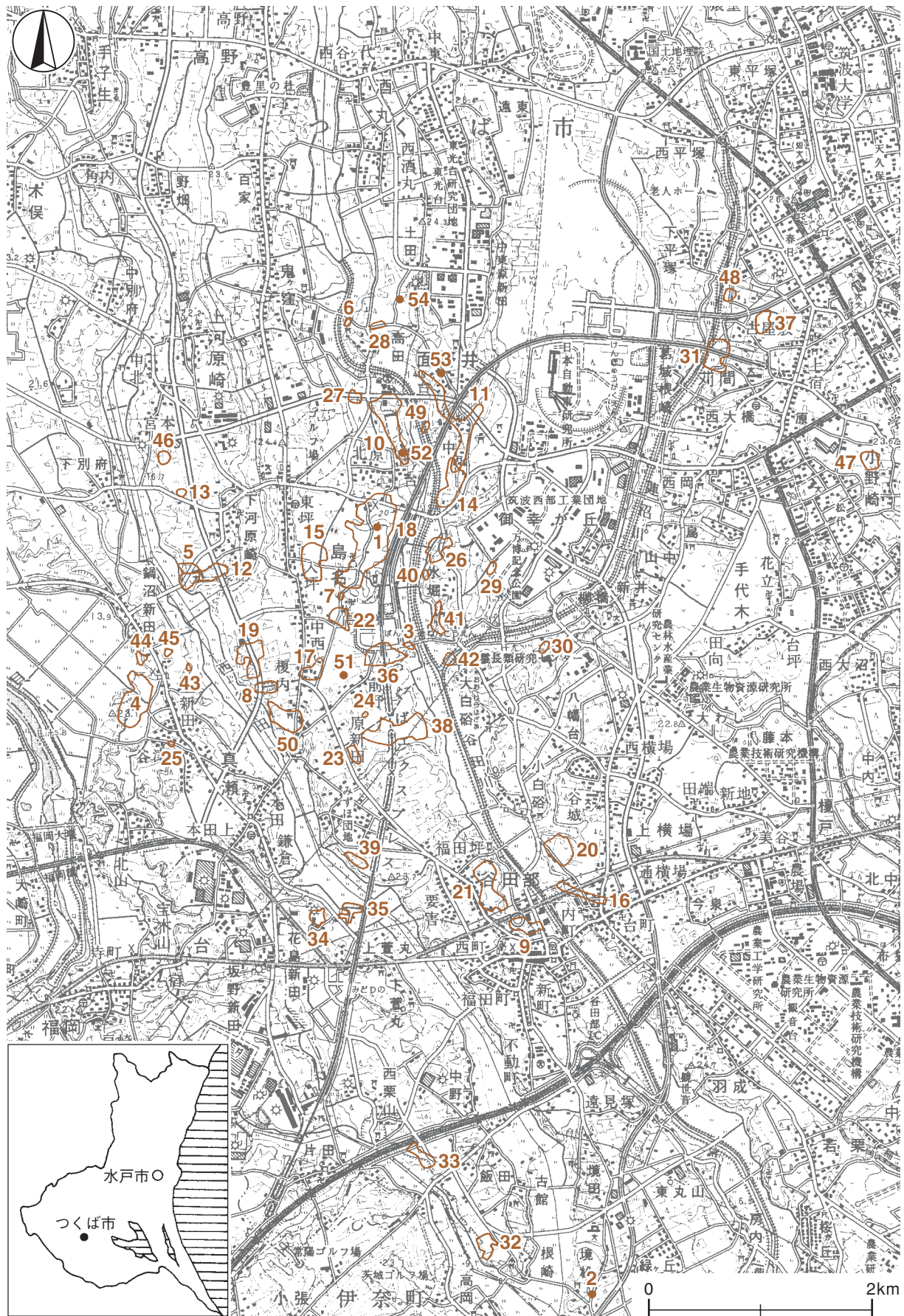
島名熊の山遺跡周辺の小貝川や東谷田川、西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、島名熊の山遺跡と同時期の東谷田川と西谷田川流域の遺跡について述べる。特に、当遺跡が所在する島名地区は調査事例が多く、各時代の様相をつかみやすい地域でもある。

旧石器時代では、当遺跡や島名前野東遺跡²⁾ 36、元宮本前山遺跡³⁾ 46からナイフ形石器や剥片、面野井北の前遺跡⁴⁾ 53から荒屋型彫器などが確認されている。いずれも表土中からの出土であり、旧石器時代の遺構の存在は明らかではない。

縄文時代の遺構は、近年の調査の増加に伴って確認されるようになり、特に西谷田川左岸の境松貝塚⁵⁾ 2では地点貝塚、東谷田川右岸の島名境松遺跡⁶⁾ 38では土器焼成遺構と考えられる土坑が確認されており、注目されている。また、元宮本前山遺跡では早期後葉と考えられる3基の炉穴が確認されている。当遺跡では、陥し穴数基と表土中から土器片や石鏃が複数確認されているにすぎない。

弥生時代の遺跡は少なく、後期の遺物が出土した当遺跡のほか、境松貝塚や島名一町田遺跡⁷⁾ 24などが確認されているだけである。また、当遺跡から出土した土器片には初痕が認められ、稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。前期では、当遺跡のほか、島名前野遺跡⁸⁾ 3、島名前野



第2図 島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「土浦」）

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世
①	島名熊の山遺跡								28	高田遺跡							
2	境松貝塚								29	水堀遺跡							
3	島名前野遺跡								30	柳橋遺跡							
4	真瀬山田遺跡								31	苅間神田遺跡							
5	下河原崎高山遺跡								32	根崎遺跡							
6	高田和田台遺跡								33	西栗山遺跡							
7	島名薬師遺跡								34	真瀬三度山遺跡							
8	島名榎内遺跡								35	上萱丸古屋敷遺跡							
9	谷田部城跡								36	島名前野東遺跡							
10	島名関ノ台古墳群								37	苅間六十目遺跡							
11	面野井古墳群								38	島名境松遺跡							
12	下河原崎高山古墳群								39	谷田部漆遺跡							
13	下河原崎古墳群								40	水堀屋敷添遺跡							
14	面野井南遺跡								41	水堀道後前遺跡							
15	島名本田遺跡								42	平後遺跡							
16	谷田部台町古墳群								43	真瀬掘附北遺跡							
17	島名榎内古墳群								44	真瀬山田北遺跡							
18	島名熊の山古墳群								45	鍋沼神田長峰遺跡							
19	島名ツバタ遺跡								46	元宮本前山遺跡							
20	谷田部台成井遺跡								47	小野崎館跡							
21	谷田部福田前遺跡								48	苅間城跡							
22	島名八幡前遺跡								49	面野井城跡							
23	島名タカド口遺跡								50	島名榎内南遺跡							
24	島名一町田遺跡								51	島名前野古墳							
25	真瀬新田谷津遺跡								52	島名関の台B遺跡							
26	水堀下道遺跡								53	面野井北の前遺跡							
27	島名関ノ台遺跡								54	高田原山遺跡							

東遺跡などで集落跡が確認され、島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が調査されている。しかし、これらの集落はいずれも小規模で東谷田川に沿って点在していた集落の一つととらえることができる。

中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見せ、前述した遺跡に加えて、谷田部漆遺跡⁷⁾ 39 や島名ツバタ遺跡⁸⁾ 19、真瀬三度山遺跡⁹⁾ 34、上萱丸古屋敷遺跡¹⁰⁾ 35 などにおいても集落跡が確認されている。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、集落の立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

後期になると、台地の内陸部にまで集落が及ぶようになる。また、谷田部地区には古墳群11か所、古墳約300基が確認される¹¹⁾など、急速に古墳が築造されたことが分かる。当遺跡周辺には、島名熊の山古墳群 18、島名関ノ台古墳群 10、島名前野古墳 51、面野井古墳群 11、島名榎内古墳群 17、下河原崎高山古墳群 12 などがあり、径10mほどの小円墳が大部分を占めるこれらの古墳群は、地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、『谷田部の歴史』¹²⁾の中には、島名関ノ台古墳群は、円墳27基の他に、全長約40mの前方後円墳が存在したと記され、埋葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。基盤となる集落としては、馬具や農具などの鉄器の他に須恵器なども相当数保持していた当遺跡を挙げることができる。

当遺跡では、過去の調査により、4～5世紀に台地縁辺部に集落が出現した後、6世紀後半になって台地全体に集落が拡大し、急速に発展していく様子が明らかにされている¹³⁾。当遺跡と谷津を隔てて南側に隣接する島名八幡前遺跡¹⁴⁾ 22は集落の形成時期を後期に求めることができ、この時期においても集落を維持していた島名前野遺跡や島名前野東遺跡とともに、当遺跡を中心とする近接する遺跡間で互いの増減を補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで集落が継続して営まれたと考えられる。

奈良時代になると、近年の発掘調査によって島名地区は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。当遺跡や島名八幡前遺跡は、大形住居とそれに付随する掘立柱建物が集落の中心となり、規模や形状の等質化したその他の住居跡は、いずれも主軸を真北にして並存するようになる。さらに、当遺跡にはL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。一方、島名前野遺跡や島名前野東遺跡では7世紀に一旦集落が途絶え、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、約半世紀の間空閑地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の標的となったためと思われる。しかし、その一方で、これらの遺跡以外に島名地区における該期の集落は認められなくなり、当遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

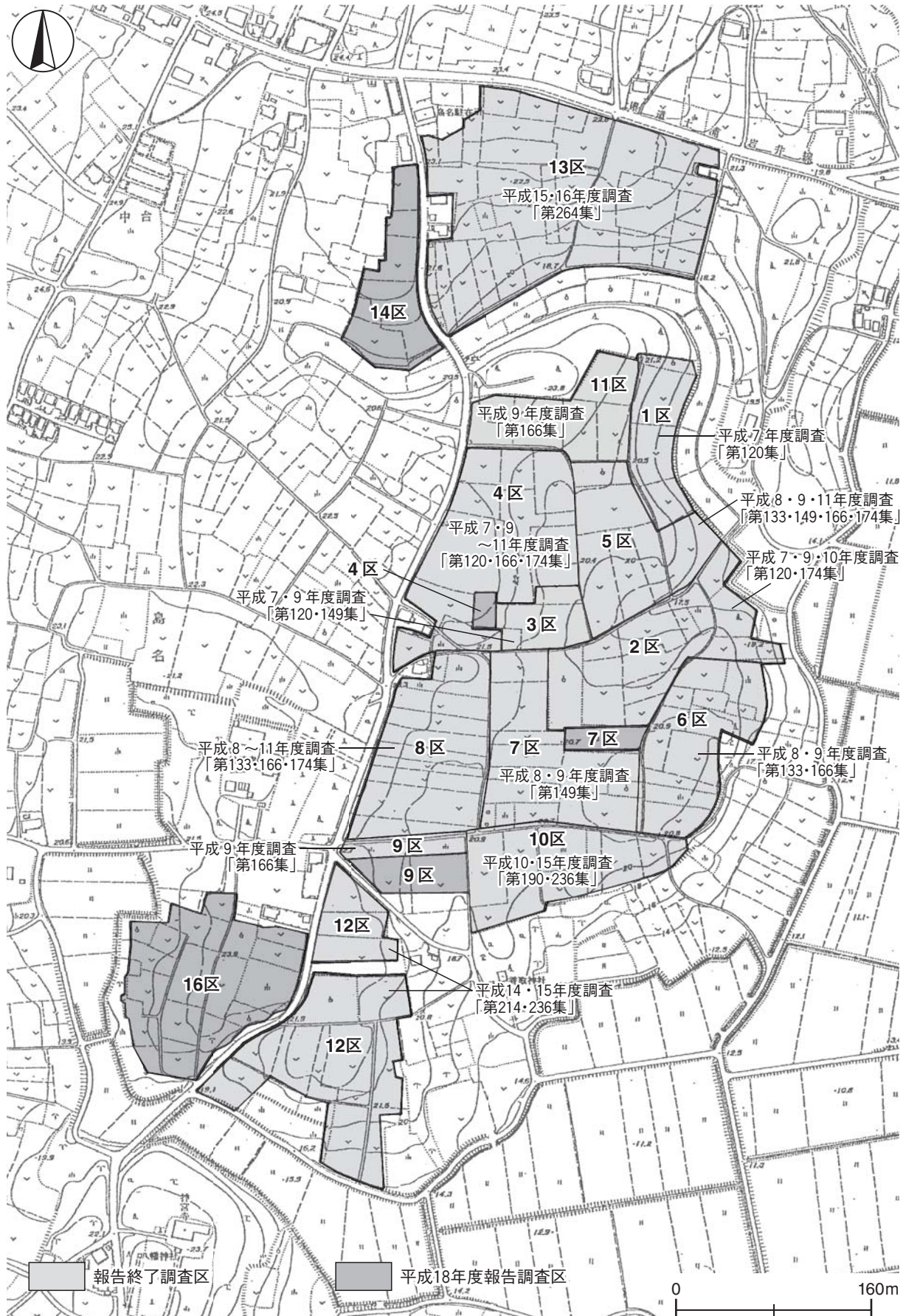
平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡だけとなる。この2遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。加えて、8世紀以来の集落が、大規模な集落を残し壊滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで継続的に集落が営まれるが、その後の集落の様相は、不明瞭になっていく。竪穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われるが、当遺跡の墓坑や井戸跡からは平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。また、13世紀末には当遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺域周辺は墓域として利用されていく。ほぼ同じ頃、島名前野東遺跡には方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が出現しており、居館内に居住する在地有力者が当遺跡の所在する島名地区一帯を治めていったものと思われる。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 3) 高野裕重「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 4) 久野俊度「境松遺跡 主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第41集 1987年3月
- 5) 註2)と同じ
- 6) 稲田義弘「島名前野遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 7) 註2)と同じ
- 8) 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 9) 白田正子「三度山遺跡 古屋敷遺跡 (仮称)萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 10) 註8)と同じ
- 11) 谷田部町文化財保存会『谷田部町文化財報告Ⅰ 古墳総覧』谷田部町教育委員会 1960年
- 12) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 13) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 14) 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

参考文献

- 『つくば市遺跡地図』つくば市教育委員会 2001年7月
『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月



第3図 島名熊の山遺跡調査区設定図（つくば市 研究学園都市計画図2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

当遺跡は、つくば市西部を南流する東谷田川右岸の舌状台地上に立地し、台地の標高は19～23mである。

調査区は、便宜上1～16区に分けられており、今回報告するのは、平成16年度及び17年度に調査した4区449㎡、7区1,170㎡、9区2,062㎡、14区6,085㎡、16区14,101㎡の計23,867㎡についてである。

調査は平成16年4月1日から平成17年3月31日、平成17年4月1日から平成18年3月31日までの2年間にわたって実施され、各区を総合すると、陥し穴1基（縄文時代）、住居跡229軒（古墳時代104、奈良時代38、平安時代86、不明1）、掘立柱建物跡33棟（奈良時代7、平安時代18、中・近世8）、方形竪穴遺構18基、地下式墳20基、堀跡12条、溝跡55条、道路跡6条、井戸跡67基、鑄造土坑1基、鍛冶関連土坑4基、粘土貼り土坑4基、火葬土坑16基、墓坑25基、土坑999基、柵跡5列、ピット群6か所、不明遺構1基が検出された。

遺跡の主体は、古墳時代後期から平安時代の集落跡であるが、第16区では、中・近世の大規模な堀跡と溝跡、墓域が確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に276箱出土している。主な遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器（長頸瓶）、土師質土器（小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢）、陶器（天目茶碗・水滴）、磁器（碗）、土製品（勾玉・土玉・球状土錘・鈴）、石器（磨石・石皿・砥石）、石製品（勾玉・管玉・白玉・紡錘車・石塔）、鉄器・鉄製品（鋤先・鎌・刀子・鍬・釘・鉈・馬具・留金具・鉄鉗）、鑄型片（小金銅仏・蓮弁座・鰐口）などである。

第2節 基本層序

当遺跡は、標高19～23mほどの台地上の縁辺部に立地しており、既調査区の10区南西部（Q13e3区）、12区南部（T7j8区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った。

10区

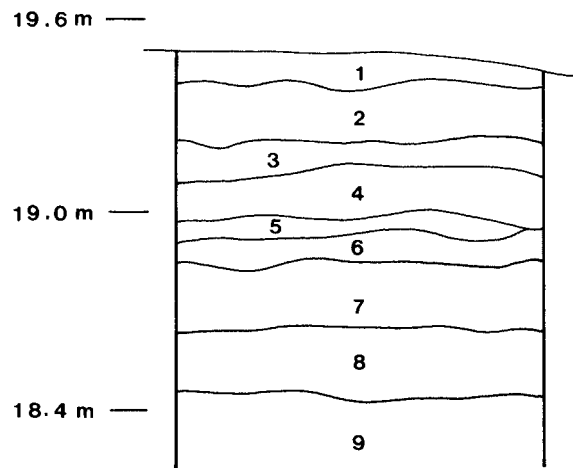
9層に分層され、土層断面中、第2～7層が関東ローム層、第8・9層が常総粘土層である。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ローム小ブロックを中量含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は8～11cmである。

第2層は、暗褐色を呈するハードローム層への漸移層である。粘性は普通で、締まりは弱く層厚は15～21cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は5～13cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は11～13cmである。



第4図 基本土層図（10区）

第5層は、褐色を呈するハードローム層で、火山ガラス粒子をわずかに含んでいる。始良 Tn 火山灰 (AT) を含む層と考えられ、粘性・締まりともに強く、層厚は4～7cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりともに強く、層厚は5～11cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は16～22cmである。

第8層は、にぶい黄橙色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は10～13cmである。

第9層は、黄橙色を呈する粘土層で、明黄橙色の砂粒を少量含んでいる。粘性・締まりともに特に強い。厚さは20cm以上あるが、下部が未掘のため本来の厚さは不明である。

なお、住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

12 区

9層に分層され、土層断面中、第3～6層が関東ローム層、第7～9層が常総粘土層である。以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを中量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は25～33cmである。

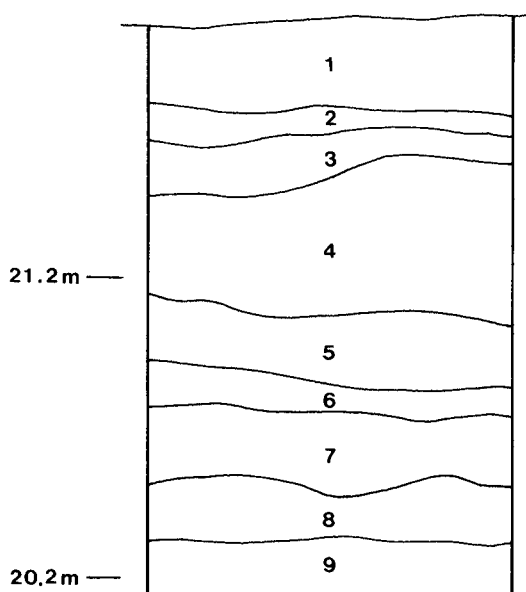
第2層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は5～14cmである。10区の第1層に相当する。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は7～19cmである。10区の第3層に相当する。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は33～51cmである。10区の第4層に相当する。

第5層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりともに強く、層厚は19～26cmである。10区の第6層に相当する。

22.2m —



く、層厚は19～26cmである。10区の第6層に相当する。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は8～15cmである。10区の第7層に相当する。

第7層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも特に強く、層厚は11～35cmである。10区の第8層に相当する。

第8層は、黄橙色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも特に強く、層厚は11～26cmである。

第9層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層で、明黄橙色の砂粒を少量含み、粘性・締まりとも特に強い。下部は未掘のため本来の厚さは不明である。10区の第9層に相当する。

なお、住居跡などの遺構は、第3層上面で確認した。

第5図 基本土層図 (12区)

第3節 4区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡13軒，柵跡1列，土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第16号住居跡（第6・7図）

位置 調査区南部のK10d7区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。南東部は平成7年度に調査が終了しており，柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし，既調査分も再録した。

重複関係 第17号住居跡を掘り込み，第15・2819号住居，第58号井戸，第5106・5107号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.24m，短軸6.13mの方形で，主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は14～34cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部から北部が踏み固められている。南東部を除く壁下には，幅13～16cm，深さ5～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北東部と南東部の床面には焼土が堆積して，炭化材も検出され，焼失住居と考えられる。北東部で検出された炭化材は，直径3～4cmほどの丸材であり，屋根材の一部と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで103cm，袖部幅93cmである。袖部は地山のロームをやや高く掘り残した上に砂質粘土を主体とする第8～12層で構築しており，内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～7層に分けられ，第1～4層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

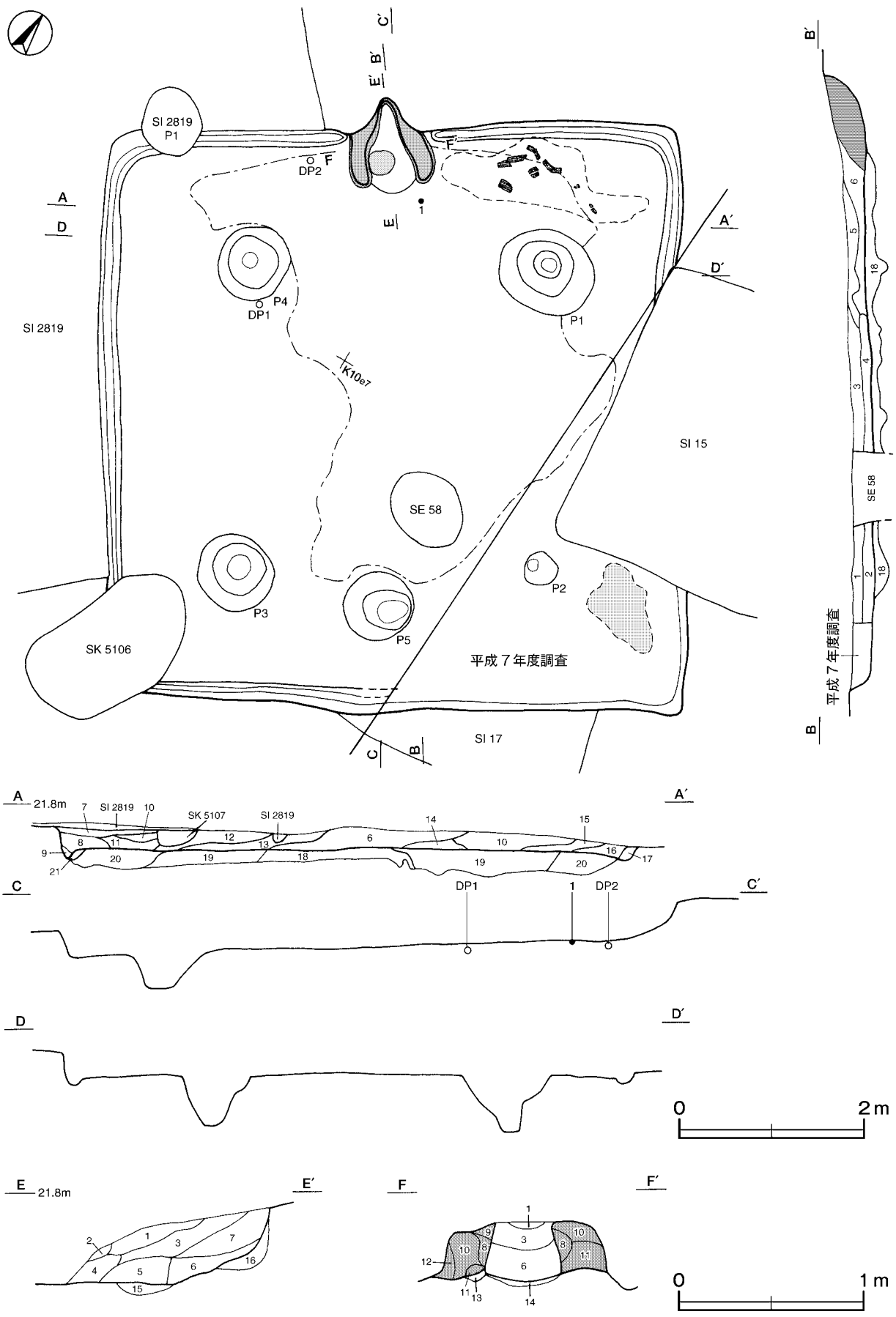
1 灰褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック中量
2 褐色	ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	砂質粘土粒子中量
3 暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量
4 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
5 明褐灰色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 灰黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	14 暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
		15 暗赤褐色	焼土ブロック中量，灰少量
		16 黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは47～55cmである。P5は深さ41cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

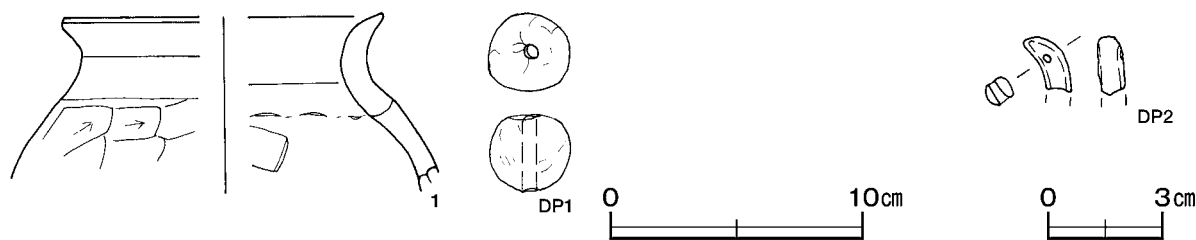
覆土 21層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第18～21層は，掘り方の埋土層である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量	13 灰褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック微量
4 褐色	ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量	15 灰褐色	焼土粒子多量
6 灰褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量
7 褐色	ロームブロック多量	17 暗褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ロームブロック多量，焼土粒子少量	18 褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量
9 褐色	ローム粒子多量	19 褐色	ロームブロック中量，粘土粒子微量
10 褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量	20 褐色	ロームブロック少量
		21 褐色	ロームブロック中量，炭化物微量



第6図 第16号住居跡実測図



第7図 第16号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片119点（坏20，高坏1，甕類98），土製品2点（勾玉，球状土錘）が散在した状態で出土しており，出土土器はいずれも細片である。1は小片であるが竈前部の床面から出土し，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，DP1は北西部，DP2は竈左袖部左側の床面から出土している。

所見 南東部は平成7年度に調査が終了しており，その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第120集を参照されたい。壁際の床面に焼土が堆積して，炭化材も検出された焼失住居である。柱穴の覆土にはほとんど焼土が含まれていないことから，住居を廃絶して柱を抜き取って埋め戻した後に焼失したと考えられる。時期は，7世紀前葉に比定される第2819号住居に掘り込まれていることや出土土器から6世紀後半と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[12.8]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	球状土錘	3.3	3.0	0.5	29.4	土（長石）	ナデ 二方向からの穿孔	床面	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	勾玉	(1.5)	1.2	0.7	(1.3)	土（長石・石英）	孔径0.2cm ナデ 一方向からの穿孔	床面	

第29号住居跡（第8・9図）

位置 調査区南部のK10g6区，標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。南東部は平成7年度，南西部は平成10年度に調査が終了しており，柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし，既調査分も再録した。

重複関係 第1013・1014号住居に掘り込まれている。

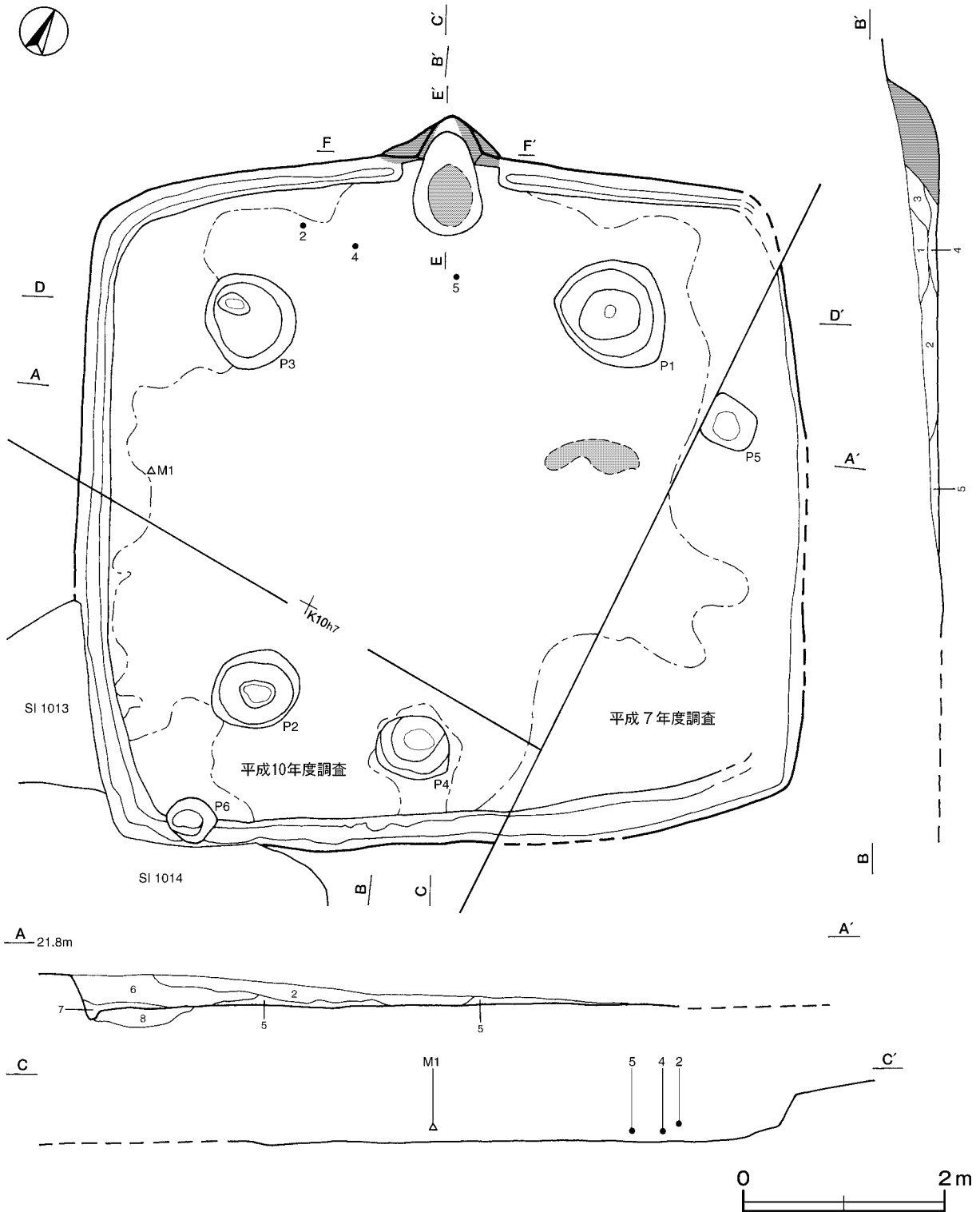
規模と形状 長軸7.18m，短軸6.81mの方形で，主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は2～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，竈周辺から南壁際まで踏み固められている。東側を除く壁下には，幅12～17cm，深さ5～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

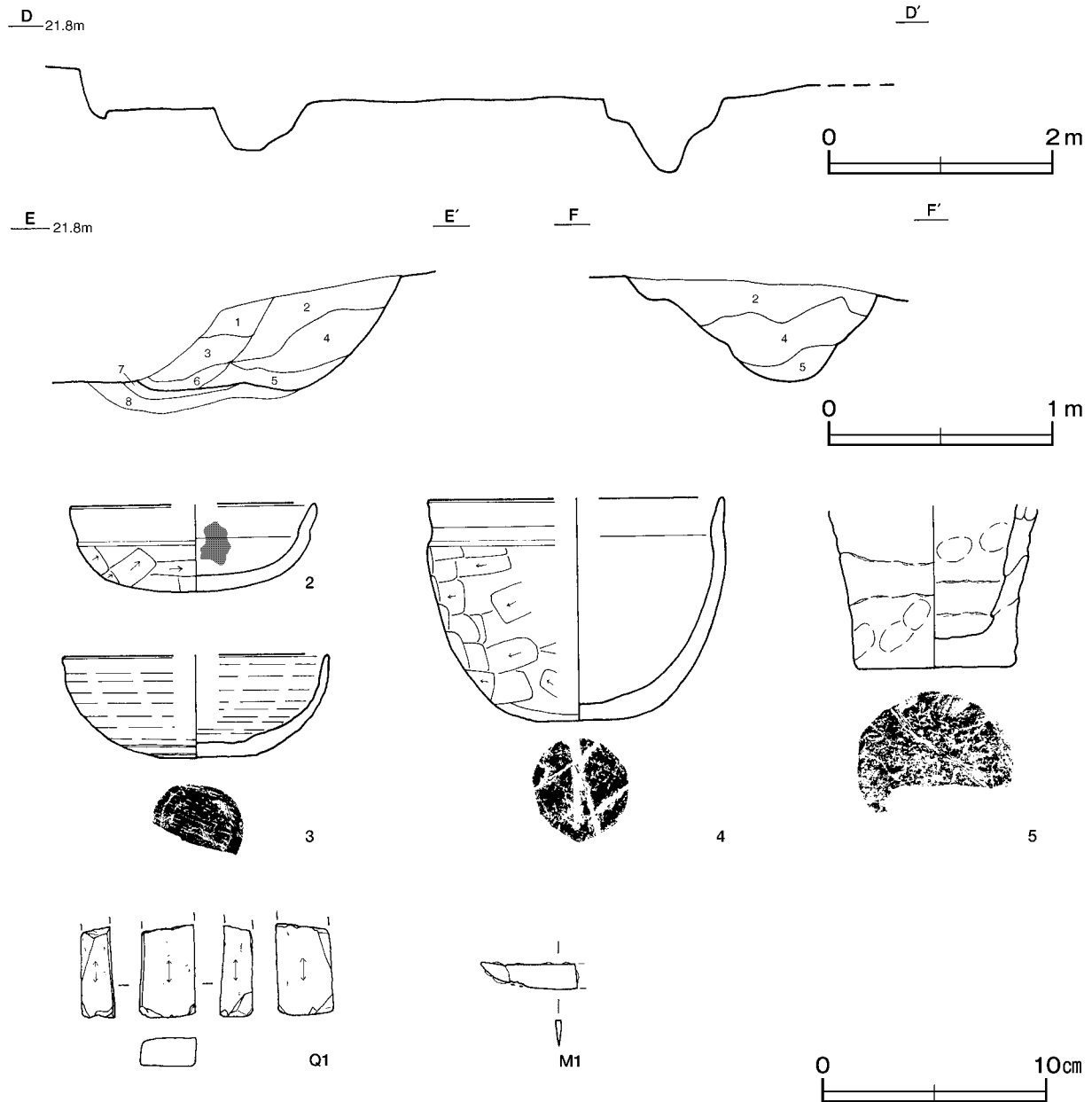
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで115cmであり，住居内部への袖部の張り出しは確認されていない。火床部は床面を15cmほど掘りくぼめて第7・8層を充填して使用しており，火床面の硬化や締まりはともに弱い。煙道部は壁外に41cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～6層に分けられ，第2層は天井部の崩落土層に相当する。各層に焼土ブロックや砂質粘土粒子を含み，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積の状況を示している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|-------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 褐色 | 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |



第8図 第29号住居跡実測図



第9図 第29号住居跡・出土遺物実測図

ピット 6か所。P1～P3は主柱穴で、深さは42～67cmである。P4は深さ63cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ46cmで、P1の北東部に位置しているが性格は不明である。P6も深さ40cmであるが性格は不明である。平成10年度に調査が行われた南西部の壁溝内からは、直径4～6cmの小ピットが12か所検出されており、壁の垂木跡の可能性が考えられるがその他からは検出されていない。

覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第8層は掘り方の埋土層である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 灰褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 8 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片879点（坏154，鉢6，甕類706，甑12，手捏土器1），須恵器片32点（坏14，蓋2，高坏2，甕類14），石器（砥石），鉄製品（刀子）が散在した状態で出土している。また，混入した陶器片1点，磁器片3点，瓦1点も出土している。2・4は竈の左側，5は竈前部の覆土下層からそれぞれ出土しており，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。3はP2の覆土中から出土しており，柱の抜き取り後に流れ込んだものと考えられる。また，M1は西部壁際の覆土下層から出土している。

所見 南東部は平成7年度，南西部は平成10年度に調査され，その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第120・174集を参照されたい。時期は，出土土器から7世紀後葉以前と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2	土師器	坏	[10.8]	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	70% PL11 内面煤付着
3	須恵器	坏	[11.7]	4.6	4.1	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	P2覆土中	20%
4	土師器	鉢	[13.2]	9.9	4.2	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	40%
5	土師器	手捏土器	-	(7.0)	6.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕 輪積み痕	下層	40% PL11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(4.2)	2.5	1.3	(26.3)	凝灰岩	上部欠損 砥面4面	覆土中	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(4.3)	1.2	0.3	(4.5)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形	下層	

第998号住居跡（第10図）

位置 調査区南部のJ10i3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。南西コーナー部以外のほぼ全体は平成10年度に調査が終了しているが，既調査分も再録した。

重複関係 第987・997・999号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m，短軸4.20mの方形で，主軸方向はN-34°-Wである。壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。南西コーナー部を除く壁下には，幅12～20cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

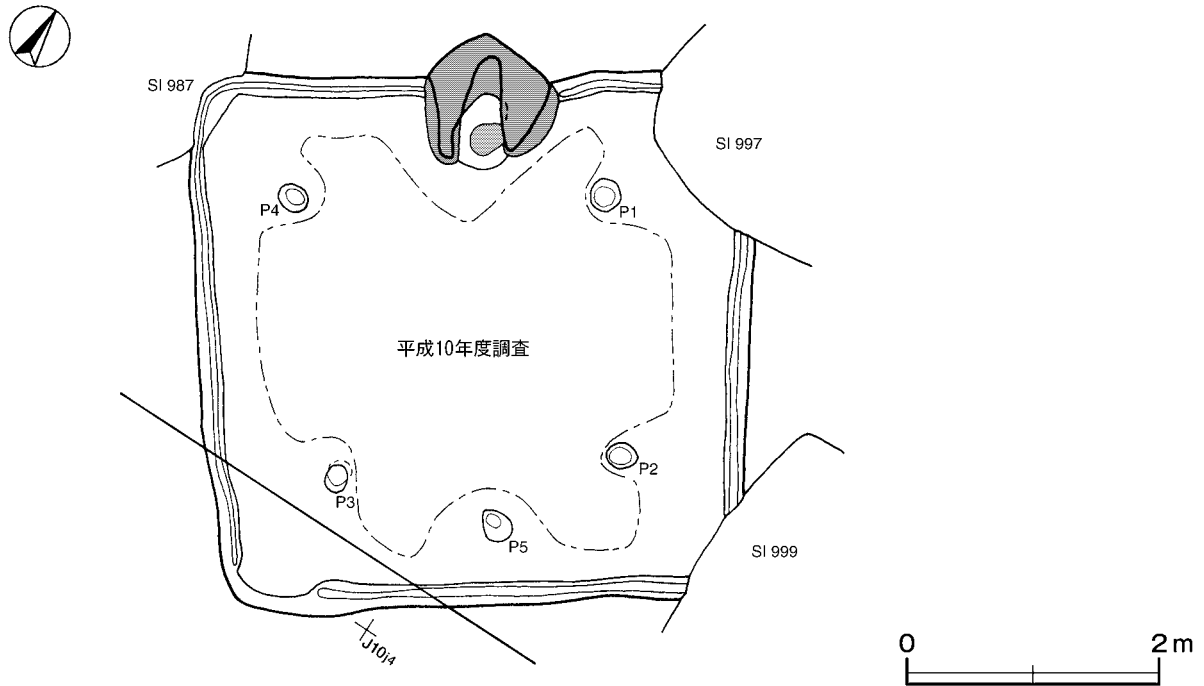
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで89cm，袖部幅110cmである。袖部は一部掘り残したハードロームを基部に，山砂と粘土，ローム土を混ぜた部材で構築されている。また，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは41～60cmである。P5は深さ38cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況 本年度の調査区からは，土師器片22点（坏5，甕類17）が出土しているが，いずれも細片である。また，平成10年度の調査区からは，土師器片133点が出土している。

所見 南西コーナー部以外は平成10年度に調査が終了しており，その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は，出土土器と重複関係から6世紀後半と考えられる。



第10図 第998号住居跡実測図

第1001号住居跡 (第11～14図)

位置 調査区南部のK10f4区、標高21.5mほどの平坦な台地上に位置している。南西コーナー部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第2818・2821号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.76m、短軸6.72mの方形で、主軸方向はN - 30° - Wである。壁高は16～46cmで、ほぼ直立している。

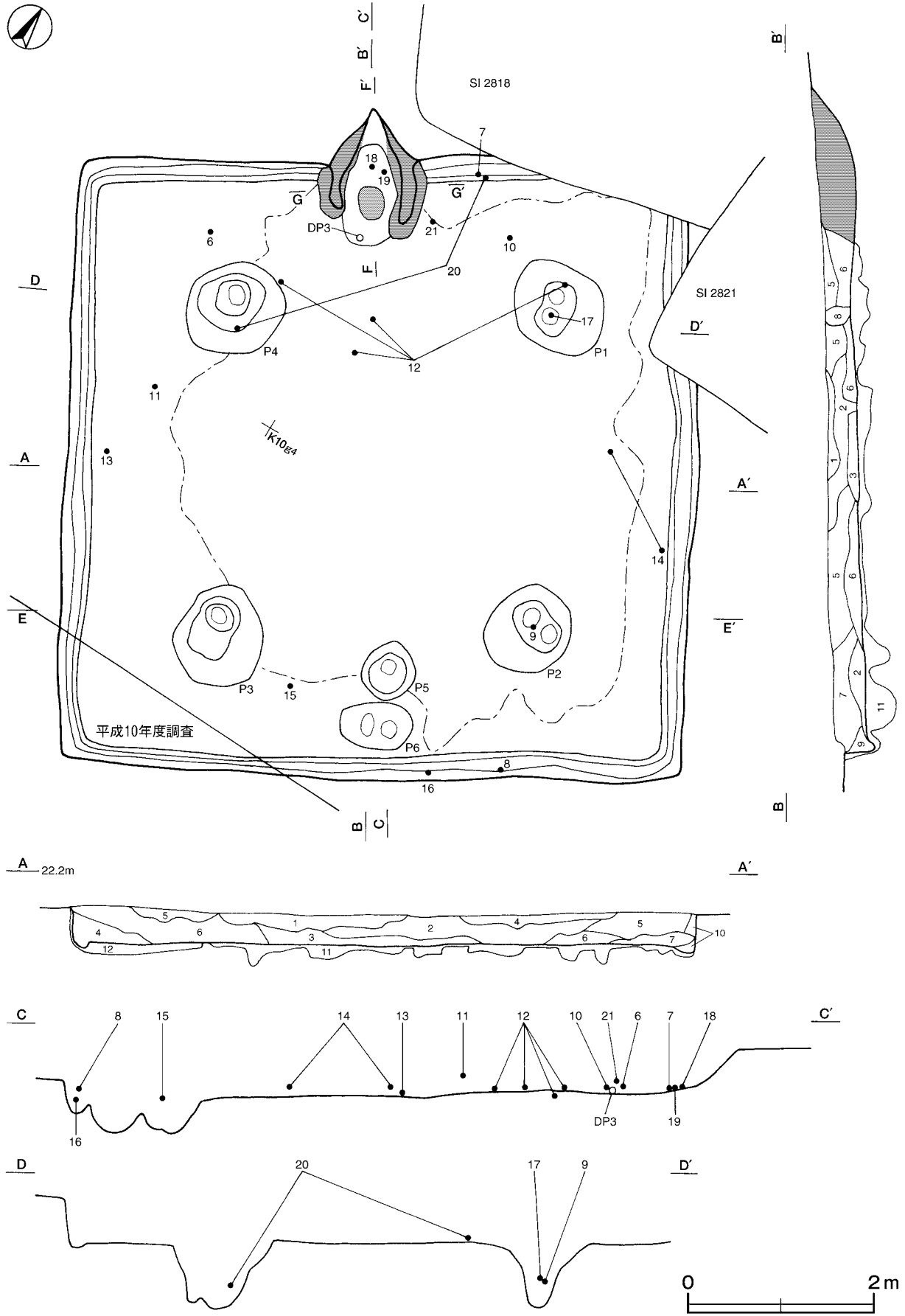
床 ほぼ平坦で、中央部から各壁近くまで踏み固められている。壁下には幅19～21cm、深さ4～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで148cm、袖部幅116cmである。袖部は第17層の上部に砂質粘土主体の第12～15層を積み上げて構築しており、内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめて第16・17層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に59cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～11層に分けられ、第2～7・9・10層は、袖部および天井部の崩落土層である。

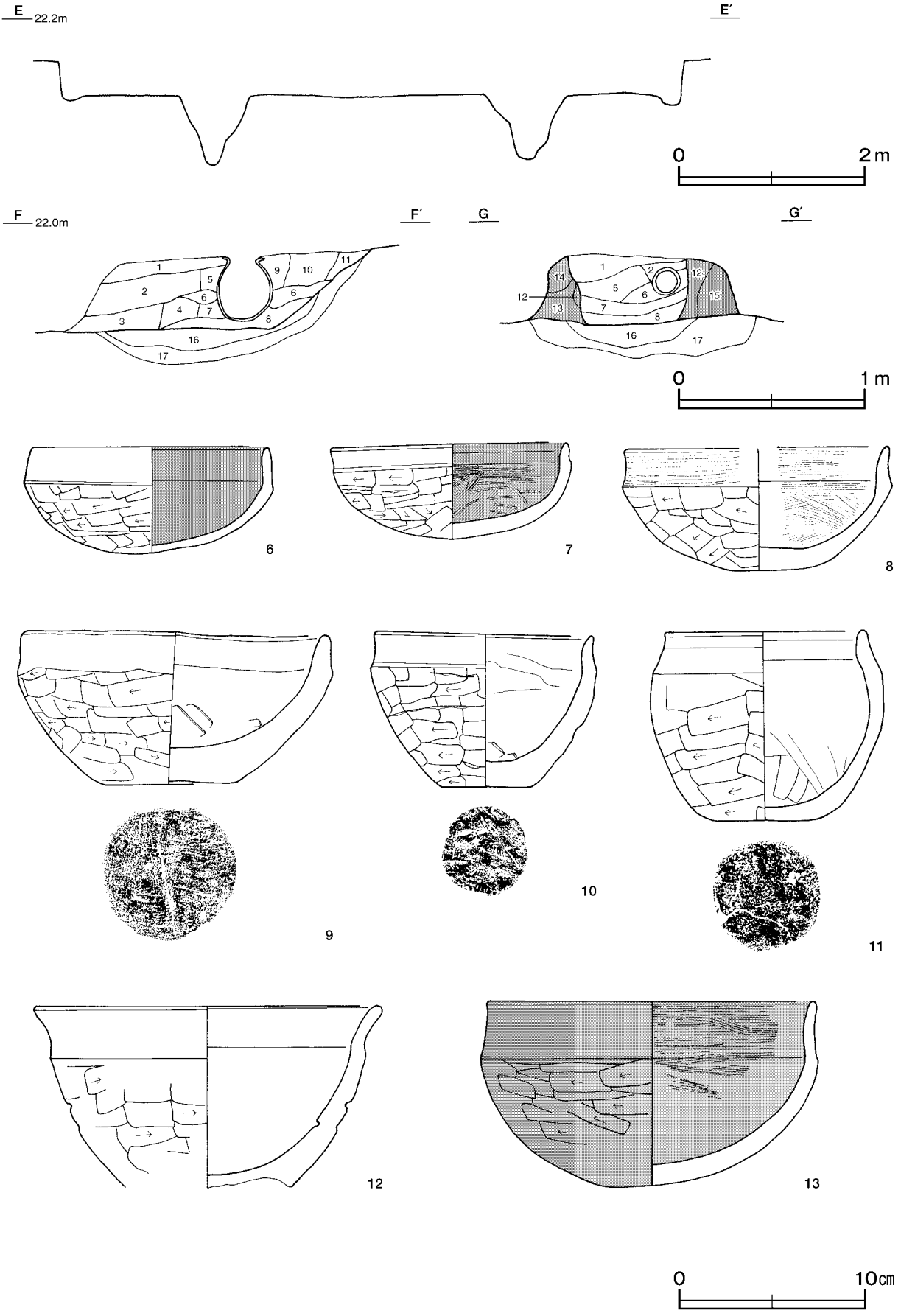
竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	11 褐色	ローム粒子多量
2 灰褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量	12 赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量	14 にぶい黄褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量	15 にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	16 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
7 赤褐色	焼土粒子多量	17 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 灰白色	白色粘土粒子多量		
9 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量		
10 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量		

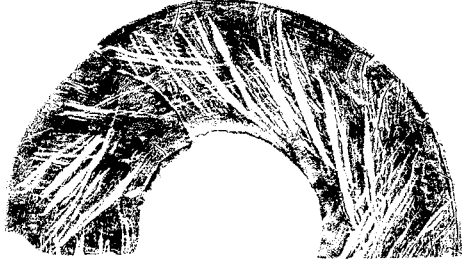
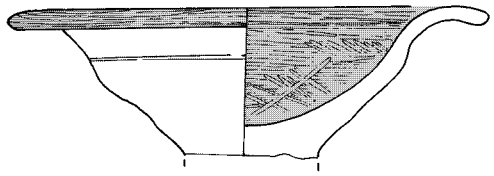
ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは68～74cmである。P5は深さ34cm、P6は深さ33cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに入出口施設に伴うピットと考えられる。



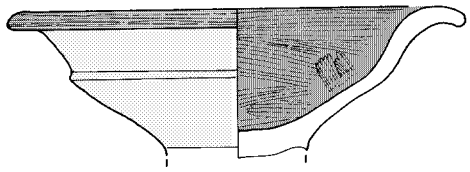
第11図 第1001号住居跡実測図



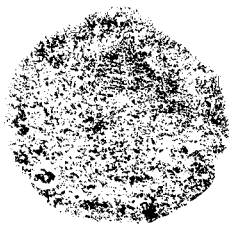
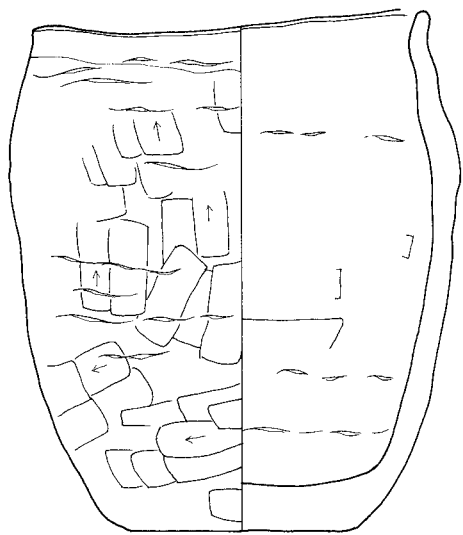
第12图 第1001号住居跡・出土遺物実測図



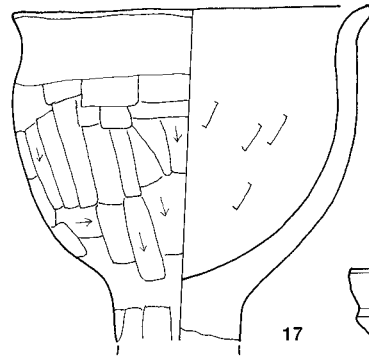
15



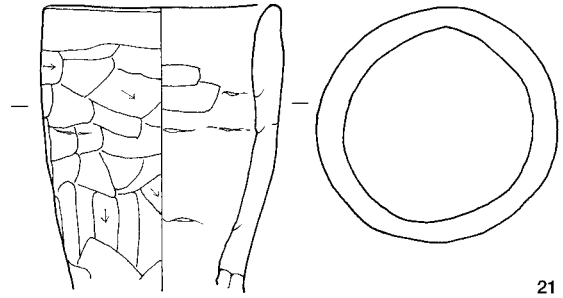
16



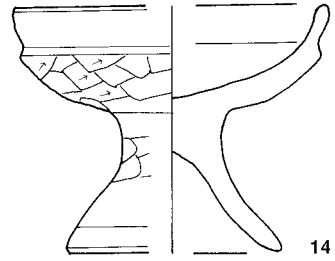
19



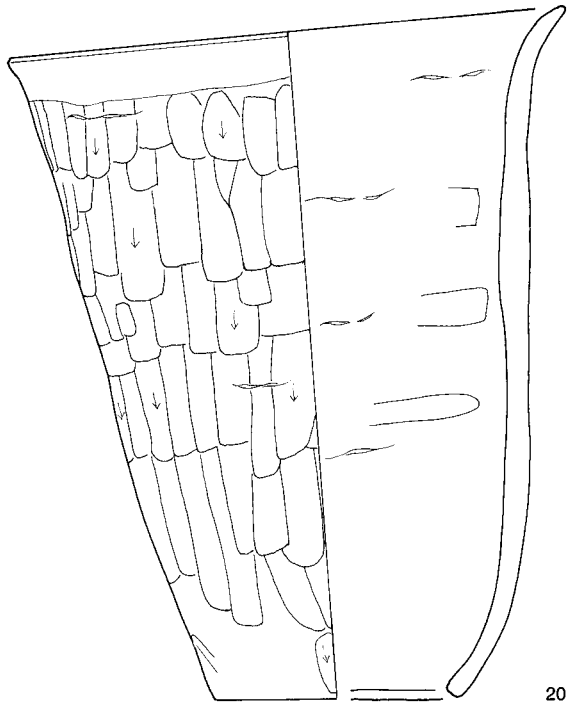
17



21



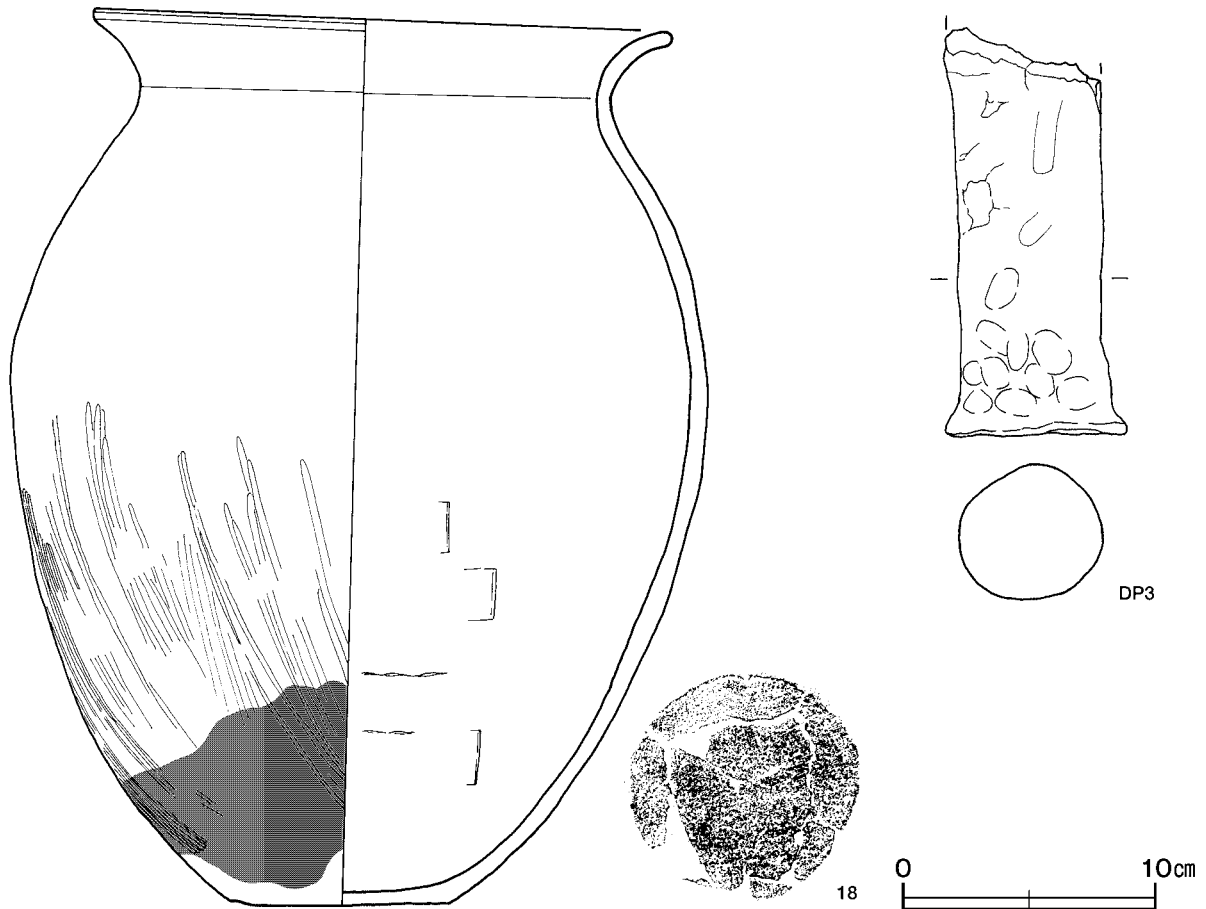
14



20



第13图 第1001号住居跡出土遺物実測図(1)



第14図 第1001号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第11・12層は掘り方の埋土層である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	7 暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	8 灰褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	10 明褐色	ローム粒子・焼土粒子多量, 炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片1691点（坏410，椀186，高坏35，甕類1041，甑18，円筒形土器1），土製品5点（支脚）が竈の周囲を中心に出土している。6は北西部，10は北東部，7は北部の壁際，21は竈右袖部の右側のいずれも覆土下層から出土しており，12は竈前部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。17はP1，9はP2，20はP4の覆土中から出土しており，住居を廃絶して柱を抜き取った後に廃棄されたものと考えられる。また，18・19はともに竈の覆土下層から出土しており，本跡の竈で使用されていたものと考えられる。

所見 南西部は平成10年度に調査が終了しており，その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第1001号住居跡出土遺物観察表（第12～14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	坏	12.6	5.8	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	95% PL11
7	土師器	坏	12.8	5.2	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面磨き	下層	85% PL11
8	土師器	坏	[14.2]	6.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面磨き 体部外面ヘラ削り 内面磨き	中層	60%
9	土師器	椀	16.2	8.3	7.0	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	P 2 中層	100% PL12
10	土師器	椀	11.6	8.4	4.9	長石・石英・雲母	灰白	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	下層	90% PL12
11	土師器	椀	10.7	10.2	5.7	長石・雲母・微礫	にぶい黄橙 赤橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	85%
12	土師器	椀	18.4	(9.7)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	下層	70%
13	土師器	椀	17.5	10.0	-	雲母	黒褐	普通	口辺部外面横ナデ 内面磨き 体部外面ヘラ削り 内面磨き	下層	60%
14	土師器	高坏	[12.4]	9.9	[8.6]	長石・石英・雲母・微礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り 内面ナデ 脚部外面ヘラ削り 裾部内・外面横ナデ	下層	40% PL12
15	土師器	高坏	18.7	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り 内面磨き	下層	50% PL12 砥石転用
16	土師器	高坏	16.4	(6.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り 内面磨き	下層	50% PL12 砥石転用
17	土師器	台付甕	14.0	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 脚部外面ヘラ削り	P 1 中層	70% PL11
18	土師器	甕	22.7	35.6	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈下層	70% PL12 外面煤付着
19	土師器	甕	15.4	20.7	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 積痕 内面ヘラナデ 輪積痕	竈下層	95% PL12
20	土師器	甗	22.1	27.5	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 積痕 内面ヘラナデ 輪積痕	P 4 下層・床面	80% PL11
21	土師器	円筒形土器	9.3	(11.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 積痕 内面ヘラナデ 輪積痕	下層	PL11

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	支脚	(16.3)	5.4	7.3	(665.0)	土(長石・石英)	受部皿状 ナデ 指頭痕	下層	PL16

第1002号住居跡（第15図）

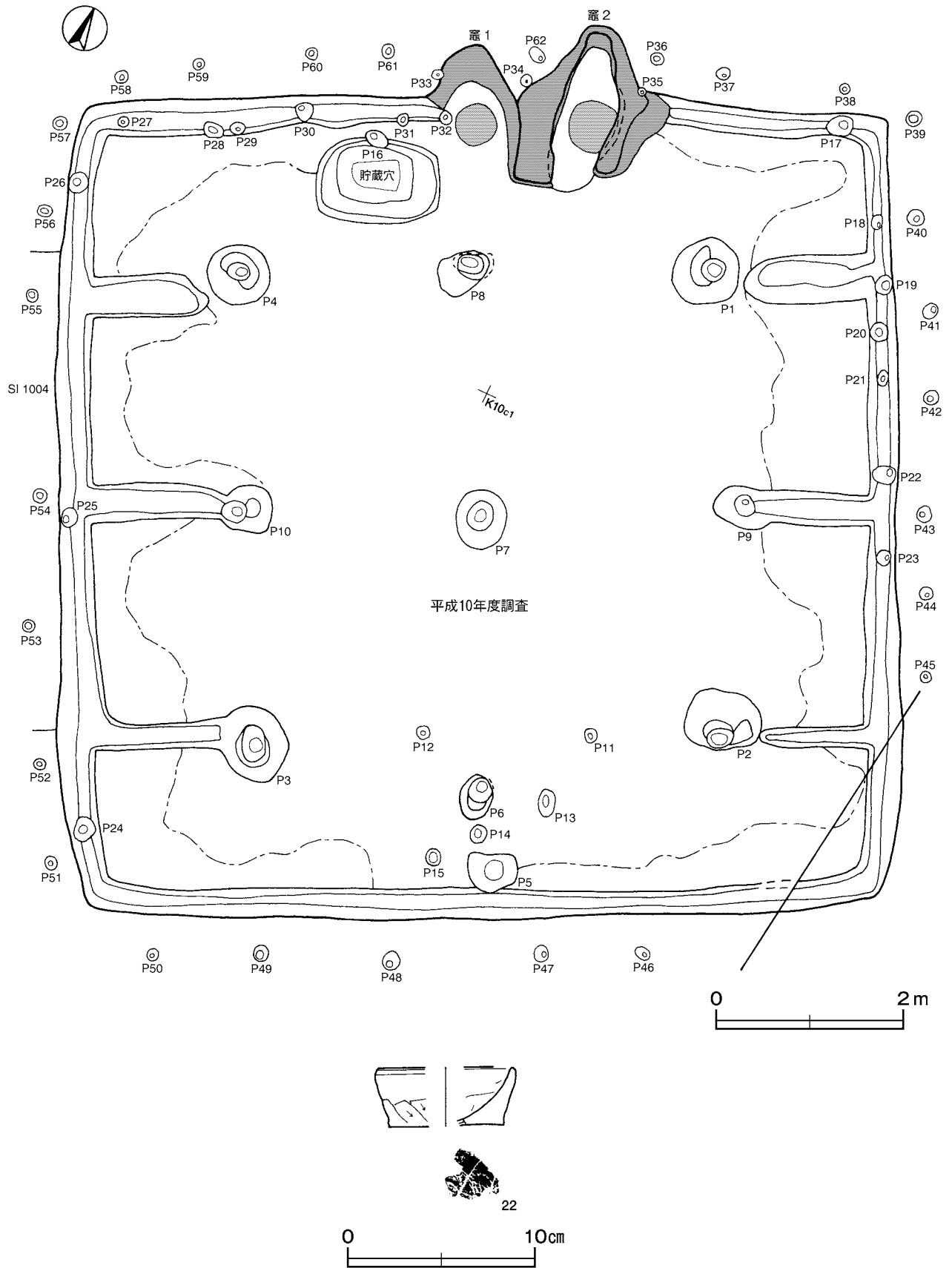
位置 調査区南部のK 9 b0 区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。南東コーナー部以外は平成10年度に調査が終了しており，柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし，既調査分も再録した。

重複関係 第1004号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸9.00m，短軸8.80mの方形で，主軸方向はN - 26° - Wである。壁高は42～64cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には幅26～40cm，深さ6～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，東・西側からは，長さ112～151cm，幅21～52cm，深さ14～21cmでU字状の断面を呈する間仕切り溝が検出されている。

竈 2か所。竈1は北西壁中央部に付設されており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に81cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は北西壁中央部に付設されており，竈1の東側に隣接している。規模は，焚口部から煙道部まで176cm，袖部幅160cmである。袖部は粘土・砂・ローム土を混ぜ合わせた部材を使い，左右の袖がほぼ均等になるように部材を重ねて構築している。左袖部の外側には竈1の火床面と袖部の赤変部が残り，左袖の中心部は，竈1の右袖部を利用している。火床部は地山のロームを掘り下げ，ロームに焼土粒子と炭化粒子を含む土で埋め戻して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。位置関係や遺存状況，袖の再利用の状況などから，竈1から竈2へ作り替えたと考えられる。



第15図 第1002号住居跡・出土遺物実測図

ピット 62か所。P1～P4は主柱穴で、深さは63～78cmである。P5は深さ34cm、P6は深さ36cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ39cmで、中央部、P8は深さ53cmで、P1とP4の間、P9は深さ16cmで、P1とP2の間、P10は深さ41cmで、P3とP4の間、P11は深さ42cm、P12は深さ12cmで、ともにP2とP3の間に位置している。規模と配置から、いずれも補助柱穴と考えられる。P13～P15は深さ16～19cmで、P5とP6の間に位置していることから、いずれも出入口施設に伴うピットに関連したものと考えられる。P16は深さ62cmで、貯蔵穴に付随する柱穴の可能性が考えられるが、詳細は不明である。P17～P32は深さは10～32cmで、壁溝中に位置していることから、壁柱穴と考えられる。P33～P35は深さは21～26cmで、竈袖の壁際に位置していることから、竈に付随する柱穴と考えられる。P36～P62は深さ13～47cmで、掘り込みの外側にあり、壁に沿ってほぼ等間隔に並んでいることから、屋根材を支える支柱穴の可能性が考えられるが、詳細は不明である。

貯蔵穴 北部の西寄りに位置している。長軸135cm、短軸95cmの隅丸長方形で、深さは62cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

覆土 レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

遺物出土状況 本年度調査区からは、土師器片411点（坏83、椀2、高坏2、甕類321、甑2、手捏土器1）、鉄滓1点が出土しており、出土土器はいずれも細片である。また、混入した須恵器片12点、陶器片1点も出土している。22は南西コーナー部の覆土中から出土している。平成10年度の調査区からは、土師器片2269点が出土しているが、出土土器のほとんどが細片であり、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 南東コーナー部を除く部分は平成10年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。本跡は第4区の中で最も広い床面積を有する住居の一つであり、集落の中心的な住居と考えられる。本跡の3mほど東に位置している第2813号住居跡は、規模、主軸方向、住居構造ともに類似しており、血縁的な継続も想定される。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1002号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	土師器	手捏土器	[7.2]	3.1	[6.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	外面ナデ 下端ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土中	40%

第1006号住居跡（第16・17図）

位置 調査区南部のK10e2区、標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。北西コーナー部は平成10年度に調査が終了しており、柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし、既調査分も再録した。

重複関係 第2814号住居跡を掘り込み、第1000・2818号住居、第130号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.48m、短軸7.14mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は26～48cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、各壁近くまで踏み固められている。壁下には、幅11～18cm、深さ7～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、北西部からは、長さ129cm、幅23cm、深さ13cmでU字状の断面を呈する間仕切り溝が検出されている。全体に焼土が堆積し、南壁際では15cmほどの厚みを有する焼失住居である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅119cmであり、袖部は砂質粘土を主体とする第8層の上に第7層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて第13層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床部が

ら急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1～12層に分けられ、人為堆積の状況を示している。第1層は天井部の崩落土層に相当する。

覆土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	10	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	13	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
6	黒色	焼土粒子・炭化粒子・灰少量，ローム粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8	灰褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量			

ピット 13か所。P1～P4は支柱穴で、深さは72～89cmである。P5は深さ43cm，P6は深さ37cmで、ともに南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P13は深さ9～36cmであるが、性格は不明である。

覆土 16層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第16層は掘り方の埋土層である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	9	褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子中量，炭化物微量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
5	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	13	黒褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	14	褐色	ローム粒子多量
7	暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量	15	褐色	ローム粒子・焼土粒子多量
8	灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	16	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片722点(坏171, 高坏6, 甕類545), 土製品2点(勾玉, 小玉), 鉄滓4点が散在した状態で出土している。また、混入した須恵器片18点, 陶器片3点も出土している。24は竈右側の床面から出土していることから、住居の廃絶時に遺棄されたと考えられる。23・25はいずれも北東コーナー部の覆土下層から出土しており、住居の廃絶後間もなく廃棄されたと考えられる。26はP2の覆土上層から出土しており、柱の抜き取り後に廃棄されたと考えられる。また、DP4は南東部の覆土中層, DP5は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。

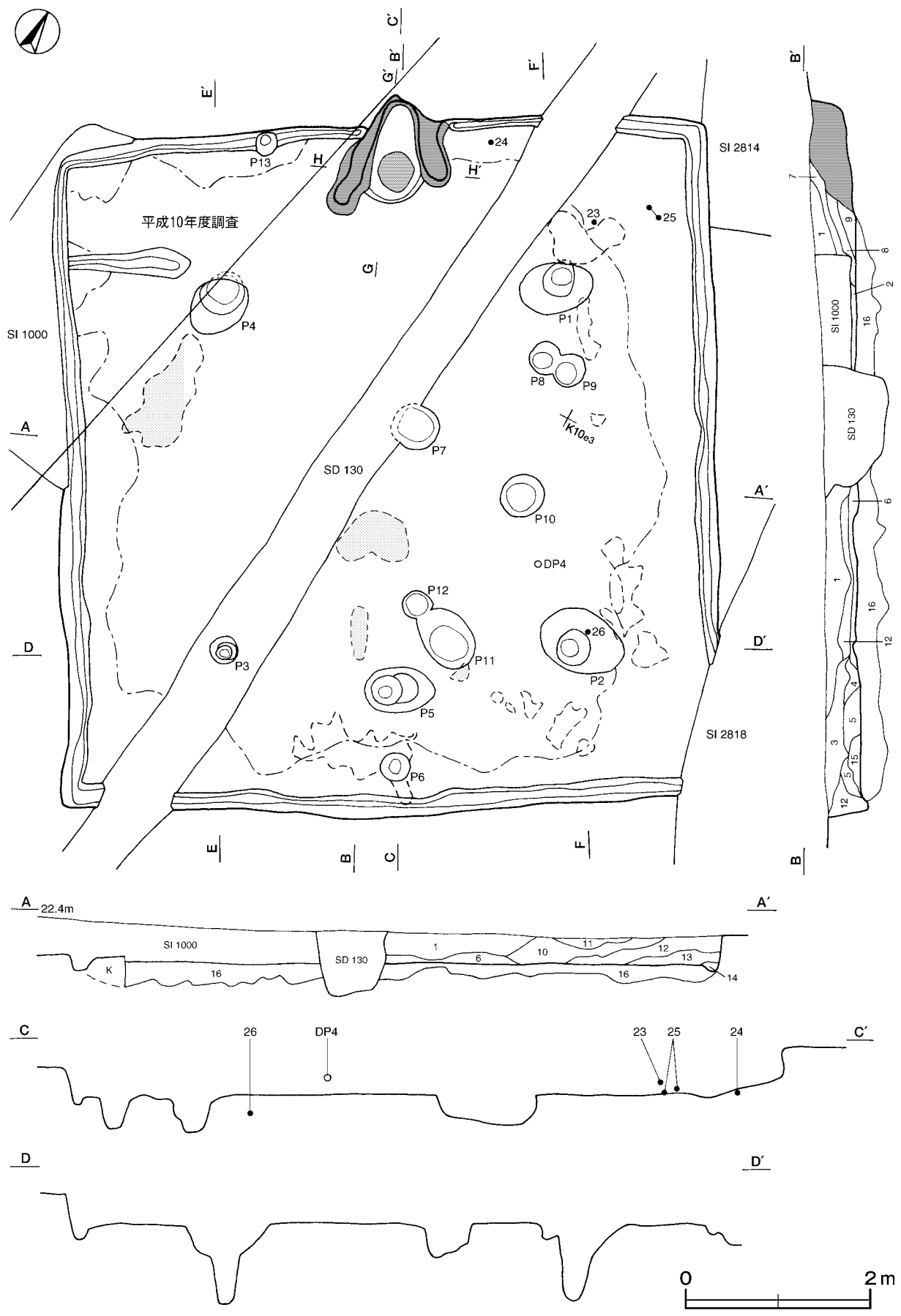
所見 北西コーナー部は平成10年度に調査が終了しており、その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。床面全体に焼土が堆積し、覆土中にも焼土を含んだ焼失住居である。柱穴の覆土中～下層には焼土が含まれないことや、床面の焼土層は柱穴部の覆土まで続いていることから、廃絶して柱を抜き取った後に焼失したと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第1006号住居跡出土遺物観察表(第17図)

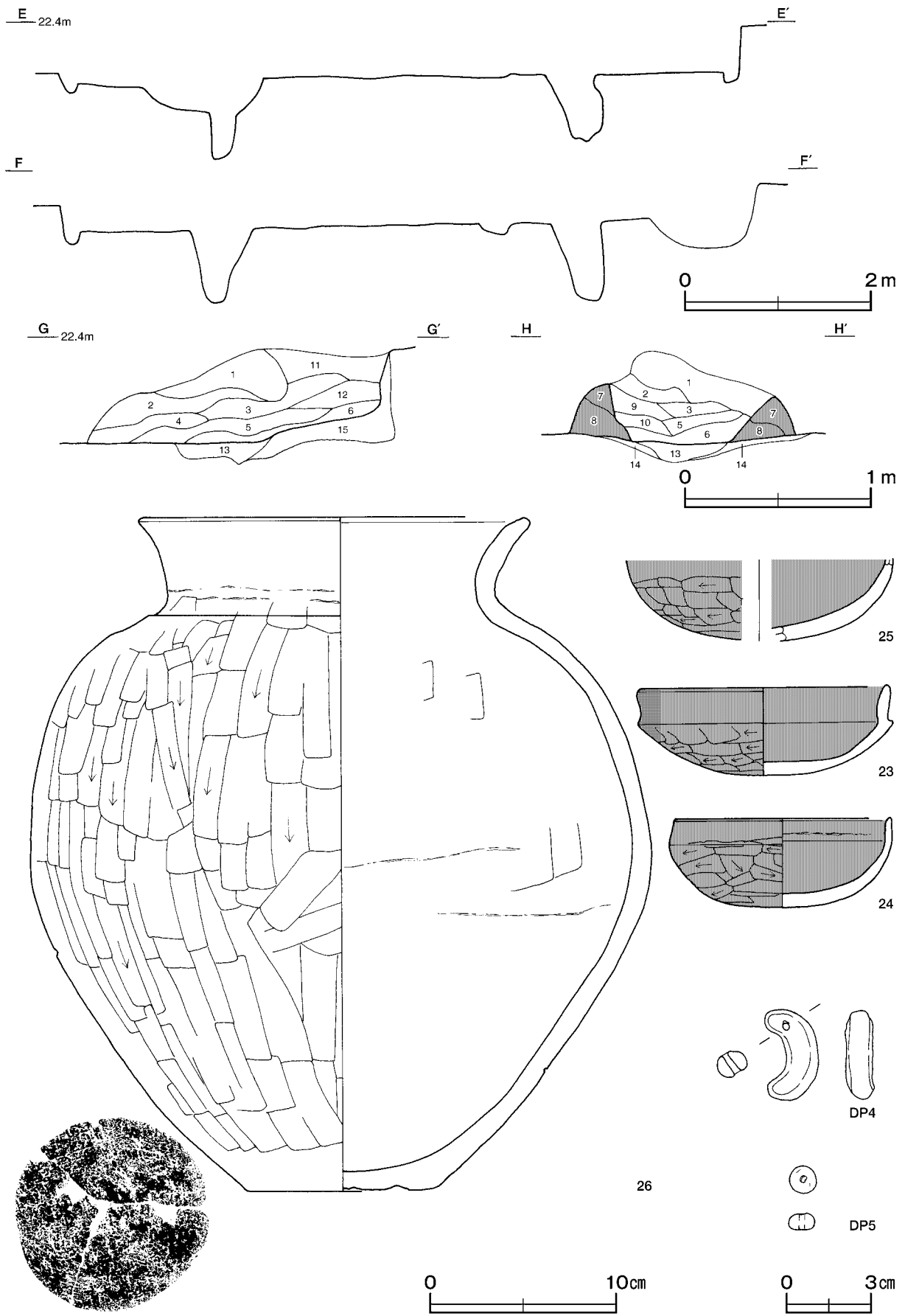
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
23	土師器	坏	13.4	4.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	95% PL13
24	土師器	坏	11.6	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪槽痕	床面	70% PL13
25	土師器	坏	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	50%
26	土師器	甕	20.5	36.3	10.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪槽痕	P2上層	95% PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	勾玉	2.2	2.0	0.8	5.2	土(長石)	孔径0.3cm ナデ 二方向からの穿孔	中層	PL16

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	小玉	1.0	0.6	0.2	0.6	土(長石)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	



第16图 第1006号住居跡実測图



第17图 第1006号住居跡・出土遺物実測図

第1032号住居跡（第18図）

位置 調査区南部のJ10i6区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。南壁際以外の部分は平成10年度に調査が終了しており、柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし、既調査分も再録した。

重複関係 第1030・1033号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.48mの方形で、主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は20～42cmで、ほぼ直立している。

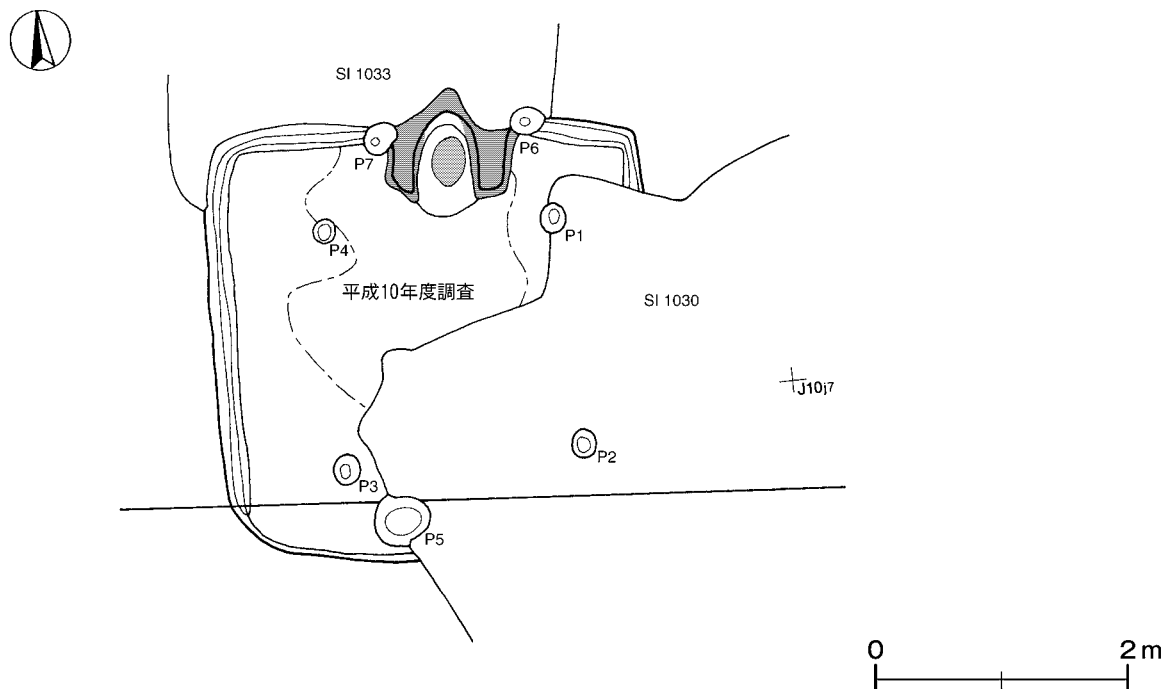
床 ほぼ平坦で、中央部から北部が踏み固められている。西・北壁下には、幅12～18cm、深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、重複する第1033号住居の床面の下部から検出された。規模は、焚口部から煙道部まで103cm、袖部幅96cmであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

ピット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは35～55cmである。P5は深さ25cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7はともに深さ25cmで、竈両脇の壁際に位置していることから、竈に付随するピットの可能性が考えられる。

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片8点（甕類）が出土しているが、いずれも細片である。平成10年度の調査区からは、土師器片98点、須恵器片1点、鉄器1点（鎌）が出土している。

所見 南壁際を除く部分は平成10年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は、出土土器から7世紀中葉から後葉と考えられる。



第18図 第1032号住居跡実測図

第2813号住居跡（第19・20図）

位置 調査区南部のK10b3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2814号住居跡を掘り込み，第2822・2823・2825～2827号住居，第130号溝，第4969・5109号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.94m，短軸8.89mの方形で，主軸方向はN-13°-Wである。壁高は24～54cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。壁下には，幅12～19cm，深さ4～15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，東・西・北側からは，4条の間仕切り溝が検出されている。規模は，東側が長さ58cm，幅34cm，西側北寄りが長さ225cm，幅31cm，西側南寄りが長さ43cm，幅16cm，北側が長さ73cm，幅41cmであり，いずれもU字状の断面を呈している。

竈 2か所。竈1は北壁中央部のやや東寄りに付設されており，上部を第2826号住居の竈に壊されている。遺存する部分の規模は，焚口部から煙道部まで132cm，袖部幅137cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を主体とする第4層で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に51cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されており，火床部および袖部は遺存しない。煙道部が壁外に34cm掘り込まれている状況だけが確認されている。竈2の右袖部が竈1に壊されていることから，竈2から竈1への作り替えと考えられる。

竈1土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 3 暗褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量 |

竈2土層解説

- | | |
|------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | |

ピット 18か所。P1～P4は支柱穴で，深さは83～93cmである。P5～P7は深さ34～64cmで，竈と南壁を結ぶ直線上に位置していることから，いずれも出入口施設に伴うピットと考えられる。P8～P18の性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1，貯蔵穴2ともに北西コーナー部に位置している。貯蔵穴1は，長軸75cm，短軸68cmの隅丸長方形で，深さは76cmである。底面は皿状で壁はほぼ直立し，覆土は人為堆積の状況を示している。貯蔵穴2は，長軸76cm，短軸65cmの隅丸長方形で，深さは52cmである。底面は皿状で壁はほぼ直立し，覆土は人為堆積の状況を示している。時期差については明確でない。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | |

貯蔵穴2土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | |

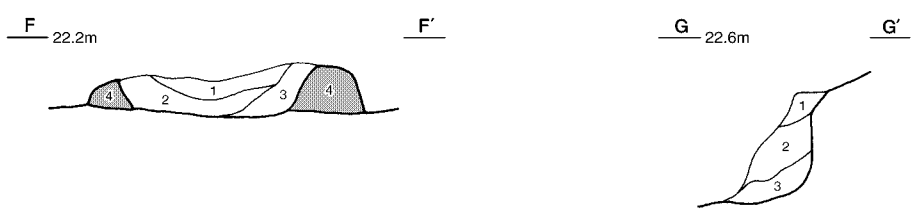
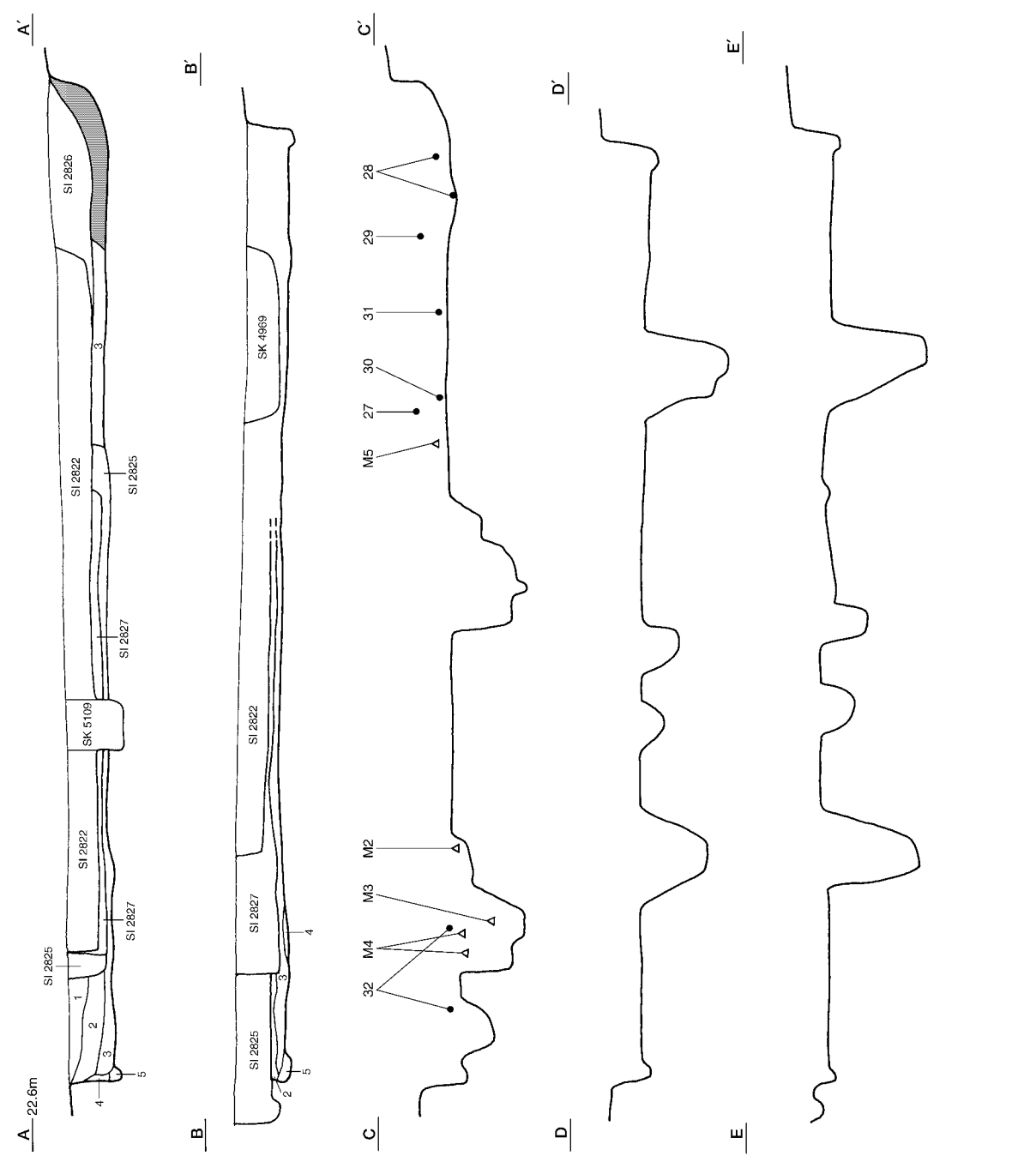
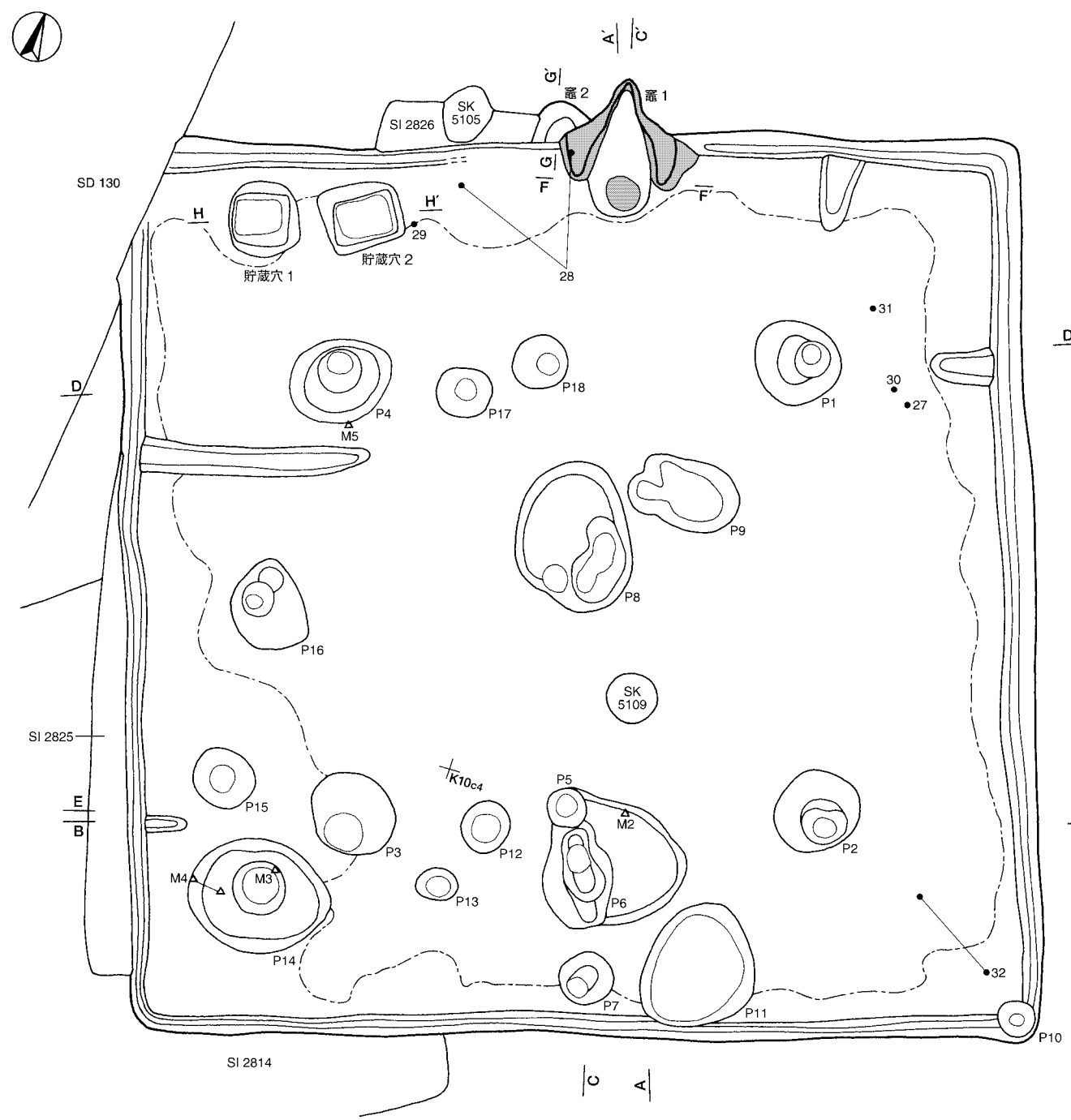
遺物出土状況 土師器片1651点（坏491，鉢12，高坏61，甕類1087），須恵器片1点（瓶類），土製品4点（支脚），鉄製品5点（鏃2，鎌1，鋤先2），鉄滓1点，種子1点が覆土上・中層を中心に出土している。また，混入した須恵器片4点，陶器片2点も出土している。出土遺物量は多いがほとんどの土器は細片であり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。27は北東部，29は北西部の覆土中層からそれぞれ出土し，30・31は北東部，32は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。28は北部の覆土下層から出土した破片と覆土上層から出土した破片が接合したものである。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また，M3・M4は南西部に位置するP14の覆土上・中層から出土しており，ピットが埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 本跡は第4区の中で最も広い床面積を有する住居の一つであり，集落の中心的な住居と考えられる。また，本跡の3mほど西側に位置し，6世紀後半と考えられる第1002号住居跡は，規模，主軸方向，住居の構造とも類似しており，本住居から第1002号住居への血縁的な継続も想定される。時期は，出土土器および重複関係から6世紀中葉以前と考えられる。

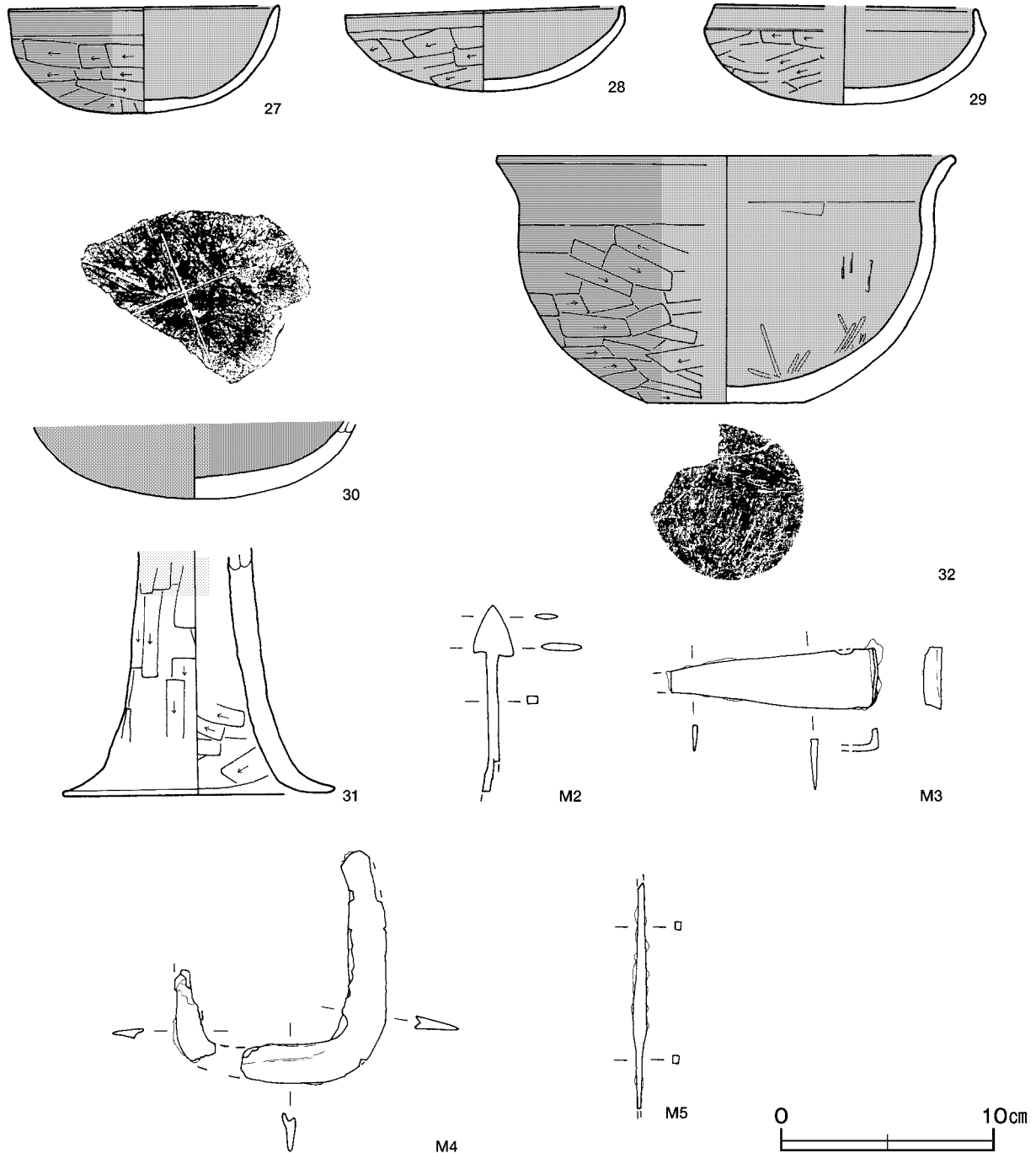
第2813号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	土師器	坏	12.6	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	100%PL13
28	土師器	坏	12.9	4.1	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	95%PL13
29	土師器	坏	[12.4]	4.7	-	長石・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	中層	50%
30	土師器	坏	-	(3.6)	-	長石・雲母	灰褐	普通	体部内面ナデ	下層	30% 内面 ¹ × ² のヘラ書き
31	土師器	高坏	-	(11.5)	12.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ削り 裾部内・外面横ナデ	下層	40%
32	土師器	鉢	[21.4]	11.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部外面ヘラ磨き	下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鏃	(8.9)	1.9	0.4	(9.9)	鉄	両丸造 茎部下位で屈曲	下層	PL17
M3	鎌	(9.8)	2.9	0.3	(29.8)	鉄	刃先部欠損 断面三角形 基部は全体を折り返す	P14中層	PL17
M4	鋤先	(11.0)	(10.0)	0.6	(42.6)	鉄	着柄部一部欠損 身(着装部)の差し込み式	P14上層	PL17
M5	鏃	(10.7)	0.6	0.3~0.5	(13.3)	鉄	鏃身部欠損 筈部・茎部の破片 断面方形の棒状 茎尻側が細る	下層	PL17



第19图 第2813号住居跡实测图



第20図 第2813号住居跡出土遺物実測図

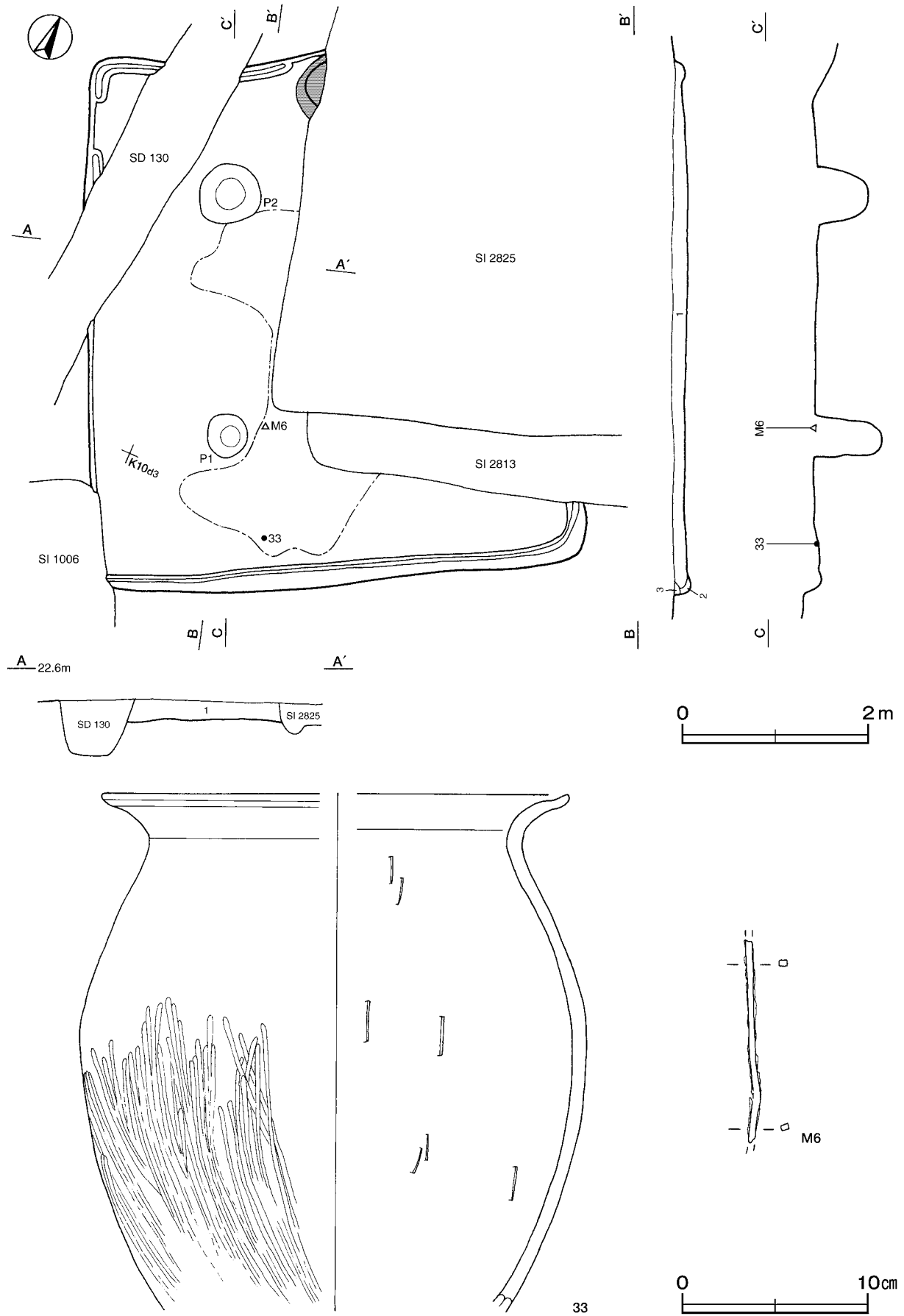
第2814号住居跡 (第21図)

位置 調査区南部のK10c3区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1006・2813・2822・2825・2827号住居, 第130号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸5.63mが確認された。東西軸は5.30mほどの方形と推定される。主軸方向はN-24°-Wである。壁高は25~30cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 遺存する部分の床はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北・南壁下からは, 幅14~18cm, 深さ4~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。



第21图 第2814号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。第2813・2825号住居に壊されており、左袖部の一部と火床部だけが遺存している。火床面の状態は不明である。

ピット 2か所。P1は深さ76cm、P2は深さ60cmで、ともに支柱穴である。

覆土 3層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片274点(坏66, 甕類208), 鉄製品1点(鏝)が散在した状態で出土しており、ほとんどの土器片は細片である。また、混入した須恵器片2点も出土している。33は南壁際の覆土下層, M6は南西部の覆土下層からそれぞれ出土しており、ともに住居の廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 出土土器のほとんどが細片であるため土器による時期決定は難しいが、重複関係や土師器坏の形状から6世紀中葉以前と考えられる。

第2814号住居跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	土師器	甕	[24.9](28.1)	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ磨き 内面へラナデ	下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	鏝	(11.0)	0.5	0.3	(7.3)	鉄	鏝身部欠損 茎部の破片 断面長方形の棒状	下層	PL17

第2818号住居跡(第22~25図)

位置 調査区南部のK10e4区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1001・1006・2819号住居跡を掘り込み, 第2821号住居に掘り込まれている。

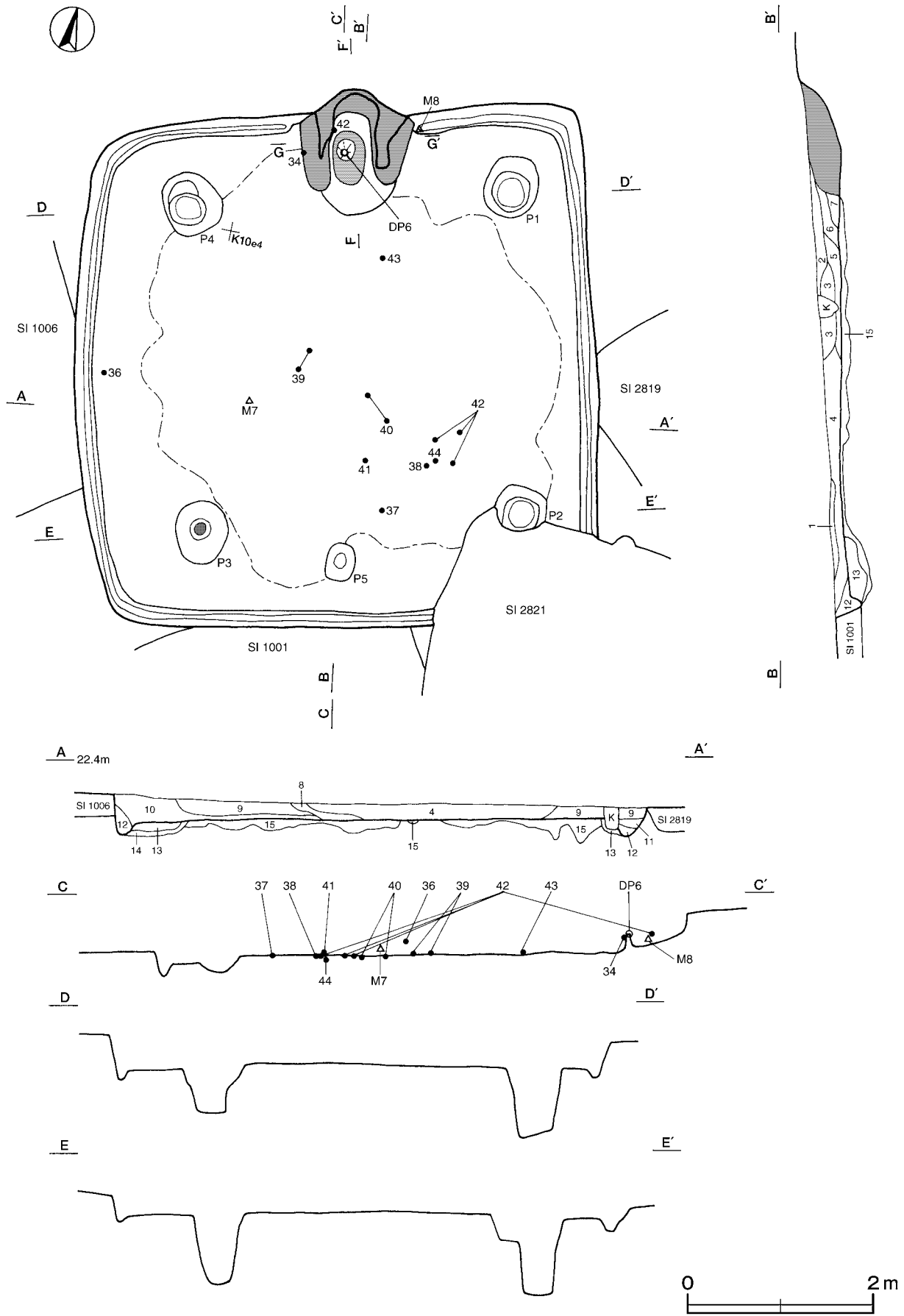
規模と形状 長軸5.58m, 短軸5.53mの方形で, 主軸方向はN-9°-Wである。壁高は7~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 各壁近くまで踏み固められている。壁下には, 幅12~18cm, 深さ8~18cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

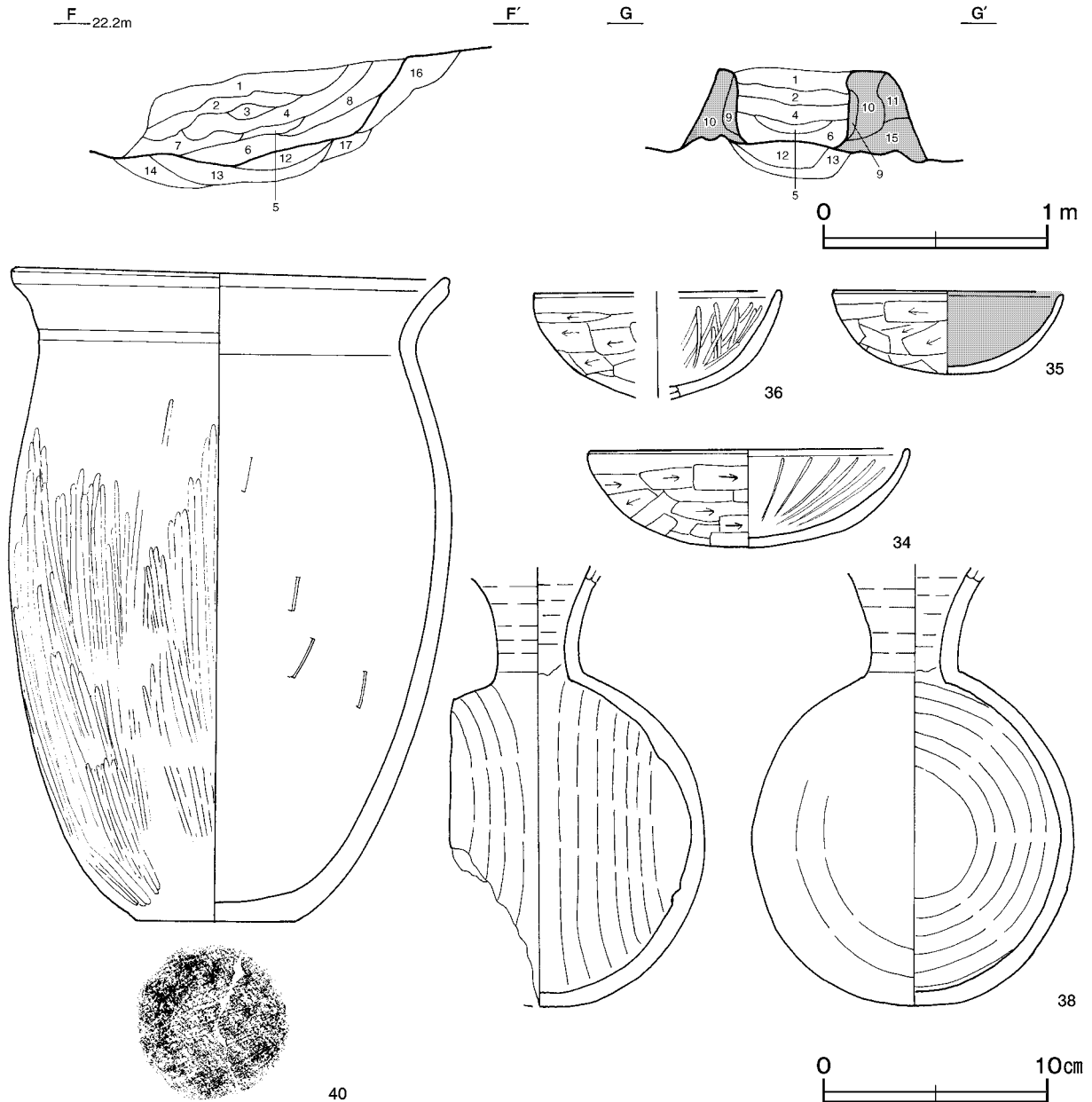
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで136cm, 袖部幅122cmである。袖部はロームの地山をやや高く掘り残した上に, 外側は砂混じりの粘土で, 内側は粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめて第12~14層を充填して使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。また, 支脚の周辺からは粘土が検出されており, 粘土を用いて支脚を固定していたと考えられる。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~8層に分けられ, 各層に焼土ブロックや砂質粘土ブロックを含む人為堆積の状況を示している。

竈土層解説

- 1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 10 暗灰黄色 粘土粒子多量
2 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 11 黒褐色 粘土粒子多量
3 赤褐色 焼土粒子多量 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
4 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 13 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土ブロック少量 14 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 赤褐色 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量 15 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量
7 暗褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 16 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
8 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 17 褐色 ローム粒子中量
9 赤褐色 粘土粒子多量



第22图 第2818号住居跡実測图



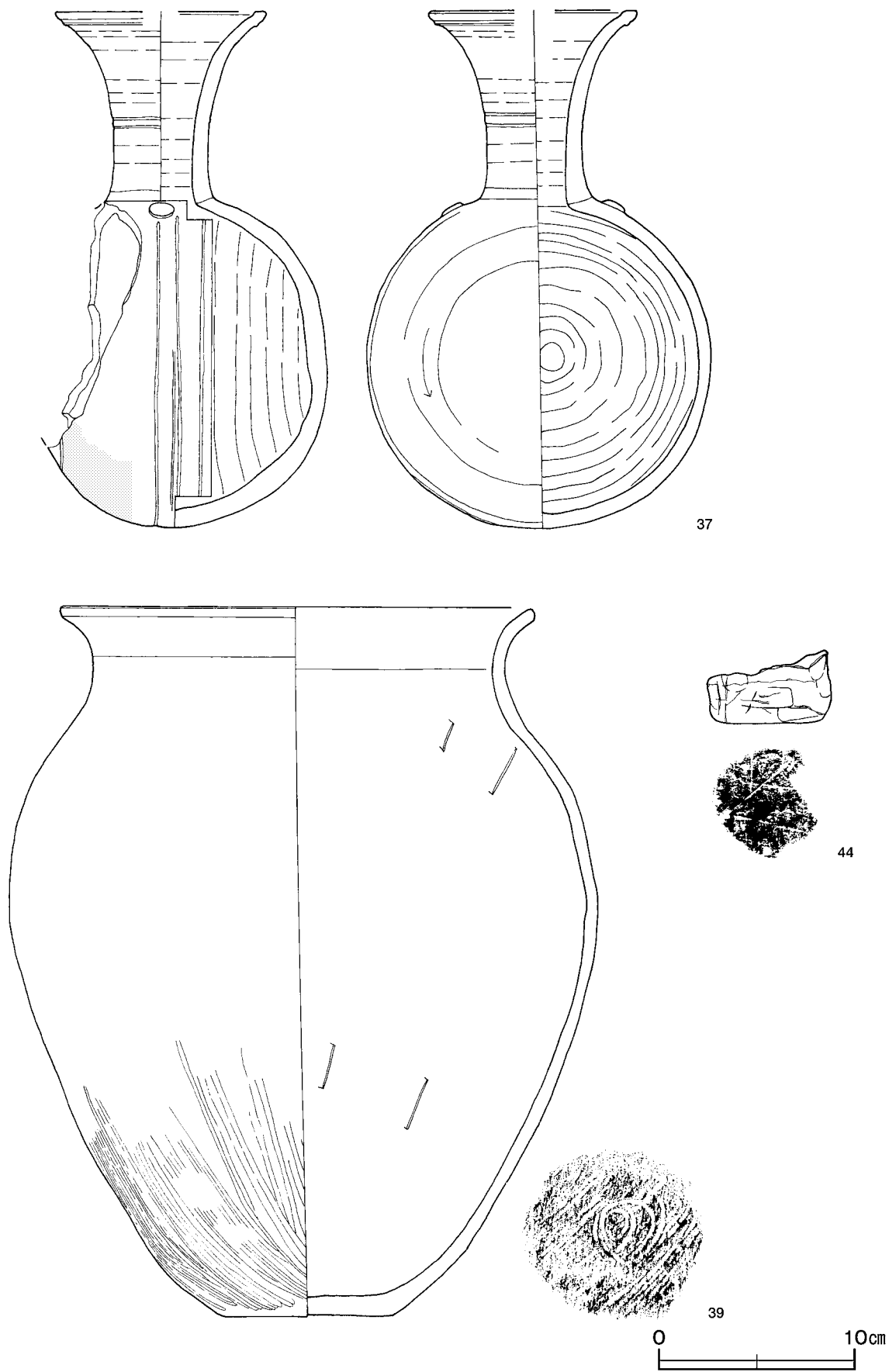
第23図 第2818号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは51～84cmである。また、P3の底部からは柱のあたりが確認されている。P5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

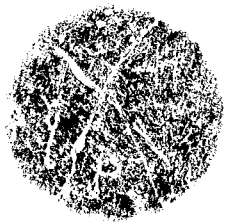
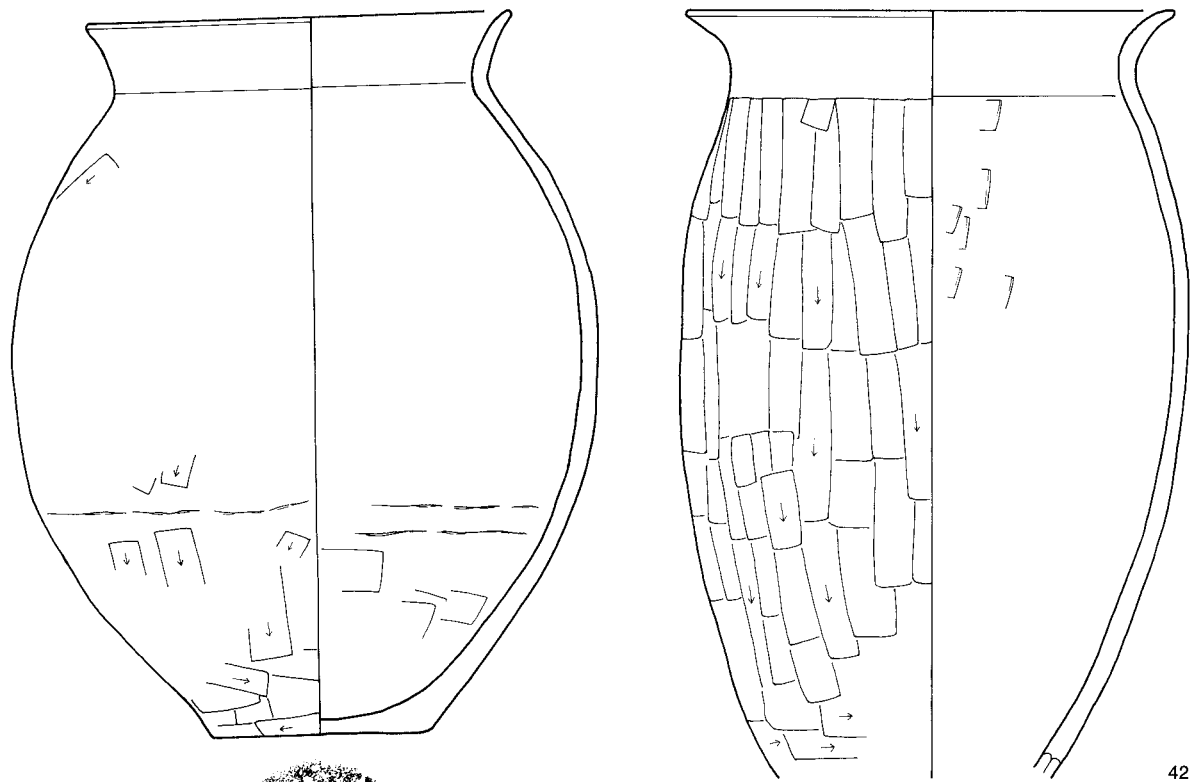
覆土 15層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第13～15層は掘り方の埋土層である。

土層解説

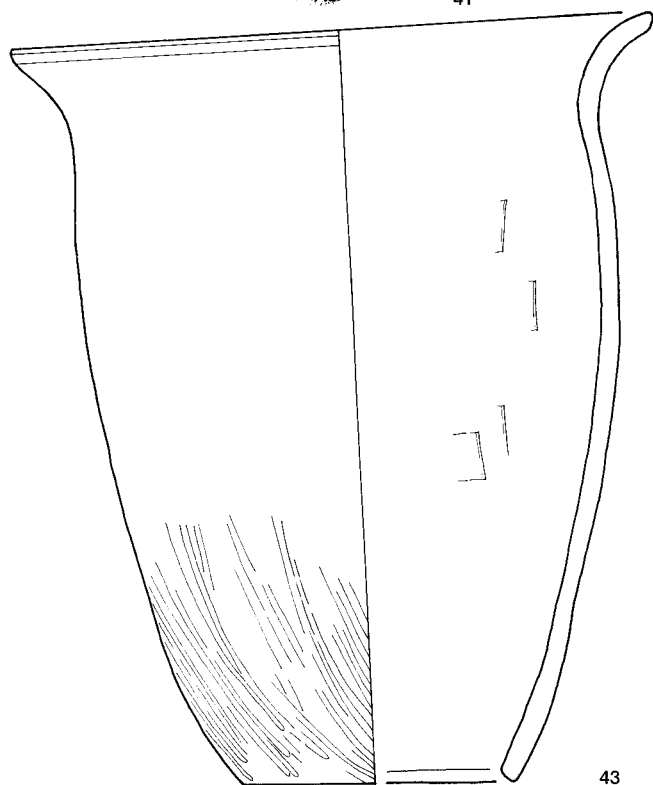
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 黒色 | ロームブロック中量 |
| | | 15 褐色 | ロームブロック少量 |



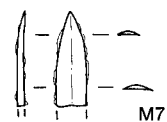
第24图 第2818号出土遗物实测图(1)



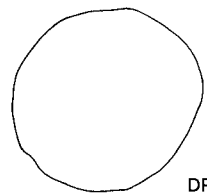
41



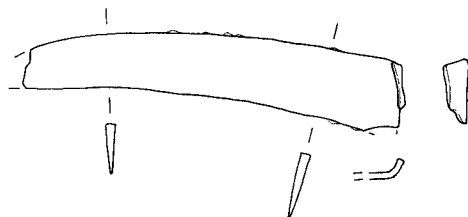
43



M7



DP6



M8



第25图 第2818号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片1026点（坏類98，甕類852，甌73，手捏土器3），須恵器片8点（フラスコ形瓶6，提瓶2），土製品1点（支脚），鉄製品2点（鉈1，鎌1）が竈周辺と中央部を中心に出土している。また，混入した須恵器片4点も出土している。37は南部，38・44は南東部，43は竈前部，39～41は中央部の床面からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。42は竈天井部崩落土の上層から出土した破片と，中央部の床面から出土した破片が接合したものであり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。DP6は竈火床面，M7は中央部の覆土下層，M8は竈右袖部右側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 床面積が30㎡ほどでそれほど大形ではないが，フラスコ型瓶，提瓶が出土しており，出土遺物量も多量であることから，集落内における有力者層の居住が想定される。時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第2818号住居跡出土遺物観察表（第23～25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34	土師器	坏	14.4	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ 放射状の暗文	中層	100% PL15
35	土師器	坏	10.3	3.7	-	長石・石英・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り後ナデ 内面ナデ	覆土中	70% PL15
36	土師器	坏	[11.0]	4.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状の磨き	中層	50%
37	須恵器	フラスコ型瓶	[10.5]	26.6	-	長石・石英・雲母	灰	良好	口頸部外面2条の沈線 体部外面カキ目調整 側面3条の沈線 肩部ボタン状の把手貼り付け 内面口クロナデ	床面	75% PL14
38	須恵器	提瓶	-	(19.7)	-	長石・雲母	褐灰	良好	口頸部内・外面口クロナデ 体部外面口クロナデ 口頸部から体部の一部に自然釉 内面口クロナデ	床面	55% PL14
39	土師器	甕	23.9	36.5	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 底部へら磨き	床面	90% PL13
40	土師器	甕	19.5	29.2	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ 底部へら磨き	床面	90% PL13
41	土師器	甕	[16.6]	28.1	8.6	長石・赤色粒子・小礫	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 輪種痕 内面へらナデ 輪種痕 底部へら削り	床面	85% PL13
42	土師器	甕	19.5	(30.6)	-	長石・石英・雲母・小礫	明黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	中層・床面	70% PL13
43	土師器	甌	25.5	30.7	10.8	長石・石英・雲母	淡橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面へらナデ	床面	80% PL14
44	土師器	手捏土器	-	(3.8)	5.4	雲母・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	40%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	支脚	15.9	3.5	(8.4)	(618.9)	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕 熱を受けて脆い	竈火床面	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	鉈	(3.8)	(1.3)	0.2~0.3	(3.4)	鉄	刃先部の破片 両刃 中央部に鑄 断面三角形	下層	
M8	鎌	(15.2)	(3.0)	0.1~0.4	(47.2)	鉄	刃先部欠損 刃部わずかに彎曲 断面三角形 基部は全体を折り返す	中層	PL17

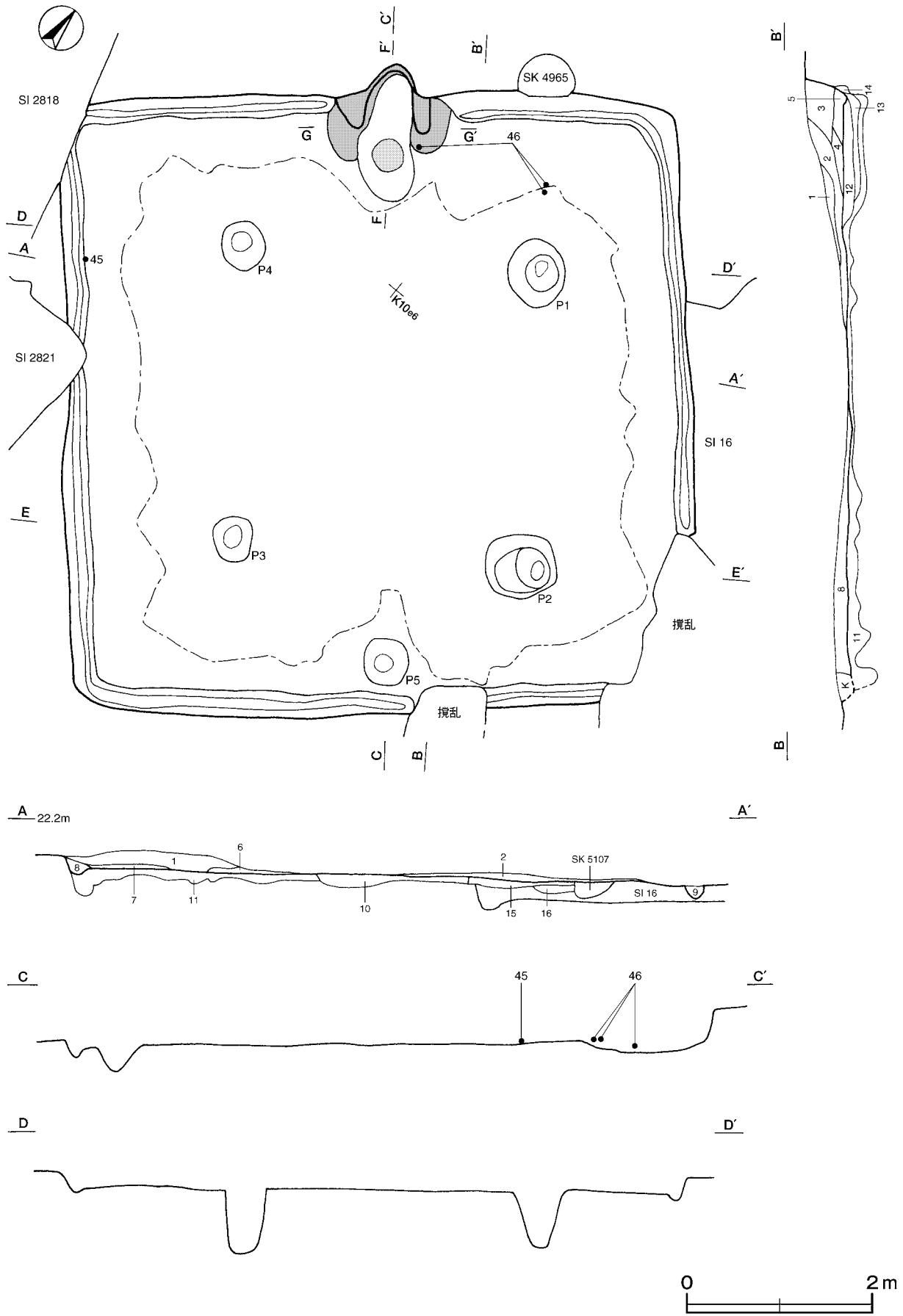
第2819号住居跡（第26・27図）

位置 調査区南部のK10e6区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

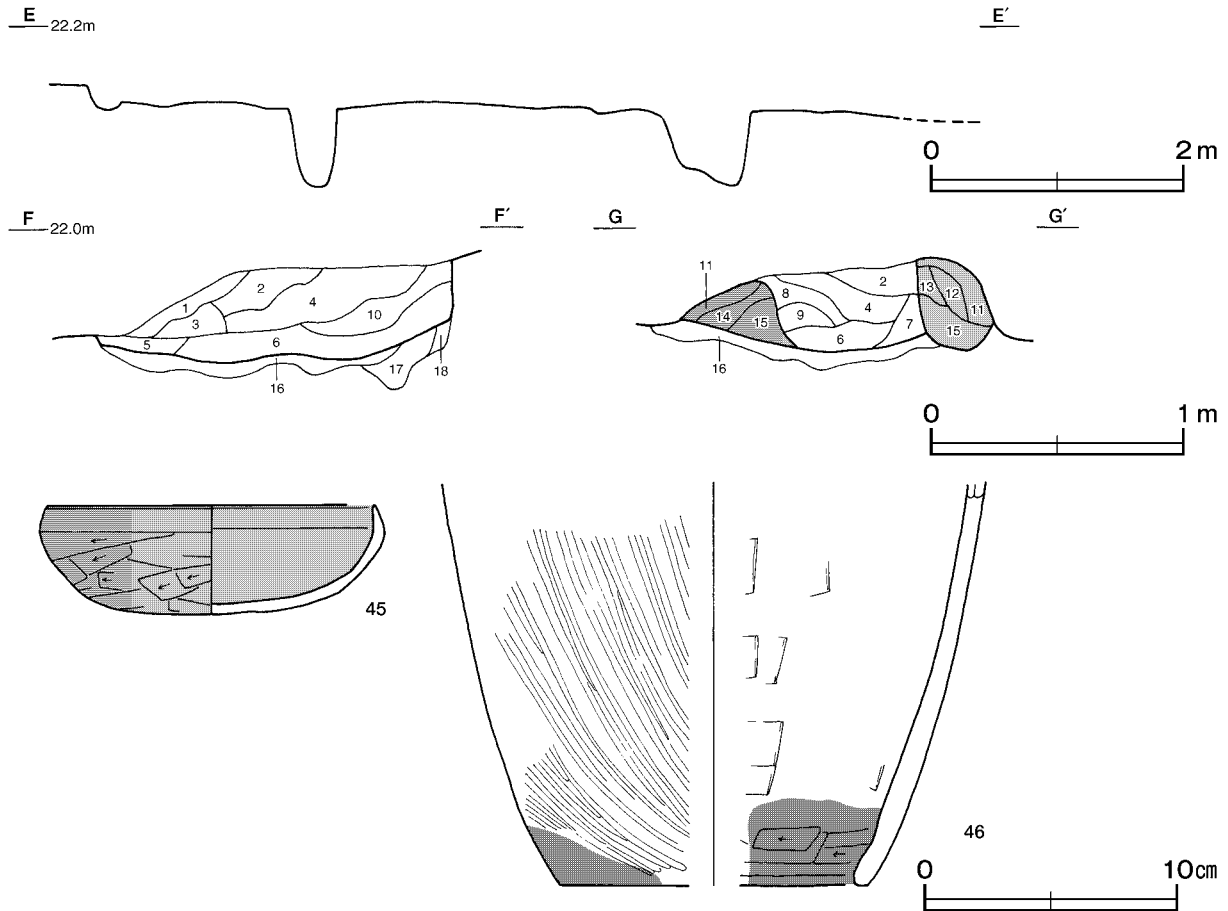
重複関係 第16号住居跡，第5107号土坑を掘り込み，第2818・2821号住居，第4965号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.78m，短軸6.68mの方形で，主軸方向はN-43°-Wである。壁高は8～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められており，特に中央部が硬化している。壁下には幅11～26cm，深さ8～11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第26图 第2819号住居跡実測图



第27図 第2819号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで147cm，袖部幅132cmである。左袖部は床面を5cmほど掘りくぼめて第16層を充填し，その上部に砂質粘土主体の第11・14・15層で構築している。右袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土主体の第11～13・15層で構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて第16層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1～10層に分けられ，第4・6・8～10層は天井部の崩落土層に相当する。左袖部下の第16層は多量の焼土を含んでおり，竈の作り替えが想定される。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 | 12 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子微量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量 | 15 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子中量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 9 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 18 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは58～69cmである。P5は深さ29cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。10～16層は掘り方の埋土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-----------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子中量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 6 灰褐色 | ロームブロック中量 | 14 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片229点（坏77，高坏1，甕類148，甑3）が北東部を中心に出土している。土器の多くは細片であり，出土層位も覆土上・中層であることから，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また，混入した須恵器片3点も出土している。45は西部壁際の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。46は竈右袖部前部の床面と北東部の床面から出土した土器が接合したものであり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第2819号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
45	土師器	坏	13.0	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	60%
46	土師器	甑	-	(16.0)	12.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 内面下端ヘラ削り	床面	10% 内・外面煤付着

第2825号住居跡（第28・29図）

位置 調査区南部のK10b3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2813・2814・2826号住居跡を掘り込み，第2822・2823・2827号住居，第4969・5109号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.46m，短軸5.12mの長方形で，主軸方向はN-18°-Wである。壁高は西壁際で38cmで，ほぼ直立している。

床 中央部を第2827号住居，東部を第2822号住居にそれぞれ掘り込まれているため全体の様相は不明であるが，遺存する部分はほぼ平坦である。明確な硬化面は確認できない。各壁下の一部で，U字状の断面を呈する壁溝が確認されている。規模は，西壁際で幅18cm，深さ14cmである。また，北部の床面からは粘土が検出されており，竈構築材の一部と考えられる。

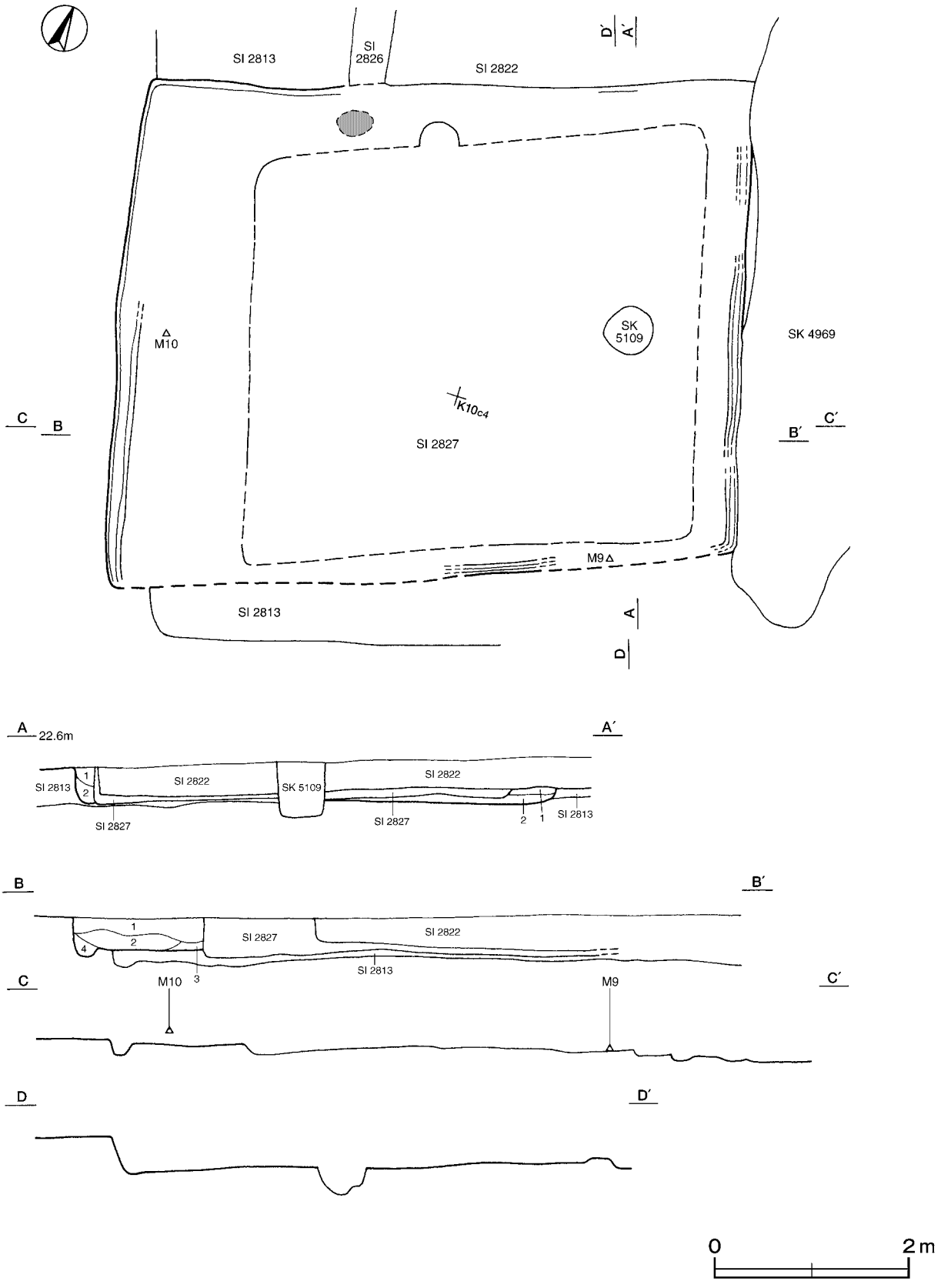
覆土 4層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

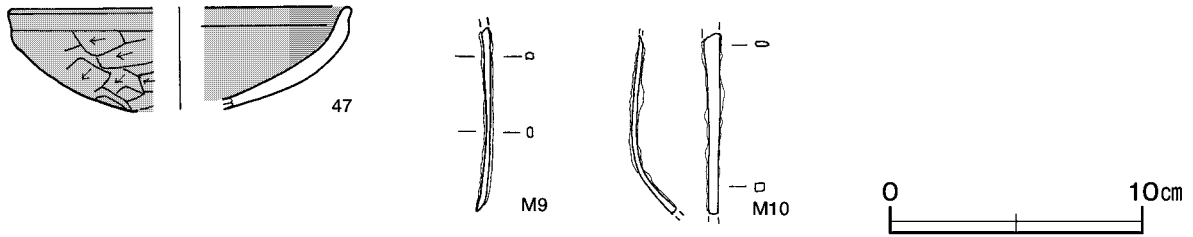
- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片115点（坏18，甕類96，甑1），鉄製品2点（釘，鏃）が散在した状態で出土している。47は北西部の覆土下層から出土しているが，細片であり住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M9は南壁際の床面，M10は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 北部を第2822号住居に掘り込まれているため確認できないが，床面からは竈の構築材と考えられる粘土が検出されており，北部に竈を有していたと考えられる。時期は，出土土器および重複関係から7世紀前葉以前と考えられる。



第28图 第2825号住居跡実測図



第29図 第2825号住居跡出土遺物実測図

第2825号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
47	土師器	坏	[13.6]	(4.0)	-	雲母・赤色粒子・小礫	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	釘	(7.1)	0.4	0.2~0.3	(3.5)	鉄	頭部欠損 断面方形の棒状 一端が細る	床面	
M10	鍬	(7.0)	0.7	0.2~0.3	(4.8)	鉄	切先・茎部欠損 断面長方形の棒状 下位で屈曲する	中層	

第2826号住居跡（第30図）

位置 調査区南部のK10a3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2813号住居跡を掘り込み，第2822・2823・2825・2827号住居，第4969・5105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺存する部分は北東部だけであり，竈の位置から東西軸は4.50mほどと推定されるが，南北軸は不明である。主軸方向N-6°-Wの方形または長方形と推定される。

床 遺存する部分はほぼ平坦であり，竈前部および竈の右側が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており，重複する第2813号住居跡の竈の上に構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで141cm，袖部幅95cmであり，袖部はローム混じりの砂質粘土を主体とする第10~12層で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~9層に分けられ，第2~6層は，天井部および袖部の崩落土層に相当する。

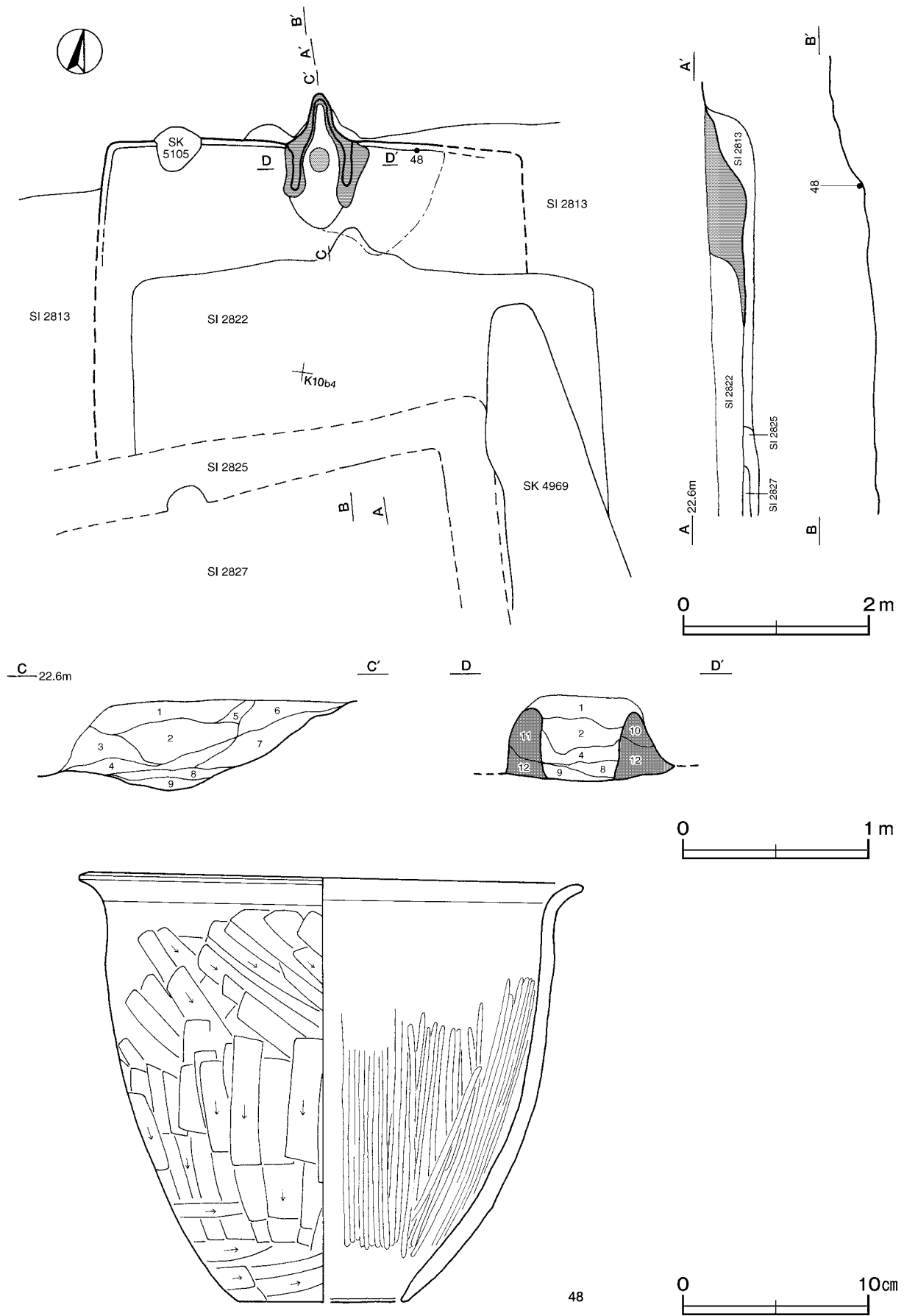
竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック少量，砂質粘土粒子・砂粒微量
3	黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	10	黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	11	黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
6	暗褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量	12	黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土 遺存する部分が北東部だけであるため，堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片56点（坏8，高坏1，甕類35，甗12）が竈周辺から出土している。48は竈袖部右側の床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から，6世紀後葉以前と考えられる。



第30图 第2826号住居跡・出土遺物実測図

第2826号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
48	土師器	甌	27.1	23.2	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	90% PL14

(2) 柵跡

第17号柵跡（第31図）

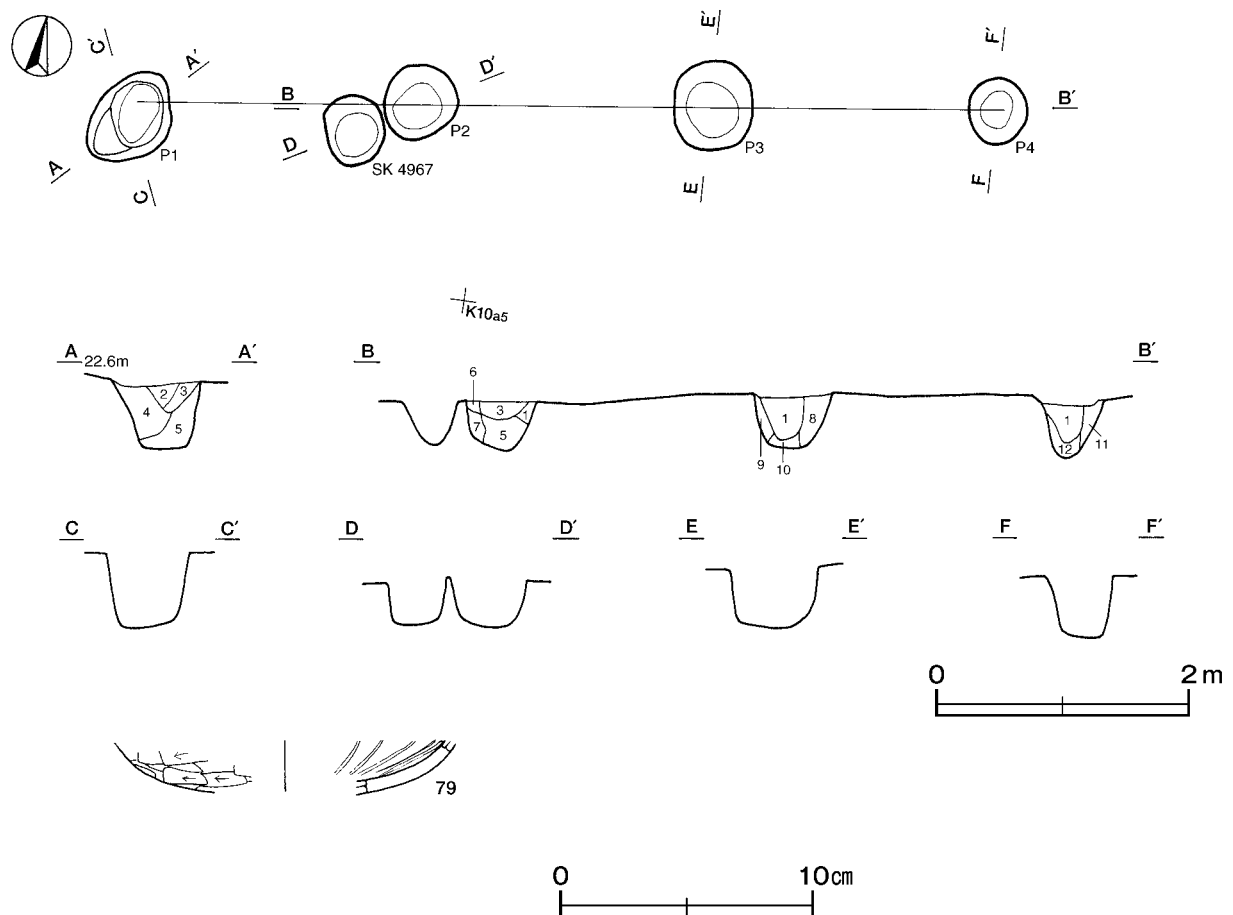
位置 調査区南部のJ10j4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西方向に柱穴4か所が並び、主軸方向はN - 79° - Eである。柱間寸法は2.4m（8尺）を基調として、均等に配されている。各柱穴はほぼ垂直に掘り込まれ、深さは38～60cmである。

土層解説（各柱穴共通）

1 褐色	ローム粒子中量	7 灰褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	9 褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	10 褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量	11 明褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ロームブロック多量	12 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片30点（坏15，甕14，甌1）が各柱穴から出土している。79はP3の覆土中から出土している。



第31図 第17号柵跡・出土遺物実測図

所見 4.5mほど北側に位置している第3号柵跡，さらに北側に位置している第4号柵跡と，柱穴数，柱穴の規模，柱間寸法が類似しているが方向などから，一連の施設とは考えられない。また，第3・4号柵跡の北西には，7世紀前半に比定される住居群が存在していることから，これらの住居群に伴う柵の可能性も考えられる。時期は，P2が8世紀前葉に比定される第2811号住居跡の床下から検出されていることや出土土器から，7世紀代と考えられる。

第17号柵跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	坏	-	(2.1)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面放射状の暗文	P3覆土中	10%

(3) 土坑

第4955号土坑（第32図）

位置 調査区南部のK10a3区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.81m，短径0.49mの不整楕円形で，長径方向はN-20°-Wである。南北に2つのピットが確認されており，それぞれのピットの深さは，北から48cm，41cmで，ともに急な傾斜で立ち上がっている。

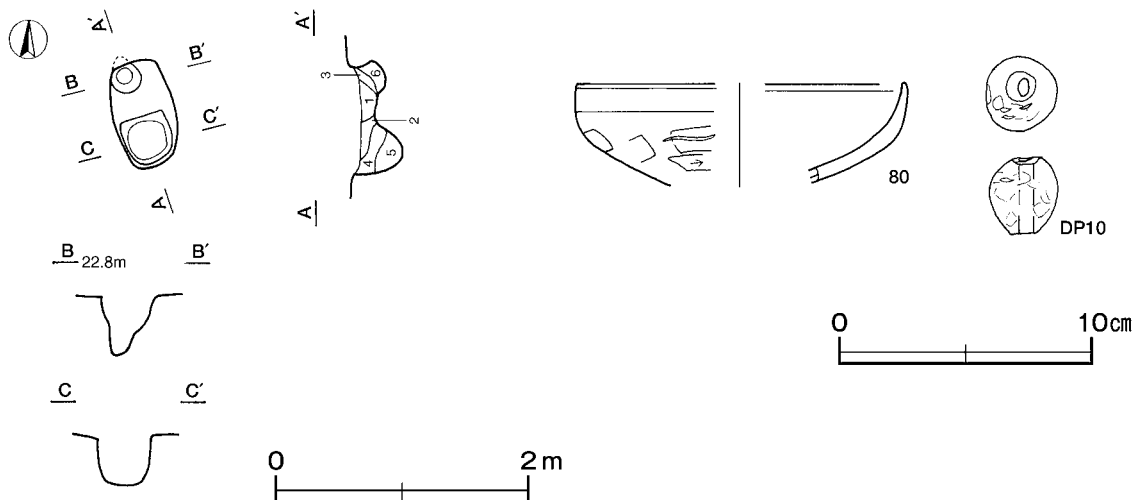
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片11点（坏2，甕類9），土製品1点（球状土錘）が出土している。

所見 2つのピットの形状や土層の堆積状況から柱穴と考えられ，南側から北側への柱の立て替えが想定される。また，本跡の10mほど北西には7世紀代の第17号柵跡が位置しており，出土土器の傾向が類似していることから，時期は7世紀代と考えられる。



第32図 第4955号土坑・出土遺物実測図

第4955号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
80	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	-	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	球状土錘	2.9	2.9	0.4	23.1	土(長石・石英)	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	PL16

表2 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
16	K10d7	N-27°-W	方形	6.24×6.13	14~34	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 土製 勾玉, 球状土錘	6世紀後半	
29	K10g6	N-27°-W	方形	7.18×6.81	2~38	平坦	ほぼ 全周	3	1	2	竈1	-	自然	土師器片, 須恵 器片	7世紀後葉以前	
998	J10i3	N-34°-W	方形	4.40×4.20	24~30	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	6世紀後半	
1001	K10f4	N-30°-W	方形	6.76×6.72	16~46	平坦	全周	4	2	-	竈1	-	人為	土師器片, 支脚	6世紀後葉	
1002	K9b0	N-26°-W	方形	9.00×8.80	42~64	平坦	全周	4	2	56	竈2	1	自然	土師器片, 鉄滓	6世紀後半	
1006	K10e2	N-32°-W	方形	7.48×7.14	26~48	平坦	全周	4	2	7	竈1	-	人為	土師器片, 土製勾 玉, 小玉, 鉄滓	6世紀後葉から 7世紀前葉	
1032	J10i6	N-6°-E	方形	3.50×3.48	20~42	平坦	半周	4	1	2	竈1	-	不明	土師器片	7世紀中葉から 後葉	
2813	K10b3	N-13°-W	方形	8.94×8.89	24~54	平坦	全周	4	3	11	竈2	2	自然	土師器片, 須恵器片 支脚, 鉄滓, 鐵先, 鉄滓	6世紀中葉以前	
2814	K10c3	N-24°-W	[方形]	(5.63)×[5.30]	25~30	平坦	一部	2	-	-	竈1	-	不明	土師器片, 鉄鏝	6世紀中葉以前	
2818	K10e4	N-9°-W	方形	5.58×5.53	7~38	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器 片, 支脚, 鐵鏝	7世紀後葉	
2819	K10e6	N-43°-W	方形	6.78×6.68	8~18	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片	7世紀前葉	
2825	K10b3	N-18°-W	長方形	6.46×5.12	38	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 釘, 鉄鏝	7世紀前葉以前	
2826	K10a3	N-6°-W	[方形・長方形]	[4.50]× -	-	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器片	6世紀後葉以前	

2 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の竪穴住居跡9軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第988号住居跡(第33図)

位置 調査区南部のK10a2区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。中央部から西部は平成10年度に調査が終了しており, 柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし, 既調査分も再録した。

重複関係 第59・130号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.92m, 短軸4.52mの方形で, 主軸方向はN-3°-Wである。壁高は12~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 各壁近くまで踏み固められている。遺存する部分の壁下には, 幅15~28cm, 深さ5~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

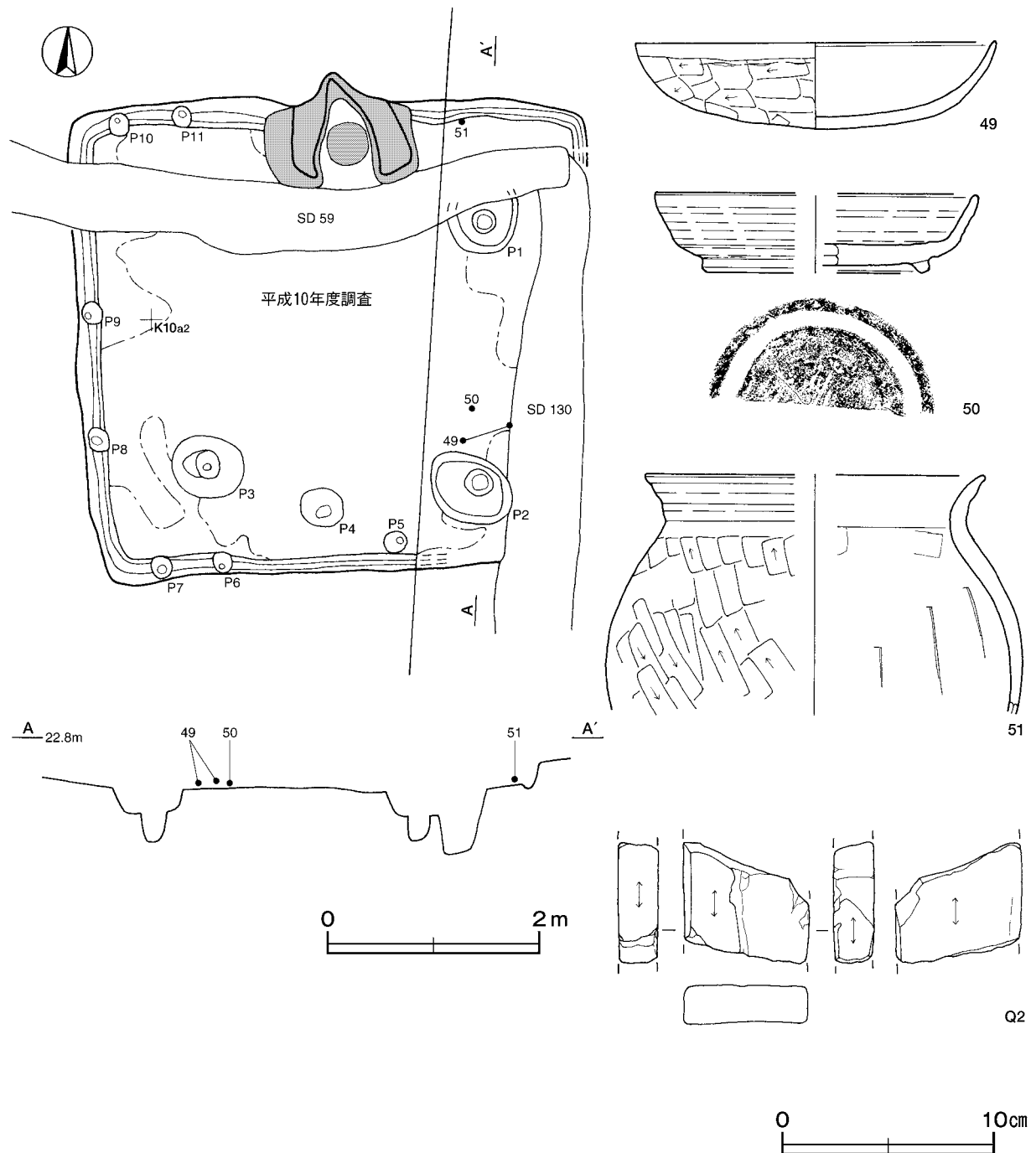
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部と右袖端部を第59号溝に掘り込まれており, 規模は, 焚口部から煙道部まで110cmほどと推定される。袖部幅は140cmであり, 地山のロームを基部にして砂と粘土, ローム土を混ぜた部材をブロック状に積み重ねて構築されている。また, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

ピット 11か所。P1~P3は主柱穴で, 深さは47~51cmである。P4は深さ35cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P5~P11は径18~22cmのほぼ円形で, 深さは15~40cmである。壁溝中に並ぶように位置していることから, いずれも壁柱穴と考えられる。

覆土 ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片143点(坏27, 甕類116), 須恵器片11点(坏2, 高台付坏1, 甕類7, 甌1), 石製品1点(砥石)が散在した状態で出土している。49・50は南東部, 51は北部壁際のいずれも覆土下層から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 中央部から西部は平成10年度に調査が終了しており, その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第33図 第988号住居跡・出土遺物実測図

第988号住居跡出土遺物観察表（第33図）

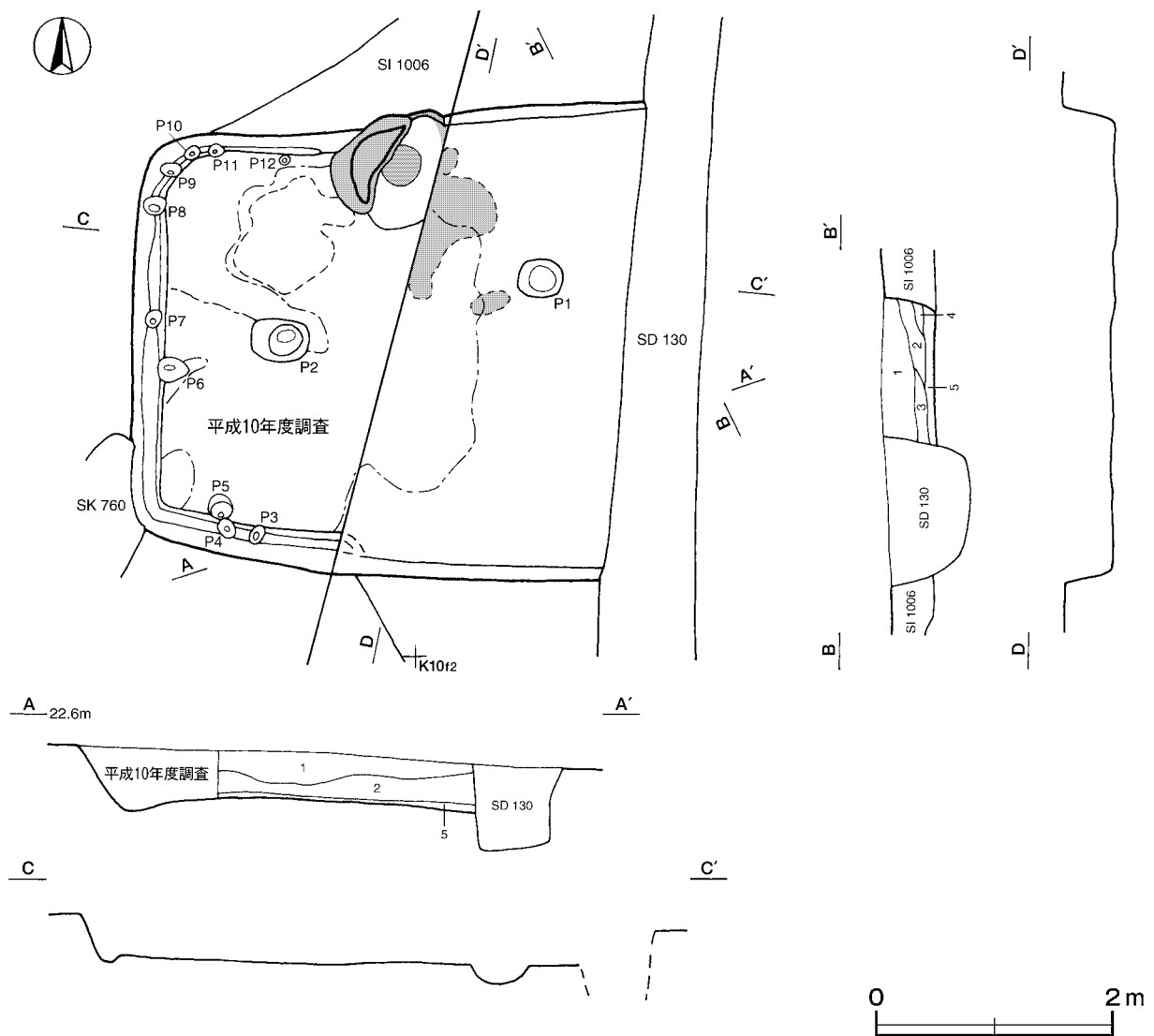
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	土師器	坏	17.2	4.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ	下層	70% PL15
50	須恵器	高台付坏	[15.2]	3.8	[10.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	50%
51	土師器	甕	[16.2]	[11.3]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(5.8)	6.0	1.9	(94.8)	砂岩	両端部欠損 砥面 4面 うち1面に櫛状の砥面	覆土中	PL16

第1000号住居跡（第34図）

位置 調査区南部のK10e1区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。西部は平成10年度に調査が終了しており、柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし、既調査分も再録した。

重複関係 第1006号住居跡を掘り込み、第130号溝、第760号土坑に掘り込まれている。



第34図 第1000号住居跡実測図

規模と形状 東部を第130号溝に掘り込まれており、東西軸は4.12mだけが確認された。南北軸は4.04mの長方形で、主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は34～52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から西部が踏み固められている。中央部から西部の壁下には、幅15～34cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、右袖前部からは袖部の構築材と考えられる粘土の広がりが確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cmである。左袖部は遺存しているが、右袖部は確認されていない。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

ピット 12か所。P1は深さ17cm、P2は深さ48cmで、ともに支柱穴である。P3～P12は、径10～20cm、深さ10～20cmで、いずれも西部の壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片338点(坏48, 椀1, 甕類289), 須恵器片11点(坏5, 蓋1, 甕類5)が散在した状態で出土している。出土土器はいずれも細片であり、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また、混入した磁器片4点、瓦1点も出土している。

所見 中央部から西部は平成10年度に調査が終了しており、その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は、出土土器や重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

第1019号住居跡(第35図)

位置 調査区南部のK10a7区、標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。中央部から東部は平成10年度に調査が終了し、既調査分も再録した。

重複関係 第1020号住居跡を掘り込み、第786号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.16mの長方形で、主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は30～46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から北東部が踏み固められている。壁下には、幅13～21cm、深さ7～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

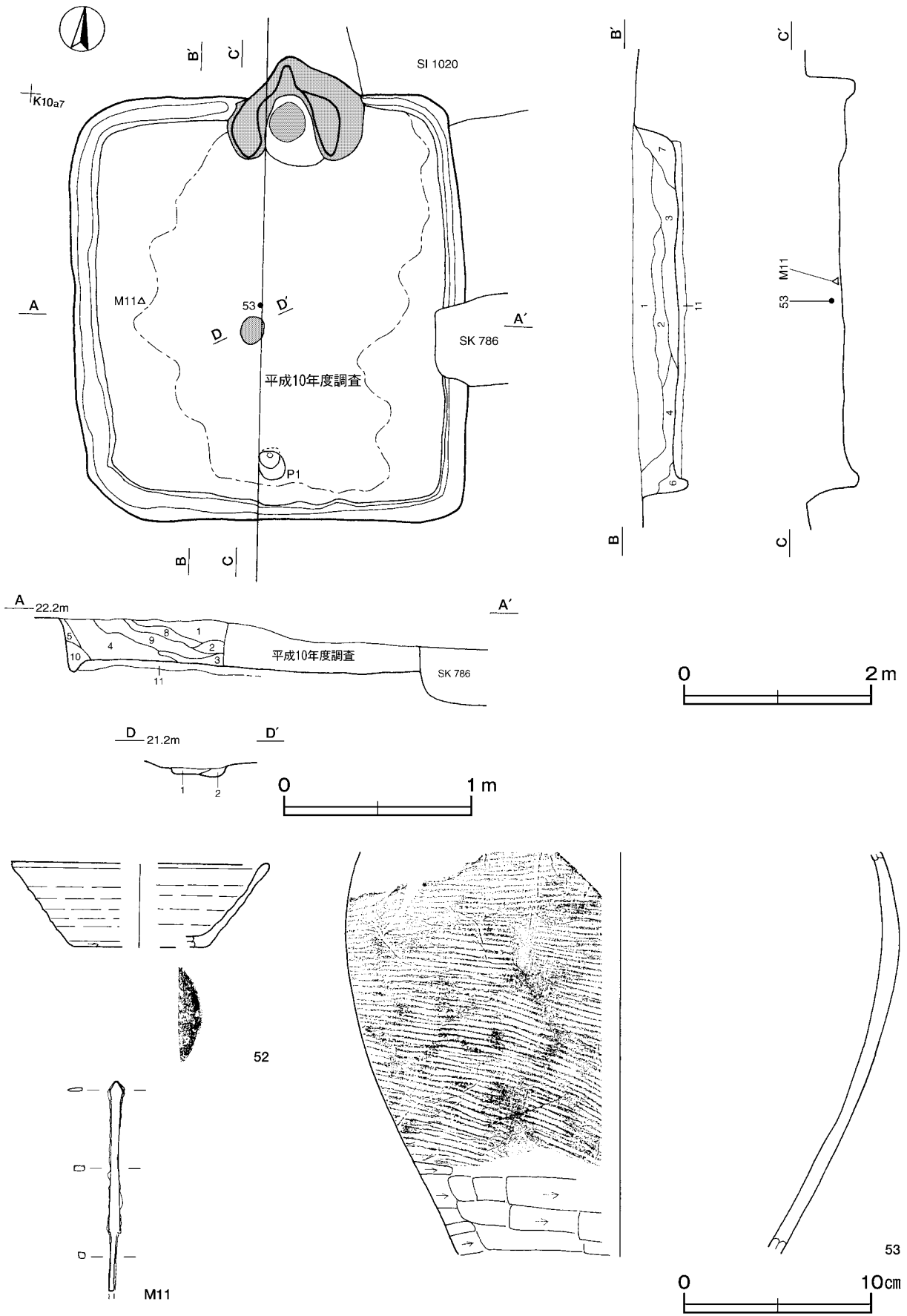
竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅144cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

炉 中央部の南西寄りに位置している。長径31cm、短径26cmの楕円形で、床面を皿状に掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

- | | | | |
|------|----------------|------|---------|
| 1 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 2 褐色 | ローム粒子多量 |
|------|----------------|------|---------|

ピット P1は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第35図 第1019号住居跡・出土遺物実測図

覆土 11層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第11層は貼床の層である。

土層解説

1 灰 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 灰 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
2 灰 褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3 灰 褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量	9 灰 褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 本年度調査区からは、土師器片232点（甕類）、須恵器片41点（坏30、高台付坏2、蓋1、甕類8）、鉄製品1点（鏝）が、散在した状態で出土している。52は北東部の覆土中層、53は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また、M11は西部の覆土下層から出土している。

所見 中央部から東部は平成10年度に調査が終了しており、その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。本跡は炉と竈を有しており、同様の形態をもつ住居跡の調査例は、当遺跡では11軒あるが、本跡と同時期の住居は報告されていない。また、工房跡が想定できるような遺物の出土はない。時期は、出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。

第1019号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
52	須恵器	坏	[13.8]	4.6	[7.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	中層	20%
53	須恵器	甕	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下端横位のヘラ削り	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鏝	(11.2)	0.8	0.4	(11.3)	鉄	平造 角関	下層	PL17

第1030号住居跡（第36・37図）

位置 調査区南部のJ10j6区、標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。中央部から北部は平成10年度に調査が終了しており、柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号とし、既調査分も再録した。

重複関係 第1032号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.38m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は24～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、各壁近くまで踏み固められている。東・西壁下の一部および南壁下には、幅14～22cm、深さ4～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで163cm、袖部幅154cmであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめた後に床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

ピット 10か所。P1は深さ39cm、P2は深さ56cmで、ともに主柱穴である。P3は深さ41cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P10は深さ12～45cmで、いずれも壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。

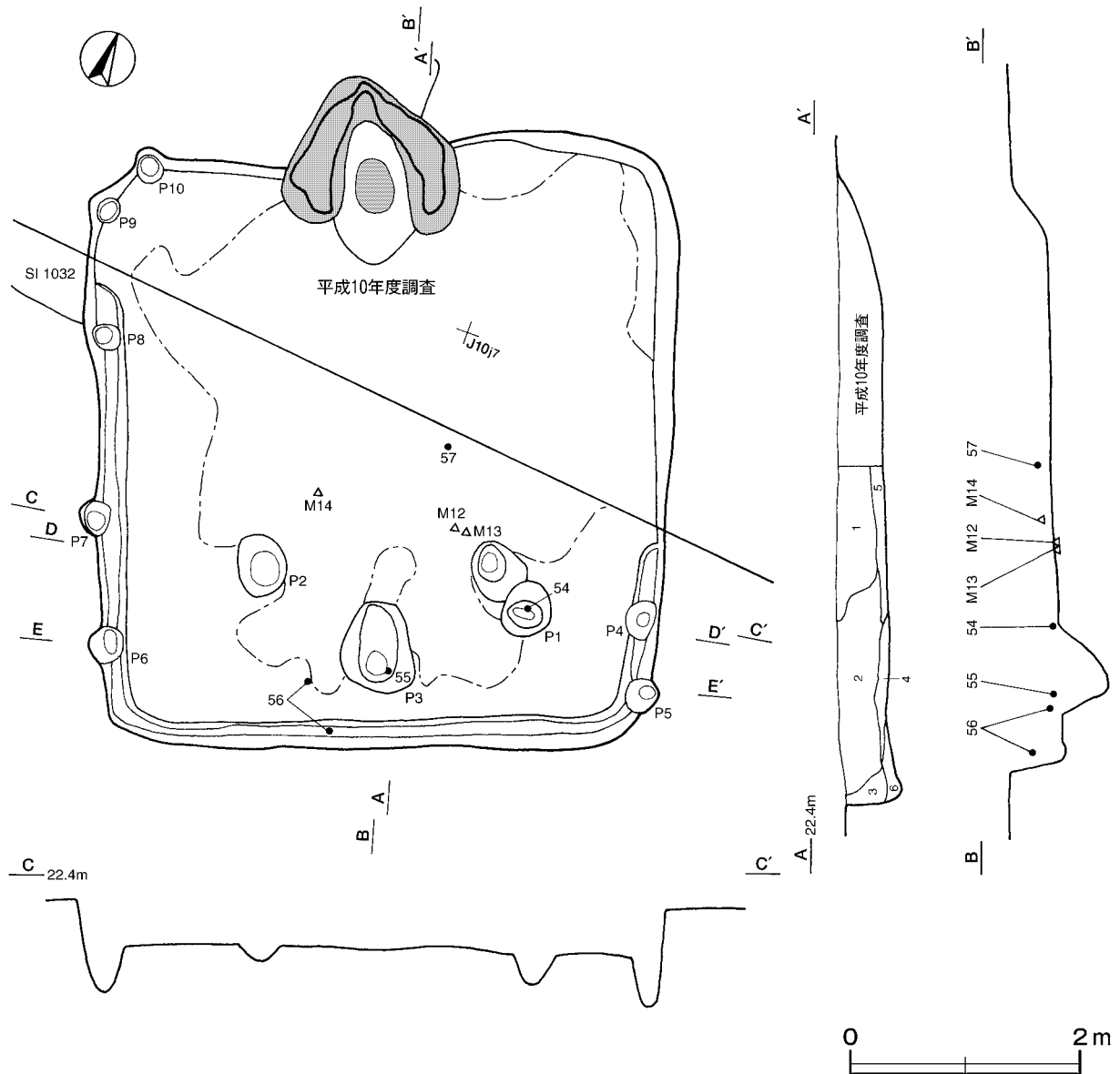
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

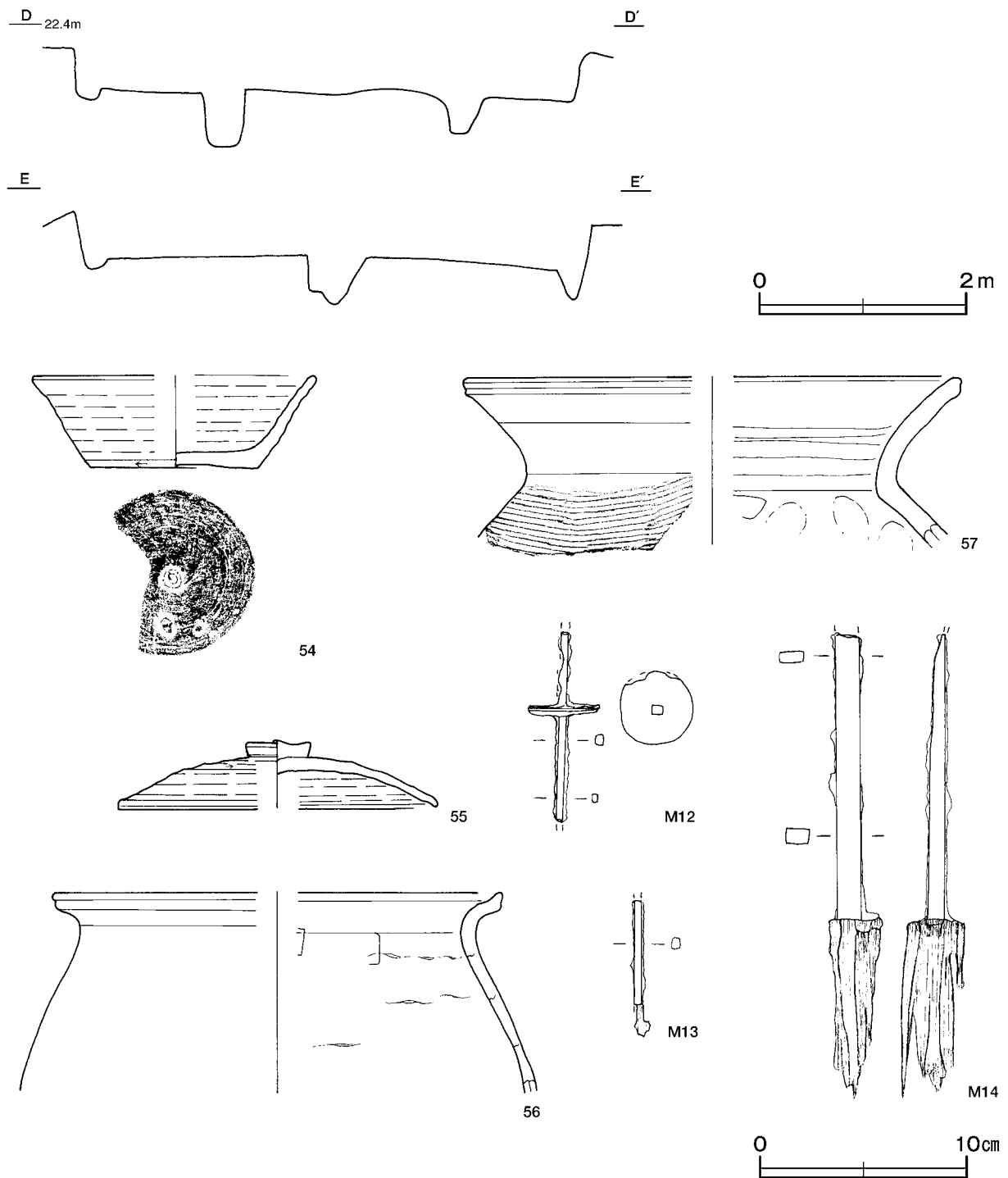
- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子少量,ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 本年度調査区からは土師器片810点(甕類),須恵器片146点(坏108,蓋8,甕類30),鉄製品2点(紡錘車,釘)が散在した状態で出土している。遺物量が多いが出土土器のほとんどは細片である。54は南東部,55は南部,57は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており,住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また,M12・M13は中央部の床面,M14は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 中央部から北部は平成10年度に調査が終了しており,その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。時期は,出土土器から8世紀後半と考えられる。



第36図 第1030号住居跡実測図



第37図 第1030号住居跡・出土遺物実測図

第1030号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
54	須恵器	坏	[13.6]	4.5	7.9	石英・雲母	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	下層	60% PL15
55	須恵器	蓋	[15.2]	3.3	-	長石・石英・雲母・微礫	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	40%
56	土師器	甕	[21.8]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積痕	下層	10%
57	須恵器	甕	[24.0]	(8.2)	-	石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	下層	10%

番号	器種	全長	軸断面径	紡錘車径	紡錘車厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	紡錘車	(9.1)	0.4~0.5	3.6	0.2	(20.4)	鉄	両端部欠損 軸部断面方形	床面	PL17

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	釘	(6.6)	0.5	0.5	(4.3)	鉄	両端部欠損 断面方形の棒状	床面	
M14	鈍	(22.5)	1.2~3.1	0.5~0.8	(116.8)	鉄	刃先部欠損 木質残存 断面長方形の棒状 先端部は扁平	下層	PL17

第2811号住居跡（第38図）

位置 調査区南部のJ10j4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第17号柵跡，第4967号土坑を掘り込み，第999号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.68m，短軸3.05mの長方形で，主軸方向はN-11°-Wである。壁高は8~25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8~17cm，深さ6~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されており，煙道部を第999号住居に掘り込まれている。袖部幅は101cmであり，袖部は地山面をやや掘りくぼめ，その上部に砂質粘土を主体とする第7~11層で構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1~6層に分けられ，第2・3・5層は，天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2	褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	7	暗褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量
3	赤色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量	8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
4	明褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	9	赤色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック中量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量
			11	にぶい黄褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ26cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ16cmで中央部に位置しているが，性格は不明である。

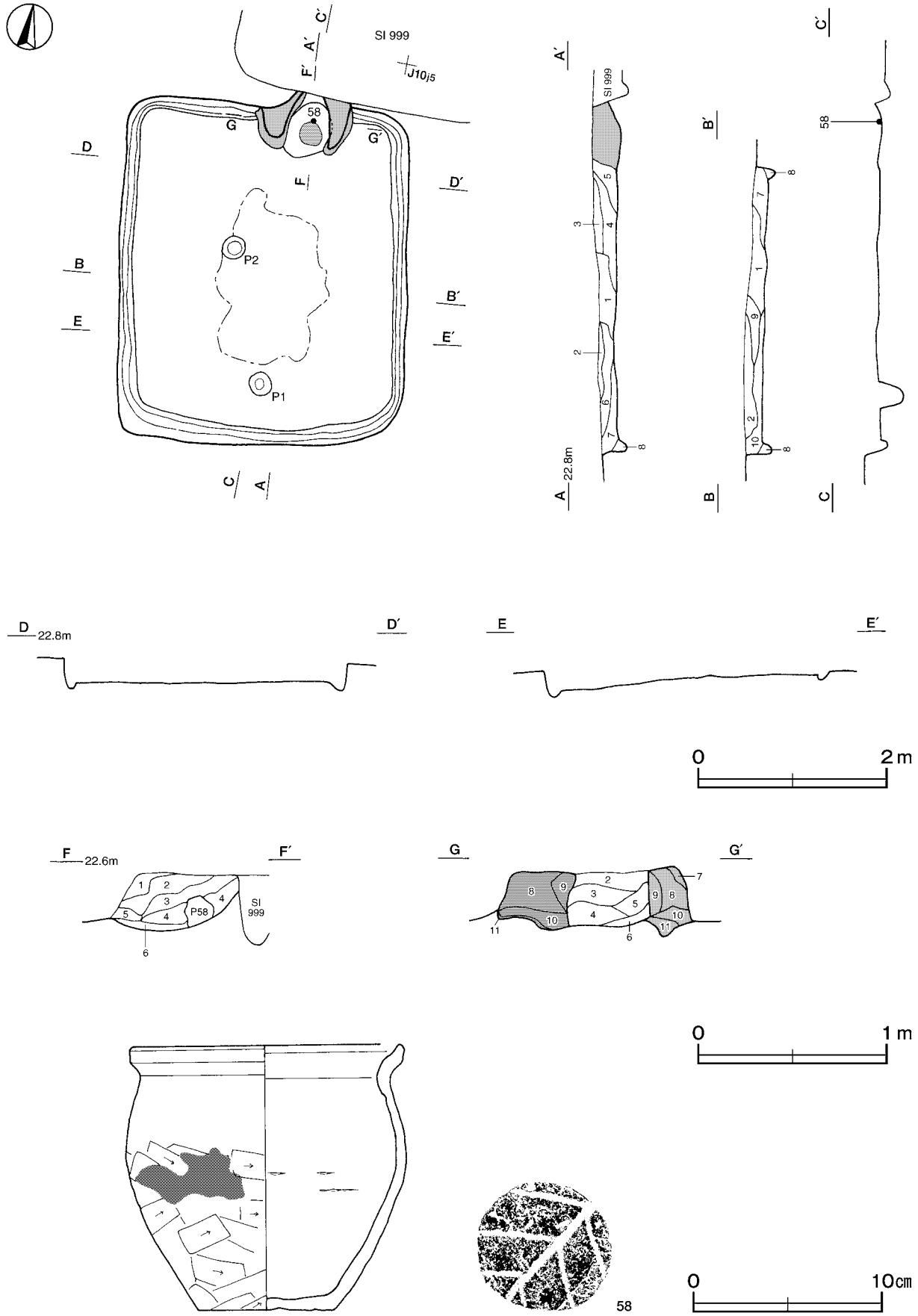
覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ロームブロック・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量	9	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子多量，粘土ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片143点（坏34，甕類109），須恵器片61点（坏45，甕類16）が散在した状態で出土している。58は竈火床面から逆位で出土しており，外面に被熱痕が認められることから，支脚として使用されていたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第38图 第2811号住居跡・出土遺物実測図

第2811号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
58	土師器	甗	14.3	14.0	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積痕 底部木葉痕	竈火床面	100% 外面煤付着

第2816号住居跡（第39・40図）

位置 調査区南部のK10c6区，標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4960・4961号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.10m，短軸4.96mの方形で，主軸方向はN - 16° - Wである。壁高は28～41cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除く壁下には幅16～19cm，深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，床面全体に焼土が堆積しており，焼土層は中央部で10～15cmほどの厚みを有する焼失住居である。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで136cm，袖部幅138cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂混じりの白色粘土で構築されている。火床部は床面を15～20cmほど掘りくぼめて第18・19層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～13層に分けられ，第4～9・13層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・砂粒中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量	11 暗褐色 焼土粒子少量
2 暗褐色 焼土ブロック・砂粒中量，粘土粒子少量	12 にぶい赤褐色 焼土粒子多量
3 暗褐色 焼土ブロック・砂粒少量	13 にぶい赤褐色 焼土ブロック・白色粘土粒子多量
4 灰白色 白色粘土粒子多量	14 灰褐色 白色粘土ブロック・砂粒多量
5 赤褐色 白色粘土粒子多量	15 灰褐色 砂粒多量，白色粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
6 暗褐色 焼土粒子中量	16 褐色 ローム粒子多量，白色粘土ブロック少量
7 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量，炭化物・砂粒中量	17 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
8 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子多量	18 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量
9 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子微量	19 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
10 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量	

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で，深さは47～54cmである。P5は深さ39cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

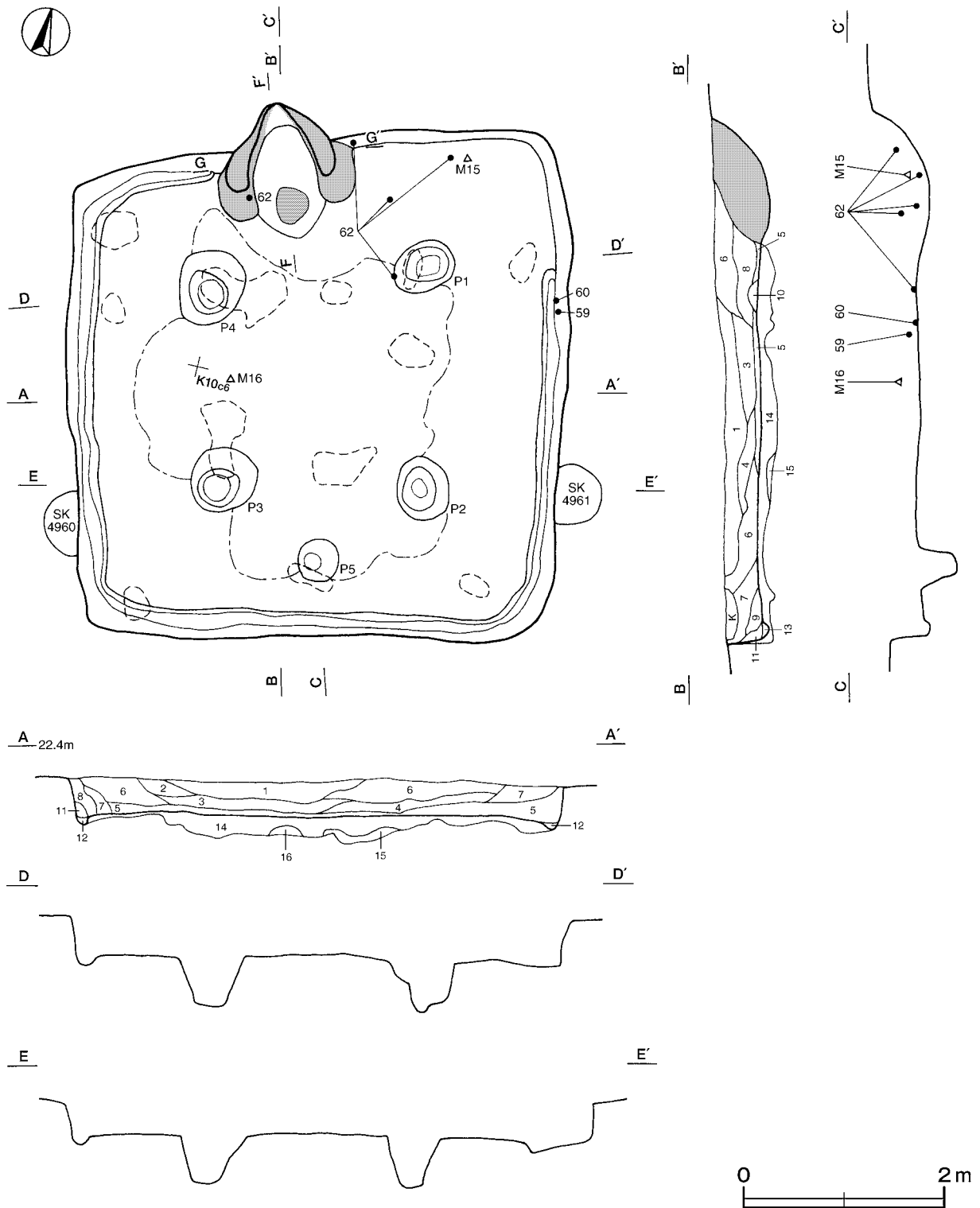
覆土 16層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第14～16層は掘り方の埋土層である。

土層解説

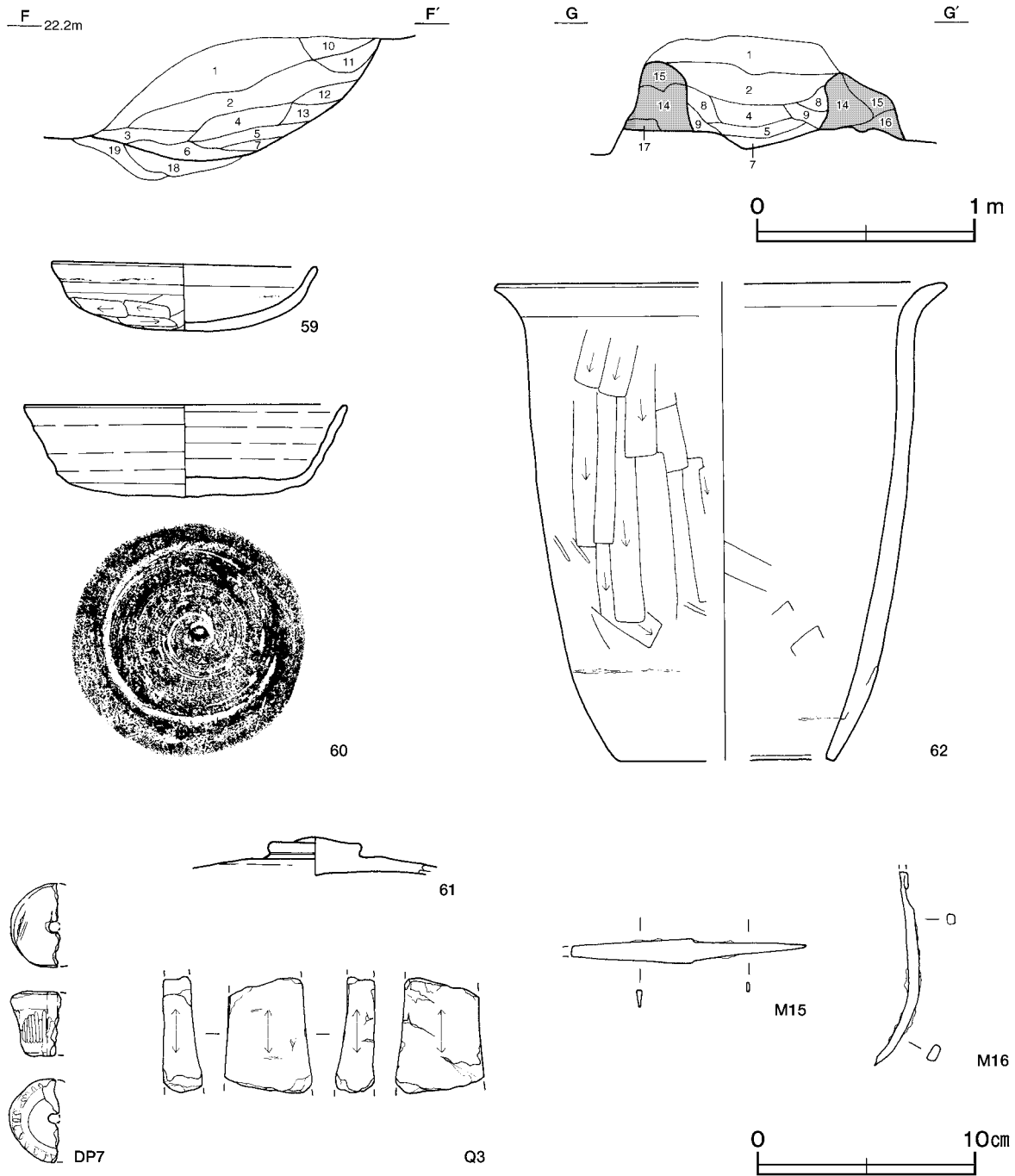
1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子微量	10 褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色 ローム粒子中量
4 褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色 ローム粒子微量
5 暗褐色 焼土粒子微量	13 褐色 ロームブロック微量
6 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	15 褐色 ロームブロック少量
8 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量	16 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片1361点(坏214，甗類1129，甑17，手捏土器1)，須恵器片36点(坏29，蓋5，高盤1，瓶類1)，土製品1点(紡錘車)，石器1点(砥石)，鉄製品3点(刀子2，鎌1)，鉄滓1点が散在した状態で出土している。出土遺物は多量であるが，大部分は床面に堆積した焼土よりも上層で出土している。59・60は東壁際の覆土下層から出土しており，ともに被熱痕が認められることから，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M15は北部の覆土下層，M16は中央部西寄りの覆土中層からそれぞれ出土しており，出土層位は焼土層よりも上層であることから，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は、同時期の住居跡群のほぼ中央部に位置しており、規模も最大であることから、集落の中心的な住居であったと考えられる。床面全体に焼土が堆積し、覆土中にも焼土ブロックが含まれる焼失住居である。柱穴の覆土から焼土がほとんど検出されていないことや、床面の焼土層は柱穴部の覆土まで続いていることから、廃絶して柱を抜き取った後に焼失したと考えられる。時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第39図 第2816号住居跡実測図



第40図 第2816号住居跡・出土遺物実測図

第2816号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	土師器	坏	12.1	3.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 種痕 内面ナデ 輪積痕	下層	90% 外面被熱痕
60	須恵器	坏	14.7	4.4	10.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	下層	95% PL 15 外面被熱痕
61	須恵器	蓋	-	(1.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
62	土師器	甑	[20.8]	21.9	[10.0]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 種痕 内面ヘラナデ 輪積痕	中・下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	紡錘車	3.8	3.1	0.5	(22.4)	土(長石・石英)	円錐台形 上面・側面へラ磨き 二方向の穿孔	覆土中	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(5.3)	4.1	1.8	(48.7)	凝灰岩	砥面4面 両端は破断面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(10.9)	1.1	0.3	(8.8)	鉄	刃先部欠損 両関 断面三角形 茎尻部が細る	下層	PL17
M16	鏃	(8.9)	0.5	0.4	(10.7)	鉄	鏃身部欠損 断面方形の棒状 下位で屈曲	中層	

第2821号住居跡(第41図)

位置 調査区南部のK10e5区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1001・2818・2819号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.92m, 短軸2.82mの方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁高は22~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北西部および南西コーナー部を除いて踏み固められている。南西コーナー部を除く壁下からは, 幅14~17cm, 深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。また, 西部から中央部の床面には焼土が堆積し, 焼土層は西壁際で35cmほどの厚みを有する焼失住居である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで67cm, 袖部幅83cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にローム混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さであり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に11cm掘り込まれ, 火床部から急な傾斜で立ち上がっている。覆土は第1~5層に分けられ, 第3層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量	9 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
2 暗褐色	焼土粒子中量, 炭化物微量	10 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
3 灰褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量	11 黒褐色	砂質粘土粒子中量
4 褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量	12 褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子少量
6 明赤褐色	焼土粒子多量	14 明褐色	ローム粒子多量
7 褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量		
8 赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子微量		

ピット 深さ19cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

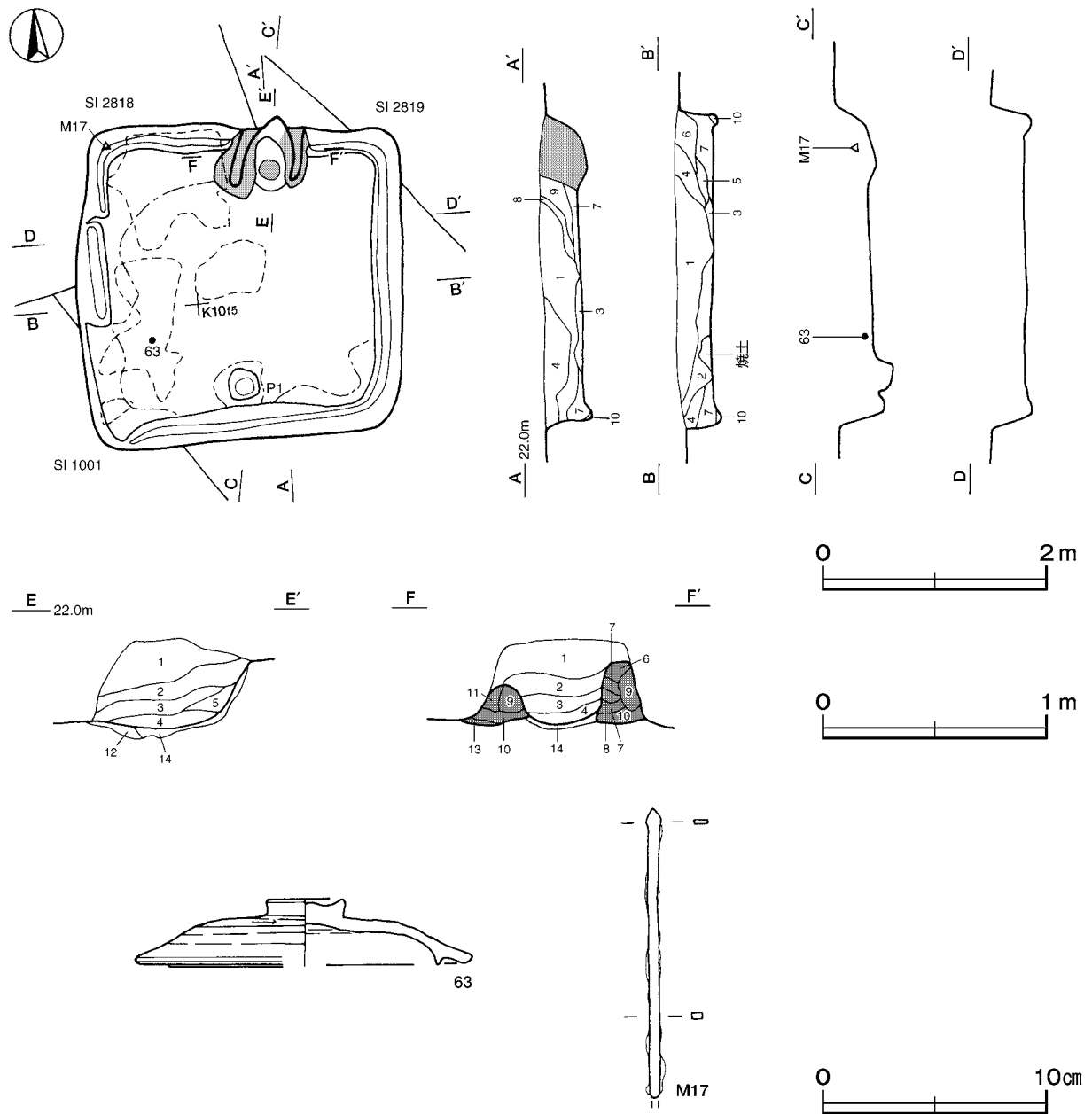
覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	焼土ブロック微量	6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・砂粒少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3 褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量	8 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	10 褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片244点(坏19, 甕類225), 須恵器片12点(蓋9, 甕類1, 瓶類2), 鉄製品1点(鏃)が散在した状態で出土している。遺物の多くは細片であり, 床面に堆積した焼土よりも上層から出土している。63は南西部の覆土下層, M17は北部壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており, とともに住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 床面に焼土が堆積し、覆土中に焼土ブロックや炭化物を含む焼失住居である。時期は、出土土器から 8 世紀前葉以前と考えられる。



第41図 第2821号住居跡・出土遺物実測図

第2821号住居跡出土遺物観察表（第41図）

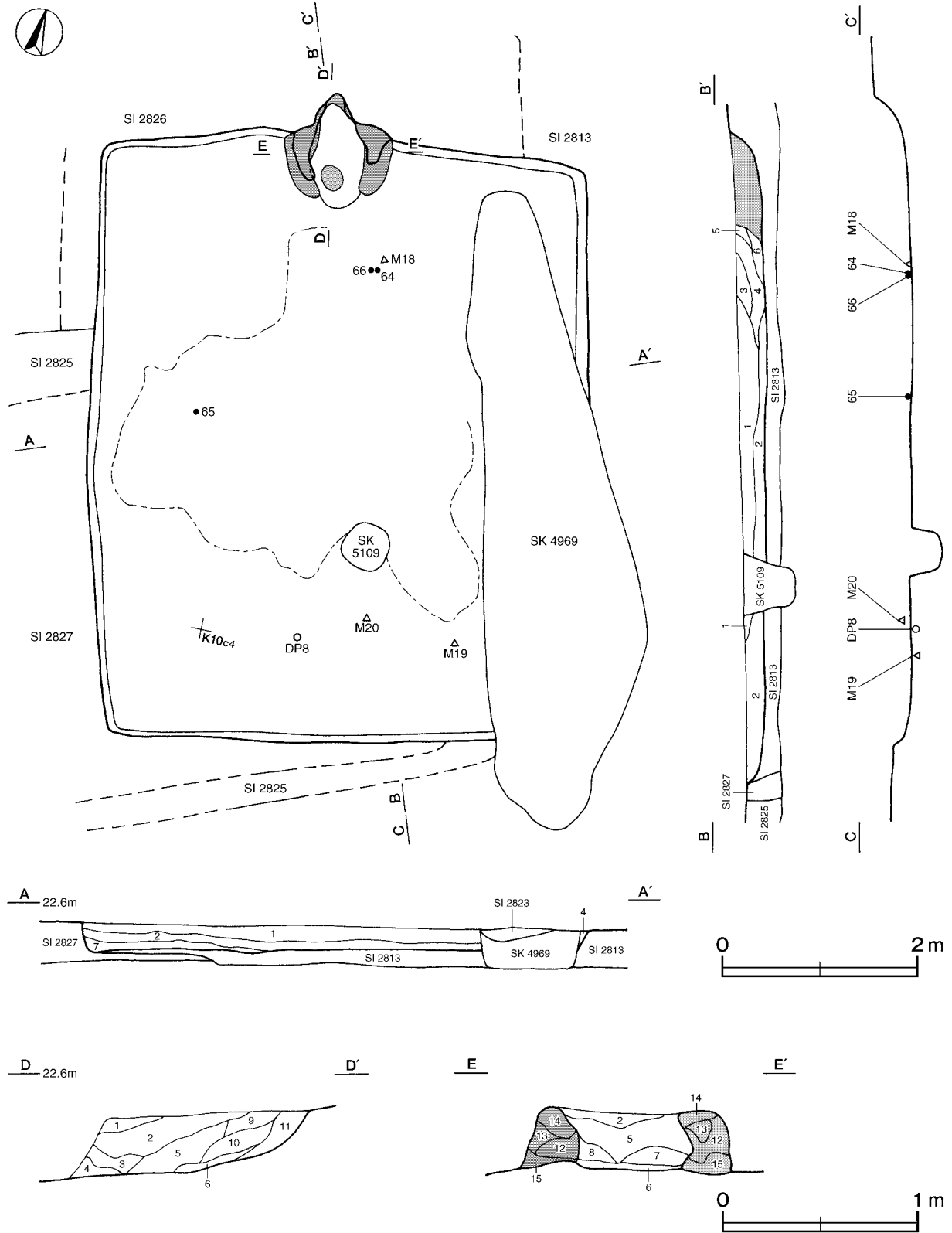
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	須恵器	蓋	3.4	3.0	14.3	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	80% PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	鏃	(13.0)	0.7	0.15~0.3	(12.4)	鉄	茎部欠損 断面長方形の棒状	中層	PL17

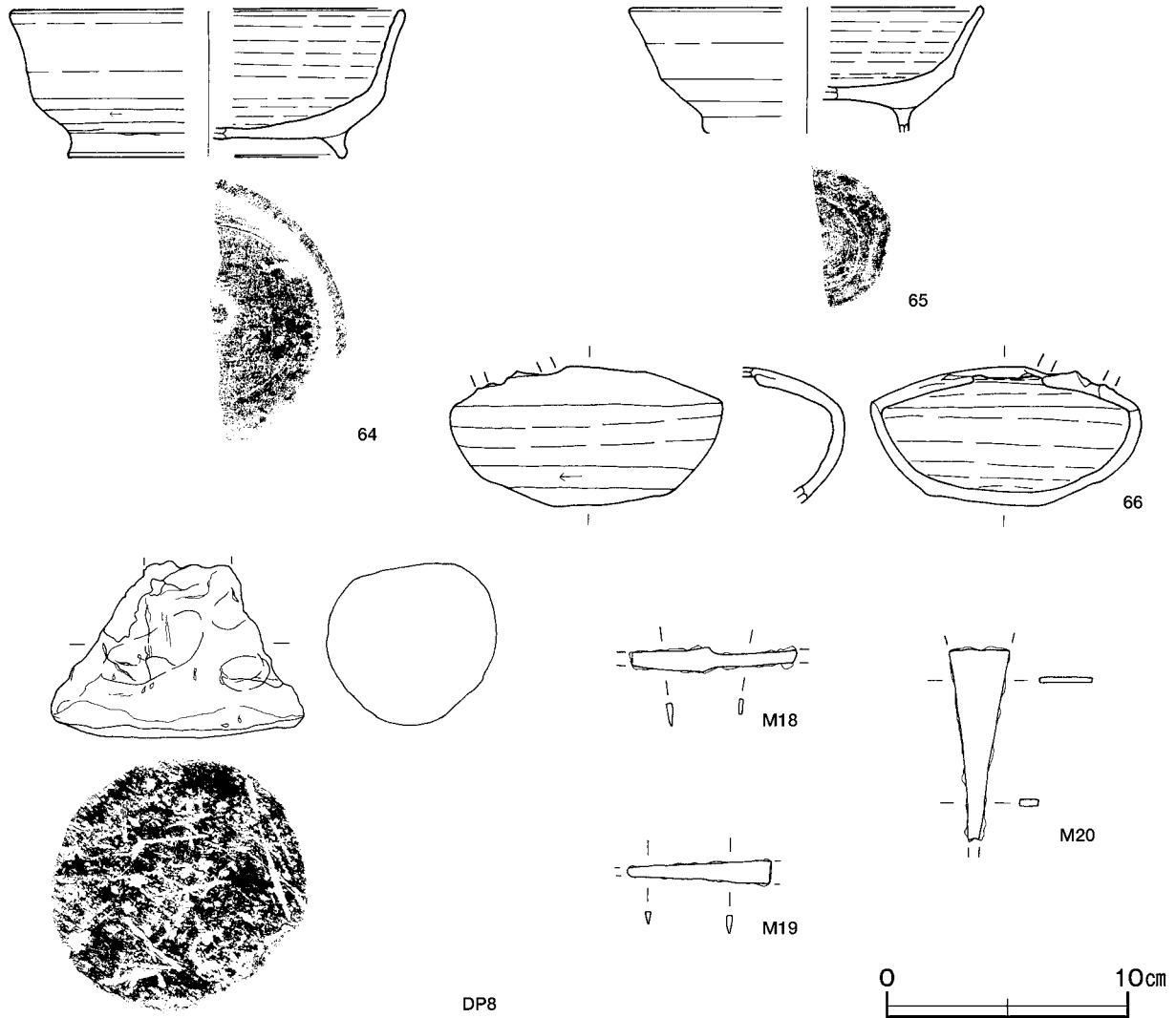
第2822号住居跡 (第42・43図)

位置 調査区南部のK10b4区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2813・2825～2827号住居跡を掘り込み, 第2823号住居, 第4969・5109土坑に掘り込まれている。



第42図 第2822号住居跡実測図



第43図 第2822号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸6.33m，短軸5.06mの長方形で，主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は27～31cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，袖部幅112cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土主体の第12～15層で構築している。火床部も床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。また，火床部には3～5cmの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に41cm掘り込まれ火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～11層に分けられ，第3・5・9・10層は天井部の崩落土層，第7・8層は袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量 | 9 暗褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化物微量 | 10 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 11 暗褐色 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量 | 12 灰褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 灰中量，焼土粒子少量 | 13 灰褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 極暗褐色 焼土粒子中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 14 暗褐色 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 15 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・砂粒微量
3	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
4	褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土ブロック微量			

遺物出土状況 土師器片742点(甕類), 須恵器片79点(坏40, 高台付坏4, 蓋3, 甕類23, 甌4, 瓶類5), 土製品1点(支脚), 鉄製品3点(刀子2, 鏃1)が散在した状態で出土しており, 出土土器のほとんどは細片である。64・66は中央部北寄りの覆土下層, 65は西部の覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。また, DP8は南西部西寄りの床面, M18は中央部北寄りの覆土下層, M19は南部東寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。

第2822号住居跡出土遺物観察表(第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
64	須恵器	高台付坏	[16.1]	6.1	[11.3]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	50%
65	須恵器	高台付坏	[14.1]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	40%
66	須恵器	平瓶	-	(5.8)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	頸部欠損 体部内・外面ロクロナデ 体部外面下位回転ヘラ削り	下層	10% PL16

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	支脚	(7.3)	(3.8)	10.5	(408.9)	土(長石・石英)	上部欠損 ナデ 指頭痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	刀子	(6.7)	1.1	0.3	(6.0)	鉄	刃先部・茎尻部欠損 両関 刃部断面三角形	下層	PL17
M19	刀子	(6.1)	(1.1)	0.2	(4.0)	鉄	刃部の破片 断面三角形	床面	PL17
M20	鏃	(8.1)	(2.6)	0.3	(12.4)	鉄	鏃身部方頭形 側縁は緩やかに内彎する	下層	PL17

第2827号住居跡(第44図)

位置 調査区南部のK10b4区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2813・2814・2825・2826号住居跡を掘り込み, 第2822・2823号住居, 第5109号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分を第2822号住居に掘り込まれている。遺存する壁溝や壁の立ち上がりから, 長軸4.20m, 短軸4.10mほどの方形で主軸方向はN-20°-Wと推定される。壁高は西側で40cmほどで, ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦であり, 中央部南寄りでは硬化面が一部確認された。南東部の壁下からは, 幅16cm, 深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。第2822号住居に掘り込まれており, 火床部だけが検出されている。また, 袖部は確認されていないが, 北部の床面からは袖部の構築材と考えられる砂質粘土が検出されている。

ピット 深さ17cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

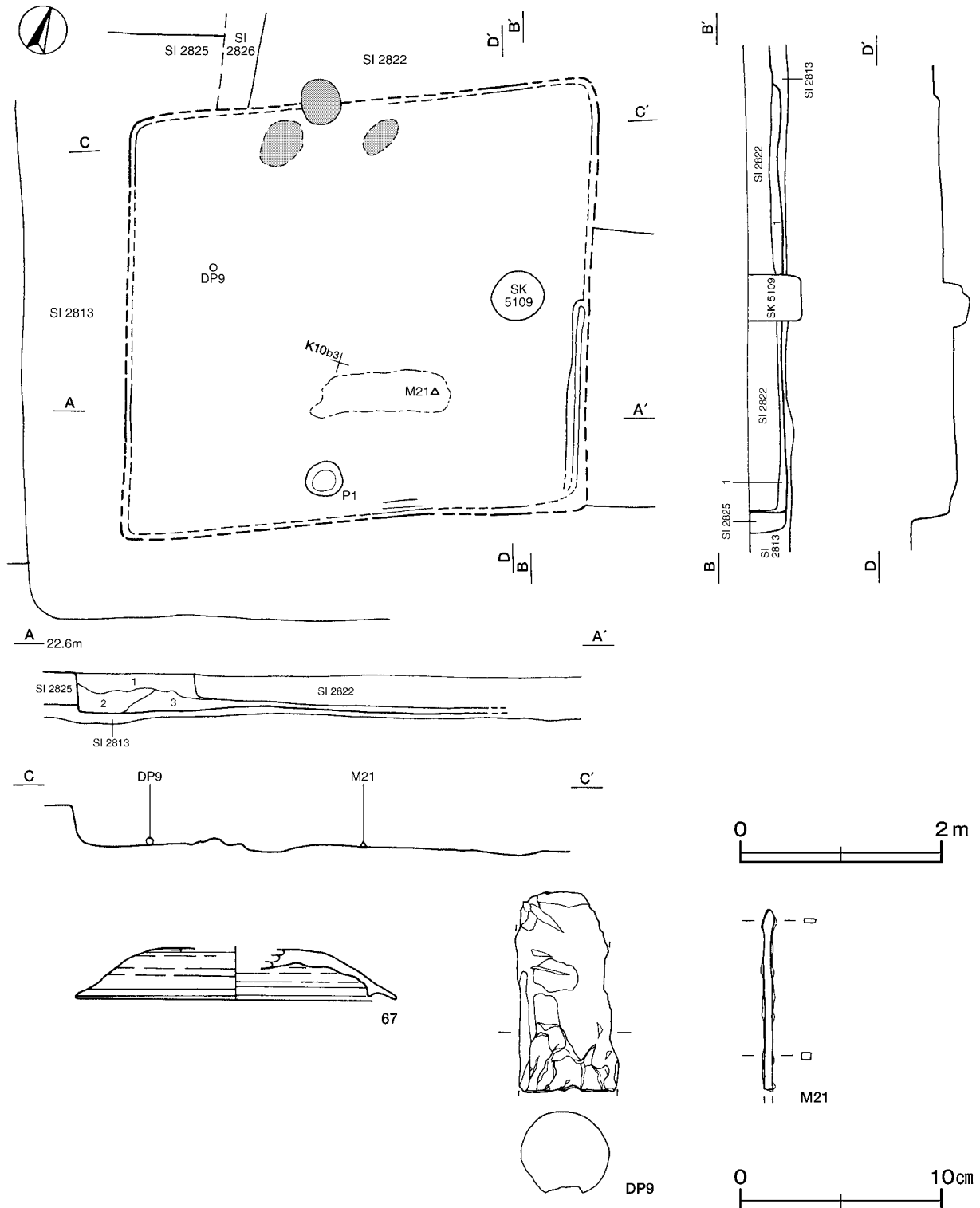
覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片46点（坏6，甕類39，甑1），須恵器片12点（蓋），土製品3点（支脚），鉄製品1点（鏃）が散在した状態で出土しており，いずれの土器も細片である。67は東部の覆土下層から出土している細片が接合したものであり，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。DP9は西部の床面，M21は南東部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。



第44図 第2827号住居跡・出土遺物実測図

第2827号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
67	須恵器	蓋	16.0	(2.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	30%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP9	支脚	(10.0)	(2.7)	(4.8)	(208.4)	土(長石・石英)	上部・下部欠損	ナデ	指頭痕	焼土付着	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M21	鏝	(9.1)	0.7	0.2~0.4	(6.6)	鉄	茎部欠損	断面長方形の棒状		床面	PL17

表3 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
988	K10a2	N - 3 ° - W	方形	4.92×4.52	12~40	平坦	[全周]	3	1	7	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 磁石	8世紀前葉	
1000	K10e1	N - 8 ° - E	長方形	(4.12)×4.04	34~52	平坦	半周	2	-	10	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片	8世紀前葉以前	
1019	K10a7	N - 9 ° - W	長方形	4.58×4.16	30~46	平坦	全周	-	1	-	竈1 炉1	-	自然	土師器片, 須恵器片, 鉄鏝	8世紀後葉以前	
1030	J10j6	N - 25 ° - W	方形	5.38×5.02	24~44	平坦	半周	2	1	7	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製紡錘車, 釘	8世紀後半	
2811	J10j4	N - 11 ° - W	長方形	3.68×3.05	8~25	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	8世紀前葉	
2816	K10c6	N - 16 ° - W	方形	5.10×4.96	28~41	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土製紡錘車, 磁石, 鉄鏝, 刀子	8世紀前葉	
2821	K10e5	N - 5 ° - E	方形	2.92×2.82	22~34	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄鏝	8世紀前葉以前	
2822	K10b4	N - 17 ° - W	長方形	6.33×5.06	27~31	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片, 支脚, 刀子, 鉄鏝	8世紀後葉以前	
2827	K10b4	N - 20 ° - W	方形	[4.20×4.10]	40	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 支脚, 鉄鏝	8世紀前葉以前	

3 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡4軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第999号住居跡（第45図）

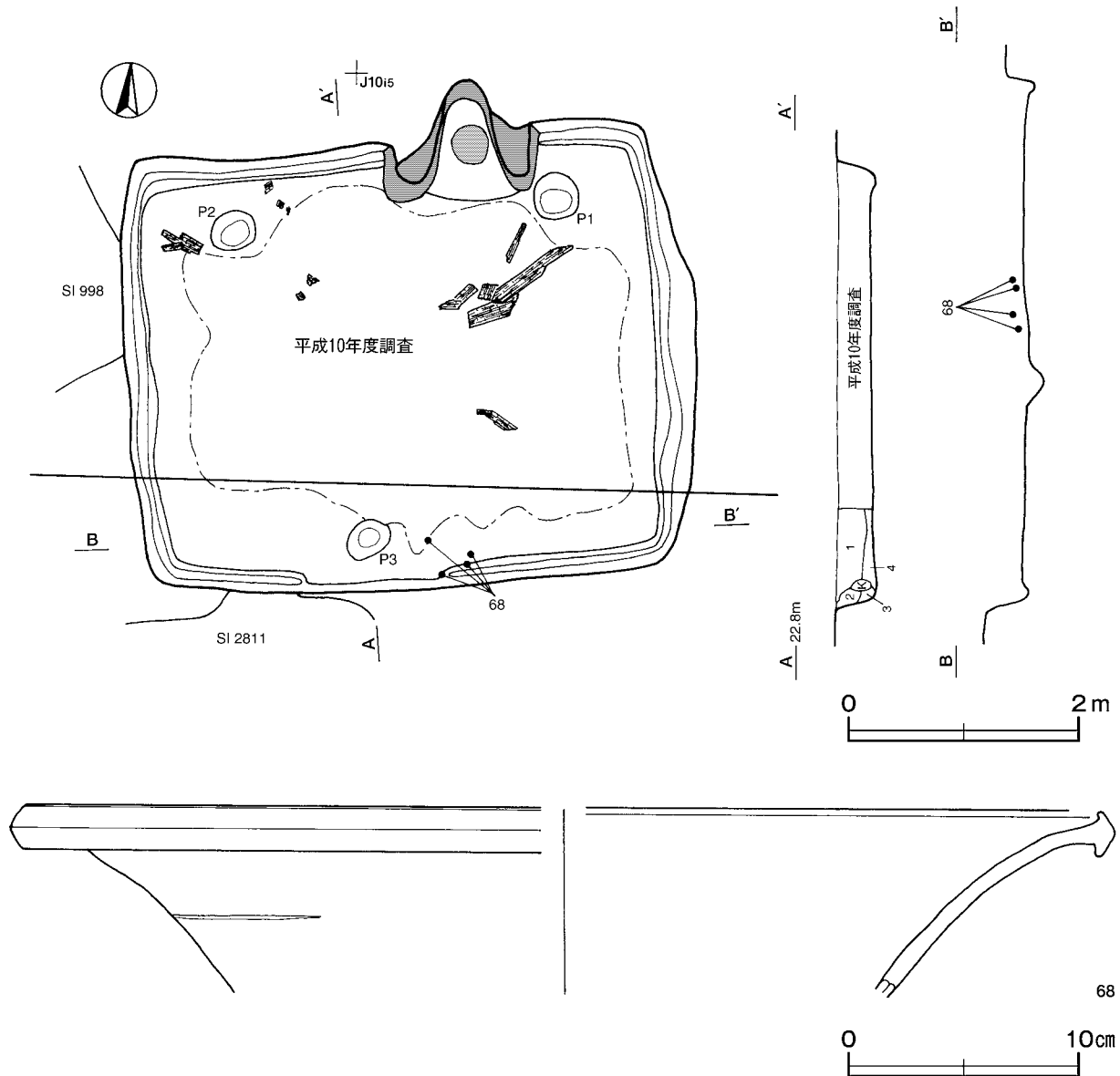
位置 調査区南部のJ10i5区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。北部の大部分は平成10年度に調査が終了しているが，既調査分も再録した。

重複関係 第998・2811号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.96m，短軸3.94mの長方形で，主軸方向はN - 7 ° - Wである。壁高は28~42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，各壁近くまで踏み固められている。南壁の中央部を除く壁下には，幅14~38cm，深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また，中央部から北部の床面からは，棒状の炭化材が検出されている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅121cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に粘土粒子・砂粒・ローム土を混ぜた部材で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ，火床部から急な傾斜で立ち上がっている。



第45図 第999号住居跡・出土遺物実測図

ピット 3か所。P1は深さ24cm，P2は深さ14cmで，ともに支柱穴である。P3は深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。焼土ブロック・炭化物を含み，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 | 3 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック微量 | 4 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 本年度の調査区からは，土師器片89点（坏29，鉢1，甕類59），須恵器片45点（甕類）が散在した状態で出土しており，出土土器はいずれも細片である。68は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものであり，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 南・西コーナー部を除く北部分は平成10年度に調査が終了されており，その部分については『茨城県教育財団文化財報告』第174集を参照されたい。中央部から北部の床面から炭化材が検出され，土層中にも焼土・炭化材を含む焼失住居である。また，本年度，平成10年度の調査分を合わせると147片の須恵器大甕片が出土しており，本跡の8mほど東側に位置する第1065号住居跡から出土した破片と接合している。本跡と第1065号

住居跡はともに焼失住居であることや、周辺に位置する同時期の住居跡は、いずれも覆土中に焼土を含み焼失の可能性が考えられることから、集落の移転にともなって意図的に燃やされ、その後の整地の際に廃棄されたものとも考えられる。時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。

第999号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	須恵器	大甕	[46.6]	(8.2)	-	長石・石英・小礫	灰	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%

第2812号住居跡（第46・47図）

位置 調査区南部のK10a5区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2824号住居跡を掘り込み、第4959号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m、短軸3.52mの長方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は18~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前部から中央部が踏み固められている。壁下には幅12~18cm、深さ9~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅129cmであり、袖部はローム土混じりの砂質粘土で構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。また、火床部には5cmほどの厚みで灰が堆積している。煙道部は壁外に77cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は第1~8層に分けられ、第1・2層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1	褐	色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子微量	5	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
2	褐	色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	6	黒褐	色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐	色	砂質粘土粒子微量	7	暗褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	8	黒	色	灰多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量
				9	赤褐	色	焼土粒子中量

炉 中央部に位置している。長径49cm、短径42cmの楕円形で、床面を皿状に掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

1	明赤褐	色	焼土粒子多量
---	-----	---	--------

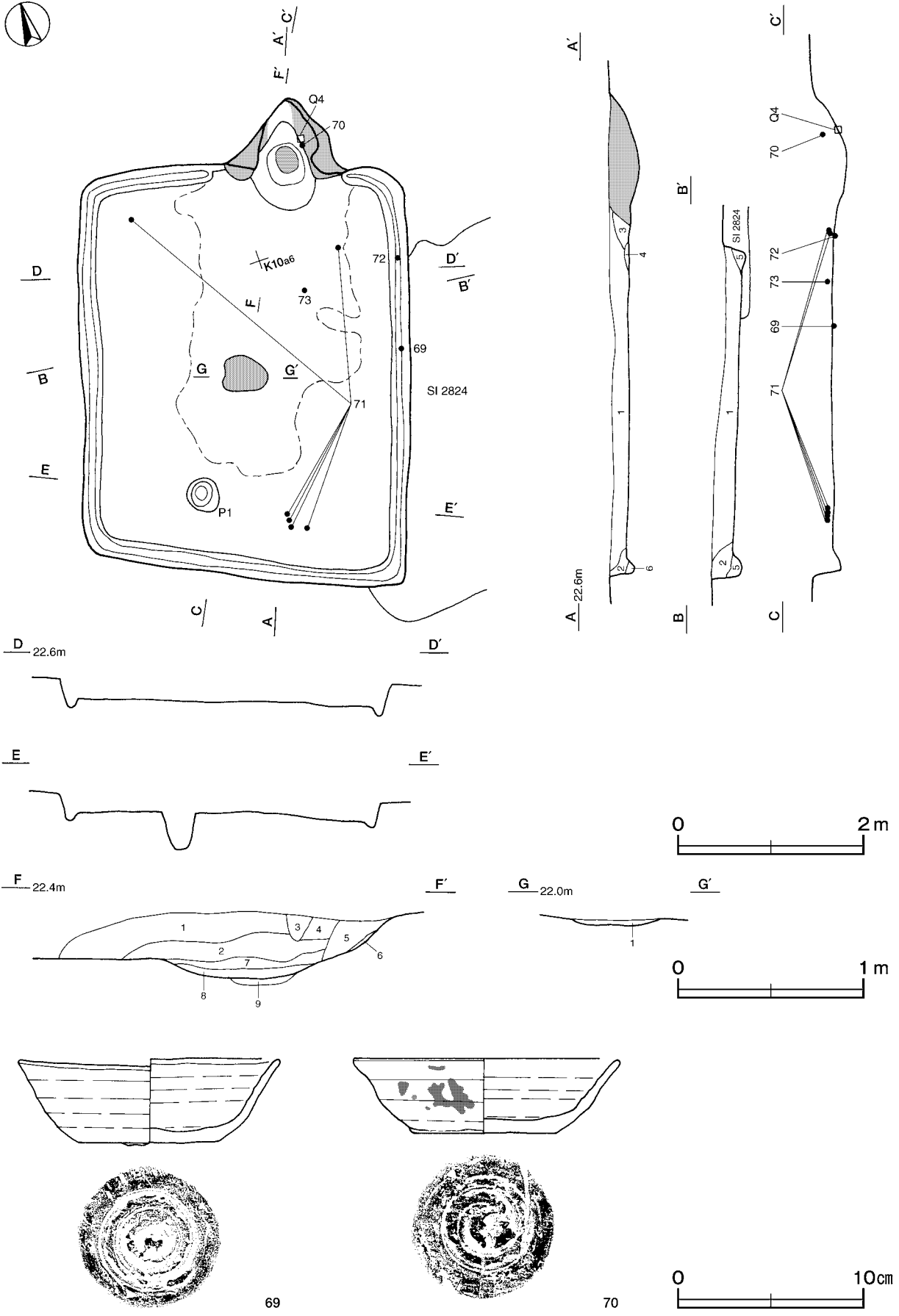
ピット 深さ48cmで、南壁際の西寄りに位置している。性格は不明であるが、出入口施設に伴うピットの可能性が考えられる。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

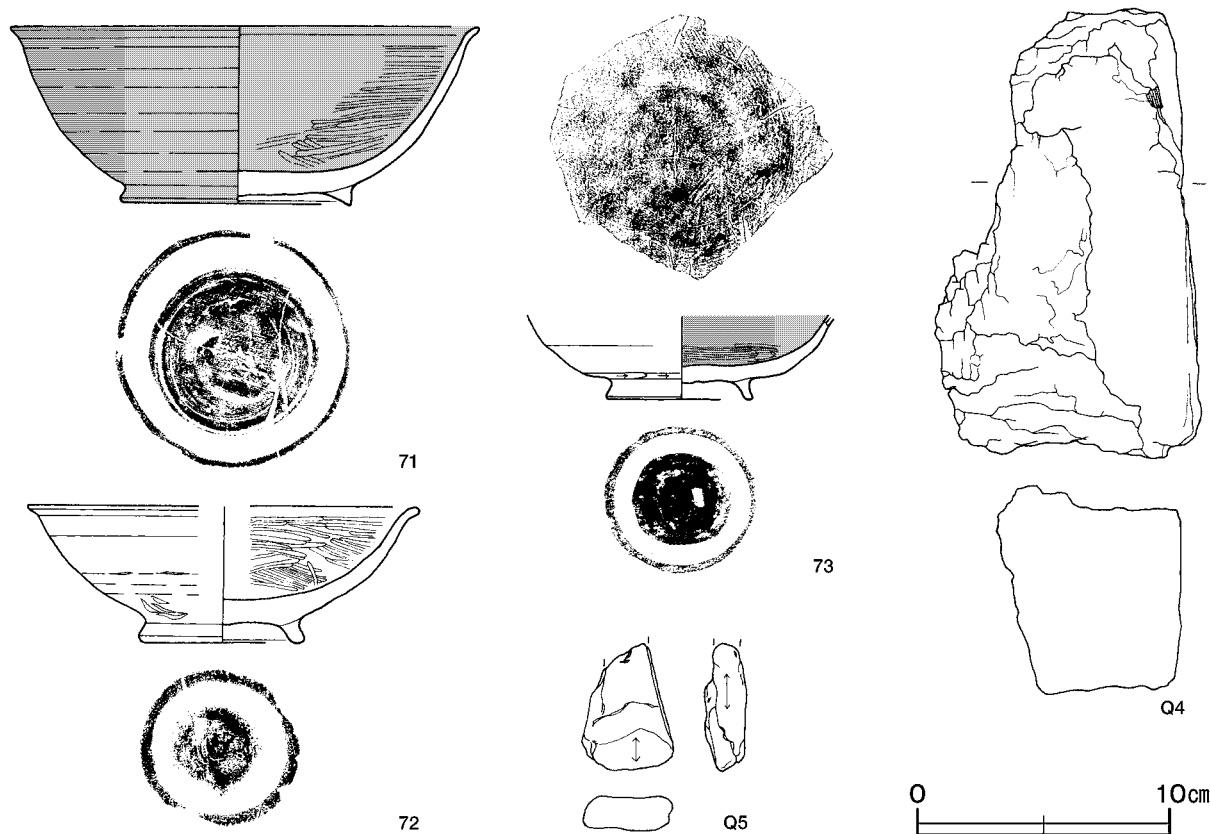
土層解説

1	黒褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	4	にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	
2	黒褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量	5	暗褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐	色	ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	6	褐	色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片228点（坏57、高台付椀5、甕類165、甌1）、石器1点（砥石）、石製品1点（支脚）が散在した状態で出土している。また、混入した須恵器片45点も出土している。69は東壁際、72は北東部壁際の床面からそれぞれ出土しており、ともに住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。Q4は竈火床面の右袖部寄りから出土しており、外面に被熱痕が認められることから、支脚として使用されていたと考えられる。70は竈内からQ4に被せられた状態で逆位で出土している。また、竈前部の覆土中からは、雲母片岩が出土しており、被熱痕が認められることから、竈の内壁として使用されていたと考えられる。



第46图 第2812号住居跡・出土遺物実測図



第47図 第2812号住居跡出土遺物実測図

所見 炉と竈を有していた。同様の形態をもつ住居跡は、当遺跡でこれまでに11軒報告されており、住居廃絶の時期は、11軒中6軒が10世紀後半である。調査第10区の第1345号住居跡からは、銅滓や坩堝、鋳型が出土しており、銅の鋳造に関わる工房跡の可能性が指摘されているが、本跡からは工房跡が想定できるような遺物は何も出土していない。時期は、出土土器や重複関係から10世紀後半と考えられる。

第2812号住居跡出土遺物観察表（第46・47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	坏	14.1	4.7	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	100% PL15
70	土師器	坏	14.1	4.1	7.7	長石・雲母・赤色粒子・小礫	橙	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈覆土中	80% PL15 外面煤付着
71	土師器	高台付碗	18.4	7.2	8.9	長石・石英・雲母	黒	普通	体部内面ヘラ磨き 底部高台貼り付け後ナデ	下層	60% PL16
72	土師器	高台付碗 [15.4]	15.4	5.4	6.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下端工具痕有り 内面ヘラ磨き 底部高台貼り付け後ナデ	床面	50%
73	土師器	高台付碗	-	(3.4)	5.8	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	10% PL16 内面「x」のヘラ磨き

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	支脚	18.0	10.8	8.3	2047.9	花崗岩	外面被熱痕 側面の1面は平坦面 他は未調整	竈火床面	
Q 5	砥石	(5.0)	3.7	1.7	(30.0)	凝灰岩	砥面2面 他は破断面	覆土中	

第2823号住居跡（第48図）

位置 調査区南部のK10b4区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2813・2822・2825～2827号住居跡，第4969号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 削平により、竈の火床部だけが確認された。住居の規模および主軸方向は不明である。

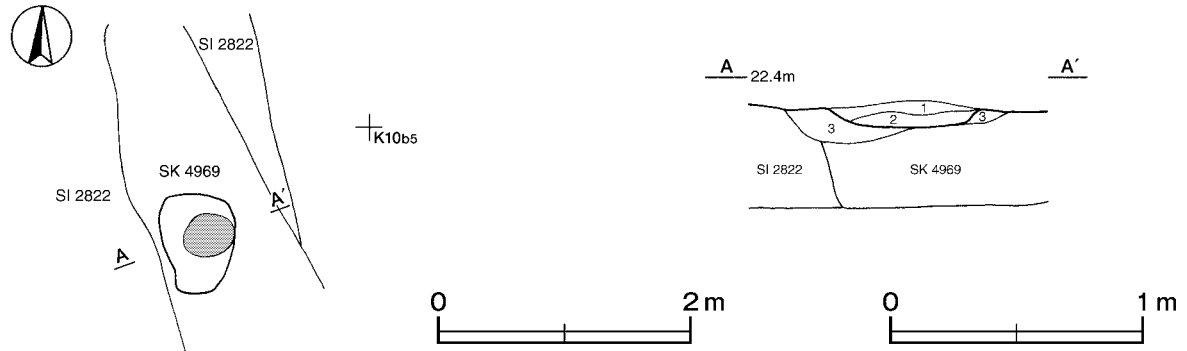
床 明確な床面は検出されていない。

竈 火床部だけが検出されており、規模は不明である。火床面は火を受けて赤変している。

竈土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量 | 3 灰褐色 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂粒中量 | |

所見 土器が出土していないため時期判断はできないが、重複関係から8世紀後葉以降と考えられる。



第48図 第2823号住居跡実測図

第2824号住居跡 (第49・50図)

位置 調査区南部のK10a6区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2812号住居, 第4959号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.73m, 短軸3.53mの方形で, 主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は15~23cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 竈前部から南壁際まで踏み固められている。壁下には, 幅8~24cm, 深さ3~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部および煙道部を第2812号住居に掘り込まれており, 左袖部は基部だけが遺存している。規模は, 焚口部から煙道部まで81cm, 袖部幅121cmである。袖部はローム土主体の第10層を基部として砂質粘土主体の第8・9層を積み上げて構築している。火床部は床面を10~15cm掘りくぼめて第11・13層を充填して使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~7層に分けられ, 第1~3層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

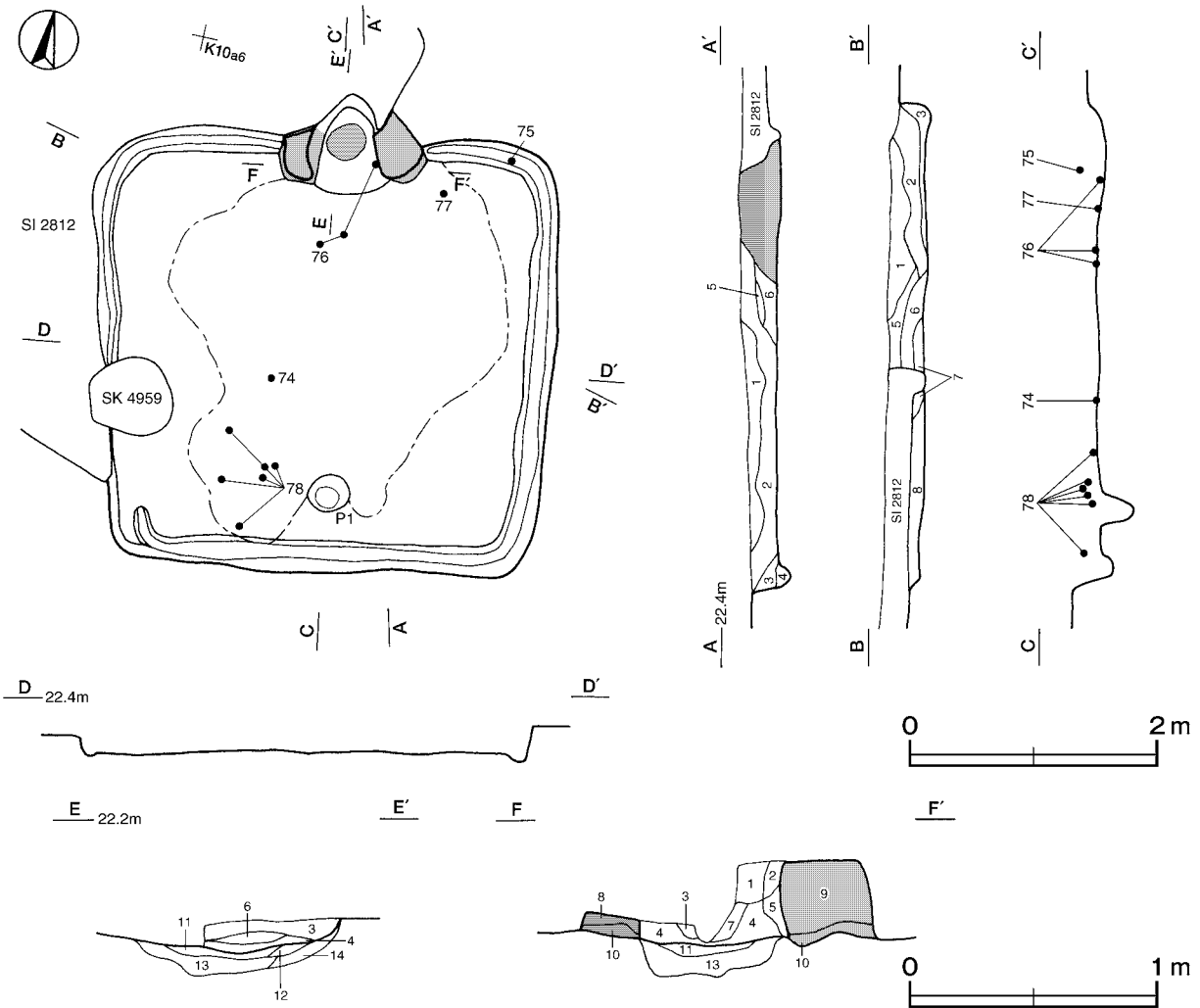
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 | 8 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量 | 9 灰黄褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 焼土ブロック少量 | 10 褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 5 暗褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 6 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量 | 13 黒褐色 焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 14 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 深さ27cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 6 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 7 灰褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量 | |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | |



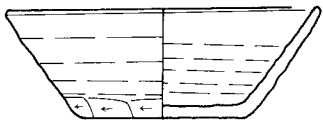
第49図 第2824号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片268点（甕類263，鉢5），須恵器片37点（坏19，蓋4，甕類13，甌1）が散在した状態で出土している。74は中央部の床面，77は右袖部右側の床面からそれぞれ出土しており，ともに住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。78は中央部から南部の覆土中・下層から出土した破片が接合したものであり，壁際の破片ほど出土層位が上層であることから，住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

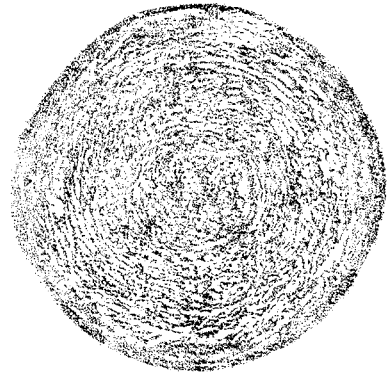
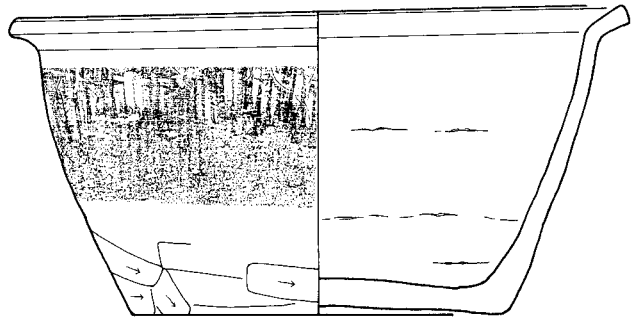
所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2824号住居跡出土遺物観察表（第50図）

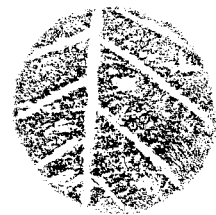
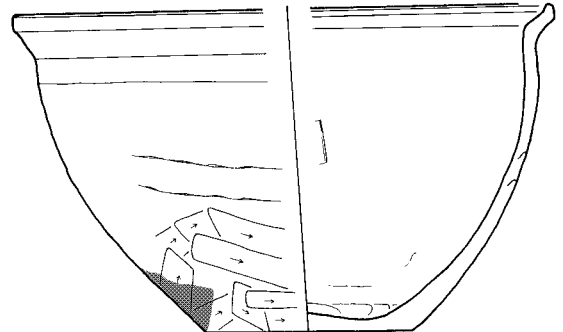
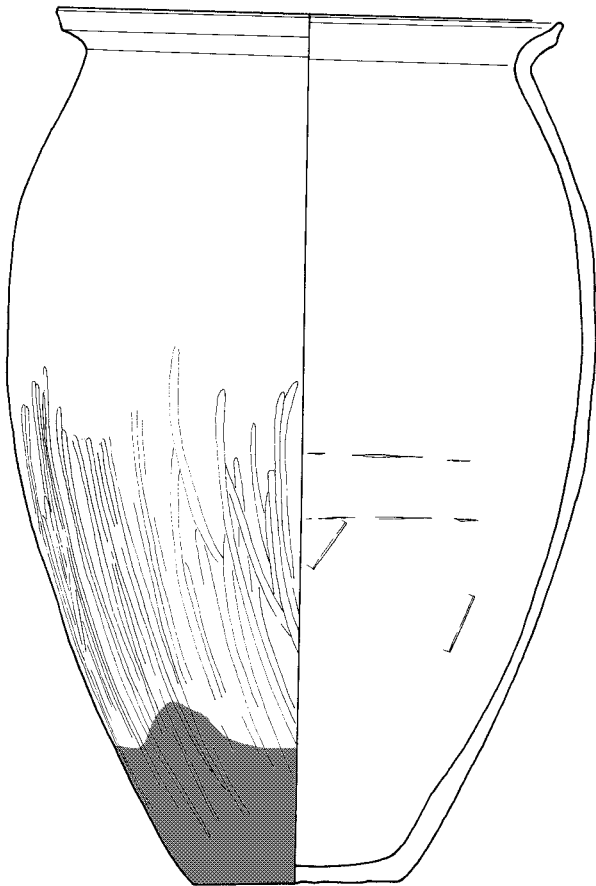
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
74	須恵器	坏	12.3	4.5	6.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	床面	90% PL15
75	須恵器	蓋	[16.4]	(2.3)	-	長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中層	25%
76	土師器	鉢	21.3	12.9	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積痕 内面ナデ 輪積痕 底部木葉痕	床面	50% 外面煤付着
77	須恵器	鉢	24.2	12.2	14.7	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面縦位の平行叩き 外面下端ヘラ削り 内面輪積痕を残すナデ	床面	80% PL15
78	土師器	甕	19.9	35.0	8.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕 底部木葉痕	中・下層	70% PL15 外面煤付着



74



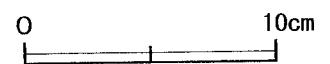
77



76



78



第50图 第2824号住居跡出土遺物実測図

表4 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
999	J 10i5	N - 7 ° - W	長方形	4.96×3.94	28~42	平坦	ほぼ 全周	2	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵 器片	9世紀後半
2812	K 10a5	N - 21 ° - E	長方形	4.54×3.52	18~23	平坦	全周	-	-	1	竈1 炉1	-	自然	土師器片 砥石, 石製支脚	10世紀後半
2823	K 10b4	不明	不明	不明	-	-	-	-	-	-	竈1	-	不明	-	8世紀後葉以降
2824	K 10a6	N - 9 ° - W	方形	3.73×3.53	15~23	平坦	ほぼ 全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵 器片	9世紀前葉

4 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡1条、井戸跡1基、土坑18基、柵跡1列を確認した。以下、遺構および遺物について記述する。

(1) 溝跡

第130号溝跡(第51図)

位置 調査区南部のJ 10j2 ~ K 10g2 区、標高22.0~23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第988・1000・1002・1006・2814号住居跡を掘り込み、第59号溝に掘り込まれている。

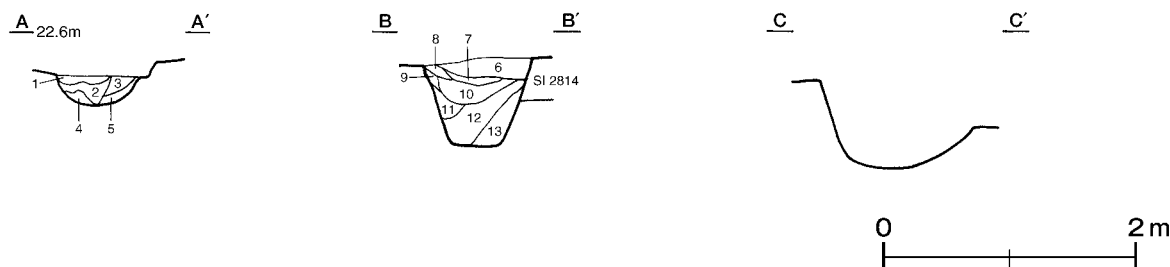
規模と形状 N - 6 ° - E の方向に直線的に伸び、調査された長さは26.6mで、上幅50~89cm、下幅20~40cm、深さ22~70cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 13層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

所見 南部は調査区域外であるため明確ではないが、平成10年度に調査が終了している第57号溝と方向や規模が類似していることから、同一の溝と考えられる。8世紀前葉に比定される第998・1000号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降に機能していたと考えられるが、土器が出土していないため時期は不明である。



第51図 第130号溝跡実測図

(2) 井戸跡

第58号井戸跡(第52図)

位置 調査区南部のK 10e7 区、標高21.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.91m，短径0.69mの楕円形で，確認面から円筒状に掘り込まれている。1.25mほど掘り下げた時点で，崩落のおそれがあることから下部の調査を断念した。

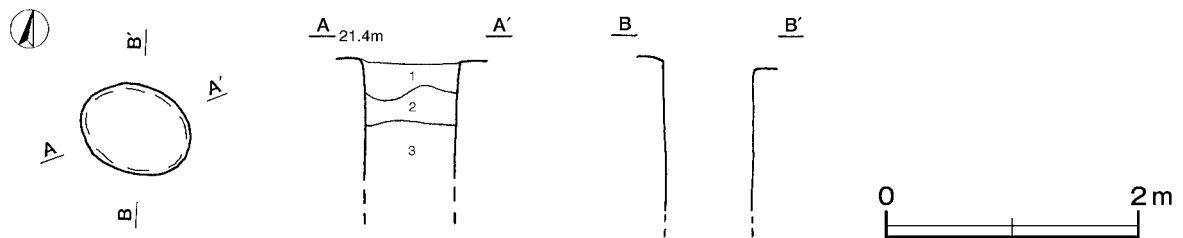
覆土 3層に分けられる。ローム土を含む暗褐色土と粘土を含む暗褐色土が互層をなした人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）が出土しているが，いずれも細片である。

所見 素掘りの構造である。6世紀後半に比定される第16号住居跡を掘り込んでいることから，7世紀以降に機能していたと考えられるが，出土土器がいずれも細片であるため時期は不明である。

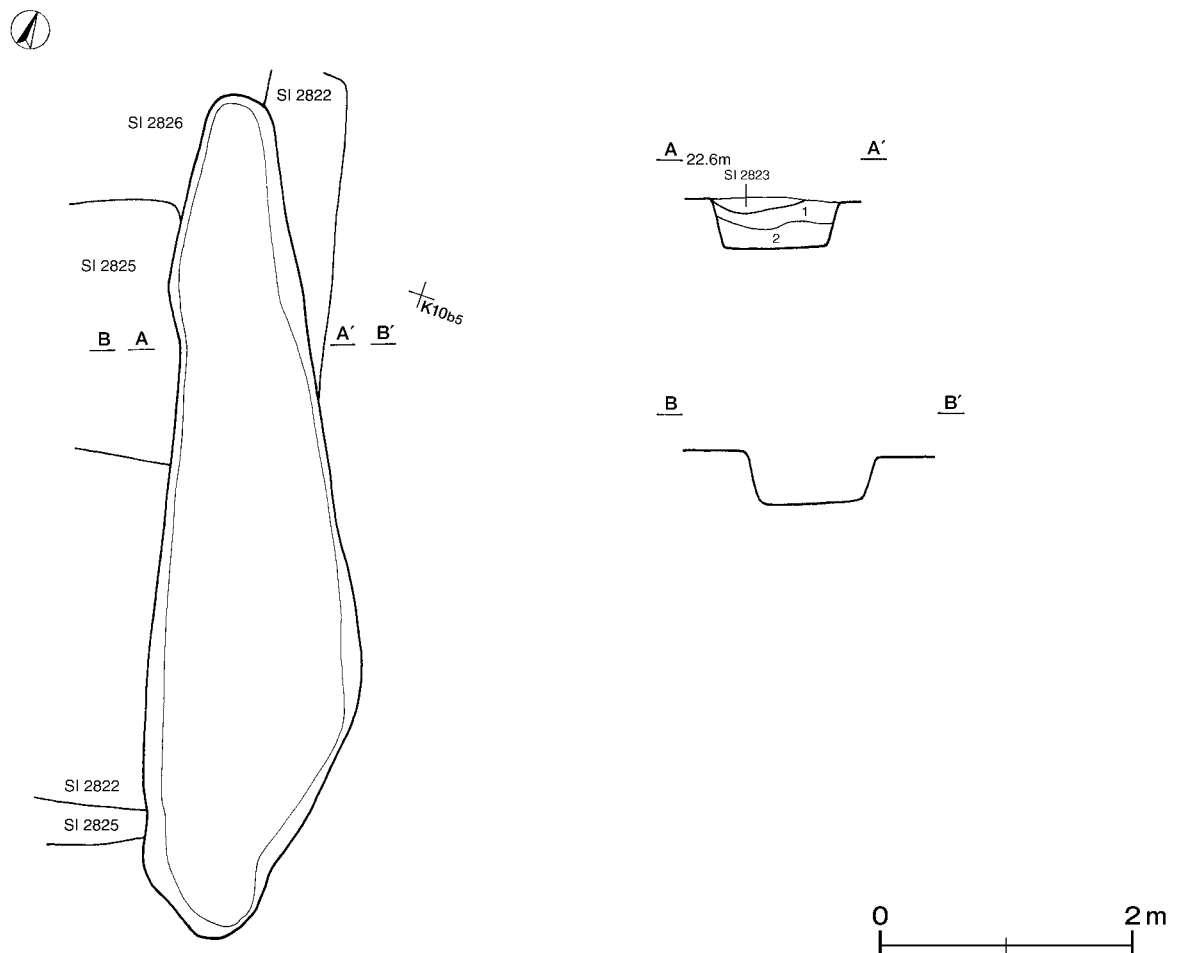


第52図 第58号井戸跡実測図

(3) 土坑

第4969号土坑（第53図）

位置 調査区南部のK10b4区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。



第53図 第4969号土坑実測図

重複関係 第2813・2822・2825・2826号住居跡を掘り込み、第2823号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.58m、短軸1.67mの方形で、長軸方向はN - 21° - Wである。深さは36cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。砂粒を多量に含む人為堆積である。

土層解説

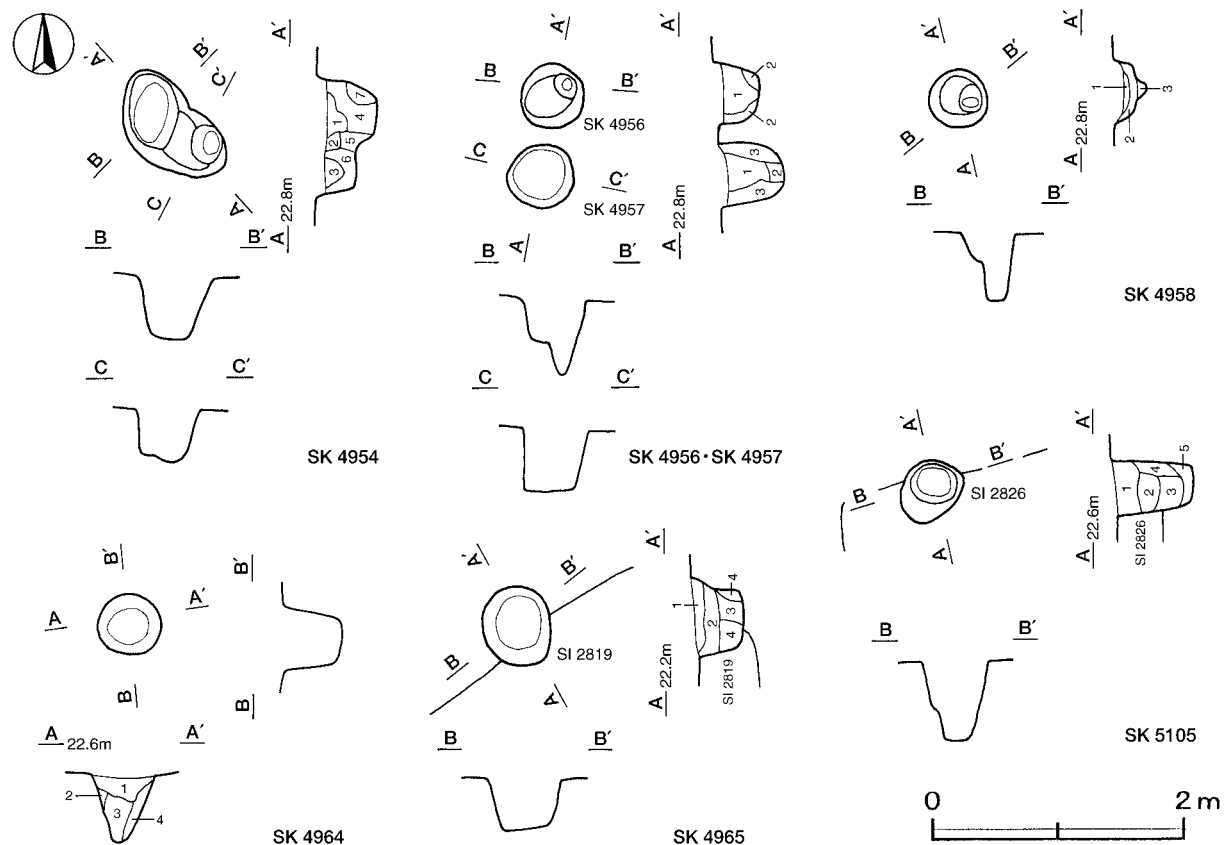
- 1 灰褐色 砂粒多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片23点，須恵器片1点が出土しているが，いずれも古墳時代後期の土器であることから，重複する住居からの混入と考えられる。

所見 時期は，8世紀後葉に比定される第2822号住居跡を掘り込んでいることから，8世紀後葉以降と考えられる。遺構の性格は不明である。

(4) 柱穴の可能性のある土坑（第54図）

当調査区から検出された土坑は，遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが，形状や土層の堆積状況から柱穴の可能性のあるものについて，以下，実測図と土層解説で紹介する。



第54図 柱穴の可能性のある土坑実測図

第4954号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量

第4956号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第4957号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第4958号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第4964号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第4965号土坑土層解説

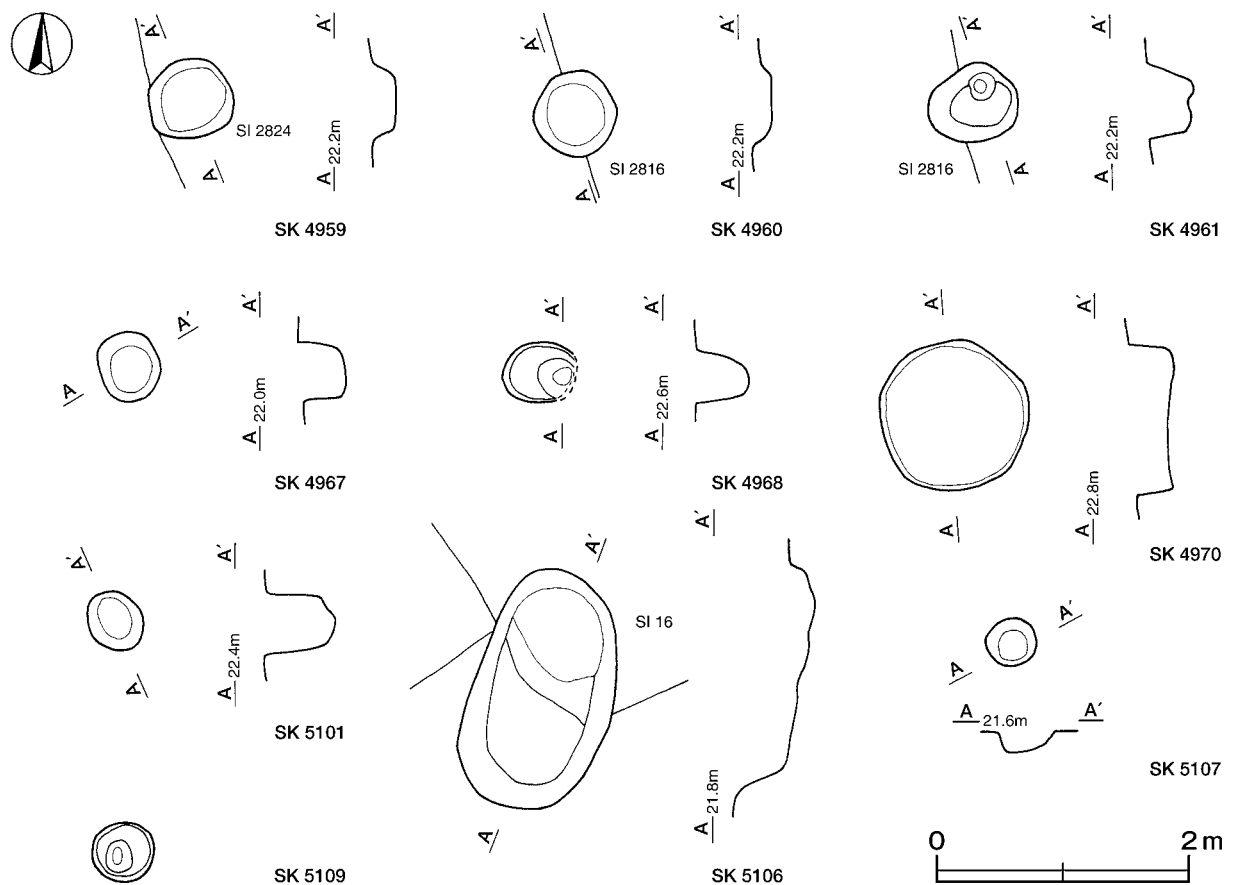
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第5105号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

(5) その他の土坑 (第55図)

性格や時期が不明な土坑について、以下、実測図にて紹介する。



第55図 その他の土坑実測図

(6) 柵跡

第18号柵跡 (第56図)

位置 調査区南部のK 10b7区, 標高22.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北方向に柱穴5か所が並び, 主軸方向はN - 12° - Wである。柱間寸法は1.8m (6尺)を基調として, 均等に配されている。各柱穴は垂直に掘り込まれ, 深さは21~51cmである。

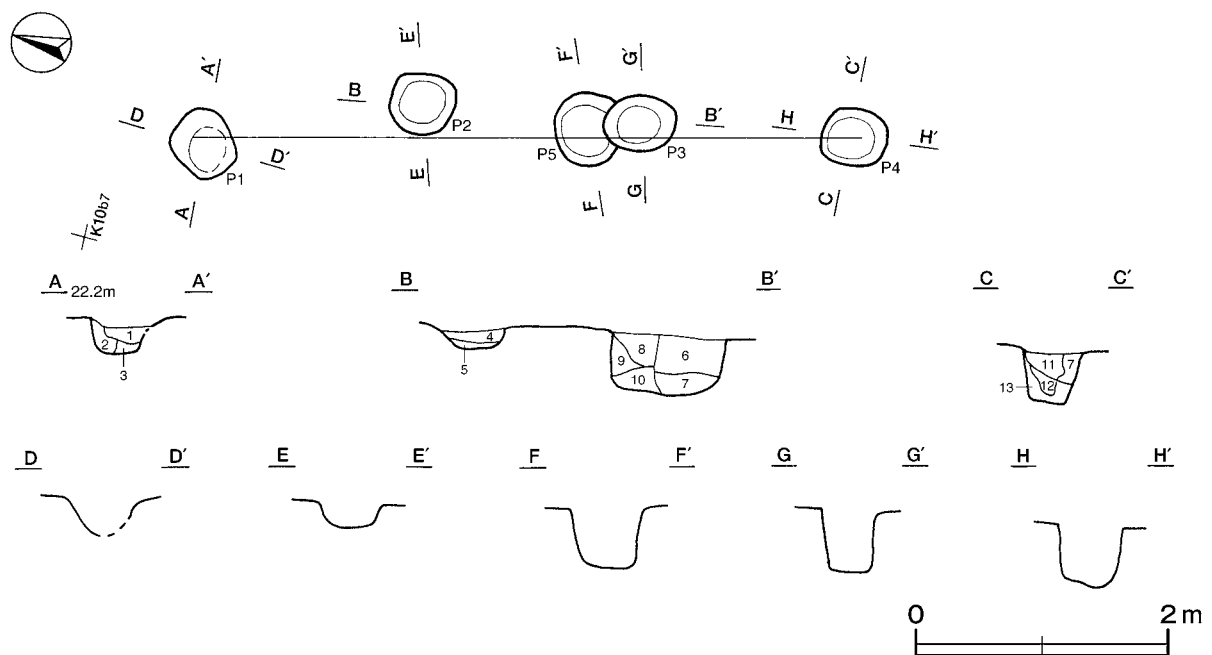
土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 13 褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）がP2とP4の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 P3はP5を掘り込んでおり、規模や形状、深さが類似していることから、柱の立て替えと考えられる。

時期は、遺物が細片であるため不明である。



第56図 第18号柵跡実測図

表5 柱穴の可能性のある土坑一覧表

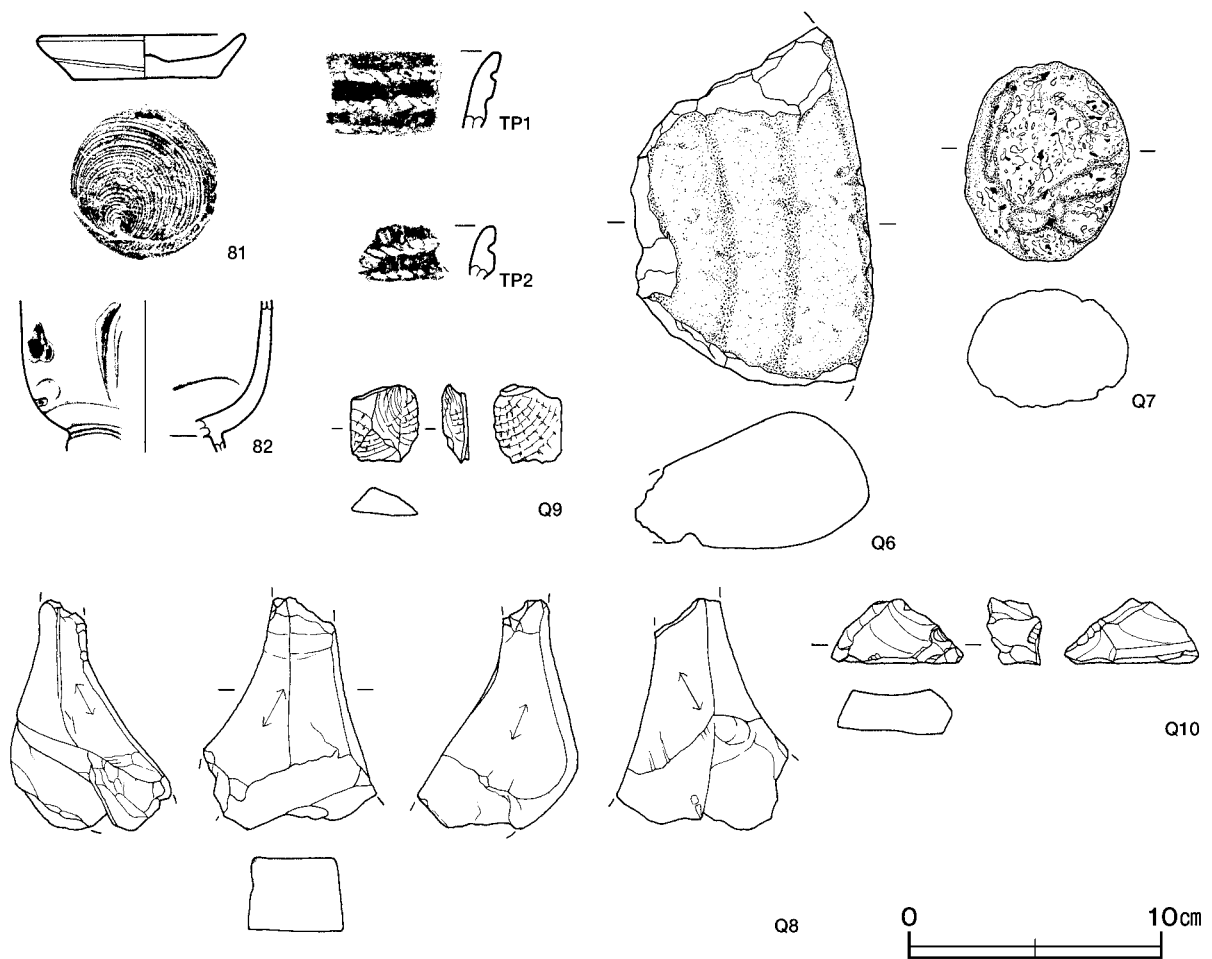
番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ (cm)						
4954	J 10j3	N - 45° - W	不整楕円形	1.00 × 0.68	48	外傾	平坦	人為	土師器片		
4956	K 10a4	N - 22° - E	円形	0.52 × 0.50	62	外傾	U字状	人為			
4957	K 10a4	N - 24° - E	円形	0.52 × 0.50	50	垂直	平坦	人為	土師器片		
4958	J 10j4	N - 12° - W	円形	0.48 × 0.46	52	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片		
4964	J 10j5	N - 33° - E	円形	0.50 × 0.48	46	外傾	平坦	人為	土師器片		
4965	K 10d6	N - 30° - W	円形	0.68 × 0.56	44	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2819→本跡	
5105	K 10a3	N - 52° - E	楕円形	0.56 × 0.45	64	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI2826→本跡	

表6 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ(cm)						
4959	K10a6	N - 65° - E	円形	0.66 × 0.61	20		外傾	平坦	自然	土師器片	SI2824→本跡
4960	K10c5	N - 29° - W	円形	0.66 × 0.63	15		外傾	平坦	自然	土師器片	SI2816→本跡
4961	K10c6	N - 69° - E	楕円形	0.74 × 0.58	34		外傾	凸凹	人為	土師器片	SI2816→本跡
4967	J10j4	N - 18° - E	円形	0.54 × 0.48	32		垂直	平坦	人為		SI2811→本跡
4968	J10j5	N - 80° - W	楕円形	0.60 × 0.48	42		外傾	U字状	人為		
4970	J10j3	N - 45° - W	円形	1.21 × 1.18	28		垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
5101	K10c5	N - 32° - W	楕円形	0.50 × 0.43	54		垂直	U字状	人為	土師器片	
5106	K10e6	N - 18° - E	楕円形	1.90 × 1.10	59		外傾	平坦	人為	土師器片	SI16→本跡
5107	K10d6	N - 64° - W	円形	0.40 × 0.38	14		外傾	平坦	人為		SI16→本跡→SI2819
5109	K10b4	N - 59° - E	円形	0.51 × 0.48	54		-	-	人為		SI2822→本跡

5 遺構外出土遺物 (第57図)

第4区の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。

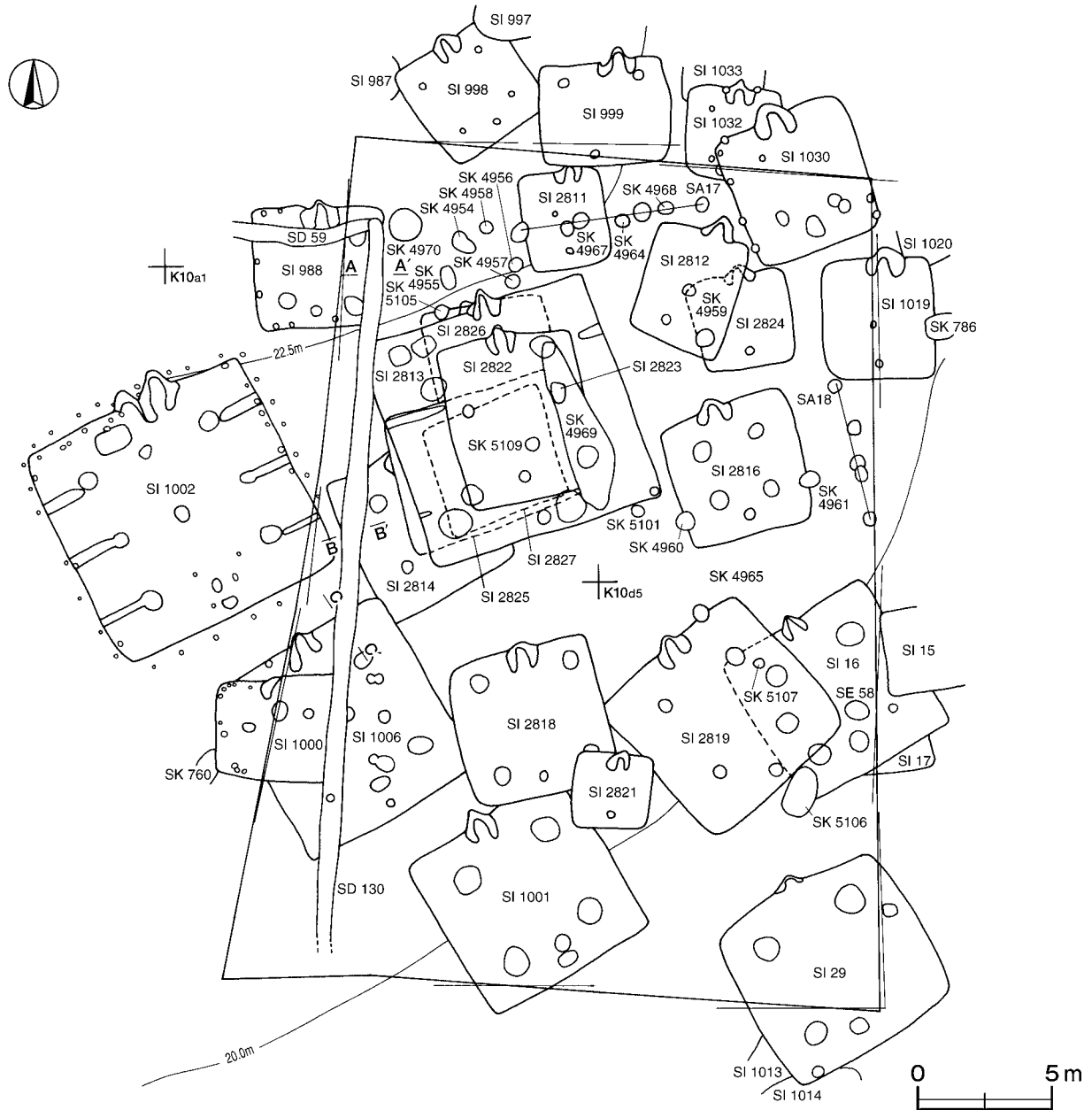


第57図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
81	土師質土器	小皿	8.0	1.7	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	K 10c7	100%
82	磁器	碗	-	(6.1)	-	緻密	灰白	良好	茶碗 口クロ整形 内・外面施釉	SD130覆土中	肥前系
TP 1	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部縄文原体圧痕文	K 10b5	前期前半
TP 2	縄文土器	深鉢	-	(2.1)	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部に横位の押圧縄文	J 10j7	前期前半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	石皿	(14.2)	(9.7)	5.4	(837.0)	安山岩	周囲に縁を有し中央部が皿状に窪む	SI1006 覆土中	PL16
Q 7	磨石	7.8	6.5	4.6	109.1	軽石	側面に楕状の窪み	SI2816 覆土中	PL16
Q 8	砥石	(9.1)	(5.8)	3.0	(268.7)	凝灰岩	砥面 4 面 両端部欠損	表採	PL16
Q 9	剥片	2.9	2.7	1.2	8.1	瑪瑙	片面調整 背面に前段階の剥離痕を残す 上面は自然面	SI2813 覆土中	
Q 10	石核	2.6	5.3	2.0	26.4	瑪瑙	打面を転移して不定形の小形剥片を剥離	SI1000 覆土中	



第58図 島名熊の山遺跡 4 区遺構全体図

第4節 7区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

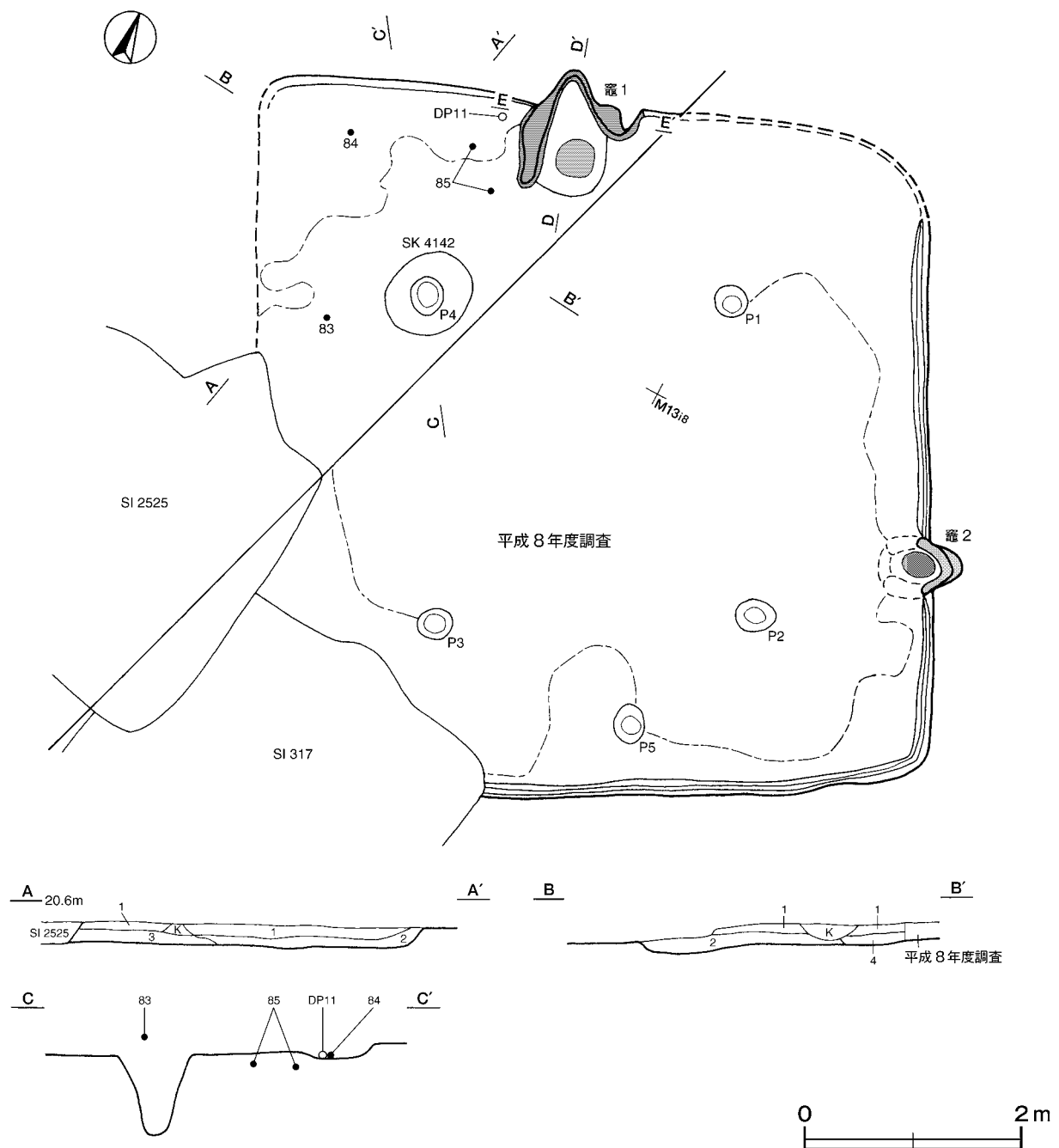
古墳時代の竪穴住居跡2軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

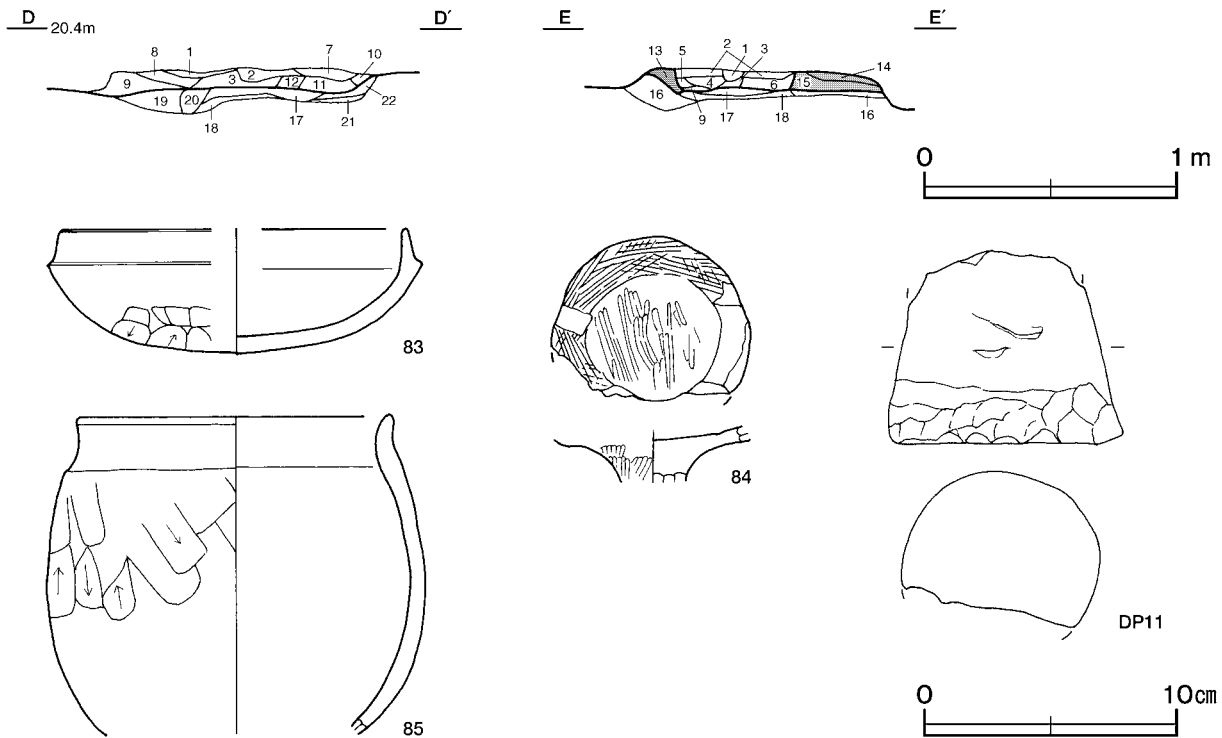
第318号住居跡（第59・60図）

位置 調査区東部のM13h7区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。南東部は、平成8年度に調査が終了しており、柱穴の番号については今年度調査分と合わせて新しい番号に既調査分も再録した。

重複関係 第4142号土坑を掘り込み、第317・2525号住居に掘り込まれている。また、西部は攪乱を受けている。



第59図 第318号住居跡実測図



第60図 第318号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸6.40m，短軸6.15mの方形で，主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，袖部幅105cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込んでローム土主体の第16層を基部として，砂質粘土を主体とした第13～15層を積み上げて構築している。火床部は床面を6cm掘りくぼめて第17～22層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈1土層解説

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量 | 13 灰褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 灰白色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 灰白色 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 16 明褐色 ロームブロック中量 |
| 6 赤褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 17 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量 |
| 7 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 18 褐色 焼土ブロック中量 |
| 8 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 19 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 9 褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 20 明褐灰色 焼土ブロック・灰多量 |
| 10 明褐色 ローム粒子多量 | 21 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量 | 22 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ48～75cmで，主柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 3 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 本年度調査区からは，土師器片31点（坏5，甕類26），須恵器片4点（坏1，甕類3）が出土しており，いずれも細片である。84は北西コーナ部，85，DP11は竈西側のそれぞれ床面から出土しており，

いずれも住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。83は西壁中央部の覆土上層から出土し、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 南東部は平成8年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財報告』第133集を参照されたい。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第318号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
83	土師器	坏	[13.6]	5.0	-	長石	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	上層	45%
84	土師器	高坏	-	(2.2)	-	長石	明褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き	床面	10%
85	土師器	小形甕	12.2	(12.6)	-	長石・石英	明褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	30% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	支脚	(7.7)	9.3	(6.2)	(432.2)	土(長石・礫)	ナデ	床面	

第2523号住居跡（第61・62図）

位置 調査区東部のN13a5区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2522・2529号住居に北部を掘り込まれ、南西部は耕作による攪乱を受けている。

規模と形状 長軸5.64m、短軸5.61mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、竈前部及び出入り口ピット付近が踏み固められている。壁下には幅10~22cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。上部は第2529号住居に掘り込まれているが、規模は焚口部から煙道部まで128cm、袖部幅98cmである。袖部は地山を基部として構築されている。火床部は床面と同じ高さであり、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは44~80cmである。P5は28cmで、南壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸100cm、短軸65cmの隅丸長方形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、各層にロームブロックを含む人為堆積である。

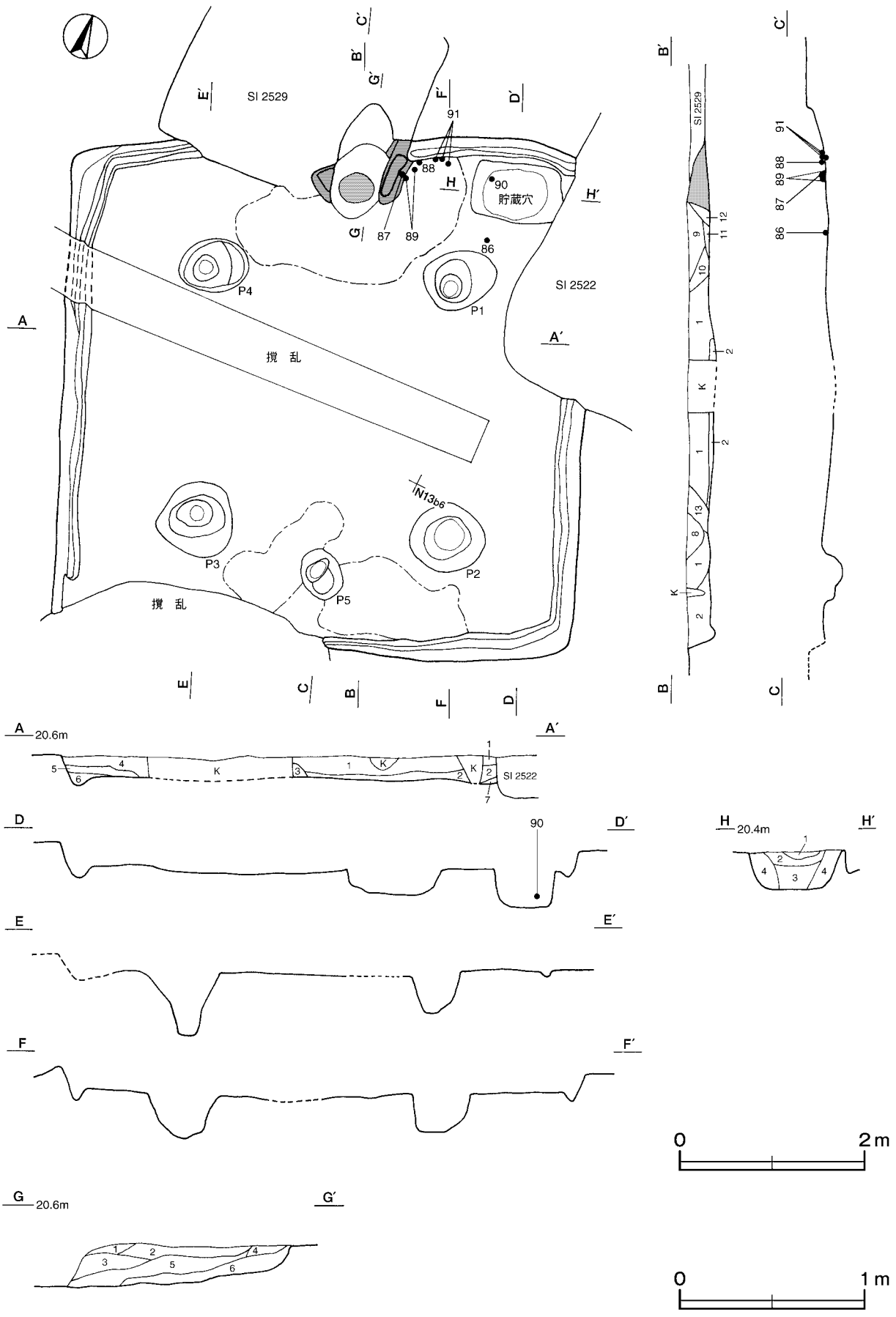
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |

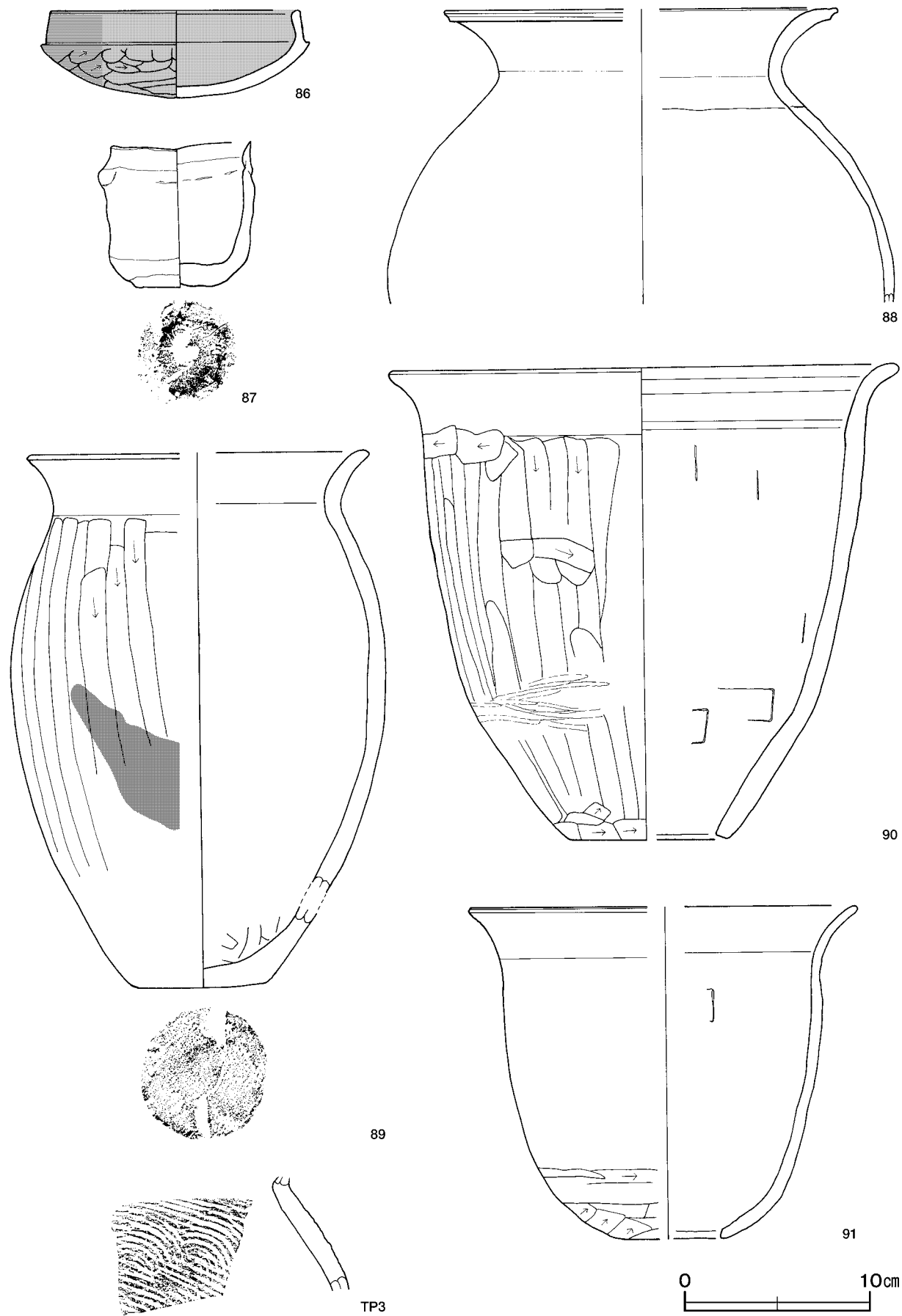
覆土 13層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 13 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 明褐色 | ロームブロック多量 | | |



第61图 第2523号住居跡実測图



第62图 第2523号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片190点（坏19，甕類171），須恵器片25点（坏17，蓋2，甕類6），鉄製品1点（釘），鉄滓1点のほか，流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。86・87・89は竈東側の床面から出土し，住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また，88・91は覆土下層，90は貯蔵穴の覆土下層から横位でそれぞれ出土している。TP3は南東部の覆土中から出土している。これらはいずれも，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第2523号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
86	土師器	坏	13.3	4.7	-	長石	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	85% PL30
87	土師器	鉢	7.4	7.9	5.0	長石	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面輪積痕	床面	100% PL30
88	土師器	甕	[21.2]	[15.9]	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面輪積痕	下層	15%
89	土師器	甕	[17.8]	[29.0]	7.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 底部内面ヘラナデ	床面	50% 煤付着
90	土師器	甕	27.2	25.6	8.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴下層	95% PL31
91	土師器	甕	[20.8]	18.0	[5.5]	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	75% PL30

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP3	須恵器	甕	雲母	灰黄	普通	体部外面斜位平行叩き及び同心円状の叩き 内面ヘラナデ	覆土中	

表7 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
318	M13h7	N - 25° - W	方形	6.40 x [6.15]	10 - 20	平坦	一部	4	1	-	竈2	-	人為	土師器片，須恵器片	6世紀後葉
2523	N13a5	N - 24° - W	方形	5.64 x 5.61	18 - 22	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片，須恵器片，鉄製品	6世紀後葉

2 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の竪穴住居跡4軒を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第2522号住居跡（第63・64図）

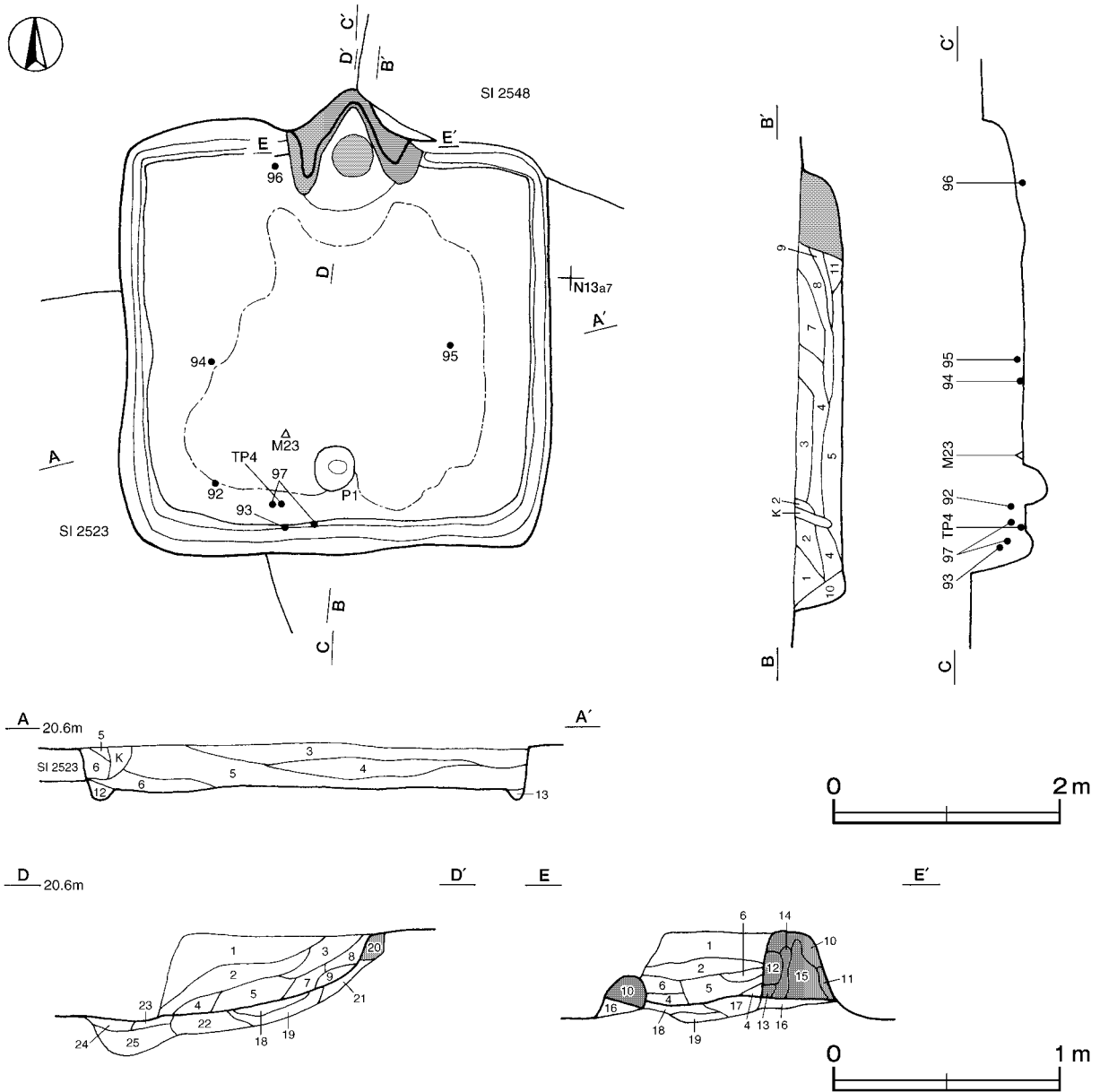
位置 調査区南東部のN13a6区，標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2523号住居跡を掘り込み，第2548号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.75mの方形で，主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は40～50cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。各壁下には幅6～20cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで97cm，袖部幅99cmである。袖部は焼土ブロックとローム土混じりの第16層を基部として，砂質粘土を主体とした第10～15層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第63図 第2522号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 19 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子・灰少量 |
| 8 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 21 褐色 | ローム粒子多量 |
| 10 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 22 赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 11 褐灰色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量 | 23 にぶい赤褐色 | 灰中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 24 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・灰微量 |
| | | 25 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さ23cmで南壁際の中央部に位置し、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

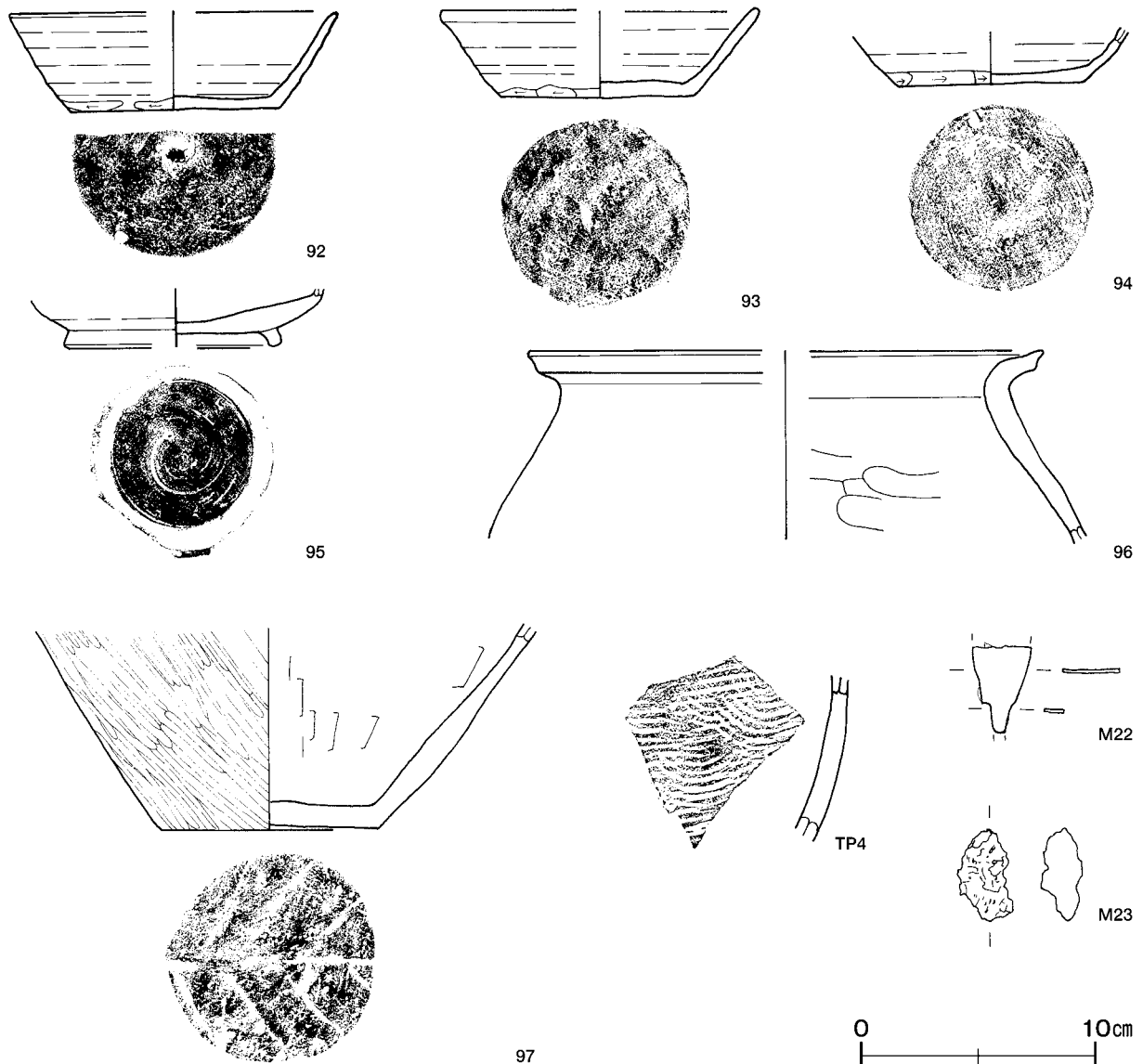
覆土 13層に分けられる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量
3 明褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
4 明褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
6 褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	12 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
		13 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片238点(坏3, 甕類235), 須恵器片92点(坏76, 高台付坏10, 蓋3, 甕類3), 灰釉陶器片3点(瓶), 鉄製品1点(鏃), 鉄滓1点が出土している。94は中央部の西側, 95は中央部の東側, M23は中央部の南側, 96は竈の西側, TP4は南壁際のそれぞれ床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, 92・93・97はいずれも南壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 床面から鉄滓が出土しているが, 鍛冶炉等は確認されず, 流入したものと考えられる。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第64図 第2522号住居跡出土遺物実測図

第2522号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
92	須恵器	坏	[13.8]	4.2	8.7	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	中層	45%
93	須恵器	坏	[13.3]	3.8	8.1	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方からのヘラ削り	中層	60% PL30
94	須恵器	坏	-	(2.2)	8.0	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	30%
95	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	[8.8]	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	30%
96	土師器	甕	[21.8]	(8.4)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	5%
97	土師器	甕	-	(8.8)	9.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 木葉痕	中層	25%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP4	須恵器	甕	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位平行叩き及び同心円状の叩き 内面ヘラナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	鏝	(3.6)	2.6	0.2	(4.4)	鉄	断面長方形	覆土中	PL38
M23	鉄滓	3.9	2.4	1.9	22.6	鉄	表面錆付着	床面	

第2528号住居跡（第65・66図）

位置 調査区東部のM13h4区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2527号住居、第4140号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.34m、短軸2.95mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は16～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅111cmである。袖部は地山を16cmほど掘り込んでローム土を主体とした第17～28層を床面の高さまで充填し、砂質粘土主体の第15・16層で構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第3・4・8層は天井部の崩落層と考える。

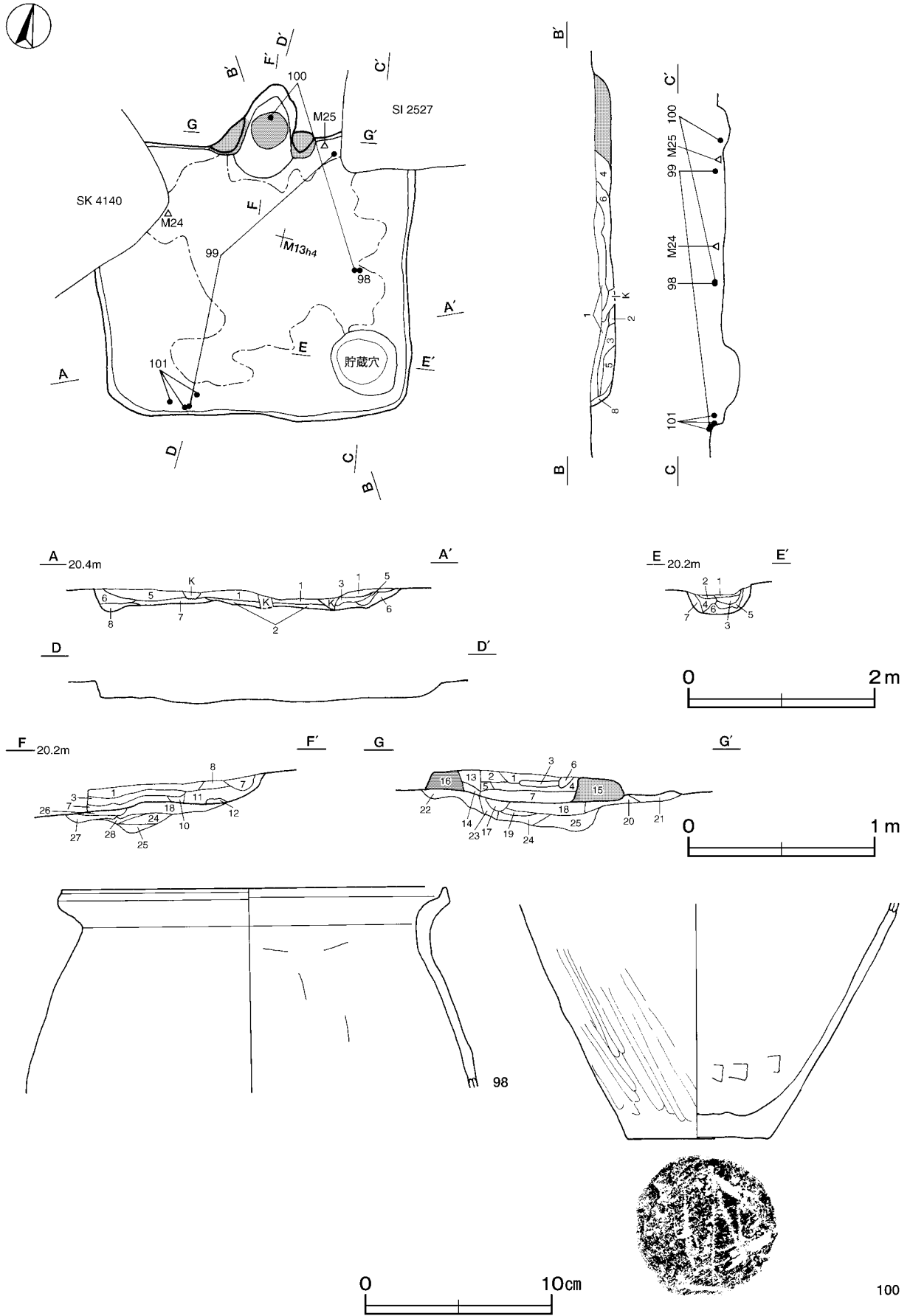
竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック微量	16 にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子微量
2 暗 赤 褐 色	ローム粒子多量 焼土ブロック少量 炭化粒子微量	17 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、砂質粘土粒子・炭化粒子少量
3 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量	18 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子炭化粒子少量
4 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	19 暗 赤 褐 色	炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量	20 褐 色	ロームブロック多量
6 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量・ローム粒子微量	21 暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
7 黒 褐 色	炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	22 褐 色	ロームブロック多量
8 灰 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	23 暗 赤 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒 褐 色	ローム粒子少量	24 にぶい褐色	ロームブロック多量、砂質粘土粒子中量
10 暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量	25 褐 色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
11 黒 褐 色	炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量	26 黒 褐 色	炭化粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
12 褐 色	ロームブロック中量	27 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
13 赤 褐 色	砂質粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量	28 極 暗 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
14 赤 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子微量		
15 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・ローム粒子少量		

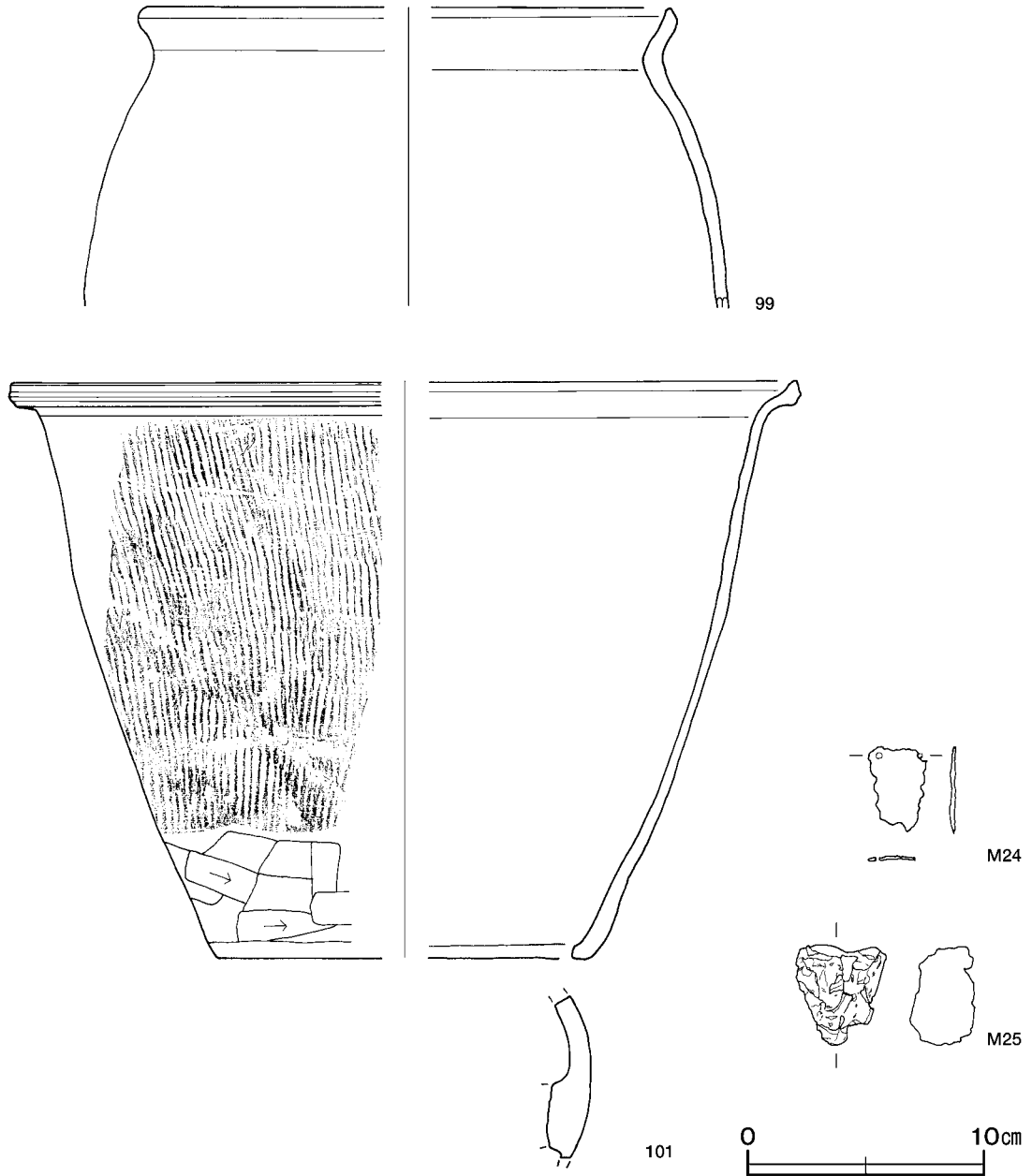
貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径77cm、短径69cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がり、各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐 色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	5 暗 褐 色	ロームブロック少量
2 暗 褐 色	ローム粒子微量	6 褐 色	ロームブロック少量
3 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ロームブロック微量		



第65图 第2528号住居跡・出土遺物実測図



第66図 第2528号住居跡出土遺物実測図

覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片253点(坏39, 甕類214), 須恵器片55点(坏24, 盤1, 甕29, 甌1), 銅製品片1点(巡方裏金具カ), 鉄滓1点が出土している。100は竈の火床面から逆位で出土し, 支脚として転用されたものと考えられ, 98は中央部東寄りの覆土中層から出土している。99・101は南壁際の覆土上層から出土した破片が接合したもので, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M24は中央部北東寄りの覆土中層, M25は竈右袖近くの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。

第2528号住居跡出土遺物観察表（第65・66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
98	土師器	甕	20.6	(10.7)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	中層	20% PL31	
99	土師器	甕	[22.2]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	上層	10%	
100	土師器	甕	-	(12.7)	7.6	長石・雲母	明褐	普通	体部外面下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈火床面	35% 支脚 転用 PL31	
101	土師器	甗	[33.2]		24.4	[15.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位平行叩き 体部下端ヘラ削り	上層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	巡方裏金具	(3.2)	(2.9)	(0.1)	(1.5)	銅	2か所穿孔有り 塗金	中層	PL38
M25	鉄滓	4.2	3.8	2.8	37.1	鉄	表面錆付着	下層	

第2529号住居跡（第67図）

位置 調査区南東部のN13a5区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2523号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.58m、短軸2.27mの長方形で、主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は10～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。南東部を除いた壁下には幅9～15cm、深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm、袖部幅88cmである。左袖部は地山を基部として構築され、右袖部は地山を10cmほど掘り込んでローム土主体の第17～21層を床面の高さまで充填し、砂質粘土混じりのローム土第9～16層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に17cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子少量	13 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 褐色	焼土粒子・砂質粘土少量、ローム粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	16 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・灰粒子少量
6 灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック中量
7 灰褐色	砂質粘土ブロック多量・焼土粒子微量	19 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
8 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20 褐色	ロームブロック中量
9 にぶい褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	21 褐色	ロームブロック少量
10 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量		
11 褐色	ローム粒子多量		
12 褐色	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量		

ピット 2か所。P1は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ26cmで、性格は不明である。

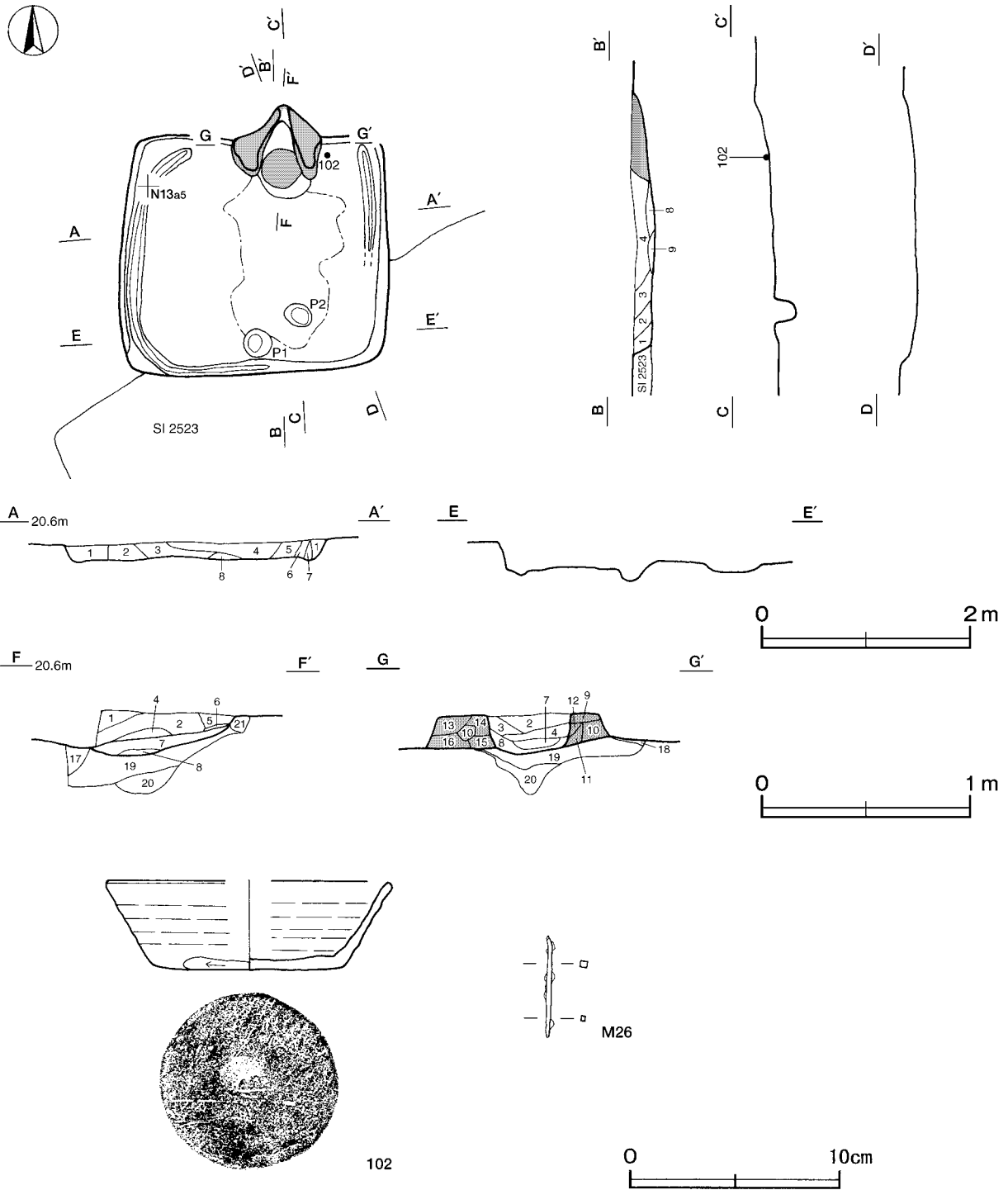
覆土 9層に分けられる各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	7 明褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
5 褐色	ローム粒子多量		

遺物出土状況 土師器片12点（甕類）、須恵器片2（甕類）、鉄製品1点（釘）が出土している。層厚は薄く、遺物の量は少ない。102は竈右袖壁際から正位で出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第67図 第2529号住居跡・出土遺物実測図

第2529号住居跡出土遺物観察表（第67図）

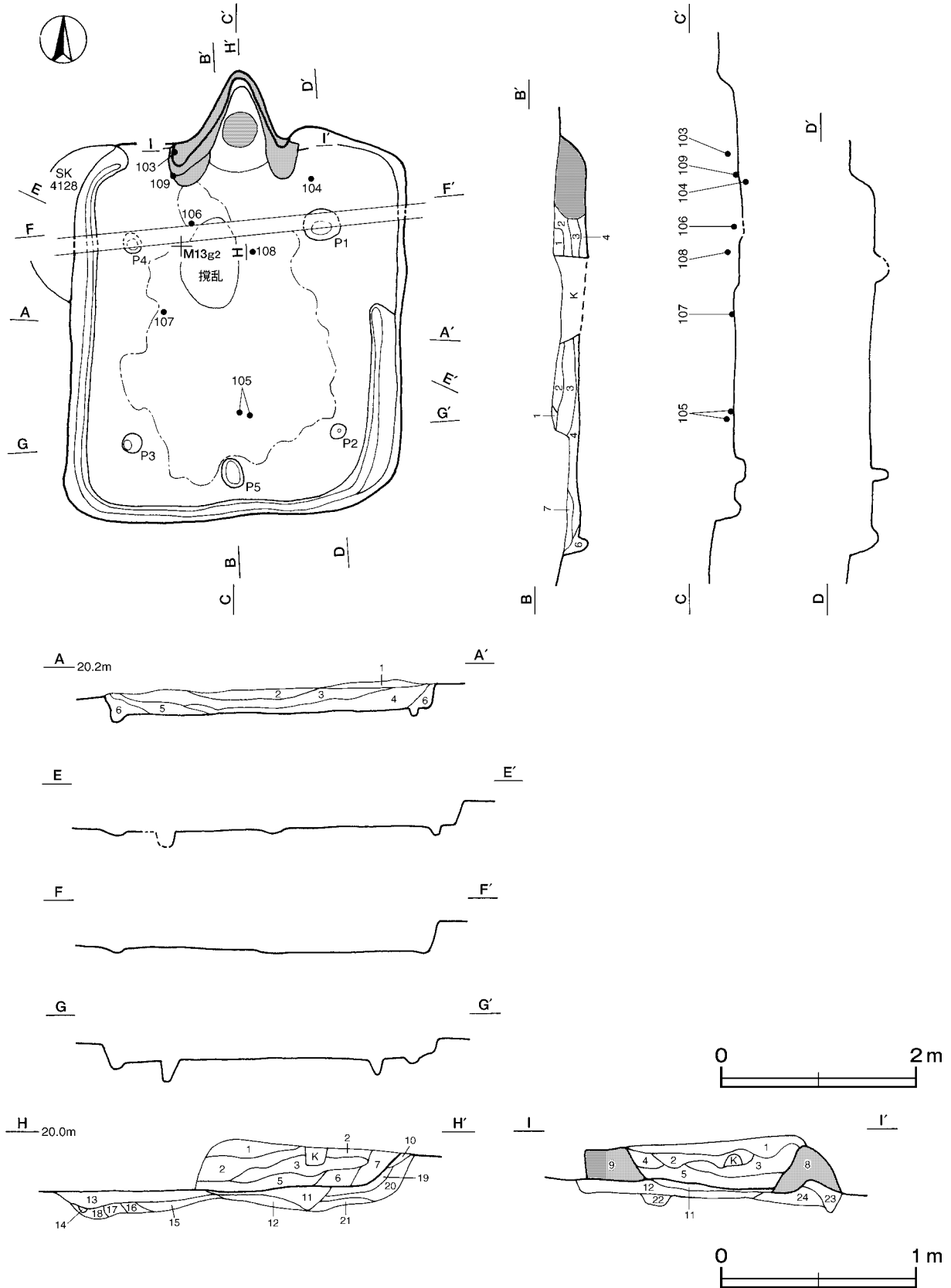
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
102	須恵器	坏	[13.5]	4.4	8.9	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向からのヘラ削り	床面	60% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	釘	(4.9)	0.3	0.3	(1.7)	鉄	角釘 頭部及び下端部欠損	竈覆土中	PL38

第2531号住居跡 (第68図)

位置 調査区中央部のN13g2区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4128号土坑に掘り込まれている。



第68図 第2531号住居跡実測図

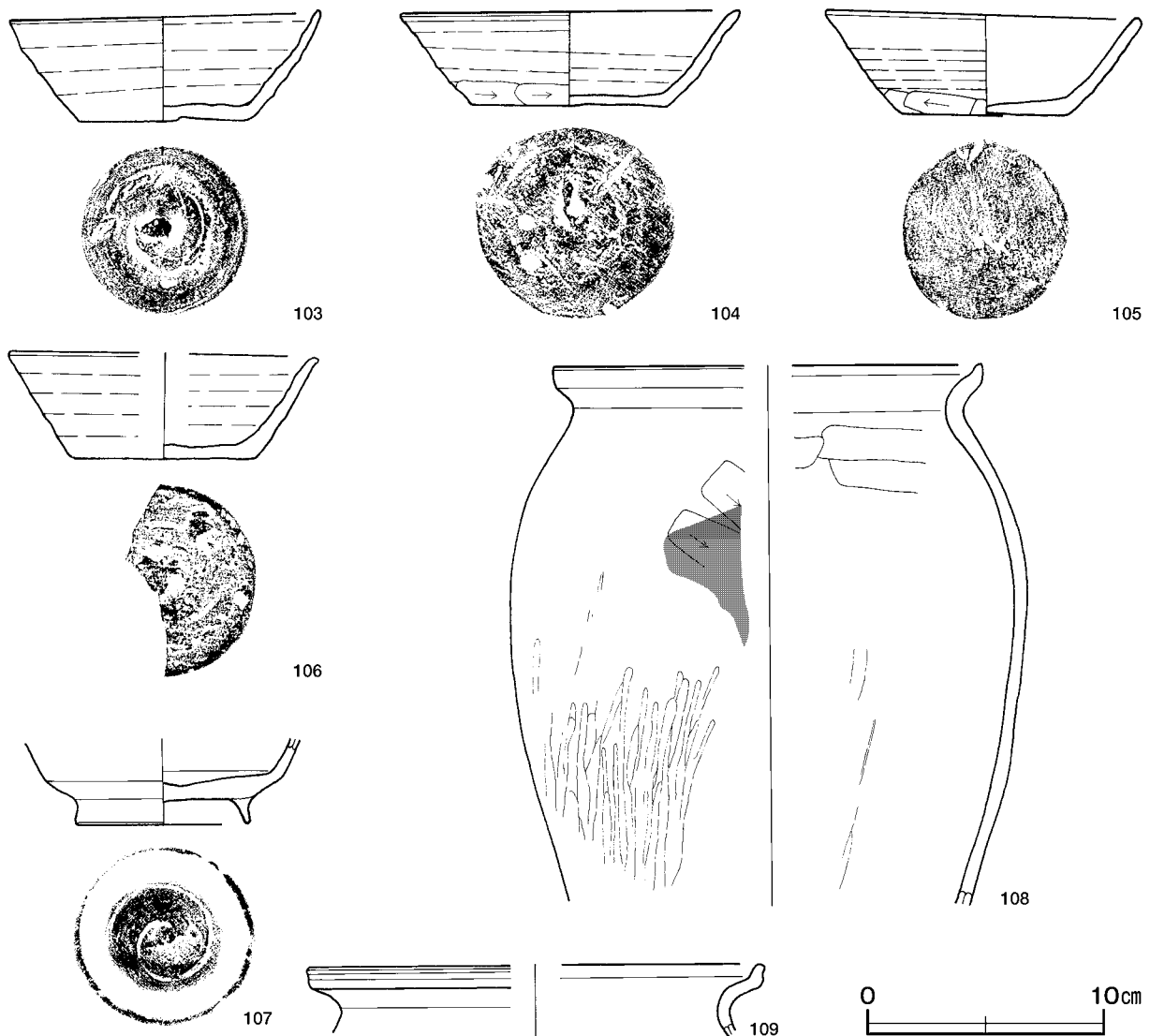
規模と形状 長軸3.90m，短軸3.40mの長方形で，主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北東部を除いた壁下には幅10～14cm，深さ8～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで98cm，袖部幅132cmである。袖部は地山を5cmほど掘り込んでローム土主体の第10～24層を床面の高さまで充填し，砂質粘土主体の第8・9層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に70cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 灰褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 11 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量，灰微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量 | 16 明褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子少量 |
| 8 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 9 明褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 18 明褐色 | 焼土ブロック多量 |



第69図 第2531号住居跡出土遺物実測図

19 にぶい褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量	22 褐色	ローム粒子多量
20 にぶい褐色	ロームブロック多量	23 褐色	ロームブロック少量
21 褐色	ロームブロック多量	24 明褐色	ロームブロック多量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは15～23cmである。P5は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	6 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片231点(坏18, 甕類213), 須恵器片55点(坏33, 盤1, 蓋2, 甕類19)が、竈周辺を中心に出土している。104は竈の東側, 109は竈の西側, 107は中央部西寄りのそれぞれ床面から出土しており、いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, 103は竈の西側, 105は中央部やや南側, 106は中央部やや北側のいずれも覆土下層から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものとする。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

2531号住居跡出土遺物観察表(第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
103	須恵器	坏	13.2	4.6	7.2	長石・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	下層	100% PL31
104	須恵器	坏	14.0	4.1	8.2	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向からのヘラ削り	床面	90% PL30
105	須恵器	坏	13.1	4.4	7.1	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方からのヘラ削り	下層	55% PL31
106	須恵器	坏	[13.0]	4.4	[7.8]	長石	灰色	普通	底部回転ヘラ切り	下層	40%
107	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	7.1	長石・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45%
108	土師器	甕	[18.0]	(22.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り下位ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ	中層	20% 煤付着
109	土師器	甕	[19.0]	(3.0)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	床面	5%

表8 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2522	N13a6	N-3°-E	方形	3.75×3.75	40～50	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	8世紀後葉
2528	M13h4	N-15°-W	長方形	3.34×2.95	16～22	平坦	-	-	-	-	竈1	1	人為	土師器片, 須恵器片, 銅製品	8世紀後葉以前
2529	N13a5	N-2°-W	長方形	2.58×2.27	10～18	平坦	ほぼ全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	8世紀後葉
2531	N13g2	N-1°-E	長方形	3.90×3.40	20～30	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片	8世紀後葉

3 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡23軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第2524A号住居跡(第70・71図)

位置 調査区南東部のN13a4区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

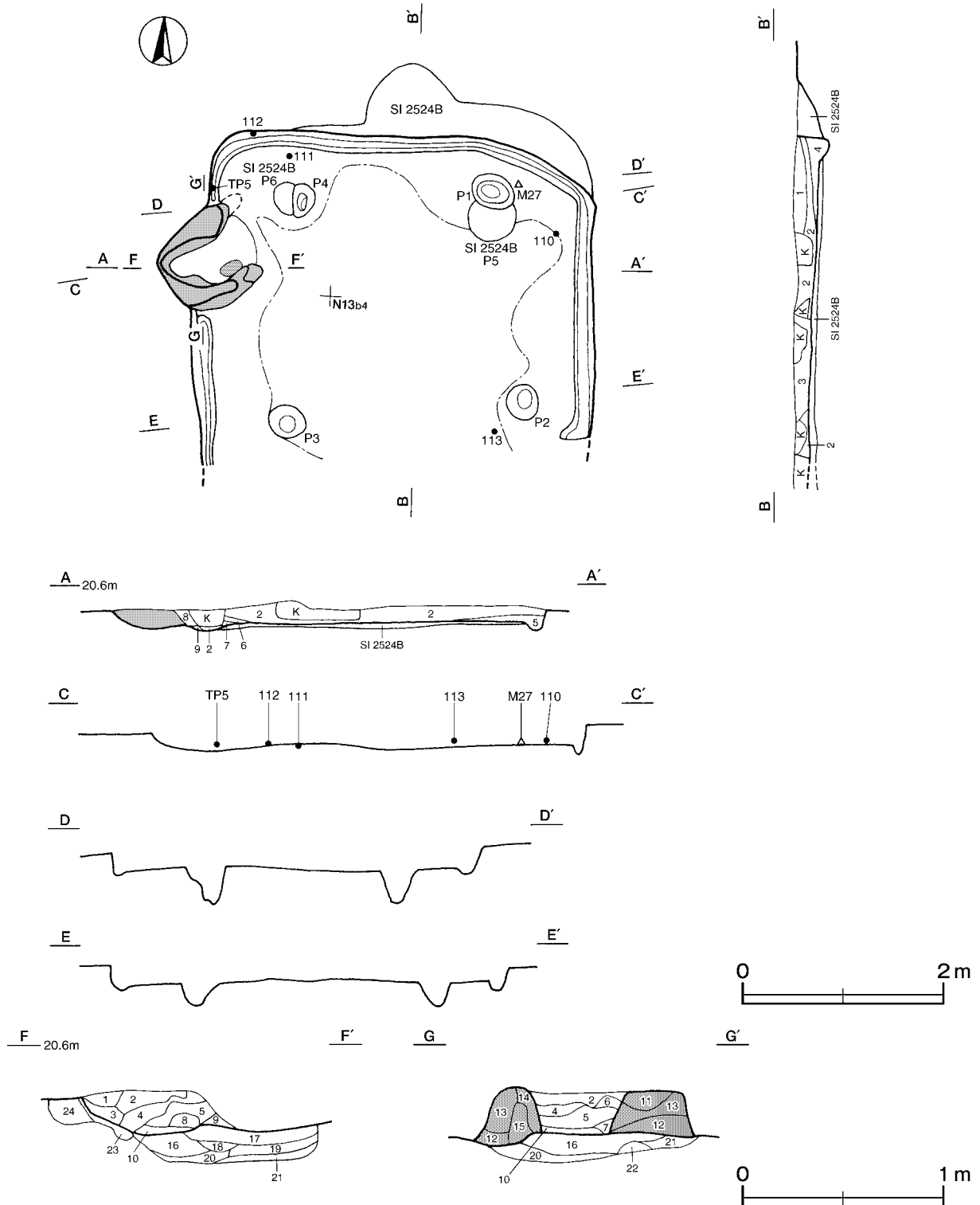
重複関係 第2524B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部は、攪乱を受けているため、東西軸3.95m、南北軸は3.42mだけが確認され、方形または長

方形と推定される。主軸方向はN - 2 ° - Wである。壁高は14 ~ 22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅9 ~ 20cm、深さ7 ~ 10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 西壁の北寄りに付設されている。規模は、焚口から煙道部まで97cm、袖部幅106cmである。袖部は地山を20cmほど掘り込み、ローム土主体の第16 ~ 24層を床面の高さまで充填し、その上に砂質粘土混じりのローム土を主体とする第11 ~ 15層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬



第70図 第2524A号住居跡実測図

化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第5層は天井部の崩落土層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 16 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・山砂中量 | 17 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子中量 | 18 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 灰中量, 炭化粒子少量 | 19 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・灰中量 | 20 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 にぶい橙色 | 焼土ブロック・灰中量 | 21 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 灰中量, 炭化粒子微量 | 22 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 23 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 24 褐色 | ロームブロック多量 |
| 12 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | | |
| 13 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは23～37cmである。

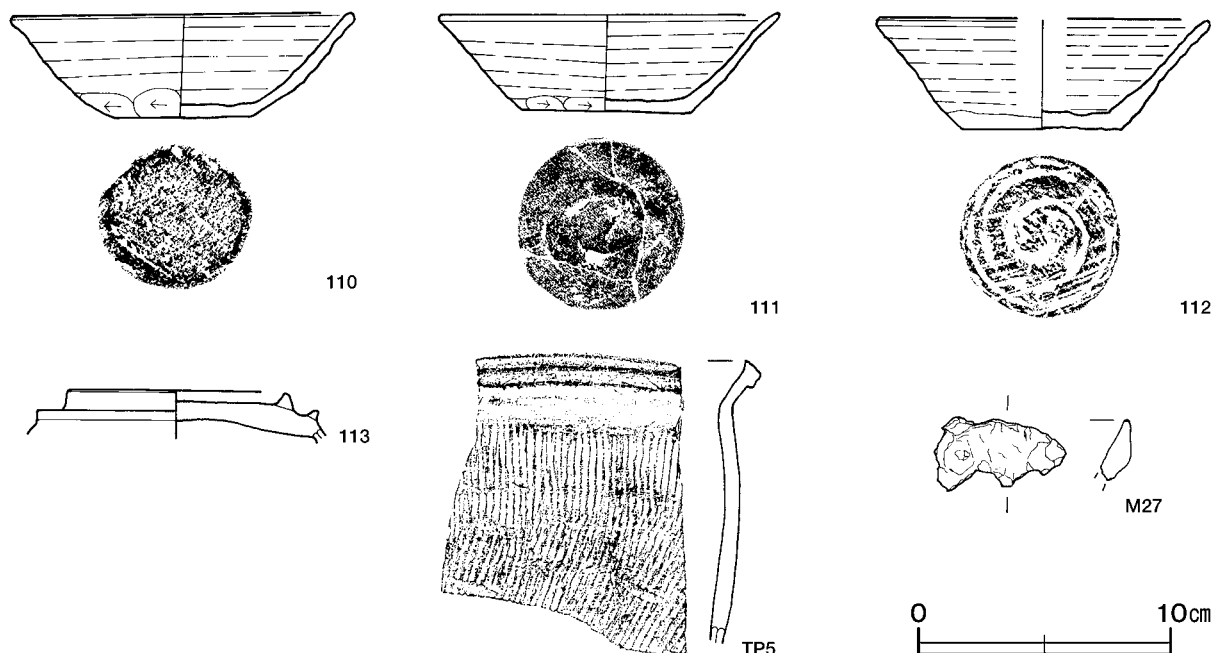
覆土 9層に分けられる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量, 砂質粘土粒子微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片156点(坏8, 高台付坏2, 甕類146), 須恵器片171点(坏101, 盤1, 甕46, 鉢23), 鉄滓1点が壁際を中心に出土している。111・112はいずれも北西コーナー部の床面と覆土下層から出土し、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられ、時期判定の指標となる遺物である。110・M27は北東コーナー部の覆土下層, 113は南東コーナー部の覆土中層, TP5は竈北側の覆土中層からそれぞれ出土し、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 土層から第2524A住居と第2524B住居跡の間には時間差が見られず、第2524A号住居は第2524B号住居の建て替えと考えられる。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第71図 第2524A号住居跡出土遺物実測図

第2524A号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
110	須恵器	坏	13.6	4.1	5.5	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方向からのヘラ削り	下層	100% PL31
111	須恵器	坏	13.4	4.0	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	50% PL31
112	須恵器	坏	[13.0]	4.4	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 多方向からのヘラ削り	下層	50% PL32
113	須恵器	円面硯	11.0	(1.9)	-	長石	灰	良好	砥面ナデ 海から縁部内・外面口口ロナデ	中層	40% PL32

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP5	須恵器	甕	長石・石英・雲母	オリ・ブ褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	鉄製品	2.9	5.2	1.3	32.8	鉄	表面錆付着 表面凹凸有り 端部返り有り	下層	

第2524B号住居跡（第72図）

位置 調査区南東部のN13a4区、標高20.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2524A号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南部は攪乱を受けているため、東西軸3.95m、南北軸は3.20mだけが確認され、方形または長方形と推定される。主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は20～30cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅12～18cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで67cm、袖部幅95cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、ローム土主体の第18～26層を床面の高さまで充填し、その上に砂質粘土混じりのローム土主体とする第15～17層を積み上げて構築している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第1・3層は砂質粘土や焼土粒子を含み、天井部の崩落土層と考える。

竈土層解説

1	にぶい褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量	14	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子・山砂多量、焼土粒子中量	15	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3	赤褐色	砂質粘土ブロック・砂粒多量、焼土ブロック中量、 ロームブロック微量	16	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐色	焼土ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量	17	明褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	18	にぶい赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量
6	赤褐色	ロームブロック多量、炭化物中量	19	明褐色	ロームブロック多量
7	にぶい褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子・砂質粘土ブロック中量	20	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量、山砂中量	21	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック多量	22	赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量、 砂質粘土粒子微量
10	暗褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量	23	明褐色	ロームブロック多量
11	暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子微量	24	褐色	ロームブロック少量
12	にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	25	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	26	褐色	ロームブロック中量

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは16～29cmである。

覆土 3層に分けられる。層圧が薄く堆積状況は不明であるが、第2524A号住居の建て替えから人為堆積と考えられる。

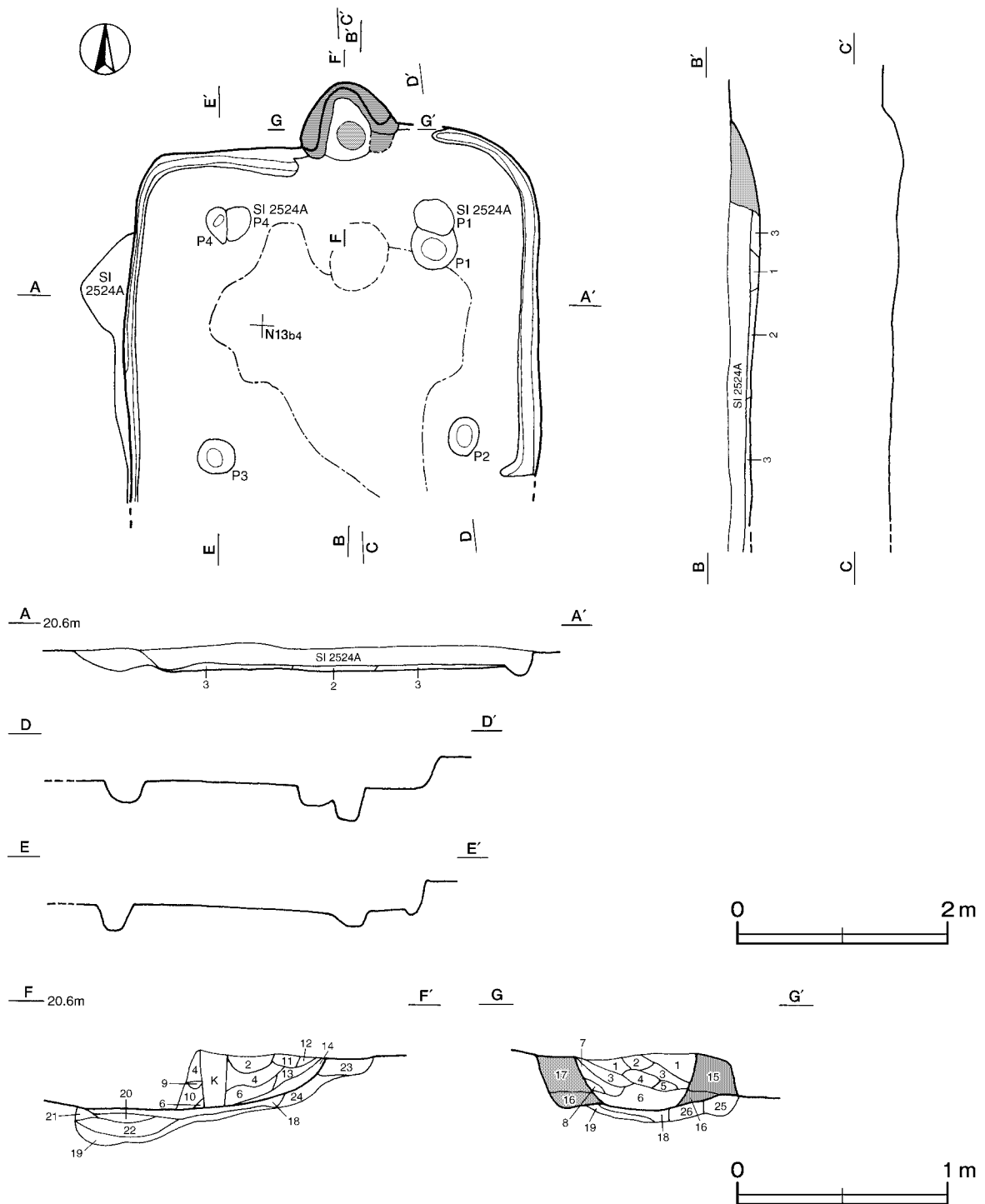
土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片32点（甕類）、須恵器15点（坏1、甕14）が出土しているが、いずれも細片である。

所見 遺物が少ないため時期の特定が難しいが、土層から第2524B住居跡と第2524A住居との間には時間差は

見られず，第2524A号住居の建て替えと考えられる。時期は，9世紀中葉と考えられる。



第72図 第2524B号住居跡実測図

第2525号住居跡（第73～75図）

位置 調査区南西部のM13i7区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。東側は，平成8年度に調査が終了している。

重複関係 第317・318号住居跡を掘り込み，第2548号住居，第4143号土坑に掘り込まれている。

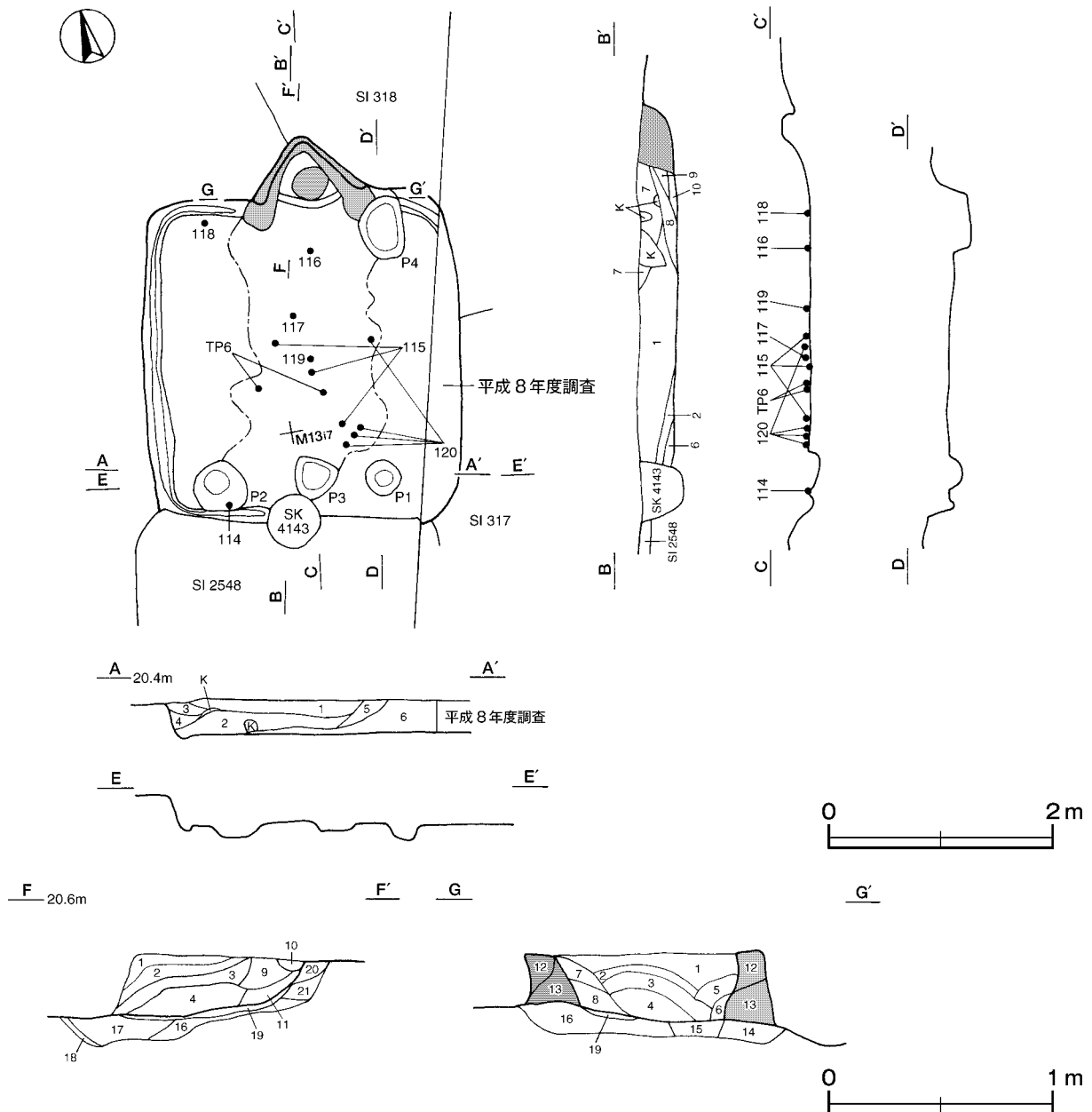
規模と形状 東側は調査区域外であり，南北軸2.92m，東西軸は2.58mだけが確認された。主軸方向をN - 10° - Eとする方形または長方形であると考えられる。壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。壁下には幅12~20cm、深さ6~10cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

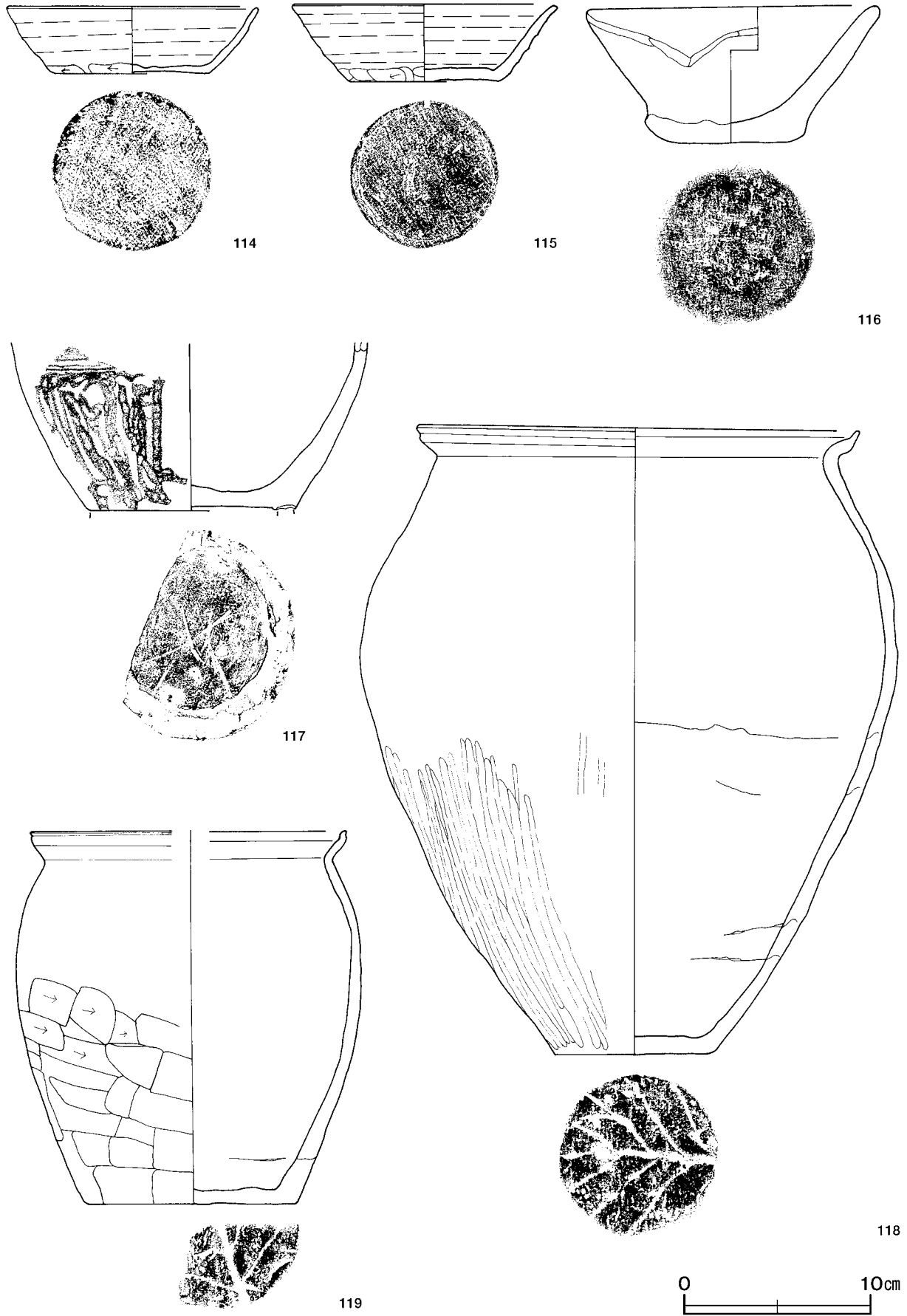
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで62cm、袖部幅117cmである。袖部は地山を掘り込んで、ローム土主体の第14~21層を床面の高さまで充填し、その上にローム土混じりの砂質粘土を主体とした第12・13層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

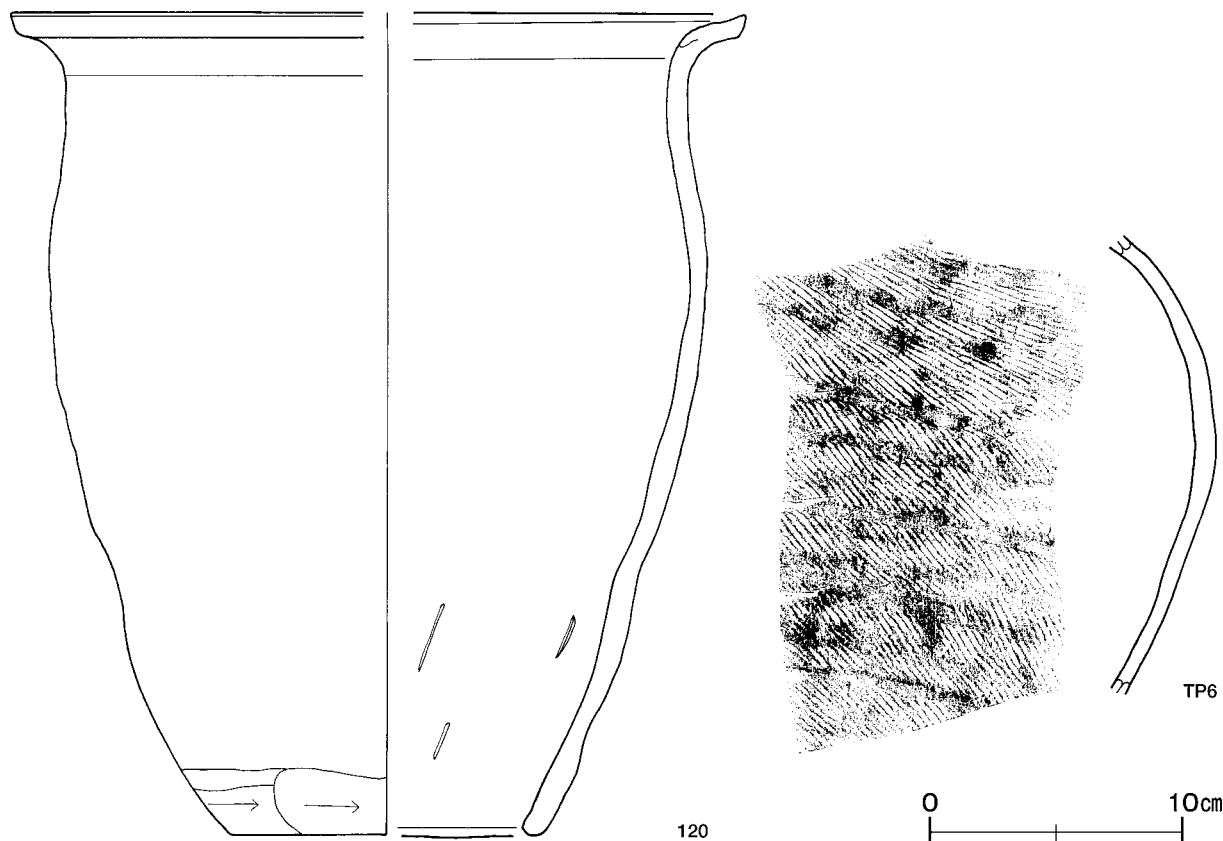
- | | | | |
|--------|-----------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量 | 11 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | 灰中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 灰微量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 明褐色 | ローム粒子多量 | 14 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 | | |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | | |



第73図 第2525号住居跡実測図



第74图 第2525号住居跡出土遺物実測図(1)



第75図 第2525号住居跡出土遺物実測図(2)

- | | | | |
|---------|-------------------|---------|------------------------|
| 15 明 褐色 | ロームブロック中量 | 19 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 16 明 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 20 明 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 17 褐色 | ロームブロック少量 | 21 明 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 18 褐色 | ロームブロック多量 | | |

ピット 4か所。P1・P2は支柱穴で、深さは12~14cmである。P3は深さ6cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ14cmで、位置や形状から貯蔵穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。

覆土 10層に分けられる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 9 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 6 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片366点(坏21, 甕類345), 須恵器片188点(坏67, 高台付坏29, 盤1, 蓋2, 甕89), 灰釉陶器1点(瓶), 鉄製品1点(釘), 鉄滓3点が中央部を中心に出土している。116は竈前部, 117は中央部, 118は竈西側の壁際のそれぞれ床面から出土し、住居の廃絶後に遺棄されたもので時期判定の指標となる遺物である。115・120, TP6は中央部の床面から出土した破片が接合したもので、114はP3の覆土中から出土している。これらも住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2525号住居跡出土遺物観察表 (第74・75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
114	須恵器	坏	13.4	3.7	8.4	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向からのヘラ削り	P 3 覆土中	100% PL32
115	須恵器	坏	14.0	4.0	8.0	長石・雲母・礫	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	床面	95% PL32
116	須恵器	擂鉢カ	15.6	7.4	7.0	長石	灰	普通	体部内・外面ナデ 片口有り	床面	90% PL32
117	須恵器	壺	-	(9.9)	-	長石	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	15% 底部ヘラ記号「x」PL32
118	土師器	甕	23.7	33.6	8.5	長石・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ磨き 内面輪種痕 木葉痕	床面	85% PL33
119	土師器	甕	[16.9]	20.1	[11.1]	長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪種痕 木葉痕	床面	40% PL33
120	土師器	甕	[29.1]	32.6	12.2	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	60% PL32

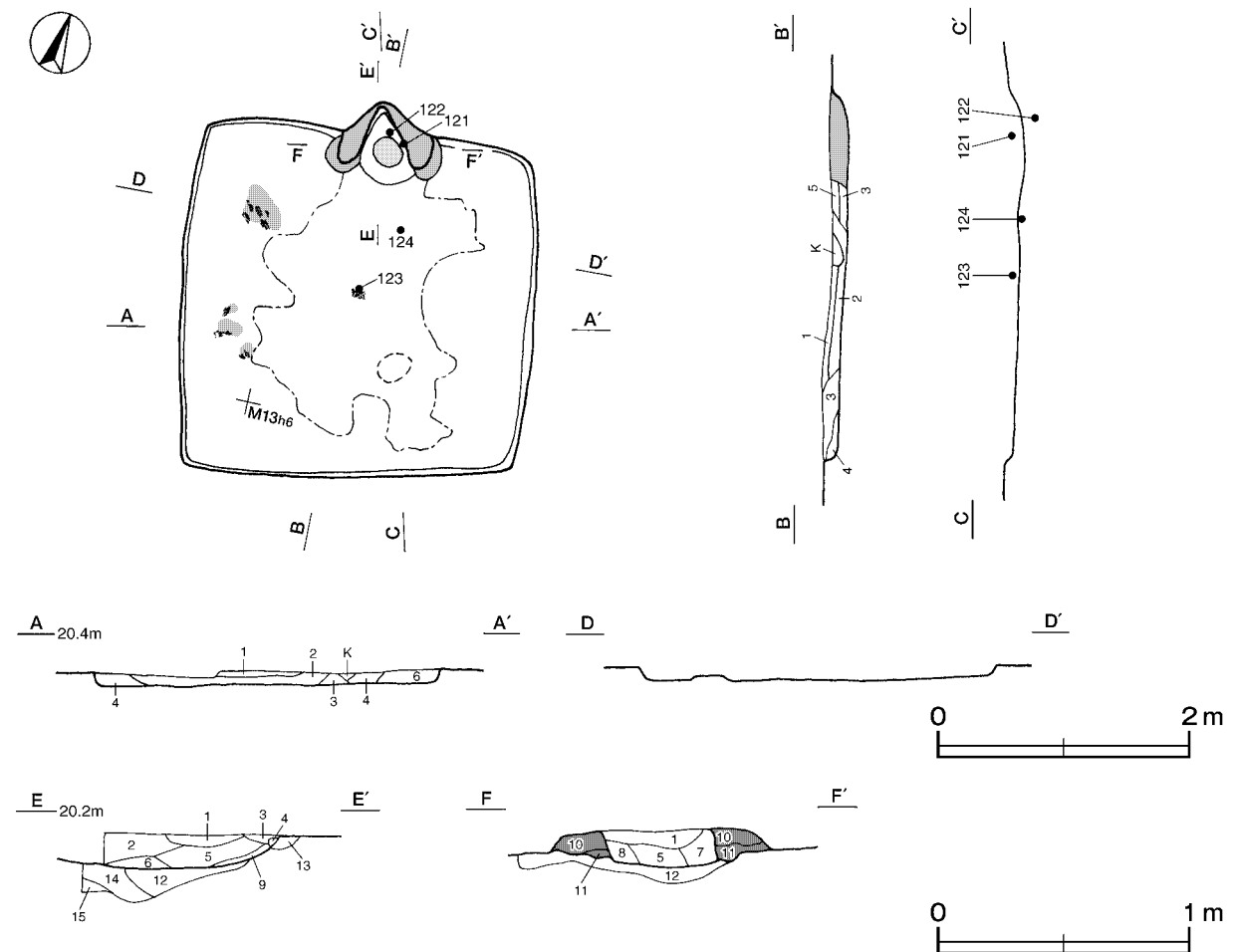
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP 6	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位平行叩き 内面ヘラナデ	床面	

第2526号住居跡 (第76・77図)

位置 調査区北東部のM13g6区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.80m、短軸2.74mの方形で、主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は6 ~ 8 cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。中央部や西壁近くから炭化材がまとまって数か所で確認できた。また、焼土も中央部の南寄りの床面から検出されたことから、焼失住居と考えられる。



第76図 第2526号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで55cm，袖部幅94cmである。袖部は，地山を5cmほど掘り込んで，ローム土主体の第12層を床面の高さまで充填し，その上に砂質粘土を主体とする第10・11層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 にぶい褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量	8 褐色	焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子・砂質粘土ブロック少量
2 褐色	ロームブロック多量	9 暗褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
3 にぶい褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量	10 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	砂質粘土ブロック多量	11 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
5 灰黄褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
6 褐色	ローム粒子多量	13 赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子微量
7 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量	14 暗褐色	ロームブロック少量
		15 褐色	ロームブロック少量

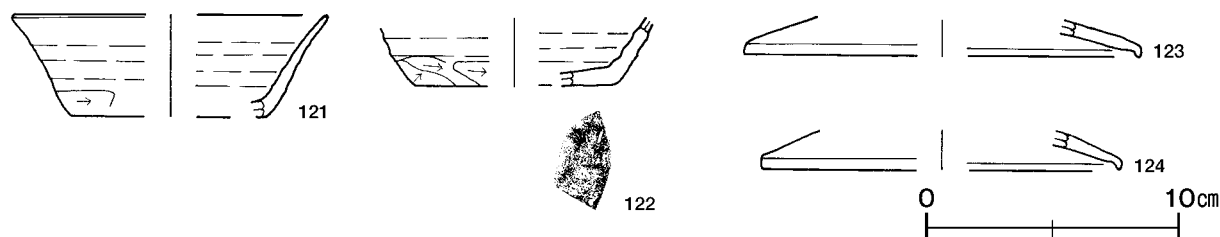
覆土 6層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	5 褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	6 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片50点（坏10，甕類40），須恵器片6点（坏）が出土している。覆土は薄く遺物の出土量も少ない。124は中央部北寄りの床面から，123は中央部の覆土下層，121・122は竈の覆土中層および火床面からそれぞれ出土しており，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 床面に焼土や炭化材の広がり確認されており，焼失住居であると考えられる。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第77図 第2526号住居跡出土遺物実測図

第2526号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	須恵器	坏	[12.4]	4.0	[7.7]	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈中層	10%
122	須恵器	坏	-	(2.7)	[8.0]	長石・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	火床面	10%
123	須恵器	蓋	[15.6]	(1.4)	-	長石・雲母	灰	普通	天井部内・外面口口ロナデ	下層	5%
124	須恵器	蓋	[14.1]	(1.5)	-	長石・雲母	黄灰褐	普通	天井部内・外面口口ロナデ	床面	5%

第2527号住居跡（第78図）

位置 調査区南西部のM13h4区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2528号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.52m，短軸3.34mの方形で，主軸方向はN - 11° - Wである。壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がっている。

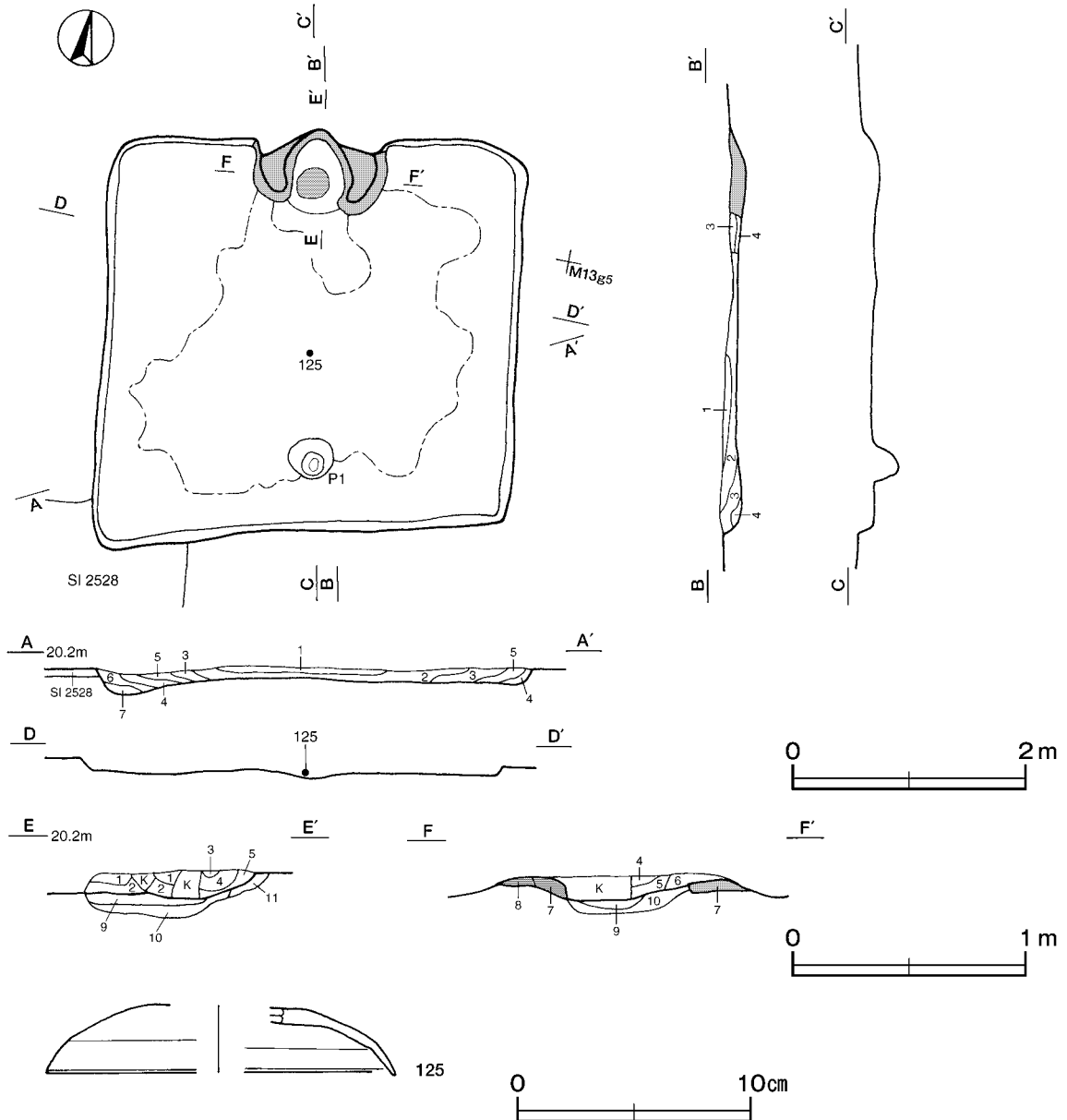
床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで72cm、袖部幅116cmである。袖部は掘り残した地山を基部とし、砂質粘土を主体とした第7・8層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめ、第9～11層を充填して使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれておらず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 7 灰褐色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック少量 | |

ピット 深さは25cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第78図 第2527号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片61点(甕類), 須恵器片30点(坏22, 蓋3, 甕5)が出土している。覆土は薄く, 遺物の量も少ない。125は中央部の覆土下層から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2527号住居跡出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	須恵器	蓋カ	[14.8]	2.9	[7.0]	長石・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	20%

第2530号住居跡(第79図)

位置 調査区北東部のN13g7区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東側は調査区域外であり, 南北軸2.86m, 東西軸は3.25mだけが確認された。主軸方向をN-6°-Wとする方形または長方形と考えられる。壁高は16~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで80cm, 袖部幅115cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込んでローム土を主体とした第12~22層を床面の高さまで充填し, 砂質粘土を主体とした第8~11層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子炭化粒子微量 | 11 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 明褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 黒色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 にぶい黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子多量 | 19 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 10 黄褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子多量 | 20 明褐色 | ロームブロック多量 |
| | | 21 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 22 にぶい黄褐色 | 炭化粒子・砂質粘土中量, ローム粒子少量 |

ピット 深さ20cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

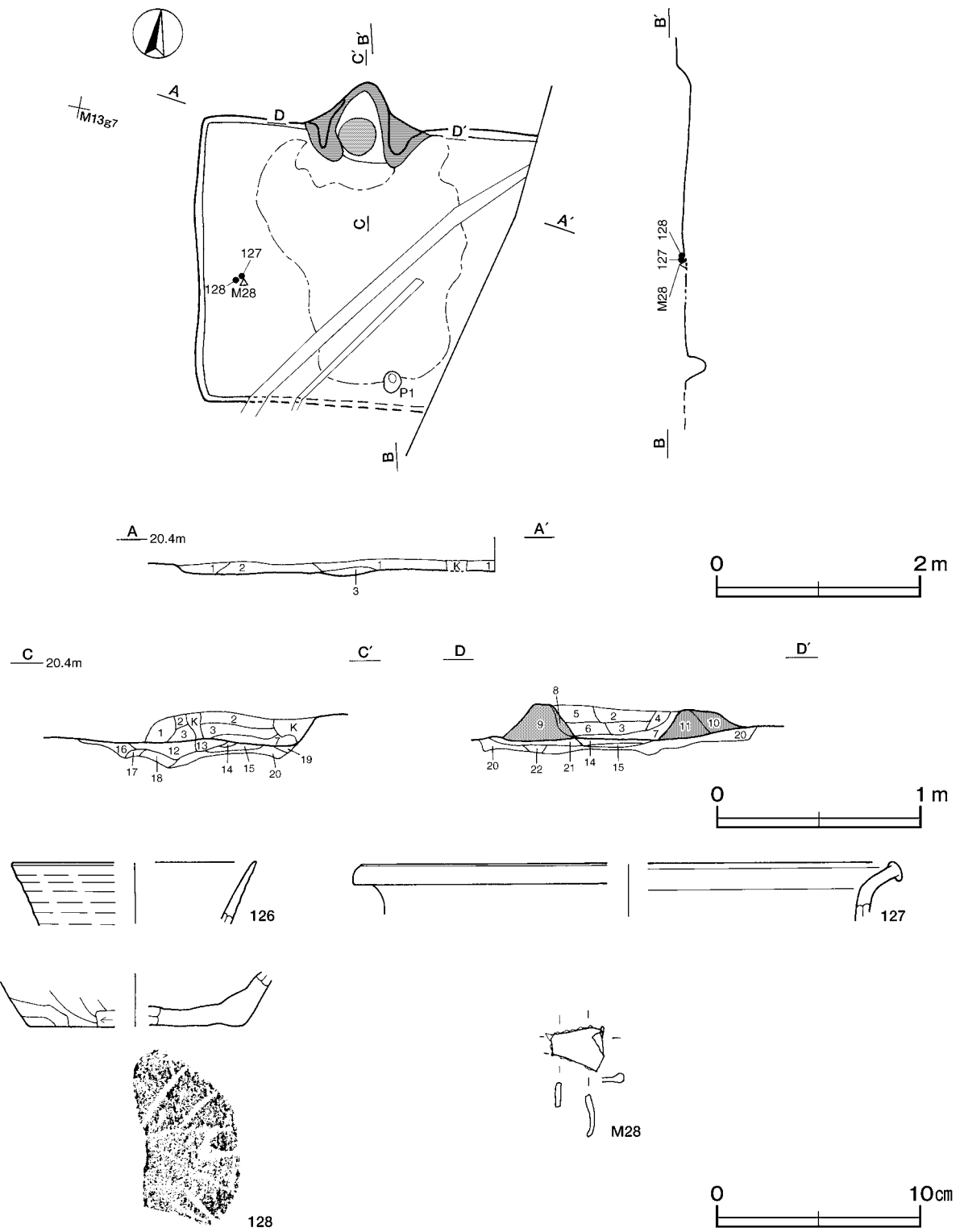
覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片185点(坏12, 高台付坏5, 甕類168), 須恵器片53点(坏10, 盤3, 蓋1, 甕類39), 鉄製品1点(鎌カ)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, ほとんどが細片である。127・128, M28は中央部西寄りの覆土下層及び床面, 126は竈の覆土中からそれぞれ出土し, いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第79図 第2530号住居跡・出土遺物実測図

第2530号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	須恵器	坏	[11.9]	(3.1)	-	長石	黄灰	普通	体部外面口クロナデ	竈覆土中	5%
127	須恵器	鉢	[26.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%
128	土師器	甕	-	(2.7)	[10.3]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 木葉痕	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	鎌力	(2.3)	(2.9)	0.4	(3.9)	鉄	刃部・基部一部欠損	床面	

第2532号住居跡（第80・81図）

位置 調査区南東部のM13h1区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4132号土坑，第8号溝に掘り込まれている。

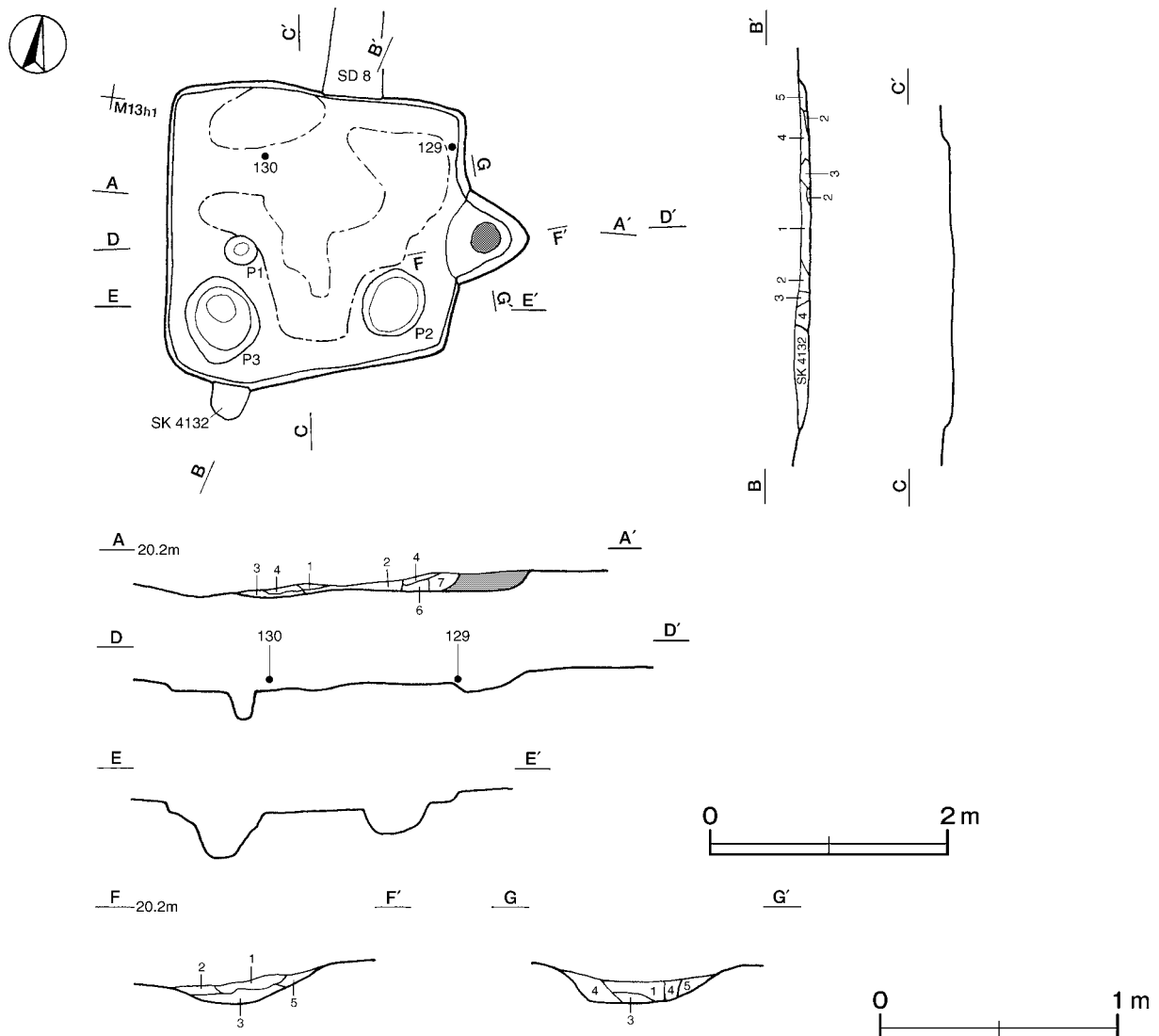
規模と形状 長軸2.44m，短軸2.40mの方形で，主軸方向はN - 82° - Eである。壁高は34～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで67cmで，袖部は遺存していない。火床部は地山を10cmほど掘り込み，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に57cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | | |



第80図 第2532号住居跡実測図

ピット 3か所。P1は深さ24cmで、西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ23~38cmで、位置や形状から貯蔵穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。

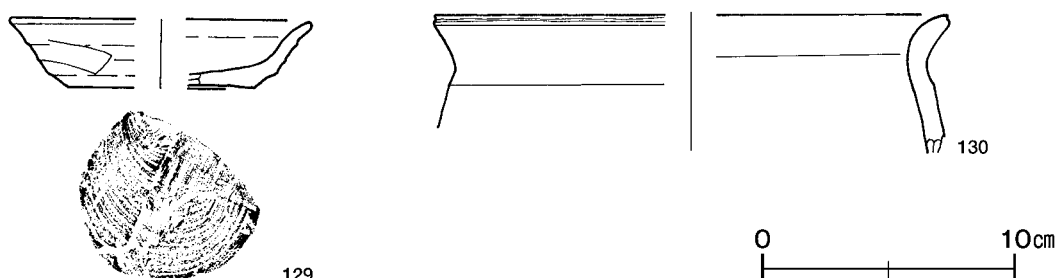
覆土 7層に分けられる。各層にローム粒子を含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片76点(坏23, 甕類53), 流れ込みと思われる須恵器片7点, 陶器片1点が出土している。129は竈北側の床面, 130は中央部やや北西寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。129は住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から11世紀前半と考えられる。



第81図 第2532号住居跡出土遺物実測図

第2532号住居跡出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	坏	[11.8]	2.7	[7.4]	長石	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り	床面	40%
130	土師器	甕	[20.2]	(5.4)	-	長石	にぶい橙色	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%

第2533号住居跡(第82・83図)

位置 調査区南東部のM12g2区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2545号住居跡を掘り込み, 第2544号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.93m, 短軸2.10mの長方形で, 主軸方向はN-80°-Eである。壁高は12~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。西壁から南壁中央部までの壁下には幅10~15cm, 深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで70cmである。袖部は地山の上に第11層の黒色土で基部を構築し, その上に砂質粘土主体の第9・10で構築している。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

- 15 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量
- 16 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 17 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック微量

- 18 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・灰微量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。直径48cmの円形で、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は直立している。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

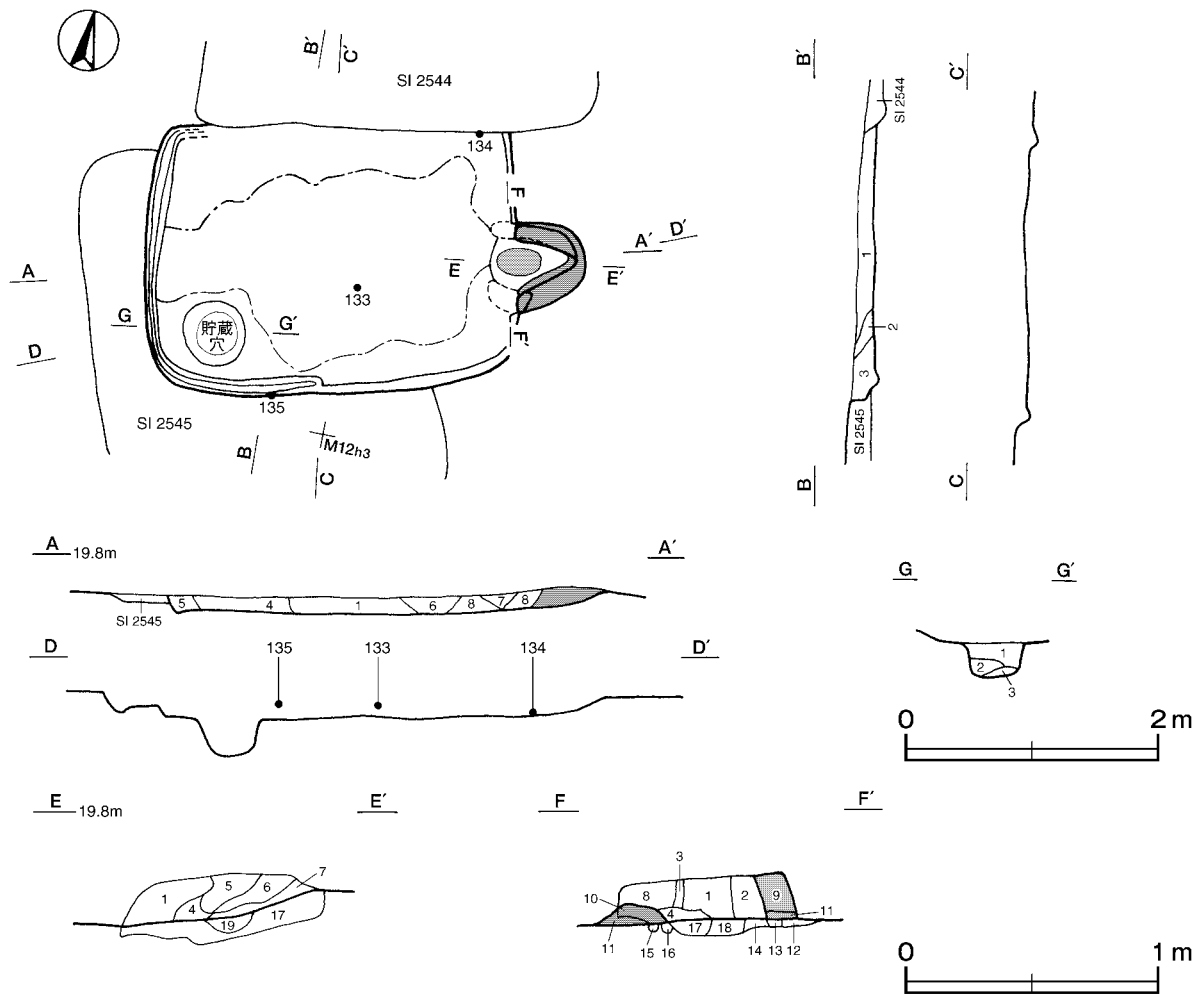
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

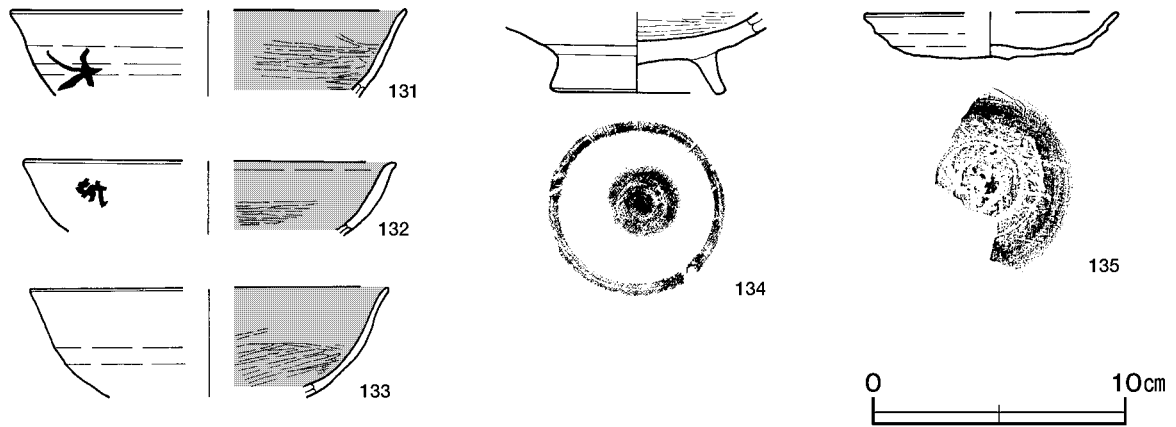
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片50点(坏18, 高台付椀6, 甕類26), 流れ込みと思われる須恵器片10点が出土している。134は北東コーナー部壁際の床面から出土し、住居の廃絶時に遺棄されたもので、時期判定の指標となる遺物である。133は中央部の覆土中層, 135は南壁中央部の覆土上層からそれぞれ出土し、いずれも住居の廃絶後に遺棄されたものと考えられる。131・132は覆土中から出土し、体部外面に「大」、「城」の墨書が見られる。



第82図 第2533号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀後半と考えられる。



第83図 第2533号住居跡出土遺物実測図

第2533号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
131	土師器	椀	[14.2]	(3.3)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	10% 墨書土器「大」
132	土師器	椀	[14.6]	(2.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	10% 墨書土器「城」
133	土師器	椀	[14.2]	(4.3)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	中層	45%
134	土師器	高台付椀	-	(3.2)	6.9	長石・雲母	橙	普通	体部内面へラ磨き 底部回転へラ切り後高台貼り付け	床面	35%
135	土師器	小皿	[9.9]	1.9	6.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転へラ切り	上層	40%

第2534号住居跡（第84・85図）

位置 調査区北東部のM12g9区、標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.61mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は22~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅16~18cm、深さ6~9cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで70cm、袖部幅130cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、その上に砂質粘土混じりのローム土を主体とした第12~14層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を主体とした第15~20層を充填して使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	11 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	12 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	15 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	16 暗赤褐色	焼土粒子・灰少量、炭化物・ローム粒子微量
7 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
8 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	18 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
9 褐色	ロームブロック少量	19 極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
10 明赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	20 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

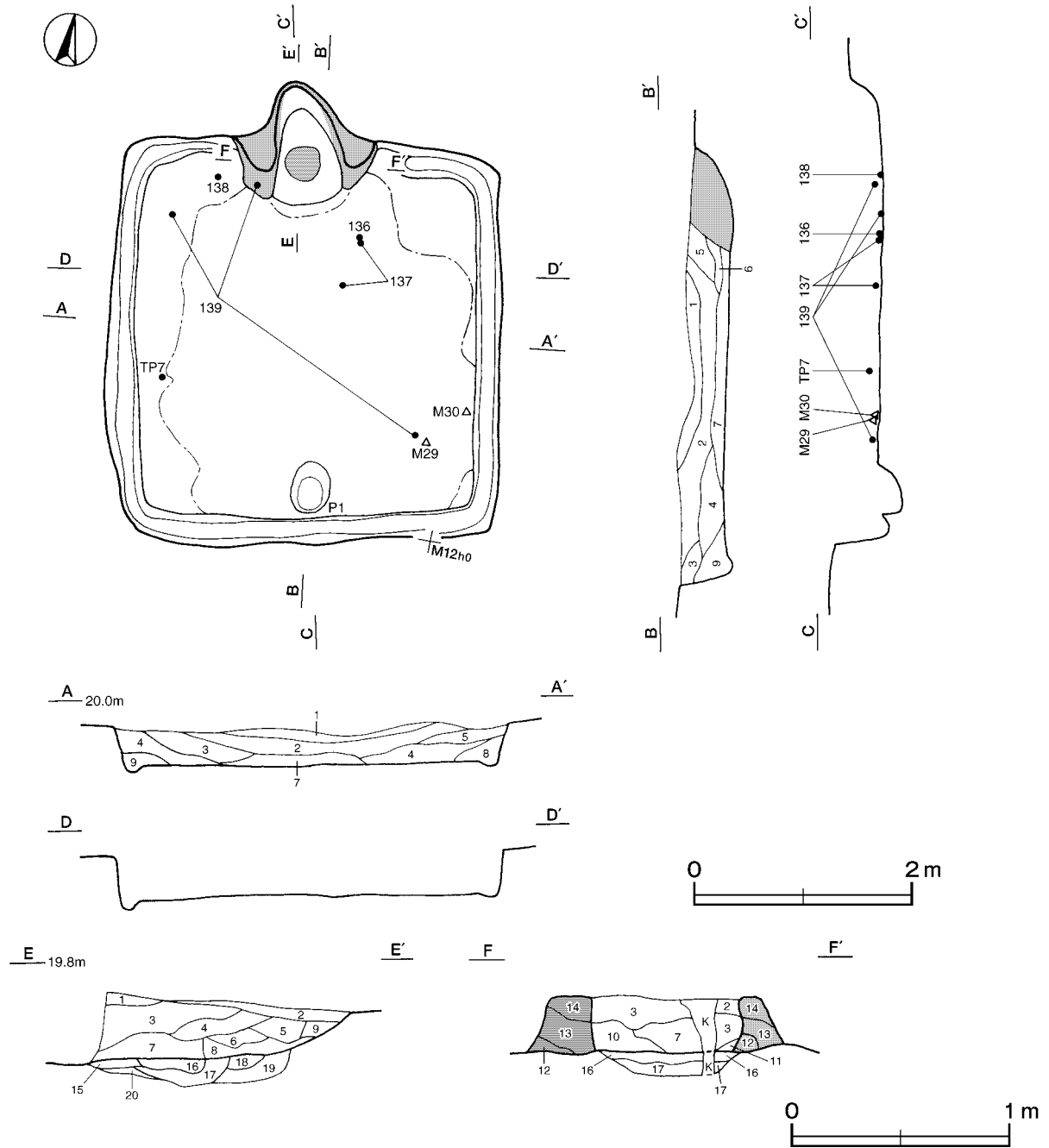
ピット 深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。各層にローム粒子を含む堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロ-ムブロック・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロ-ム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロ-ムブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化物少量、ロ-ムブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロ-ムブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロ-ムブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロ-ム粒子中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロ-ムブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロ-ムブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

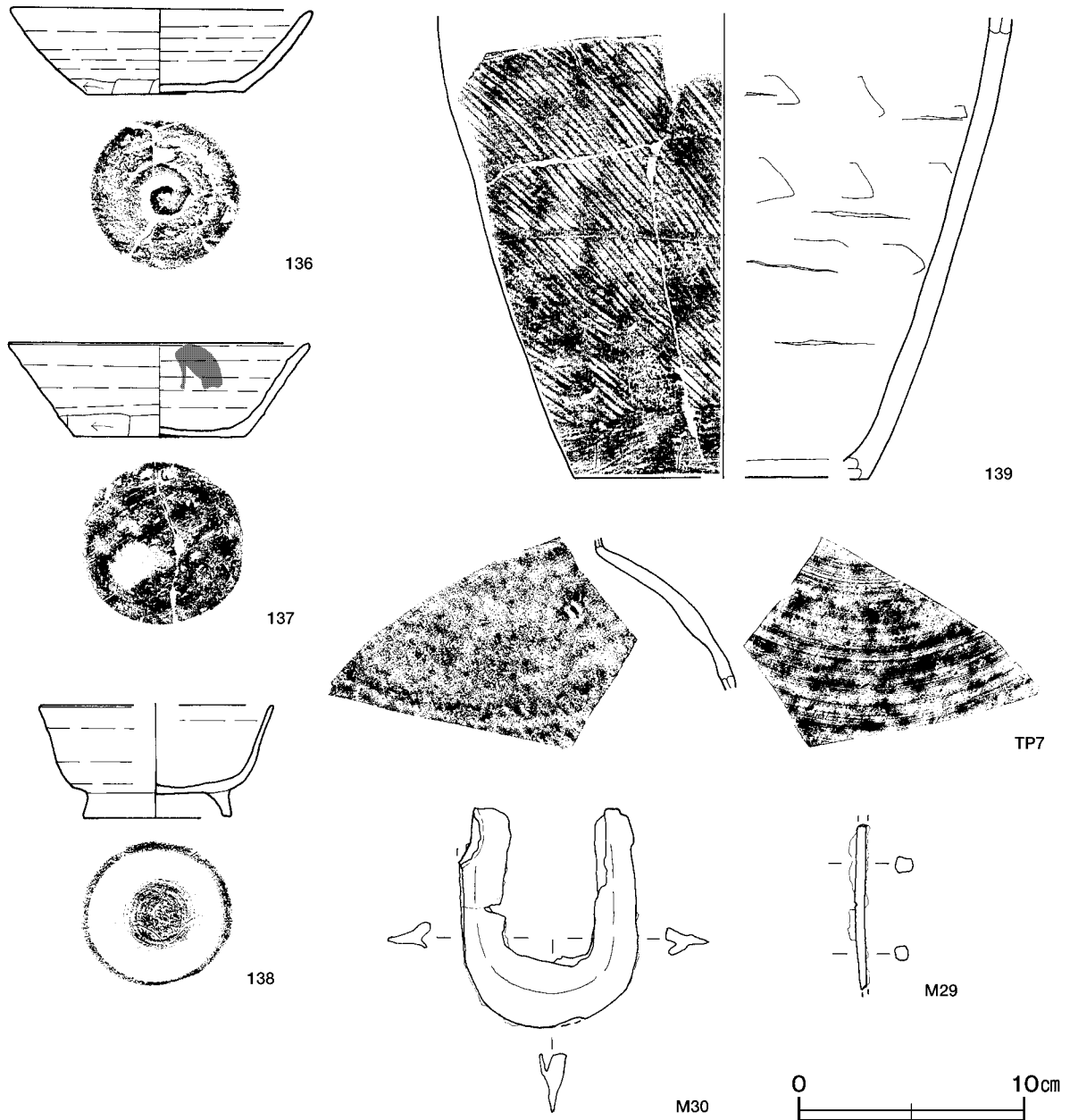
遺物出土状況 土師器片253点(坏20, 椀6, 甕類227), 須恵器片60点(坏2, 高台付坏1, 皿3, 蓋4, 甕48, 壺1, 甑1), 鉄製品2点(刀子, 鋤先)が、ほぼ全域に散在した状態で出土している。136は竈前部, 138



第84図 第2534号住居跡実測図

は竈の西側，M29・M30は南東コーナー部のそれぞれ床面から出土しており，住居の廃絶時に遺棄されたもので，時期判定の指標となる遺物である。また，137は中央部やや北側，139は北西コーナー部と南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したもので，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 鋤先が出土している住居跡は，当遺跡で5例目である。『茨城県教育財団文化財報告』第214集において鋤先の所有については，「特定の在地有力者によって所有されていた」と指摘されており，集落における中心的な人物の住居と推測できる。時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第85図 第2534号住居跡出土遺物実測図

第2534号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
136	須恵器	坏	13.2	3.7	6.9	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	100% PL33
137	須恵器	坏	13.2	4.2	7.4	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	下層	70% 煤付着 PL33
138	須恵器	高台付坏	[10.2]	5.0	6.3	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	須恵器	甌	-	(20.5)	(12.9)	長石・雲母	暗灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	下層	40% PL34

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP7	灰釉陶器	壺	緻密	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	釘	(7.5)	1.0	0.7	(8.2)	鉄	頭部及び下端部欠損	下層	PL37
M30	鋤先	9.7	8.1	1.2	63.0	鉄	U字型鋤	床面	PL38

第2535号住居跡（第86図）

位置 調査区中央部のM12i8区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4136・4137・4164号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.17m，短軸3.94mの方形で，主軸方向はN - 82° - Wである。壁高は20～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。南壁下の一部に幅15cm，深さ5cmで，U字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 西壁の南寄りに付設されている。火床部と煙道部が残っているだけである。規模は，焚口部から煙道部まで158cmである。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめた部分にローム土を主体とする第13～18層を充填し使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に105cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	砂粒少量，ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗褐色	砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量	13 褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
7 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	15 明褐色	ローム粒子多量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	16 明赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
		17 赤褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
		18 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

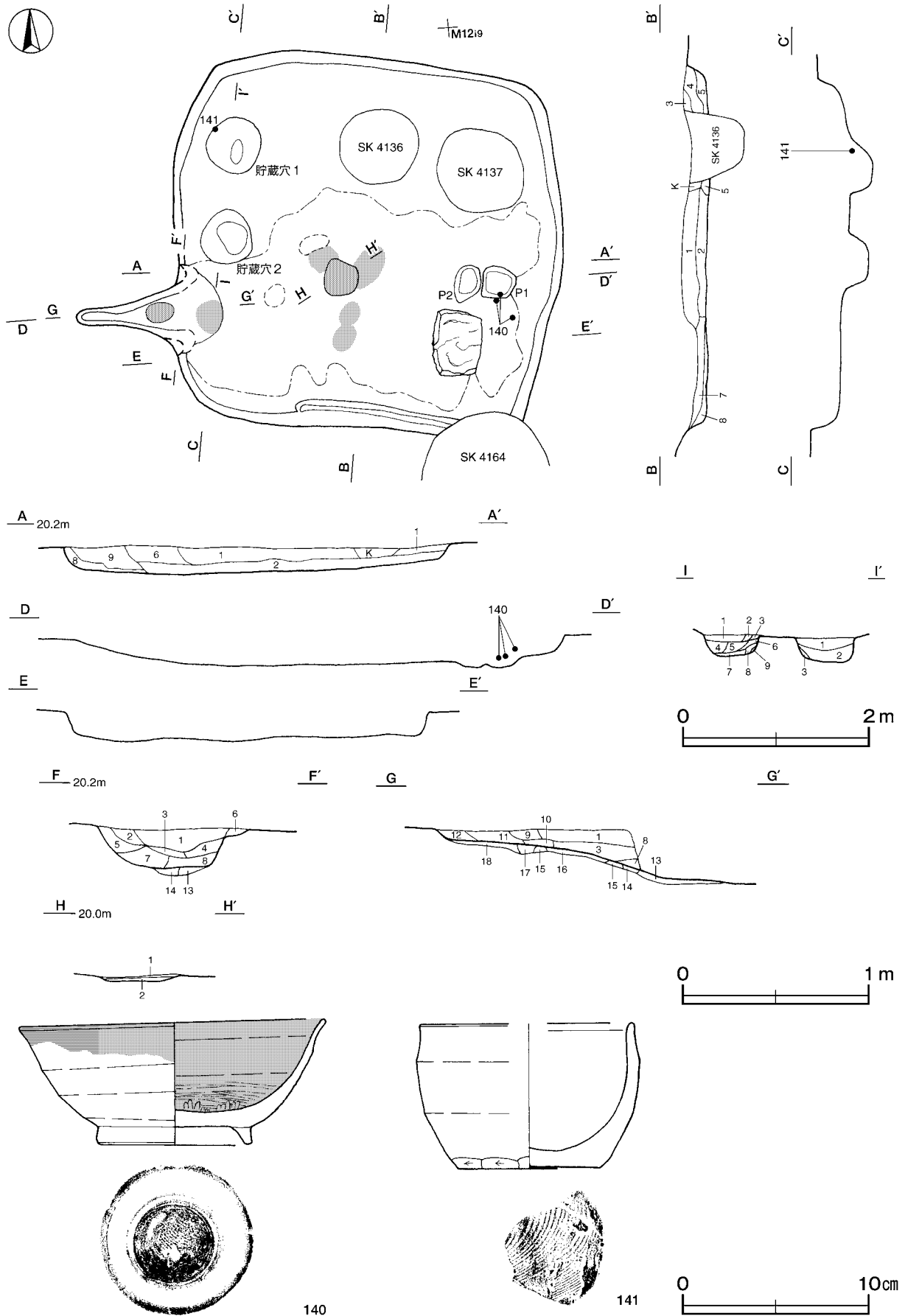
炉 中央部やや南西寄りに位置している。長径45cm，短径42cmの不定形で，床面を3cmほど掘り込んだ地床炉である。炉の周りには，炭化粒子や焼土粒子の塊が数箇所確認できる。

炉土層解説

1 にぶい赤褐色	焼土粒子多量	2 褐色	ローム粒子多量
----------	--------	------	---------

ピット 2か所。P1・P2は深さ8～10cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1，貯蔵穴2は，ともに北西のコナ部に位置している。貯蔵穴1は，直径が58cmの円形で，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は直立している。貯蔵穴2は，長径58cm，短径50cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は直立している。覆土は貯蔵穴1がブロック状の堆積状況を示した人為堆積であり，貯蔵穴2は各層にロームブロックを含む人為堆積である。



第86图 第2535号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴1土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 3 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 7 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 8 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量
- 9 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片236点（坏28，高台付坏64，小皿1，鉢1，甕類142），灰釉陶器片1点（瓶）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。141は北西コーナー部の床面から出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、140は出入り口ピット付近の覆土下層から出土した破片が接合したもので、住居の廃絶後に遺棄されたものと考えられる。また、南東コーナー部の床面からは縦74cm，横56cm，厚さ10cmの雲母片岩が出土している。

所見 当遺跡では、炉と竈を有している住居跡の調査例は11軒ある。炉の周りからは焼土・炭化材が出土している。雲母片岩は金床石の可能性もあるが、鍛冶に関わる遺物の出土はない。時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。

第2535号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	高台付椀	16.3	6.8	8.1	長石	にぶい黄橙	普通	体部内面へラ磨き 底部回転系切り後高台貼り付け	下層	90%
141	土師器	鉢	[11.4]	5.0	[6.3]	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端へラ削り 底部回転系切り	床面	25%

第2536号住居跡（第87図）

位置 調査区北東部のN12b8区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南側部分は調査区域外に延びているため，東西軸4.05m，南北軸は3.01mが確認された。形状は，方形または長方形と推測される。主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は5～8cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。東壁の一部を除いた壁下からは幅12～28cm，深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 耕作により削平されており，火床面が確認できるだけである。規模は，焚口部から煙道部まで55cmである。火床部は深さ4cmほどの皿状を呈し，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁外への掘り込みは確認されておらず，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 砂粒少量, ローム粒子微量
- 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は主柱穴で，深さは38～63cmである。

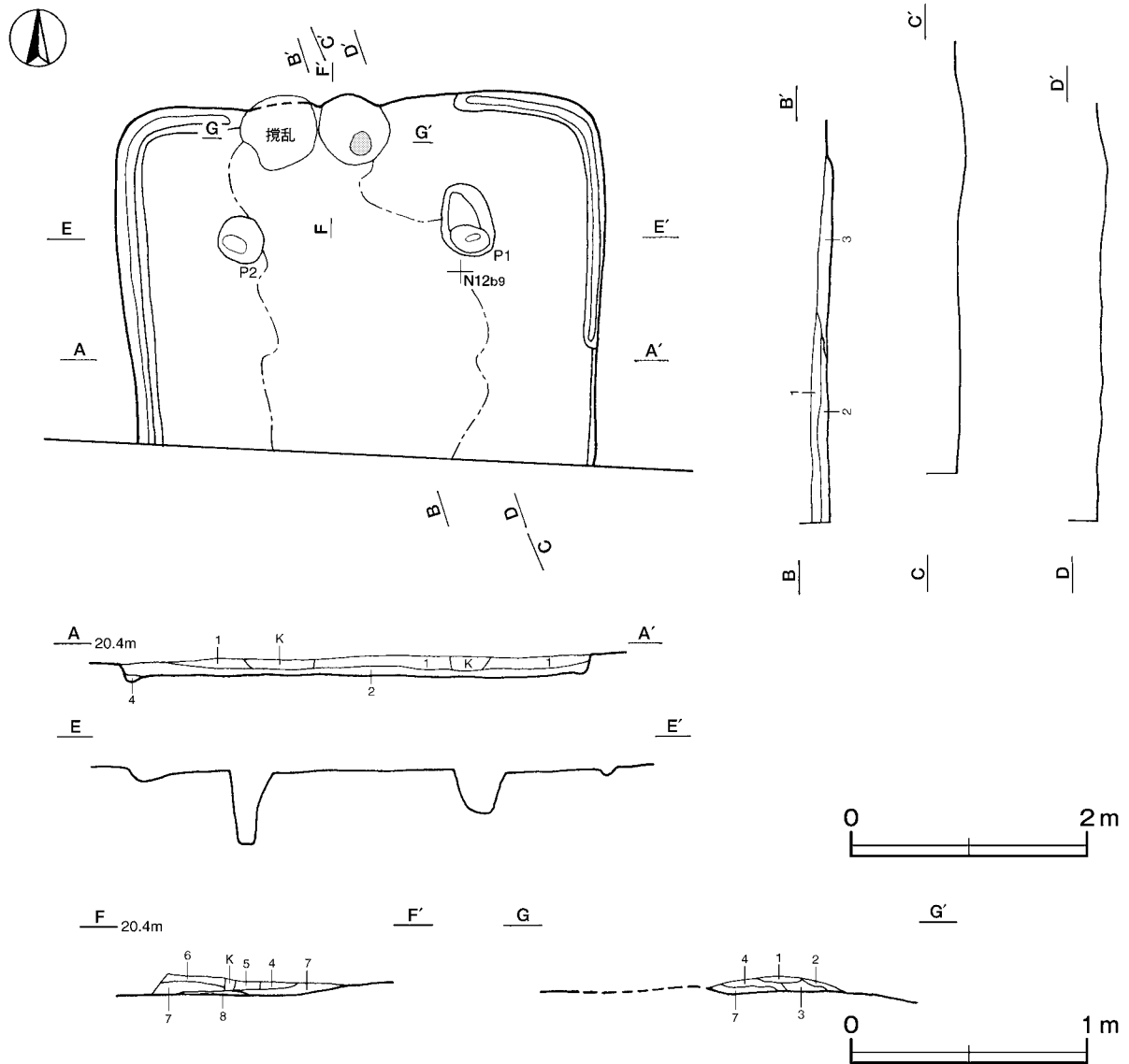
覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量 | 5 灰黄褐色 砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片18点(坏2, 甕類16), 須恵器片4点(坏1, 甕類3)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており, そのほとんどが細片である。

所見 時期は, 出土土器や住居の規模, 主軸方向から9世紀代と考えられる。



第87図 第2536号住居跡実測図

第2537号住居跡 (第88~90図)

位置 調査区南東部のM12g7区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2550号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.69m, 短軸3.42mの方形で, 主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は54~68cmで, 壁はほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には幅18~35cm, 深さ13~15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、上部は第2550号住居に削平されている。規模は、推定で焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅134cmである。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・灰微量	12 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量
3 にぶい橙色	灰多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	13 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 極暗褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5 にぶい赤褐色	灰多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	15 明褐色	ローム粒子多量
6 にぶい橙色	灰多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子少量
7 極暗赤褐色	灰中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	17 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
8 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰少量	18 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
9 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 褐色	ロームブロック多量
10 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	20 褐色	ロームブロック中量

ピット 深さ24cmで、南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コ - ナ - 部に位置している。長径60cm、短径46cmの楕円形で、深さは17cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、ロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化物微量	3 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 23層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

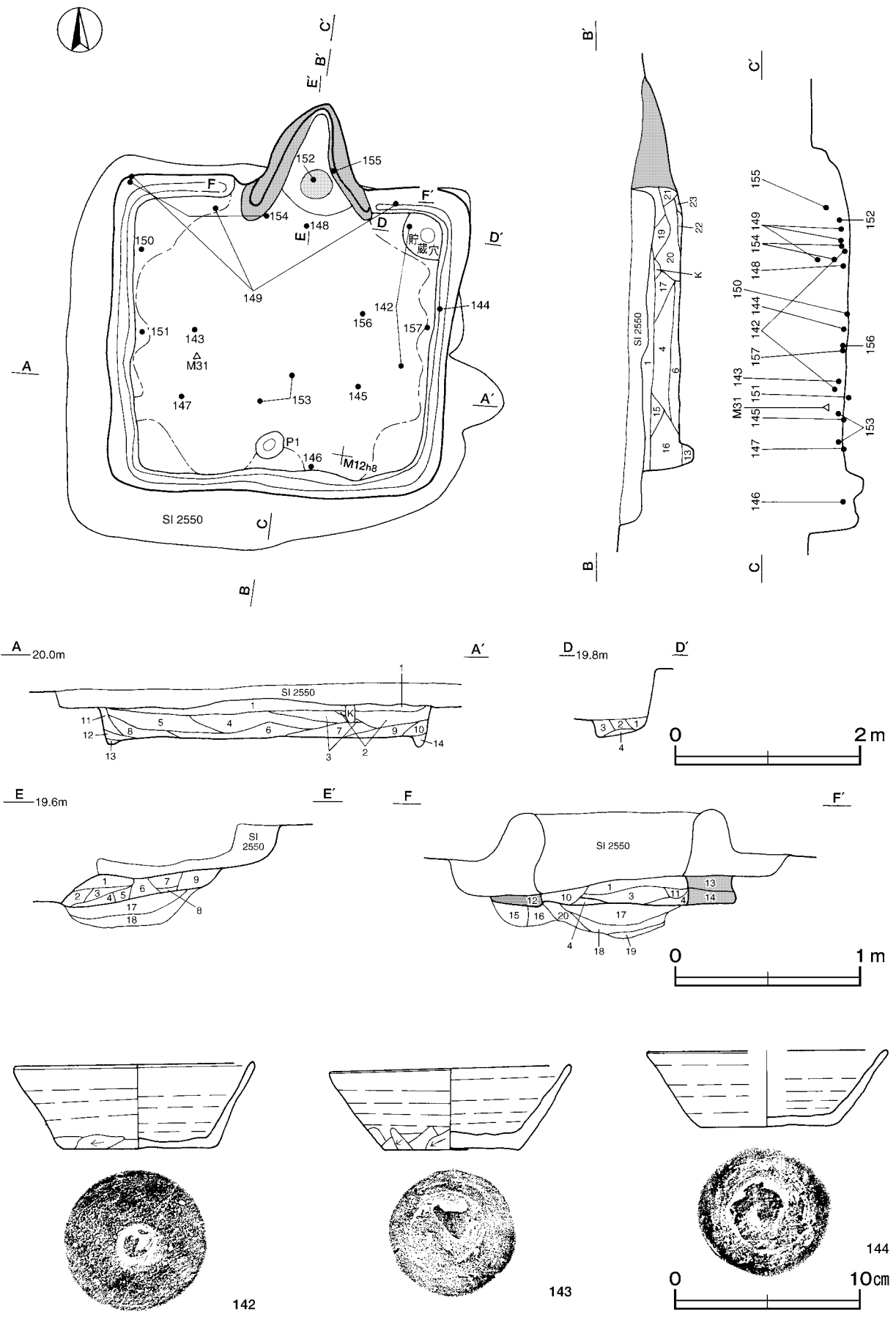
土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	12 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
5 黒褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	16 黒褐色	ローム粒子少量
6 褐色	ローム粒子中量	17 褐色	ロームブロック多量
7 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック多量
8 褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量
10 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	21 赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	22 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
		23 暗褐色	ローム粒子少量

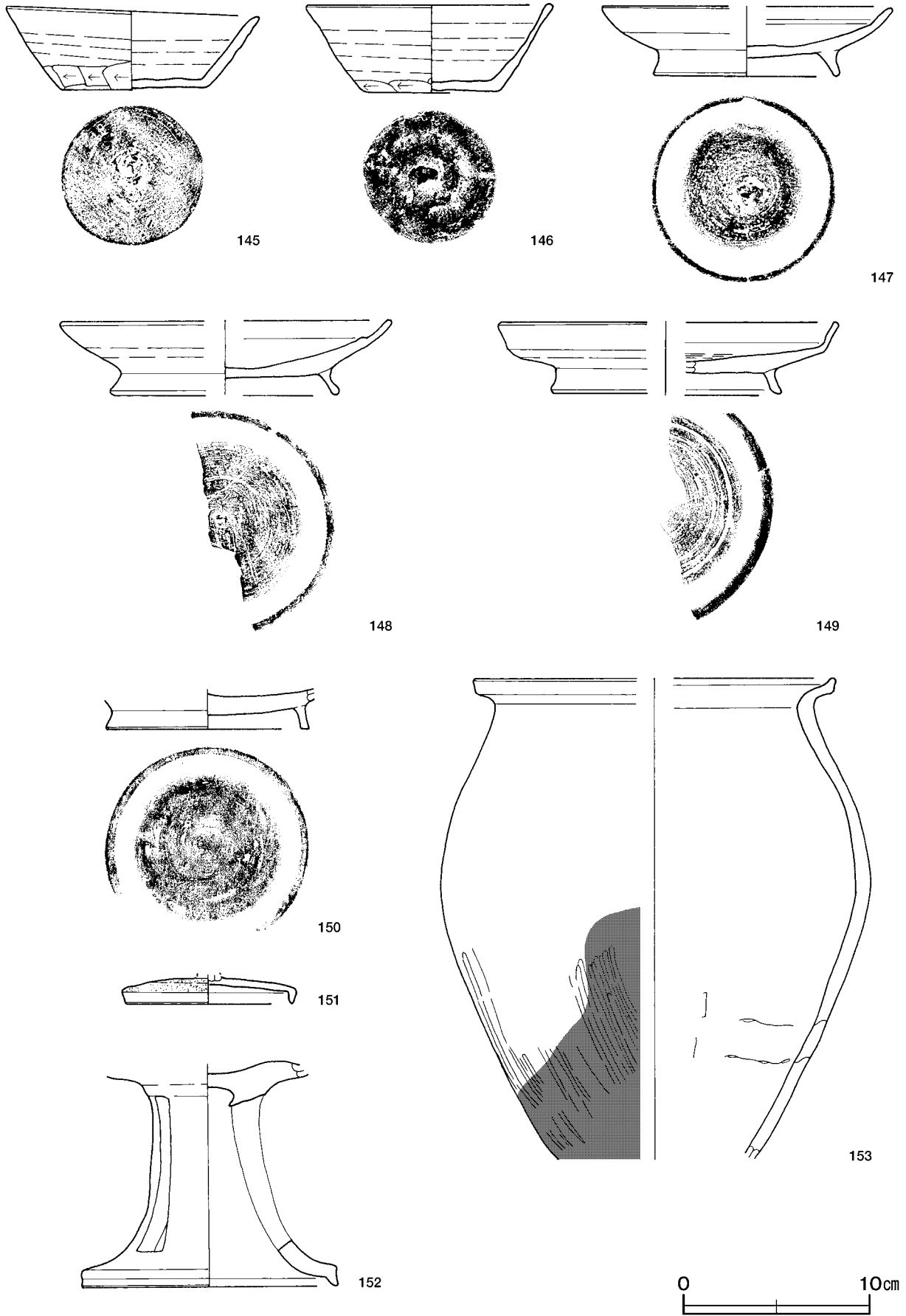
遺物出土状況 土師器片196点(坏12, 甕類184), 須恵器片13点(蓋4, 盤1, 甕類8)が全体から出土している。156・145は中央部東寄り, 147は中央部西寄り, 152は竈火床面, 157は東壁際, 150・151は西壁際のいずれも床面から出土している。住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。142・149・153・154は覆土下層から出土した破片が接合したもので、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。150の盤は、底部が硯に転用されている。152の高盤は出土位置から支脚として用いられたものと考えられる。M31は覆土中層からの出土である。
所見 転用硯の出土から、文書事務関係の人の存在を推測することができる。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2537号住居跡出土遺物観察表 (第88 ~ 90図)

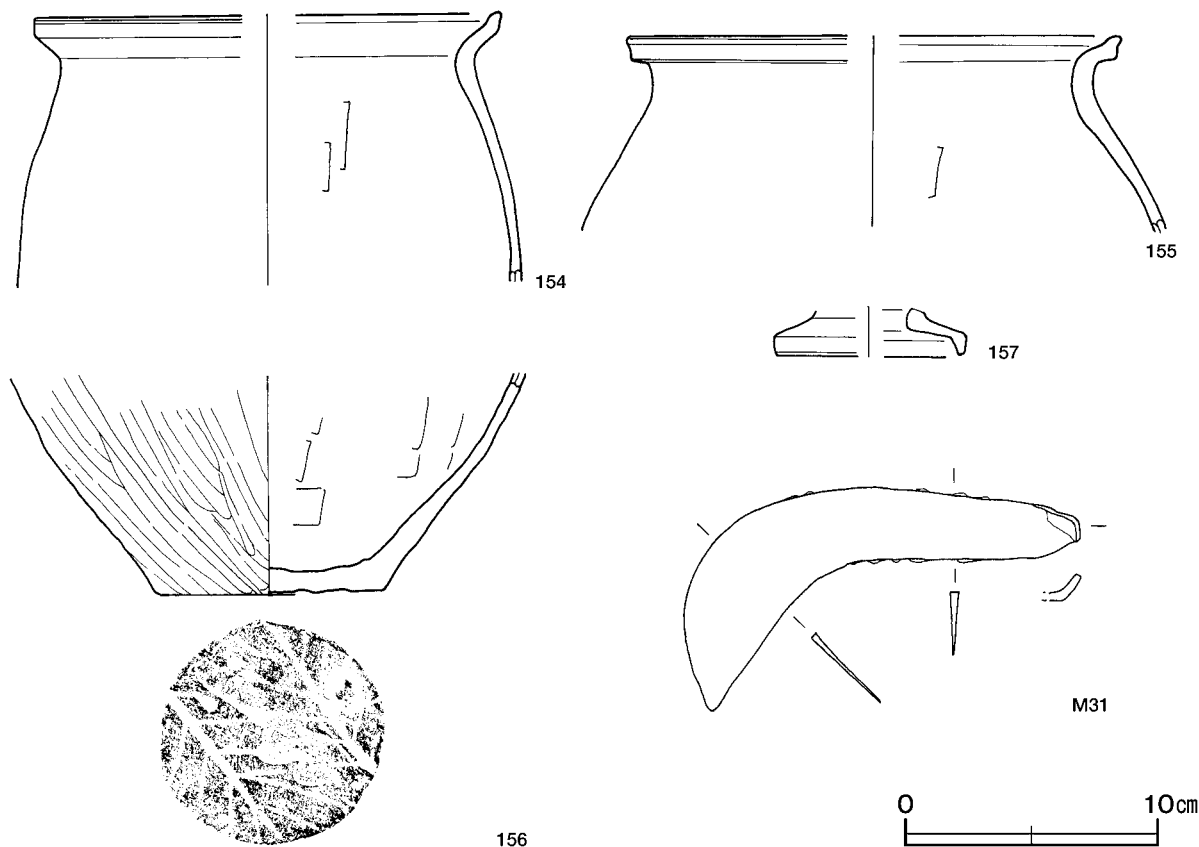
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
142	須恵器	坏	12.7	4.6	8.2	長石・雲母	灰色	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	下層	95% PL33
143	須恵器	坏	13.0	4.6	7.3	長石・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	95% PL33
144	須恵器	坏	[13.0]	4.1	7.3	長石・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	下層	80% PL33
145	須恵器	坏	13.4	4.5	8.0	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	75% PL33
146	須恵器	坏	13.2	4.8	7.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	下層	90% PL33



第88图 第2537号住居跡・出土遺物実測図



第89图 第2537号住居跡出土遺物実測図(1)



第90図 第2537号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	須恵器	盤	[15.4]	3.8	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	70% PL35
148	須恵器	盤	[17.5]	4.0	[11.7]	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	40%
149	須恵器	盤	[18.1]	3.9	[12.1]	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中・下層	45%
150	須恵器	盤	-	(2.1)	10.8	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	底面	50% 転用硯
151	須恵器	蓋	8.8	(1.5)	-	長石	灰黄褐	普通	天井部ヘラ切り	床面	80% 自然釉付着 PL35
152	須恵器	高盤	-	(12.2)	13.6	長石・石英・雲母	灰	普通	脚部にヘラ切りによる透かし3か所	竈火床面	50% PL34
153	土師器	甕	[19.2]	(26.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部下端ヘラ磨き 内面輪種痕	下層	30% 煤付着
154	土師器	甕	[18.5]	(10.7)	-	長石・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	下層	10%
155	土師器	甕	[19.4]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内面横ナデ 内面ヘラナデ	竈中層	10%
156	土師器	甕	-	(8.7)	8.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下位ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 木葉痕	床面	15%
157	土師器	不明	-	(1.9)	[7.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	脚部内・外面横ナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	鎌	15.6	4.4	0.3	74.2	鉄	基部一部欠損	中層	PL38

第2538号住居跡 (第91・92図)

位置 調査区中央部のM12g6区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

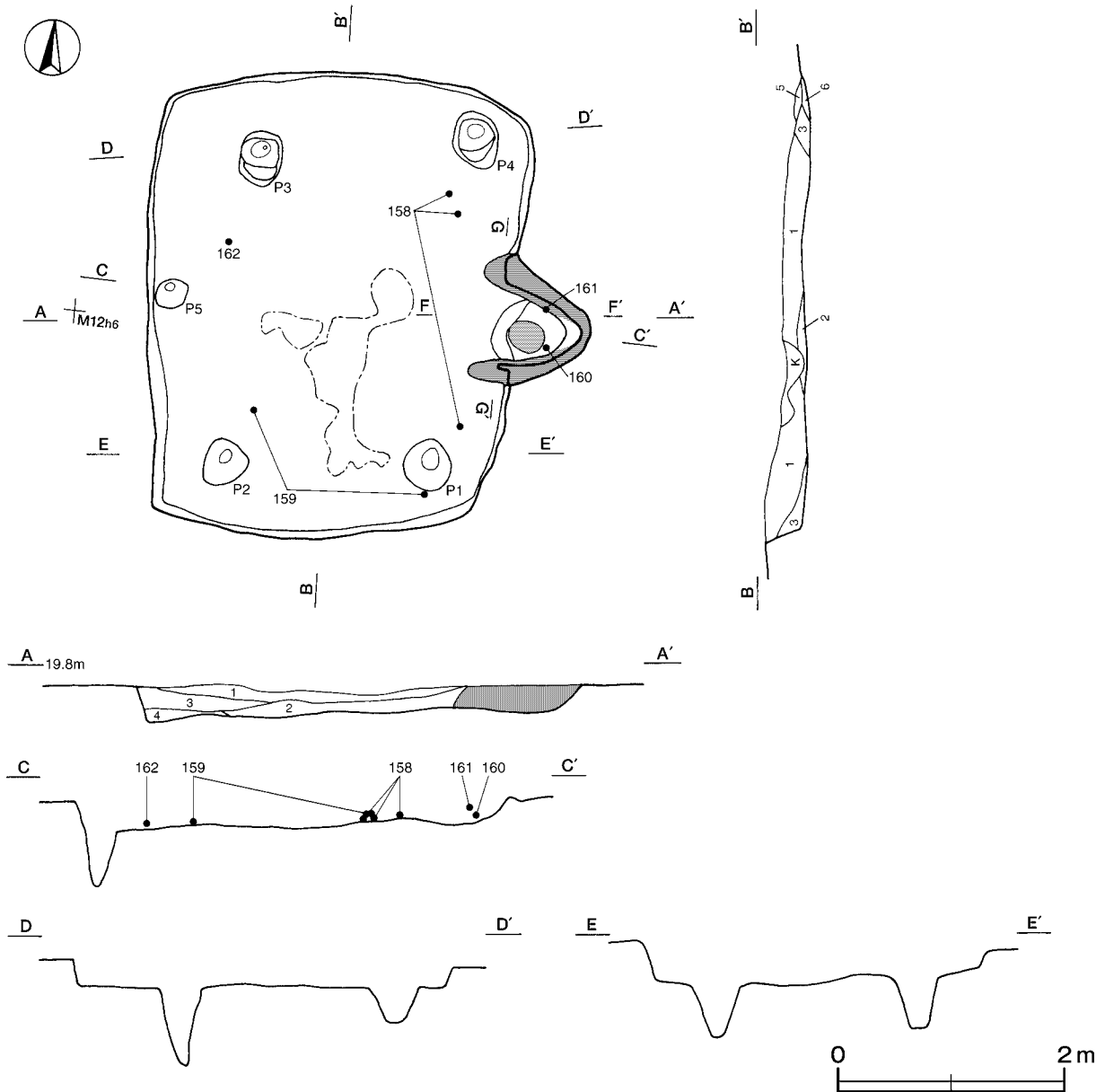
規模と形状 長軸4.10m, 短軸3.24mの長方形で, 主軸方向はN - 86° - Eである。壁高は16~34cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から南部にかけての一部が踏み固められている。

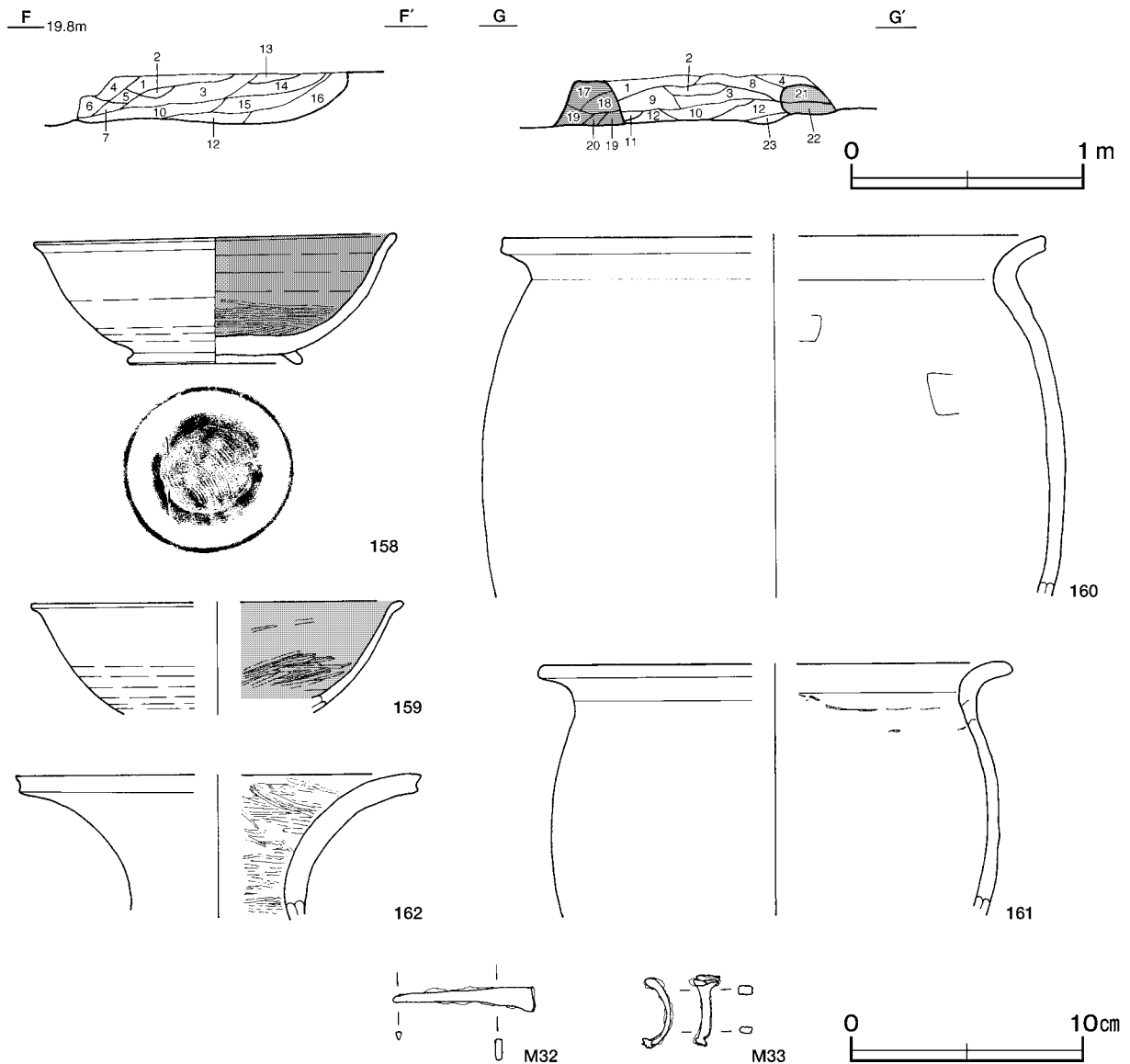
竈 東壁中央部に付設されている。規模は、焚口から煙道部まで65cmである。袖部は、地山の上に砂質粘土を主体とした第17～22層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に53cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第15層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量 | 15 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土ブロック多量，炭化粒子微量 | 18 にぶい黄褐色 | 炭化物・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 20 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量 | 21 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量 |
| 10 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 12 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | | |



第91図 第2538号住居跡実測図



第92図 第2538号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さ31～70cmである。P5は深さ52cmで、西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土ブロック少量、
ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片209点（坏38，高台付坏11，甕類159，壺1），鉄製品2点（刀子，釘カ）が出土している。また、流れ込んだ須恵器片7点も出土している。158は竈周辺の床面から出土した破片が接合したもので、住居の廃絶時に投棄されたものと考えられる。159は南壁際寄りの覆土下層から出土した破片が接合したもので、160・161は竈の覆土下層から中層，M32・33は覆土中からそれぞれ出土したもので、いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。

第2538号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	土師器	高台付椀	15.4	5.6	7.2	長石・石英	黒	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転系切り後高台貼り付け	床面	95% PL34
159	土師器	高台付椀	[15.8]	(4.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部摩滅 体部内面縦方向の磨き後横方向の磨き	下層	30%
160	土師器	甕	[23.2]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈下層	20%
161	土師器	甕	[20.0]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面輪積痕	竈中層	15%
162	土師器	壺	[17.6]	(6.1)	-	長石・雲母	褐色	普通	口辺部外面横ナデ 内面ヘラ磨き	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	刀子	(6.1)	1.1	0.4	(5.7)	鉄	茎部欠損	覆土中	PL37
M33	釘力	(3.1)	1.4	0.4	(2.9)	鉄	頭部及び下端部先端欠損 体部彎曲	覆土中	PL38

第2539号住居跡（第93図）

位置 調査区南東部のM12f4区、標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸は2.98m、短軸は2.91mの方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前部から南西部に向かって踏み固められている。

竈 東壁中央部やや南側に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで118cm、袖部幅93cmである。袖部は地山に黒褐色土の第24層を突き固めて基部とし、砂質粘土混じりのローム土を主体とする第20~23層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4・6・7層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	14 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量
3 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	16 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	17 黒褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	18 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	19 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
7 黒褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	20 黒褐色	焼土粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	21 にぶい褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 焼土粒子微量
9 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
10 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	23 赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
11 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	24 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
12 黒褐色	焼土粒子少量、砂質粘土ブロック微量	25 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
13 極暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

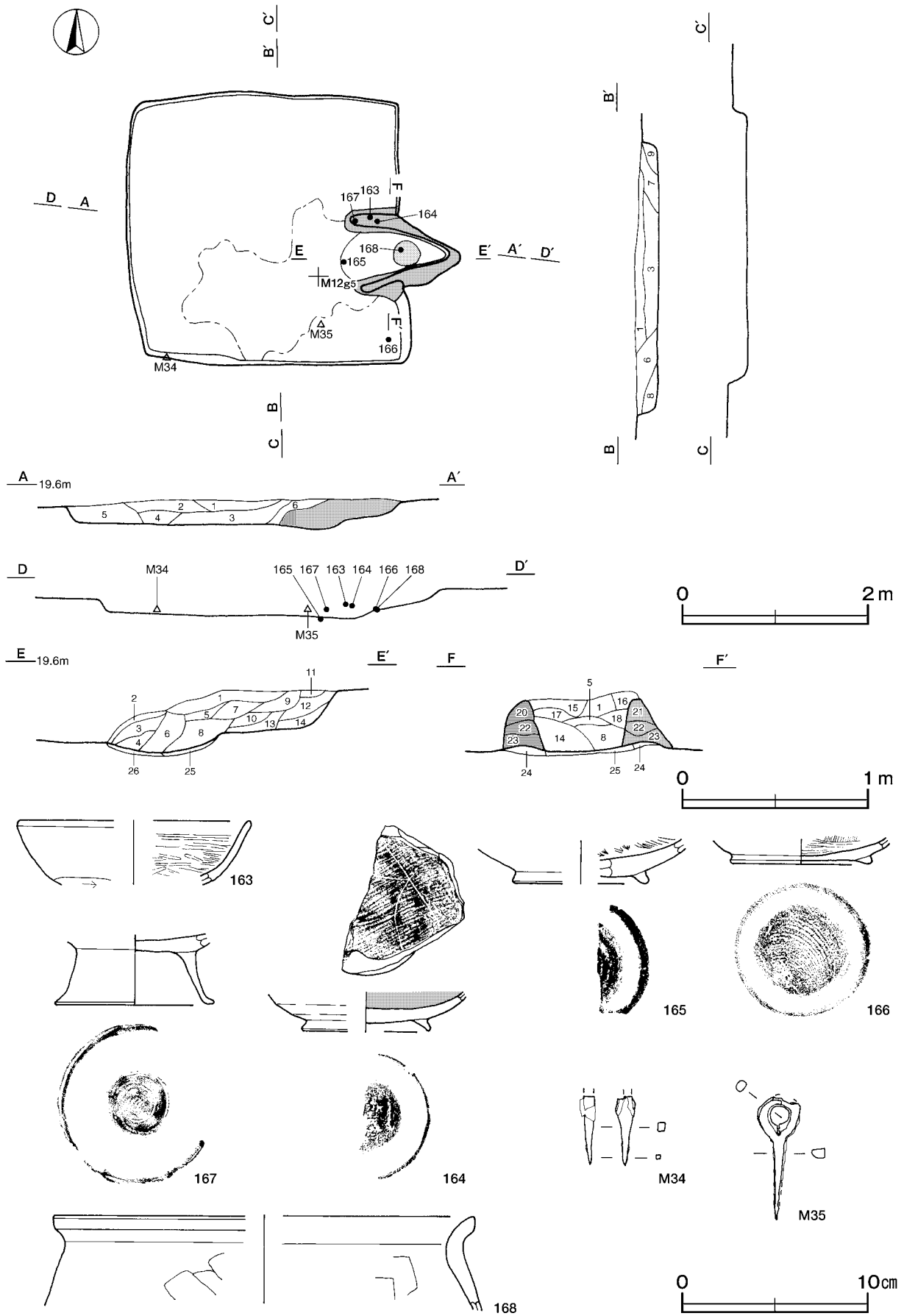
覆土 9層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	7 黒色	炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒少量、ローム粒子微量	8 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量
4 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 黒色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片44点（坏37、高台付坏6、足高高台付椀1）、鉄製品2点（釘、留金具力）が、竈前部を中心に出土している。165は竈前部、166は南東コーナー部のいずれも床面から出土しており、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。164・167は竈左袖部の覆土上層から出土しており、袖部の補強材として用いられたものと考えられる。M34は南西コーナー部、M35は中央部やや南寄りのそれぞれ覆土下層から出土しており、出土遺物は破片が多いことから、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から11世紀前半と考えられる。



第93图 第2539号住居跡・出土遺物実測図

第2539号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	坏	[12.4]	(3.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	5%
164	土師器	高台付坏	-	(2.1)	[6.7]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	竈袖部	10% ヘラ書き「大力」 PL36
165	土師器	高台付坏	-	(2.4)	[7.2]	長石・石英・礫	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り後高台貼り付け	床面	5%
166	土師器	高台付坏	-	(1.5)	7.7	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	床面	5%
167	土師器	足高高台付椀	-	(3.8)	8.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け 脚部内・外面ヘラナデ	竈袖部	10%
168	土師器	甕	[20.6]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り後ナデ 体部内面ヘラナデ	竈火床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	釘	(3.7)	0.6	0.5	(4.8)	鉄	角釘 頭部欠損	下層	
M35	止金具力	6.6	2.3	0.6	(16.6)	鉄	頭部一部欠損	下層	PL37

第2540号住居跡（第94・95図）

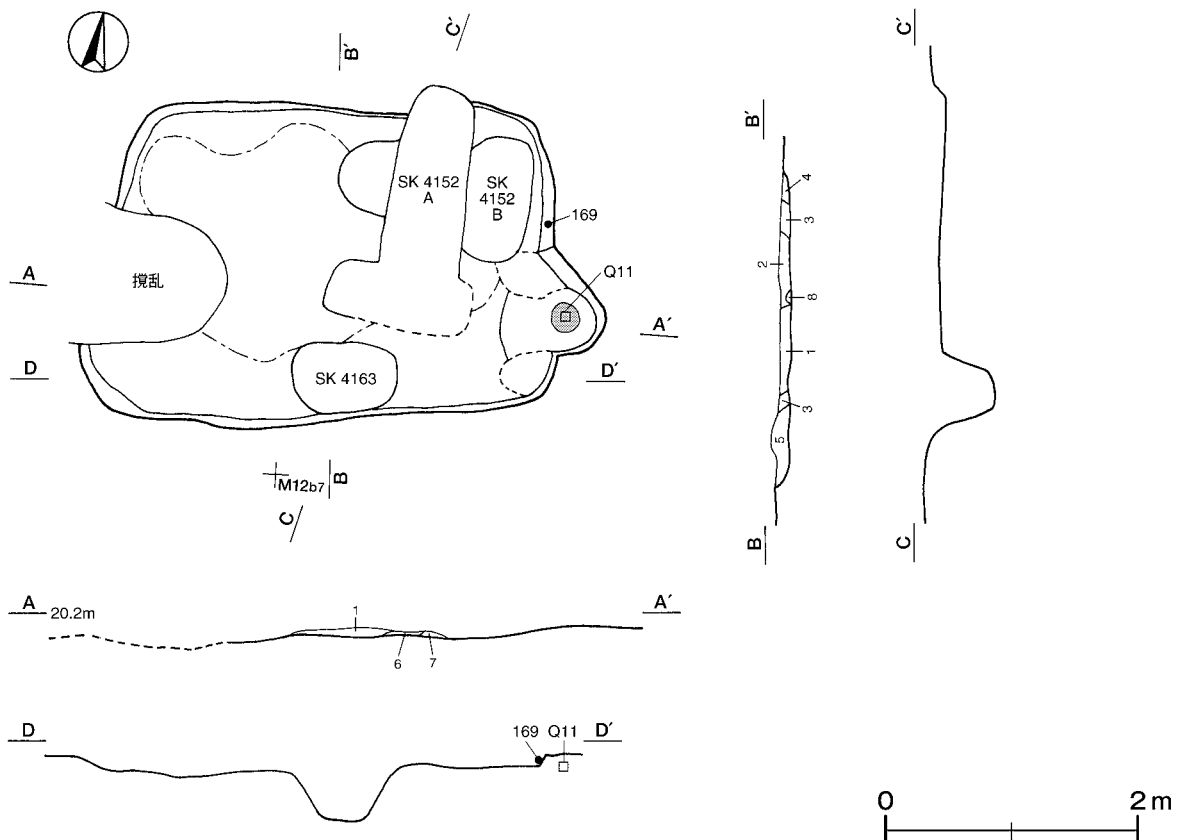
位置 調査区南西部のN12a7区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4152A・4152B・4163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西壁が攪乱を受けているため、長軸3.78m、短軸2.50mの長方形と推定される。主軸方向はN-88°-Eである。壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cmで、袖部は遺存しておらず、火を受けて赤変硬化している火床面を検出できた。煙道部は壁外に40cm掘り込まれている。



第94図 第2540号住居跡実測図

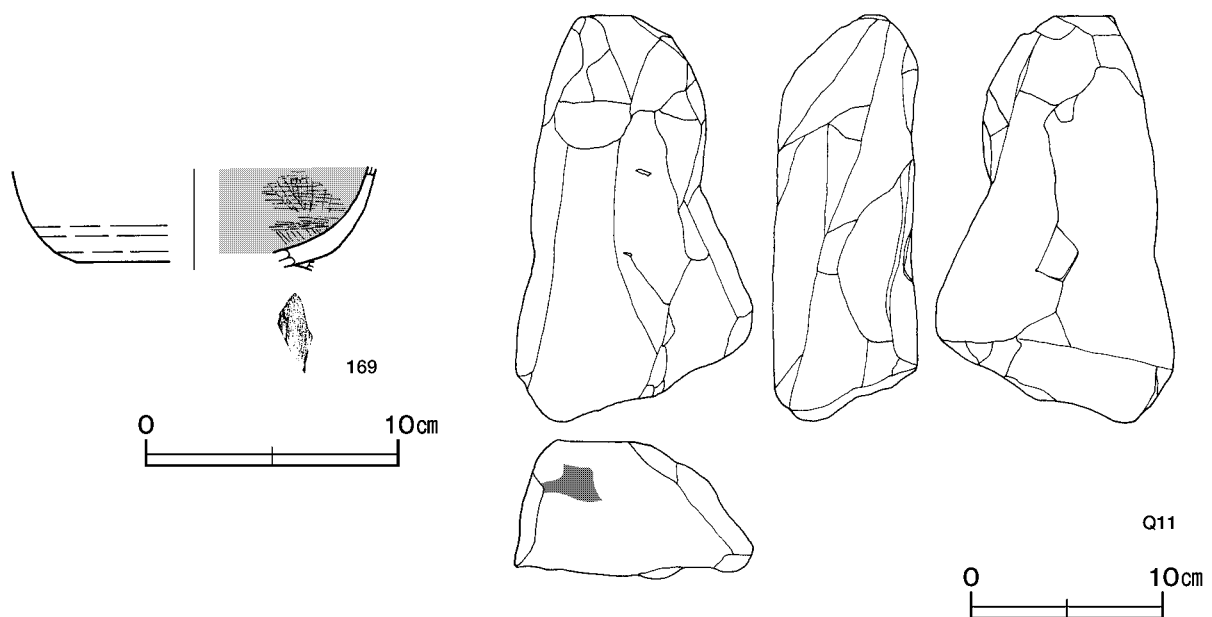
覆土 8層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量,ロームブロック微量 | 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 赤褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片11点(高台付椀1,甕類10),石2点(支脚,袖部補強材),流れ込みと思われる須恵器片2点が出土している。Q11は竈火床面から出土しており,煤が付着していることから,支脚として用いられたものと推測でき,住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。169は東壁中央部の壁際下層から出土しており,住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は,出土土器や重複関係から10世紀後半と考えられる。



第95図 第2540号住居跡出土遺物実測図

第2540号住居跡出土遺物観察表(第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	高台付椀	-	(4.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面縦方向の磨き後横方向の磨き 底部回転系切り後高台貼り付け	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	支脚	21.5	12.5	7.7	2206.2	雲母片岩	火を受け赤変	竈火床面	煤付着

第2541号住居跡(第96・97図)

位置 調査区北東部のM12j5区,標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸は3.22m,短軸は3.05mの方形で,主軸方向はN-85°-Eである。壁高は6~8cmで,ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で,竈前部から中央部にかけて踏み固められている。北壁から西壁にかけて幅15cm,深さ4~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 東壁中央部のやや南寄りに付設されている。覆土が薄く袖部の一部と火床面だけが確認できる。規模は,

焚口部から煙道部まで50cm，袖部幅94cmである。袖部は，地山の上に砂質粘土を主体とした第5層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

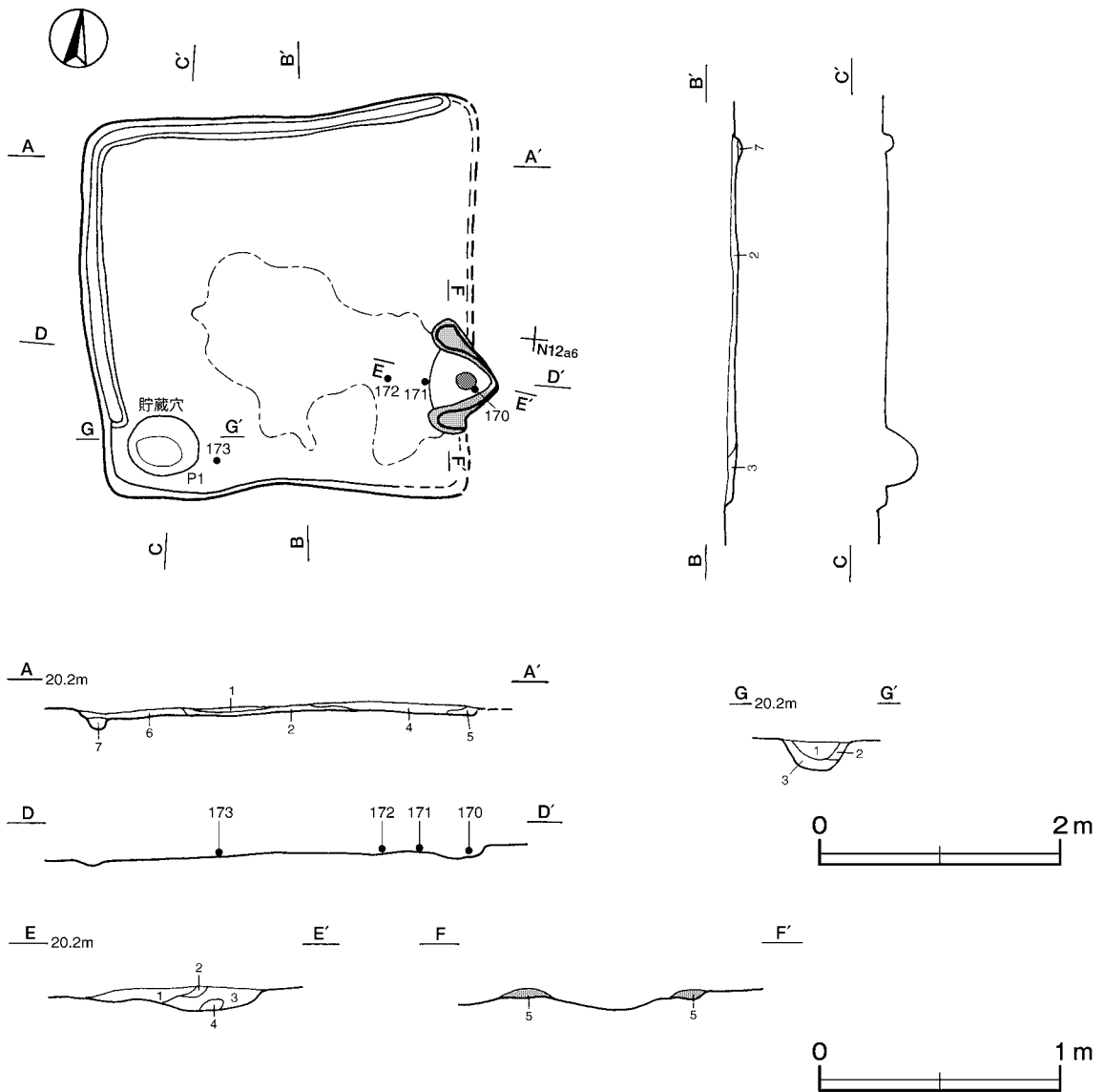
竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 砂粒多量，炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | |

貯蔵穴 南西コ・ナ・部に位置している。長径60cm，短径52cmの楕円形で，深さは27cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がり，ローム粒子を含む堆積状況から人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | |



第96図 第2541号住居跡実測図

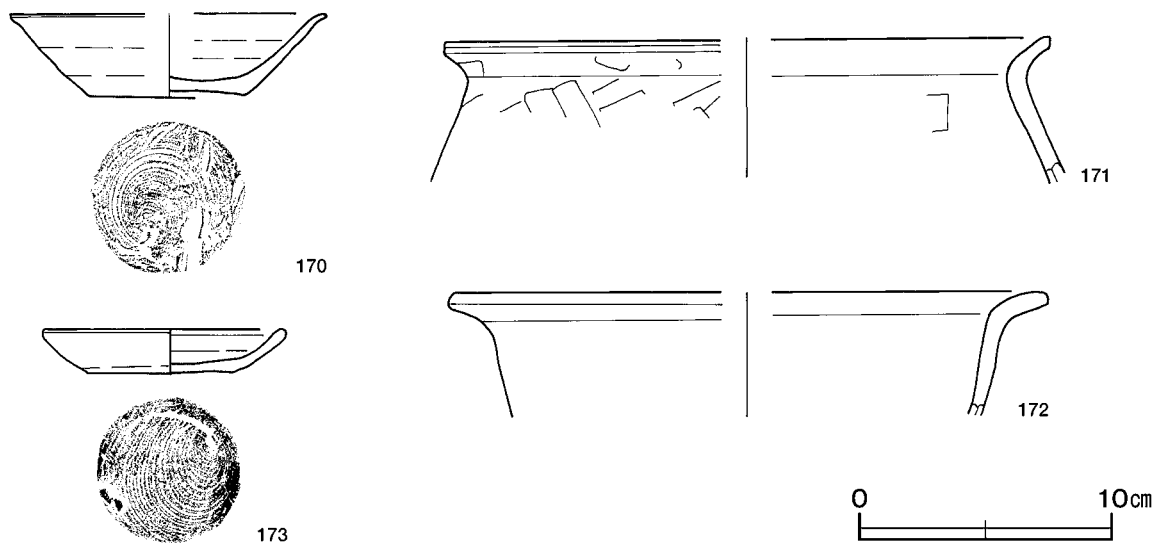
覆土 7層に分けられる。ローム粒子を含む堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片99点(坏4, 高台付椀1, 小皿1, 甕類93)が出土している。173は南西コーナー部壁際, 171・172は中央部やや東側の竈前部の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。170は竈火床面から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から11世紀前半と考えられる。



第97図 第2541号住居跡出土遺物実測図

第2541号住居跡出土遺物観察表(第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
170	土師器	坏	[12.5]	3.3	6.2	長石・雲母	灰褐	普通	底部回転糸切り	竈火床面	60%
171	土師器	甕	[24.0]	(5.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	5%
172	土師器	甕	[23.9]	(5.0)	-	赤色粒子・雲母	暗褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	5%
173	土師器	小皿	9.6	1.8	5.7	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	床面	100%

第2543号住居跡(第98~100図)

位置 調査区東部のM12i3区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.48m, 短軸3.20mの方形で, 主軸方向はN-73°-Eである。壁高は18~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

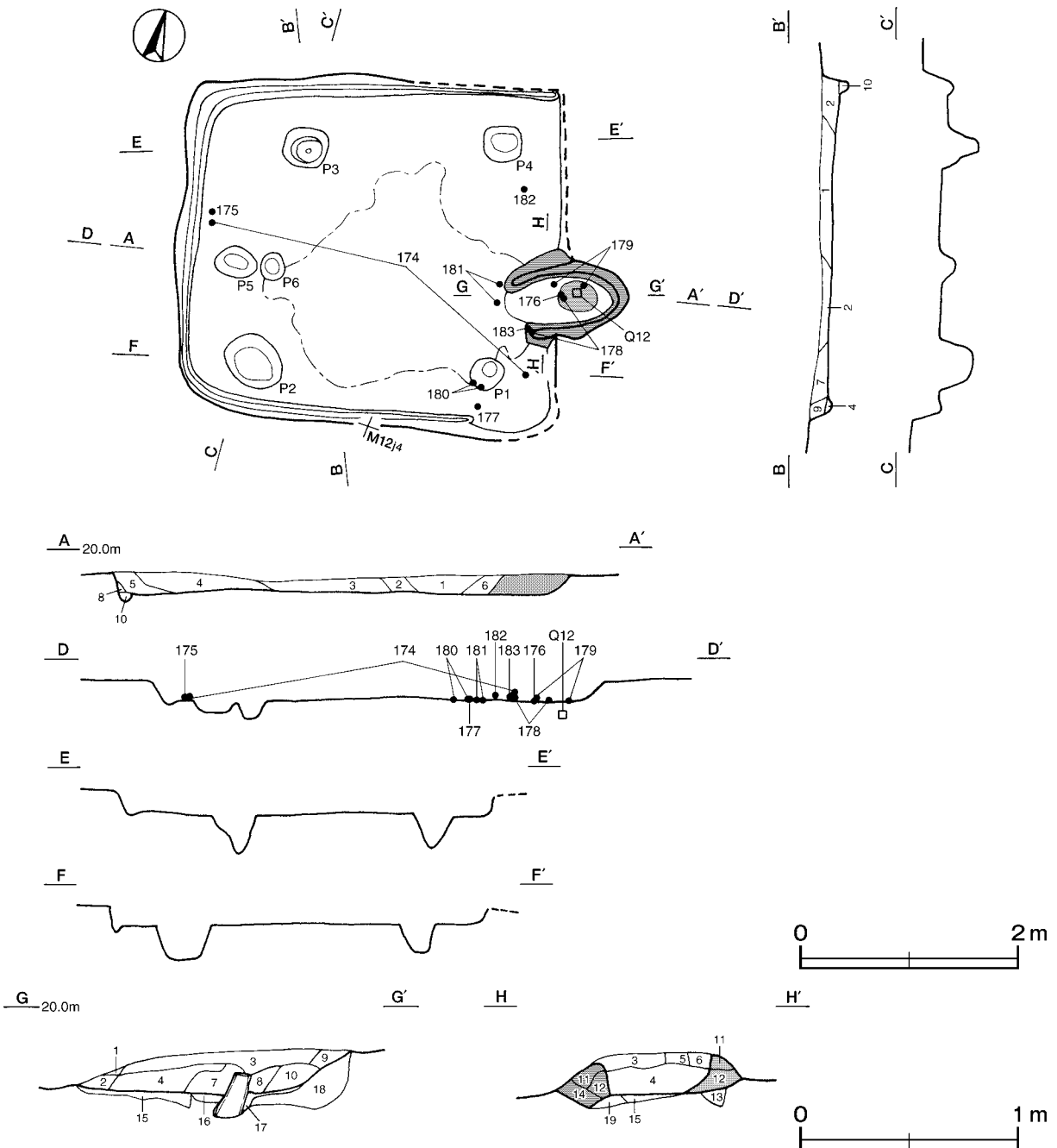
床 ほぼ平坦で, 壁際を除いた中央部が踏み固められている。東壁を除く壁下に幅11~15cm, 深さ6~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 東壁中央部のやや南寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで102cm, 袖部幅82cmである。袖部は地山を掘り込んだくぼみに砂質粘土混じりのローム土主体とする第13層を充填し基部として, その上に砂質粘土を主体とした第11・12・14層を積み上げて構築している。火床部は5cmほど掘りくぼめた部分にローム土を主体とした第15~19層を充填して使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外

に55cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・5層は天井部の崩落土層に相当する。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 18 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |



第98図 第2543号住居跡実測図

ピット 6カ所。P1～P4は主柱穴で、深さ27～38cmである。P5・P6は深さ11～18cmで、いずれも西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

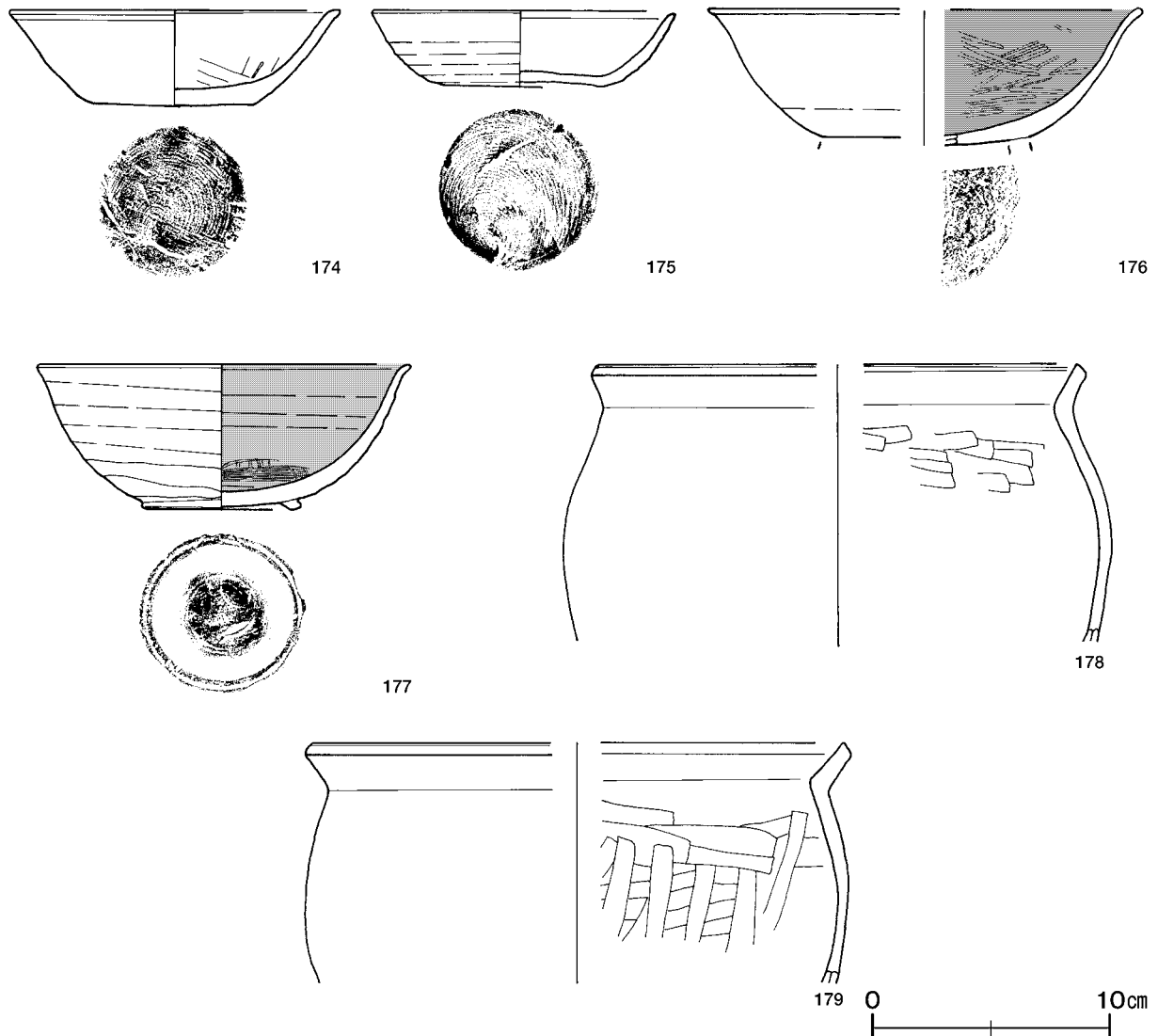
覆土 11層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

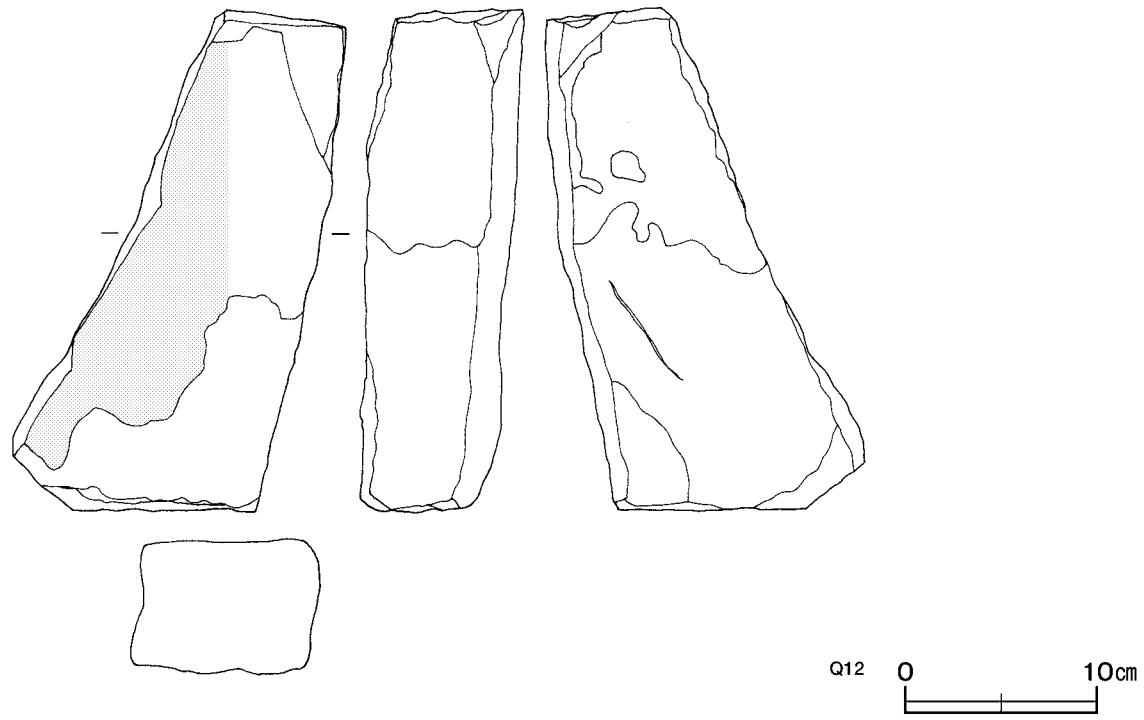
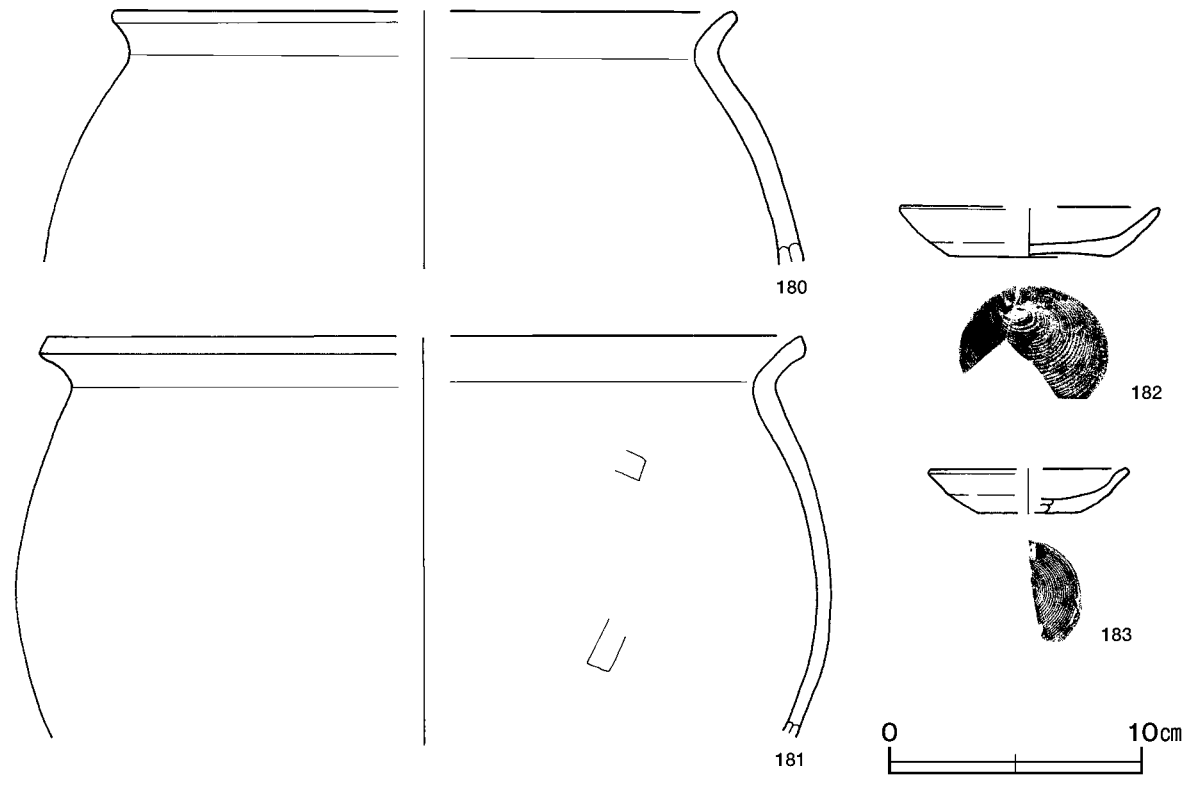
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 砂粒微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・砂粒微量 | | |

遺物出土状況 土師器片176点(坏14, 椀11, 高台付椀3, 甕類148), 石製品1点(支脚)が竈を中心に出土している。176・178・179は竈内の火床面から, 177は南東コーナー部の南壁際, 181は竈前部の床面から出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また, Q12竈火床面から出土しており, 火熱痕があることから支脚として利用されていたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から11世紀前半と考えられる。



第99図 第2543号住居跡出土遺物実測図(1)



第100図 第2543号住居跡出土遺物実測図(2)

第2543号住居跡出土遺物観察表 (第99・100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
174	土師器	坏	13.9	4.0	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	60% PL34
175	土師器	坏	12.6	3.3	6.7	赤色粒子・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	下層	95% PL35
176	土師器	高台付坏	[18.2]	(5.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	竈火床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
177	土師器	高台付椀	15.7	6.2	6.0	長石・石英	黒	普通	体部外面下端へラ削り後ナデ調整、内面へラ磨き、底部回転へラ切り後高台貼り付け	床面	80% PL34
178	土師器	甕	[20.4]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈火床面	10%
179	土師器	甕	[22.3]	(10.1)	-	石英・雲母	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈火床面	10%
180	土師器	甕	[24.4]	(10.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	10%
181	土師器	甕	[30.0]	(16.0)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面へラナデ	床面	15%
182	土師器	小皿	[10.3]	2.0	6.3	赤色粒子・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	下層	55%
183	土師器	小皿	[7.8]	1.8	[4.0]	長石	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	支脚	26.7	13.7	8.9	4461.5	雲母片岩	火を受け赤変	竈火床面	

第2544号住居跡（第101図）

位置 調査区南東部のM12g2区、標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2533号住居跡を掘り込み、第4138号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m、短軸2.76mの長方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から北東部にかけて踏み固められている。南壁から西壁の壁下からは、幅10~13cm、深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 東壁中央部のやや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで70cm、袖部幅75cmである。左袖部は攪乱のためわずかしか遺存していないが、右袖部は地山の上に砂質粘土を主体とした第12~14層を積み上げて構築している。火床部は、地山を10cmほど掘り込んだくぼみに焼土混じりのローム土を主体とした第15~18層を充填して使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第2・4層は天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10 黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック微量	11 黒褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化物微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量	14 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	15 褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	16 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量	17 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9 にぶい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	18 黒褐色	焼土粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ12cmで、西壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ26cmで、性格は不明である。

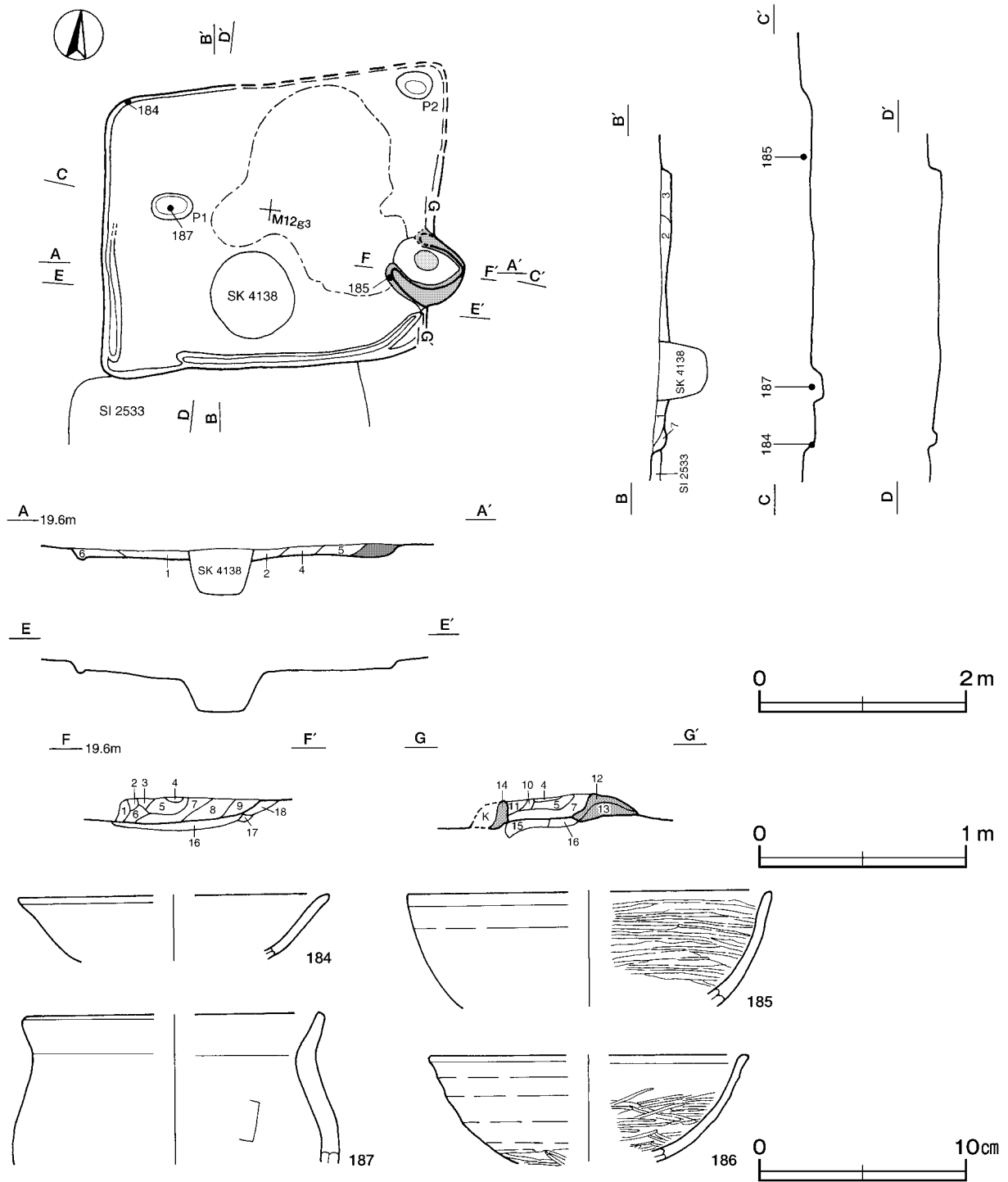
覆土 7層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片73点（坏5，椀22，高台付椀4，甕類42）が出土している。184は北西コーナー部壁際の床面から出土し、住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。185は竈の南側の覆土下層，186は竈覆土中，187はP2の覆土中から出土しており、それぞれ住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から11世紀前半と考えられる。



第101図 第2544号住居跡・出土遺物実測図

第2544号住居跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
184	土師器	坏	[15.0]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面口クロナデ	床面	15%
185	土師器	椀	[17.5]	(5.6)	-	長石	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	下層	15%
186	土師器	椀	[15.4]	(5.2)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	体部内外面ヘラ磨き	竈覆土中	15%
187	土師器	甕	[13.8]	(7.3)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	P 2 覆土中	10%

第2545号住居跡 (第102・103図)

位置 調査区中央部のM12g2区、標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2533号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北壁が第2533号住居に掘り込まれており、南北軸は3.35m、東西軸2.62mだけが確認された。長方形と推定され、主軸方向はN - 19° - Wである。壁高は6 ~ 26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北壁から南壁の中央までの壁下には幅10 ~ 14cm、深さ6cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

貯蔵穴 南東コナ部に付設されている。直径が50cmほどの円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、ロームブロックを含む人為堆積の状況である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・灰少量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量 |
|-------------------|-----------------|

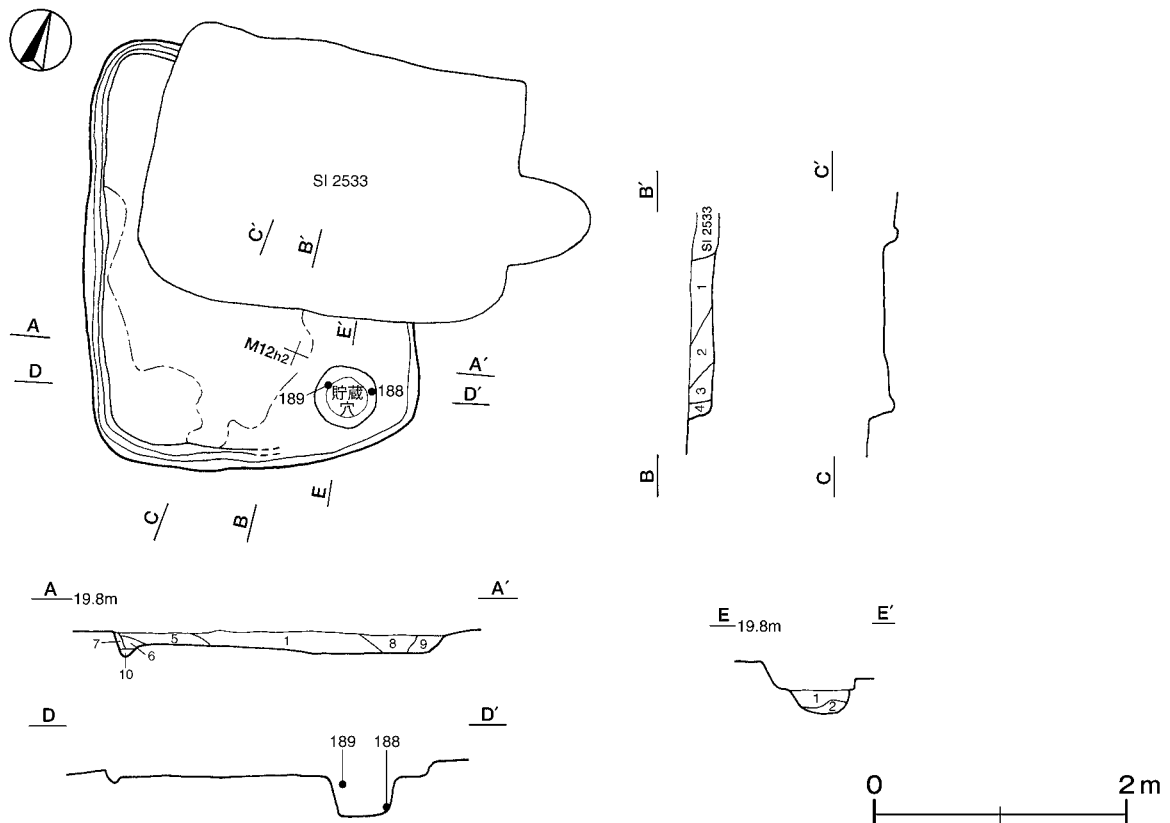
覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況である。

土層解説

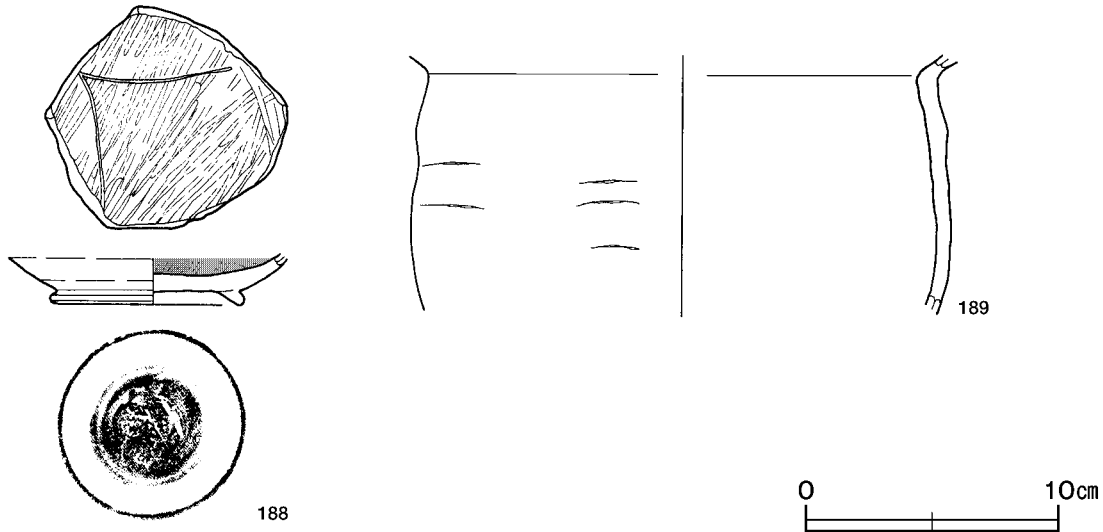
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片16点(坏7, 高台付椀1, 甕類8)が出土している。層厚が薄く遺物のほとんどが細片である。188は貯蔵穴の底面から出土しているが破片のため、廃棄されたものと考えられる。また、189は貯蔵穴の覆土下層から出土しており、住居の廃絶後に貯蔵穴が埋まる途中で廃棄されたものと考えられる。189の内面には「大」と思われるヘラ書きが施されている。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀後半と考えられる。



第102図 第2545号住居跡実測図



第103図 第2545号住居跡出土遺物実測図

第2545号住居跡出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
188	土師器	高台付杯	-	(2.0)	7.4	雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内面へら磨き 底部回転へら切り後高台貼り付け	貯蔵穴底面	20%、へら書き「大力」PL36
189	土師器	甕	-	(10.3)	-	長石・石英	黒褐色	普通	体部外面輪積痕	貯蔵穴覆土中	15%

第2546号住居跡（第104・105図）

位置 調査区北東部のN12g1区，標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.24m，短軸3.68mの長方形で，主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は40～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅12～20cm，深さ6～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

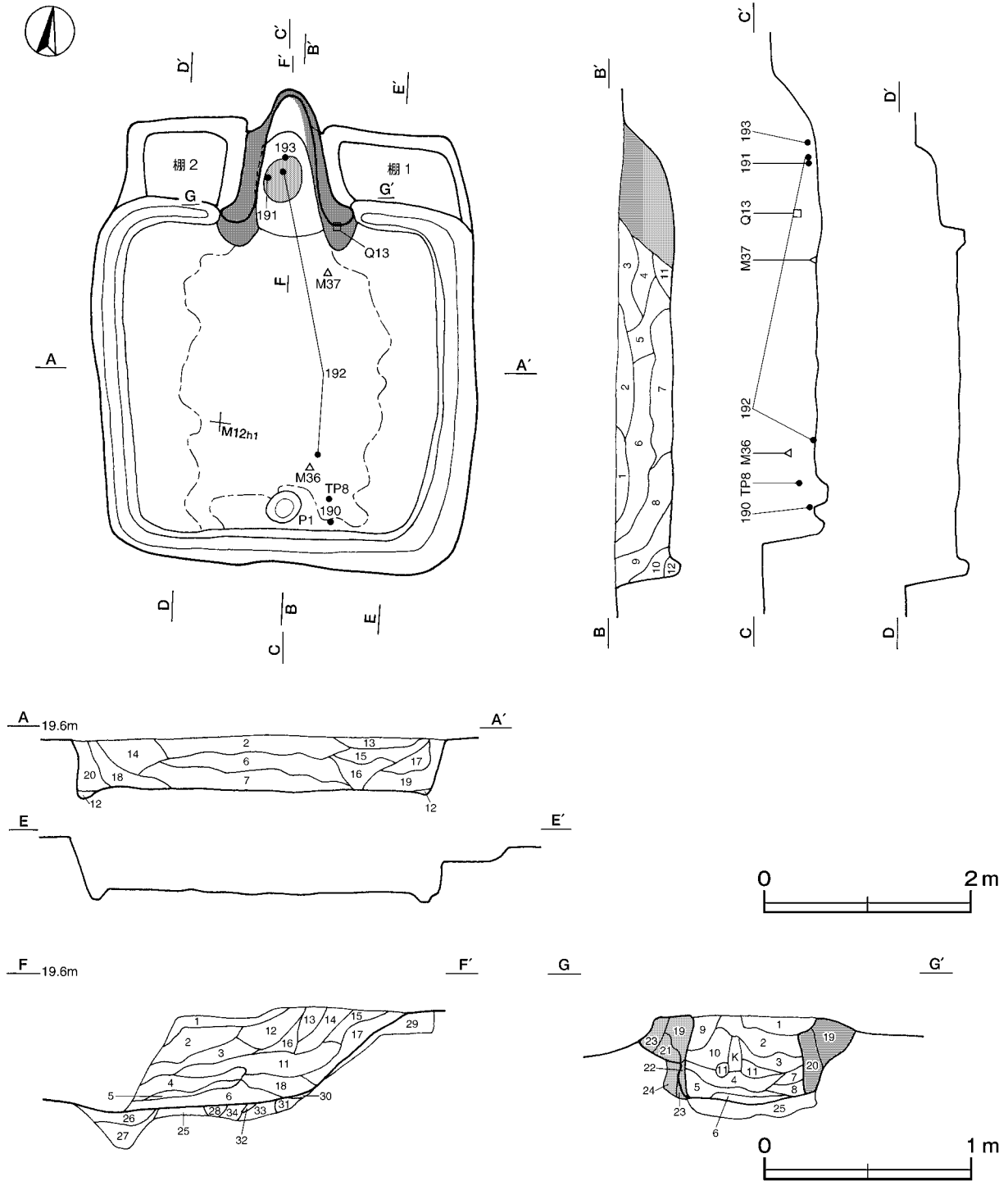
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで137cm，袖部幅138cmである。袖部は地山を掘りのこして基部とし，その上に砂質粘土を主体とした第19～24層を積み上げて構築している。火床部は地山を15cmほど掘り込んだくぼみにローム土を主体とした第25～34層を充填して使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は，壁外へ110cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第1・10層は砂質粘土や焼土粒子を含み，天井部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

1 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	12 極暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子炭化粒子微量	14 黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	砂質粘土粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	15 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
6 黒褐色	炭化粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	16 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量	17 黒褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	18 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
9 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	19 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量
10 暗褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量	20 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
		21 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子炭化粒子微量
		22 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
		23 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- | | | | |
|---------|-------------------------------|----------|-----------------------------|
| 24 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 28 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・灰少量, 焼土粒子微量 |
| 25 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・灰少量, 炭化物微量 | 29 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 26 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 30 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 27 黒褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 31 褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 32 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量 |
| | | 33 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 34 明褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |

棚状施設 竈の左右に設けられており、棚1は奥行き66cm前後、幅132cm前後の長方形で、床面から33cmほどの高さで確認することができた。棚2は奥行き82cm前後、幅111cm前後の長方形で、床面から23cmほどの高さ



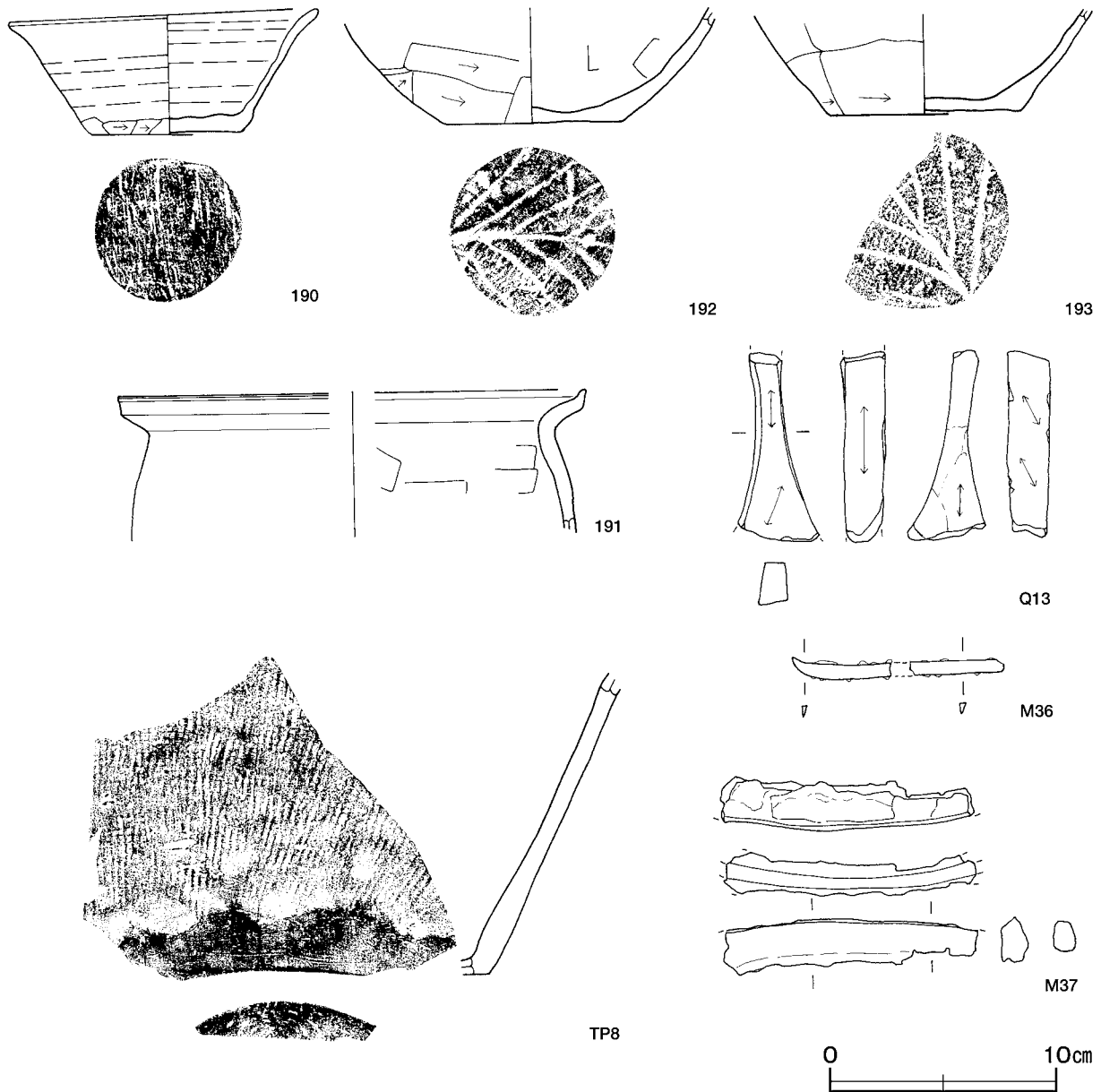
第104図 第2546号住居跡実測図

で確認することができた。構築方法はいずれも、地山を掘り残して作られ、粘土の貼り付けなどは見られない。
ピット 深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 20層に分けられる。各層にロームブロック、焼土粒子、炭化粒子を含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 18 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 褐色 | ローム粒子中量 |



第105図 第2546号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片173点（坏6，甕類167），須恵器片116点（坏72，蓋1，鉢20，甕22，甑1），石製品1点（砥石），鉄製品2点（刀子，羽釜カ）が，電付近と出入り口ピット付近を中心に出土している。M37は中央部北寄りの床面から出土しており，住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。190は南壁際の覆土下層，191・193は竈の覆土下層，192は竈の覆土下層と中央部南寄りの床面から出土した破片が接合したもので，Q13は竈南側の覆土中層，M36は中央部やや南側の覆土中層からそれぞれ出土している。これらの遺物は，住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2546号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
190	須恵器	坏	13.6	5.6	6.5	長石・雲母	暗灰	普通	体部外面下端へら削り 底部一方向のへら削り	下層	80% PL33
191	土師器	甕	[20.5]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面へらナデ	竈下層	5%
192	土師器	甕	-	(5.1)	7.6	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面下端へら削り 体部内面横ナデ 木葉痕	床面	10%
193	土師器	甕	-	(4.5)	8.5	長石・石英	赤褐	普通	体部外面下端へら削り 体部内面横ナデ 木葉痕	竈下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP8	須恵器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 下端へら削り 内面横ナデ	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	(8.4)	3.6	1.8	(54.4)	凝灰岩	砥面4面	中層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M36	刀子	[9.4]	0.9	0.3	(6.8)	鉄	棟区 茎部欠損	中層	PL37
M37	羽釜カ	(11.3)	(2.4)	1.2	(75.2)	鉄	口唇部肥厚	床面	PL38

第2547号住居跡（第106～108図）

位置 調査区南東部のM12j1区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4144・4146号土坑に掘り込まれている。

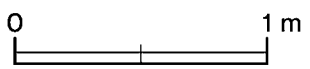
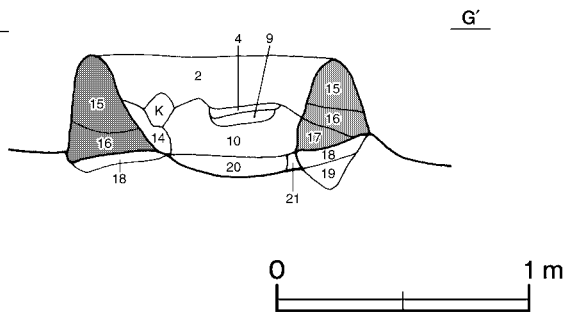
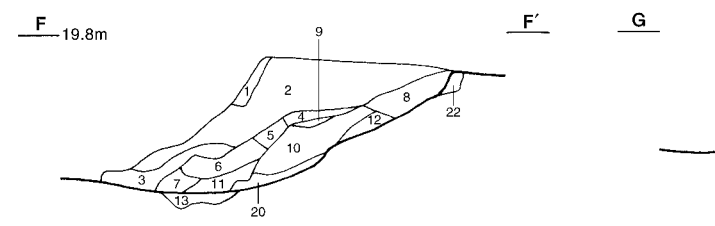
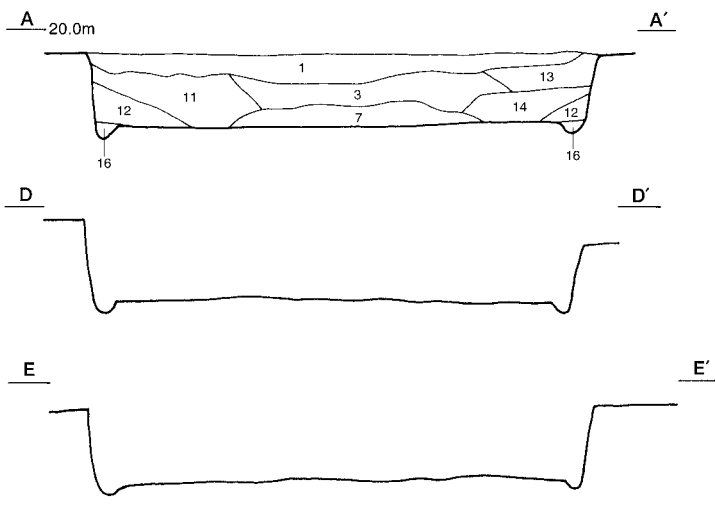
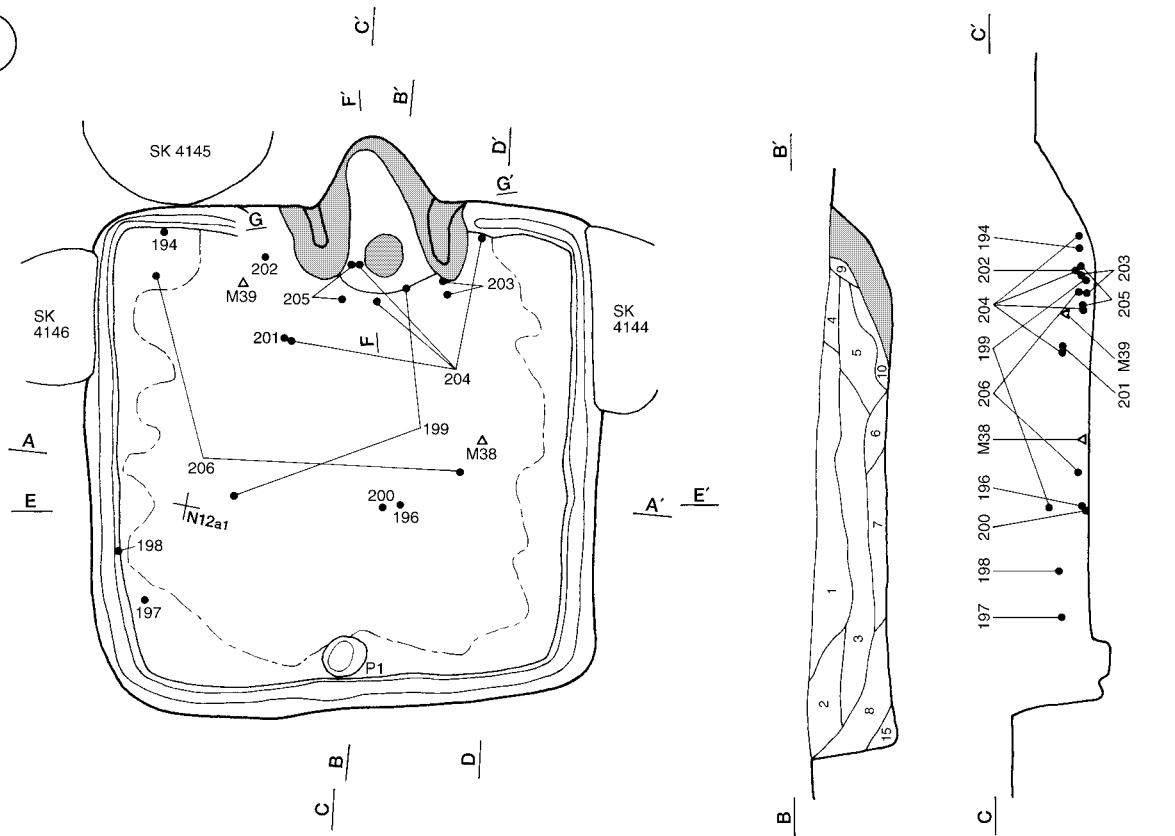
規模と形状 長軸4.06m，短軸3.98mの方形で，主軸方向はN - 9° - Wである。壁高は34～68cmで，壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～15cm，深さ5～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

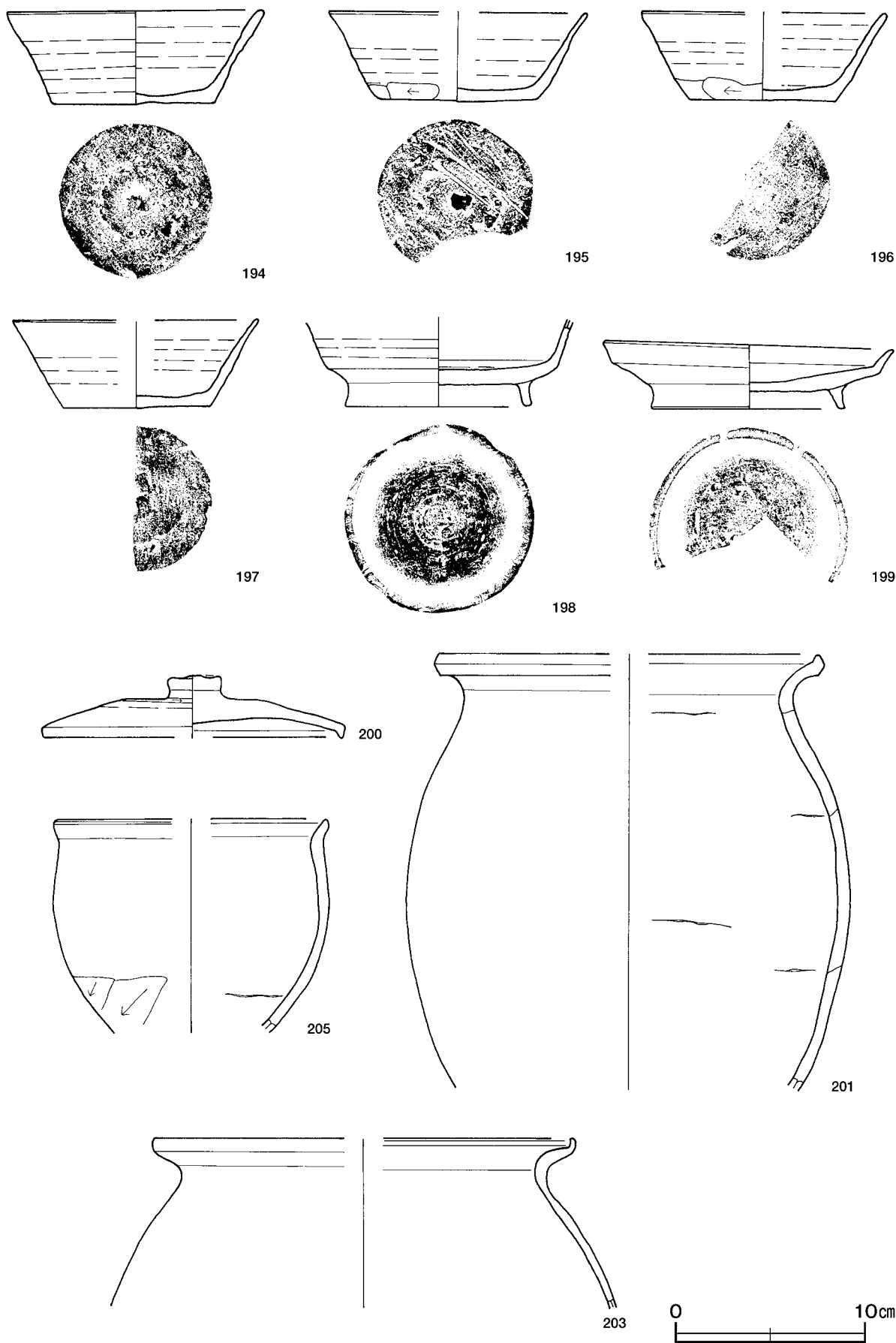
竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで127cm，袖部幅135cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み黒色土主体の第18・19層を突き固めて基部とし，その上に砂質粘土主体の第15～17層を積み上げて構築している。火床部は，地山を掘り込んだくぼみに焼土混じりのローム土第13層を充填し使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。第6層は天井部の崩落土層に相当する。

電土層解説

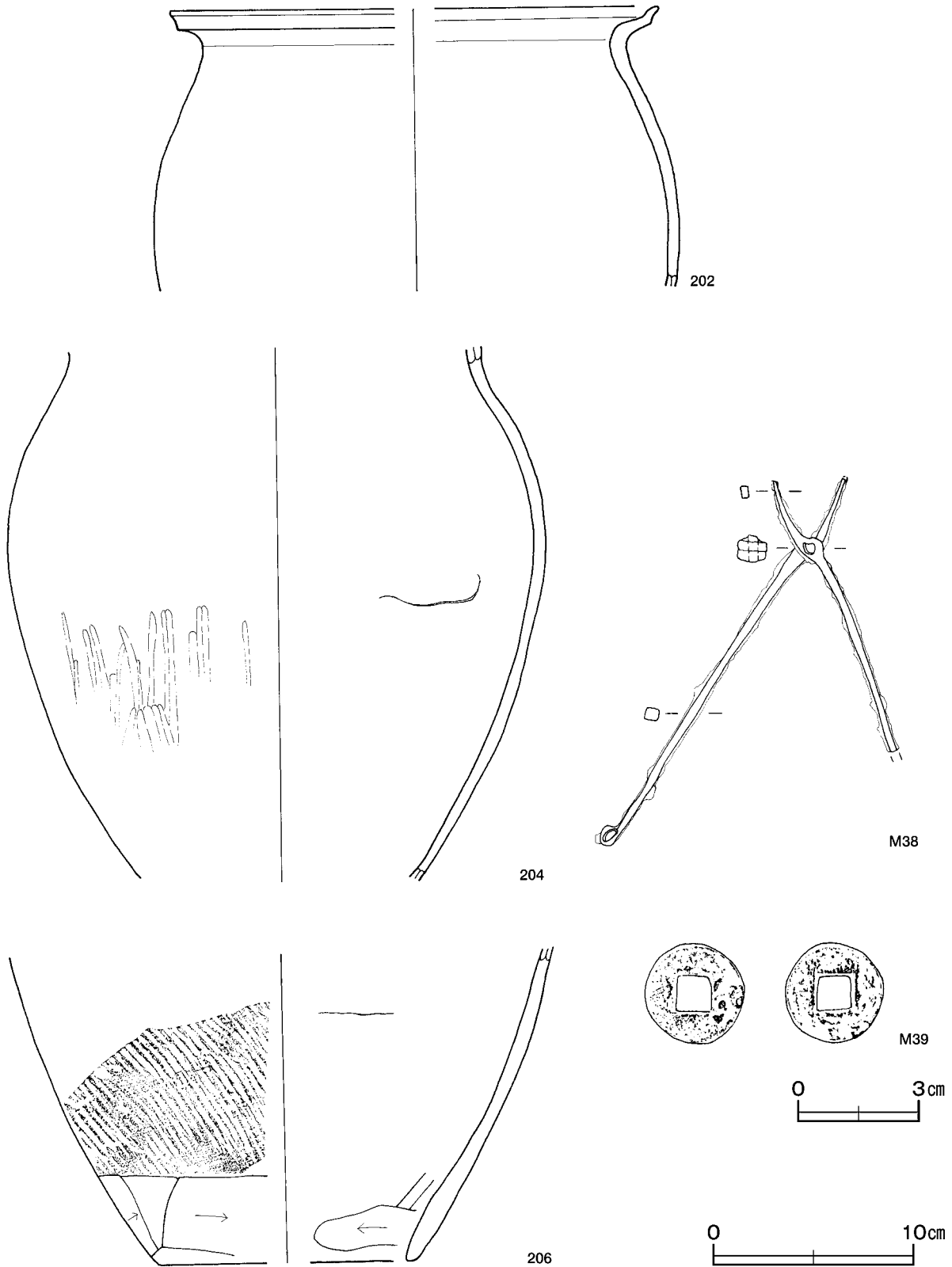
- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，灰少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック少量 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子多量，炭化物少量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第106图 第2547号住居跡実測图



第107图 第2547号住居跡出土遺物実測図(1)



第108図 第2547号住居跡出土遺物実測図(2)

- | | | | |
|-----------|----------------------------|----------|-----------------------------|
| 14 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子炭化粒子微量 |
| 15 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 16 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子少量,炭化粒子微量 | 20 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量,砂質粘土粒子微量 |
| 17 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 22 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子物微量 |

ピット 深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|--------|----------------------------|------------------|--------|-----------------------|--------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、 | |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | ロームブロック微量 | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 | |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量 | 焼土ブロック炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 | |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 | 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | 14 暗褐色 | ローム粒子微量 | |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 焼土ブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量 | |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子少量 | |
| 9 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | | | |

遺物出土状況 土師器片429点(坏9 , 高台付坏2 , 小皿4 , 甕類414 ,) , 須恵器片104点(坏54 , 高台付坏1 , 盤1 , 蓋2 , 甕45 , 甌1) , 鉄製品1点(鉄鉗) が覆土中層から下層を中心に出土している。また、流れ込みと思われる陶器片2点、古銭1点(五銖銭)も出土している。194は北西コーナー部、200は中央部やや南寄り、M38は中央部東寄りのそれぞれ床面から出土しており、ほぼ完形品であることなどから、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M39は覆土中層から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 鉄鉗は当遺跡では2例目の出土で、同じ7区の本跡から南に45mの第604号住居跡からの出土である。時期は9世紀中葉と報告されている。鉗が出土しているが、鉄滓や粒状滓などの出土は確認されていない。鉄鉗が出土していることから本跡の周辺には鍛冶関連遺構の存在も推測される。時期は出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2547号住居跡出土遺物観察表 (第107・108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
194	須恵器	坏	13.4	4.9	8.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	床面	100% PL35
195	須恵器	坏	[13.4]	4.8	8.4	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後 一方のヘラ削り	覆土中	65% PL35
196	須恵器	坏	[13.0]	4.7	7.7	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	45%
197	須恵器	坏	[12.7]	4.7	7.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り	中層	40%
198	須恵器	高台付坏	-	(4.8)	9.8	長石	褐灰	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	中層	60%
199	須恵器	盤	15.1	3.6	10.1	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	中層	75%
200	須恵器	蓋	[15.8]	3.3	-	長石	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面	60% PL35
201	土師器	甕	[20.2]	(23.1)	-	石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面下端ヘラ削り 輪積痕	中層	20%
202	土師器	甕	[24.2]	(14.1)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	15%
203	土師器	甕	[22.0]	(9.0)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	15%
204	土師器	甕	-	(26.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面輪積痕	竈下層	10%
205	土師器	小形甕	[14.4]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 内面輪積痕	竈下層	15%
206	須恵器	甌	-	(15.5)	[12.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面輪積痕	下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	鉄鉗	18.4	1.5	0.7	(68.9)	鉄	断面方形で、柄部の先端は蕨手状に屈曲する。挟み部手前で責め金具を介し、交叉させている。	床面	PL37

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	五銖銭	2.5	0.9	0.1	1.3	銅	円体方形	中層	PL37

第2548号住居跡（第109図）

位置 調査区南東部のM12j6区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2522・2525号住居跡，第4143号土坑を掘り込んでいる。

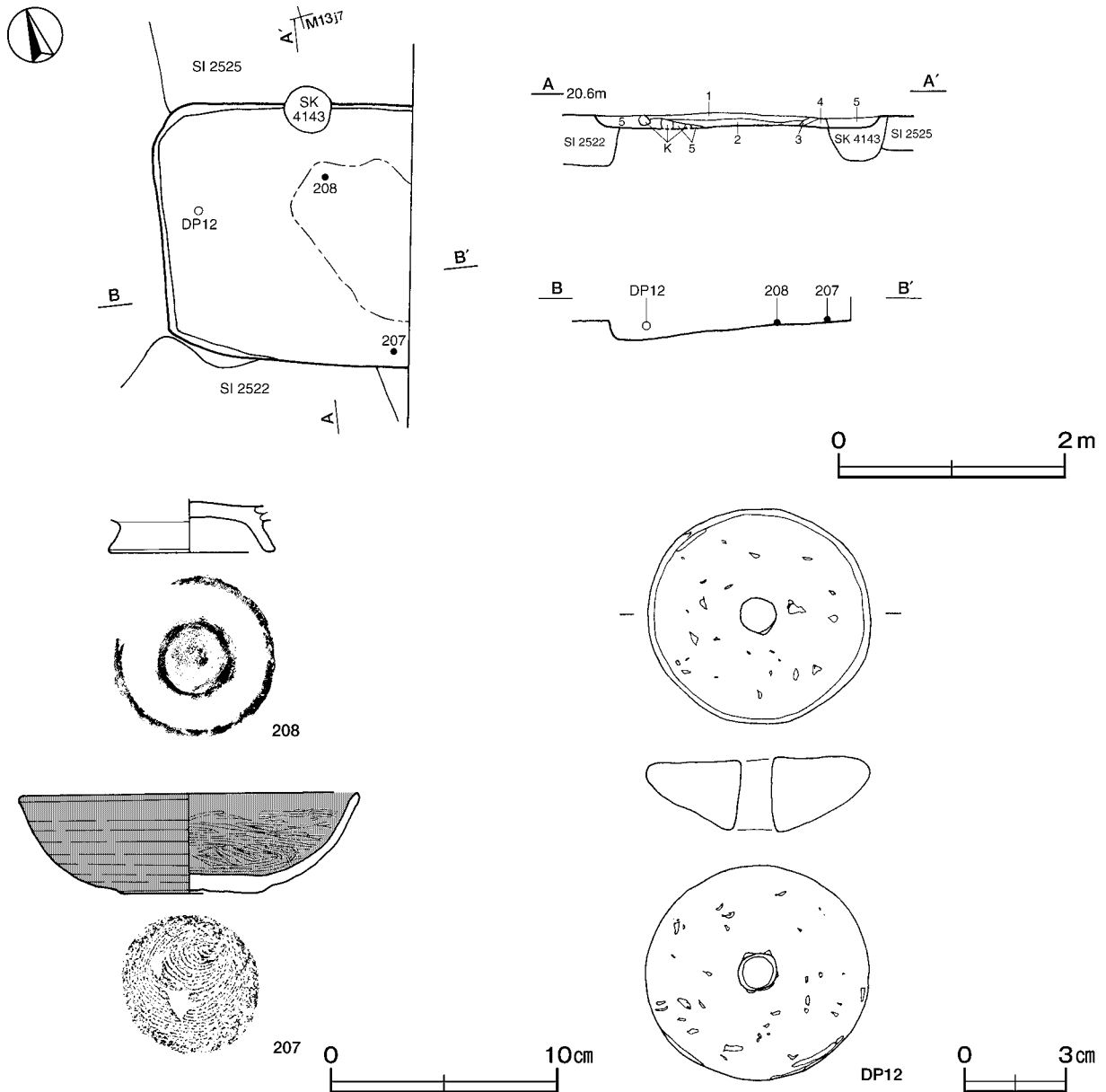
規模と形状 東部は調査区外に延びており，南北軸2.30m，東西軸は2.20mを確認することができる。形状は方形または長方形で，主軸方向はN - 13° - Eである。壁高は10cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | |
| 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |



第109図 第2548号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片4点(椀1, 甕類3), 土製品1点(紡錘車)が出土している。また, 流れ込みと思われる須恵器片3点も出土している。207は南東部の調査区域際, 208は中央部の北寄りの床面からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。DP12は西壁際中央部付近の覆土上層から出土したもので, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から11世紀前半と考えられる。

第2548号住居跡出土遺物観察表(第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	椀	14.9	4.4	6.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内面へラ磨き底部回転糸切り	床面	90% PL35
208	土師器	高台付坏	-	(2.1)	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面へラ磨き 底部回転糸切り後高台貼り付け	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	紡錘車	6.6	2.1	1.0	82.6	凝灰岩	円錐台形	上層	PL37

第2550号住居跡(第110~113図)

位置 調査区南西部のM12g7区, 標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2537号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.26m, 短軸4.20mの方形で, 主軸方向はN-84°-Eである。壁高は12~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部から南壁際にかけて踏み固められている。

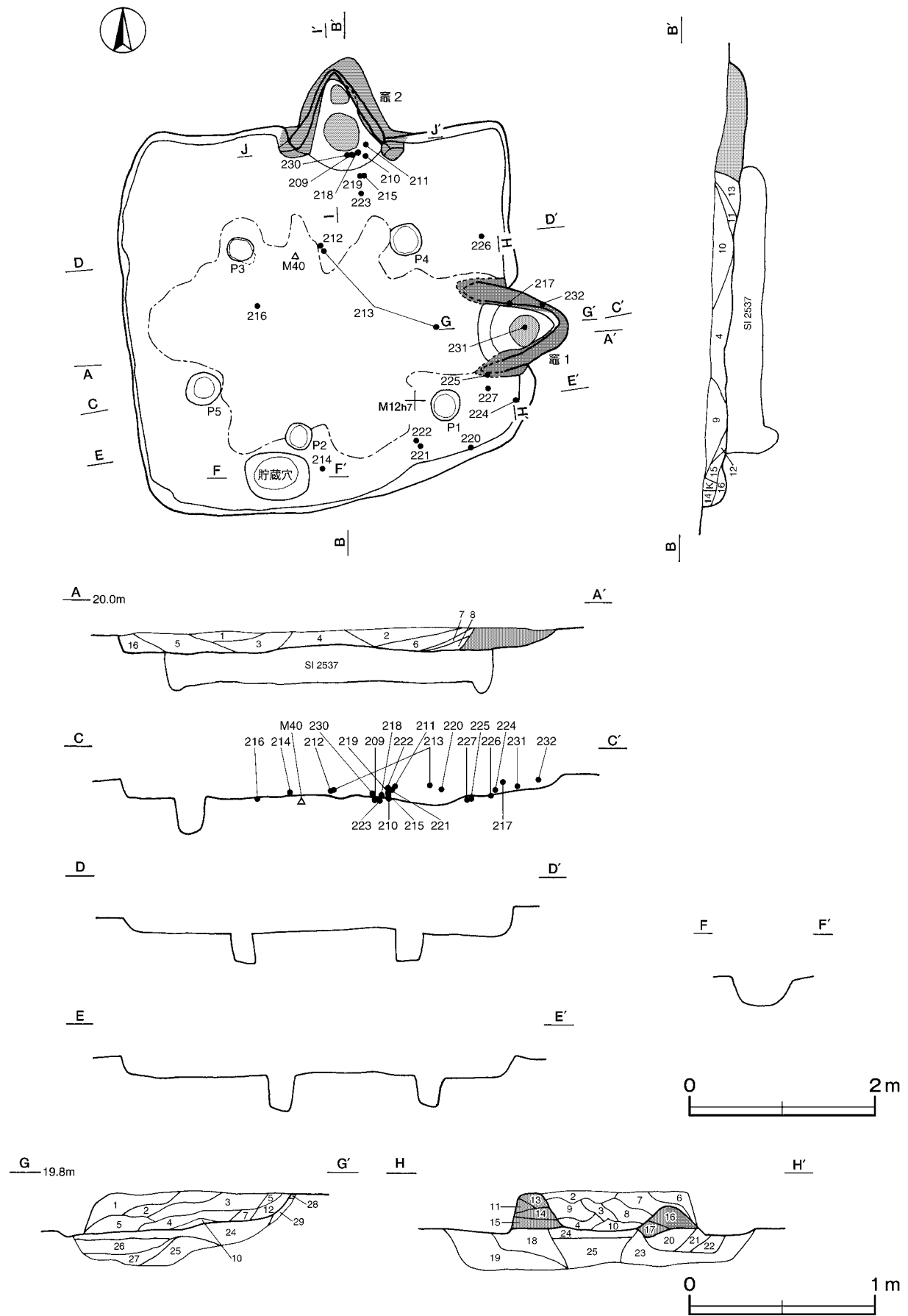
ピット 5か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは33~40cmである。P5は38cmで, 西壁際の南寄りに位置していることや硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁P2の南側に位置している。長径72cm, 短径52cmの楕円形で, 深さは34cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

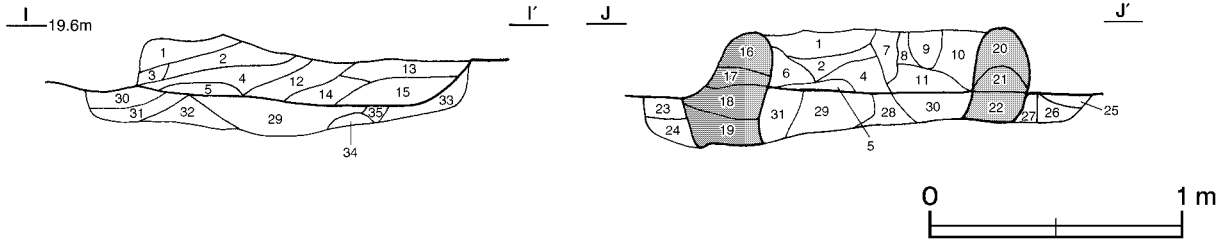
竈 2か所。竈1は, 東壁南寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで84cm, 袖部幅107cmである。袖部は地山を掘り込んだくぼみにローム土主体の第18~23層を突き固めて基部とし, 砂質粘土主体の第11~13~17層を積み上げて構築している。火床部は床面を38cmほど掘りくぼめ, ローム土主体の第24~29層を充填して使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。第3層は天井部の崩落土層に相当する。竈2は, 北壁中央部の第2537号住居跡の竈の上に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで86cm, 袖部幅98cmである。袖部は, 地山と第2537号住居の竈袖部の部分を掘り込み, 第2537号住居の竈袖部の上にローム土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込み, 火床面は, 火を受けて赤変しており, 煙道部は壁外に34cm掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。竈2には袖部が遺存しないことや, 覆土の堆積状況から, 竈2から竈1への作り替えが行われたと考えられる。

竈1土層解説

1	黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック・ローム粒子微量	5	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	極暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量



第110图 第2550号住居跡実測图(1)



第111図 第2550号住居跡実測図(2)

- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 8 黒褐色 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 11 黒褐色 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 黒褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 13 黒褐色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 14 灰褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量
- 15 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 17 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- 18 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 19 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 20 褐色 ローム粒子多量
- 21 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・灰少量
- 22 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量
- 23 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 24 極暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子微量
- 25 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子・灰中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 26 黒褐色 ロームブロック中量
- 27 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 28 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 29 明褐色 ロームブロック多量

電2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 にぶい赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
- 6 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
- 8 灰黄褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 11 黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 13 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 14 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
- 17 暗褐色 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量

- 18 褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 灰褐色 ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 20 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 21 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 22 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 23 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 24 褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 25 明褐色 ロームブロック多量
- 26 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 27 暗赤褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 28 灰褐色 砂質粘土粒子多量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 29 暗赤褐色 ローム粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 30 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量
- 31 にぶい褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量
- 32 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量
- 33 明褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック・灰中量, 炭化物少量
- 34 にぶい褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化物中量
- 35 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子多量, 灰中量

覆土 16層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量, ロームブロック・粘土ブロック微量

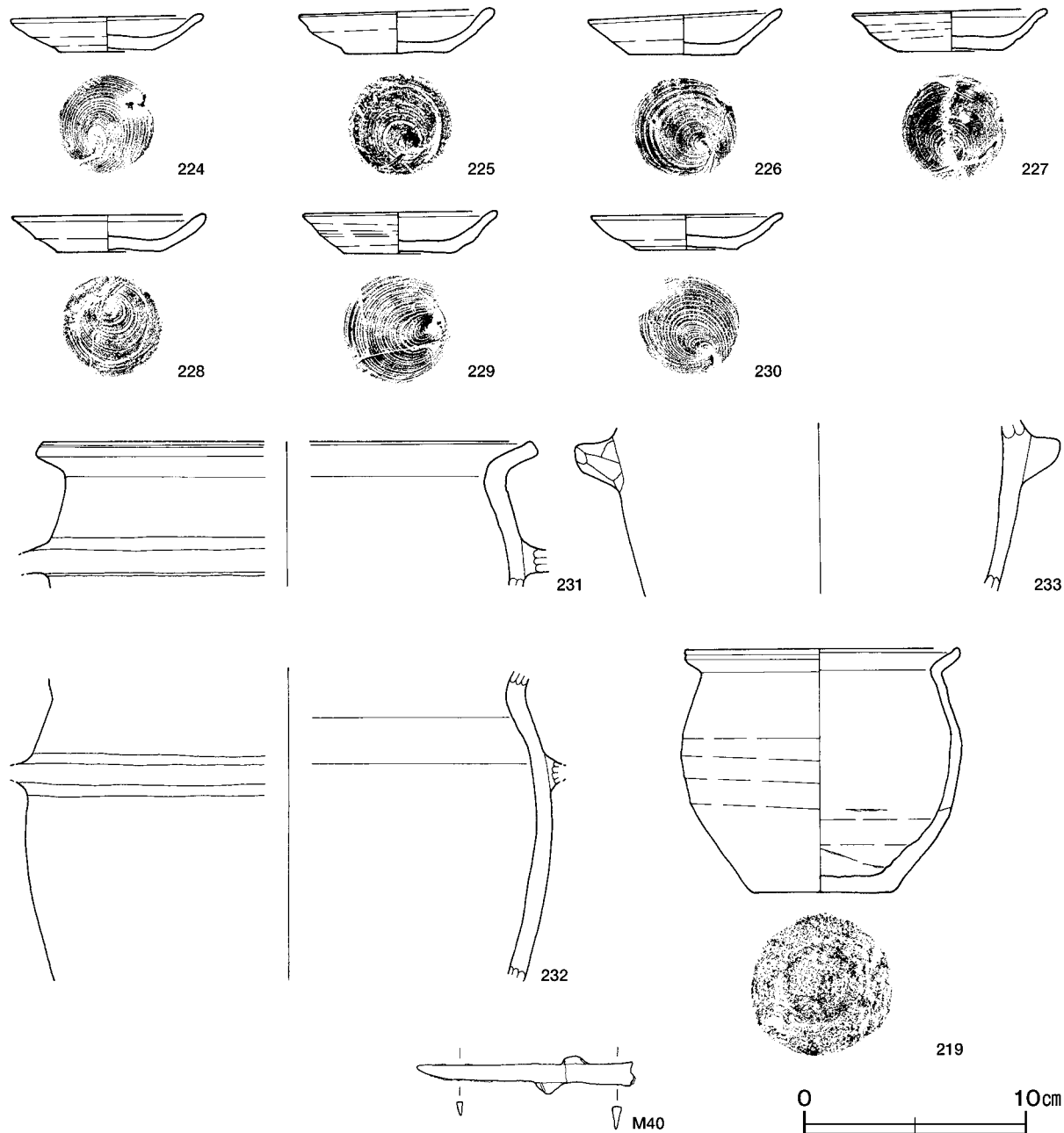
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒粘土粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
- 14 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 15 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
- 16 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片506点（坏20，椀117，高台付椀20，小皿4，蓋2，甕341，甑2，）が竈や壁際を中心に出土している。223は竈2の前部，224・225は竈1南側の壁際，226は東壁中央部の壁際，231は竈1の火床面，M40は中央部やや北寄りの床面から出土しており，完形に近いことから住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。219は竈2前部の覆土下層，217・232は竈1の覆土上層から出土しており，それぞれ住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から11世紀前半と考えられる。



第112図 第2550号住居跡出土遺物実測図(1)



第113図 第2550号住居跡出土遺物実測図(2)

第2550号住居跡出土遺物観察表 (第112・113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
209	土師器	椀	[14.1]	4.5	[6.9]	長石・雲母	橙	普通	体部口クロナデ	床面	10%
210	土師器	椀	[15.0]	3.9	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	床面	10%
211	土師器	椀	[13.4]	4.6	[6.9]	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	中層	10%
212	土師器	椀	-	(3.1)	[6.7]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	下層	30%
213	土師器	高台付椀	[16.7]	6.1	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	下層	40%
214	土師器	高台付椀	-	(3.0)	6.6	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	下層	30%
215	土師器	高台付椀	[15.6]	6.2	[6.4]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後高台貼り付け	下層	20%
216	土師器	甕	[19.1]	(13.7)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積痕	床面	30% PL34
217	土師器	甕	[21.9]	(14.9)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈1上層	10%
218	土師器	甕	-	(8.5)	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
219	土師器	小形甕	[11.1]	11.2	6.3	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面下端手持へラ削り 内面輪積痕	下層	60% PL34
220	土師器	小皿	8.9	1.7	5.1	長石・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	中層	100% PL36
221	土師器	小皿	8.6	1.8	4.8	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	中層	100% PL36
222	土師器	小皿	8.5	1.5	4.8	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	中層	100% PL36
223	土師器	小皿	8.6	2.3	4.9	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	床面	100% PL36
224	土師器	小皿	8.7	1.6	4.4	長石・石英・白色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	床面	100% PL36
225	土師器	小皿	8.8	2.1	4.5	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転糸切り	床面	100%
226	土師器	小皿	8.8	2.0	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	床面	100% PL36
227	土師器	小皿	8.8	1.9	4.8	長石	明赤褐	普通	底部回転糸切り	床面	95% PL36
228	土師器	小皿	8.8	1.7	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	95% PL36
229	土師器	小皿	8.7	1.9	4.9	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	95% PL36
230	土師器	小皿	[8.6]	1.6	4.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	床面	55%
231	土師器	甌	[21.6]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面握手貼り付け	竈1 火床面	5%
232	土師器	甌	-	(14.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面握手貼り付け	竈1 上層	5%
233	土師器	甌	-	(7.6)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面握手貼り付け	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	刀子	(9.7)	1.1	0.4	(9.4)	鉄	茎部欠損	床面	PL37

表9 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考(時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2524A	N13a4	N-2°-W	[方形・長方形]	3.95×(3.42)	14~22	平坦	ほぼ全周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
2524B	N13a4	N-2°-W	[方形・長方形]	3.95×(3.20)	20~30	平坦	ほぼ全周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀中葉
2525	M13i7	N-10°-E	[方形・長方形]	2.92×(2.58)	35~40	平坦	ほぼ全周	2	1	1	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	9世紀前葉
2526	M13g6	N-9°-W	方形	2.80×2.74	6~8	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
2527	M13h4	N-11°-W	方形	3.52×3.34	8~14	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
2530	N13g7	N-6°-W	[方形・長方形]	(3.25)×[2.86]	16~20	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	9世紀前葉
2532	M13h1	N-82°-E	方形	2.44×2.40	34~38	平坦	-	-	1	2	竈1	-	人為	土師器片	11世紀前半
2533	M12g2	N-80°-E	長方形	2.93×2.10	12~18	平坦	ほぼ全周	1	-	-	竈1	1	人為	土師器片	10世紀後半
2534	N12g9	N-12°-W	方形	3.70×3.61	22~30	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	9世紀中葉
2535	M12i8	N-82°-W	方形	4.17×3.94	20~38	平坦	一部	-	2	-	炉1 竈1	2	人為	土師器片, 灰釉陶器	11世紀前半
2536	N12b8	N-2°-W	[方形・長方形]	4.05×(3.01)	5~8	平坦	ほぼ全周	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀代
2537	N12g7	N-2°-E	方形	3.69×3.42	54~68	平坦	全周	-	1	-	竈2	1	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
2538	M12g6	N-86°-E	長方形	4.10×3.24	16~34	平坦	-	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	11世紀前半
2539	M12f4	N-90°-E	方形	2.98×2.91	18~22	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片, 鉄製品	11世紀前半
2540	N12a7	N-88°-E	[長方形]	(3.78)×2.50	8~10	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片	10世紀後半
2541	M12j5	N-85°-E	方形	3.22×3.05	6~8	平坦	一部	-	-	1	竈1	1	人為	土師器片	11世紀前半
2543	M12i3	N-73°-E	方形	3.48×3.20	18~20	平坦	一部	4	2	-	竈1	-	人為	土師器片, 支脚	11世紀前半
2544	M12g2	N-85°-E	方形	3.20×2.76	8~10	平坦	一部	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片	11世紀前半
2545	M12g2	N-19°-W	長方形	3.35×2.62	6~26	平坦	ほぼ全周	-	-	-	竈1	1	人為	土師器片	10世紀後半
2546	M12g1	N-5°-W	長方形	4.24×3.68	40~50	平坦	全周	-	1	-	竈1	1	人為	土師器片, 須恵器片, 石製品, 鉄製品	9世紀前葉
2547	M12j1	N-9°-W	方形	4.06×3.98	34~68	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品, 古銭	9世紀前葉
2548	M12j6	N-13°-E	[方形・長方形]	(2.30)×(2.20)	10	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 土製品	11世紀前半
2550	M12g7	N-84°-E	方形	4.26×4.20	12~32	平坦	-	4	1	-	竈2	1	人為	土師器片	11世紀前半

4 中世の遺構と遺物

中世の方形竪穴遺構6基，火葬土坑3基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第63号方形竪穴遺構（第114図）

位置 調査区中央部のM12i9区，標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.12m，短軸2.58mの長方形で，長軸方向はN - 28° - Eである。壁高は40～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，南東コーナー部に硬化面を確認することができ，出入り口部と想定される。また，南東コーナー部を除く壁下には，幅7～12cm，深さ4～6cmで，U字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

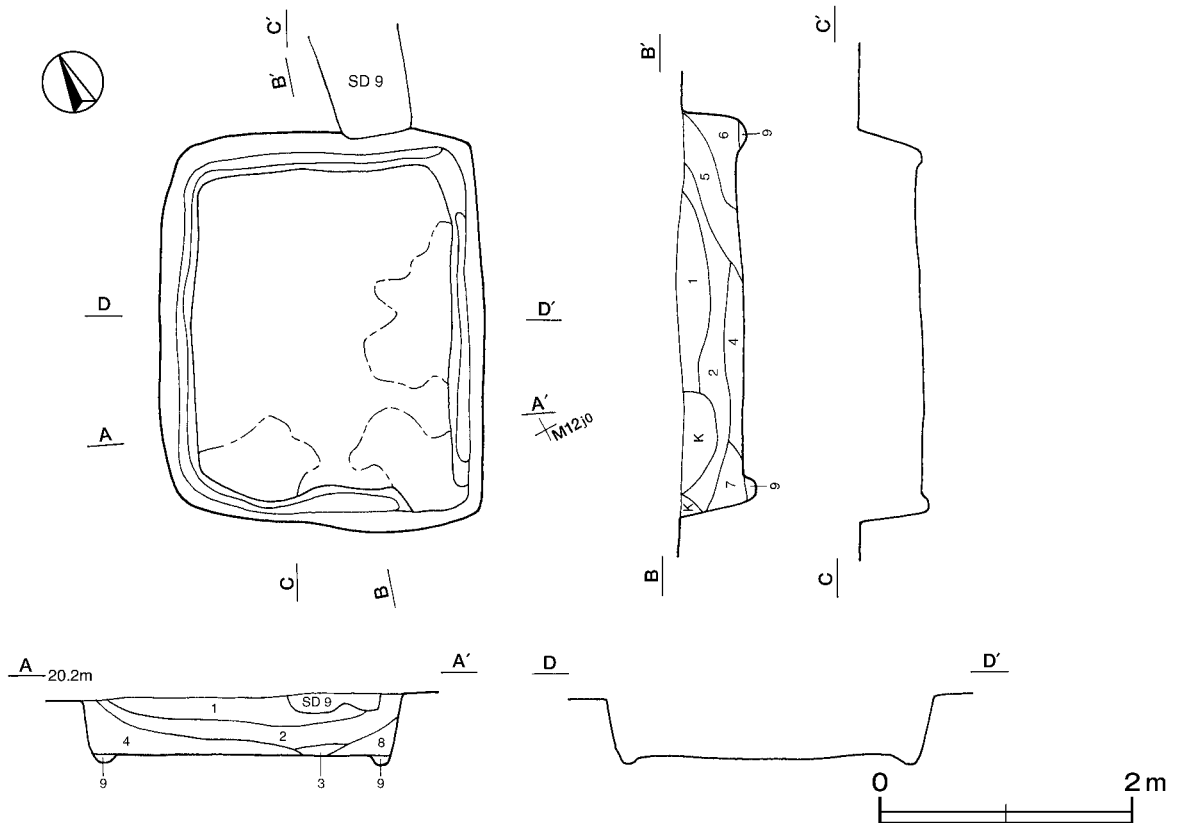
覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量 | 9 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量，赤色粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片1点（坏）が出土している。覆土中からの出土で，流れ込んだものである。

所見 時期は，遺構の形状から中世と考えられる。



第114図 第63号方形竪穴遺構実測図

第64号方形竪穴遺構 (第115図)

位置 調査区北東部のM13g3区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2528号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.84m、短軸2.76mの方形で、長軸方向はN - 44° - Wである。壁高は56~75cmで、直立している。

床 ほぼ平坦で、北側の広い範囲の床面から炭化物や数か所の焼土塊が確認されている。

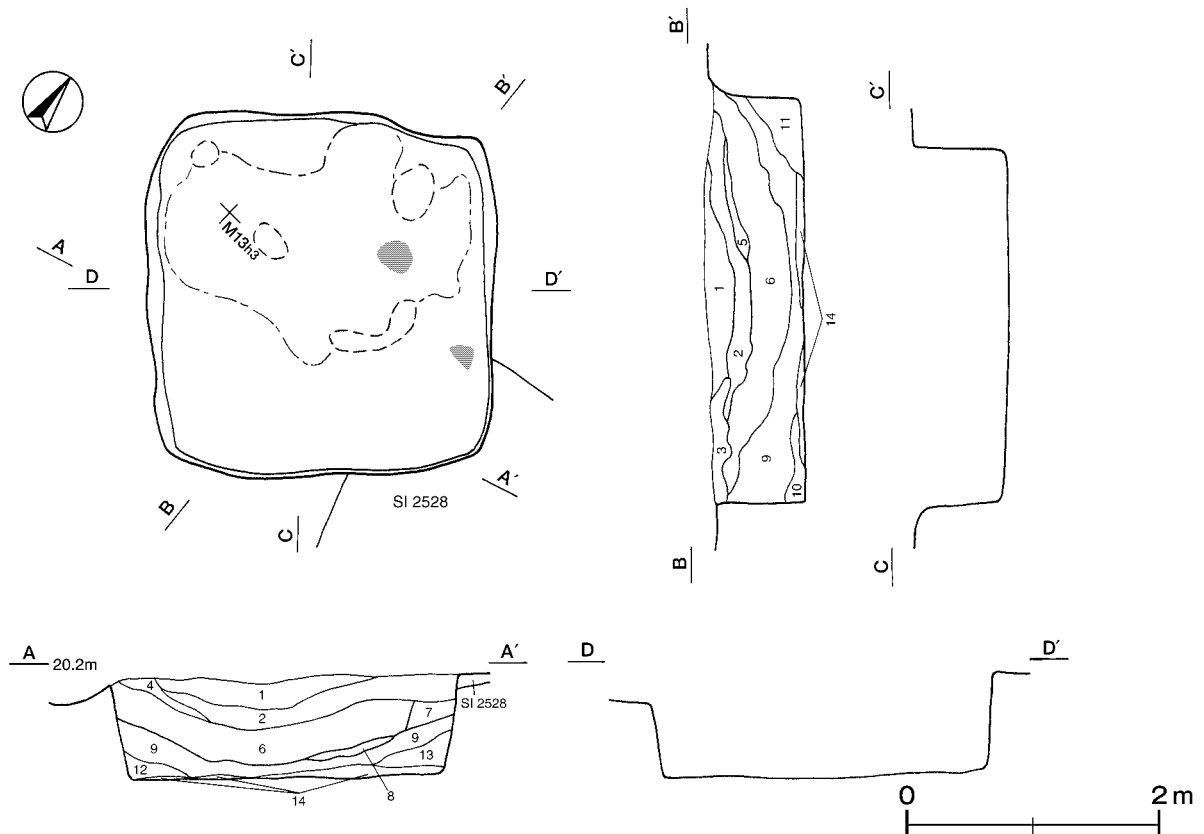
覆土 14層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子中量	8 褐色	ローム粒子多量 焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	10 褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子中量	11 褐色	ローム粒子多量
5 黒色	ローム粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
6 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	13 明褐色	ロームブロック多量
7 褐色	ロームブロック中量	14 暗褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片61点(坏21, 高台付坏2, 甕類38), 須恵器片27点(坏2, 甕25)が覆土中から出土し、いずれも流れ込んだものである。

所見 炭化物の広がりや、焼土塊の存在から有機物を燃した痕跡と考えられるが、性格は不明である。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第115図 第64号方形竪穴遺構実測図

第65号方形竪穴遺構 (第116図)

位置 調査区北東部のM13h4区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.24m、短軸1.97mの長方形で、長軸方向はN - 40° - Wである。壁高は40~60cmで、直立

している。

床 ほぼ平坦であり、北西コーナー部に長径90cm、短径84cm、深さ13cmほどの楕円形の掘り込みが確認されている。また、床面には数か所の焼土塊が確認されている。

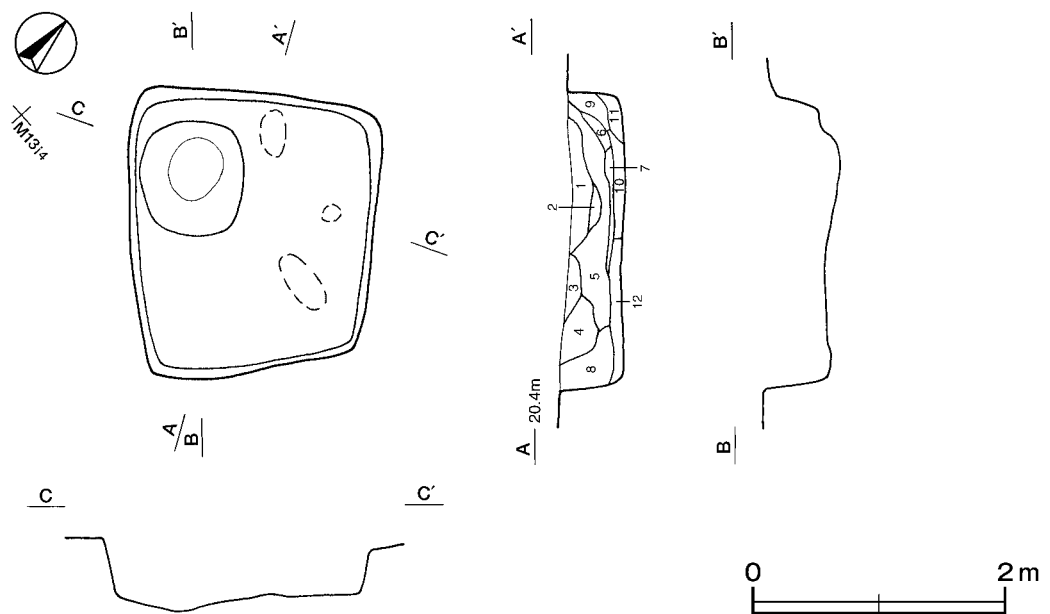
覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片43点(坏16, 高台付坏2, 甗類25), 須恵器片3点(坏)が出土している。いずれも覆土中からの出土で、流れ込んだものである。また北東部の床面からは、雲母片岩1点が出土している。

所見 雲母片岩を台石としたような作業場のなものと考えられるが、明確でない。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。



第116図 第65号方形竪穴遺構実測図

第66号方形竪穴遺構 (第117図)

位置 調査区南西部のN12a4区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.29m、短軸2.24mの方形で、長軸方向はN - 5° - Wである。壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南に向かって緩やかな傾斜を示している。

ピット 3か所。深さ12~23cmで、性格は不明である。

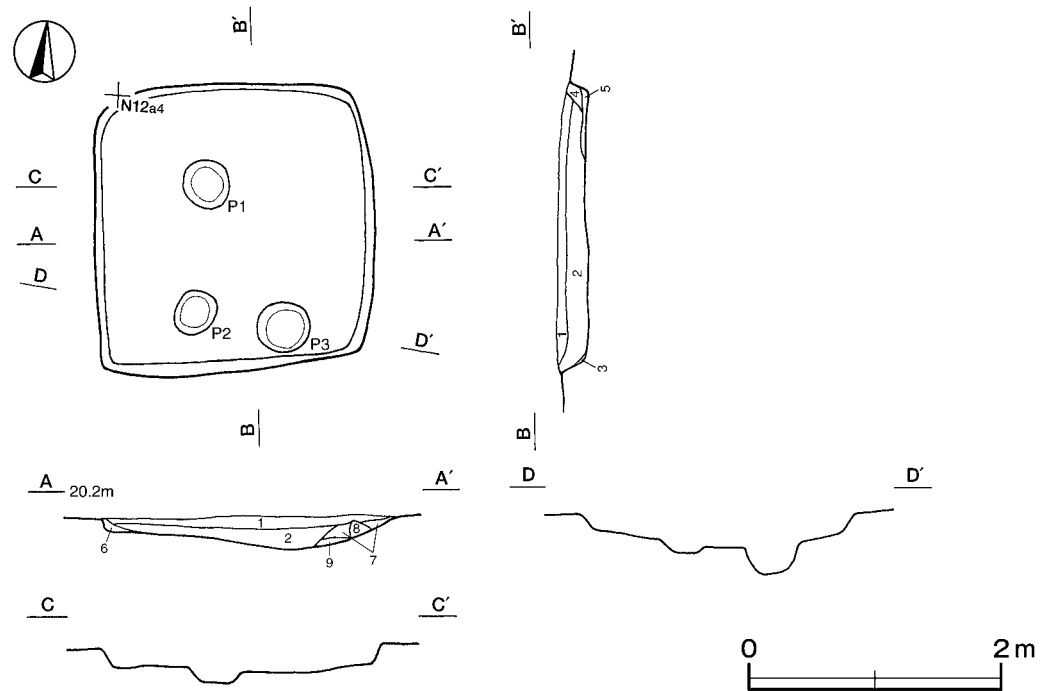
覆土 9層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子多量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 明褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物出土状況 土師器片47点(坏3, 甕類44), 須恵器片6点(坏2, 甕4), 縄文土器片1点が出土している。いずれも覆土中からの出土で, 流れ込んだものである。

所見 時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第117図 第66号方形竪穴遺構実測図

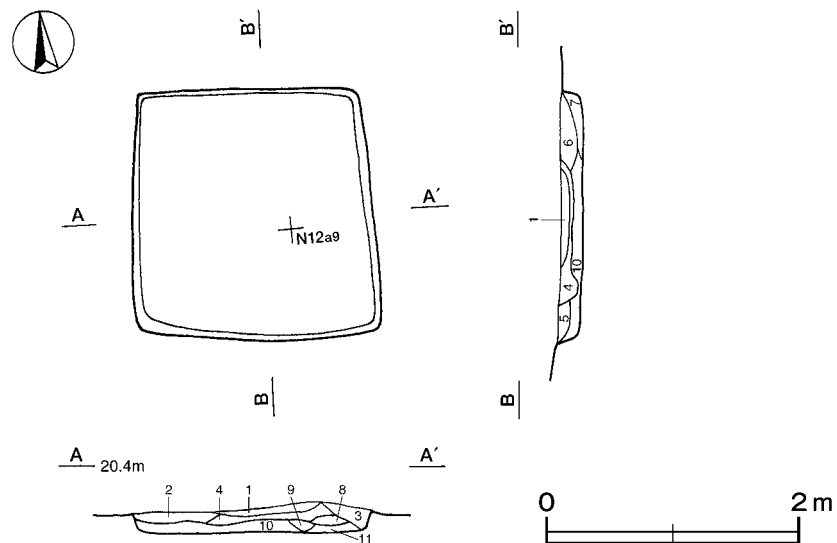
第67号方形竪穴遺構 (第118図)

位置 調査区南西部のN12j8区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.00m, 短軸1.90mの方形で, 長軸方向はN - 4° - Eである。壁高は16~19cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり, 硬化面は認められない。

覆土 11層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第118図 第67号方形竪穴遺構実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 8 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 11 明褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片21点(坏20, 高台付坏1), 須恵器片1点(甕)が出土している。いずれも覆土中からの出土で, 流れ込んだものである。

所見 時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。

第68号方形竪穴遺構(第119図)

位置 調査区南西部のN12a3区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4139号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.59m, 短軸2.28mの長方形で, 長軸方向はN - 1° - Eである。壁高は20~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北壁際の中央部と西壁際の中央部が踏み固められている。

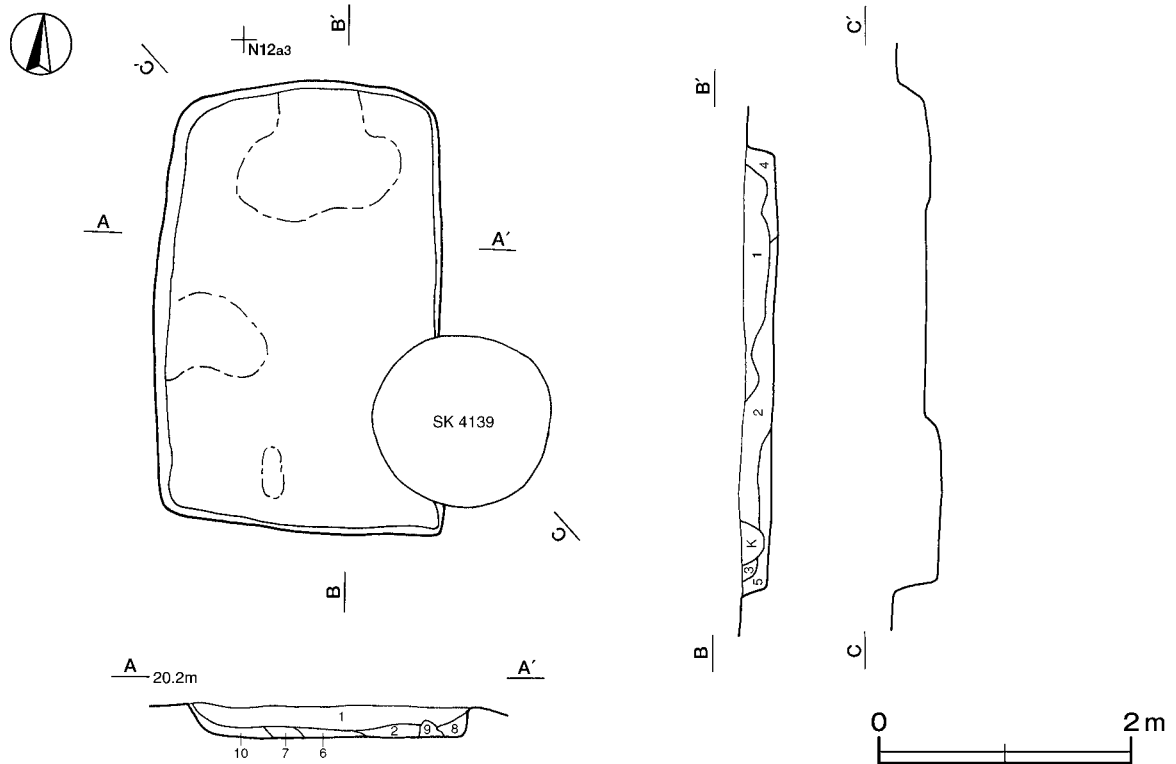
覆土 10層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片40点(坏4, 高台付坏2, 甕類34), 須恵器片12点(坏1, 高台付坏1, 甕10)が出土している。いずれも覆土中からの出土で, 流れ込んだものである。

所見 時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第119図 第68号方形竪穴遺構実測図

(2) 火葬土坑

第4132号土坑 (第120図)

位置 調査区北部のM13h1区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2532号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 上部は削平されており, 現存しているのは, 楕円形と円形を連結したような不整形で, 主軸方向はN - 67° - Wである。北側の燃焼部は, 長径0.94m, 短径0.62mの主軸と直交する楕円形で, 深さ8 ~ 18cmである。南側の通気溝の底面はU字状を呈している。

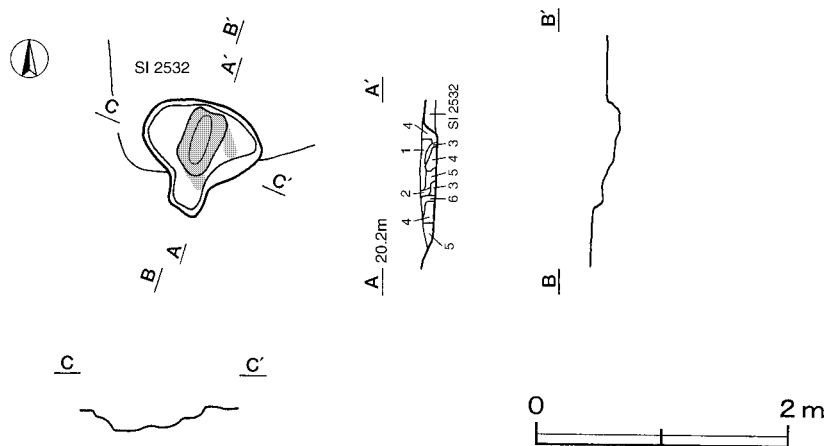
底面 南部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。燃焼部の底面は皿状に掘り込まれており, 底面はU字状を呈している。燃焼部から炭化材が出土している。

覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 |

所見 覆土に骨片などは含まれていないが, 形状や焼土・炭化物の出土の状況から火葬施設と考えられる。時期は, 重複関係や遺構の形状から中世と考えられる。



第120図 第4132号土坑実測図

第4152A号土坑 (第121・122図)

位置 調査区南部のN12a7区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2540号住居跡, 第4152B号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 楕円形と楕円形を連結したようなT字形で, 主軸方向はN - 7° - Eである。南側の燃焼部は, 主軸と直交する長径1.15m, 短径0.49mの楕円形で, 深さ8cmほどである。

底面 南部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜しており, 底面は平坦である。通気溝の底面一面から炭化物が確認され, 燃焼部からは骨片混じりの焼土や, 骨片が多く確認されている

覆土 26層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

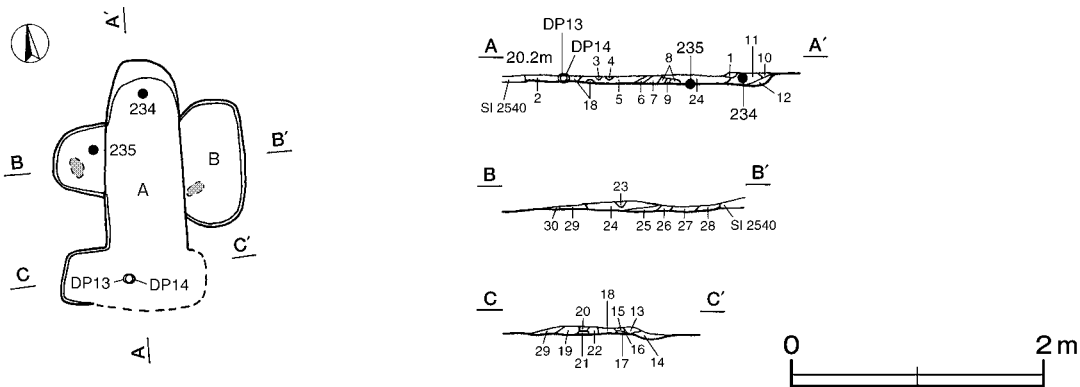
土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 明褐色 炭化材・ローム粒子中量, 骨片少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 明赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 |

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|----------|--------------------------------|
| 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・骨片少量 | 19 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子・灰粒子少量, 骨片微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 20 明褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 11 黒色 | 炭化物中量, ローム粒子微量 | 21 にぶい褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・骨片少量, 炭化粒子微量 |
| 12 明褐色 | ローム粒子多量 | 22 暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 13 黒褐色 | 炭化材多量, ローム粒子中量 | 23 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 14 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 24 明褐色 | 炭化材・ローム粒子中量, 骨片少量, 焼土粒子粒子微量 |
| 15 にぶい赤褐色 | 骨片多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 25 明褐色 | 炭化粒子少量, 骨片微量 |
| 16 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・骨片微量 | 26 にぶい褐色 | 骨片多量, ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 17 明褐灰色 | 骨片多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |
| 18 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・骨片微量 | | |

遺物出土状況 土師器片4点(坏2, 小皿1, 甕1), 土製品2点(小金銅仏鑄型)が出土している。出土遺物は、いずれも流れ込みによるものと考えられる。

所見 骨片や焼土, 炭化物等が出土していることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 重複関係や遺構の形状から中世と考えられる。



第121図 第4152 A・B号土坑実測図

第4152 B号土坑 (第121・122図)

位置 調査区南部のN12a7区, 標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2540号住居跡を掘り込み, 第4152 A号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 楕円形と楕円形を連結したようなT字形で, 主軸方向はN-97°-Eである。東側の燃焼部は, 主軸と直交する長径0.97m, 短径0.48mの楕円形で, 深さ8cmほどである。

底面 通気溝から燃焼部にかけては平坦である。通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており, 焼土と骨片が確認されている。燃焼部には骨片混じりの炭化物が存在していた。

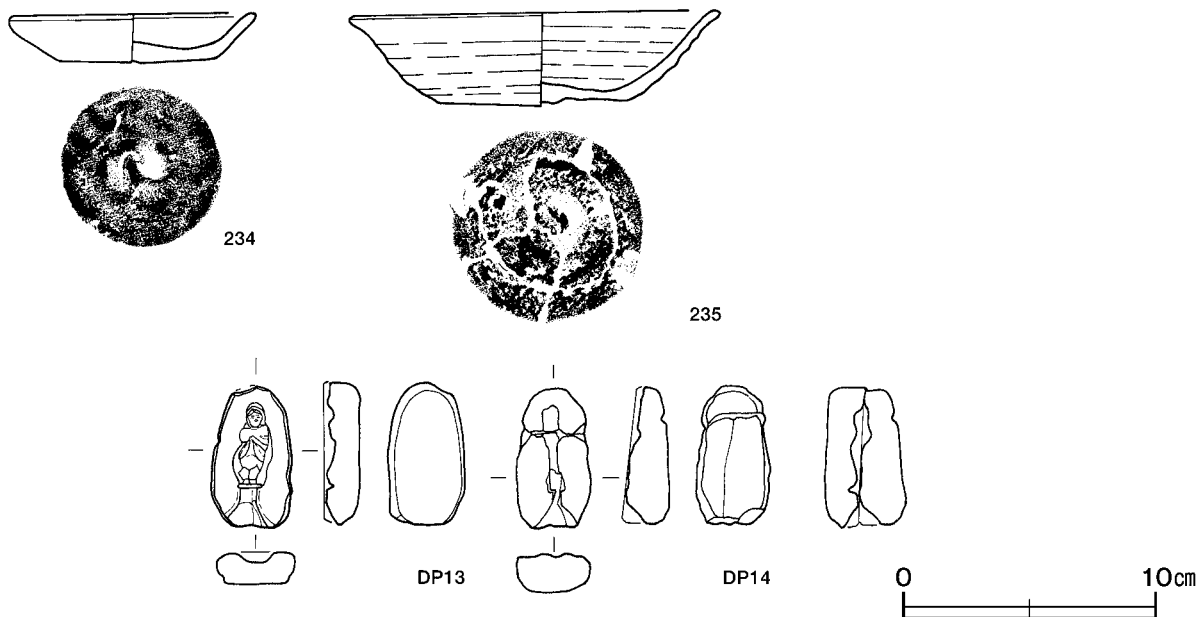
覆土 4層に分けられる。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| 27 明褐色 | ローム粒子多量, 骨片中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 29 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 28 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・骨片微量 | 30 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 骨片微量 |

遺物出土状況 土師器片2点(坏), 須恵器片2点(甕)が出土している。出土遺物は、いずれも流れ込みによるものと考えられる。

所見 骨片や焼土, 炭化物等が出土していることから, 火葬施設と考えられる。時期は, 重複関係や遺構の形状から中世と考えられる。



第122図 第4152 A・B号土坑出土遺物実測図

第4152 A号土坑出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
234	土師器	小皿	9.6	2.0	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	中層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	鋳型	5.6	3.2	1.5	27.9	土	表面	上層	小金銅仏 PL37
DP14	鋳型	5.6	3.0	1.9	25.2	土	裏面	上層	小金銅仏 PL37

第4152 B号土坑出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
235	土師器	坏	14.7	3.7	7.6	長石・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り	中層	100% PL35

表10 中世方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考(時期)
				長径 × 短径	深さ(cm)					
63	M12i9	N - 28° - E	長方形	3.12 × 2.58	40 ~ 48	人為	平坦	外傾	土師器片	中世
64	M13g3	N - 44° - W	方形	2.84 × 2.76	56 ~ 75	自然	平坦	直立	土師器片, 須恵器片	中世
65	M13h4	N - 40° - W	長方形	2.29 × 2.24	40 ~ 60	人為	平坦	直立	土師器片, 須恵器片	中世
66	N12a4	N - 5° - W	方形	2.00 × 1.90	10 ~ 16	人為	緩斜	外傾	土師器片 須恵器片 縄文土器片	中世
67	M12j8	N - 4° - E	方形	2.02 × 1.92	16 ~ 19	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	中世
68	N12a3	N - 1° - E	長方形	3.59 × 2.28	20 ~ 24	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	中世

表11 中世火葬土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)										人骨(有・無)	備考(時期)
				燃烧部(m)				通気溝(m)							
				長径 × 短径	深さ(cm)	平面形	底面	長さ	上幅	下幅	深さ(cm)	底面	覆土		
4132	M13h1	N - 67° - W	不整形	0.94 × 0.62	8 ~ 18	楕円形	皿状	0.88	0.94	0.84	18	U字状	人為	無	中世
4152A	N12a7	N - 7° - E	T字形	[1.15] × 0.49	8	楕円形	平坦	[2.00]	0.64	0.62	10	平坦	人為	有	中世
4152B	N12a7	N - 97° - E	T字形	0.97 × 0.48	8	楕円形	平坦	1.51	0.56	0.53	8	平坦	不明	有	中世

5 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡3条、道路跡2条、土坑30基、ピット群1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡

第8号溝跡(第123図)

位置 調査区北部の中央M13e1～M13h1区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。本跡の北部は、平成7年度に調査が終了している。

重複関係 第2532号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 N-0°の方向に直線的に延び、既報告分を合わせて12.23mが調査された。上幅35～80cm、下幅16～40cm、深さ10～18cmで、断面はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

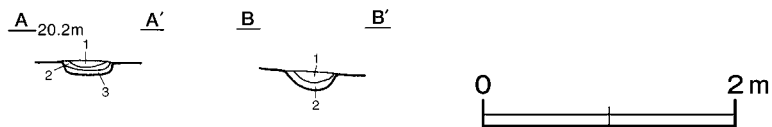
覆土 3層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片45点(坏32, 甕類13), 須恵器片7点(坏3, 甕4)が出土している。いずれも細片で、流れ込んだものと考えられる。

所見 北部は平成7年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財報告』第120集を参照されたい。11世紀前半に比定される第2532号住居跡を掘り込んでいることからそれ以降に機能していたと考えられる。出土土器はいずれも流れ込んだもので、時期は不明である。



第123図 第8号溝跡実測図

第9号溝跡(第124図)

位置 調査区北部の中央M13e1～M12i9区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。本跡の北部は、平成7年度に調査が終了している。

重複関係 第63号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 N-29°-Eの方向に直線的に延び、既報告分を合わせて100.40mが調査された。上幅68～112cm、下幅40～92cm、深さ10～28cmで、断面はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

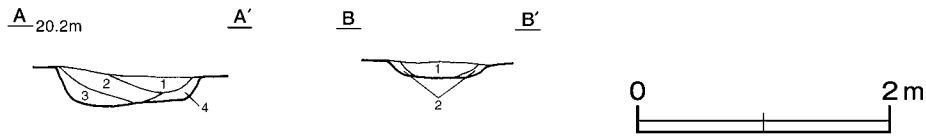
土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片43点(坏8, 高台付坏3, 甕類32), 須恵器片8点(坏1, 甕7), 鉄滓1点出土している。いずれも細片で、流れ込んだものと考えられる。

所見 北部は平成7年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団文化財報告』第120集を参照されたい。今回報告する第9号溝の南の延長線上に第26号溝を確認することができる。形状や軸線が一意することから、この二つの溝は一連のもので等高線に沿った形で掘り込まれていることから、区画のための

溝ではないかと考えられる。中世と思われる第63号方形竪穴遺構を掘り込んでいることからそれ以降に機能していたと考えられるが、出土土器はいずれも流れ込んだものであり、時期は不明である。



第124図 第9号溝跡実測図

第131号溝跡 (第125図)

位置 調査区西部の西南M11h0 ~ M12i1区、標高20.0mほどの平坦な台地上に位置している。

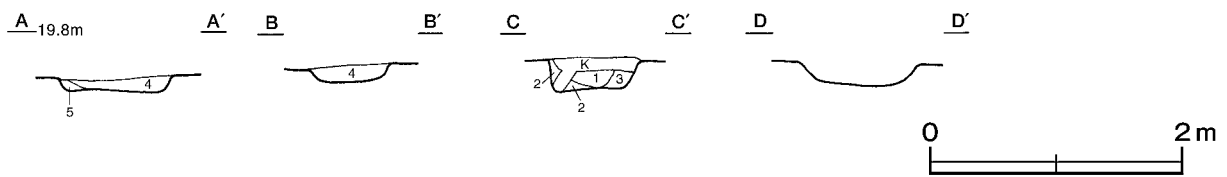
規模と形状 N - 44° - Wの方向に直線的に伸び、今回調査された長さは8.02mで、上幅64 ~ 97cm、下幅42 ~ 87cm、深さ9 ~ 12cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。各層にローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説	
1 黒褐色 ロームブロック微量	4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量	5 黒褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量	

遺物出土状況 土師器片20点 (高台付坏1, 甕類19), 須恵器片3点 (坏1, 甕2) が出土している。いずれも細片で、流れ込んだものと考えられる。

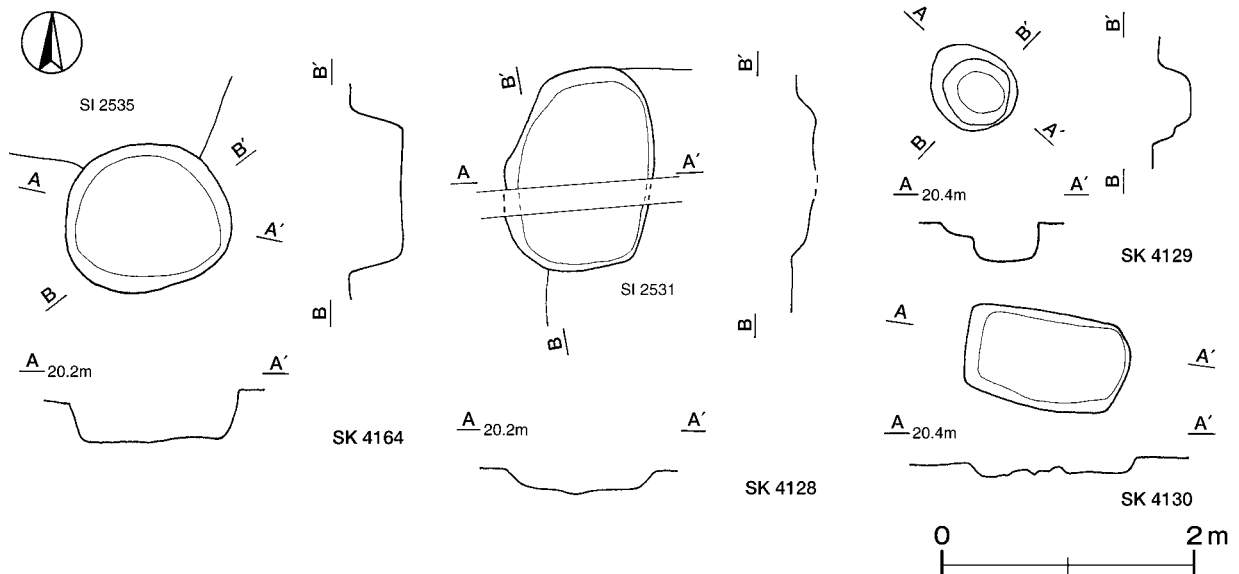
所見 時期は、出土土器がいずれも流れ込んだもののため不明である。



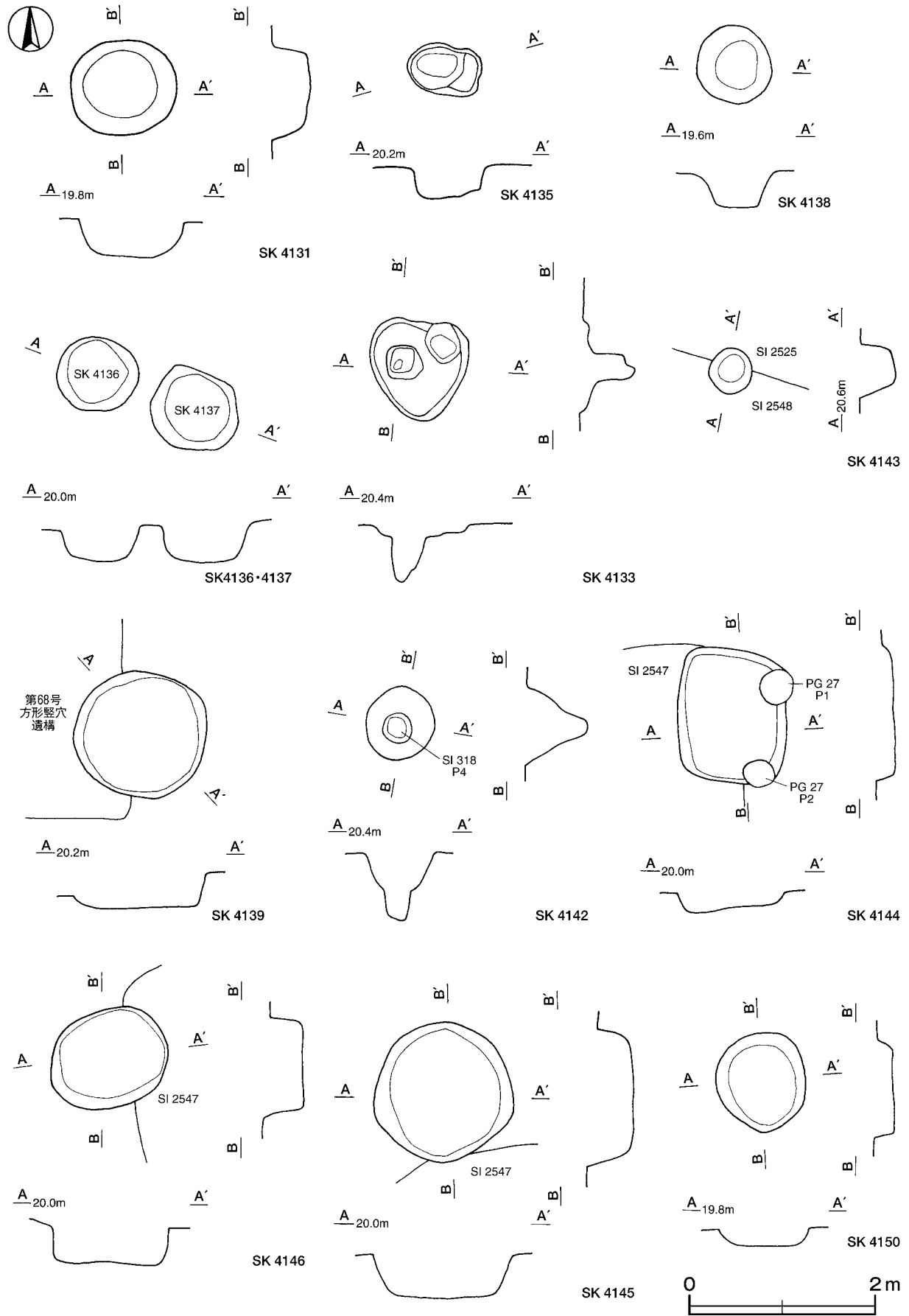
第125図 第131号溝跡実測図

(2) その他の土坑 (第126 ~ 128図)

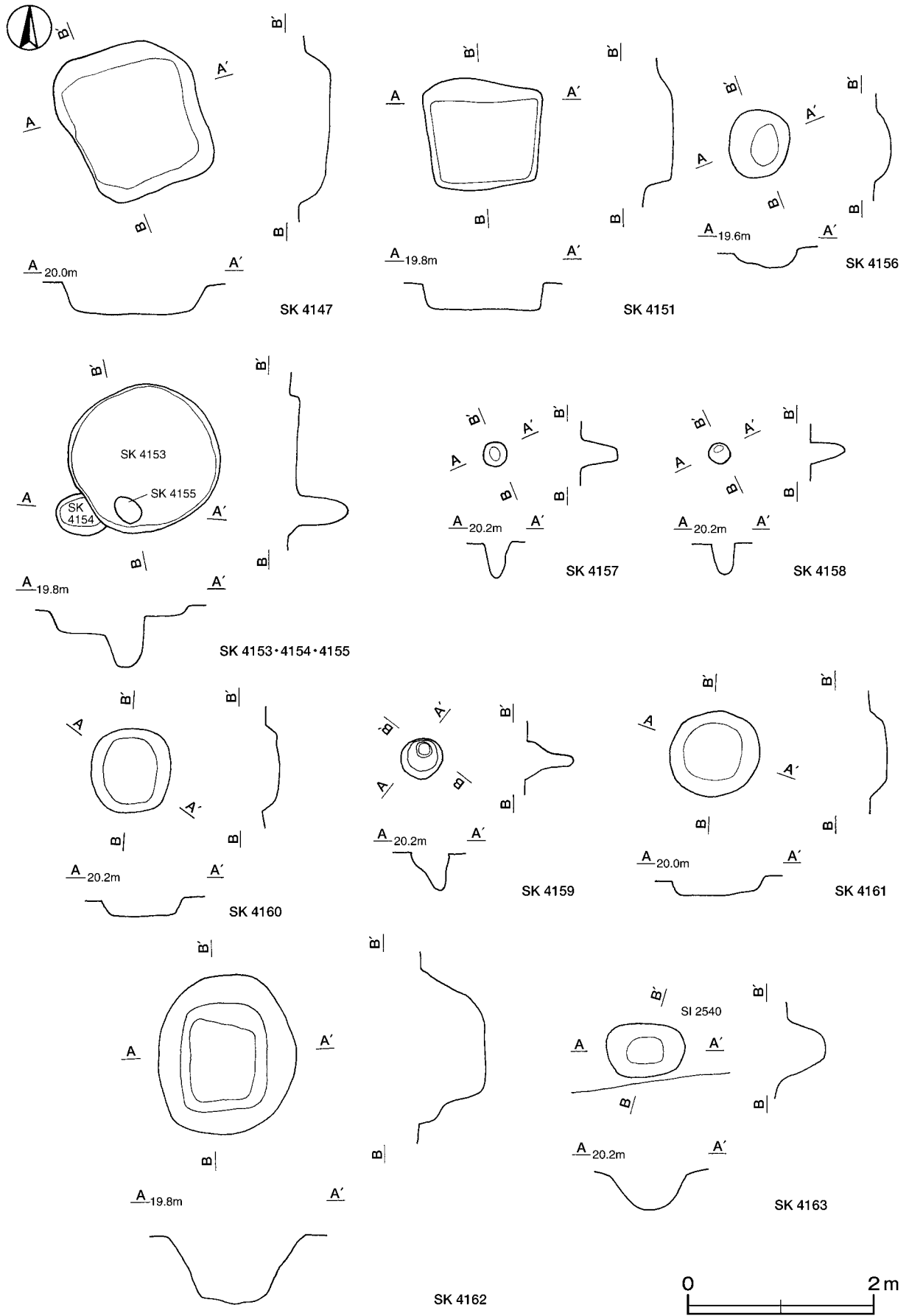
時期及び性格不明の土坑については、以下、実測図にて紹介する。



第126図 その他の土坑実測図(1)



第127図 その他の土坑実測図(2)



第128図 その他の土坑実測図(3)

(3) ピット群

今回の調査で、本調査区の南西部から1か所のピット群が検出された。ピットから出土した土器はいずれも細片であり、遺物から時期を判断することはできなかった。また、検出されたピットから建物の配列や構造を特定することもできなかった。以下、実測図と一覧表を記載する。

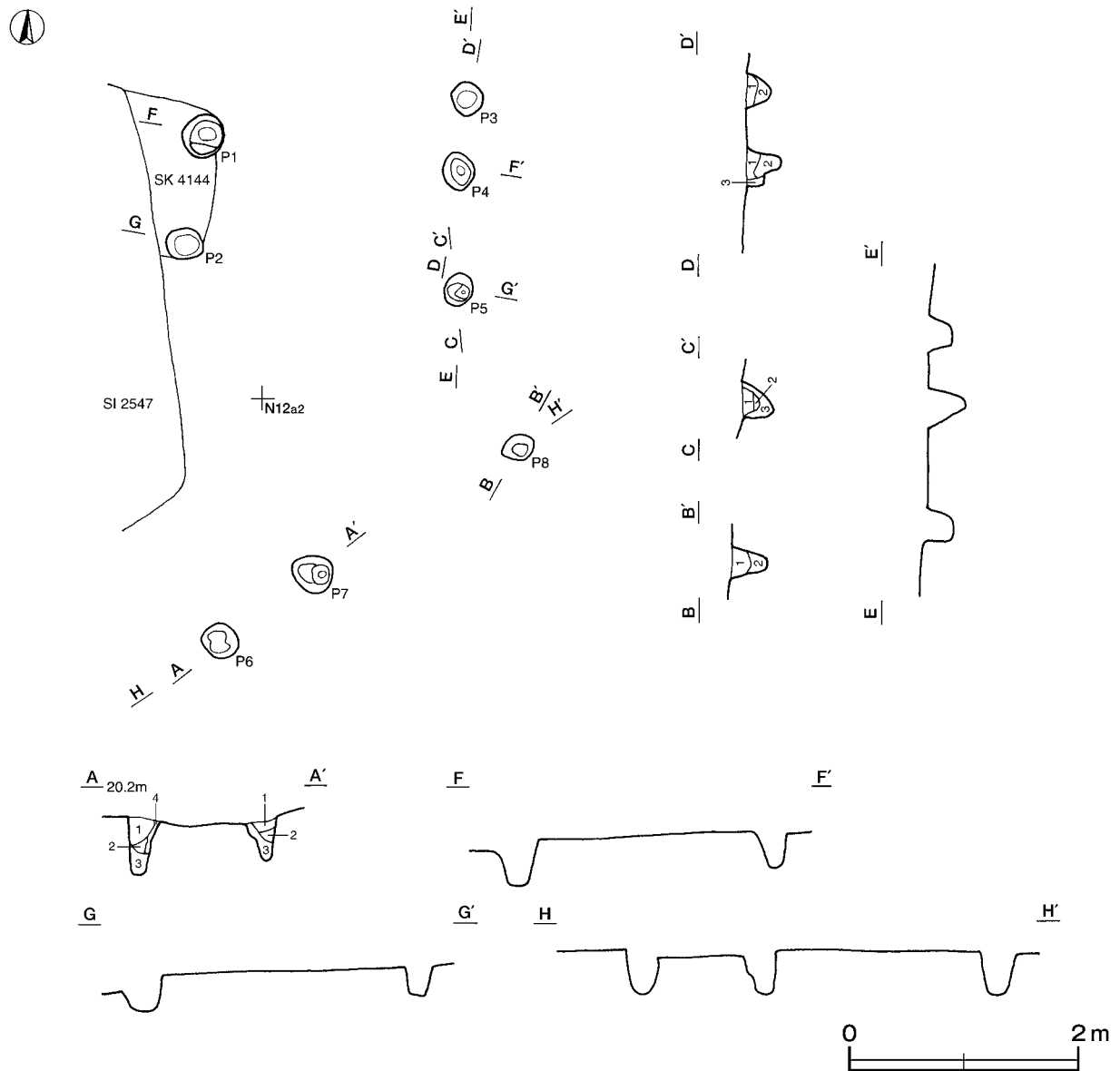
第27号ピット群 (第129図)

標高20.0mほどの平坦な台地上の、調査区南西部のM12j1 ~ N12a2 区から8か所のピットが検出された。平面形は径22~40cmの円形または楕円形であるが、時期は、不明である。

土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量



第129図 第27号ピット群実測図

表12 第27号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	M12j1	楕円形	40×36	40	5	M12j2	楕円形	25×22	30
2	M12j1	楕円形	34×30	30	6	N12a1	楕円形	36×28	50
3	M12j2	楕円形	30×26	20	7	N12a2	楕円形	24×22	34
4	M12j2	楕円形	26×24	30	8	N12a2	円形	25×22	32

表13 その他の溝跡一覧表

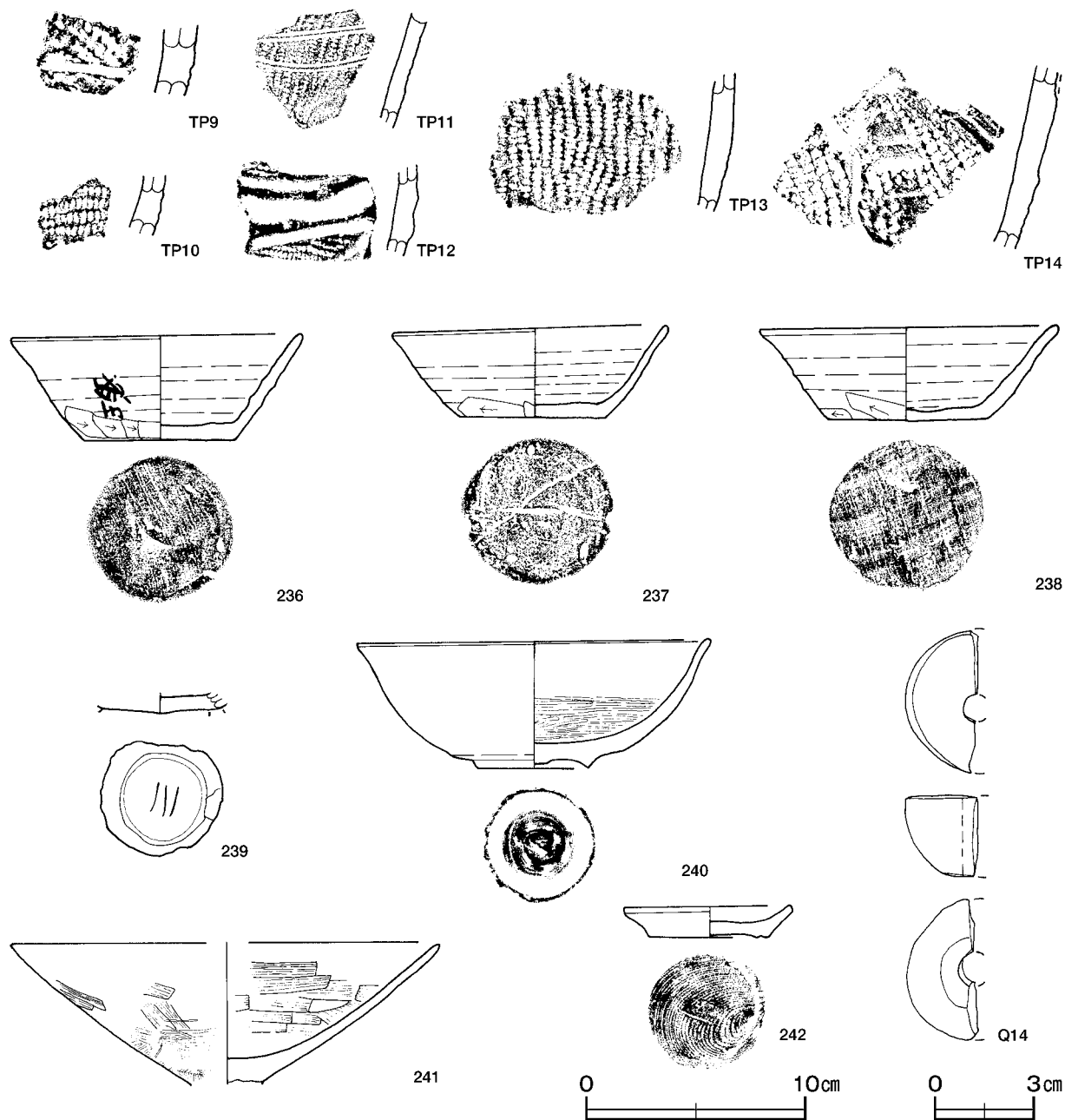
番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
8	M13e1~ M13h1	N - 0°	直線状	8.73	35~80	16~40	10~18	U字状	人為	緩斜	土師器片, 須恵器片	11世紀以降
9	M13e1~ M12i9	N - 29° - E	直線状	17.4	68~112	40~92	10~28	U字状	人為	緩斜	土師器片 須恵器片 鉄滓	不明
131	M11h0~ M12i1	N - 44° - W	直線状	8.02	64~97	42~87	9~12	U字状	人為	緩斜	土師器片, 須恵器片	不明

表14 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4128	M13f2	N - 13° - E	[楕円形]	(1.61)×(1.16)	12	緩斜	平坦	人為		S12531→本跡
4129	N12a9	N - 41° - W	楕円形	0.74×0.61	28	外傾	平坦	人為	土師器片	
4130	M13h5	N - 82° - W	長方形	1.32×0.77	10	外傾	凹凸	人為		
4131	M12h2	N - 63° - E	楕円形	1.18×1.04	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
4133	M13i3	N - 22° - W	不整形	1.17×1.05	60	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
4135	M13h3	N - 62° - W	楕円形	0.80×0.55	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
4136	M12i8	N - 74° - E	円形	0.90×0.85	37	外傾	平坦	人為		S12535→本跡
4137	M12i9	N - 29° - W	楕円形	1.05×0.93	43	外傾	平坦	人為		S12535→本跡
4138	M12g2	N - 33° - E	円形	0.85×0.79	38	外傾	平坦	人為		S12544→本跡
4139	M12a3	N - 77° - E	円形	1.44×1.40	28	外傾	平坦	人為		第68号方形竪穴遺構→本跡
4142	M13i7	N - 90° - E	円形	0.80×0.75	42	外傾	平坦	人為		
4143	M13j6	N - 10° - E	円形	0.52×0.48	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12525→本跡→S12548
4144	M12j1	N - 0°	長方形	1.43×1.18	20	外傾	平坦	人為	土師器片	S12547→本跡→PG27P1・2
4145	M11j0	N - 63° - E	円形	1.51×1.47	45	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12547→本跡
4146	M11j0	N - 77° - E	楕円形	1.30×1.06	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12547→本跡
4147	M12i5	N - 20° - W	隅丸長方形	1.63×1.42	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
4150	M12h2	N - 5° - W	楕円形	1.05×0.96	19	外傾	平坦	人為		
4151	M12g3	N - 86° - E	方形	1.19×1.17	27	外傾	平坦	人為	土師器片	
4153	M12i2	N - 71° - W	円形	1.64×1.62	10	緩斜	平坦	人為		SK4155→SK4154→本跡
4154	M12i2	N - 62° - W	楕円形	0.57×(0.37)	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4153
4155	M12i2	N - 36° - W	楕円形	0.34×0.23	55	外傾	平坦	人為		本跡→SK4153
4156	M12i0	N - 19° - W	楕円形	0.75×0.67	15	緩斜	平坦	人為		
4157	M13i1	N - 4° - W	楕円形	0.28×0.22	40	外傾	平坦	人為		
4158	M13h1	N - 1° - W	円形	0.22×0.22	39	外傾	平坦	人為		
4159	M13i2	N - 48° - E	楕円形	0.47×0.42	50	外傾	平坦	人為		
4160	N12a2	N - 10° - E	円形	0.92×0.85	17	緩斜	平坦	人為	土師器片, 鉄滓	
4161	M12j2	N - 78° - W	円形	0.98×0.94	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
4162	M12g2	N - 22° - E	隅丸長方形	1.78×1.50	75	外傾	平坦	人為	土師器片 須恵器片 縄文土器片	
4163	N12a7	N - 88° - W	楕円形	0.95×0.50	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12540→本跡
4164	M12j9	N - 77° - E	楕円形	1.32×1.15	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12535→本跡

6 遺構外出土遺物 (第130図)

今回の調査で、出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。



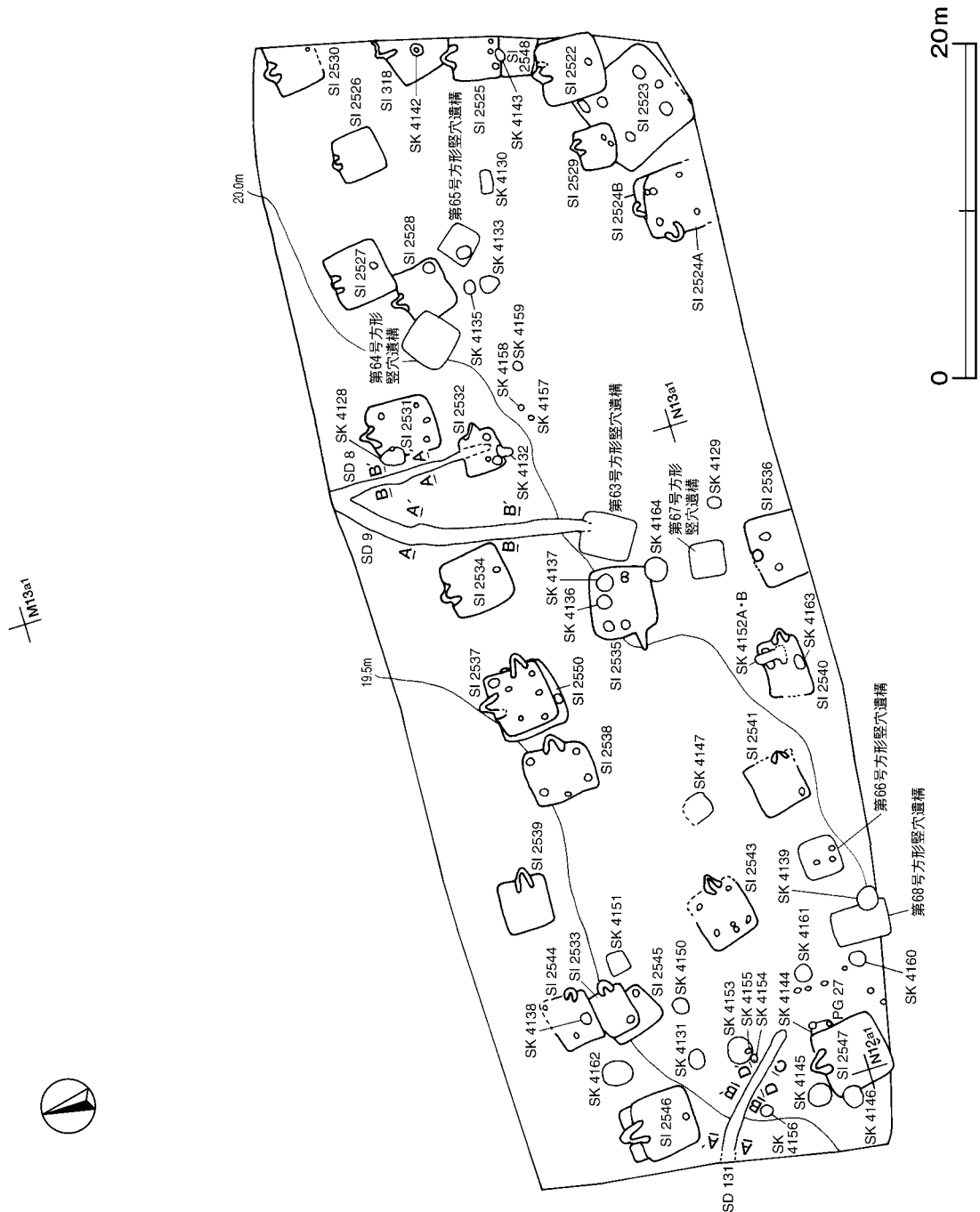
第130図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
236	須恵器	坏	13.1	4.9	6.6	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	表採	95% 墨書 「城内」 PL36
237	須恵器	坏	12.3	4.3	6.5	長石・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	表採	100% PL35
238	須恵器	坏	13.7	4.4	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り後ナデ 底部一方向からのヘラ削り	表採	85%
239	須恵器	高台付坏	-	(1.0)	-	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	表採	10% 刻書 「川」 PL36
240	土師器	高台付椀	15.1	5.9	5.0	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	表採	75% PL35
241	土師器	高坏	[19.6]	(6.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	表採	40%
242	土師器	小皿	7.6	1.5	5.4	長石・雲母	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	表採	95%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文にL Rの単節縄文を施文	表探	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	横位の沈線	表探	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	L Rの単節縄文を地文とし2条1組の横位の沈線を2本施文	表探	
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	2本の微隆起帯で無文帯を形成 地文にR Lの単節縄文施文	表探	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文にL Rの単節縄文を施文	表探	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	R Lの単節縄文を地文とし縦位の波状沈線を施文	表探	

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	紡錘車	(4.4)	(2.2)	(0.8)	(26.6)	凝灰岩	断面台形 二方向からの穿孔	表探	



第131図 鳥名熊の山遺跡7区遺構全体図

第5節 9区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居4軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第2504号住居跡（第132・133図）

位置 調査区南西部のP 8 g4区、標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.28m、短軸3.71mの長方形で、主軸方向はN - 76° - Eである。壁高は31～39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅13～17cm、深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、袖部幅102cmである。袖部は地山を30cmほど掘り込めてローム土主体の第16～19層で床面の高さまで埋め戻した後、砂質粘土を主体とした第12～15層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に29cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～11層に分けられ、第7・9層は、天井部および袖部の崩落土層に相当する。竈2は北壁中央部に付設されている。袖部は竈の作り替えの際に削平されたため遺存していない。火床部は床面と同じ高さであり、火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

1 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	11 明褐色	ローム粒子・白色粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
3 明赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	14 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子中量	15 明赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
7 褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量	17 明褐色	ロームブロック少量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	18 褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
9 明赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	19 褐色	ローム粒子多量
10 にぶい黄褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

竈2土層解説

1 にぶい赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	7 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 橙色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
		9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 8か所。P1～P4は主柱穴で、深さは48～60cmである。P5は深さ46cmで南壁際の中央部に位置していることや、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ13cm～19cmで主柱穴の近くに位置するが、性格は不明である。

覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

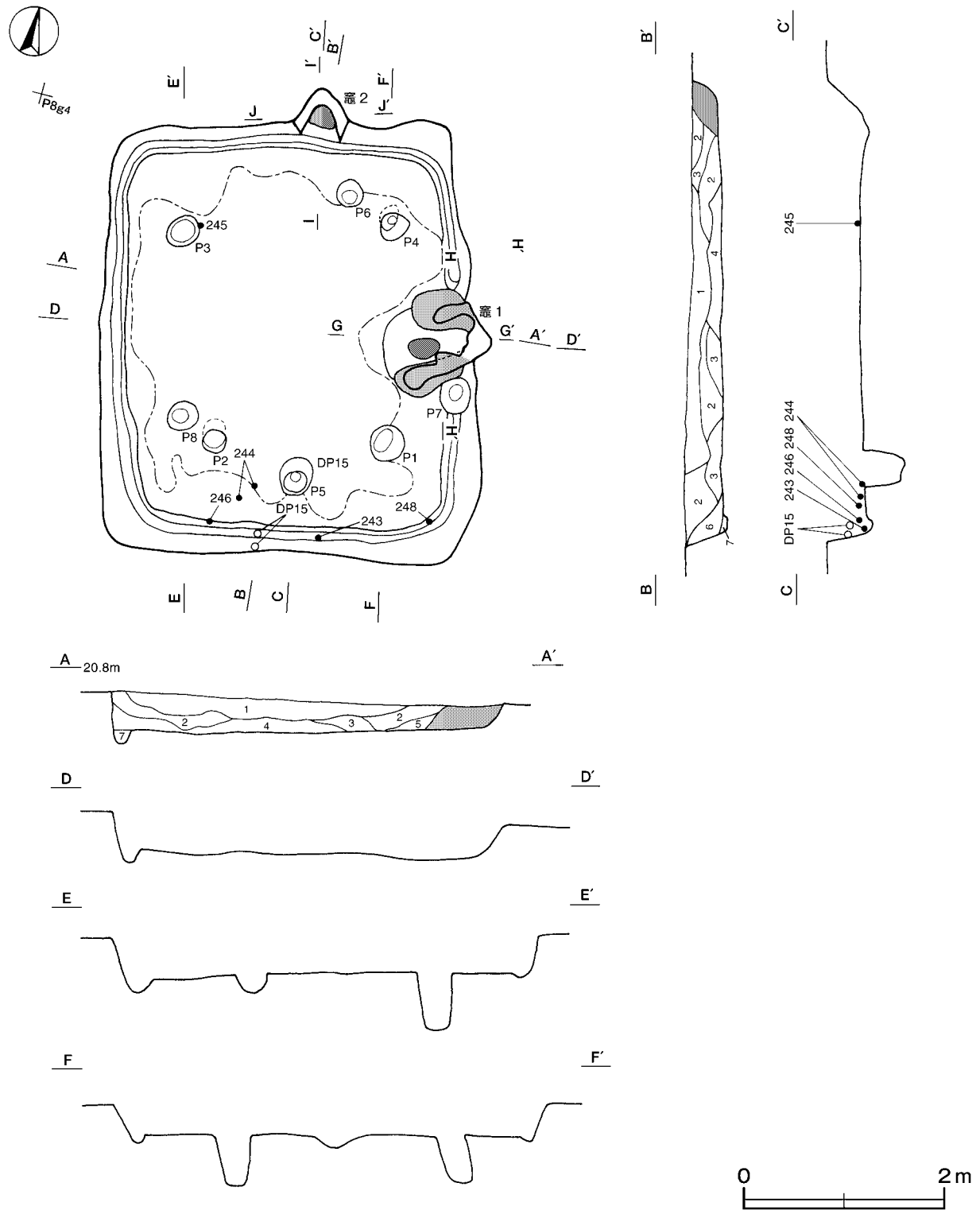
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

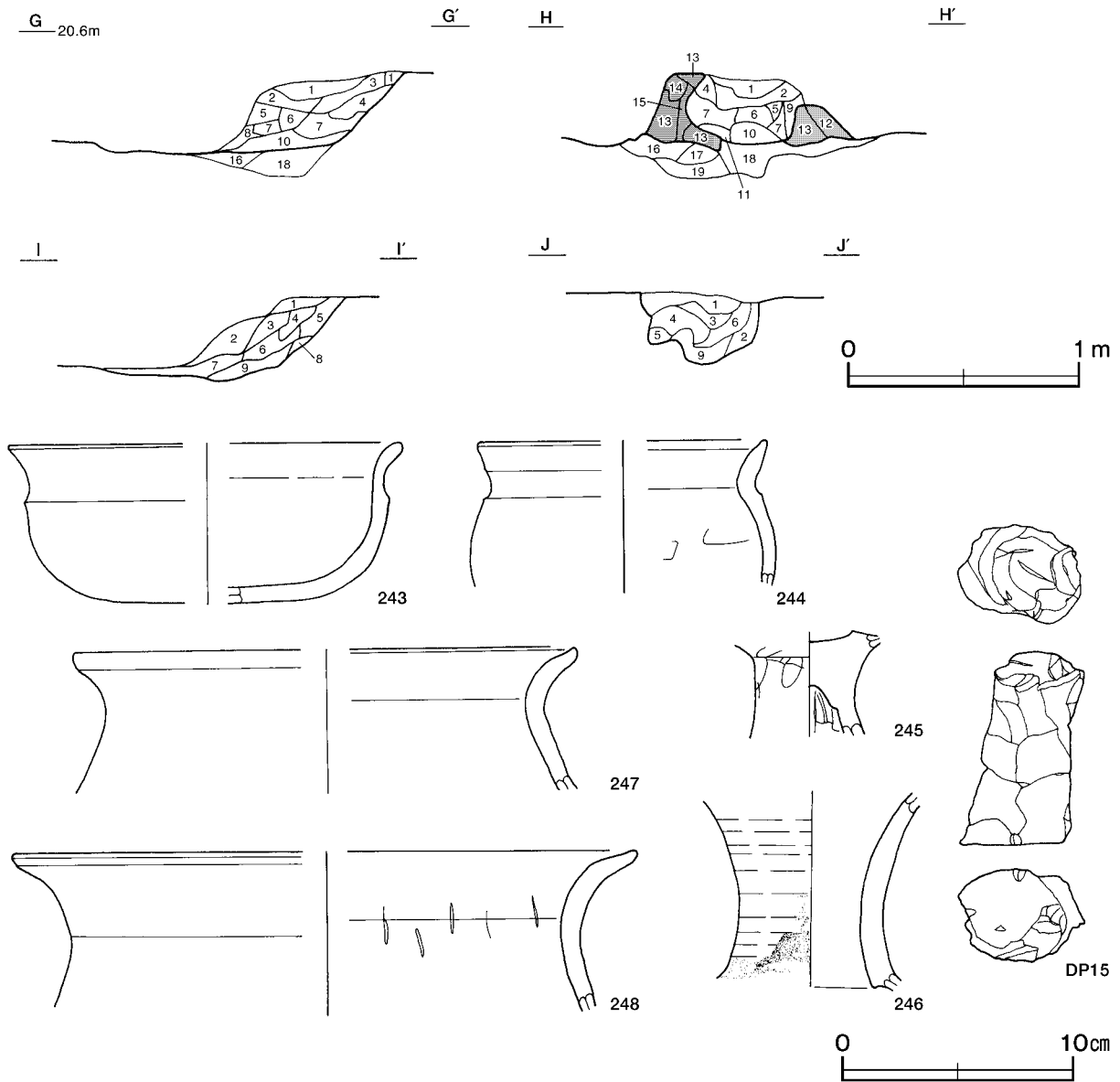
遺物出土状況 土師器片608点（坏56、甕551、甑1）、土製品1点（支脚）が散在した状態で出土している。

245は、北西部のP3 付近の床面から出土しており、破片のため住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また、243・244・246・248は南壁際の覆土下層から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。DP15は覆土中から出土している。

所見 竈2には袖部が遺存しないことから、竈2から竈1への作り替えが行われている。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第132図 第2504号住居跡実測図



第133図 第2504号住居跡・出土遺物実測図

第2504号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	鉢	[12.2]	5.9	-	長石	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	下層	15%
244	土師器	小型甕	[12.3]	(6.3)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	下層	10%
245	土師器	高坏	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面ヘラナデ 内面ヘラ削り 坏部内面ヘラ磨き	床面	5%
246	須恵器	平瓶	-	(8.6)	-	長石	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	下層	5%
247	土師器	甕	[21.6]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	覆土中	10%
248	土師器	甕	[26.8]	(6.9)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	支脚	8.5	5.5	4.3	123.5	土	円筒状 一面は平面で他面は窪んでいる 側面は調整されていない	覆土中	PL52

第2505号住居跡 (第134・135図)

位置 調査区北西部のP 8 e4 区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2516号住居跡を掘り込み, 第2506号住居に掘り込まれている。

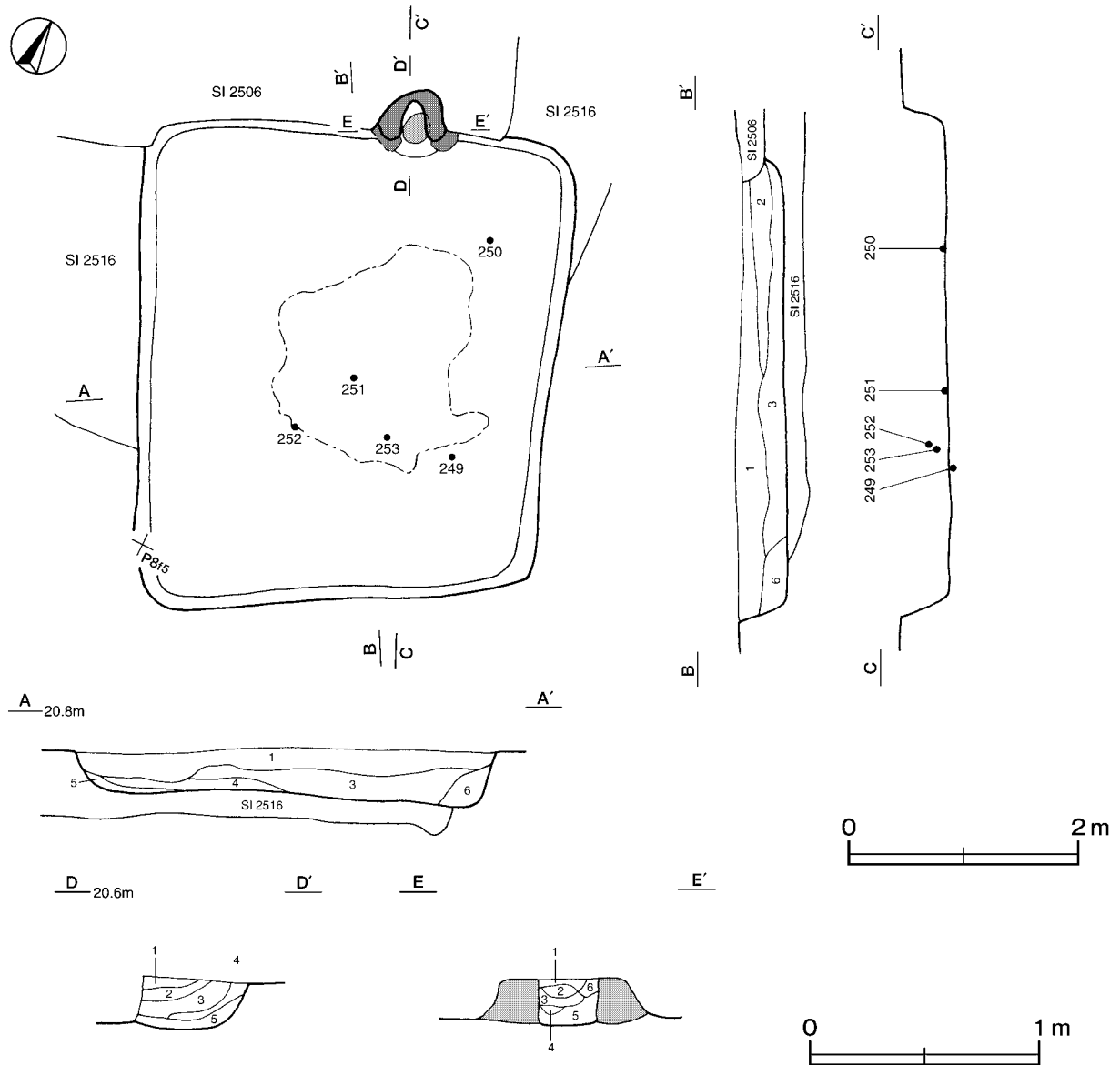
規模と形状 長軸4.01m, 短軸3.58mの長方形で, 主軸方向はN - 27° - Wである。壁高は35~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで56cm, 袖部幅71cmである。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ, 火床部から直立している。覆土は第1~6層に分けられ, 第3層は, 天井部の崩落土層に相当する。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 | 炭化物多量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |



第134図 第2505号住居跡実測図

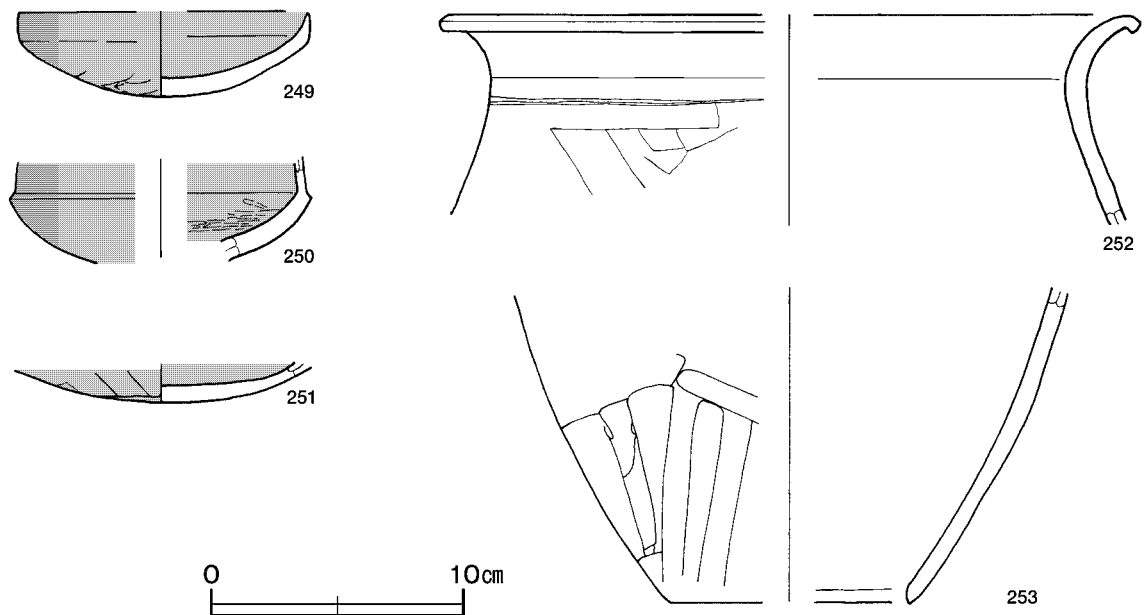
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 砂質粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片291点(坏179, 高台付坏2, 甕類110)が散在した状態で出土している。249は中央やや南東寄り, 250は北東部, 251は中央部の床面からそれぞれ破片で出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第135図 第2505号住居跡出土遺物実測図

第2505号住居跡出土遺物観察表(第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
249	土師器	坏	[11.5]	3.3	-	長石	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面へら削り後ナデ	床面	30%
250	土師器	坏	-	(3.9)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面へら磨き 体部外面へら削り後ナデ	床面	20%
251	土師器	坏	-	(1.4)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	床面	10%
252	土師器	甕	[26.8]	(8.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面へら削り後ナデ	中層	10%
253	土師器	甕	-	(12.7)	[9.6]	赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面へら削り後ナデ 内面へらナデ	下層	5%

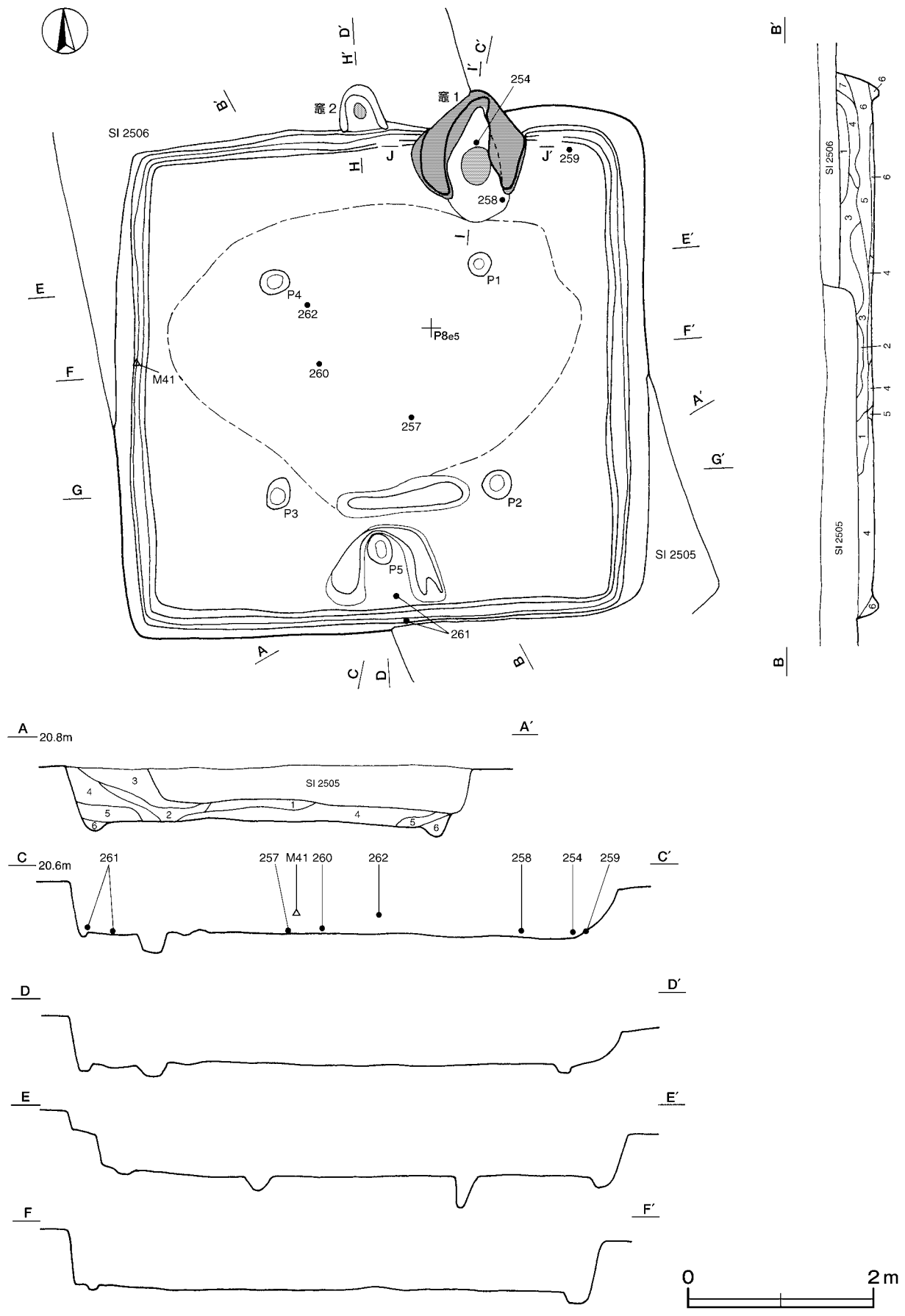
第2516号住居跡(第136~138図)

位置 調査区北西部のP8e4区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

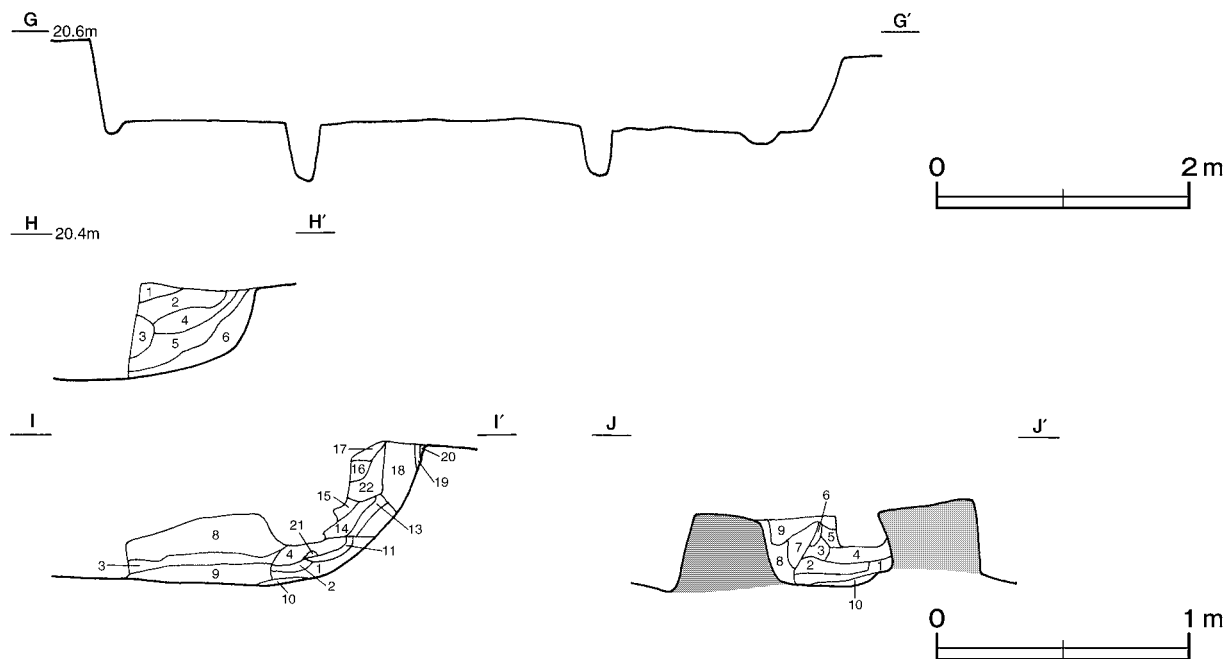
重複関係 第2505, 2506号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.57m, 短軸5.44mの方形で, 主軸方向はN-1°-Wである。壁高は44~58cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部を中心に踏み固められている。また, P5の北側は特に踏み固められ, 馬蹄形の高まりが見られる。さらにその北側にも, 東西方向の長さ1.5m, 幅15cmの高まりがみられる。壁下には幅10~22cm, 深さ6~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第136图 第2516号住居跡実測图(1)



第137図 第2516号住居跡実測図(2)

竈 2か所。竈1は、北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は、焚口から煙道部まで141cmで、袖部幅は112cmである。袖部は、砂質粘土で構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に53cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。覆土は第1～22層に分けられる。第4・5・7・8・16層は山砂・砂質粘土を多く含み、竈の構築材及び崩落土層に相当する。竈2は、北壁中央部に位置し、袖部は削平されて遺存していない。規模は、焚口から煙道部まで102cmである。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, 山砂粒子少量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子中量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・山砂粒子中量
- 5 暗赤褐色 山砂粒子中量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 山砂粒子微量
- 7 暗褐色 山砂粒子多量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 山砂粒子中量, 焼土粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック, 炭化物少量
- 10 黒褐色 焼土ブロック微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック中量

- 12 暗褐色 焼土粒子少量
- 13 赤褐色 焼土粒子多量
- 14 極暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子多量, 山砂粒子微量
- 16 にぶい黄橙色 砂質粘土粒子多量
- 17 黒褐色 山砂粒子微量
- 18 暗褐色 山砂粒子中量・焼土ブロック微量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 20 極暗赤褐色 焼土粒子少量
- 21 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 22 暗褐色 焼土粒子微量

竈2土層解説

- 1 黒褐色 山砂少量, 焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量
- 6 暗褐色 焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さ21～41cmである。P5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置することや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

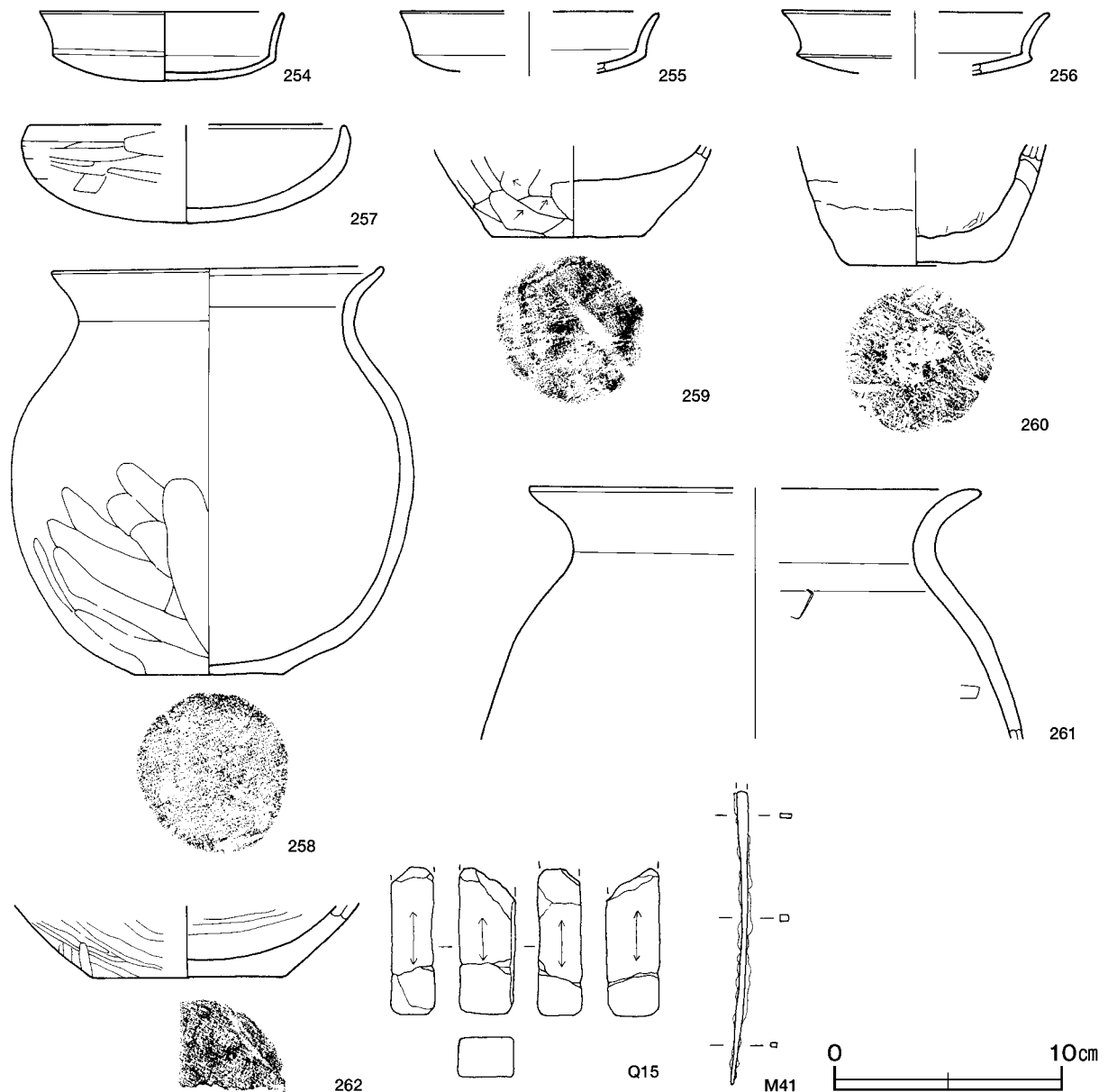
覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量, 砂質粘土粒子微量
- 2 褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片178点(坏60, 壺3, 甕類115), 石製品1点(砥石), 鉄製品1点(釘)が散在した状態で出土している。このほか床面から細礫25点も出土している。254は竈火床面から正位で出土したもので, 住居の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。259は北東コーナー部の床面から出土したもので, 住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。258は竈の右袖先端部から逆位で出土したもので, 袖部の補強材として使用されたものと考えられる。M41は覆土中層, Q15は竈の覆土中からそれぞれ出土したものである。P5 北側の, 馬蹄形と直線の高まりの間の床面からは, 直径2cmほどの小石が幅5cm長さ16cmにわたり敷き詰められた状態で検出された。

所見 馬蹄形の高まりは当遺跡においても多数報告されているが, 細礫を伴う類例は見られず, 性格については不明である。竈2には袖部が遺存しないことから, 竈2から竈1への作り替えが行われたものである。住居の規模から, この時期の中心的な住居であったと推測され, 時期は出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第138図 第2516号住居跡出土遺物実測図

第2516号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
254	土師器	坏	10.6	3.2	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 底部ヘラ削り後ナデ調整	竈火床面	100% PL49
255	土師器	坏	[11.4]	(2.7)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈覆土中	10%
256	土師器	坏	[11.7]	(2.8)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈覆土中	5%
257	土師器	坏	[13.9]	4.4	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ調整	下層	50%
258	土師器	壺	15.0	17.9	6.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 体部下端ヘラ削り	下層	90%
259	土師器	壺	-	(4.1)	6.5	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	床面	10%
260	土師器	壺	-	(5.2)	16.0	長石・雲母	淡黄	普通	体部外面輪積痕 内面ヘラナデ	下層	15%
261	土師器	甕	[19.8]	(11.0)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	下層	15%
262	土師器	甕	-	(3.3)	[8.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下端ヘラ磨き 内面ヘラナデ	中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	(6.5)	2.4	1.8	(51.8)	凝灰岩	砥面4面, 他1面は破断面	覆土中	PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	鏝	(12.9)	0.5	0.2~0.3	(8.1)	鉄	鏝部を欠く	中層	PL53

第2520号住居跡（第139図）

位置 調査区北西部のP 8 b4区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2521・2511号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.01m, 短軸2.88mの方形で, 主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は34~48cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いた中央が踏み固められている。壁下には幅11~16cm, 深さ5~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで94cm, 袖部幅72cmである。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cmほど掘り込まれ, 火床部から直立している。覆土は第1~10層に分けられ, 第3・6・7層は, 天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|----------|-------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土微量 | 6 橙色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子微量 | 7 明褐色 | 灰色 白色粘土ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 3 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 明褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | 炭化物・砂質粘土粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ30cmで, 南壁際に位置していることや硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴なうピットと考えられる。竈前部に位置しているP2は, 深さ15cmで性格は不明である。

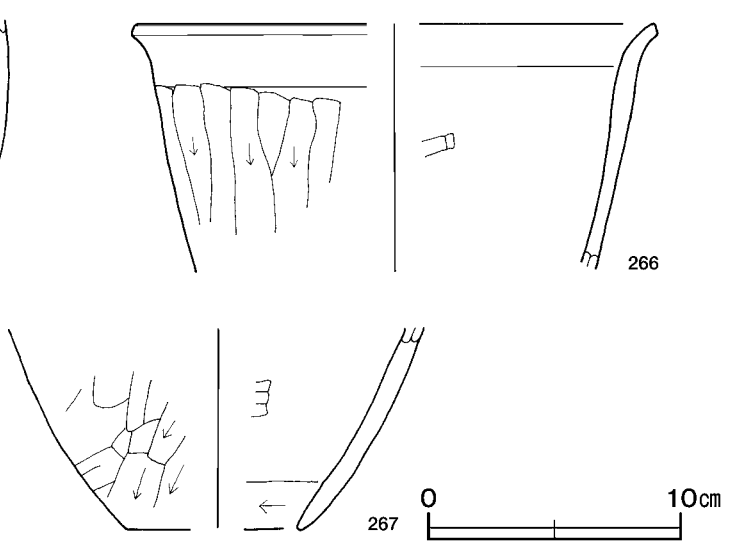
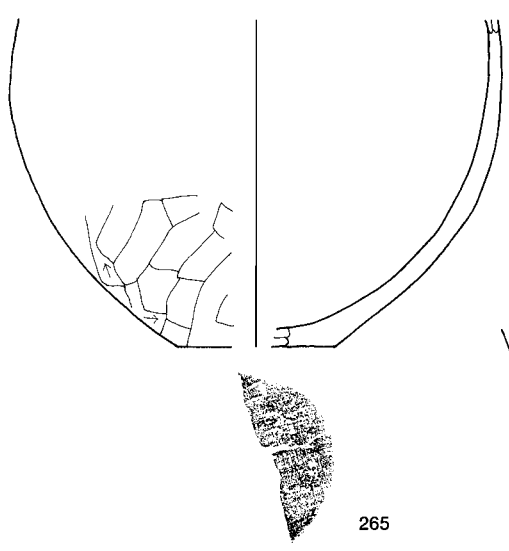
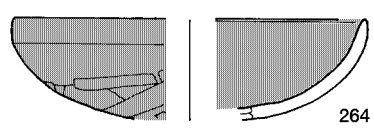
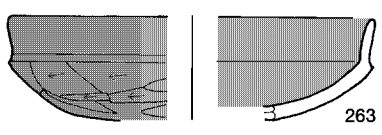
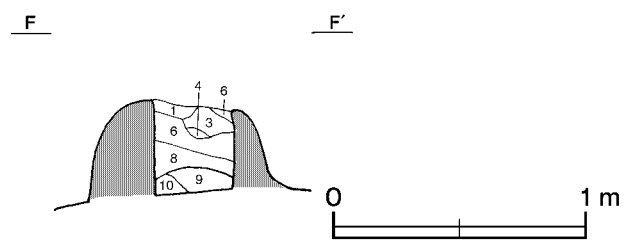
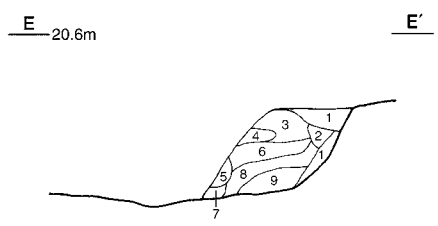
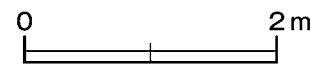
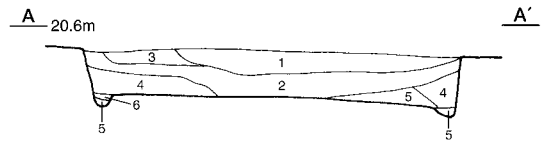
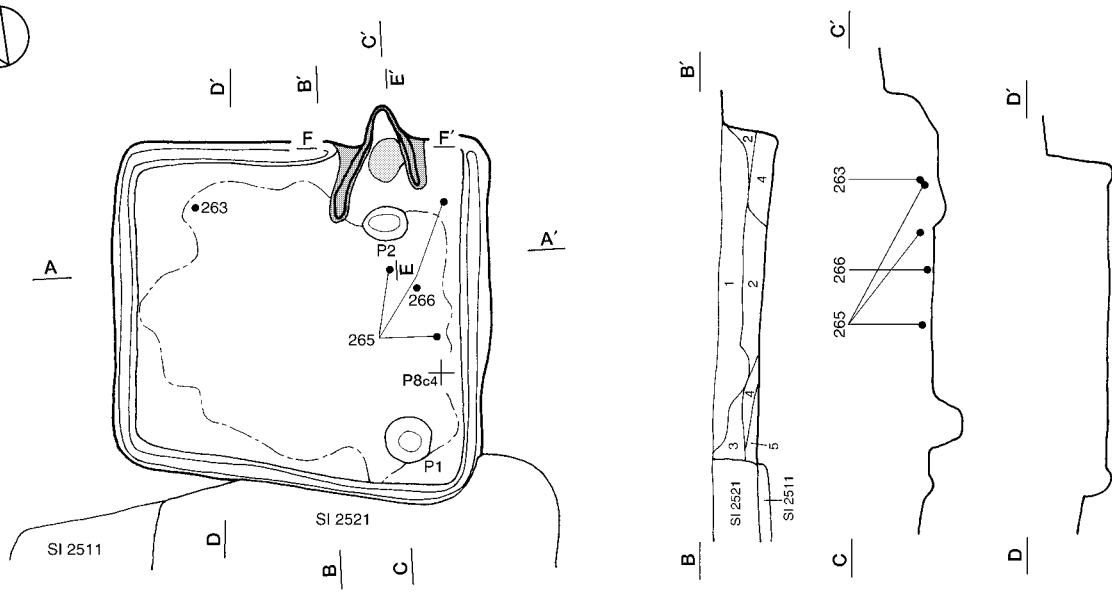
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片160点(坏41, 甕102, 甗17)が散在した状態で出土し, 流入した須恵器片6点も出土している。263は北西コーナー部, 266は東壁中央部の壁際, 265は東壁中央部の壁際から出土した破片が接合したもので, いずれも覆土下層からの出土であり, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第139图 第2520号住居跡・出土遺物実測図

第2520号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
263	土師器	坏	[14.3]	(4.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ ナデ調整 体部外面ヘラ削り後	下層	40%
264	土師器	坏	[13.9]	(4.0)	-	長石	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ ナデ調整 体部外面ヘラ削り後	覆土中	15%
265	土師器	甕	-	(13.0)	[6.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	下層	40%
266	土師器	甕	[20.5]	(9.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	下層	15%
267	土師器	甕	-	(8.0)	[7.0]	長石・白色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ調整 内面ヘラ削り後ヘラナデ	覆土中	10%

表15 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時代
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2504	P 8 g4	N - 76 ° - E	長方形	4.28×3.71	31～39	平坦	全周	4	1	3	竈2	-	人為	土師器片, 支脚	6世紀後葉
2505	P 8 e4	N - 27 ° - W	長方形	4.01×3.58	35～40	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片	7世紀前葉
2516	P 8 e4	N - 1 ° - W	方形	5.57×5.44	44～58	平坦	全周	4	1	-	竈2	-	人為	土師器片, 釘, 砥石	6世紀後葉
2520	P 8 b4	N - 1 ° - W	方形	3.00×2.88	34～48	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片	7世紀前葉

2 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡15軒，掘立柱建物跡5棟，土坑9基，鍛冶関連土坑4基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2500号住居跡（第140・141図）

位置 調査区西部のP 7 e9区，標高21.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.22m，短軸3.14mの方形で，主軸方向はN - 9 ° - Eである。壁高は8～16cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。各壁下には幅6～20cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，袖部幅104cmである。袖部は掘り残した地山を基部とし，その上部に砂質粘土を主体とした第8～10層を積み上げて構築している。火床部は地山を22cmほど掘りくぼめて，ローム土を主体とした第11・12層を充填して使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まれておらず，火床部から直立している。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 橙 色 砂質粘土粒子多量 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土粒子中量 | 10 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |

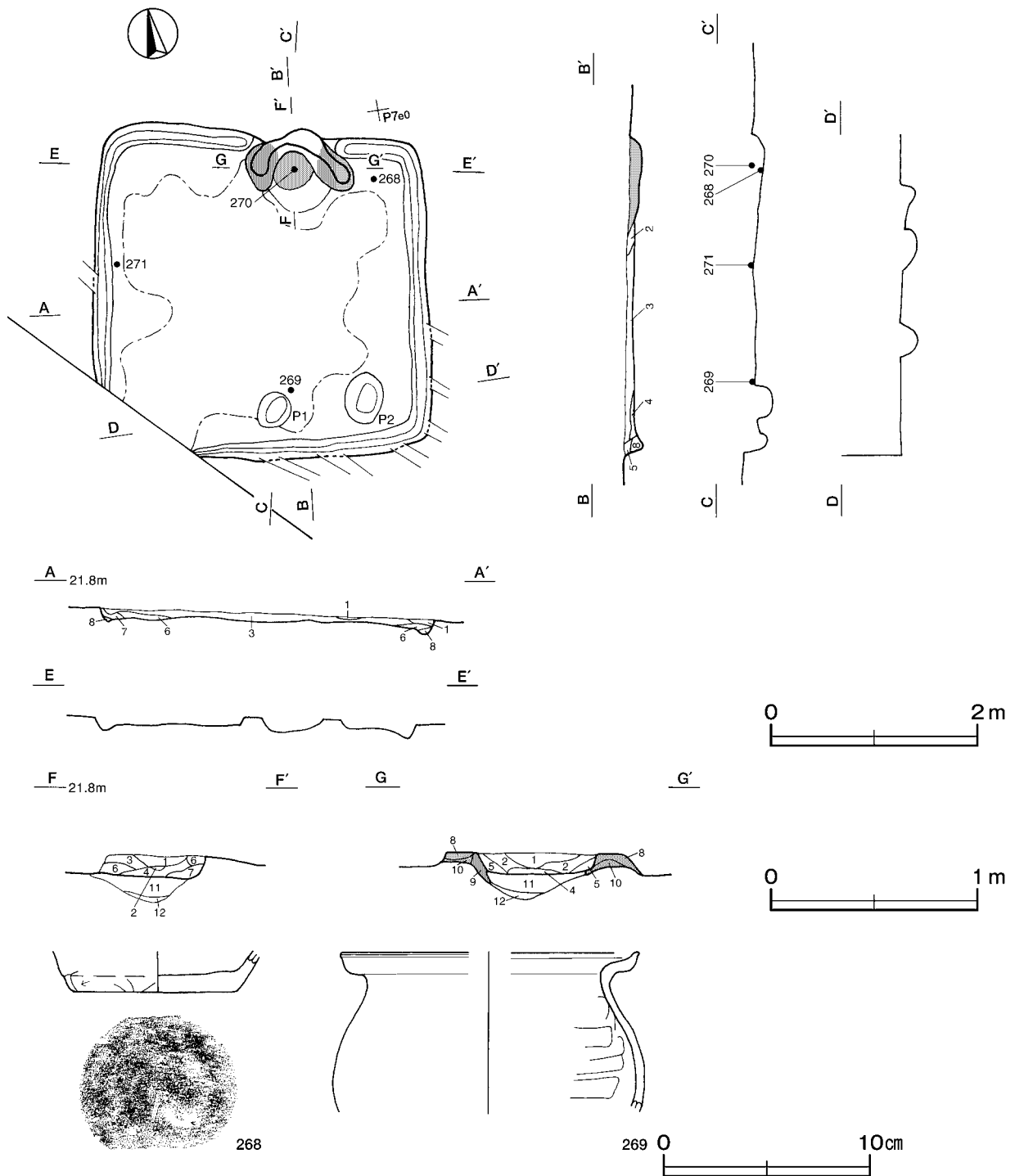
ピット 2か所。P1は深さ16cmで南壁際の中央部に位置していることや，硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南東コーナー部に位置し，深さ15cmで，性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

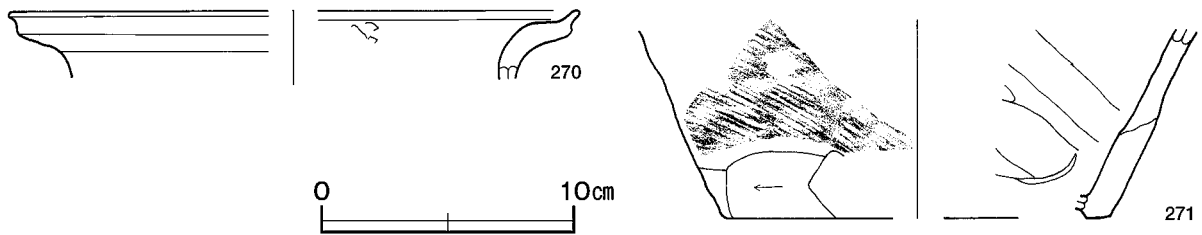
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック・砂粒中量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片47点(甕類), 須恵器片10点(坏9, 甑1)が散在した状態で出土している。268は北東コーナー部, 269は中央部やや南寄り, 271は西壁際のそれぞれ床面から出土している。いずれも破片で, 住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また, 270は竈の覆土上層から出土しており, 住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。



第140図 第2500号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第141図 第2500号住居跡出土遺物実測図

第2500号住居跡出土遺物観察表（第140・141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	須恵器	坏	-	(2.0)	7.9	長石・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向からのヘラ削り	床面	10%
269	土師器	甕	[14.3]	(7.7)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	10%
270	土師器	甕	[22.3]	(2.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈上層	5%
271	須恵器	甎	-	(7.4)	[15.4]	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 輪積痕 内面ヘラナデ	床面	5%

第2502号住居跡（第142図）

位置 調査区西部のP 8 f2区，標高21.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4084号土坑を掘り込み，第4015・4041号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.33m，短軸3.31mの方形で，主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は8～32cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。東壁から西壁の一部の壁下には，幅8～15cm，深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。第4015・4041号土坑に掘り込まれ左袖部の一部が残存するだけで，規模は確認できない。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 明褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | | |

ピット 8か所。P1～P4は支柱穴で，深さは24～42cmである。P5～P8は深さ5～50cmで規則性がなく性格は不明である。

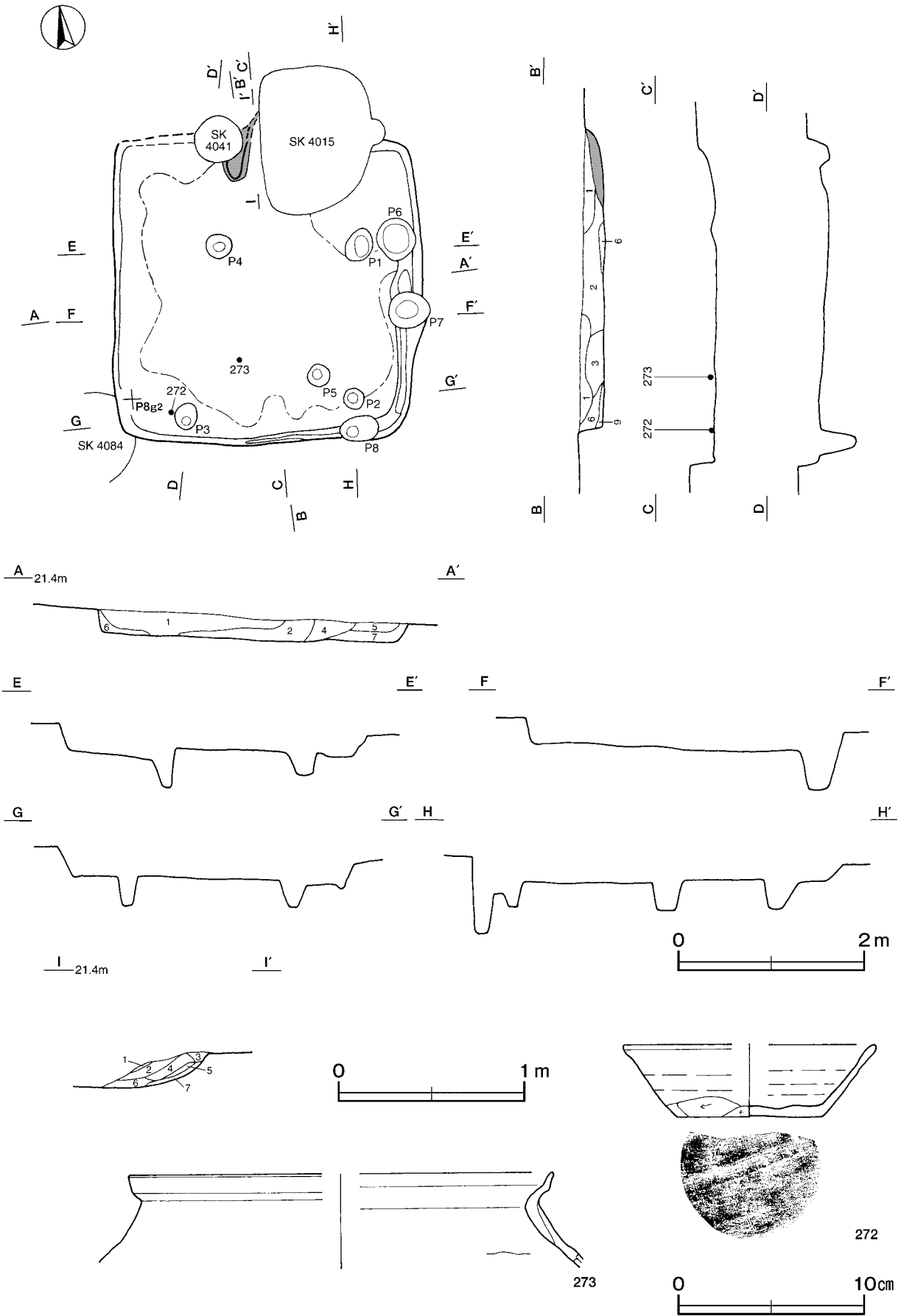
覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片67点（坏3，甕類64），須恵器30点（坏14，甕14，鉢1，甎1）が散在した状態で出土している。272は南西部のコーナー部，273は中央部南寄りのそれぞれ床面から出土している。いずれも小片で，住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土土器と重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第142图 第2502号住居跡・出土遺物実測図

第2502号住居跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
272	須恵器	坏	[13.5]	3.9	[7.8]	長石・雲母	灰	普通	体部下端持ちヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	床面	40%
273	土師器	甕	[22.7]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 内面輪積痕	床面	5%

第2503号住居跡（第143～145図）

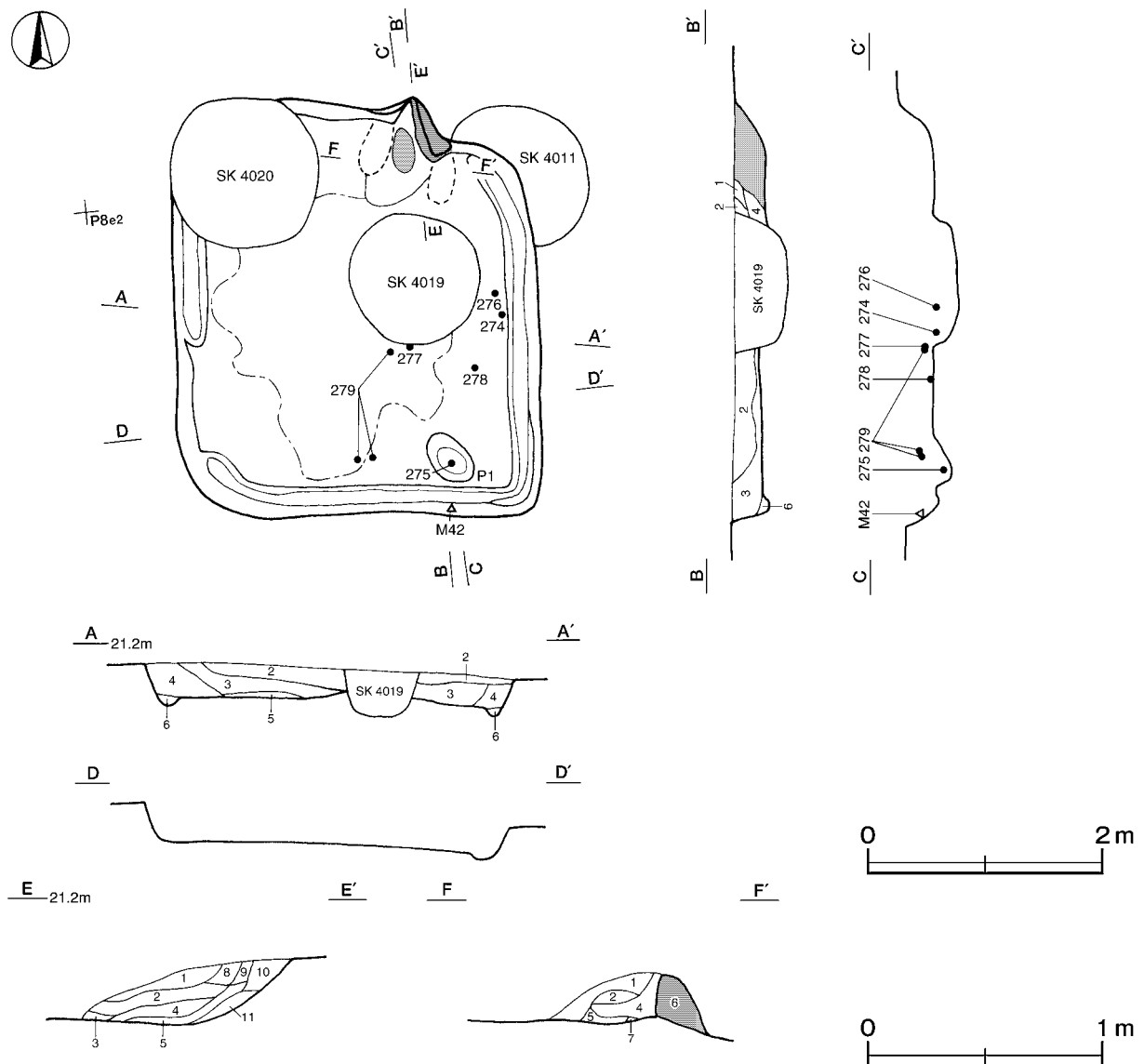
位置 調査区西部の P 8 e2 区，標高21.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4011号土坑を掘り込み，第4019・4020号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.38m，短軸は3.10mの長方形で，主軸方向は N - 6° - E である。壁高は22～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。西壁の一部を除いた壁下には，幅12～20cm，深さ6～10cmで U 字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖は遺存しておらず，規模は，焚口部から煙道部まで85cm，袖部幅74cm



第143図 第2503号住居跡実測図

ほどである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

甕土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | 炭化物・ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物・砂粒少量, ローム粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂粒中量, 炭化物微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子微量 | | |

ピット 深さ15cmで、南壁際に位置し、硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

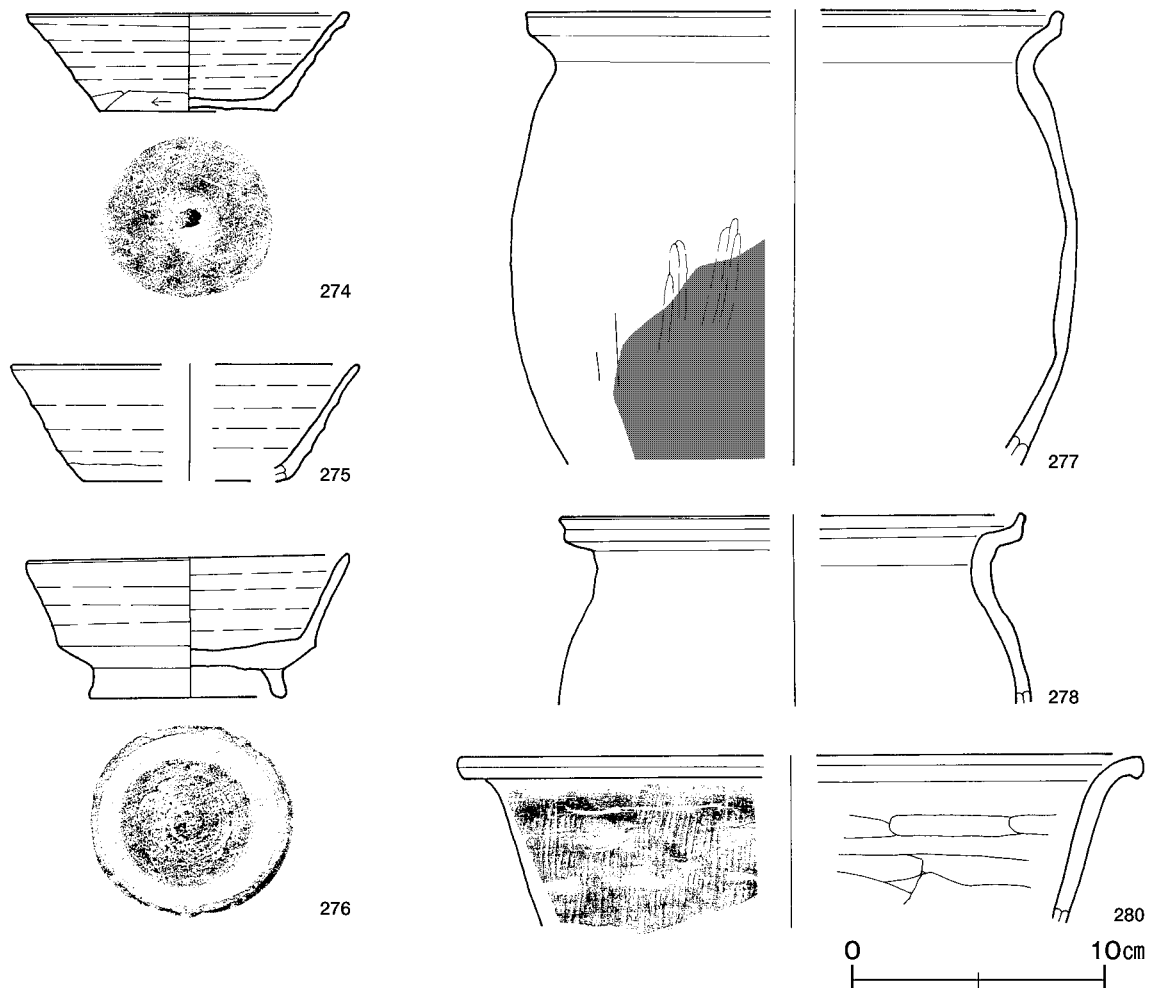
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

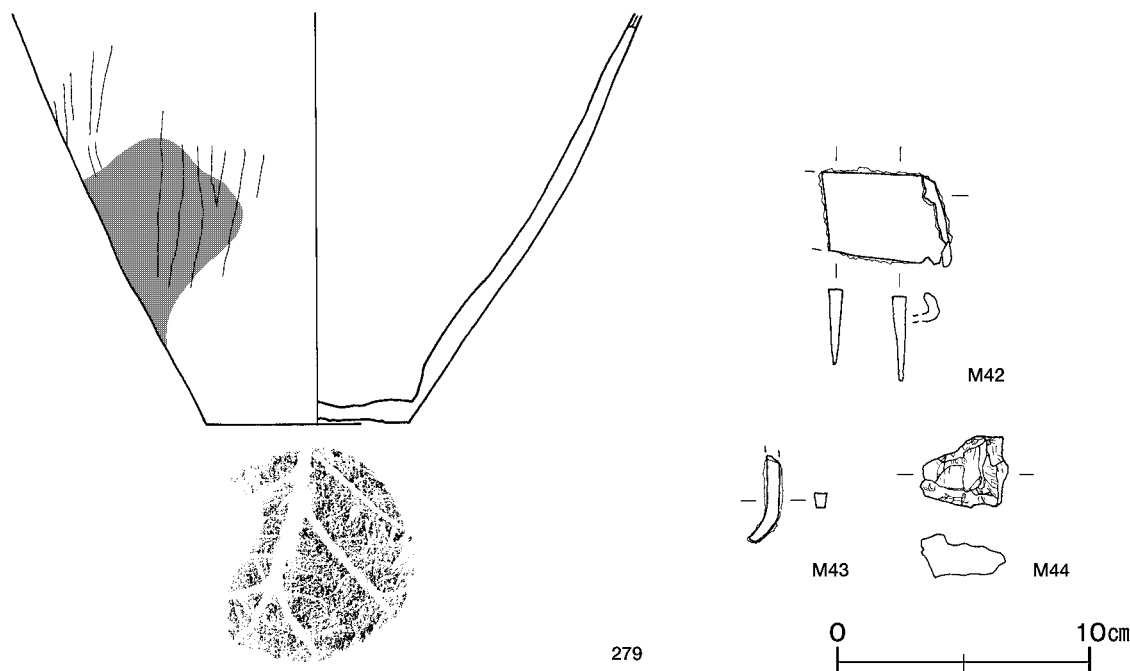
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片183点（坏6，高台付坏1，甕類176），須恵器片39点（坏20，高台付坏3，甕16），鉄製品2点（鎌，釘），鉄滓1点が散在した状況で出土している。274・276は東壁中央の壁際床面からそれぞれ出土し、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。279・280は覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したもので、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。M42は南壁際の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第144図 第2503号住居跡出土遺物実測図(1)



第145図 第2503号住居跡出土遺物実測図(2)

第2503号住居跡出土遺物観察表 (第144・145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
274	須恵器	坏	12.8	4.0	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向からのヘラ削り	床面	100% PL49
275	須恵器	坏	[13.6]	4.6	[7.8]	長石・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	P 1 中層	10%
276	須恵器	高台付坏	12.6	5.7	7.7	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	95% PL49
277	土師器	甕	[21.0]	(18.0)	-	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ輪積痕	覆土中	20% 煤付着
278	土師器	甕	[18.2]	(7.6)	-	長石・雲母	にぶい橘	普通	口辺部内・外面横ナデ	中・下層	5%
279	土師器	甕	-	(16.0)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ磨き 底部木葉痕	中層	20% 煤付着
280	須恵器	甕	[27.5]	(6.8)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面輪積痕 内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M42	鎌	(5.2)	(3.7)	0.2~0.6	(31.9)	鉄	基部一部欠損	中層	PL53
M43	釘力	(3.3)	0.5	0.6	(4.7)	鉄	断面長方形 先端が左に曲がっている	覆土中	
M44	鉄滓	3.5	2.9	1.7	19.9	鉄滓	着磁性なし	覆土中	

第2506号住居跡 (第146・147図)

位置 調査区北西部のP 8 d4区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2516・2505号住居跡を掘り込み, 第4074・4075号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.70m, 短軸3.45mの長方形で, 主軸方向はN - 74° - Eである。壁高は20~23cmで, 外傾して立ち上がっている。

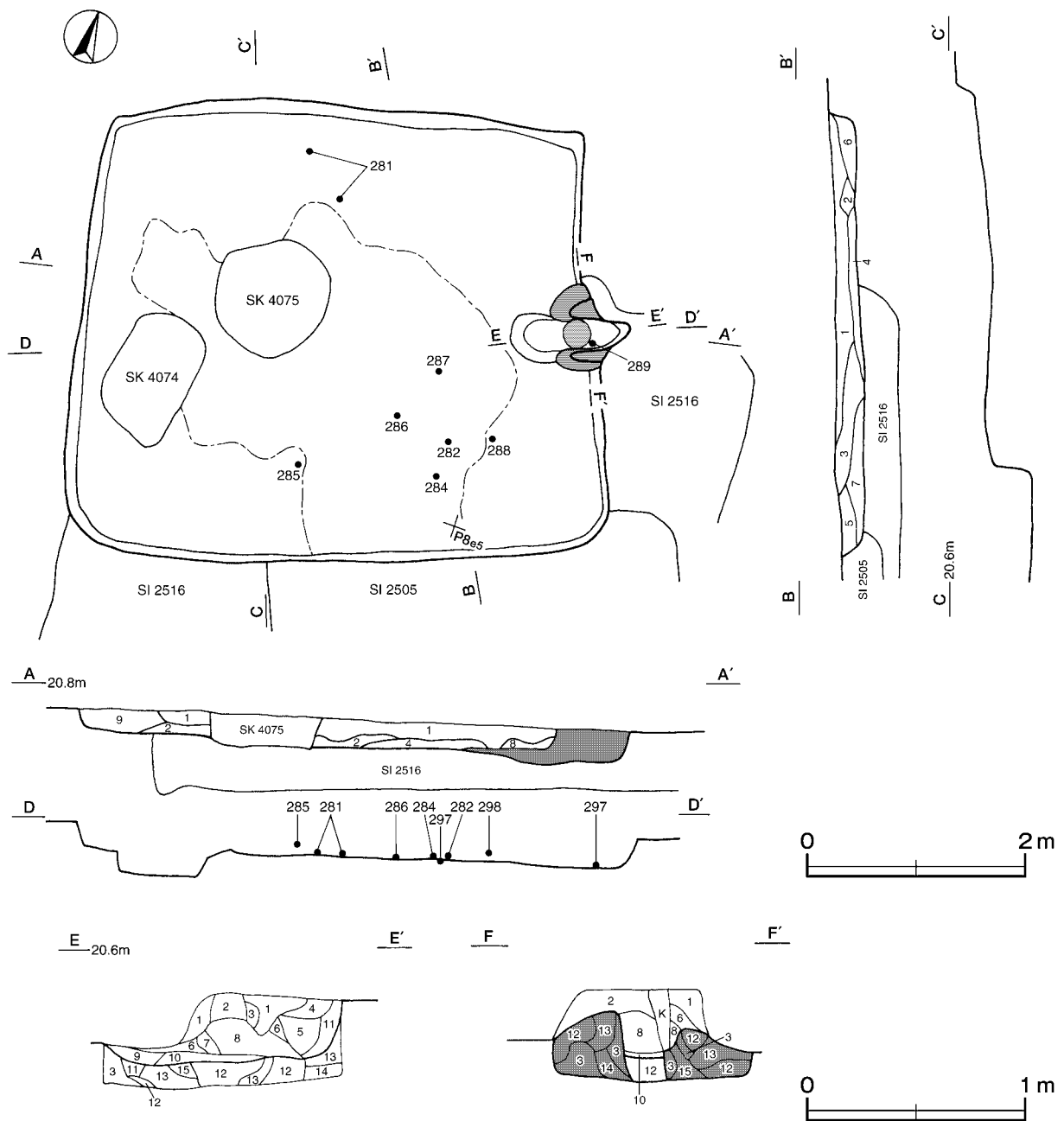
床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅79cmである。袖部は, 地山を15cmほど掘り込めて焼土混じりの砂質粘土で構築している。火床部は床面と同じ高さまで焼土混じりの砂質粘土で埋め戻し, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ, 火床部から外傾し

て立ち上がっている。竈袖部の内側の第3層は、左袖部の掘り方覆土中からも確認でき、また掘り方の15層も、焼土混じりの砂質粘土粒子を多量に含み、さらに第12層の上・下から赤変硬化した層が確認できたことから、第12層下面を火床面として竈を使用し、その後第12層上面を火床面としたものと考えられる。また、第3・8層は、天井部の崩土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 明黄褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 11 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 8 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |



第146図 第2506号住居跡実測図

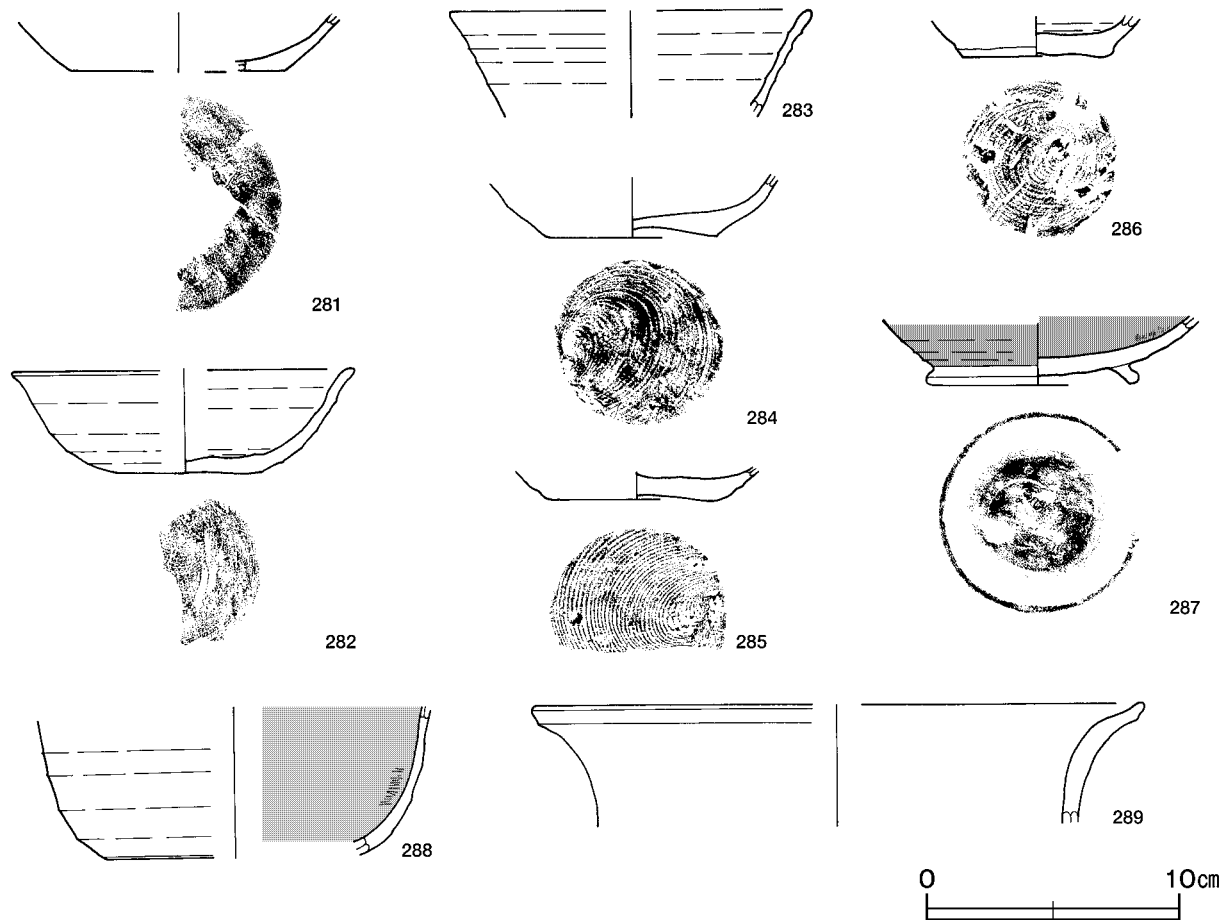
覆土 9層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片266点(坏5, 甕類261), 混入したと思われる陶器片1点(常滑系壺)も出土している。289は竈の火床面から, 286・287は中央部の床面からそれぞれ出土している。いずれも破片で出土していることから, 住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また, 281は北壁中央部, 282は中央やや南東寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前半と考えられる。



第147図 第2506号住居跡出土遺物実測図

第2506号住居跡出土遺物観察表(第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
281	土師器	坏	-	(2.3)	[8.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 底部ナデ	下層	40%
282	土師器	坏	[13.4]	4.1	5.6	長石・石英・白色粒子	黒褐	普通	内面ヘラナデ	下層	30%
283	土師器	坏	[14.3]	(4.3)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ	竈覆土中	10%
284	土師器	坏	-	(2.4)	6.8	長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	下層	50%
285	土師器	坏	-	(1.3)	6.7	長石・雲母	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	中層	30%
286	土師器	坏	-	(1.5)	6.1	長石・石英・白色粒子	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	床面	20%
287	土師器	高台付椀	-	(2.7)	8.0	雲母・赤色粒子	黒褐	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%
288	土師器	高台付椀	-	(5.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	中層	10%
289	土師器	甕	[24.2]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	床面	5%

第2507号住居跡 (第148～151図)

位置 調査区南西部のP 8 f5区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.78m, 短軸3.56mほどの方形で, 主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は38～52cmで, ほぼ直立している。

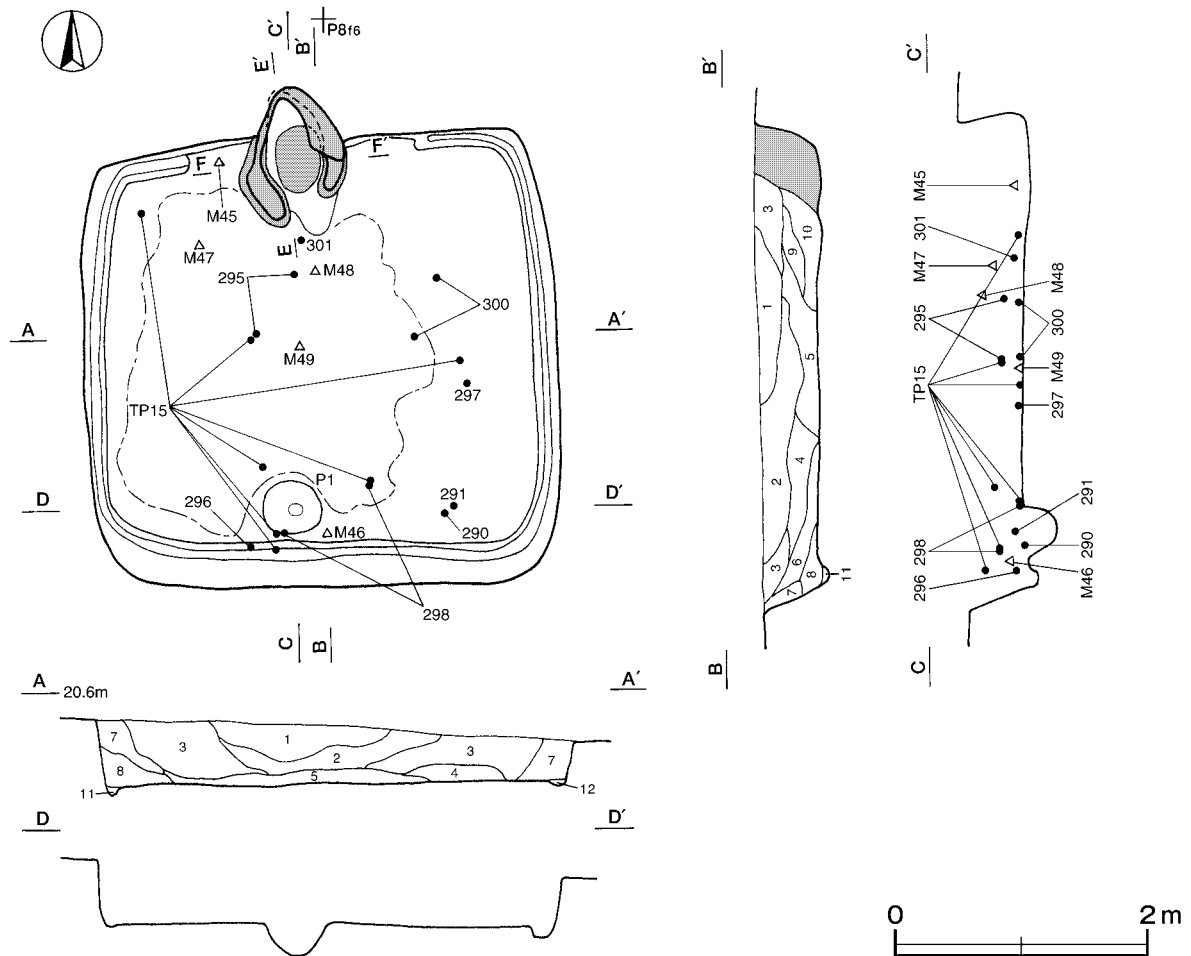
床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅9～16cm, 深さ4～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで119cm, 袖部幅95cmである。袖部は地山を20cmほど掘り込み, 第13層を突き固めて基部とし, その上部に砂質粘土を主体とした第9～12層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cmほど掘り込まれ, 火床部から直立している。第3・5・6層は, 天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 極赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 黒褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 暗褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 褐色 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 にぶい黄色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 6 にぶい橙色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 13 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | |

ピット 深さ24cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。



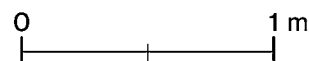
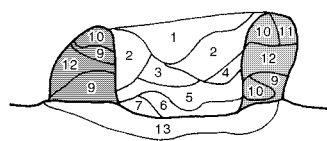
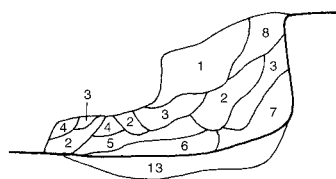
第148図 第2507号住居跡実測図(1)

E 20.6m

E'

F

F'



第149図 第2507号住居跡実測図(2)

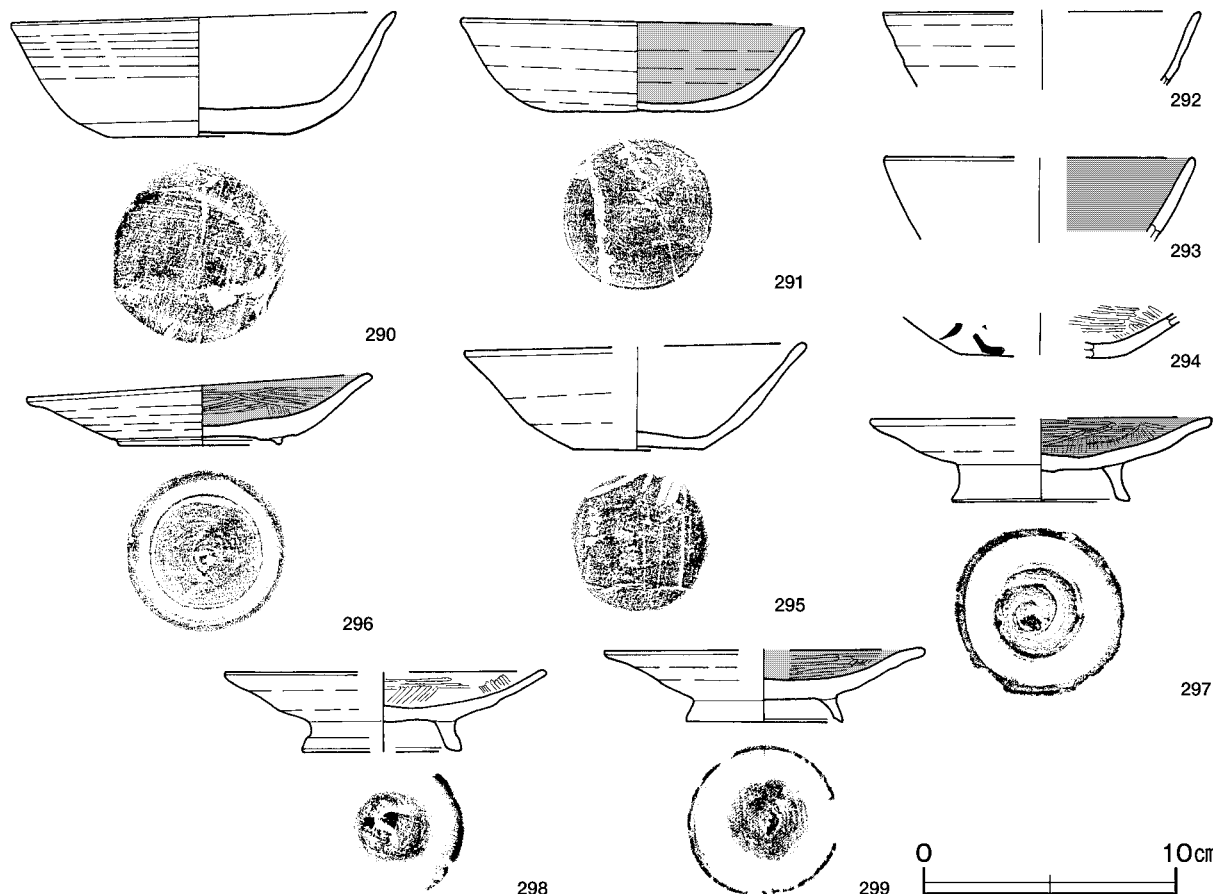
覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

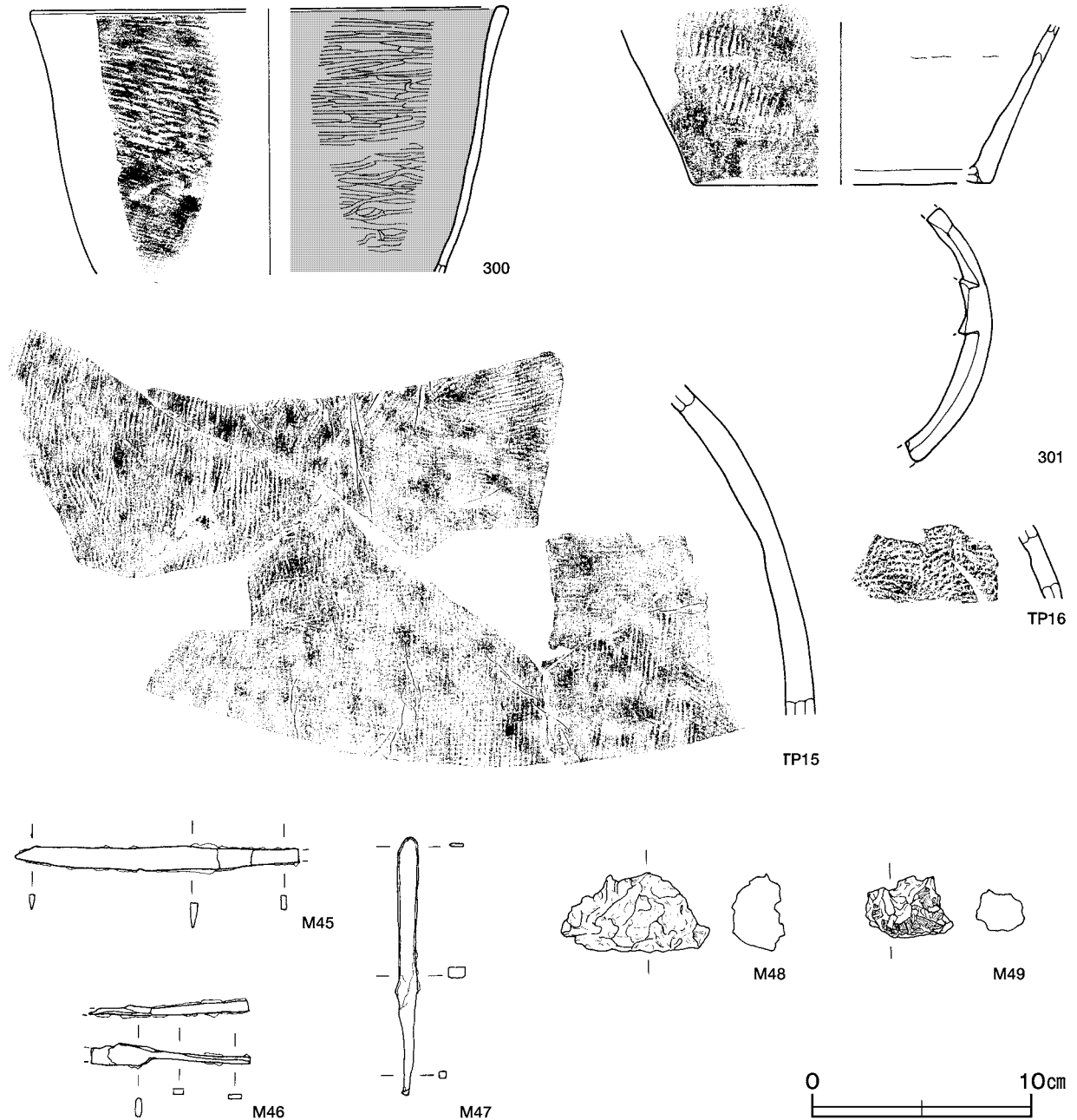
- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 砂粒中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 砂粒多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化物微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 6 極赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・砂粒微量 | 12 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片315点(坏114, 高台付坏6, 皿2, 甕193), 須恵器片187(坏53, 高台付坏1, 皿1, 蓋4, 長頸壺1, 甕124, 甌3), 鉄製品3点(刀子2, 鉄鏃1), 鉄滓2点が出土している。290, 291は南東コーナー部, 296はP1 近くの南壁際, 297は中央やや東寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。いずれも住居の廃絶後廃棄されたものと考えられる。M46は竈の前部, M49は中央部のそれぞれ覆土下層から出土している。293, 294は墨書土器の破片で, 覆土中から出土しているが, 文字は判読できない。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第150図 第2507号住居跡出土遺物実測図(1)



第151図 第2507号住居跡出土遺物実測図(2)

第2507号住居跡出土遺物観察表(第150・151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
290	土師器	坏	15.2	4.9	6.8	長石・白色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向の削り	下層	70% PL49
291	土師器	坏	13.5	3.5	6	長石・雲母	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ調整	下層	60%
292	土師器	坏	[12.6]	(2.9)	-	長石・雲母	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書
293	土師器	坏	[12.2]	(3.3)	-	長石・石英・白色粒子	黒	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書
294	土師器	坏	-	(1.8)	[6.2]	長石	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「上」
295	須恵器	坏	[13.4]	4.3	5.2	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向の削り	中層	50% PL49
296	土師器	高台付皿	13.7	2.8	6.4	長石・石英	黒褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	100% PL50
297	土師器	高台付皿	[13.3]	3.3	7.0	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	60%
298	土師器	高台付皿	[12.7]	3.2	[6.3]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中・下層	80% PL50
299	土師器	高台付皿	[12.8]	2.9	6.2	長石・石英	黒	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
300	土師器	鉢	[21.5]	[12.2]	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面格子目叩き 内面ヘラ磨き	下層	10%
301	土師器	甌	-	(7.3)	[13.6]	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き下端ヘラ削り 内面ヘラナデ輪積痕	下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP15	須恵器	壺	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面格子目叩き	覆土中	
TP16	須恵器	甕	長石・雲母	にぶい黄灰	普通	体部外面同心円状の叩き	中・下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	刀子	(12.9)	1.2	0.2~0.4	(20.4)	鉄	茎部先端欠損	覆土中	PL53
M46	刀子	(7.2)	1.0	0.4~0.6	(5.6)	鉄	刃先欠損 茎部ねじれている	下層	
M47	鏃	11.9	1.1	0.1~0.5	16.1	鉄	両丸造 断面長方形の棒状	中層	
M48	鉄滓	3.7	6.8	2.4	46.5	鉄	椀形滓 着磁性有り	上層	
M49	鉄滓	2.8	4.0	2.3	19.9	鉄	表面に木炭痕を残す 着磁性なし	下層	

第2508号住居跡 (第152~154図)

位置 調査区北東部のP 8 d6区、標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.13m、短軸は3.84の方形で、主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は50~68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅12~25cm、深さ4~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで136cm、袖部幅114cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、黒褐色土を主体とした第19~22層を充填し、その上部に粘土を主体とした第13~18層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ、火床部から直立している。覆土は第1~12層に分けられ、第6・8・12層は、天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

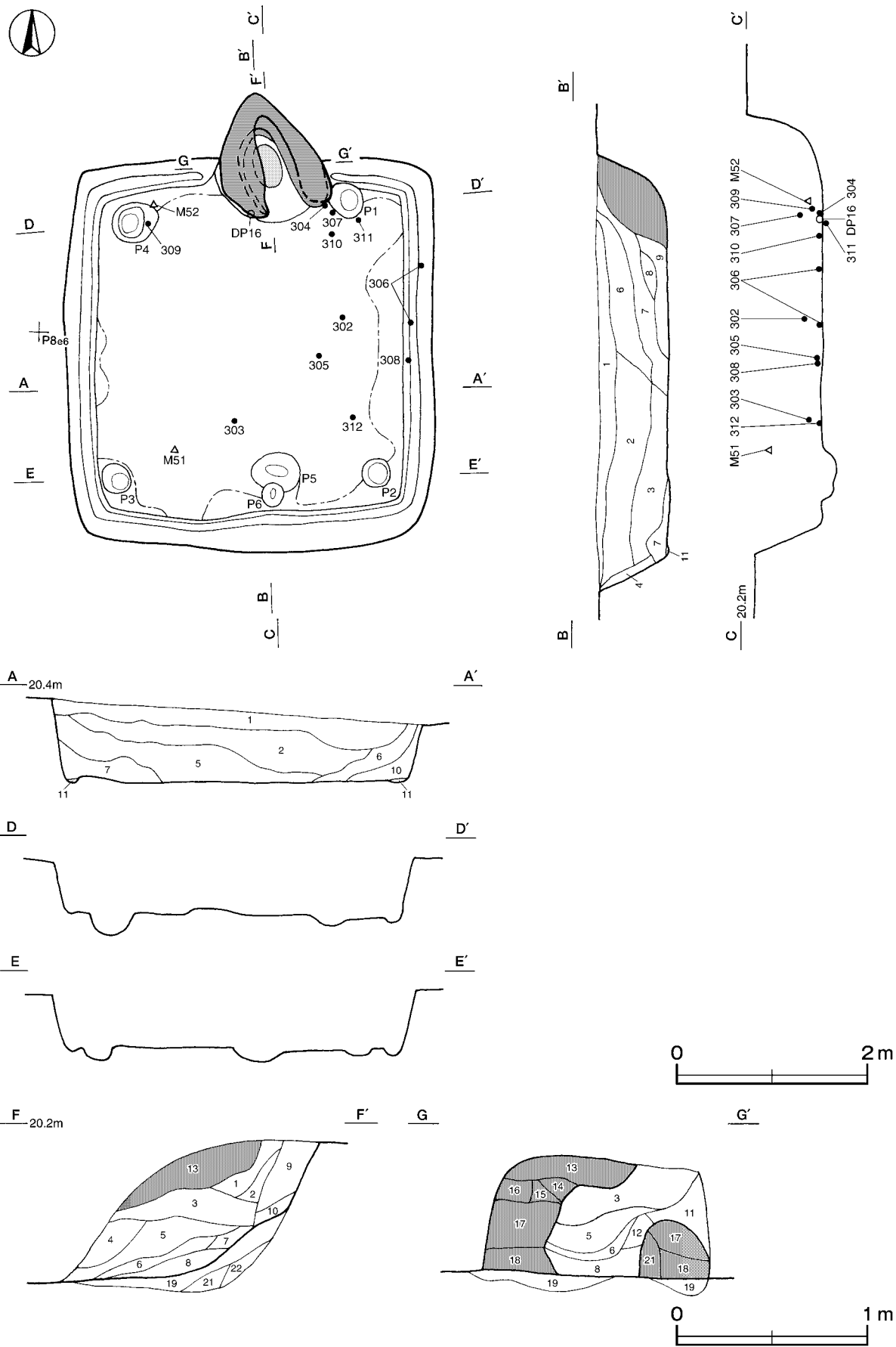
1 黒褐色	白色粘土粒子少量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	白色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	白色粘土粒子・焼土粒子少量	12 にぶい黄褐色	白色粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子微量
6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量	16 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量
7 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	17 黒褐色	炭化物少量, 焼土ブロック・砂粒微量
8 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量
9 黒褐色	砂質粘土ブロック多量, 砂粒中量, ローム粒子微量	19 黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
10 黒褐色	砂粒少量, ローム粒子微量	20 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
		21 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
		22 黒褐色	焼土粒子中量, 炭化物少量

ピット 6か所。P1~P4は支柱穴で、深さは9~26cmである。P5・P6は深さ16・18cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分けられる。各層にローム粒子を含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 極暗褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量	6 極暗褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
3 黒褐色	焼土粒子ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量	7 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	8 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量



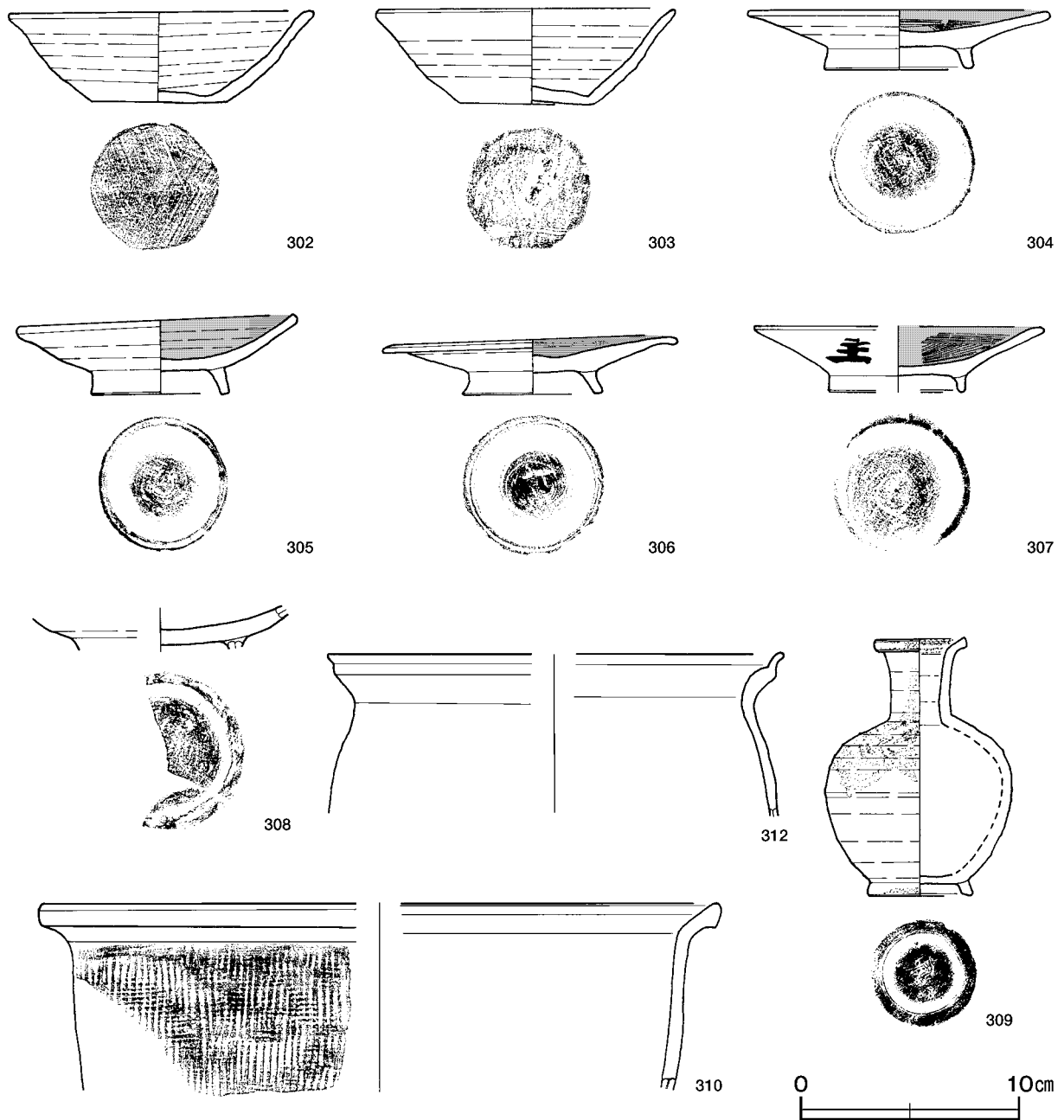
第152图 第2508号住居跡実测图

9 灰 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ロームブ
ロック, 炭化粒子微量

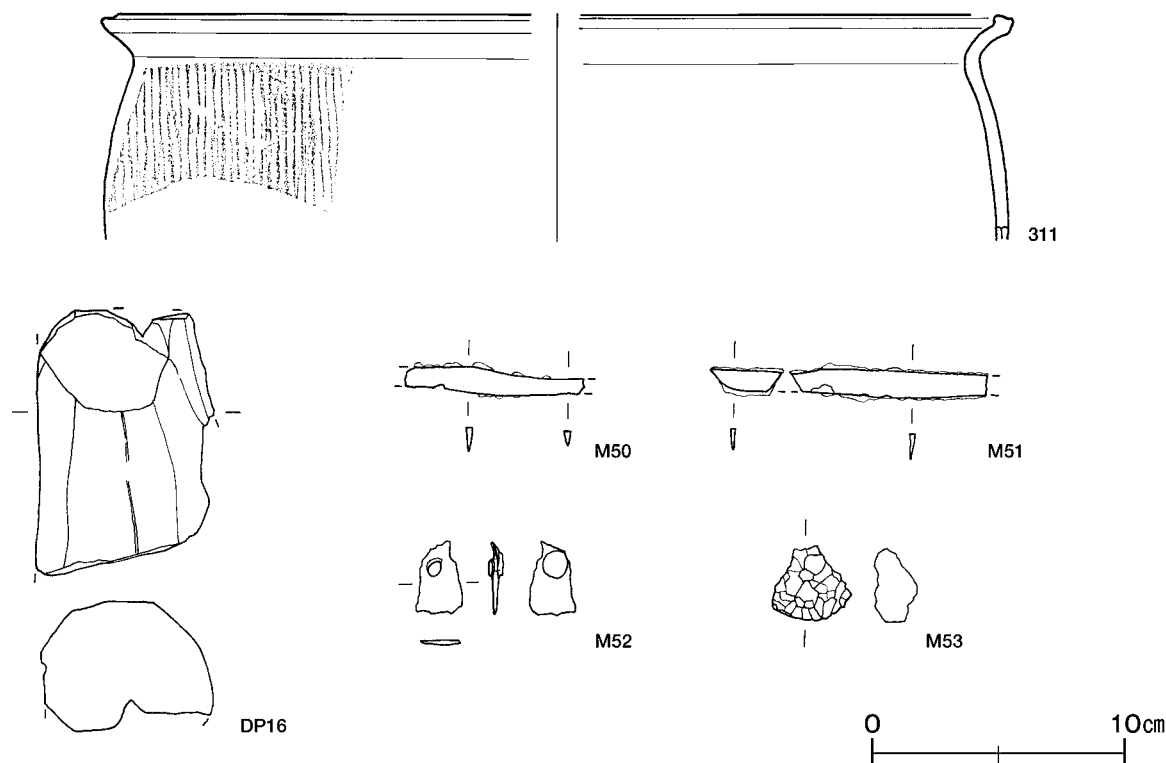
10 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1188点(坏244, 高台付坏21, 鉢2, 甕類921), 須恵器片467点(坏163, 高台付坏7, 蓋2, 甕273, 甌22), 土製品1点(支脚), 鉄製品2点(刀子), 不明銅製品1点, 鉄滓1点が出土している。311は右袖部付近から, 312は南東コーナー部のそれぞれ床面から出土しており, 住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。302・305は中央部やや東寄り, 303は中央部, 310は右袖部前部のそれぞれ覆土下層から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。307は右袖部付近の覆土中層から出土し, 体部外面に「主」の文字が書かれた墨書土器である。本跡から南東100mの第1315号住居跡からも「主」の文字の書かれた墨書土器が出土している。DP16は左袖前部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第153図 第2508号住居跡出土遺物実測図(1)



第154図 第2508号住居跡出土遺物実測図(2)

第2508号住居跡出土遺物観察表 (第153・154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
302	須恵器	坏	13.8	4.2	6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向の削り	中層	100% PL49
303	須恵器	坏	13.6	4.4	6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の削り	下層	95% PL49
304	土師器	高台付皿	13.7	2.7	6.7	長石・雲母	淡橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	100% PL50
305	土師器	高台付皿	12.6	3.5	6.1	長石・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	100% PL50
306	土師器	高台付皿	13.4	2.6	6.4	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	70%
307	土師器	高台付皿 [13.2]	3	[6.2]	長石・石英・雲母	黒	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	60% PL52 墨書「主」	
308	土師器	高台付皿	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	10%
309	須恵器	長頸壺	4.2	11.9	4.7	長石・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端・底部回転ヘラ削り後ナデ 高台貼り付け	下層	95% PL50
310	須恵器	鉢	[30.8]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面擬格子の平行叩き 内面ヘラナデ	床面	5%
311	須恵器	鉢	[36.4]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	床面	5%
312	土師器	甕	[20.7]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP16	支脚	(10.5)	7.0	(5.2)	(278.0)	土	側面は平らに面取りされている	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M50	刀子	(7.1)	1.0	0.1~0.3	(7.6)	鉄	刃先部・茎部欠損 刃先屈曲	覆土中	PL53
M51	刀子	(10.8)	1.0	0.1~0.2	(10.6)	鉄	刃先部・茎部欠損	上層	PL53
M52	不明銅製品	(2.9)	(1.9)	0.15	(2.8)	銅	紙有り	中層	
M53	鉄滓	3.0	3.1	1.7	18.6	鉄滓	着磁性なし	覆土中	

第2509号住居跡 (第155・156図)

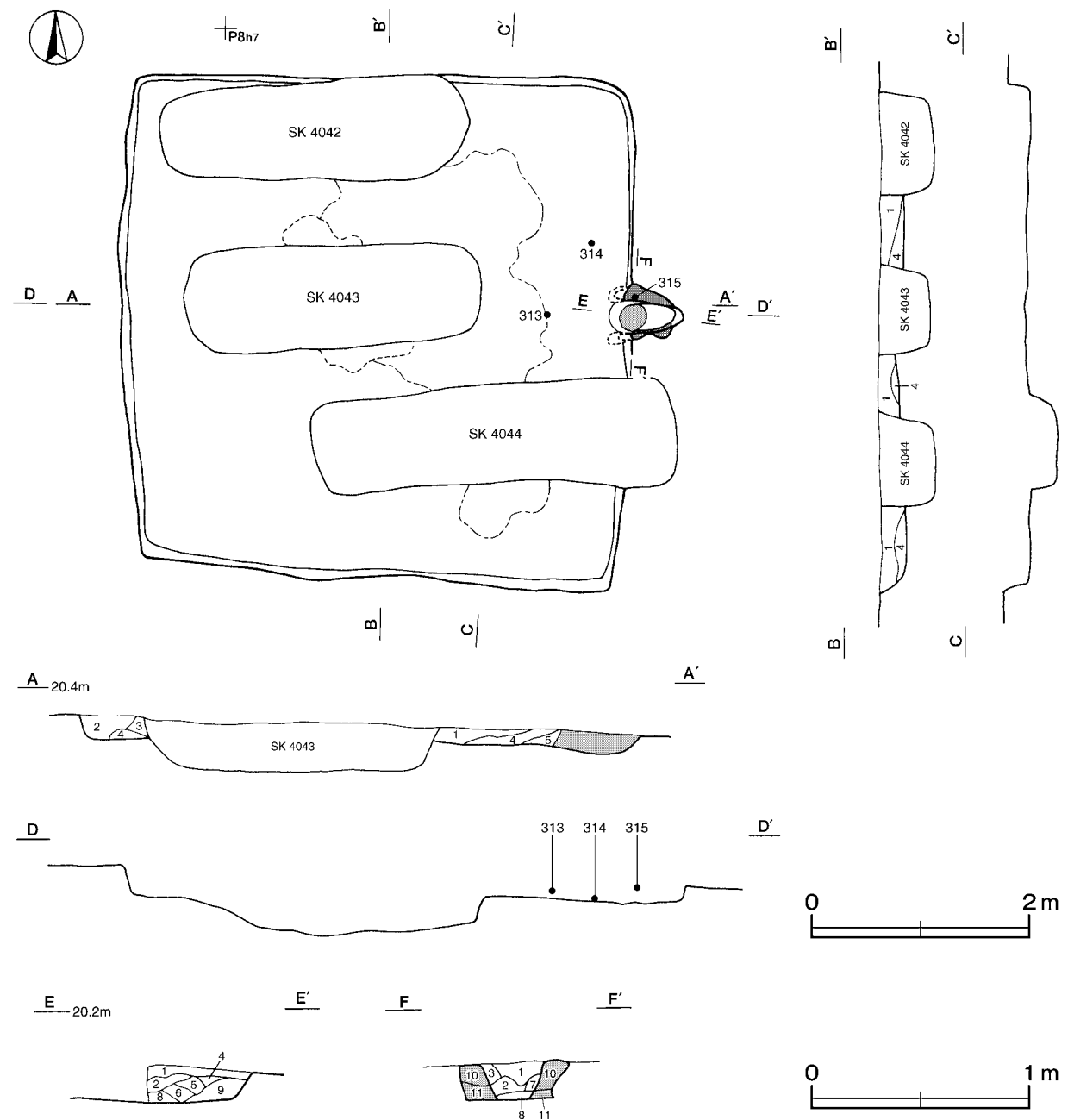
位置 調査区南西部のP 8 h7区, 標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4042～4044号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m, 短軸4.55mの方形で, 主軸方向はN - 92° - Eである。壁高は40～54cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。また, 中央部を掘り込んでいる第4043号土坑の際から焼土魂が確認されている。

竈 東壁中央部に付設されているが, 袖部は遺存していない。規模は, 焚口部から煙道部まで67cmである。袖部は地山の上に砂質粘土を主体とした第10・11層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に70cmほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がって



第155図 第2509号住居跡実測図

いる。覆土は第1～9層に分けられ、第3・5層は、天井部および袖部の崩落土層に相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい橙色 | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土微量 | | |

遺物出土状況 土師器片199点(坏53，高台付坏5，皿10，小皿1，甕類130)が竈周辺を中心に出土している。

313は竈前，314は左袖北側のそれぞれ覆土下層から，315は竈の覆土上層からの出土で，いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第156図 第2509号住居跡出土遺物実測図

第2509号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
313	土師器	坏	[14.8]	(3.8)	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 底部回転ヘラ切り	下層	10%
314	土師器	高台付坏	-	(3.2)	[6.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き 底部ナデ調整後高台貼り付け	下層	20%
315	土師器	小皿	[9.6]	1.7	6.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り	竈上層	60%

第2510号住居跡 (第157図)

位置 調査区南東部のP 8 i3区，標高21.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4021・4022・4048・4071号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側は調査区域外に延びており，東部は削平されている。確認できた規模は，東西軸4.08m，南北軸は2.24mである。形状は，方形または長方形と推測され，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は4～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 確認できる範囲ではほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。北壁と西壁の壁下には幅7～10cm，深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで89cm，袖部幅72cmである。火床部は床面と同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に34cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |

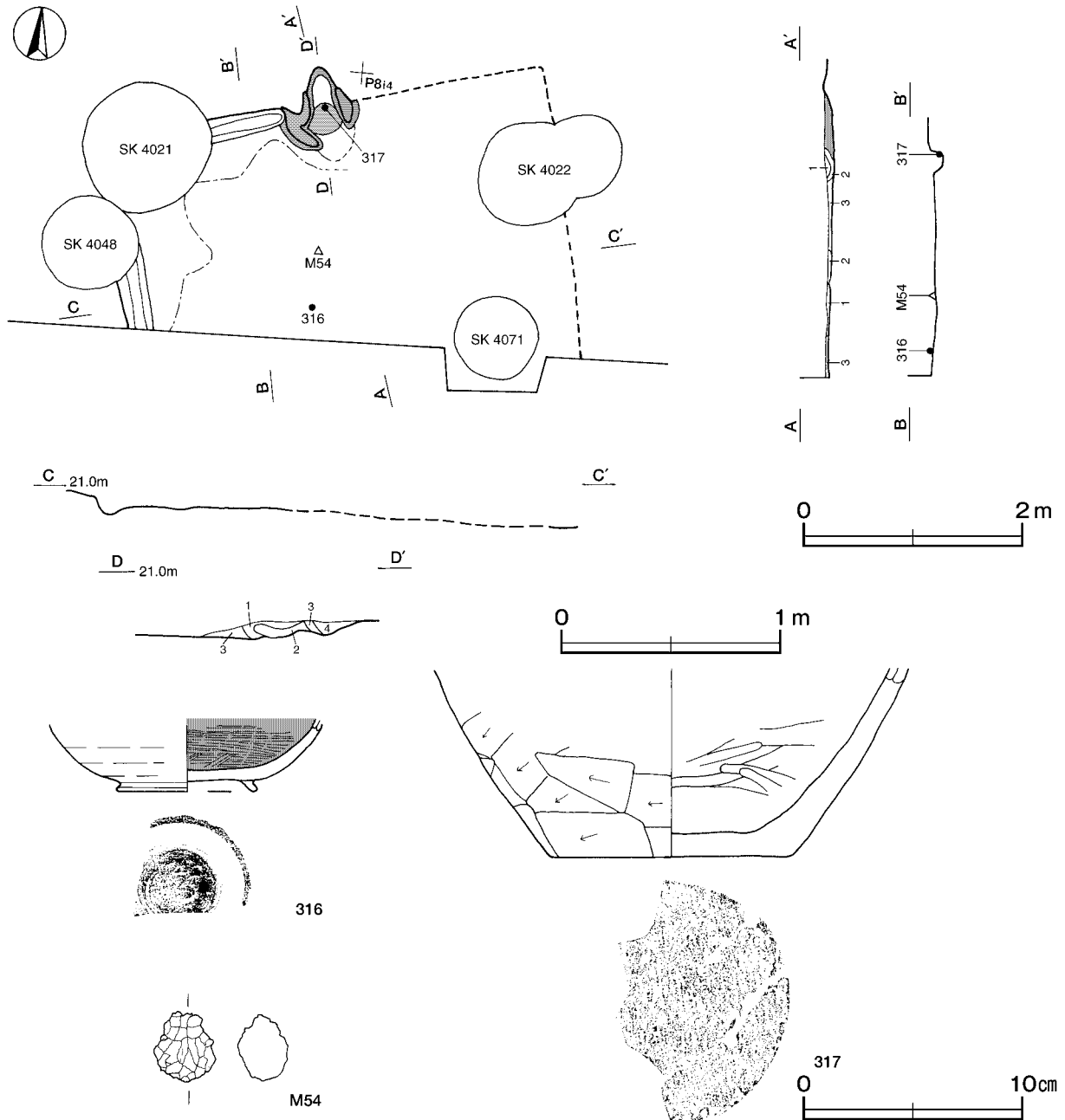
覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロ-△粒子, 焼土粒子微量 | 3 明褐色 ロ-△粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロ-△粒子・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片18点(坏4, 高台付坏1, 甕類13), 鉄滓1点が出土している。317は竈の火床面から, 316, M54は中央部の床面からそれぞれ出土しており, 住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から10世紀代と考えられる。



第157図 第2510号住居跡・出土遺物実測図

第2510号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
316	土師器	高台付坏	-	3.4	[6.2]	長石	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台付坏貼り付け	床面	20%
317	土師器	甕	-	(8.6)	[11.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ナデ調整	竈火床面	20%

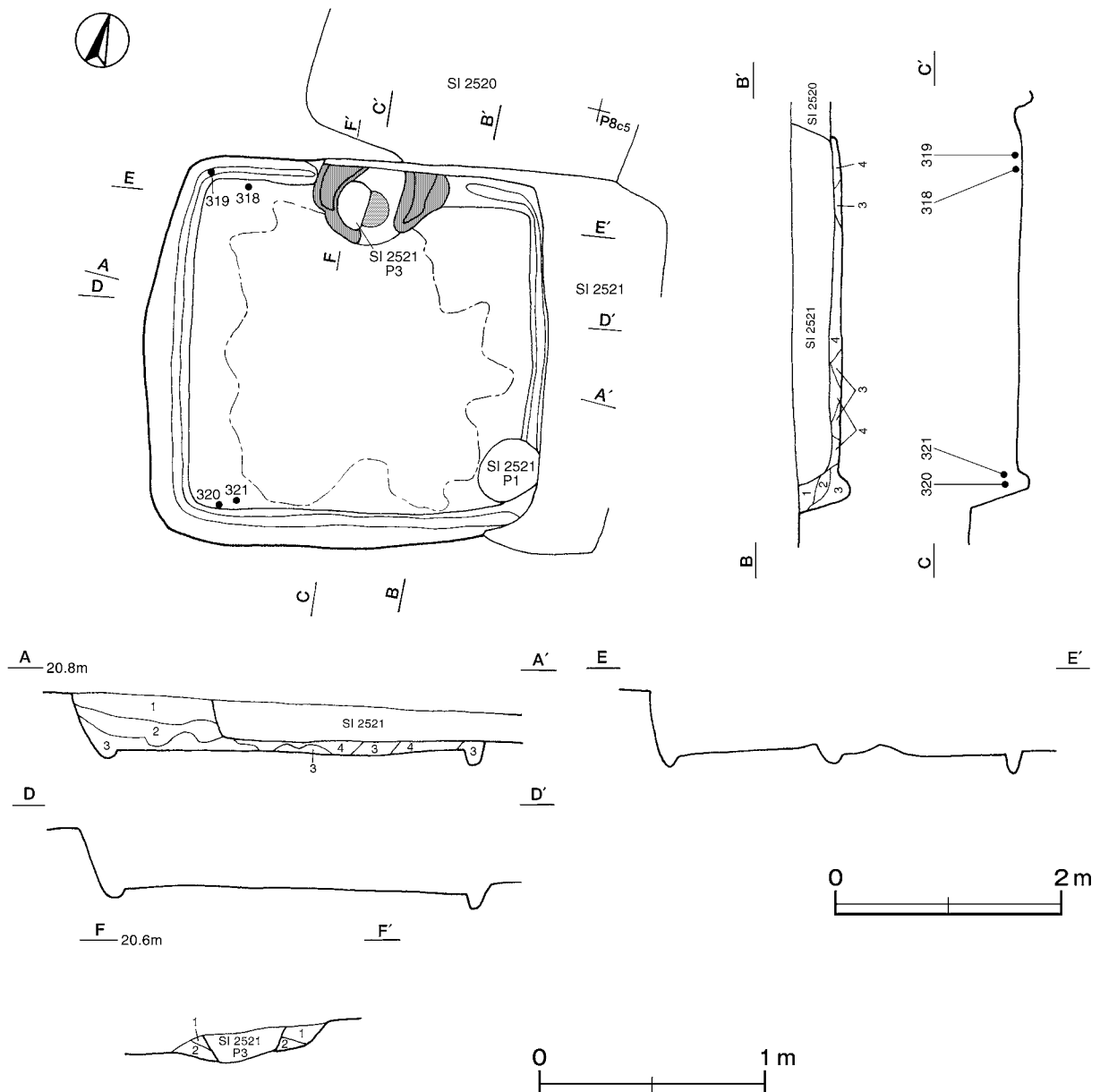
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M54	鉄滓	3.2	2.9	2.2	23.2	鉄滓	底面弧状 着磁性有り	床面	

第2511号住居跡（第158・159図）

位置 調査区南東部の P 8 c 4 区，標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2520号住居跡を掘り込み，第2521住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m，短軸3.46mの方形で，主軸方向はN - 11° - Wである。壁高は44～59cmで，外傾して立ち上がっている。



第158図 第2511号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には幅14～22cm、深さ10～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が検出されている。

竈 上部は第2521号住居に掘り込まれている。北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cmで、袖部幅112cmである。火床部は第2521号住居のP3に床面と同じ高さまで掘り込まれている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に掘り込まれておらず、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土 2 にぶい赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量

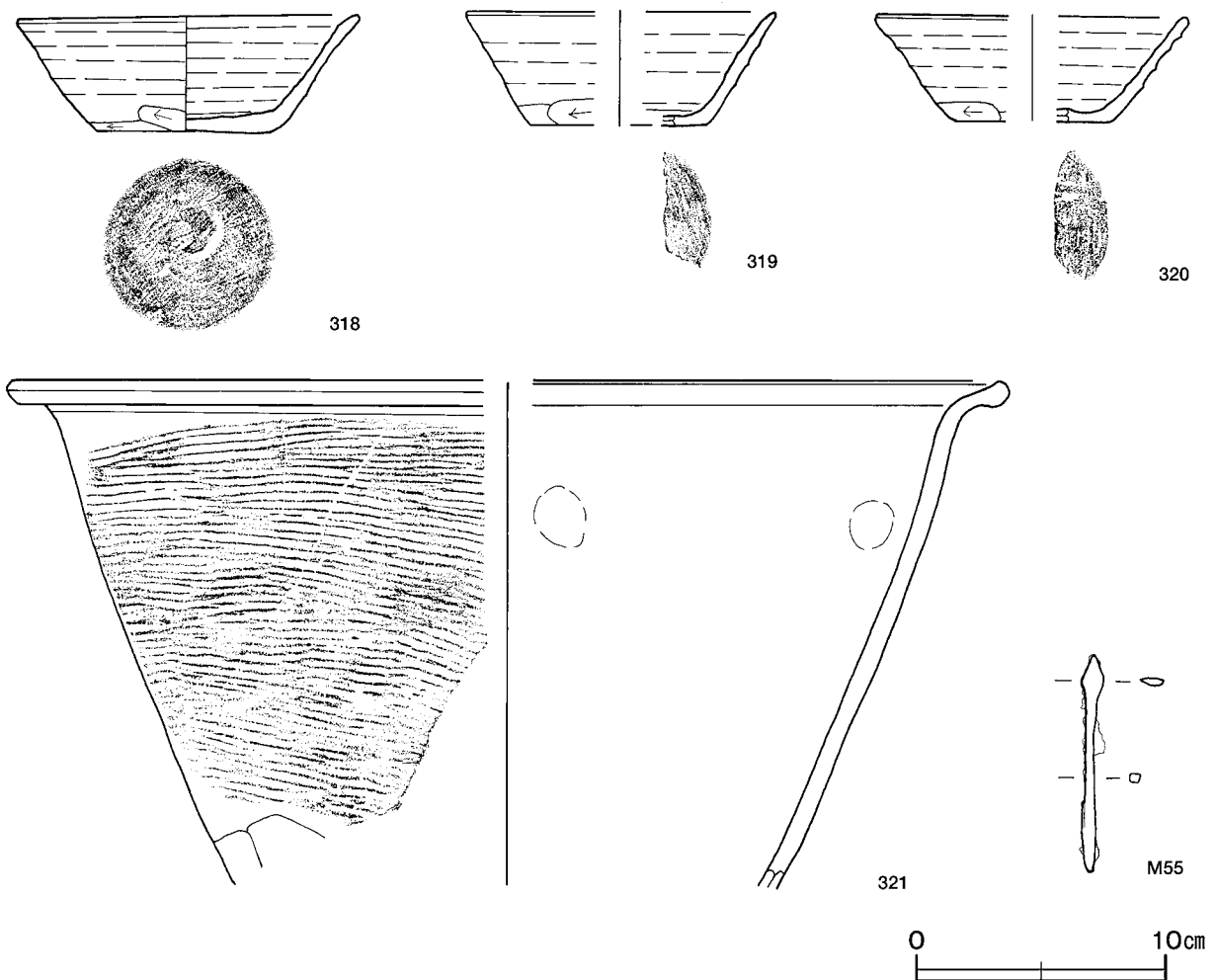
覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量
2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 4 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片377点（坏46，高台付坏1，小皿9，甕類321），須恵器片168点（坏79，高台付坏1，皿4，盤3，高盤1，壺1，甕76，甑3），鉄製品1点（鉄鏝）が散在した状態で出土している。318・319は北西コーナー部，320・321は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第159図 第2511号住居跡出土遺物実測図

第2511号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
318	須恵器	坏	13.6	4.8	7	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の削り	下層	95% PL49
319	須恵器	坏	[12.4]	4.6	[7.0]	長石長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	30%
320	須恵器	坏	[12.4]	4.3	[6.0]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向の削り	下層	20%
321	須恵器	甌	[39.7]	(20.4)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭圧痕輪積痕	下層	30%

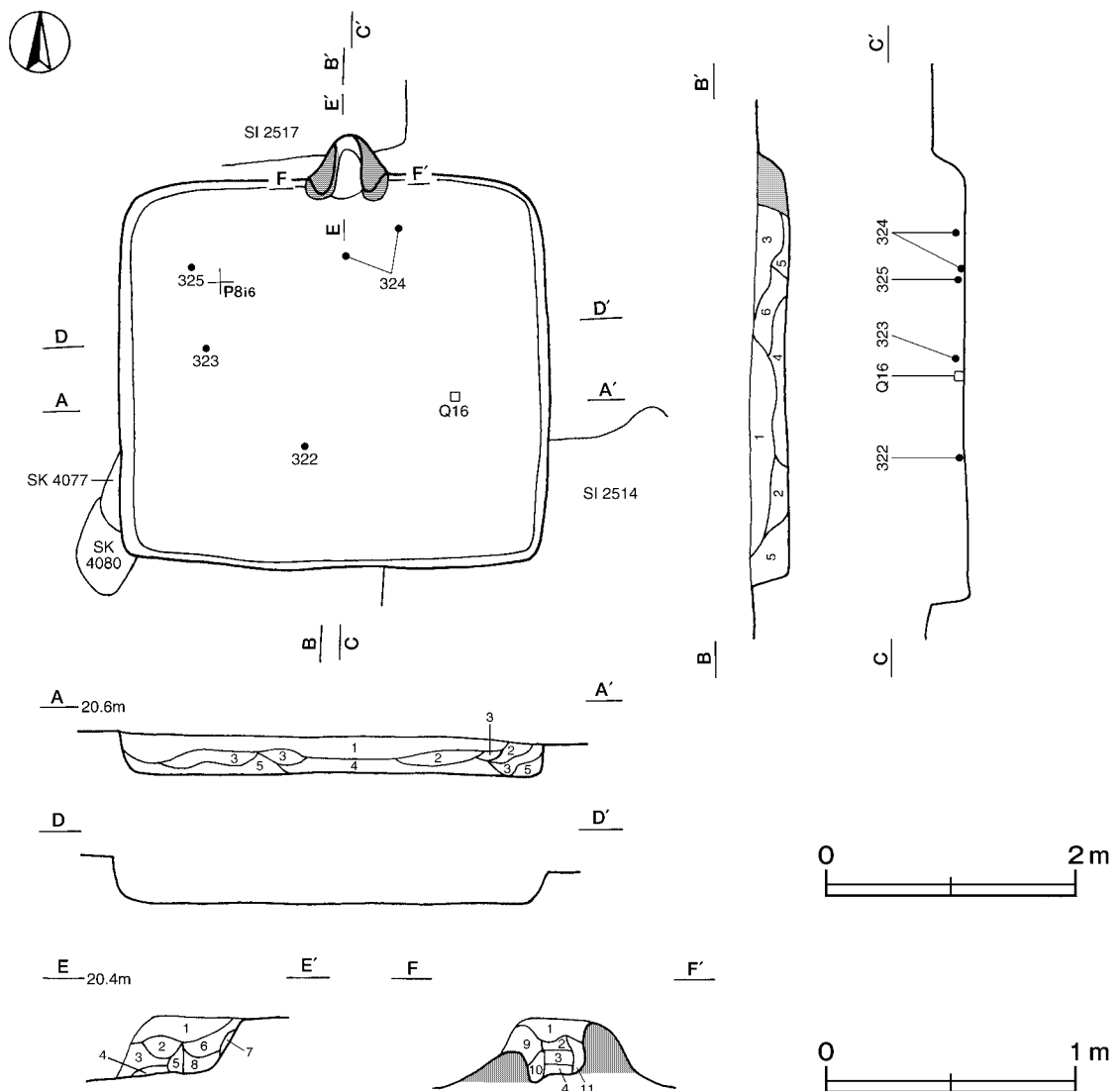
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	鏃	8.8	1.0	0.1~0.4	(9.5)	鉄	両丸造 刃部下端から基部にかけて緩やかに内彎	覆土中	PL53

第2512号住居跡（第160・161図）

位置 調査区南西部のP 8 i 6 区，標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2514・2517号住居跡，第4077・4080号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.48m，短軸3.11mの方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は26~36cmで，外傾して立ち上がっている。



第160図 第2512号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、硬化面は明確ではない。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで51cm、袖部幅64cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に、ローム土を混ぜた砂質粘土で構築している。火床部は床面と同じ高さで火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 明赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

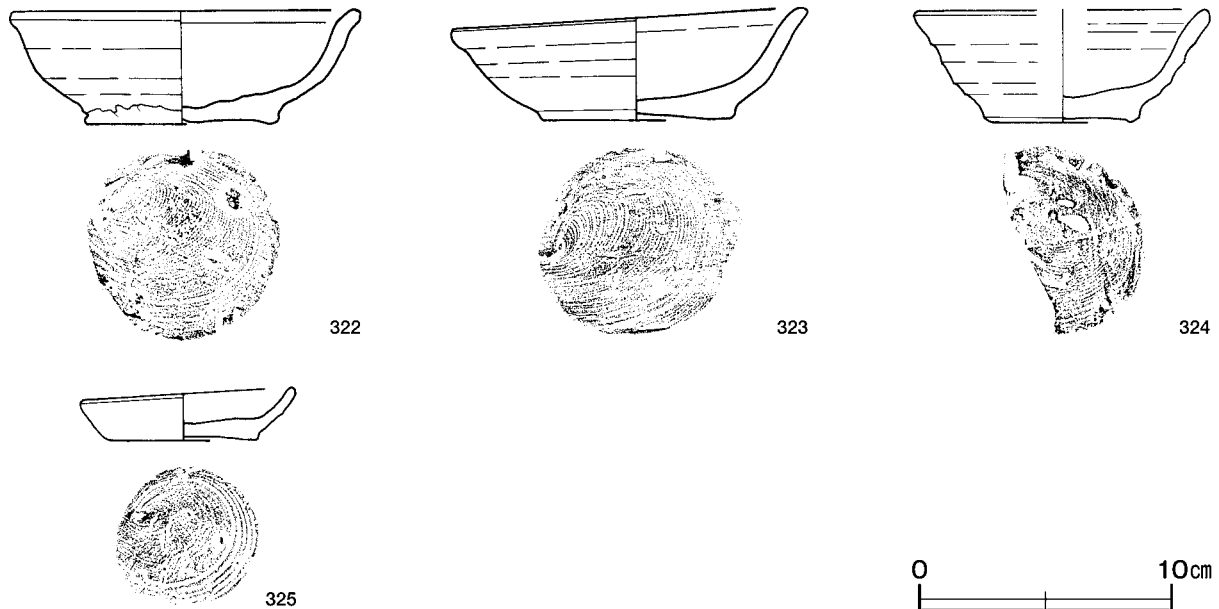
覆土 6層に分けられる。各層にローム粒子を含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量・砂粒微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片242点（坏153，高台付坏16，甕類72，小皿1）が散在した状態で出土している。323は中央部西寄りの床面から出土し、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。322は中央部南寄り、325は北西コーナー部、324は竈前部から出土した破片が接合したもので、いずれも覆土下層から出土し、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から11世紀代と考えられる。



第161図 第2512号住居跡出土遺物実測図

第2512号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
322	土師器	坏	13.5	4.5	7.5	長石・雲母	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	下層	100% PL49
323	土師器	坏	14.0	4.4	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	60% PL49
324	土師器	坏	[11.5]	4.5	5.5	長石	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	下層	45%
325	土師器	小皿	8.2	2.1	5.8	長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	下層	95%

第2514号住居跡 (第162・163図)

位置 調査区南西部のP 8 i6区, 標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2512号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南側部分が調査区域外に延びているため, 東西軸5.04m, 南北軸は1.08mが確認され, 方形又は長方形と推測される。主軸方向はN - 1° - Eである。壁高は28~33cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 東へ向かって緩やかに傾斜している。硬化面は明確ではない。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで74cmで, 袖部幅64cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に, ローム土を主体とした第11~15層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cmほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

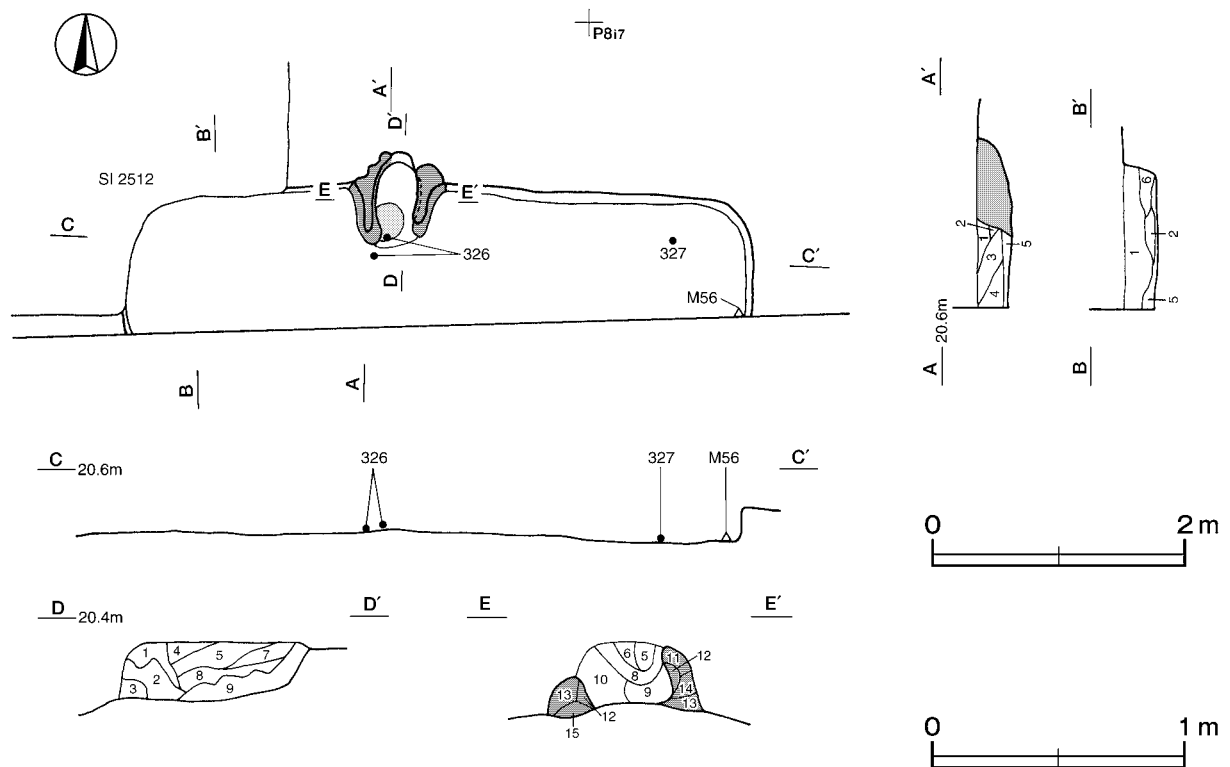
竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-----------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物微量 | 10 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 炭化物・砂粒微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量 | 13 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量 | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 褐色 | 焼土粒子・砂粒中量 | 15 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 灰褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量 | | |

覆土 6層に分けられる。各層にローム粒子を含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

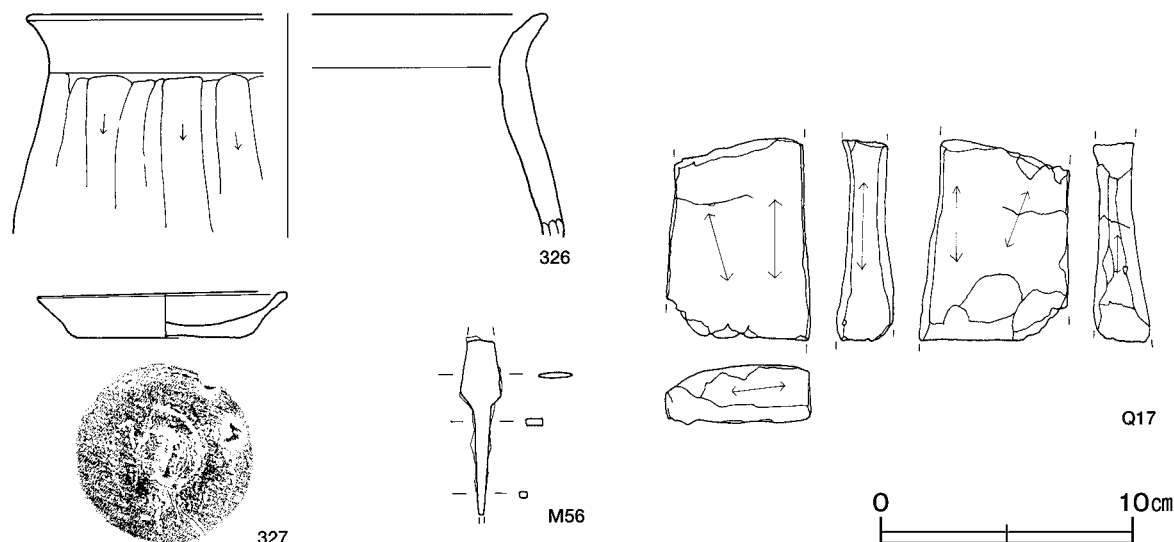
- | | | | |
|----------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第162図 第2514号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片17点（甕類16，小皿1），石器1点（砥石），鉄製品1点（鉄鎌）が散在した状態で出土している。327は北東コーナー部の床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。326は竈前部から出土した破片が接合したものであり，M56は北東コーナー部の東壁際の覆土下層から出土している。いずれも住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀前半と考えられる。



第163図 第2514号住居跡出土遺物実測図

第2514号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
326	土師器	甕	[20.3]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	下層	5%
327	土師器	小皿	9.7	1.8	6.5	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ調整	床面	100% PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	砥石	(7.8)	5.8	1.6	(123.8)	凝灰岩	砥面2面 側面にも使用痕 両側欠損	覆土中	PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M56	鎌	(6.8)	1.6	0.25-0.3	(9.4)	鉄	刃部・茎部欠損 両開	下層	PL53

第2515号住居跡（第164図）

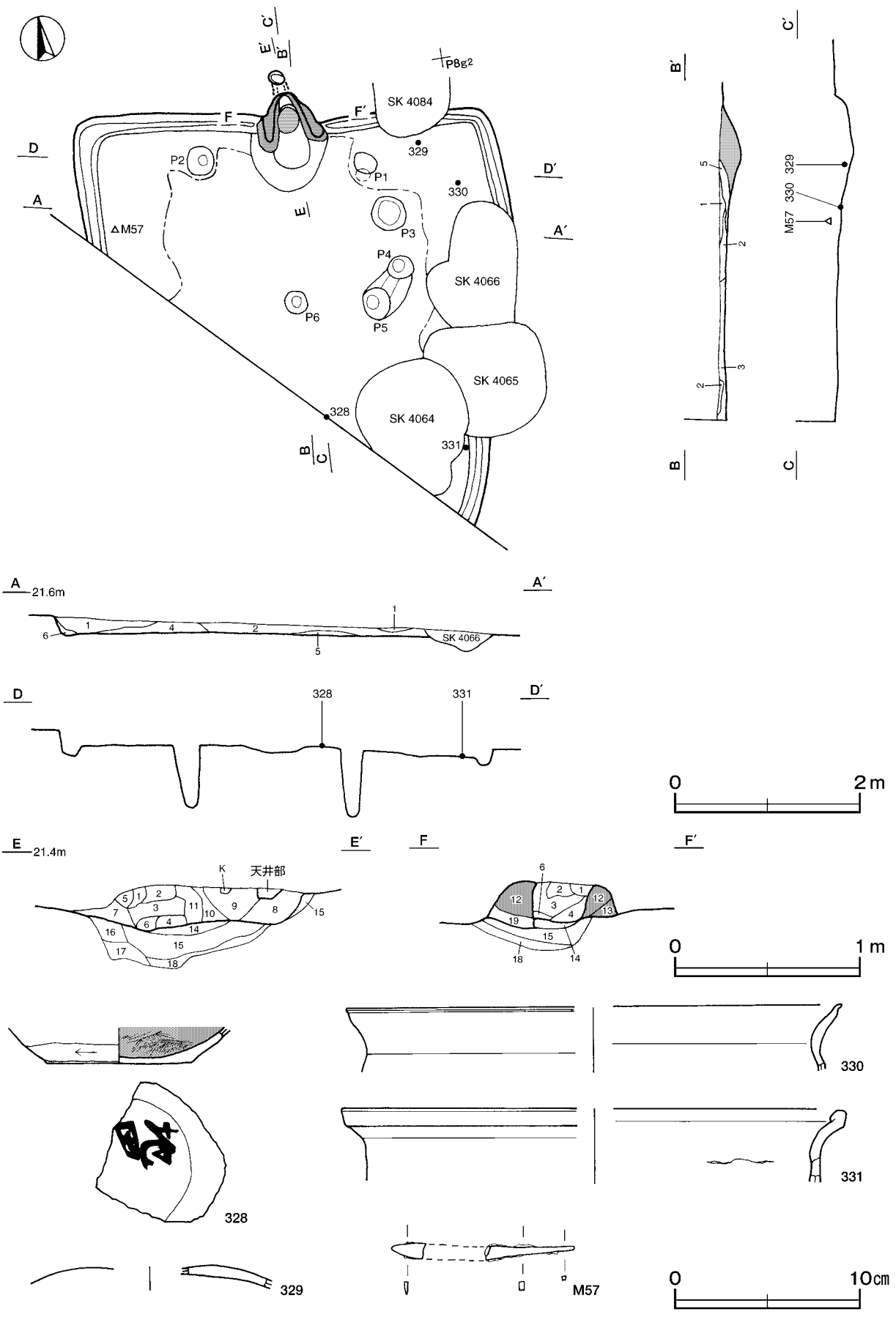
位置 調査区南西部のP 8 g1区，標高21.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4064～4066・4084号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部分は調査区域外に延びているため，東西軸4.56m，南北軸は4.53mが確認され，方形又は長方形と推測される。主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は10～19cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており，規模は，焚口部から煙道部まで1.29m，袖部幅75cmである。袖部は床面を23cm掘り込み，床面と同じ高さまで焼土粒子や炭化粒子主体の第15～18層を充填する。さらに第19層を突き固めて基部とし，その上部に砂質粘土を主体とした第12・13層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ



第164图 第2515号住居跡・出土遺物実測図

高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・灰微量	12 灰褐色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量
3 にぶい橙色	灰多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	13 灰褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 極暗褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5 にぶい赤褐色	灰多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	15 明褐色	ローム粒子多量
6 にぶい橙色	灰多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子少量
7 極暗赤褐色	灰中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	17 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
8 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰少量	18 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
9 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 褐色	ロームブロック多量
10 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量		

ピット 6か所。P1・P2は主柱穴と考えられ、深さは67cm・72cmである。P3～P6は深さ30～87cmで、性格は不明である。

覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	5 黒褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
2 褐色	ローム粒子中量	6 褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量		
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片18点(坏2, 甕類16), 須恵器片4点(蓋1, 甕類3), 鉄製品1点(刀子)が、散在した状態で出土している。328は中央部やや南寄り, 330は北東コーナー部, 331は南東コーナー部のそれぞれ床面から出土しており、住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。328は底部に「地田」の文字が書かれた土師器である。また329は北東コーナー部の覆土下層から出土し、内面に墨が付着しており滑らかなため、硯に転用したものとする。M57は西壁の壁際の覆土中層から出土したもので、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2515号住居跡出土遺物観察表(第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	坏	-	(1.9)	[7.8]	長石・石英・礫	黒	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	10% PL52 墨書「地田」
329	須恵器	蓋	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	5% PL51 硯転用力 墨付
330	土師器	甕	[26.6]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	床面	5%
331	須恵器	甕	[27.1]	(4.0)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 内面輪積痕	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	刀子	[9.9]	(0.9)	0.2~0.3	(4.0)	鉄	刃先部・茎部の破片 刃身部断面三角形	中層	

第2517号住居跡(第165・166図)

位置 調査区南東部のP8h5区、標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2512住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸は3.51m、短軸は3.40mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は5～24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は明確ではない。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで62cmで、袖部幅48cmである。袖部は黒褐色土を主体に構築している。火床部は床面と同じ高さであるが、火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

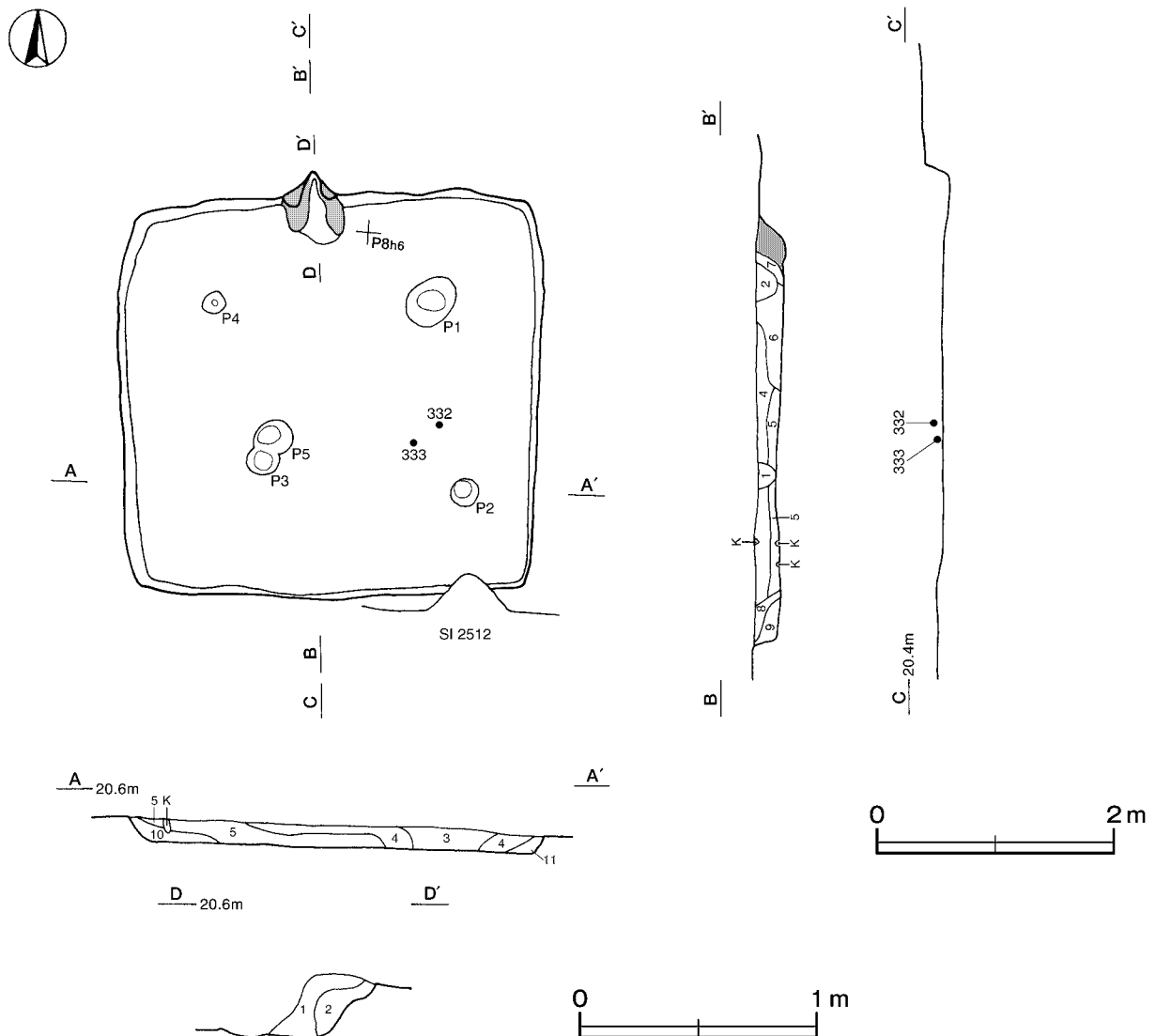
- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 粘土粒子・山砂粒子少量，ロームブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さ14～22cmである。P5は深さ17cmでP3に隣接しているが性格は不明である。

覆土 11層に分けられる。各層にローム粒子を含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

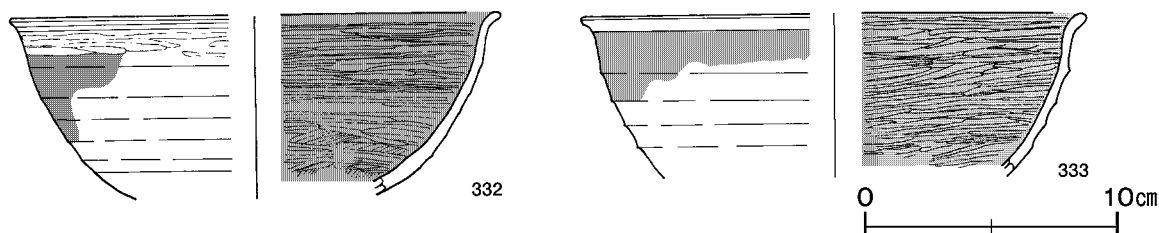
- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
- 3 極黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 7 極暗褐色 粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量
- 11 暗褐色 ローム粒子微量



第165図 第2517号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片20点（椀6，高台付椀3，甕11）が散在した状態で出土している。また混入した須恵器片も出土している。333は中央部やや東寄りの床面，332は同じ覆土下層からそれぞれ出土しており，住居の廃絶後廃棄されたものと考えられる。

所見 遺物の出土量や竈の使用頻度，さらに床面の状況などから，住居としての使用期間が短かったと推測される。時期は，出土土器から11世紀代と考えられる。



第166図 第2517号住居跡出土遺物実測図

第2517号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	椀	[19.4]	(7.2)	-	長石・石英	黒	普通	体部内面へラ磨き	下層	10% 煤付着
333	土師器	椀	[19.8]	(6.4)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	床面	10% 煤付着

第2519号住居跡（第167・168図）

位置 調査区南部のP 8 i 0区，標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸2.93m，短軸2.58mの長方形で，主軸方向はN - 1° - Wである。壁高は38～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈 西壁中央部に付設されている。天井部が残った状態で検出され，天井部中央部に直径20cm程度の掛け口が確認できた。規模は焚口部から煙道部まで109cm，袖部幅96cmである。袖部及び天井部は，地山の上に粘土ブロックを主体とした第11～17層を積み上げて構築している。火床部は床面と同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 極暗褐色	山砂粒子少量，粘土粒子微量	10 黒褐色	焼土ブロック少量
2 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11 暗褐色	粘土ブロック微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子中量
4 極暗褐色	山砂粒子中量，焼土ブロック少量	13 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子微量	14 褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量
6 暗褐色	焼土粒子微量	15 にぶい褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子微量
7 黒褐色	焼土粒子少量	16 褐色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量
8 黒褐色	焼土粒子微量	17 暗褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック微量
9 暗褐色	焼土ブロック少量		

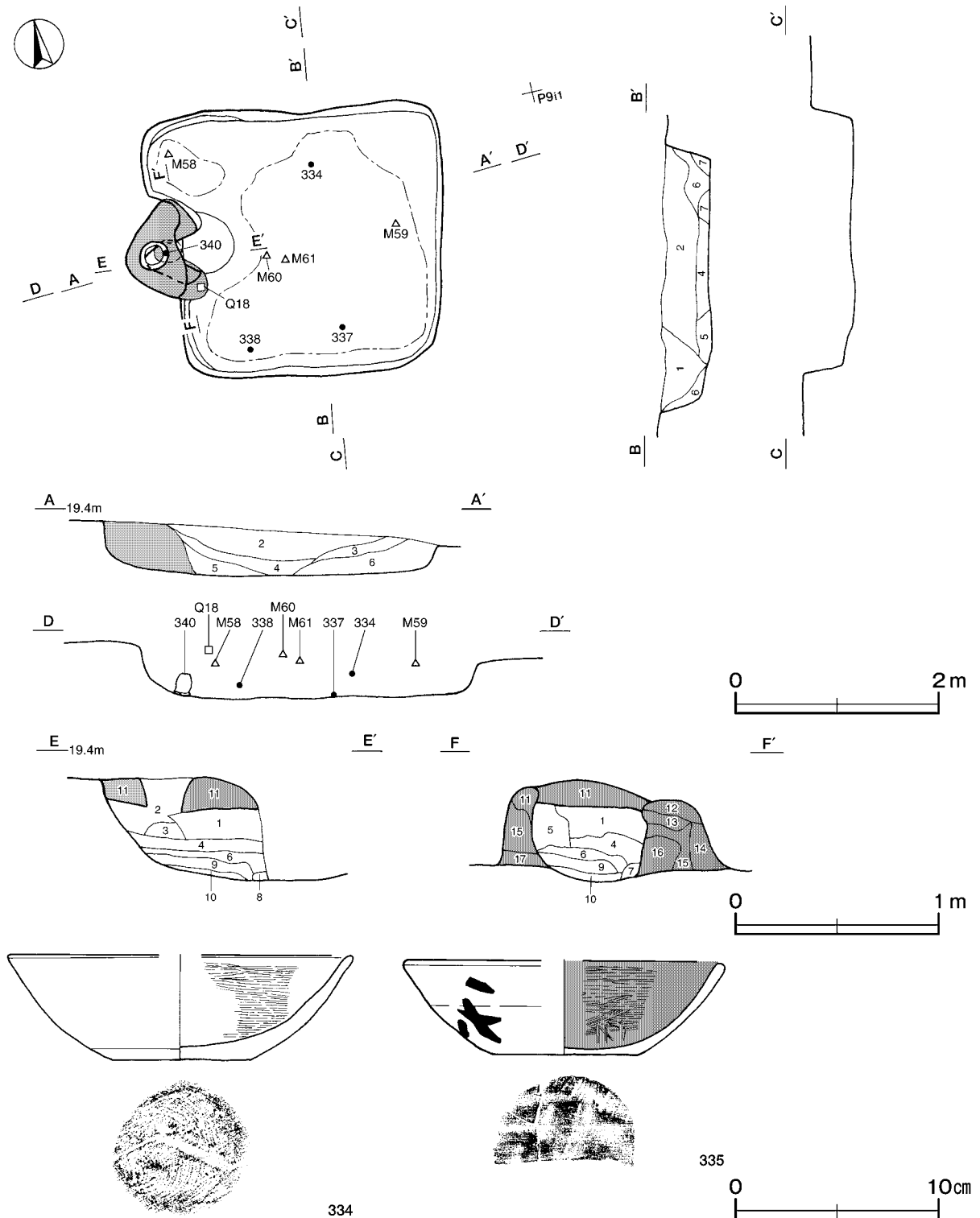
覆土 7層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

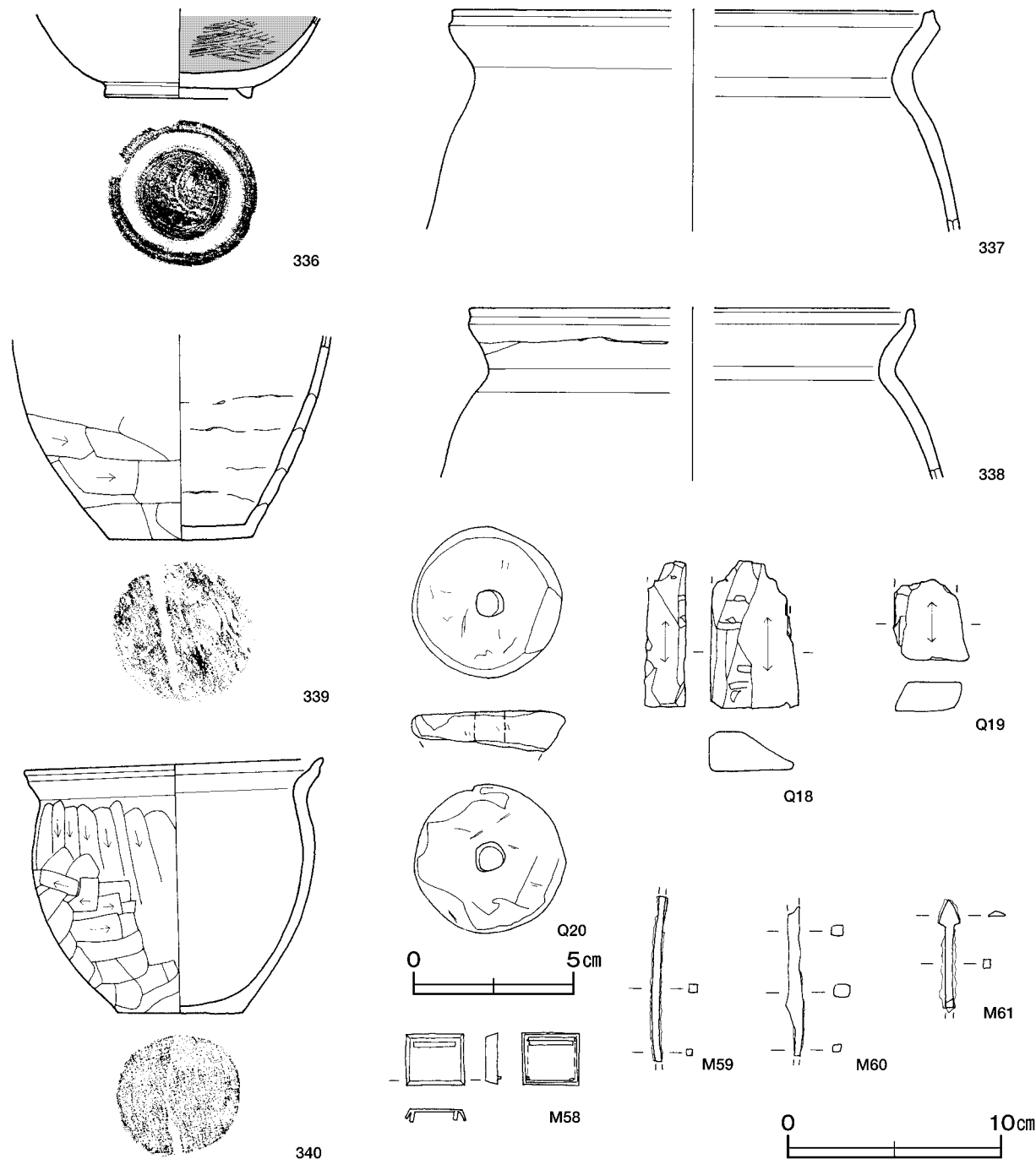
1 暗褐色	ローム粒子少量	5 褐色	炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	6 明褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片235点(坏63, 高台付坏 1, 椀 2, 高台付椀 1, 甕類167, 小形甕 1), 須恵器155点(坏 80, 高台付坏 2, 蓋 2, 甕71), 石製品 3点 (紡錘車 1, 砥石 2), 鉄製品 3点 (釘 1, 鉄鏝 2), 銅製品 1点 (巡方) が散在した状況で出土している。340は竈の火床面から逆位で出土していることから, 支脚として使われていたと考える。337は南壁際の床面, 338は南西コーナー部の覆土下層から出土しており, 住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。Q18, M58は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第167図 第2519号住居跡・出土遺物実測図



第168図 第2519号住居跡出土遺物実測図

第2519号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
334	土師器	椀	[16.8]	5.2	6.8	長石・石英・白色粒子	黒	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	上層	50%
335	土師器	椀	[15.3]	4.6	7.0	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部多方向からのヘラ削り	覆土中	35% PL50 墨書 r
336	土師器	高台付椀	-	(4.0)	6.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ調整	覆土中	35%
337	土師器	甕	[22.4]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	床面	10%
338	土師器	甕	[20.8]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 外面輪積痕	下層	5%
339	土師器	甕	-	(9.6)	6.6	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面輪積痕	竈覆土中	40%
340	土師器	小形甕	13.8	12.0	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	竈火床面	80% PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	砥石	(6.9)	4.2	1.9	(70.8)	凝灰岩	砥面2面 片側欠損	上層	
Q19	砥石	(3.8)	(3.5)	1.4	(26.2)	凝灰岩	砥面1面	覆土中	

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	紡錘車	4.8	(1.3)	0.9	(30.8)	粘板岩	無文 下部欠損 円錐台形	覆土中	PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M58	巡方	2.7	2.4	0.5~0.7	6.8	銅	表面・側面丁寧な研磨 裏面四隅に突起有り	上層	
M59	釘	(7.7)	0.4	0.3~0.4	(5.9)	鉄	断面方形の棒状	上層	
M60	鎌力	(7.1)	0.9	0.4~0.6	(7.9)	鉄	断面方形の棒状	上層	PL53
M61	鎌	(5.1)	1.0	0.2~0.4	(4.5)	鉄	両丸造 茎部の断面形方形	上層	PL53

第2521号住居跡 (第169図)

位置 調査区北西部のP8c4区、標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2511・2520号住居跡を掘り込み、第4088号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.21m、短軸3.17mの方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は20~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から北西部にかけて踏み固められている。壁下には幅11~20cm、深さ5~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで86cm、袖部幅96cmである。袖部はローム土を主体とする第14・15層を基部とし、その上に砂質粘土を主体とする第10~13層を積み上げて構築している。火床部は、床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に51cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1~9層に分けられる。第4層は、天井部の崩落層に相当する。

竈土層解説

1	にぶい褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量	9	黒褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子微量
3	明褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	10	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量	11	暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	12	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
6	赤褐色	焼土ブロック・白色粒子少量, 炭化物微量	13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	14	黒褐色	炭化粒子粒子少量, 砂質粘土粒子微量
			15	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量

ピット 4か所。P1~P4は主柱穴で、深さは12~26cmである。

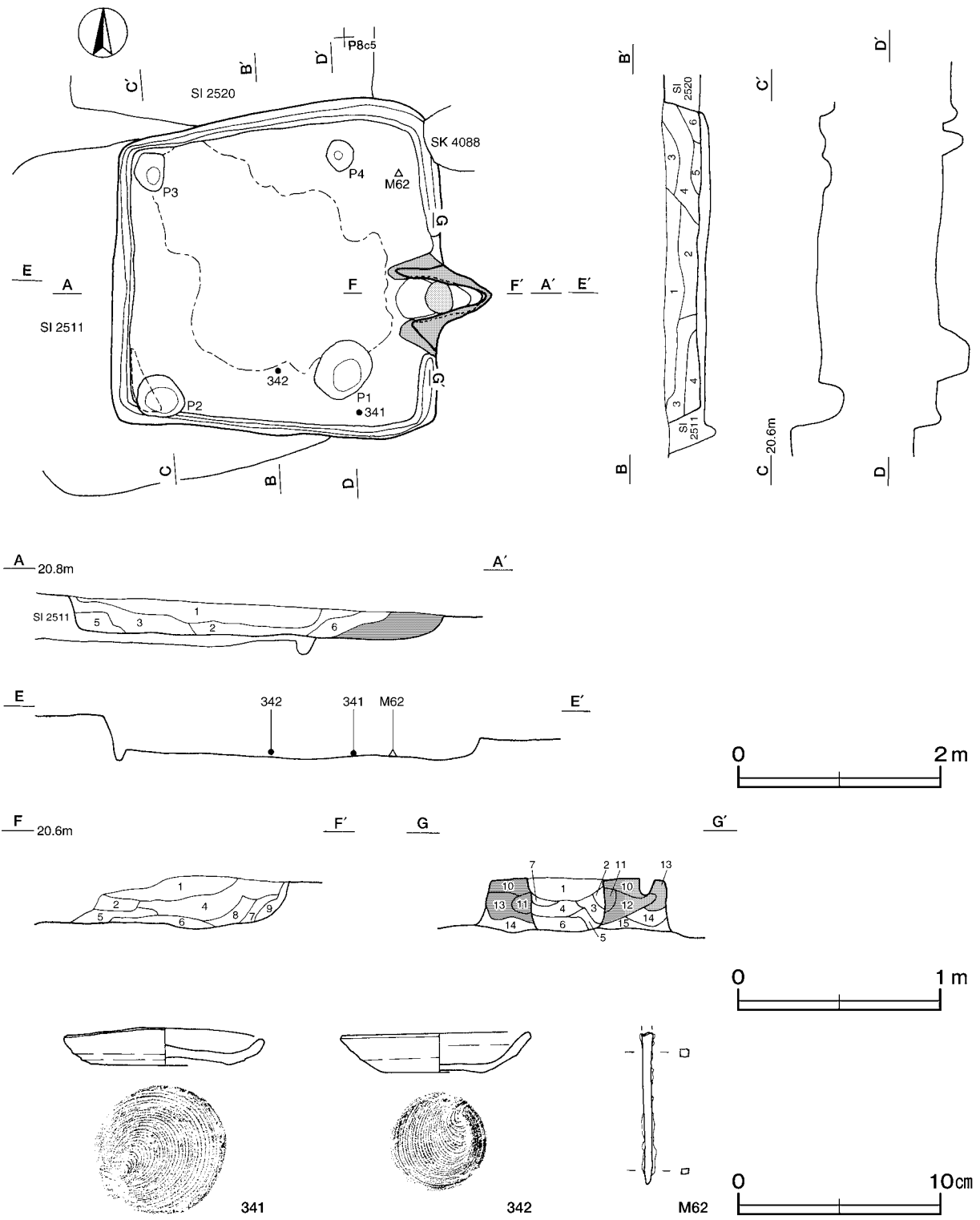
覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片31点(坏1, 高台付坏1, 小皿2, 甕類27), 鉄製品1点(釘)が出土している。M62は北東コーナー部の床面から出土しており、住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。341, 342は南壁際中央部の覆土下層から出土しており、住居の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から11世紀代と考えられる。



第169図 第2521号住居跡・出土遺物実測図

第2521号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	小皿	9.7	1.8	6.5	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	100% PL50
342	土師器	小皿	9.3	2.0	4.9	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	下層	100% PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M62	釘	(7.5)	0.5	0.3~0.4	(8.9)	鉄	断面方形の棒状	床面	PL53

(2) 掘立柱建物跡

第450号掘立柱建物跡 (第170図)

位置 調査区中央部のP8f9区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第67号井戸に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N-79°-Eの東西棟である。規模は, 桁行7.2m, 梁行4.2mで, 面積は30.24㎡である。柱間寸法は, 桁行は東より1.8m(6尺), 2.7m(9尺), 2.7m(9尺)で, 梁行は北より2.4m(8尺), 1.8m(6尺)である。また, P2とP7を結ぶ軸線上にはP11が位置し, 底面から柱の圧痕が確認されていることから束柱穴と考えられる。

柱穴 11か所。深さは30~64cmである。土層は, 第1層が柱抜き取り痕に相当する。第2~9層が埋土で第2・3層を主体として版築状に突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 にぶい褐色	白色粘土粒子中量, ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 明褐色	ロームブロック中量, 白色粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 黒褐色	白色粘土粒子少量, ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 白色粘土粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子・白色粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片12点(甕), 須恵器片1点(坏)が出土している。

所見 出土土器からの時期を判断は困難であるが, 柱筋を揃えてL字型に並ぶ第451号掘立柱建物跡と同時期に機能していたと推測されることや重複関係から, 時期は9世紀後葉と考えられる。

第451号掘立柱建物跡 (第171・172図)

位置 調査区北部のP8c9区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第452号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N-10°-Wの南北棟である。規模は, 桁行7.2m, 梁行4.8mで, 面積は34.56㎡である。柱間寸法は, 桁行は2.4m(8尺)で, 梁行は東より2.7m(9尺), 2.1m(7尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

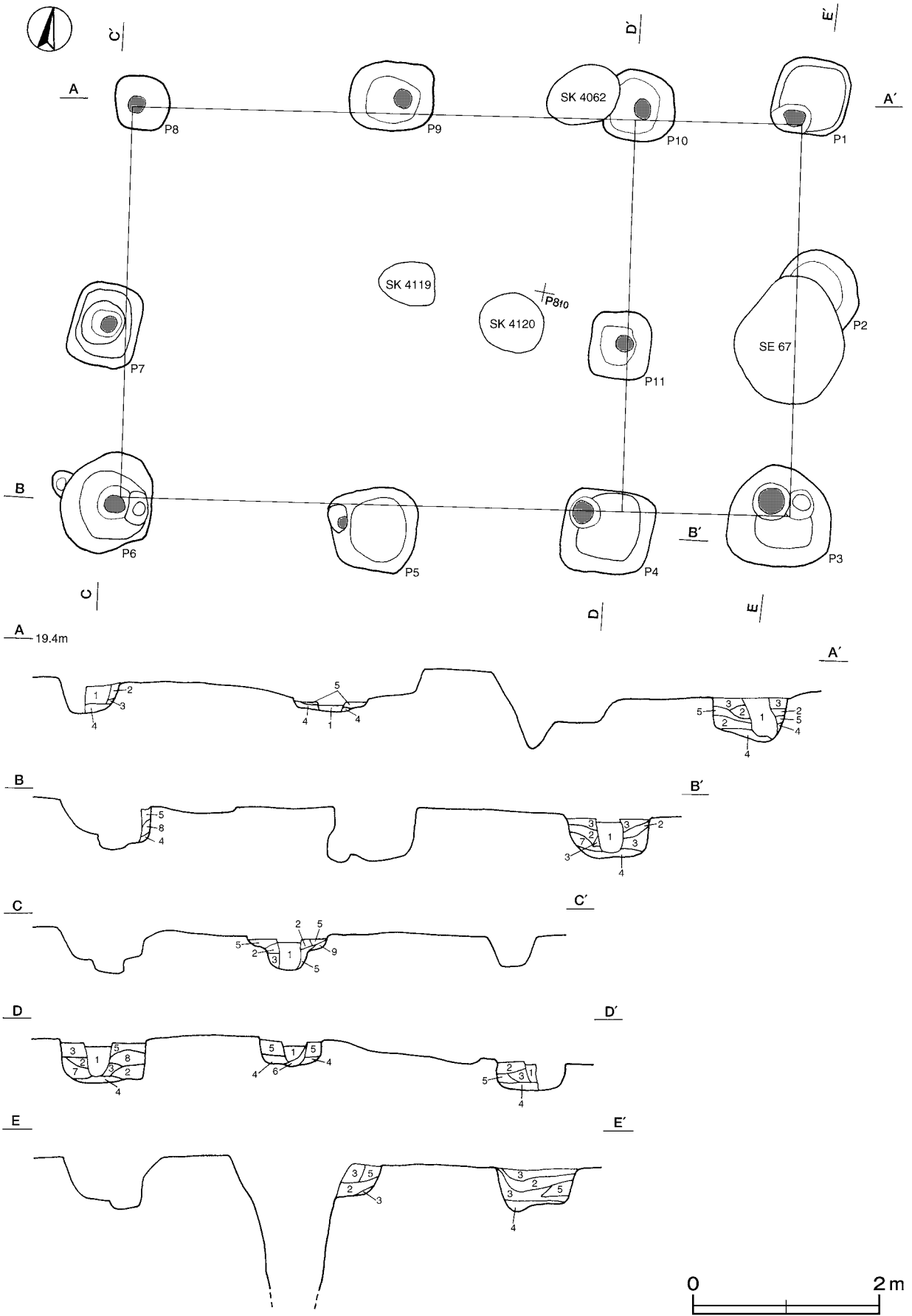
柱穴 10か所。深さは35~82cmである。土層は, 第1層が柱抜き取り痕に相当する。第2~5層が埋土で, 第2~4層を主体として版築状に突き固められている。柱のあたりは, 各柱穴の底面に明瞭に残り, 径20cmが著しく硬化している。

土層解説(各柱穴共通)

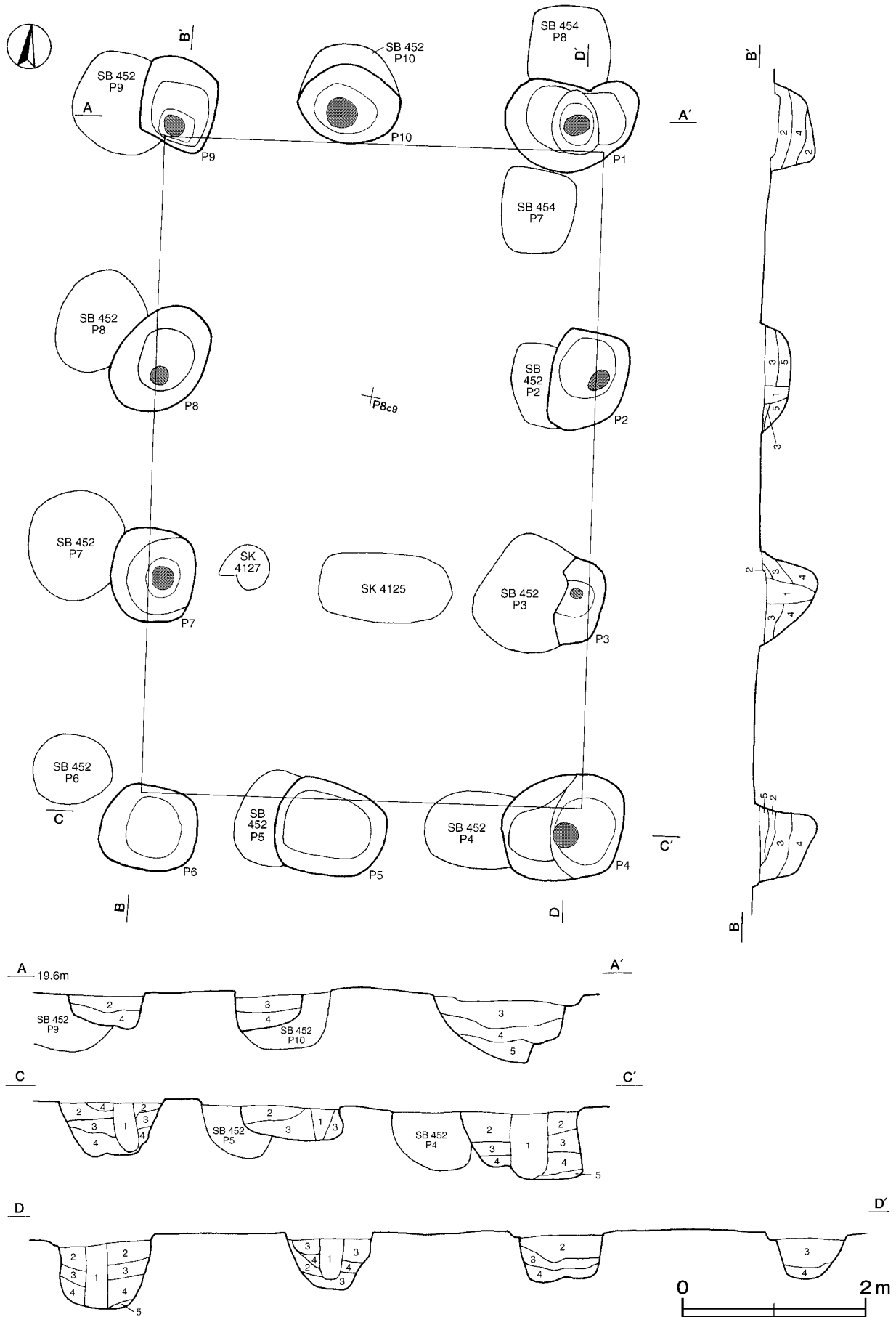
1 暗褐色	ローム粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
2 褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片71点(坏6, 高坏1, 甕64), 須恵器片33点(坏10, 蓋1, 高盤1, 甕19, 甌2), 土製品1点, 鉄製品1点(刀子), 鉄滓1点出土している。343は, P6の埋土第3層から出土している。346・347は, P3・P4の覆土下層, M64はP9の覆土中からそれぞれ出土している。

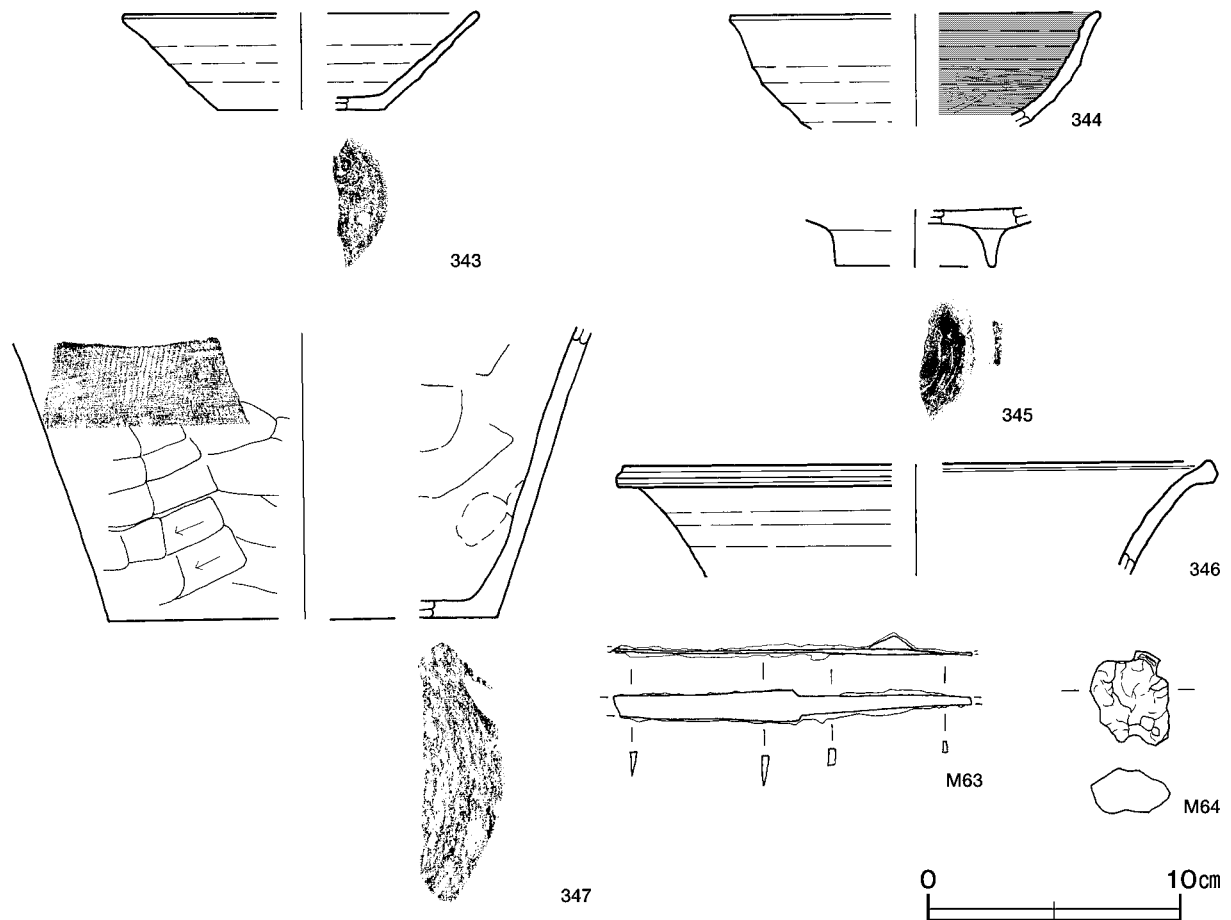
所見 柱筋を揃えてL字型に並ぶ第450号掘立柱建物跡と同時期と推測されることや, 出土遺物・重複関係から, 時期は9世紀後葉と考えられる。



第170图 第450号掘立柱建物跡実測图



第171图 第451号掘立柱建物跡実測图



第172図 第451号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第451号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
343	須恵器	坏	[14.0]	4.5	[5.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下端ヘラ削り	P 6 上層	20%
344	土師器	椀	[14.6]	3.8	[6.5]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	P 9 中層	10%
345	須恵器	高盤	-	(2.3)	[6.4]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P 4 中層	5 %
346	須恵器	甕	[23.1]	(4.4)	-	長石・雲母	オリブ黒	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	P 3 下層	5 %
347	須恵器	甕	-	(11.4)	[15.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭圧痕	P 4 下層	15%

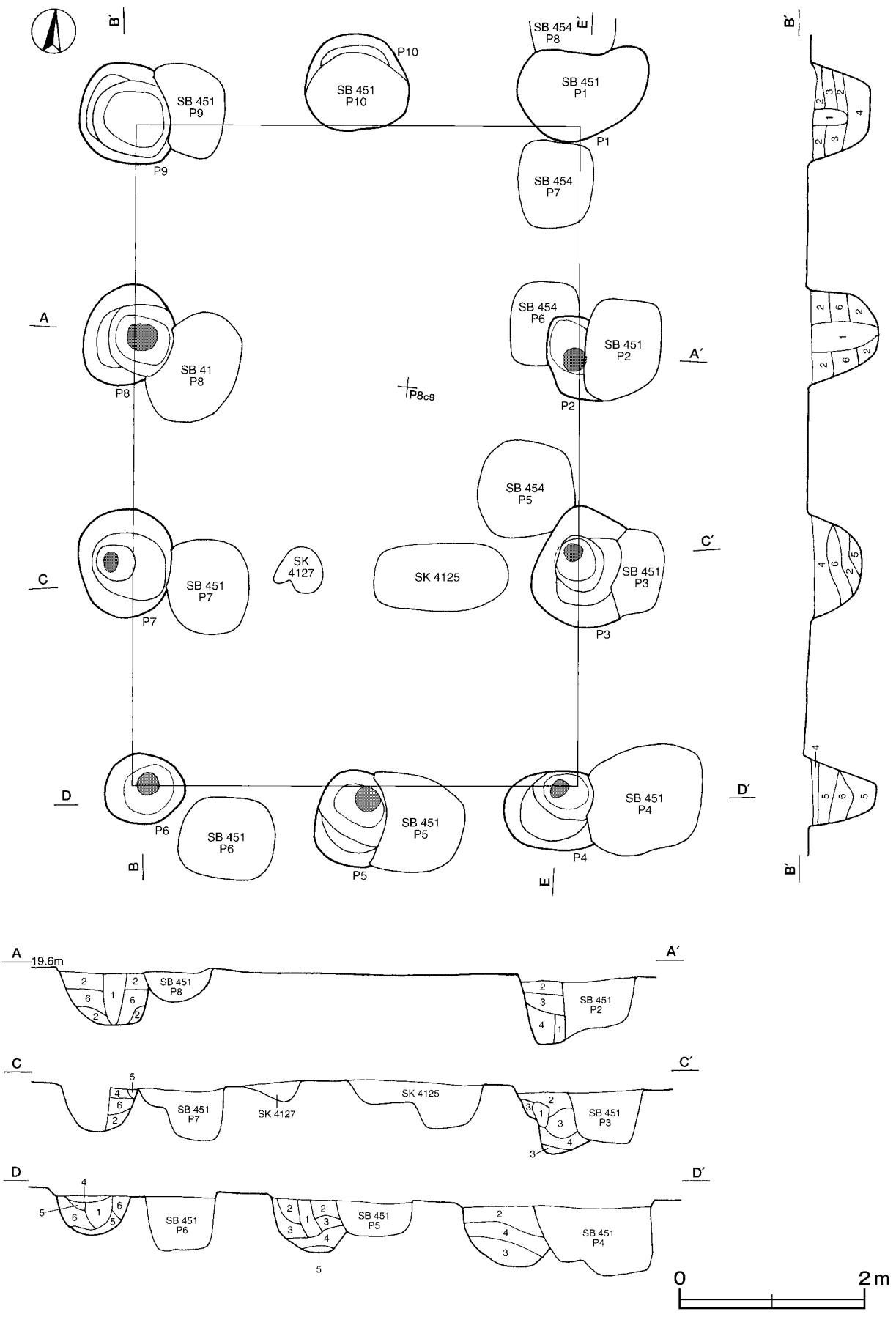
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M63	刀子	(14.2)	1.2	0.3	(15.0)	鉄	刃先欠損 茎部に三角状の高まり有り	P 4 覆土中	PL53
M64	鉄滓	3.7	3.1	1.8	30.3	鉄	着磁性有り	P 9 覆土中	

第452号掘立柱建物跡（第173・174図）

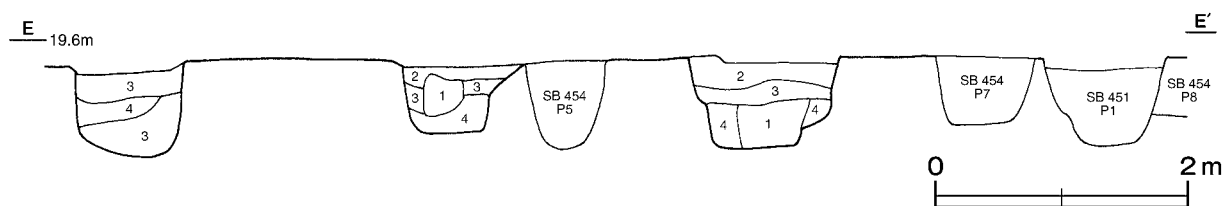
位置 調査区北部のP 8 c8区，標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第454号掘立柱建物跡を掘り込み，第4125・4127号土坑，第451号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 5° - Wの南北棟である。規模は，桁行7.2m，梁行4.8mで，面積は34.56㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行ともに2.4m（8尺）を基調とし，均等に配置され，柱筋はほぼ揃っている。



第173图 第452号掘立柱建物跡実測图(1)



第174図 第452号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴 10か所。深さは50～80cmである。土層は、第1層が柱抜き取り痕に相当する。第2～6層が埋土で、第2～4層を主体として版築状に突き固められている。柱のあたりは、各柱穴の底面に明瞭に残っており、径20cmが著しく硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 にぶい褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片1点(甑)が出土している。

所見 柱筋を揃えて南北に並ぶ第453号掘立柱建物跡と同時期と推測されることや重複関係から、時期は9世紀中葉と考えられる。

第453号掘立柱建物跡 (第175図)

位置 調査区南部のP8g0区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4117・4055号土坑を掘り込み, 第4114・4116・4121・4040号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N-4°-Wの南北棟である。規模は, 桁行5.4m, 梁行3.6mで, 面積は19.44㎡である。柱間寸法は, 桁行, 梁行ともに1.8m(6尺)を基調とし, 均等に配置され, 柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。深さは30～48cmである。土層は、第1層が柱抜き取り痕に相当する。第2～6層が埋土で、第2・3・6層を主体として版築状に突き固められている。柱のあたりは、各柱穴の底面に明瞭に残っており、径22cmが著しく硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

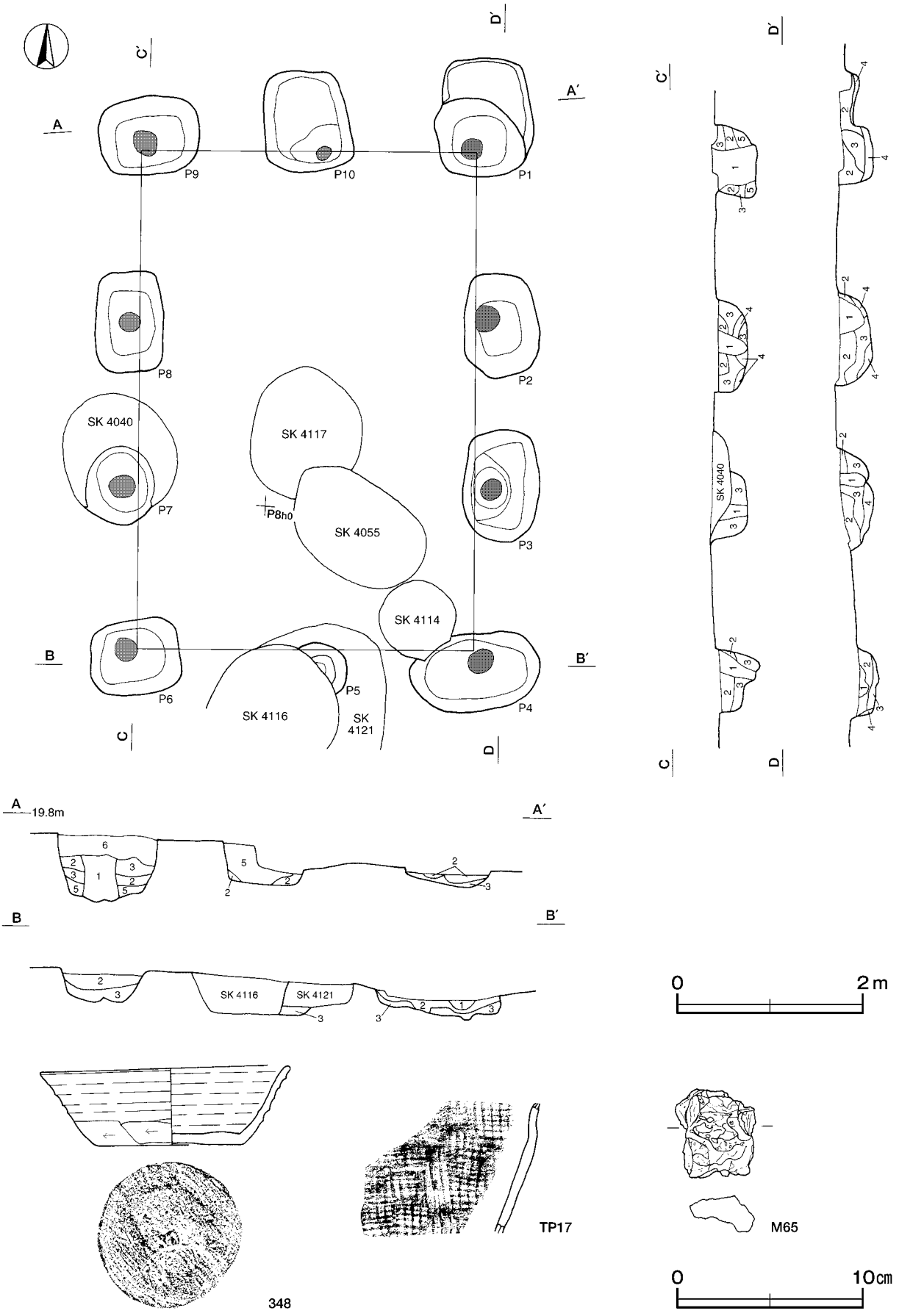
- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子中量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・白色粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片12点(坏3, 甕9), 須恵器片10点(坏7, 甕3), 鉄滓1点, 流れ込みと思われる縄文土器片1点も出土している。348は, P6の底面から出土した破片が接合したものである。TP17はP10の覆土下層から, M65はP1の覆土中からそれぞれ出土したものである。

所見 柱筋を揃えて南北に並ぶ第452号掘立柱建物跡と同時期と推測されることや, 重複関係, 出土遺物から, 時期は9世紀中葉と考えられる。

第453号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
348	須恵器	坏	13.1	4.2	7.9	長石・石英	オリ・灰	普通	体部外面下端ヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	P6下層	70% PL51



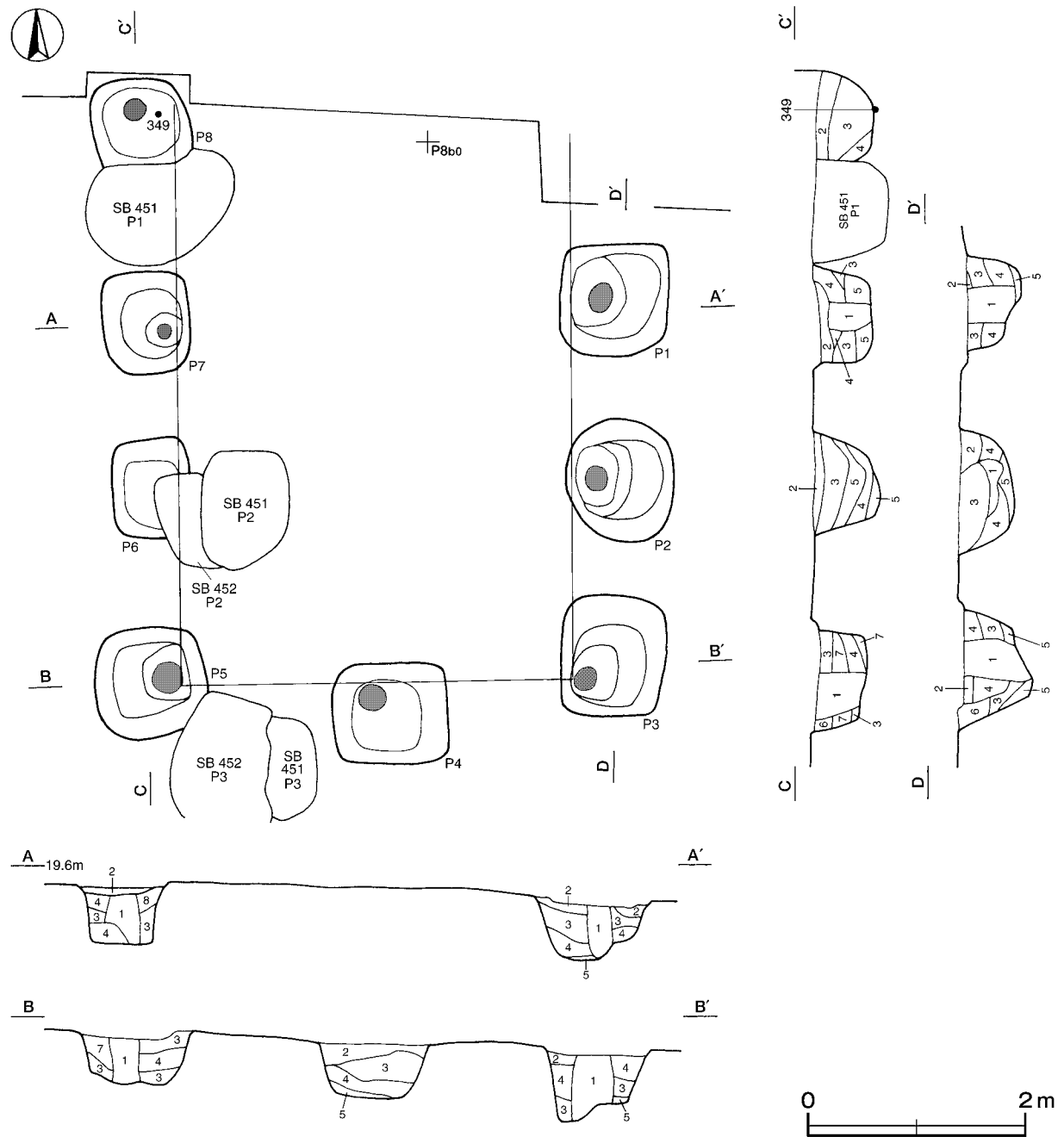
第175图 第453号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP17	須恵器	甕	長石・雲母	灰	普通	体部外面格子目叩き	P10下層	

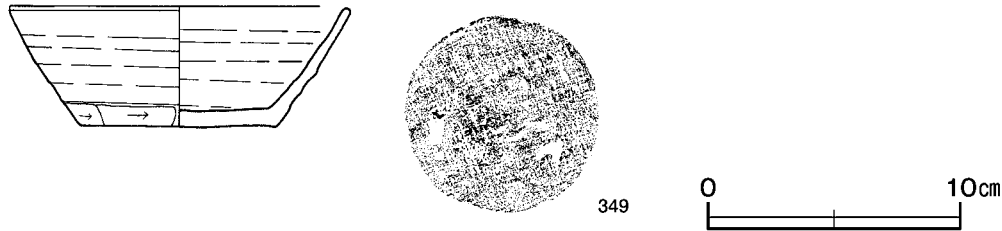
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M65	鉄滓	4.8	4.3	2.0	56.9	鉄	着磁性なし	P1覆土中	

第454号掘立柱建物跡 (第176・177図)

位置 調査区北部のP 8 b9 区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。



第176図 第454号掘立柱建物跡実測図



第177図 第454号掘立柱建物跡出土遺物実測図

重複関係 第451・452号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 北側が調査区域外のため全体の規模は不明であるが、桁行3間、梁行2間の側柱建物跡と推定され、桁行方向N - 0 °の南北棟である。規模は、桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44㎡である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに1.8m（6尺）を基調とし、均等に配置され、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。深さは52～82cmである。土層は、第1層が柱抜き取り痕に相当する。第2～8層が埋土で、第2～4層を主体として版築状に突き固められている。柱のあたりは、各柱穴の底面に明瞭に残っており、径22cmの円形の範囲が著しく硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 5 にぶい褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量 | 6 にぶい褐色 ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 7 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量 | 8 黒褐色 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片28点（坏4，甕24），須恵器片1点（坏）が出土している。349はP8の底面から逆位で出土している。

所見 他の掘立柱建物跡とは軸線が異なり、時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。

第454号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
349	須恵器	坏	13.5	4.7	7.8	長石・石英・雲母・礫	にぶい褐	普通	体部外面下端へら削り 底部一方向からのへら削り	P8底面	100% PL51

(3) 土坑

第4021号土坑（第178図）

位置 調査区南西部のP8i3区、標高21.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2510号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.18mの円形で、深さは12cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

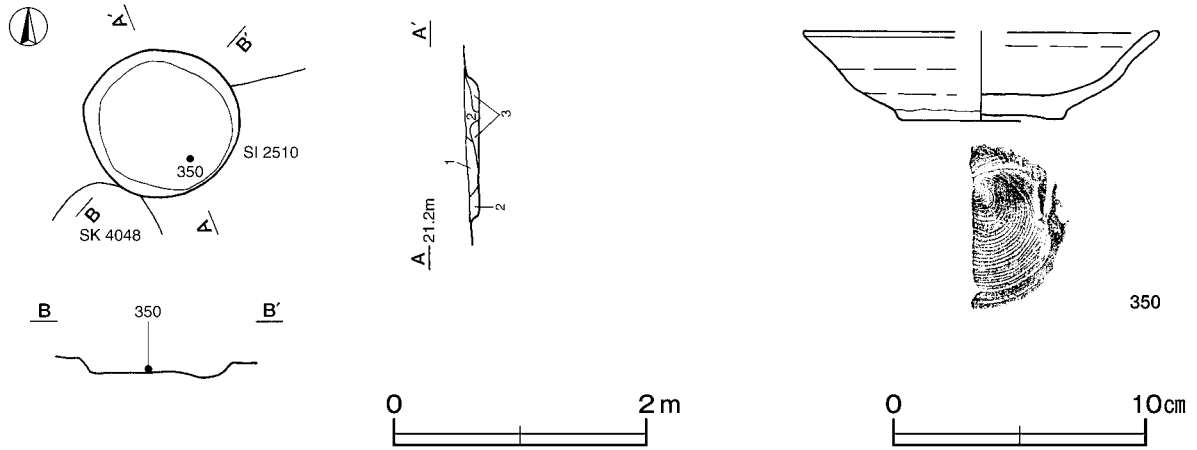
覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片7点（坏1，甕類6）が出土している。350は覆土下層から出土しており、土坑の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から11世紀代と考えられるが、性格は不明である。



第178図 第4021号土坑・出土遺物実測図

第4021号土坑出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	土師器	坏	[14.0]	3.5	[6.4]	長石・白色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	底面	40%

第4062号土坑（第179図）

位置 調査区中央部のP 8 e0区、標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

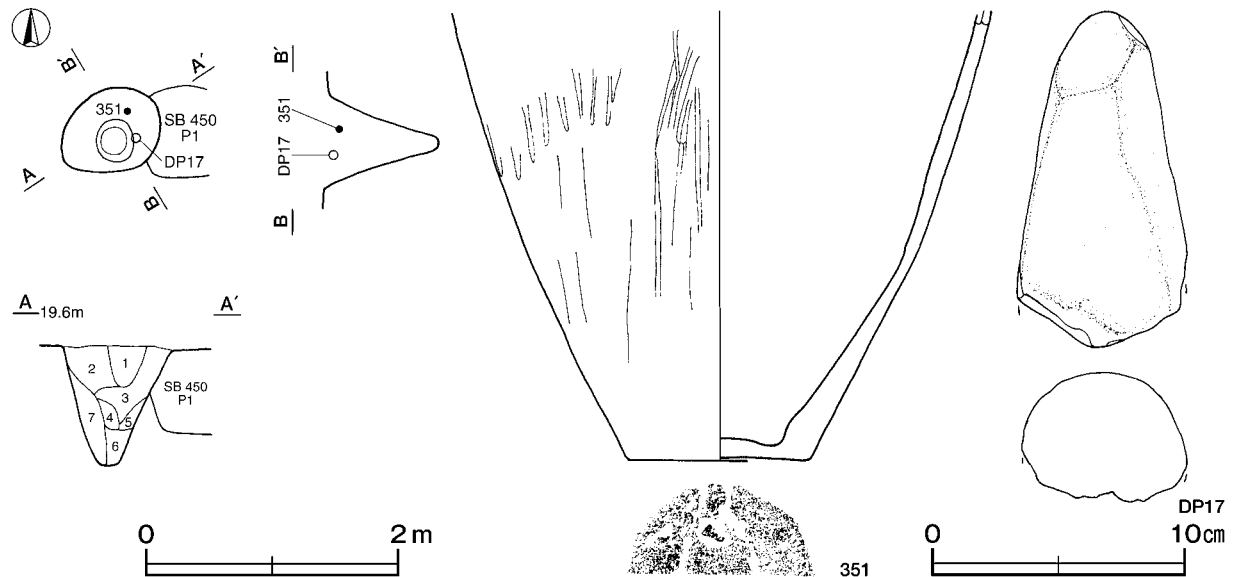
重複関係 第450号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.86m、短径0.65mの楕円形で、長径方向はN - 55° - Eである。深さは50cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，砂粒少量 | 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量，砂粒微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，炭化物・砂粒中量，砂質粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック少量 |



第179図 第4062号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片12点(甕類), 須恵器片2点(甕), 土製品1点(支脚)が出土している。351, DP17は覆土上層から出土し, 土坑廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられるが, 性格は不明である。

第4062号土坑出土遺物観察表(第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
351	土師器	甕	-	(17.8)	[7.1]	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	上層	35% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	支脚	(13.2)	6.5	(5.1)	(284.7)	土	表面は, 火熱を受けて赤変している	上層	

第4073号土坑(第180図)

位置 調査区東部のP9e0区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第14号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.44m, 短径1.36mの円形で, 深さは31~45cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

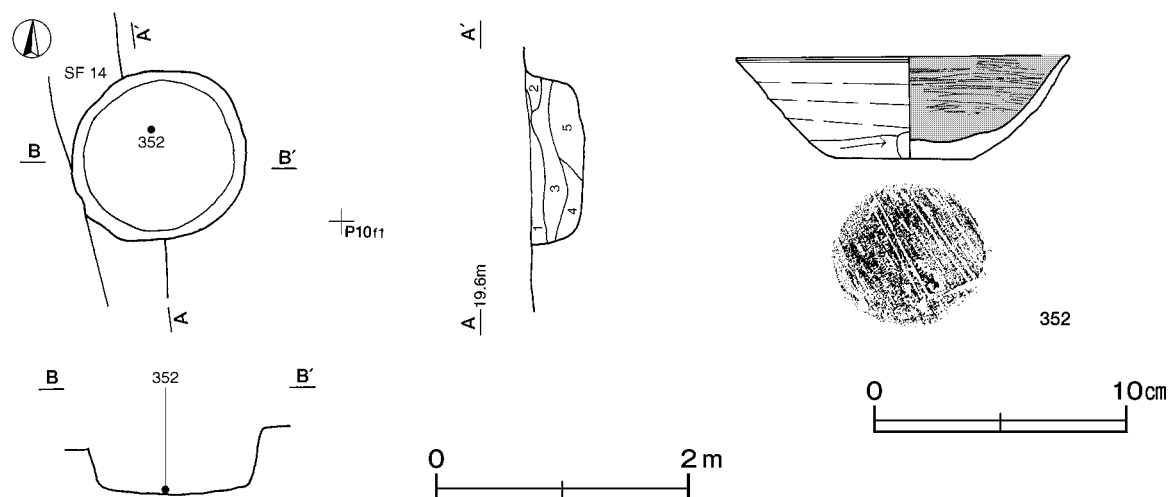
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 灰褐色 | 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片31点(坏6, 高台付坏3, 甕類22), 須恵器片10点(坏5, 甕類5)が出土している。

352は底面から出土し, 土坑の廃絶時に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられるが, 性格は不明である。



第180図 第4073号土坑・出土遺物実測図

第4073号土坑出土遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
352	土師器	坏	13.2	4.1	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端へラ削り 内面へラ磨き 底部一方向からのへラ削り	底面	100% PL51

第4077号土坑（第181図）

位置 調査区南部のP 8 i5区，標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4080号土坑を掘り込み，第2512号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.84m，短径0.65mの楕円形で，長径方向はN - 31° - Eである。深さは26cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

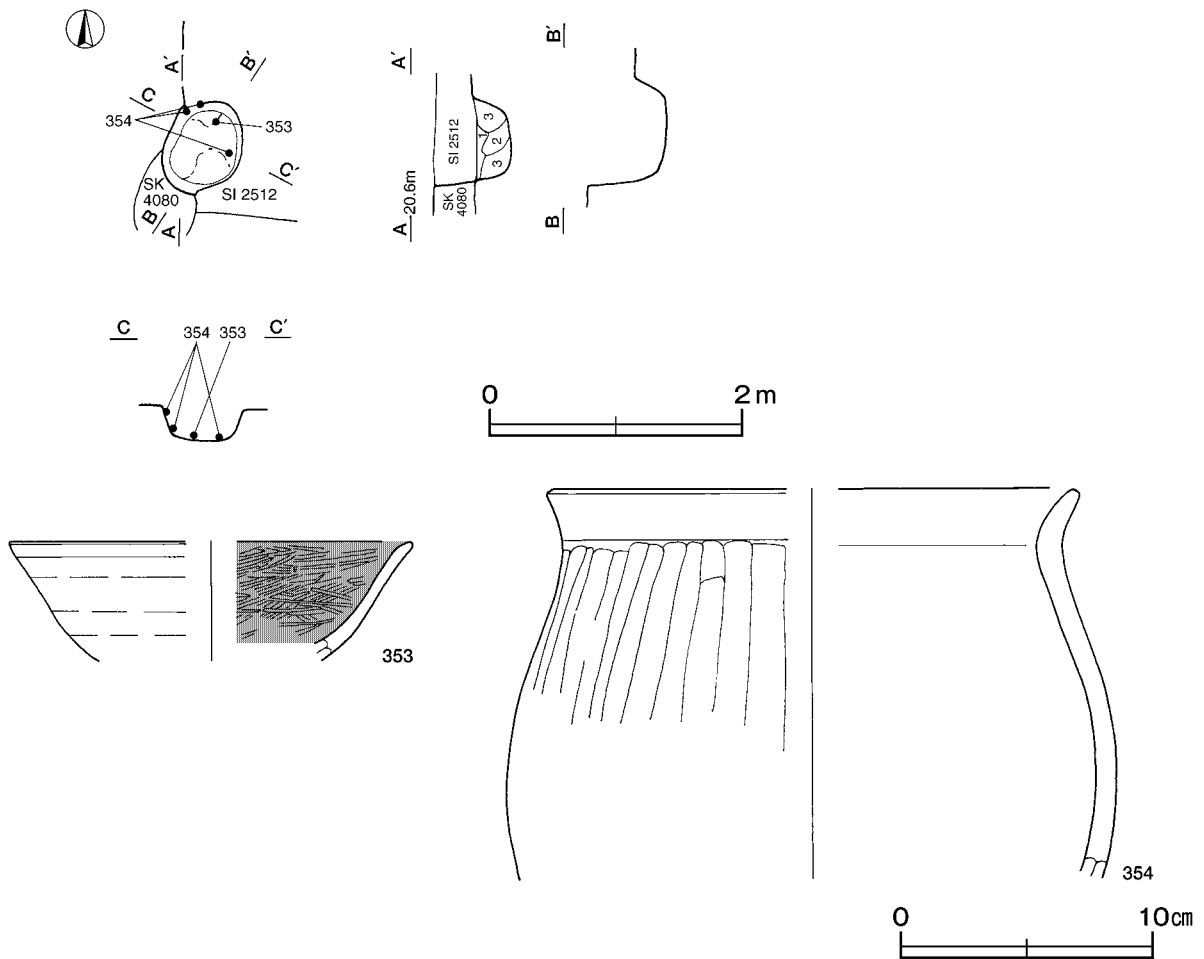
覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片39点（坏11，高台付坏16，甗類12），鉄滓1点が出土している。353・354は底面から出土し，土坑の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，重複関係や出土土器から10世紀後半と考えられるが，性格は不明である。



第181図 第4077号土坑・出土遺物実測図

第4077号土坑出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
353	土師器	坏	[16.0]	(4.7)	-	長石・石英	黒	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き	底面	30%
354	土師器	甗	[20.7]	(15.5)	-	長石・雲母・礫	浅黄橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	上・下層	20%

第4080号土坑（第182図）

位置 調査区南区のP 8 i5 区，標高20.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4077号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.80m，短径0.49mの楕円形で，長径方向N - 22° - Eである。深さは23cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

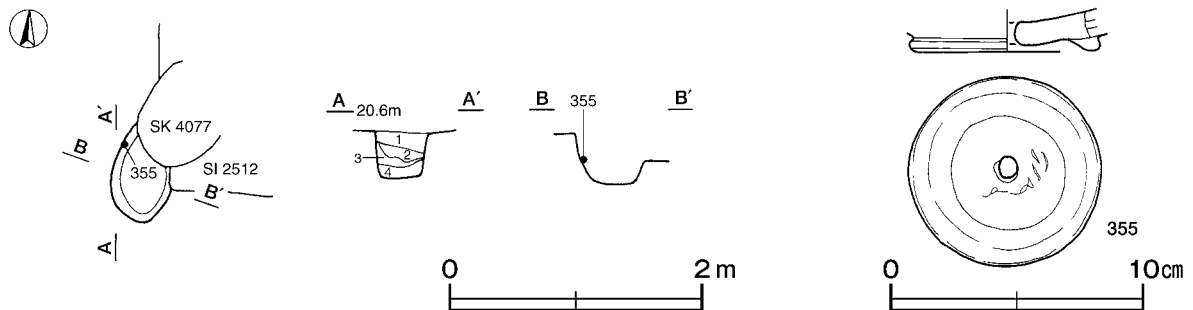
覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片1点（高台付椀）が出土している。355は覆土上層から出土し，土坑の廃絶後に廃棄されたと考えられる。355は高台付椀の底部を利用し，底部中央を穿孔して紡錘車に転用している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から10世紀前半と考えられるが，性格は不明である。



第182図 第4080号土坑・出土遺物実測図

第4080号土坑出土遺物観察表（第182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	土師器	高台付椀	-	(1.6)	7.2	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面へラ磨き 底部回転へラ切り後高台貼り付け	上層	20% PL51 転用紡錘車

第4086号土坑（第183図）

位置 調査区南東部のP 9 g9 区，標高19.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4089号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.41m，短径2.07mの不定形で，長径方向はN - 9° - Wである。深さは47～50cmで，底面は階段状に掘り込まれ，壁は外傾して立ち上がっている。

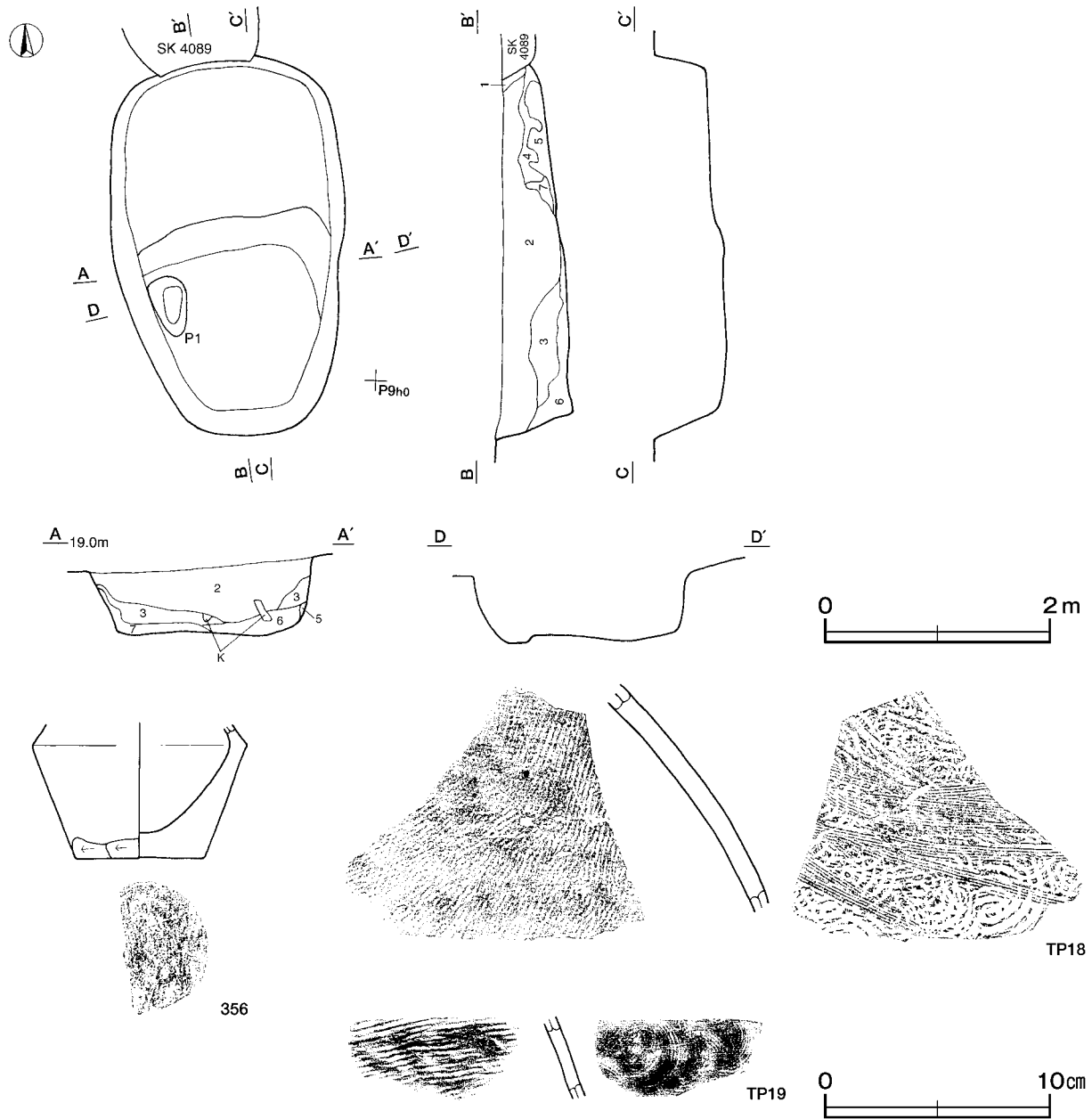
覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量，炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物砂粒微量 | 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| | | 7 黒褐色 | 砂粒中量，砂質粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片86点（坏8，高台付坏1，盤1，甕類76），須恵器片49点（坏23，高台付坏1，蓋1，甕類24）が出土している。356，TP18・19いずれも覆土中から出土し，土坑の廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀代と考えられるが，性格は不明である。



第183図 第4086号土坑・出土遺物実測図

第4086号土坑出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
356	須恵器	短頸壺	-	(6.0)	[5.8]	長石・石英	灰	普通	体部外面下端ヘラ削り	覆土中	40% PL50
TP18	須恵器	甕	長石・礫			灰	普通	体部外面格子状の叩き 内面同心円状の当て具痕 ヘラナデ	覆土中	PL52	
TP19	須恵器	甕	長石			灰白	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面同心円状のあて具痕	覆土中		

第4116号土坑（第184図）

位置 調査区南部のP 8 h0区、標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第453号掘立柱建物跡、第4151号土坑を掘り込み、第4122号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.50mほどの円形で、深さは16～19cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

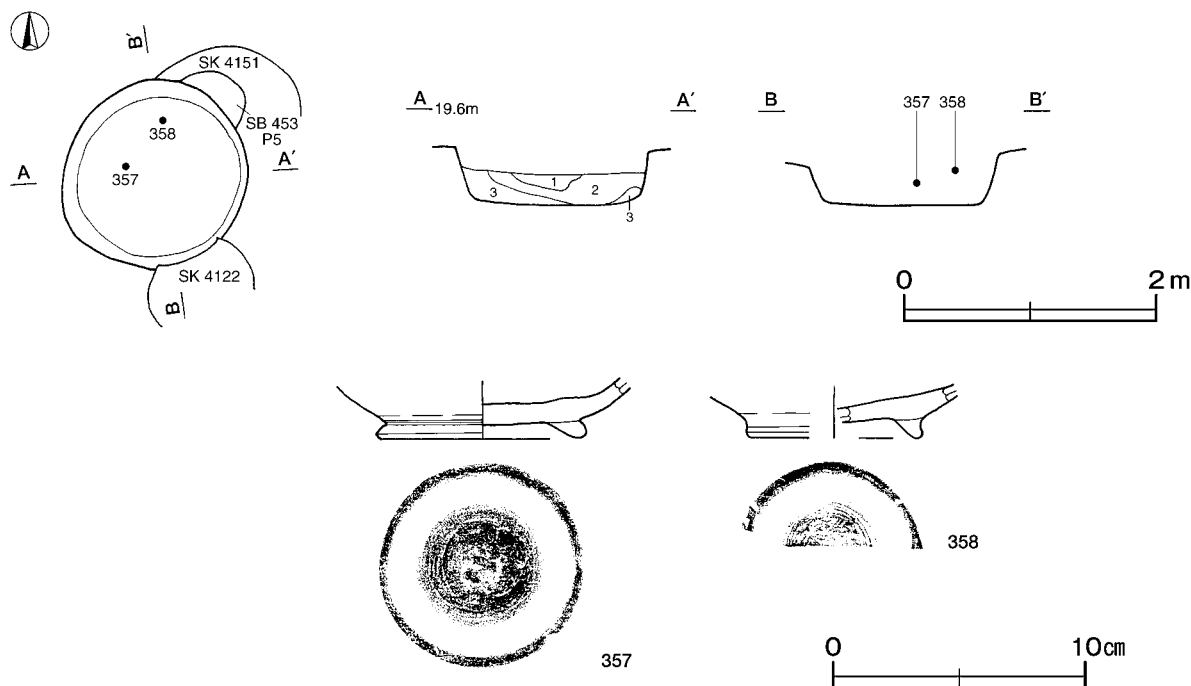
覆土 3層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片8点(高台付椀2, 甕類6)が散在した状態で出土している。357は覆土中層, 358は覆土上層からそれぞれ出土し, 土坑の廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から11世紀代と考えられるが, 性格は不明である。



第184図 第4116号土坑・出土遺物実測図

第4116号土坑出土遺物観察表(第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	土師器	高台付椀	-	(2.4)	8.1	長石・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中層	20%
358	土師器	高台付椀	-	(2.1)	[6.8]	長石	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	上層	10%

第4117号土坑(第185図)

位置 調査区南部のP 8g0区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4055号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.41m, 短径1.18mの楕円形で, 長径方向はN - 5° - Eである。深さは18~33cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

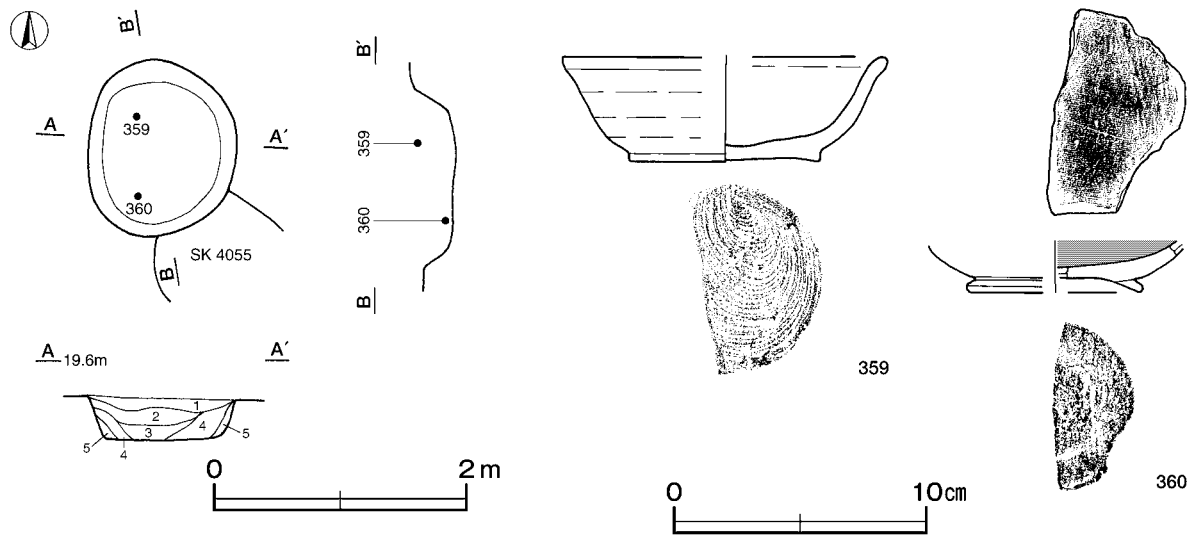
覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 灰褐色 炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片49点(坏29, 高台付坏2, 甕類18)が出土している。359・360は覆土下層から出土し, 360は, 見込み部に×字状と見られるヘラ書きが施されている。

所見 時期は, 出土土器から10世紀代と考えられるが, 性格は不明である。



第185図 第4117号土坑・出土遺物実測図

第4117号土坑出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
359	土師器	坏	[13.0]	4.1	[7.6]	長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	上層	45%
360	土師器	高台付坏	-	(2.0)	[6.7]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後高台貼り付け	下層	10% PL52 底部内面ヘラ書き

第4122号土坑（第186図）

位置 調査区南部のP 8 h0 区，標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4116・4121・4123号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.80mほどの円形で，深さは23～30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

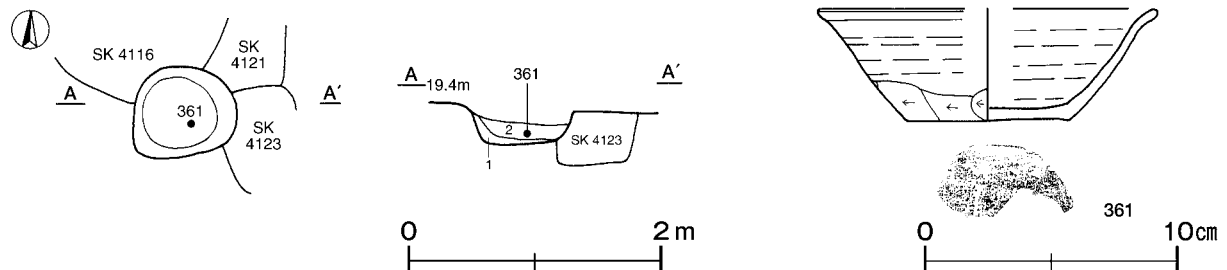
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片7点（坏1，甕類6），須恵器片4点（坏1，甕類3）が出土している。361は覆土下層から出土し，土坑の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀代と考えられるが，性格は不明である。



第186図 第4122号土坑・出土遺物実測図

第4122号土坑出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
361	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[6.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端ヘラ削り 底部一方向からのヘラ削り	下層	25%

(4) 鍛冶関連土坑

第4119号土坑 (第187図)

位置 調査区中央部のP 8 f9区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第450号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.62m, 短径0.49mの楕円形で, 長径方向はN - 30° - Wである。深さは18cmで, 底面は階段状に掘り込まれ, 壁は外傾して立ち上がっている。

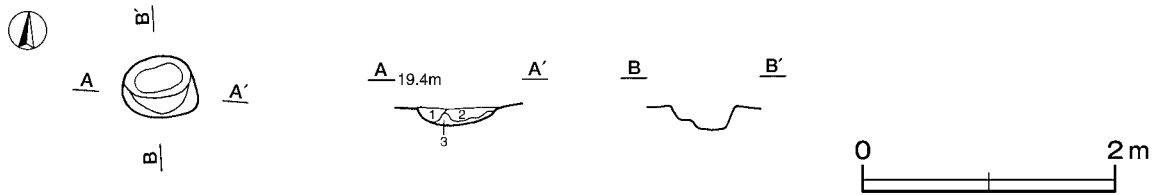
覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子・鍛造剥片微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・鍛造剥片微量 | | |

遺物出土状況 砂鉄109.3g, 鍛造剥片0.8g (3mm未満0.2g, 3mm以上0.6g), 粒状滓1.67g (3mm未満0.03g, 5mm未満0.04g, 不定形1.55g) が覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 北隣のP 8 e9区では, 318.6gの鉄滓が出土しており, 本跡の遺物の出土状況から鍛冶工房の炉跡の可能性も考えられる。また, 本跡から東80cmには, 第4120号土坑が確認され, 鉄滓, 砂鉄, 鍛造剥片, 粒状滓板状滓, 炭などが出土している。軸線, 形状ともに本跡と類似しており, 同一時期に機能していたと考えられる。板状滓や鍛造剥片の出土から小鍛冶が行なわれていたと推測される。時期は, 出土土器が無いため不明であるが, 第4125号土坑と同じ時期の9世紀代と考えられる。



第187図 第4119号土坑実測図

第4120号土坑 (第188図)

位置 調査区中央部のP 8 f9区, 標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第450号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.71m, 短径0.62mの円形で, 長径方向はN - 30° - Wある。深さは18cmで, 底面は平坦を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

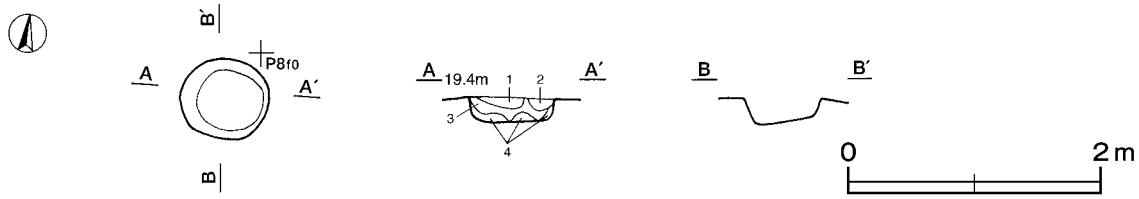
覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 鍛造剥片少量, ローム粒子・炭化粒子・鉄滓微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子・鍛造剥片微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 鉄滓1127.5g, 砂鉄385.3g, 鍛造剥片244.5g (3mm未満130.3g, 3mm以上114.2g), 粒状滓334.1g (3mm未満3.0g, 5mm未満0.9g, 不定形330.2g), 板状鉄滓43.7g, 炭1.3g が覆土上層から出土している。

所見 北側のP 8 e9区からは, 318.6gの鉄滓が出土しており, 遺物の出土状況から鍛冶工房の炉跡の可能性も考えられる。また, 本跡の西80cmの所には, 第4119号土坑が確認され, 砂鉄, 鍛造剥片, 粒状滓が出土している。軸線, 形状ともに類似しており, 同一時期に機能していたと考えられる。板状滓や鍛造剥片の出土から小鍛冶が行なわれていたと推測される。時期は, 出土土器が無いため不明であるが, 第4125号土坑と同じ9世紀代の可能性が考えられる。



第188図 第4120号土坑実測図

第4125号土坑（第189図）

位置 調査区北部のP 8 c9区，標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第451・452号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.47m，短径0.76mの楕円形で，長径方向はN - 79° - Eである。階段状に掘り込まれており，深さは32～54cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | |
|-------|--------------|-------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 焼土粒子・鍛造剥片微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，鉄滓微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒・鉄滓微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | | | |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片11点（坏8，高台付坏1，甕2），須恵器片6点（坏2，甕4），椀状滓3点（959.9g），鉄滓1927.5g，砂鉄71.0g，鍛造剥片852.8g（3mm未満446.7g，5mm未満130.9g，5mm以上275.2g），粒状滓31.2g（3mm未満17.4g，5mm未満9.8g，5mm以上4.0g），板状滓69.1g，炭33.2gが第4層の上面から第6層の上面にかけて出土している。362～365，TP20，M66～68はいずれも覆土中層から出土しており，出土状況から廃棄されたものと考えられる。鍛造剥片は，第6層上面の縦20cm，横35cmの範囲に広がって確認された。また，363は底部に「区」と書かれた墨書土器である。

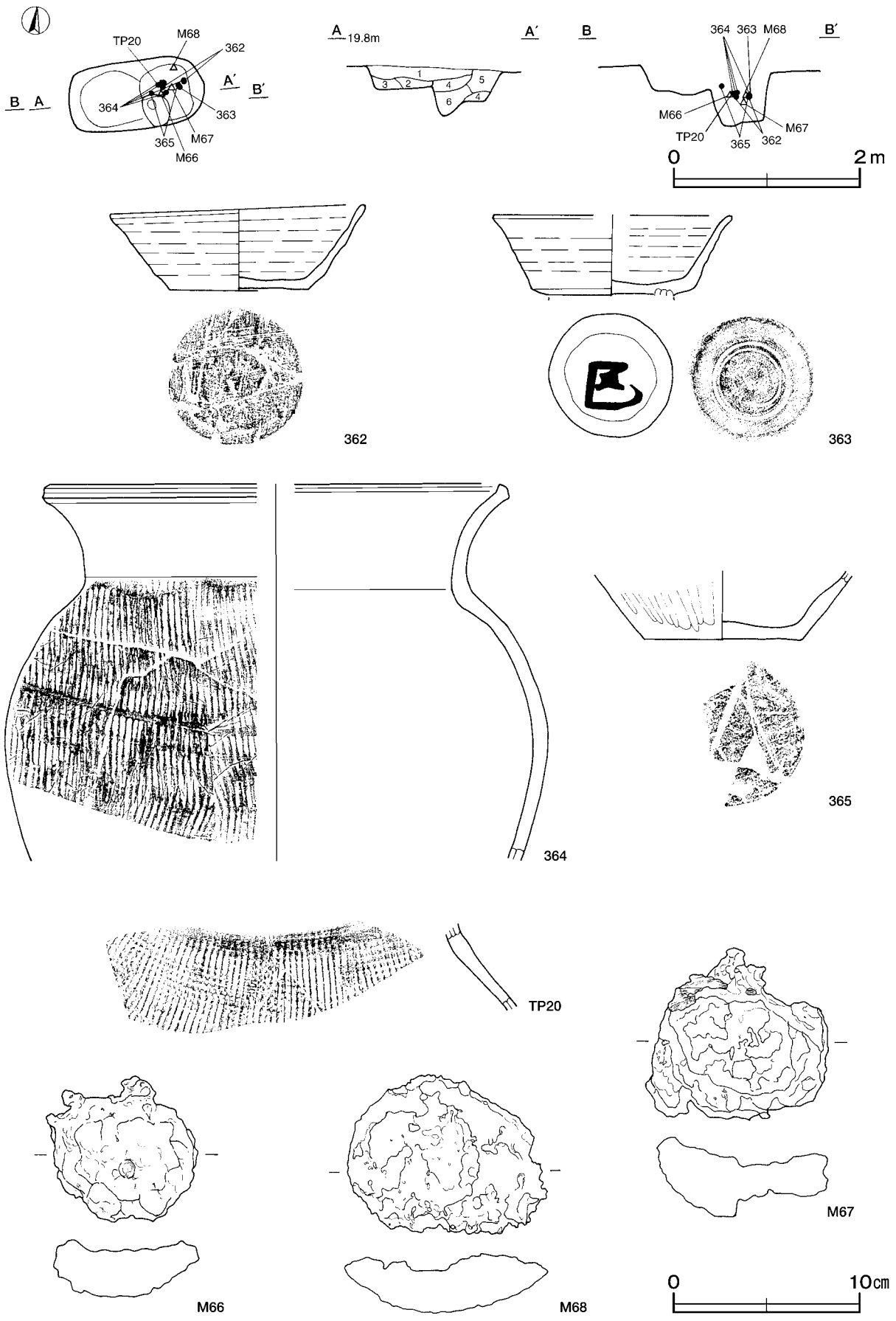
所見 出土遺物は，出土状況から廃棄されたものと考えられる。椀状滓，鍛造剥片，粒状滓などが出土していることから，近くに鍛冶関連施設の存在が想定できる。また，P 8 c9区からは1245.3gの鉄滓が出土しており，本跡の西50cmには，第4127号土坑が確認され，そこからも椀状滓，鉄滓，砂鉄，鍛造剥片，板状滓が覆土中から出土している。同時期に機能していたかについては不明であるが，板状滓や粒状滓，鍛造剥片の出土から，この周辺で小鍛冶が行われていたと推測される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第4125号土坑出土遺物観察表（第189図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
362	須恵器	坏	13.7	4.7	7.4	長石・石英	黄灰	普通	体部下端へラ削り 底部多方向からの削り	中層	65%
363	須恵器	高台付坏	[12.8]	(4.3)	6.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転へラ切り後高台貼り付け	中層	70% PL51-52 墨書土器「区」
364	須恵器	甕	[24.2]	(20.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	中層	30% PL51
365	土師器	甕	-	(3.7)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下端へラ磨き 内面ナデ	中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP20	須恵器	甕	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面格子目叩き	中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M66	鉄滓	8.2	7.7	3.1	230.0	鉄	椀状滓 凹面の中央部がくぼみ，皿状を呈す	中層	PL54



第189图 第4125号土坑·出土遗物实测图

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M67	鉄滓	9.2	9.8	4.3	317.2	鉄	椀状滓 凹面の中央部がくぼみ、皿状を呈す	中層	PL54 藁付着
M68	鉄滓	8.6	10.8	3.2	403.7	鉄	椀状滓 凹面の中央部がくぼみ、皿状を呈す	中層	PL54

第4127号土坑（第190図）

位置 調査区北部のP 8 c9 区、標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第451・452号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.40m、短径0.32mの楕円形で、長径方向はN - 52° - Wである。深さは12cmで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。西側には、幅20cm、長さ30cmわたって、粘土塊が確認されている。

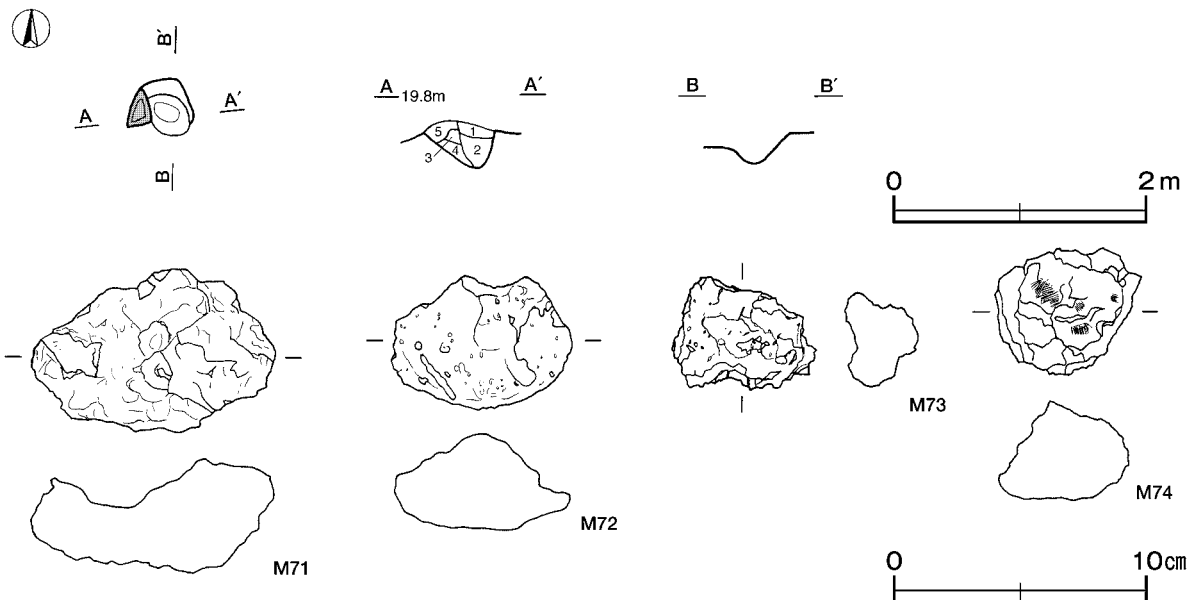
覆土 5層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物・鍛造剥片微量	3	にぶい褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・鍛造剥片微量	4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
			5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・鍛造剥片少量，ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 椀状滓2点1211.5g、鉄滓745.1g、砂鉄312.4g、鍛造剥片254.0g（3mm未満129.5g、5mm未満64.7g、5mm以上59.8g）、粒状滓32.0g（3mm未満5.5g、5mm未満3.4g、5mm以上1.7g、不定形21.4g）、M71～74が覆土中から出土している。

所見 出土状況から、廃棄土坑と考えられるが、粘土塊の出土から工房跡の可能性も考えられる。東側のP8c9区からは、1245.3gの鉄滓が出土している。また本跡の東50cmの所には、第4125号土坑が確認され、土師器片、須恵器片、椀状滓、鉄滓、砂鉄、鍛造剥片、粒状滓、板状滓、炭などが出土している。同時期に機能していたかについては不明であるが、鍛造剥片や粒状滓などの出土から、この周辺で小鍛冶が行われていたと推測される。時期は、出土土器が無いため明確ではないが、第4125号土坑と同じ時期の9世紀代と考えられる。



第190図 第4127号土坑・出土遺物実測図

第4127号土坑出土遺物観察表（第190図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M71	鉄滓	9.7	6.4	4.5	220.7	鉄	椀状滓 凹面の中央部がくぼみ、皿状を呈す	覆土中	PL54

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M72	鉄滓	5.3	7.2	3.9	89.7	鉄	椀状滓 凹面の中央部がくぼみ、皿状を呈す	覆土中	PL54
M73	鉄滓	4.4	5.8	3.0	93.0	鉄	表面に木炭痕を残す 着磁性なし	覆土中	
M74	鉄滓	5.0	5.7	3.9	144.6	鉄	表面に木炭痕を残す 着磁性なし	覆土中	

表16 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時代
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2500	P 7 e9	N - 9 ° - E	方形	3.22×3.14	8 ~ 16	平坦	全周	-	1	1	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2502	P 8 f2	N - 3 ° - E	方形	3.33×3.31	8 ~ 32	平坦	一部	4	-	4	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉	
2503	P 8 e2	N - 6 ° - E	長方形	3.38×3.10	22 ~ 33	平坦	全周	-	-	1	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鎌, 釘, 鉄滓	9世紀中葉	
2506	P 8 d4	N - 74 ° - E	[長方形]	4.70×(3.45)	20 ~ 23	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 陶器片	10世紀前半	
2507	P 8 f5	N - 6 ° - W	方形	3.78×3.56	38 ~ 52	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 刀子, 鉄滓	9世紀中葉	
2508	P 8 d6	N - 4 ° - W	方形	4.13×3.84	50 ~ 68	平坦	全周	4	1	6	竈 1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 支脚, 刀子, 鉄滓	9世紀前葉	
2509	P 8 h7	N - 92 ° - E	方形	4.58×4.55	40 ~ 54	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片	10世紀後半	
2510	P 8 i3	N - 13 ° - W	[長方形]	[4.12]×(2.12)	4 ~ 12	平坦	一部	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 鉄滓	10世紀代	
2511	P 8 c4	N - 11 ° - W	方形	3.65×3.46	44 ~ 59	平坦	全周	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	9世紀中葉	
2512	P 8 i6	N - 2 ° - E	方形	3.48×3.11	26 ~ 36	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片	11世紀代	
2514	P 8 i6	N - 1 ° - E	[方形・長方形]	[5.04]×(1.08)	28 ~ 33	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 砥石, 鉄滓	10世紀前半	
2515	P 8 g1	N - 3 ° - E	[方形・長方形]	4.56×(4.53)	10 ~ 19	平坦	全周	2	-	4	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 刀子	9世紀中葉	
2517	P 8 h5	N - 5 ° - W	方形	3.51×3.40	5 ~ 24	平坦	-	4	-	1	竈 1	-	人為	土師器片	11世紀代	
2519	P 8 i0	N - 1 ° - W	長方形	2.93×2.58	38 ~ 40	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 紡錘車, 砥石, 巡方	9世紀後半	
2521	P 8 c4	N - 91 ° - E	方形	3.20×3.17	5 ~ 33	平坦	全周	4	-	-	竈 1	-	人為	土師器片, 釘	11世紀代	

表17 平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
450	P 8 f0	N - 79 ° - E	3 × 2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.1	側柱 (一面庇)	11	長方形	30 ~ 64	土師器片, 須惠器片	9世紀後半
451	P 8 c9	N - 10 ° - W	3 × 2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.1	側柱	10	長方形	35 ~ 82	土師器片, 須惠器片, 刀子, 鉄滓	9世紀後半
452	P 8 c9	N - 5 ° - W	3 × 2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.1	側柱	10	長方形	50 ~ 80	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉
453	P 8 g0	N - 4 ° - W	3 × 2	5.4×3.6	19.44	1.8	1.2	側柱	10	長方形	30 ~ 48	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	9世紀中葉
454	P 8 b9	N - 0 °	3 × 2	5.4×3.6	19.44	1.8	1.2	側柱	8	長方形	52 ~ 82	土師器片, 須惠器片	9世紀前葉

表18 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期・性格)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4021	P 8 i3	N - 0 °	円形	1.18×1.18	12	人為	平坦	緩斜	土師器片	11世紀代
4062	P 8 e0	N - 55 ° - E	楕円形	0.86×0.65	50	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片, 支脚	9世紀後半
4073	P 9 e0	N - 37 ° - E	円形	1.44×1.36	31×45	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉
4077	P 8 i5	N - 31 ° - E	楕円形	0.84×0.65	26	人為	平坦	緩斜	土師器片, 鉄滓	10世紀後半
4080	P 8 i5	N - 22 ° - E	楕円形	(0.80)×0.49	23	人為	平坦	緩斜	土師器片	10世紀前半
4086	P 9 h0	N - 9 ° - W	不定形	3.41×2.07	47×50	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	9世紀代
4116	P 8 i3	N - 33 ° - E	円形	1.51×1.42	16 ~ 18	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	11世紀代
4117	P 8 g0	N - 5 ° - E	楕円形	1.41×1.18	18×33	人為	平坦	緩斜	土師器片	10世紀代
4122	P 8 h0	N - 44 ° - E	円形	0.83×0.78	23 ~ 30	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	9世紀代

表19 鍛冶関連土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(cm)	深さ(cm)					
4119	P 8 f 9	N - 30° - W	楕円形	62×51	18	人為	平坦	外傾	鍛造剥片, 粒状滓, 砂鉄	9世紀代
4120	P 8 f 9	N - 30° - W	円形	68×63	18	人為	平坦	外傾	鍛造剥片, 粒状滓, 板状滓, 鉄滓, 砂鉄	9世紀代
4125	P 8 c 9	N - 79° - E	楕円形	146×75	32~54	人為	平坦	外傾	土師器, 須恵器, 鍛造剥片, 粒状滓, 板状滓, 椀状滓, 鉄滓, 砂鉄	9世紀前葉
4127	P 8 c 9	N - 52° - W	楕円形	40×32	12	人為	皿状	外傾	鍛造剥片, 粒状滓, 板状滓, 椀状滓, 鉄滓, 砂鉄	9世紀代

3 中世の遺構と遺物

方形竪穴遺構 1 基, 井戸跡 2 基, 鑄造土坑 1 基が確認された。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第69号方形竪穴遺構 (第191図)

位置 調査区南西部の P 7 f 0 区, 標高21.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4057号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.25m, 短軸2.10mの方形で, 長軸方向は N - 90° - W である。壁高は21~25cmで, 直立している。

床 ほぼ平坦で, 全面硬化している。

ピット 4か所。P1 ~ P4 は支柱穴で, 深さ13~40cmである。

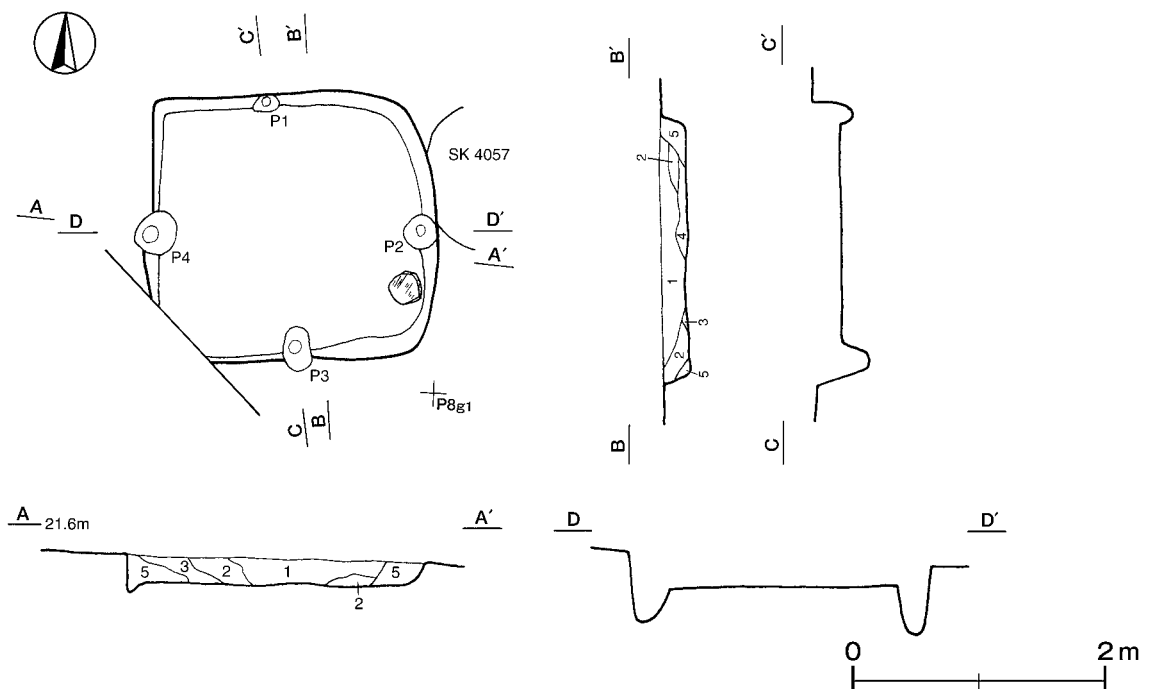
覆土 5層に分けられる。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 雲母片岩 1点と流れ込んだ土師器片10点, 須恵器片3点が出土している。雲母片岩は東壁際や南寄りの床面から出土している。

所見 雲母片岩の出土が確認できたが, 性格は不明である。時期は, 遺構の形状から中世と考えられる。



第191図 第69号方形竪穴遺構実測図

(2) 井戸跡

第59号井戸跡 (第192図)

位置 調査区北西部のP 8 i 8 区, 標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第60号井戸, 第4081号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.50m, 短径2.18mの楕円形である。確認面から1.28~1.40mまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.61mほどまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

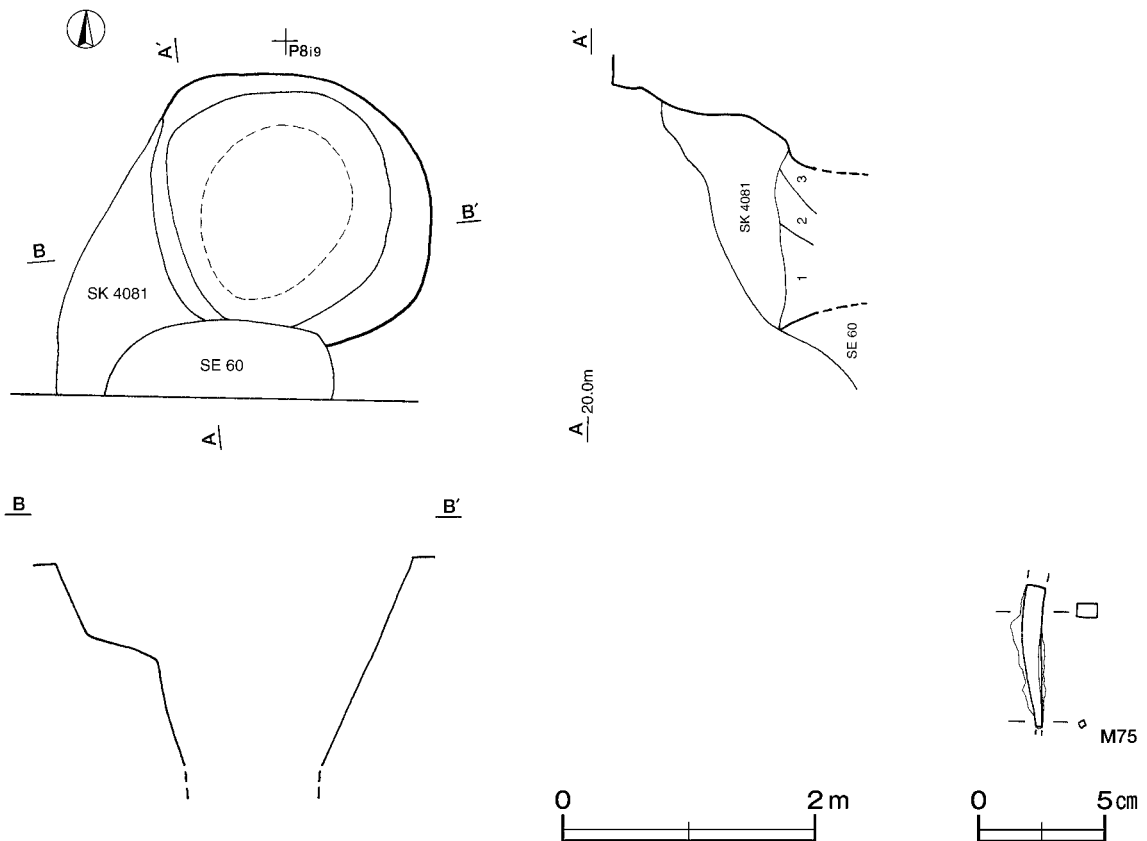
覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 明黄褐色 粘土ブロック中量
- 2 明黄褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片2点, 須恵器片5点が出土している。いずれも覆土中からの出土で, 流れ込んだものと考えられる。このほか, 陶器片1点(常滑系甕), 鉄製品1点(釘)も出土している。M75は覆土中から出土したものである。

所見 素掘りの構造である。廃絶時期は, 出土陶器から中世と考えられる。



第192図 第59号井戸跡・出土遺物実測図

第59号井戸跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M75	釘	(5.7)	(0.8)	0.6	(12.6)	鉄	断面長方形の棒状 先端が細くなってくる 体部がゆるやかに曲がっている	覆土中	

第60号井戸跡 (第193図)

位置 調査区北西部のP 8 i 8 区, 標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第59号井戸，第4081号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側は調査区域外に延びており，長径1.81m，短径0.65mの楕円形である。確認面から1.80～1.85mまで漏斗状に掘り込み，下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.9mほどまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

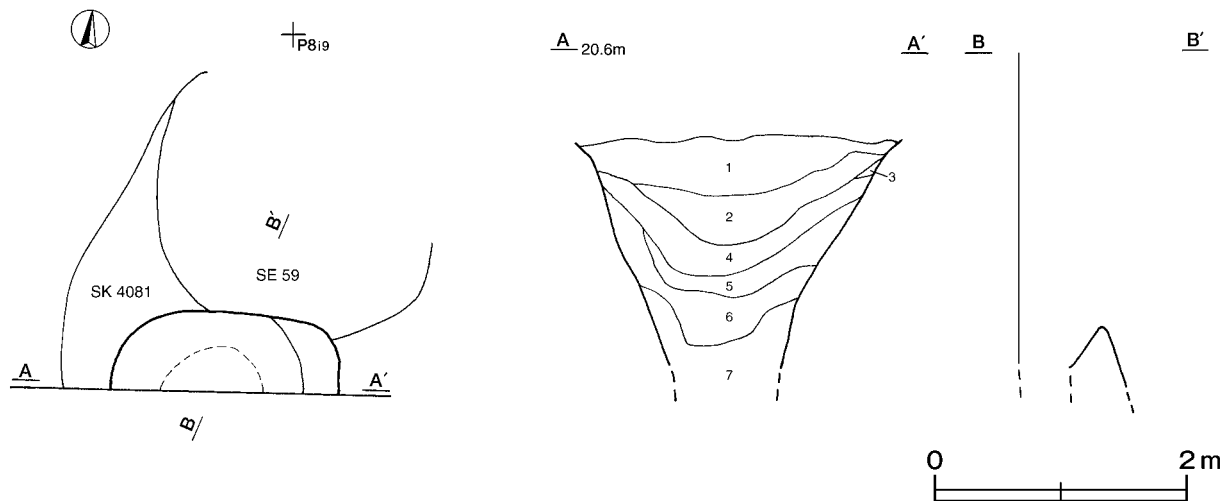
覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック中量，炭化物微量 | 6 黒褐色 炭化物少量，粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量，粘土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片16点（坏5，甕類11），須恵器片2点（甕類）が出土している。いずれも覆土中からの出土で，流れ込んだものである。このほか陶器片1点（常滑系甕）も出土している。

所見 素掘りの構造である。廃絶時期は，出土陶器から中世と考えられる。



第193図 第60号井戸跡実測図

(3) 鑄造土坑

第681号土坑（第194～196図）

位置 調査区北東部のP 9 a7区，標高19.0mほどの西への緩斜面に位置している。北部は平成9年度に調査が終了している。

重複関係 第7号道路を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.15m，短軸2.05m，深さ55cmの隅丸方形で，主軸方向はN - 88° - Eである。

底面 中央部の東西方向に，長さ129cm，幅24cm，深さ10cmの掘り込みがあり，焼土や炭化物が南の壁際に確認できる。

ピット P1は長径20cm，深さ23cmで，覆屋の支柱か，鑄造製品の取り出しの際に使用した支柱などの施設に関わるピットと考えられる。

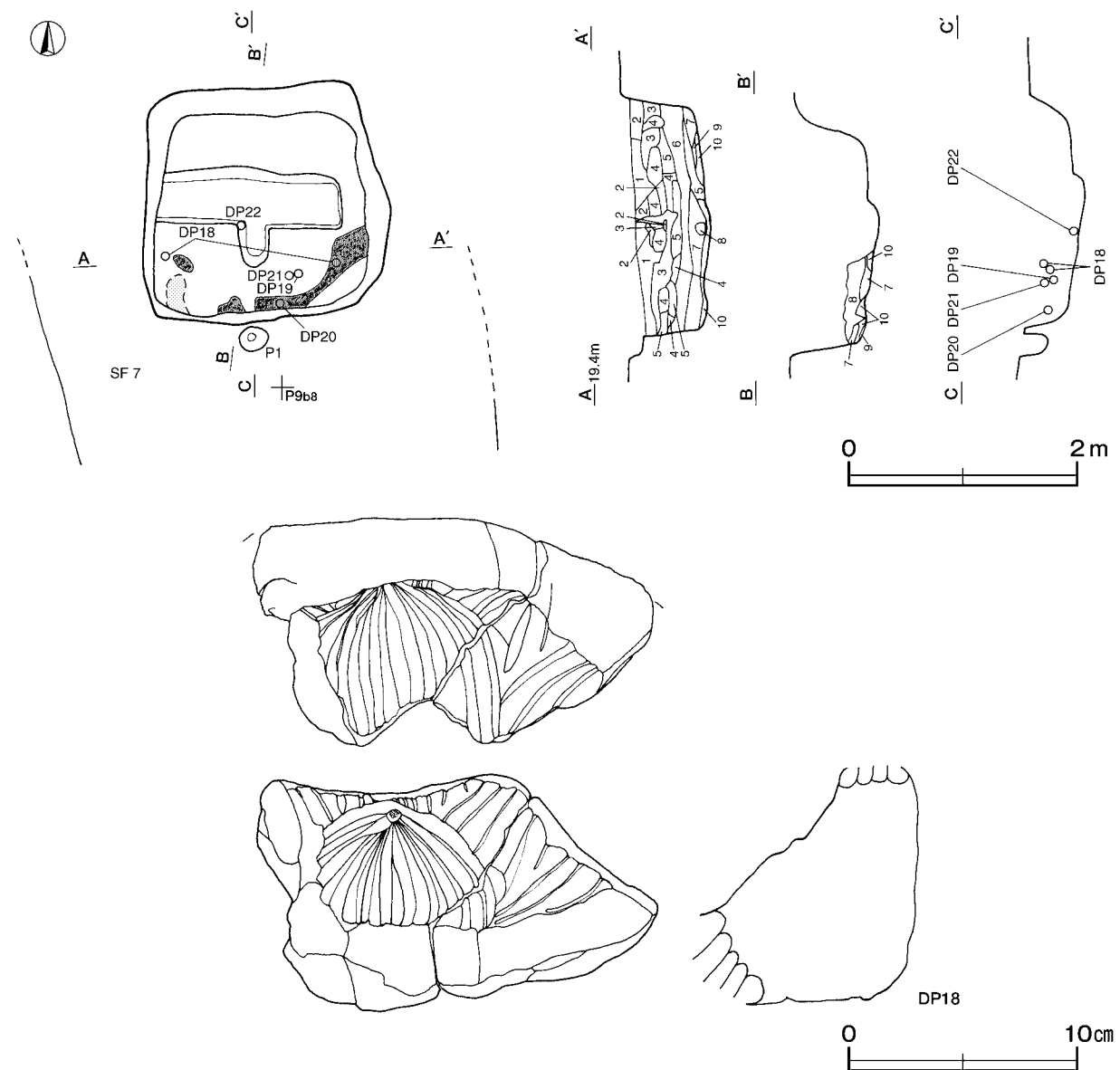
覆土 10層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。床面には白色粘土が約5cmの層厚で貼られており，覆土中に炭化物や焼土塊が確認される。第6層からは，多量の鑄型片が出土している。

土層解説

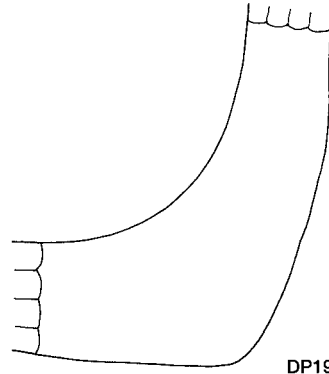
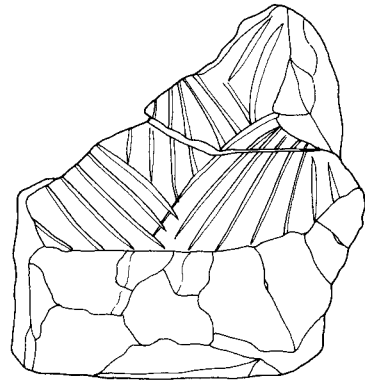
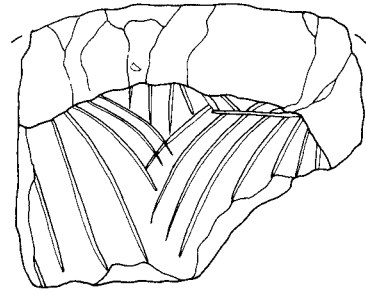
- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 明赤褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子ブロック多量 | 9 黒褐色 炭化粒子中量，砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 白色粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片29点（坏5，甕24），須恵器片20点（坏14，高台付坏1，甕5），土製品158点（鑄造鑄型片，溶解炉壁片）が出土している。前回の報告と合わせると鑄造鑄型片約38kg，溶解炉壁片約23.3kg，その他約6.2kgで小破片も含め約400点で約67.5kgにのぼる。鑄型片は覆土第6層を中心に出土しており，DP18～DP21は燈籠の蓮華座の鑄型であり，DP18は東西の壁際から出土した鑄型片が接合したものである。DP20の蓮華座の鑄型の裏には，長さ6cm以上，幅1.6cm，深さ1.5cmの溝が確認できる。これは鑄型を上下から加圧して固定するための棒を差し込むための痕跡ではないかと考えられる。DP22は鱗口，DP28は梵鐘の乳のそれぞれ鑄型の一部である。また，DP27は表面に飴状の溶解物の湯滓が付着した溶解炉の羽口の一部と考えられる。今回出土している土師器片と須恵器片は流れ込みと考えられる。

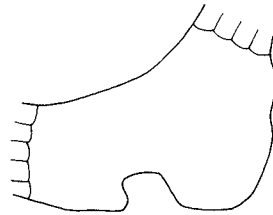
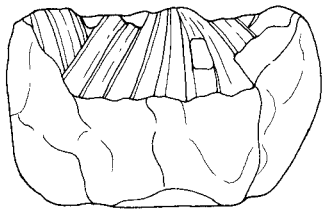
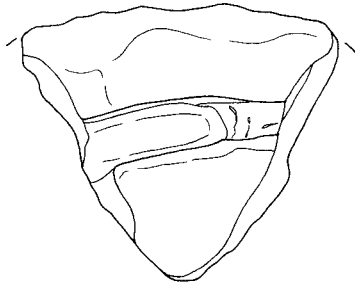
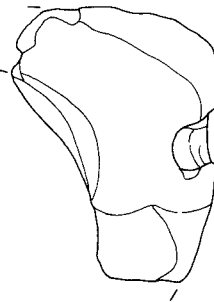
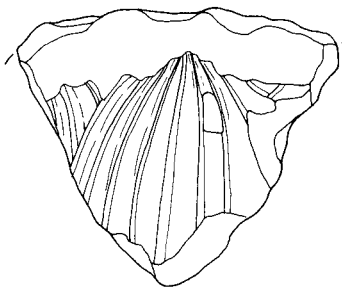
所見 北部は平成9年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財報告』第166集を参照されたい。前回の報告では，複数の鑄造鑄型片の出土状況から，廃棄土坑と報告が為されたが，全体を掘り上げた床面やその残存状況からは，鑄造遺構としての明確な痕跡は確認できなかった。しかし，一辺2m程度の方形で，底面を一部掘り下げ，周辺にピットをもつなど，規模や形状を類例と比較すると，鑄造遺構の可能性は極めて高く，鑄造後に鑄型を廃棄したのと考えられる。時期は，出土遺物などから判断して中世と考えられ，当遺跡における中世仏教を考える上で貴重な遺構である。



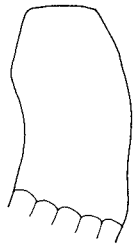
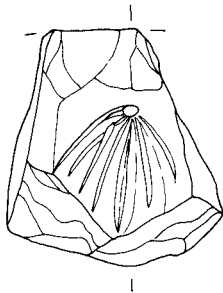
第194図 第681号土坑・出土遺物実測図



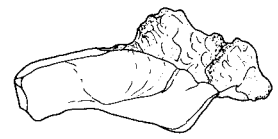
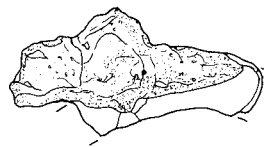
DP19



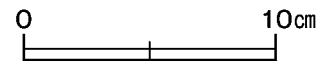
DP20



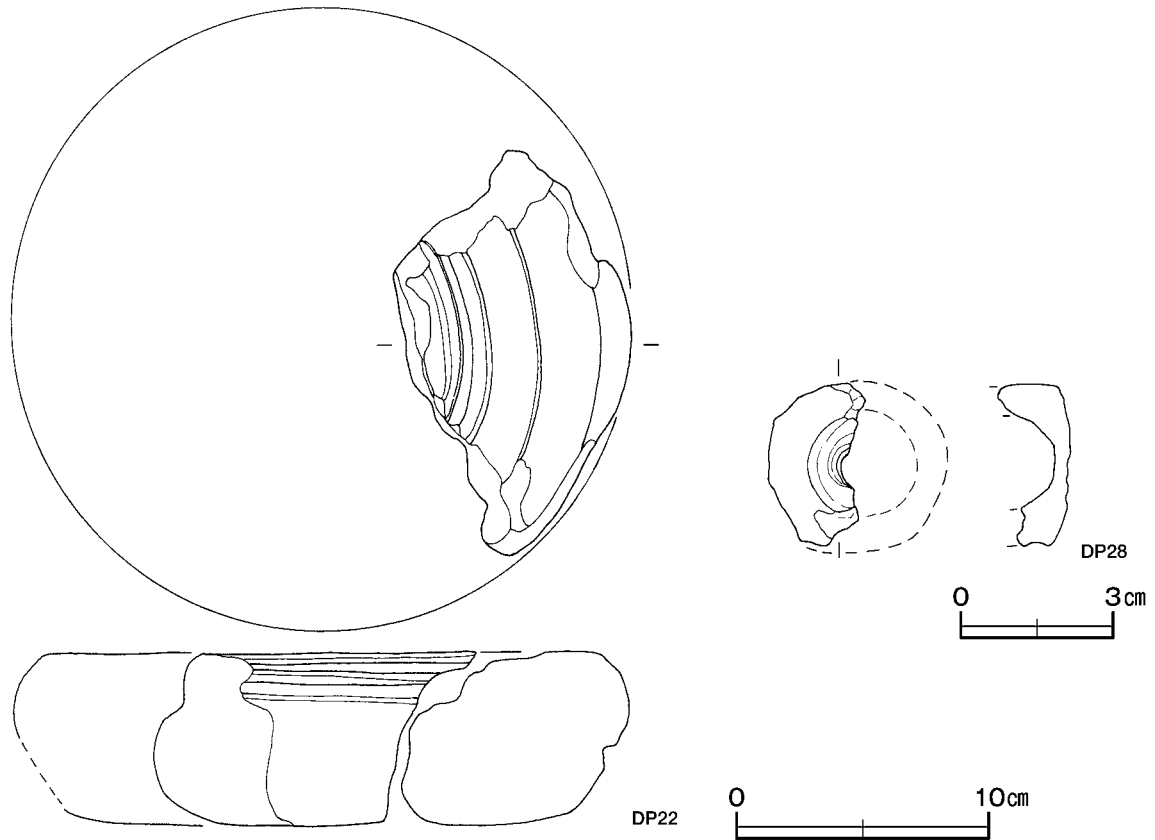
DP21



DP27



第195图 第681号土坑出土遗物实测图(1)



第196図 第681号土坑出土遺物実測図(2)

第681号土坑出土遺物観察表(第194~196図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	鑄型	-	(10.3)	[37.9]	(1008.4)	粘土・砂粒	連弁文様の台座の鑄型片	下層	PL55
DP19	鑄型	-	(14.8)	[33.0]	(1301.3)	粘土・砂粒	連弁文様の台座の鑄型片	下層	PL55
DP20	鑄型	-	(8.0)	36.1	(699.4)	粘土・砂粒	連弁文様の台座の鑄型片 底部にほぞ穴有り	下層	PL55
DP21	鑄型	-	9.4	-	(341.4)	粘土・砂粒	連弁文様の台座の鑄型片	下層	
DP22	鑄型	[21.9]	6.8	[20.5]	(698.6)	粘土・砂粒	鱈口の鑄型片	下層	PL55
DP27	炉壁	3.2	(1.8)	(1.4)	(133.2)	粘土・砂粒	溶解炉の羽口片 溶解物付着	覆土中	
DP28	鑄型	(9.9)	(6.9)	(3.0)	(0.5)	粘土	梵鐘の乳の鑄型片 一段の円丘状	覆土中	

表20 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
				長径×短径	深さ					
59	P 8 i 8	N - 52° - W	楕円形	2.50×2.18	(1.61)	漏斗状垂直	-	人為	陶器片	中世
60	P 8 i 8	N - 87° - W	[円形・楕円形]	1.81×(0.65)	(1.90)	漏斗状垂直	-	人為	陶器片	中世

4 その他の時代の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない竪穴住居跡1軒、道路跡2条、溝3条、井戸跡8基、墓坑3基、土坑99基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2501号住居跡(第197図)

位置 調査区北西部のP 7 b 0区、標高21.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 北部は調査区域外に延びており、東西軸3.31m、南北軸は2.10mだけが確認され、方形又は長方

形と推定される。主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は5 ~ 10cmで、ほぼ直立している。

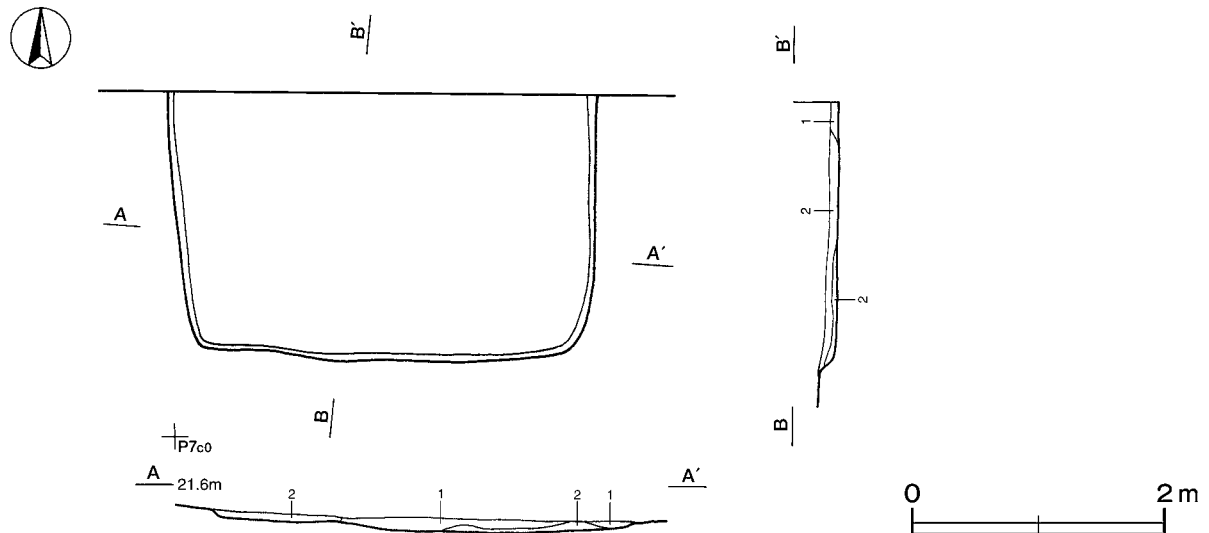
床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

覆土 2層に分けられる。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

所見 時期は、出土土器もなく不明である。



第197図 第2501号住居跡実測図

(2) 道路跡

第7号道路跡 (第198図)

位置 調査区東部のP 9 a7 ~ P 9 i9区, 標高19.5mほどの西への緩斜面に位置している。本跡の北部は、平成9年度に調査が終了している。

重複関係 第64号井戸跡, 第681号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部の状況は既刊の『第166集』で報告されている。N - 14° - Wの方向に直線的に伸び、南側は調査区域外に延びている。既報告分を合わせて36.8mを確認した。上幅2.28~4.10m, 下幅1.40~2.00m, 深さ0.40mで、断面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分けられ、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

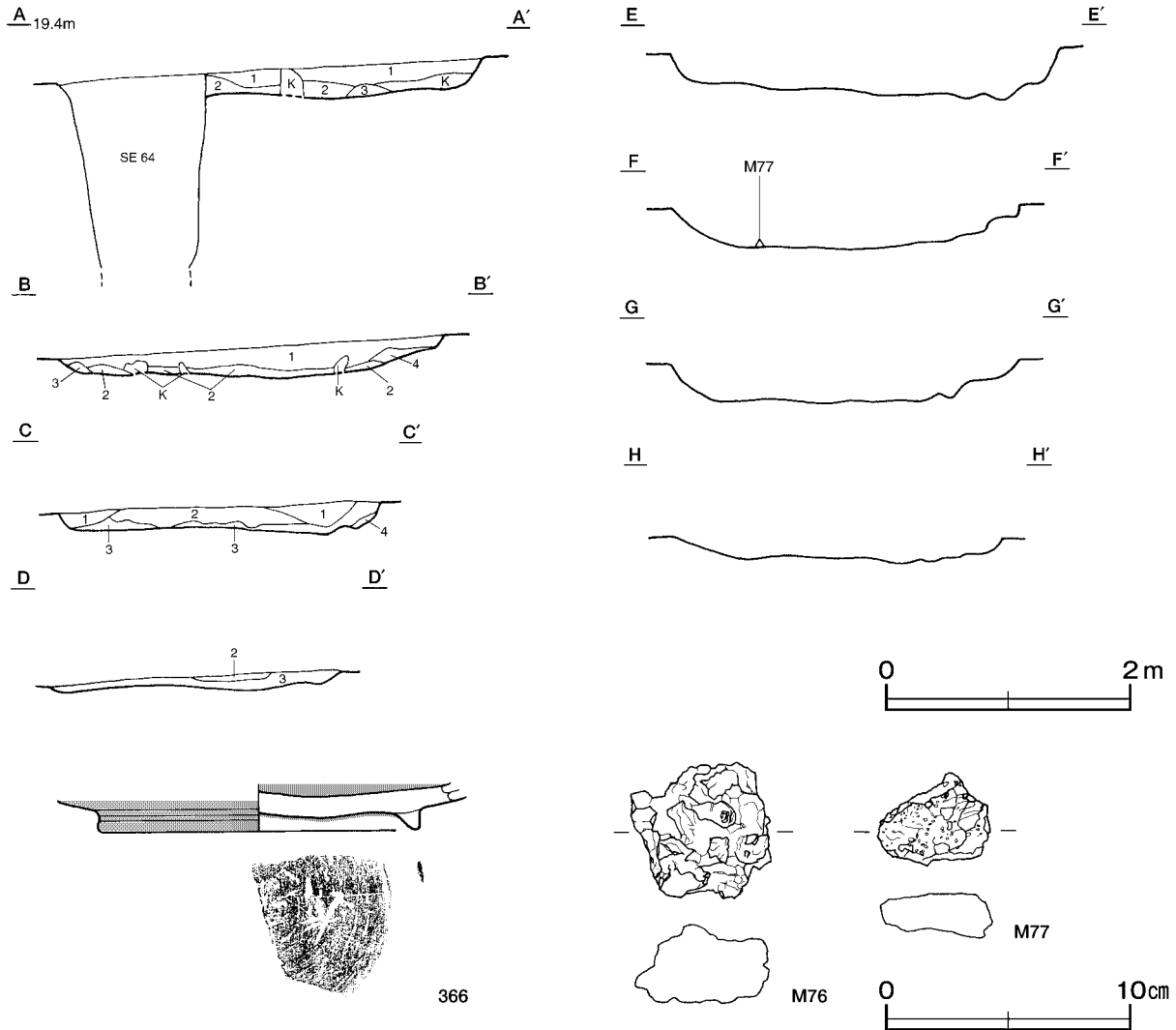
- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子少量 4 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片286点(坏55, 高台付坏7, 甕類224), 須恵器片262点(坏35, 高台付坏11, 蓋5, 高盤4, 甕204, 甕3), 鉄滓2点が出土している。366は南部の覆土中から出土しており、底部に直線的なへら記号が施されている。M76・77は北部の覆土中と覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀から9世紀後葉と考えられる。

第7号道路跡出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	須恵器	高盤	-	(1.9)	[13.0]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	覆土中	5% 刻書「r」



第198図 第7号道路状遺構・出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M76	鉄滓	5.6	5.7	3.1	109.7	鉄	着磁性有り	覆土中	
M77	鉄滓	3.9	4.7	1.9	40.2	鉄	着磁性なし	上層	

第14号道路跡 (第199図)

位置 調査区東部のP 9 a0 ~ P 9 g0区, 標高19.5mほどの西への緩斜面に位置している。本跡の北部は, 平成9年度に調査が終了している。

重複関係 第4103・4073号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部の状況は既刊の『第166集』で報告されている。遺構確認の際に路面が確認され, 第34号溝は, 形状や軸線などから本道路側溝と考えられる。N - 4° - Wの方向に直線的に延び, 東側と南側は調査区域外に延びている。既報告分を合わせて33.75mを調査した。幅1.8~2.1mで, 断面形は確認面が狭いため明確ではない。

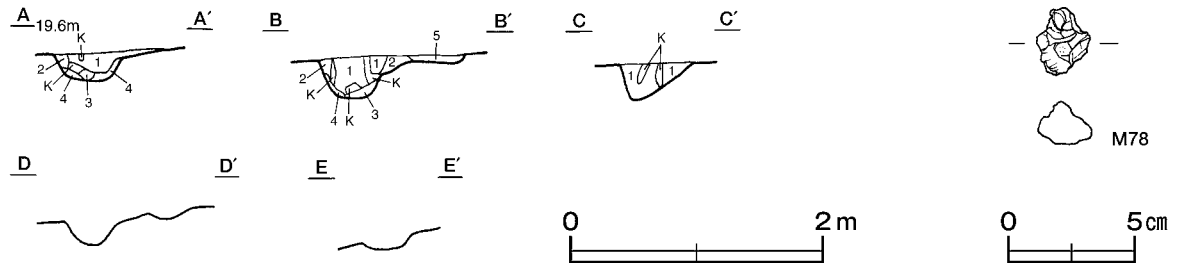
覆土 5層に分けられ, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------|---------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化材微量 | | |

遺物出土状況 土師器片46点（坏10，高台付坏1，甕類35），須恵器片19点（坏2，高台付坏1，盤1，高盤1，甕13，甑1），鉄製品1点（釘），鉄滓1点が覆土中から出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 第34号溝は第7号道路跡を掘り込んでおり，9世紀後半に比定される第4073号土坑に掘り込まれていることから，時期は第7号道路跡より新しく，9世紀後葉より古い。



第199図 第14号道路跡・出土遺物実測図

第14号道路跡出土遺物観察表（第199図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M78	鉄滓	2.7	2.2	1.7	11.6	鉄	着磁性有り	覆土中	

(3) 溝跡

第132号溝跡（第200図）

位置 調査区北東部のP 9 b2 ~ P 9 c2区，標高19.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 N - 0°の方向に直線的に伸び，確認された長さは4.86mで，上幅56~82cm，下幅50~78cm，深さ4~8cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

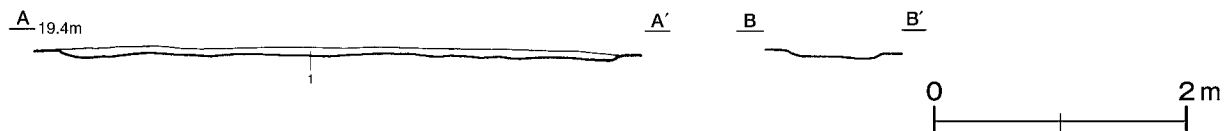
覆土 単一層により堆積状況は不明である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片4点（甕類），須恵器片3点（坏，甕，甑）が出土している。いずれも細片で，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器がいずれも細片のため不明である。



第200図 第132号溝跡実測図

第133号溝跡（第201図）

位置 調査区南東部のP 9 d9 ~ P 9 g0区，標高19.5mほどの西への緩斜面に位置している。

規模と形状 N - 25° - Wの方向に曲線的に伸び，確認された長さは12.4mで，上幅51~125cm，下幅40~80cm，深さ14~32cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

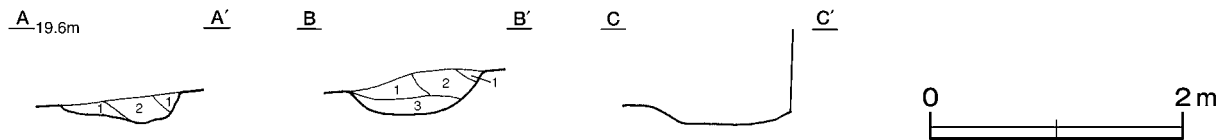
1 褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物微量

遺物出土状況 土師器片21点（坏6，甕類15），須恵器片12点（坏1，甕類11）が出土している。いずれも細片で，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器がいずれも細片のため不明である。



第201図 第133号溝跡実測図

第134号溝跡（第202図）

位置 調査区北東部のP9c4～P9e4区，標高19.0mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 N-0°の方向に直線的に延び，長さは8.82mで，上幅67～82cm，下幅56～74cm，深さ4～16cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。各層にローム粒子を含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片31点（坏9，高台付坏4，甕類18），須恵器片9点（坏1，甕類8）が出土している。

いずれも細片で，流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器がいずれも細片のため不明である。



第202図 第134号溝跡実測図

(4) 井戸跡

第61号井戸跡（第203図）

位置 調査区北西部のP8d8区，標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第4068号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.90m，短径1.70mの円形で，確認面から1.19～1.42mまで漏斗状に掘り込み，下部は円筒状に掘り込まれている。深さ1.83mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

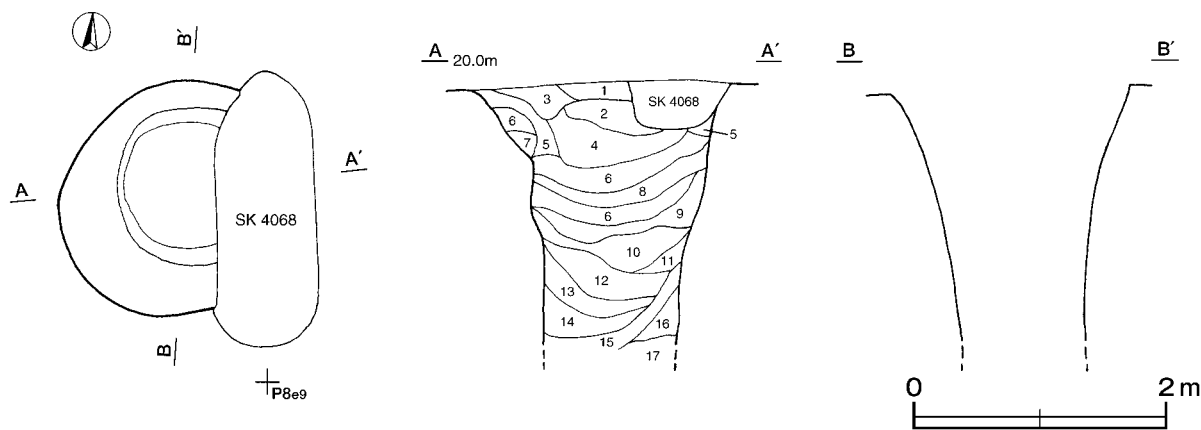
覆土 17層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量 | 5 黒褐色 | 粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量 |
| 2 黒色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 黒色 | 粘土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒色 | 粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子多量，ロームブロック中量，炭化物・粘土ブロック少量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック多量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | 9 黒色 | 粘土ブロック中量，炭化物少量 |

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 10 黒 褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量 | 14 黒 褐色 粘土ブロック微量 |
| 11 極 暗 褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 15 黒 褐色 粘土ブロック中量 |
| 12 黒 色 粘土ブロック少量 | 16 極 暗 褐色 砂質粘土粒子微量 |
| 13 極 暗 褐色 砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 17 極 暗 褐色 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

所見 素掘りの構造である。中世に比定される第4068号土坑に掘り込まれていることから中世以前に機能していたと考えられるが、出土土器がないため時期は不明である。



第203図 第61号井戸跡実測図

第62号井戸跡 (第204図)

位置 調査区北西部のP 9 f 8 区, 標高19.0mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 径1.50mほどの円形である。確認面から0.59~0.89mまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ2.05mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

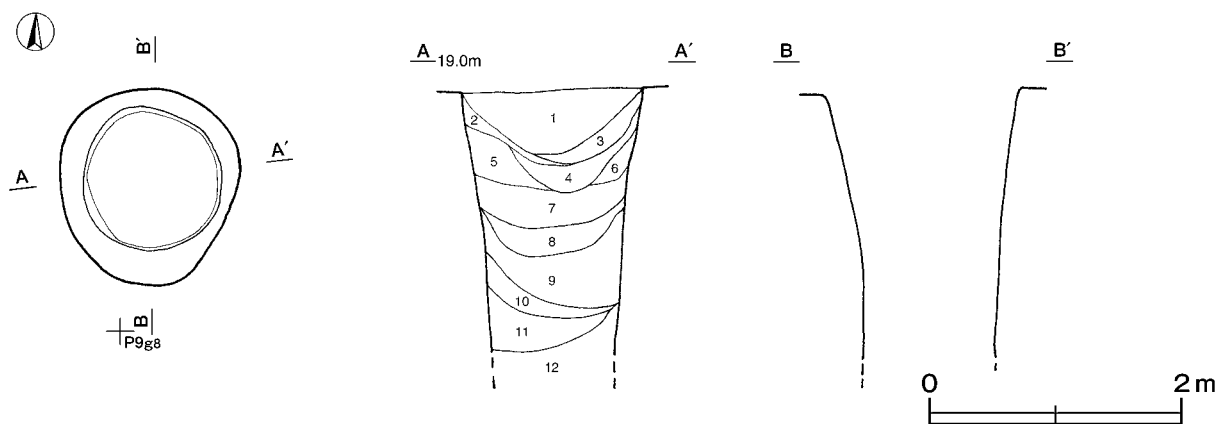
覆土 12層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂粒微量 | 7 暗 褐色 砂粒中量, 炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 褐色 砂粒中量, ローム粒子微量 | 8 黒 褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 ローム粒子・砂粒微量 | 9 暗 褐色 砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒 褐色 砂粒少量, ロームブロック・炭化物微量 | 10 黒 褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐色 ローム粒子・砂粒少量, 炭化物微量 | 11 黒 褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 6 暗 褐色 砂粒中量, 炭化物・粘土ブロック微量 | 12 黒 色 砂粒中量, 砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片14点(坏3, 甕類11), 須恵器片2点(甕類)が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。廃絶時期は, 判断する出土土器がないため不明である。



第204図 第62号井戸跡実測図

第63号井戸跡 (第205図)

位置 調査区北西部のP 9 g7区, 標高19.0mほどの東への緩斜面に位置している。

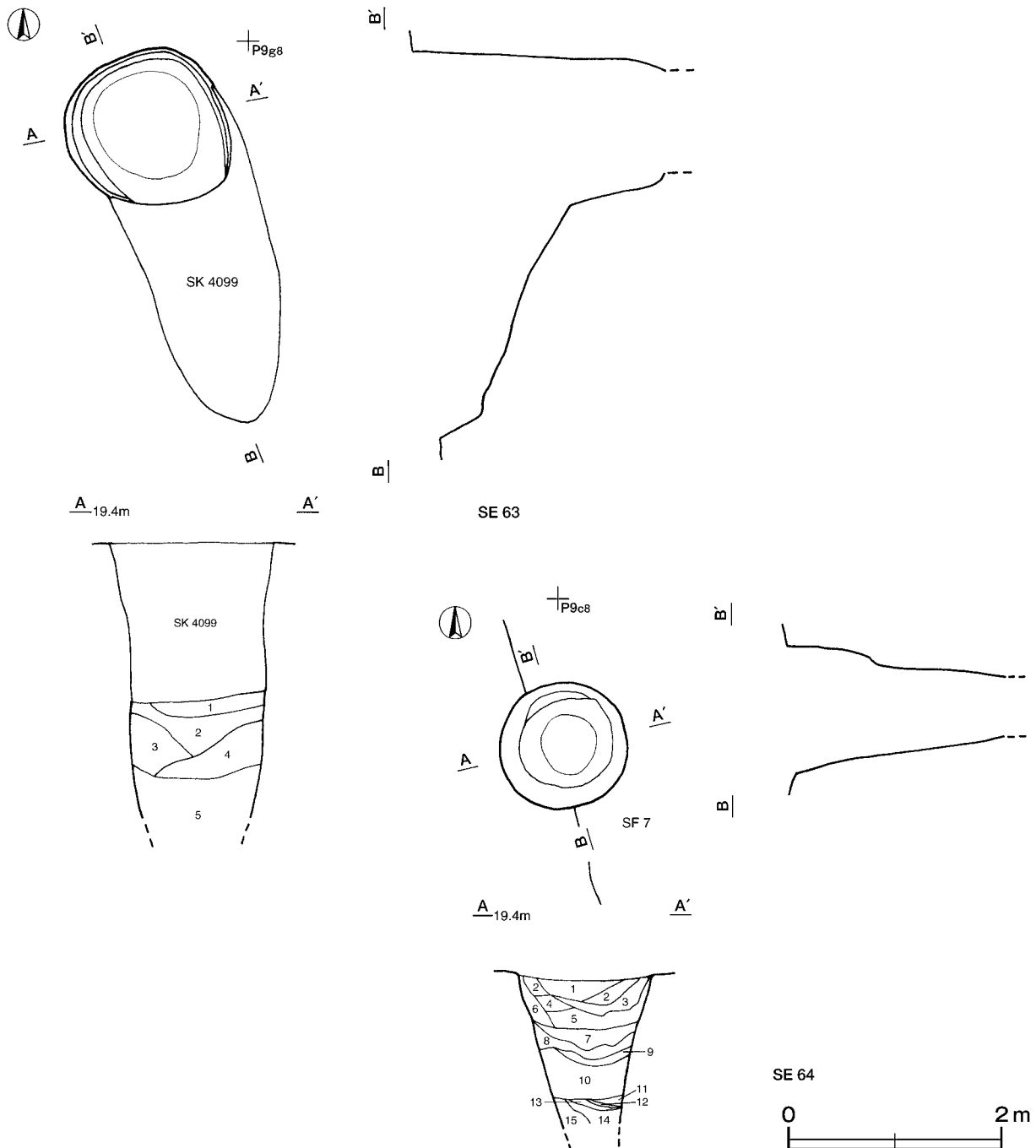
重複関係 第4099号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上部は, 第4099号土坑に掘り込まれており, 長径1.60mほどの円形と推定される。確認面から1.48m掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ2.38mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

覆土 5層に分けられる。各層からローム粒子が確認されることから人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 砂粒少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量 | |



第205図 第63・64号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片21点(甕類), 須恵器片5点(坏3, 甕類2), 馬骨が出土している。土器はいずれも細片で混入したものと考えられる。

所見 重複関係で第4099号土坑に掘り込まれているが, 構築方法の関係で斜めに掘り下げた可能性も考えられる。馬骨の出土から, 祭司的な行為が行われたとも考えられる。素掘りの構造で, 廃絶時期は, 判断する出土土器がないため不明である。

第64号井戸跡(第205図)

位置 調査区北西部のP9c7区, 標高19.0mほどの西への緩斜面に位置している。

重複関係 第7号道路を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.20mほどの円形である。確認面から0.44~0.54mまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ2.02mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

覆土 15層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	赤色粒子中量, 砂質粘土粒子少量
2 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
3 褐色	砂粒中量, 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量	11 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量
4 暗褐色	砂粒少量, 焼土ブロック微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	炭化粒子少量, 砂粒微量
6 暗褐色	砂質粘土粒子多量	14 褐色	砂質粘土粒子・砂粒少量
7 暗褐色	砂質粘土ブロック中量	15 褐色	砂質粘土粒子・赤色粒子少量
8 褐色	砂質粘土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 須恵器片2点(甕類)が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。8世紀から9世紀後葉に比定される第7号道路に掘り込まれていることから, 8から9世紀後葉以前と考えられる。

第65号井戸跡(第206図)

位置 調査区北西部のP9g5区, 標高18.5mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第66号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.50m, 短径2.10mの楕円形である。確認面から1.34~1.84mまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.84mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから, 下部の調査を断念した。

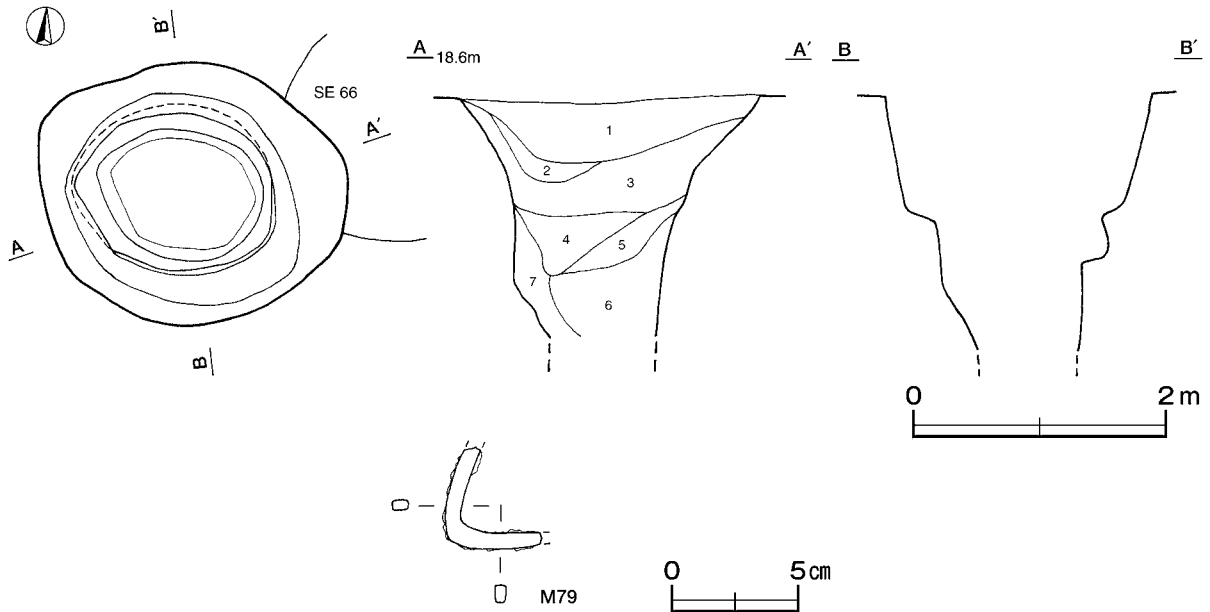
覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子微量	6 黒色	ローム粒子・砂粒微量
3 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土微量	7 黒色	砂粒少量, ローム粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片15点(高台付坏1, 甕類14), 須恵器片7点(坏2, 高台付坏1, 蓋1, 甕類3), 鉄製品1点(不明)が出土している。M79は覆土中から出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。廃絶時期は, 判断する出土土器がないため不明である。



第206図 第65号井戸跡・出土遺物実測図

第65号井戸跡出土遺物観察表（第206図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M79	不明	(4.0)	0.7	0.6	(7.3)	鉄	断面長方形 L字型に曲がっている	覆土中	

第66号井戸跡（第207図）

位置 調査区北西部のP 9 g5 区，標高18.5mほどの東への緩斜面に位置している。

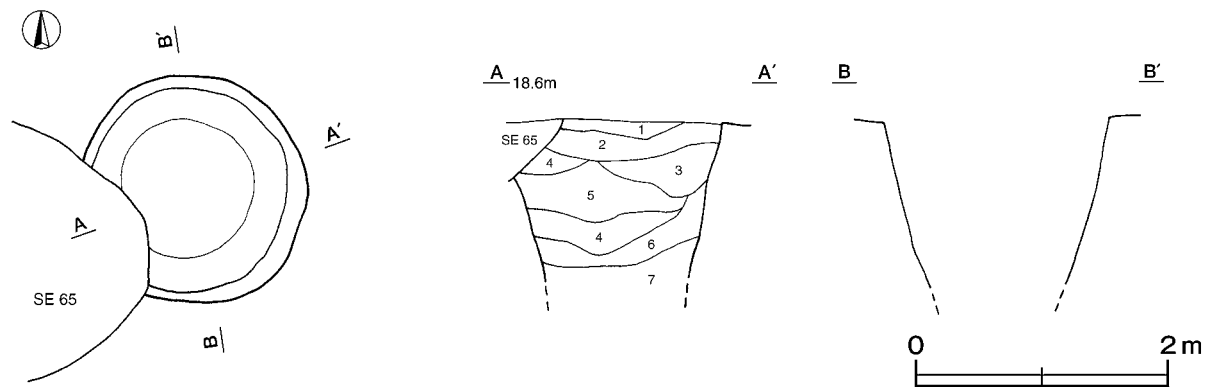
重複関係 第65号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 径1.80mの円形である。確認面から1.20～1.24mまで漏斗状に掘り込み，下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.33mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから，下部の調査を断念した。

覆土 7層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| | 7 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量 |



第207図 第66号井戸跡実測図

所見 素掘りの構造である。時期は重複関係から9世紀後葉以前と考えられるが、出土土器が無いため不明である。

第67号井戸跡 (第208図)

位置 調査区北西部のP8f0区、標高19.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第450号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.36m、短径1.16mの楕円形である。確認面から0.41~1.47mまで漏斗状に掘り込み、下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.47mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

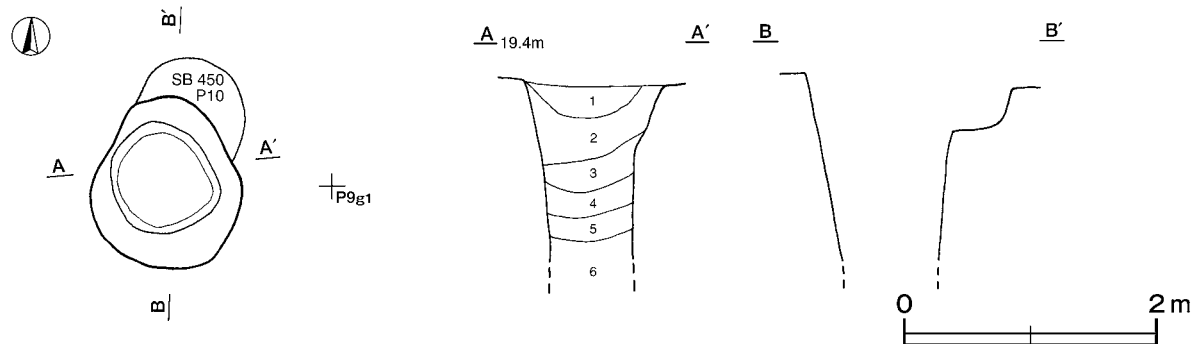
覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・山砂微量 |
| 2 黒褐色 | 山砂ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 山砂ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 山砂ブロック・細礫微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片15点(坏3, 甕類12), 須恵器片4点(甕類)が出土している。いずれも細片で、混入したものと考えられる。

所見 素掘りの構造である。時期は、判断する出土土器がないため不明である。

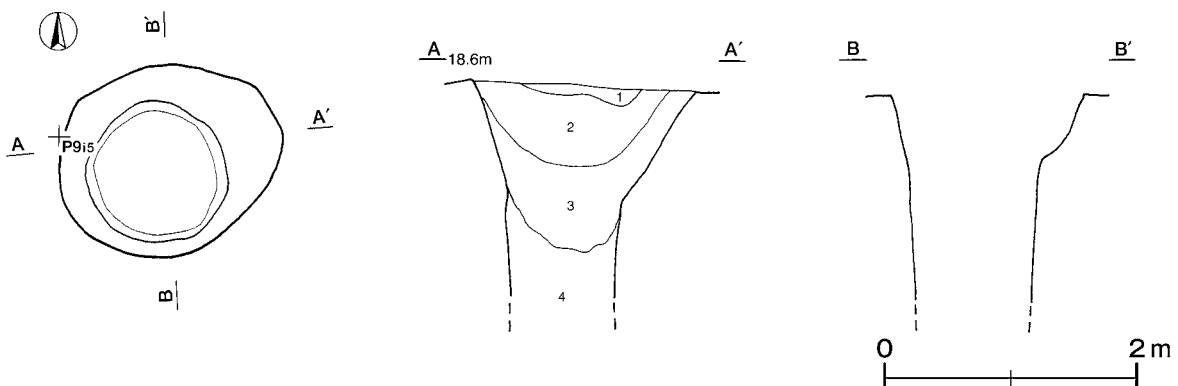


第208図 第67号井戸跡実測図

第68号井戸跡 (第209図)

位置 調査区北西部のP9g5区、標高18.5mほどの東への緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.81m、短径1.50mの楕円形である。確認面から0.54~0.64mまで漏斗状に掘り込み、下部は円筒状に掘り下げている。深さ1.65mまで掘り下げた時点で崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。



第209図 第68号井戸跡実測図

覆土 4層に分けられる。各層から山砂がブロック状に確認されることから人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 山砂ブロック少量 | 3 暗褐色 山砂ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 山砂ブロック中量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器がないため不明である。

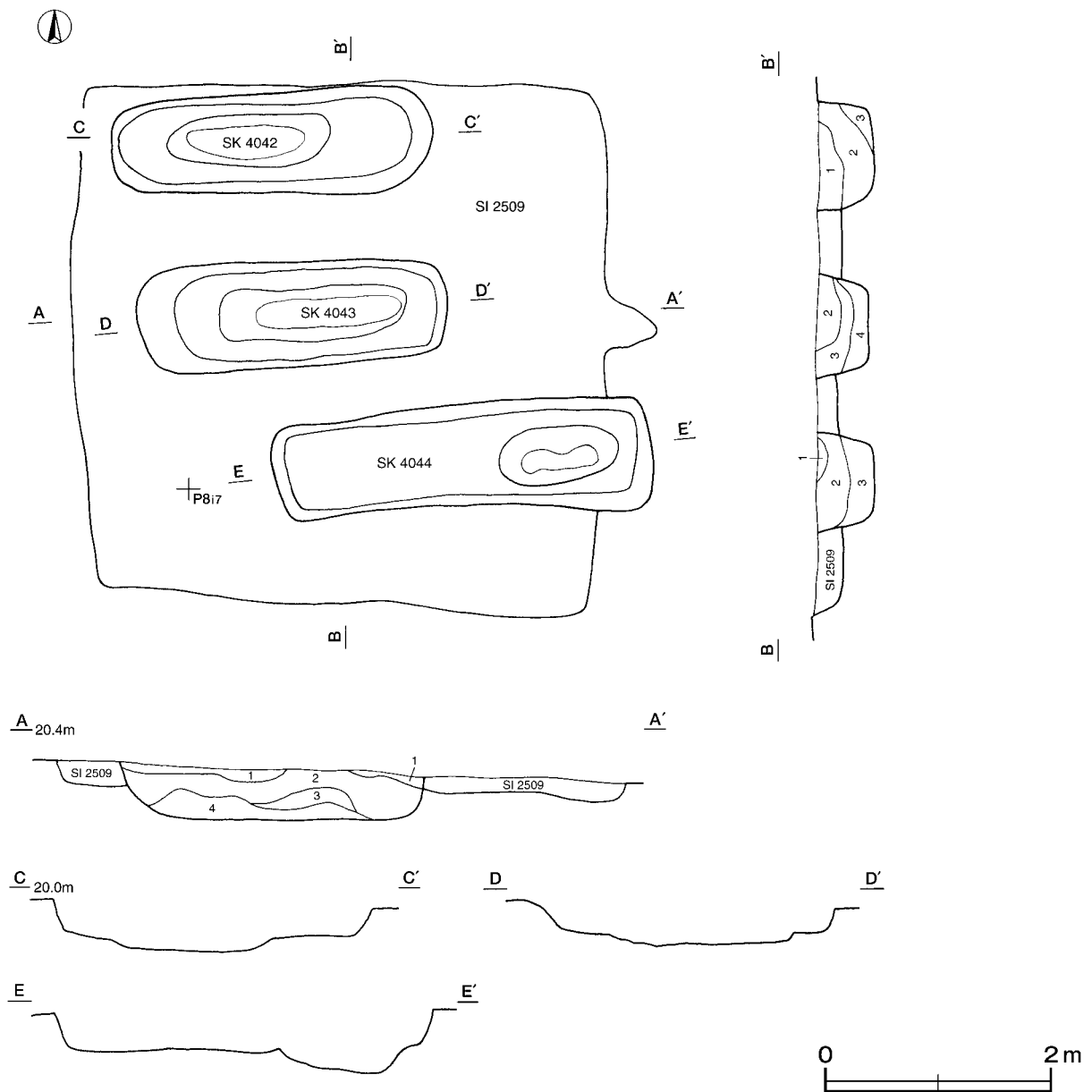
(5) 墓坑

第4042号土坑 (第210図)

位置 調査区南部のP 8 h7区、標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2509号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.85m、短軸0.87mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 88° - Eである。深さは43cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第210図 第4042～4043号土坑実測図

覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片16点(坏3, 高台付坏1, 甕12), 須恵器片4点(坏2, 甕2)が出土している。遺物は, 流れ込んだものと考えられる。

所見 第4043・4044号土坑と形状や軸線が類似していることから, 同時期のものと考えられる。また, 他の2つの土坑を意識して掘り込んでいることや, 堆積状況から墓坑と考えられる。時期は, 第2509号住居跡を掘り込んでいることから, 10世紀後半以降と考えられる。

第4043号土坑(第210図)

位置 調査区南部のP8h7区, 標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2509号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.74m, 短軸0.93mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-92°-Eである。深さは38cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏4, 甕6), 須恵器片1点(甕)が出土している。遺物は, 流れ込んだものと考えられる。

所見 第4042・4044号土坑と形状や軸線が類似していることから, 同時期のものと考えられる。また, 他の2つの土坑を意識して掘り込んでいることや, 堆積状況から墓坑と考えられる。時期は, 第2509号住居跡を掘り込んでいることから, 10世紀後半以降と考えられる。

第4044号土坑(第210図)

位置 調査区南部のP8h7区, 標高20.0mほどの東への緩斜面に位置している。

重複関係 第2509号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.66m, 短軸0.90mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-95°-Eである。深さは36~54cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

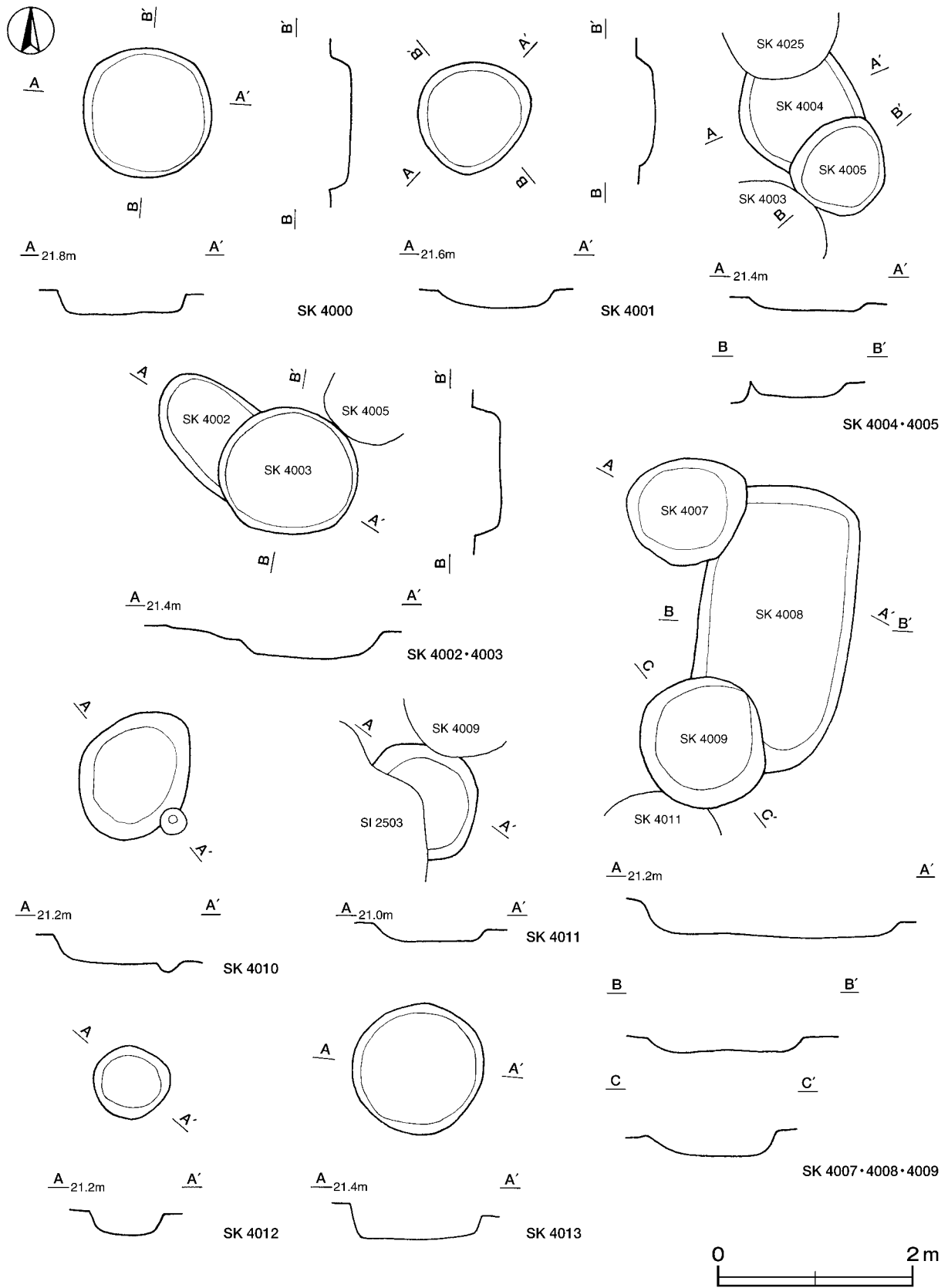
- | | | | |
|-------|----------------------|------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片14点(坏3, 高台付碗1, 小皿1, 甕9), 須恵器片9点(高台付坏1, 甕8)が出土している。遺物は, 流れ込んだものと考えられる。

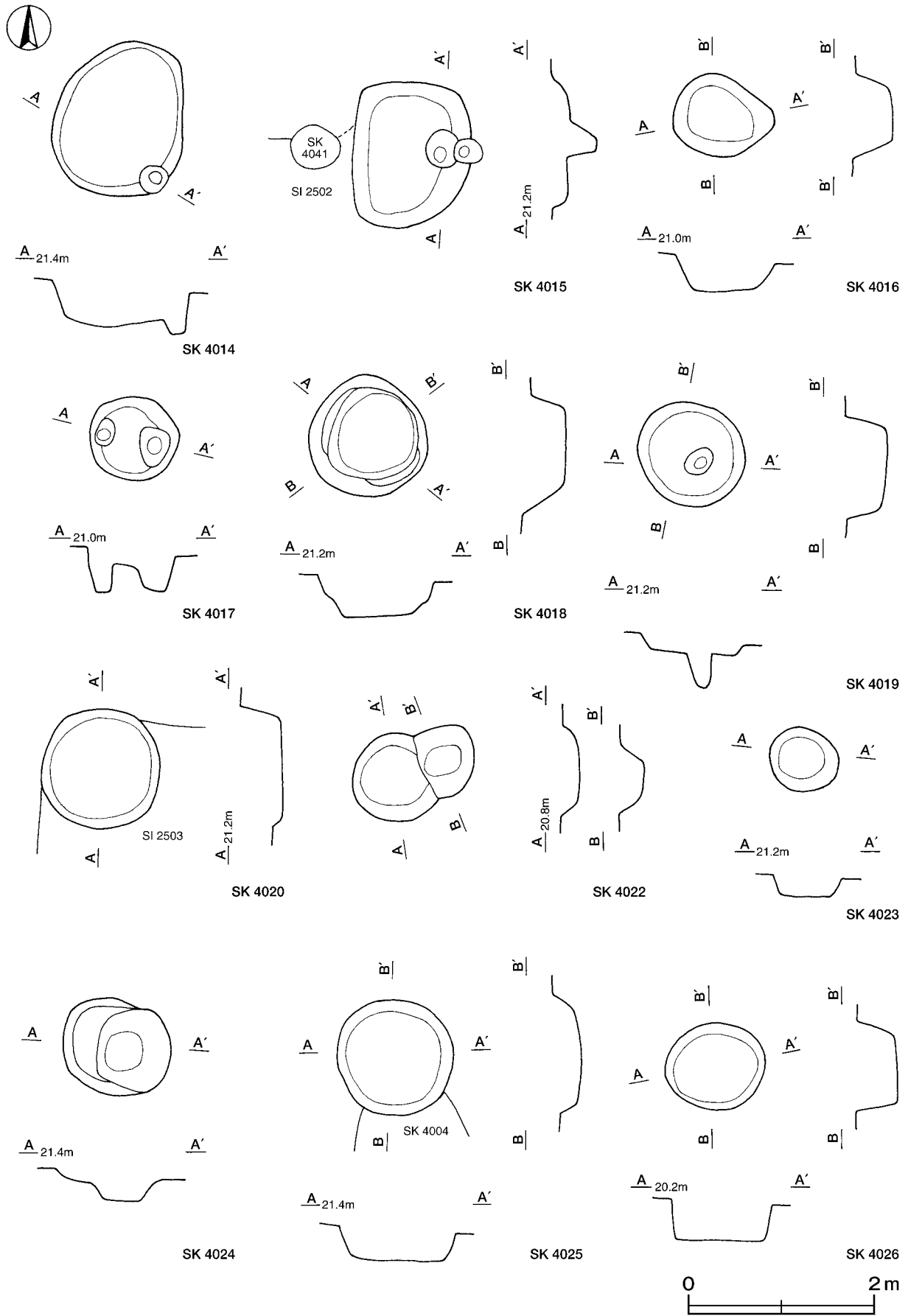
所見 第4042・4043号土坑と形状や軸線が類似していることから, 同時期のものと考えられる。また, 他の2つの土坑を意識して掘り込んでいることや, 堆積状況から墓坑と考えられる。時期は, 第2509号住居跡を掘り込んでいることから, 10世紀後半以降と考えられる。

(6) その他の土坑 (第211~219図)

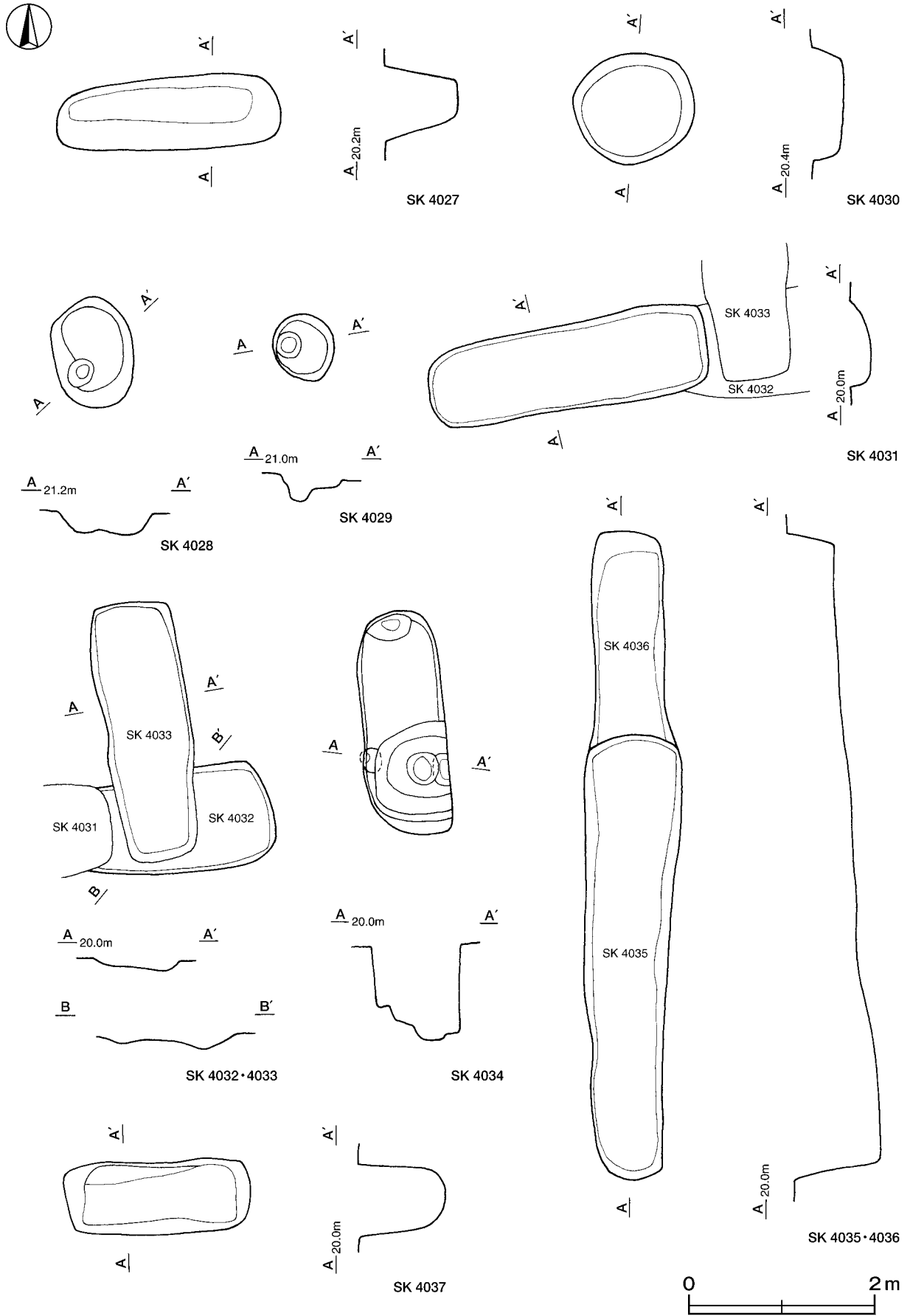
時期および性格不明の土坑については、以下、実測図にて紹介する。



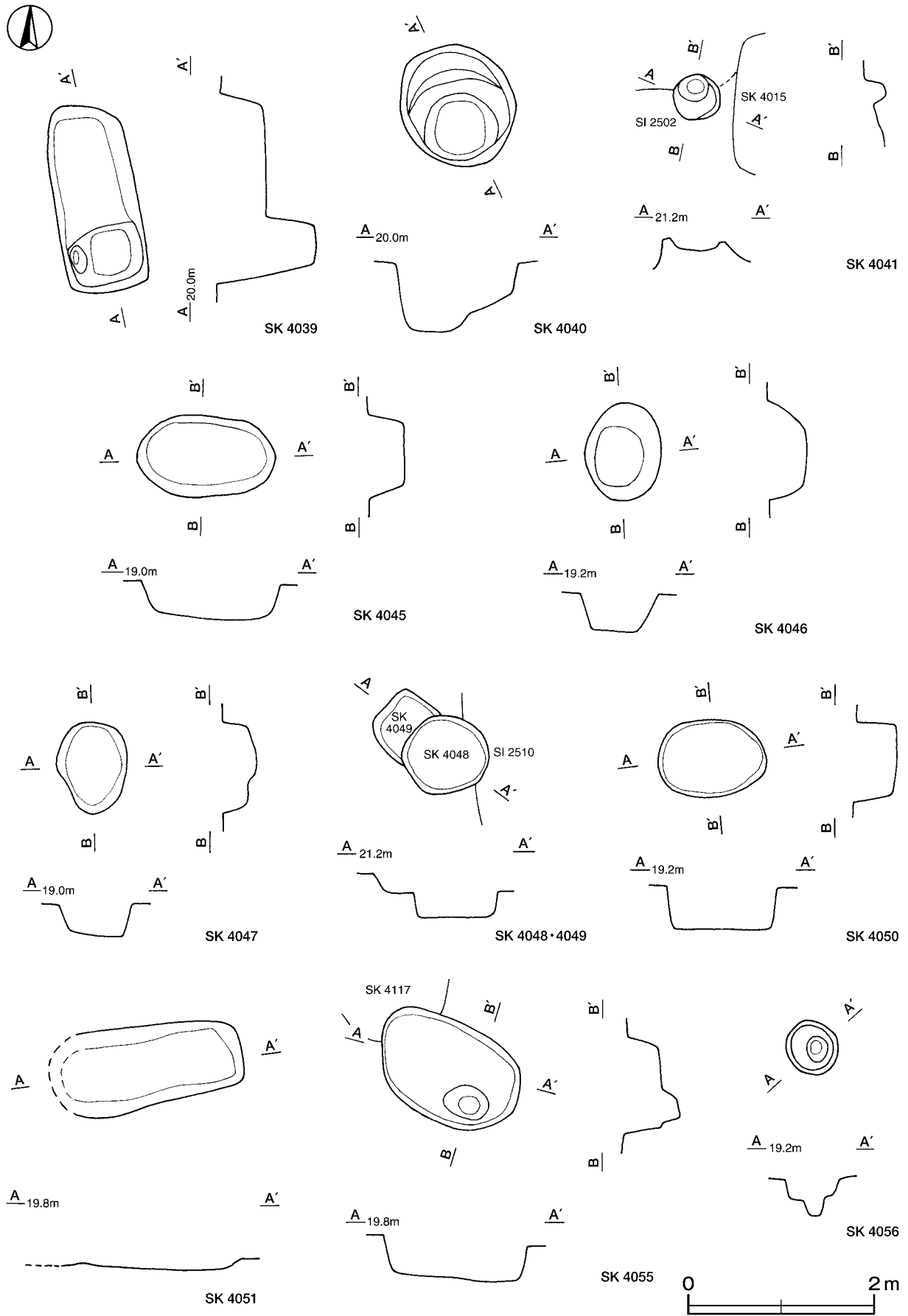
第211図 その他の土坑実測図(1)



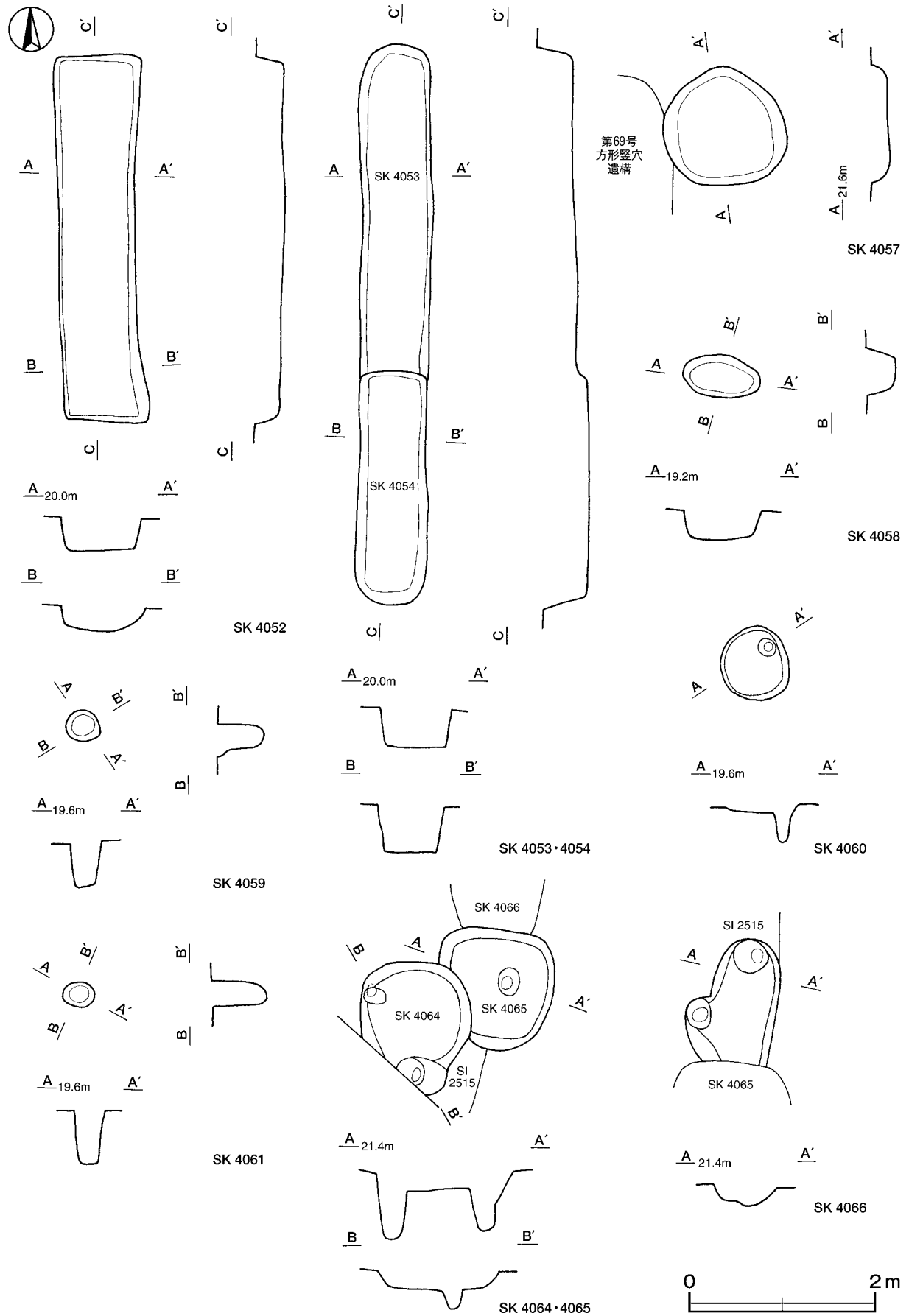
第212図 その他の土坑実測図(2)



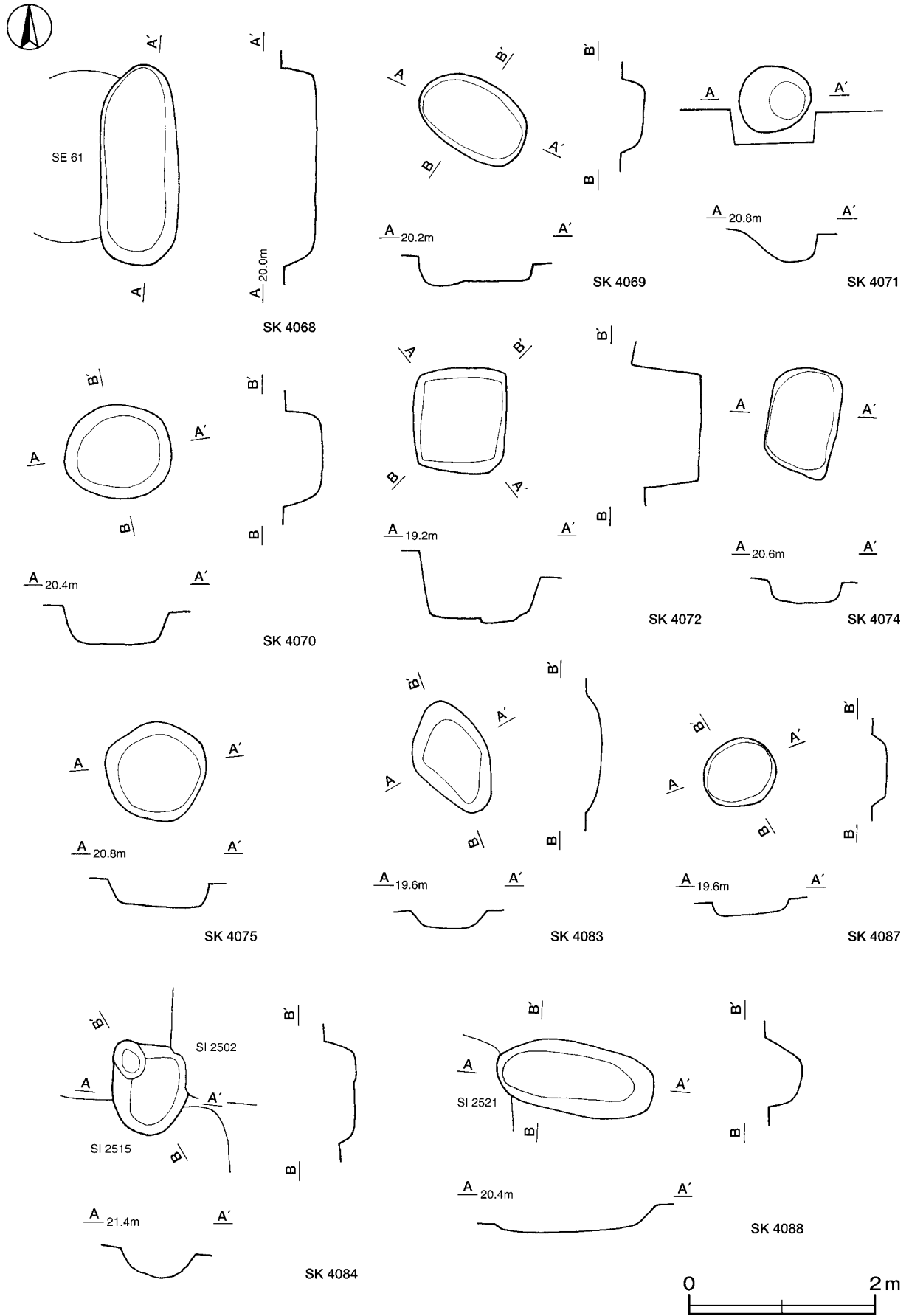
第213図 その他の土坑実測図(3)



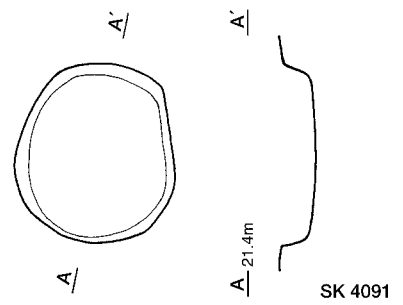
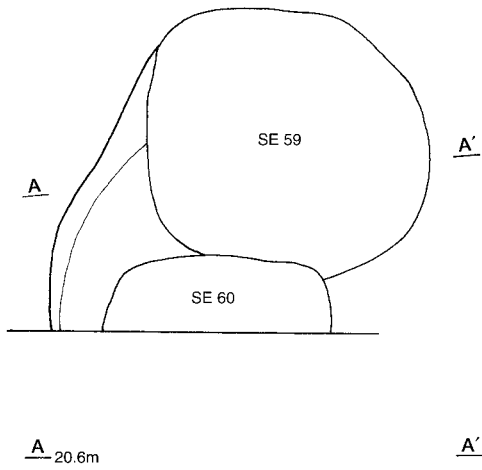
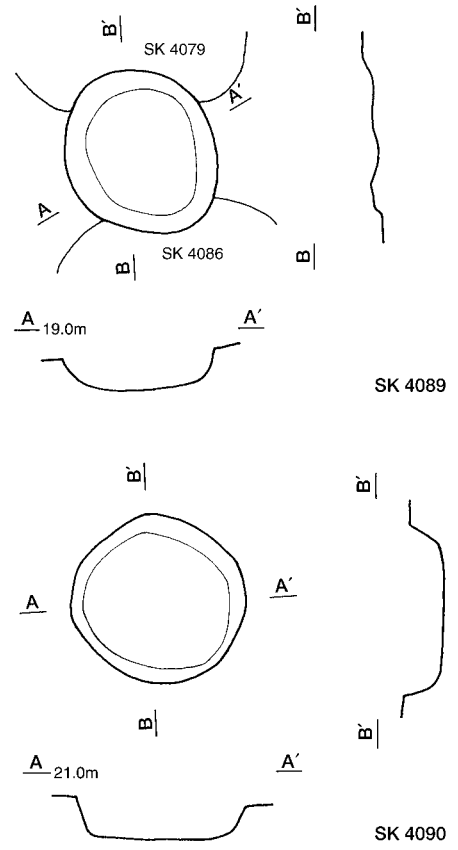
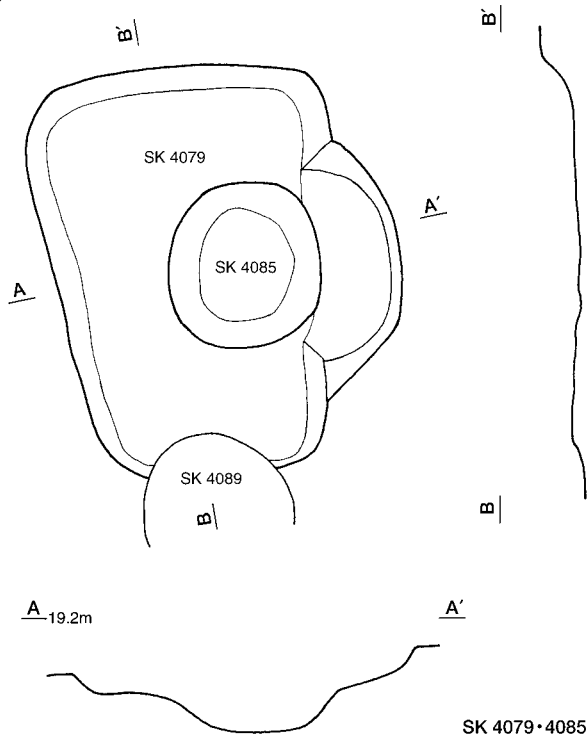
第214図 その他の土坑実測図(4)



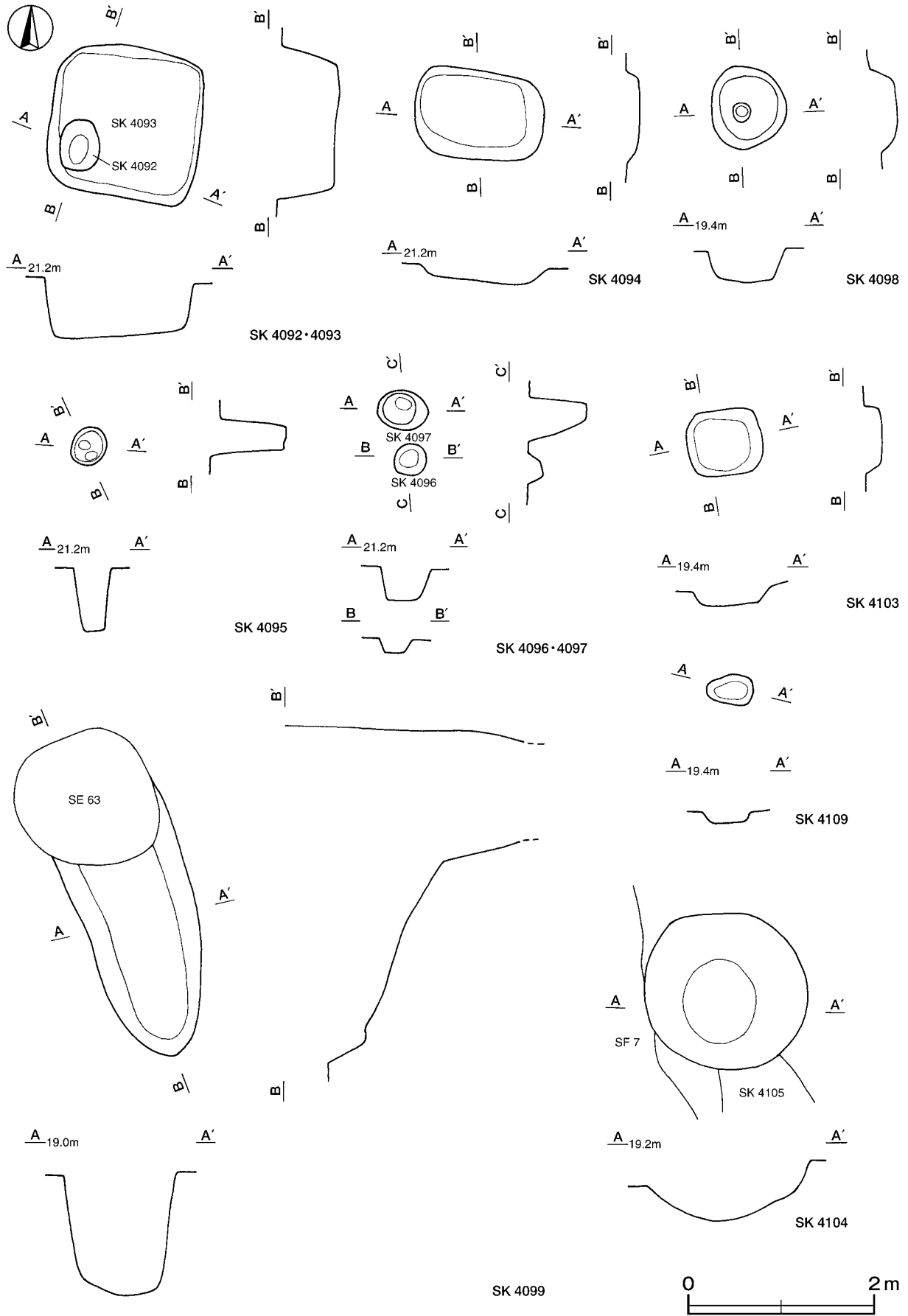
第215図 その他の土坑実測図(5)



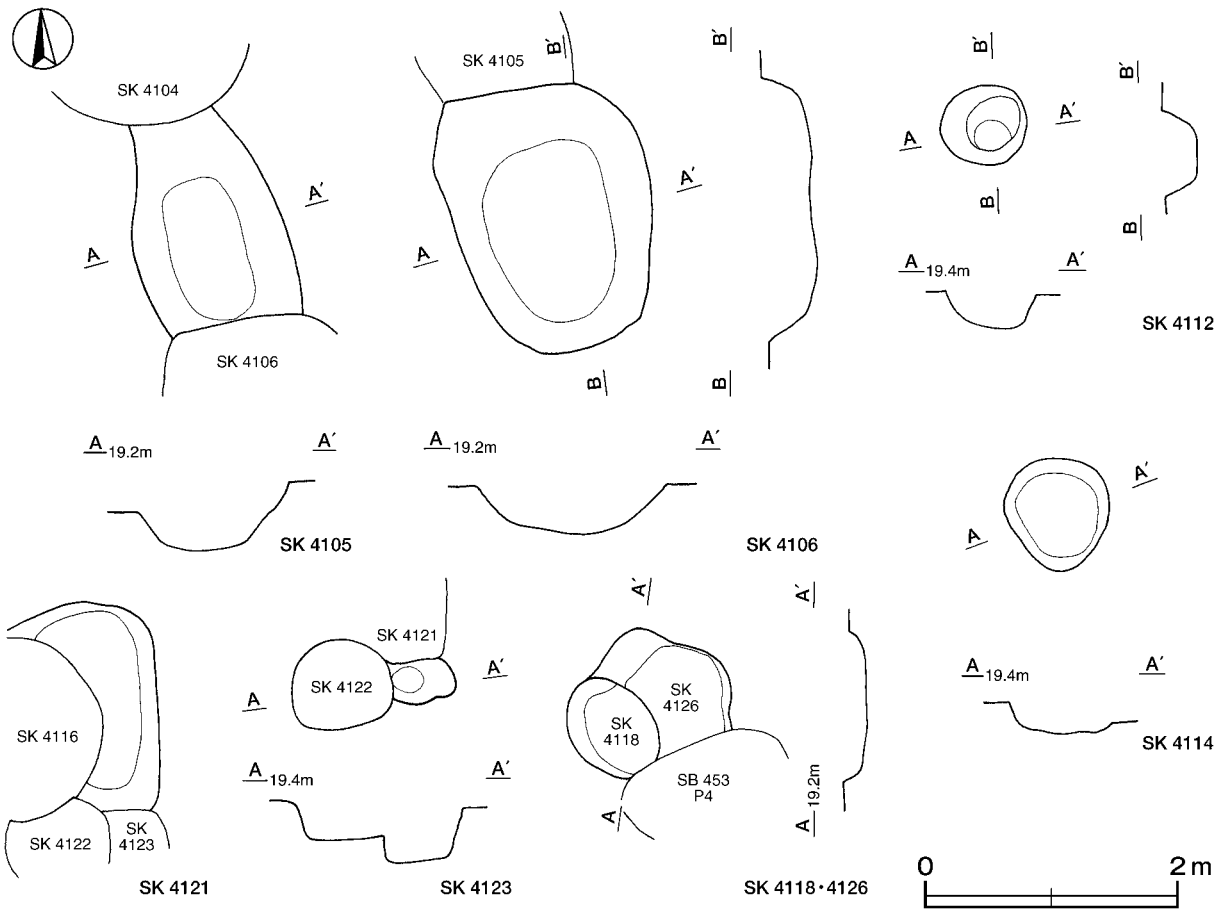
第216図 その他の土坑実測図(6)



第217図 その他の土坑実測図(7)



第218図 その他の土坑実測図(8)



第219図 その他の土坑実測図(9)

表21 その他の道路跡一覧表

番号	位置	方向	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
			確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
7	P 9 a7~ P 9 i9	N - 14° - W	(36.8)	2.28~4.1	1.4~2.0	40	U字状	自然	緩斜	土師器片 須恵器片 鉄滓	8~9世紀後葉
14	P 9 a0~ P 9 g0	N - 4° - W	(33.75)	(1.8~2.1)	-	-	-	-	-	土師器片 須恵器片 釘 鉄滓	8~9世紀後葉

表22 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
132	P 9 b2~ P 9 c2	N - 0°	直線状	4.86	56~82	50~78	4~8	U字状	不明	緩斜	土師器片, 須恵器片	不明
133	P 9 e9~ P 9 g0	N - 25° - W	曲線状	(12.40)	51~125	40~80	14~32	U字状	人為	緩斜	土師器片, 須恵器片	不明
134	P 9 c4~ P 9 e4	N - 0°	直線状	8.82	67~82	56~74	4~16	U字状	人為	緩斜	土師器片, 須恵器片	不明

表23 その他の井戸跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
61	P 8 d8	N - 9° - E	楕円形	1.90×[1.70]	(1.83)	漏斗状 垂直	-	人為		不明
62	P 9 f8	N - 22° - W	円形	1.56×1.45	(2.05)	漏斗状 垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	不明
63	P 9 g7	N - 57° - W	円形	(1.62)×1.50	(2.38)	漏斗状 垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	不明
64	P 9 c7	N - 47° - W	円形	1.23×1.18	(2.02)	漏斗状 垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	8~9世紀後葉以後
65	P 9 g5	N - 65° - W	楕円形	2.50×2.10	(1.85)	漏斗状 垂直	-	人為	土師器片 須恵器片 不明鉄製品	不明

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
66	P 9 g5	N - 35° - W	円形	1.87×[1.70]	(1.33)	漏斗状 垂直	-	人為		不明
67	P 8 f0	N - 21° - W	楕円形	1.36×1.16	(1.47)	漏斗状 垂直	-	自然	土師器片, 須恵器片	不明
68	P 9 g5	N - 74° - E	楕円形	1.81×1.50	(1.65)	漏斗状 垂直	-	人為		不明

表24 その他の墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
4042	P 8 h7	N - 88° - E	隅丸長方形	2.85×0.87	43	平坦	外傾	人為	無	土師器片	10世紀後半以降
4043	P 8 h7	N - 92° - E	隅丸長方形	2.74×0.93	38	平坦	外傾	人為	無	土師器片	10世紀後半以降
4044	P 8 h7	N - 95° - E	隅丸長方形	3.66×0.90	36~54	平坦	外傾	人為	無	土師器片	10世紀後半以降

表25 その他の土坑一覧表

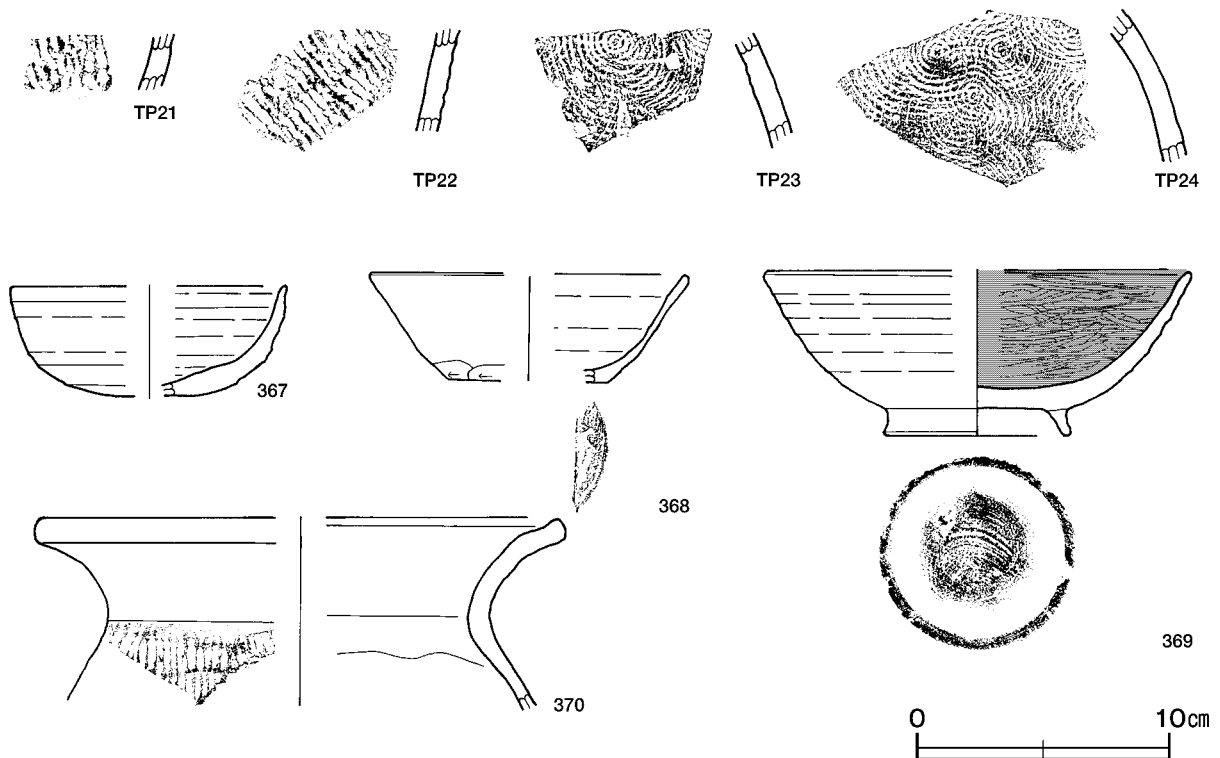
番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4000	P 7 d0	N - 47° - W	円形	1.40×1.36	32	人為	平坦	緩斜	土師器片	
4001	P 8 c1	N - 70° - W	円形	1.18×1.10	20	人為	平坦	緩斜		
4002	P 8 c1	N - 56° - W	[楕円形]	0.88×(0.82)	13	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4003
4003	P 8 c1	N - 59° - W	円形	1.41×1.35	26	人為	平坦	緩斜		SK4002→本跡
4004	P 8 c1	N - 25° - W	[楕円形]	1.25×[1.04]	11	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4005, 4025
4005	P 8 c2	N - 49° - E	円形	1.03×0.94	17	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	SK4004→本跡→SK4003
4007	P 8 d2	N - 72° - W	円形	1.18×1.12	32	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	SK4008→本跡
4008	P 8 d3	N - 13° - E	長方形	2.96×1.59	16~28	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4007・4009
4009	P 8 d3	N - 30° - W	円形	1.33×1.25	28	人為	平坦	外傾	須恵器片	SK4008・4011→本跡
4010	P 8 d2	N - 36° - E	楕円形	1.43×1.16	16~23	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4011	P 8 d2	N - 28° - W	[楕円形]	1.39×(0.58)	19	人為	平坦	外傾		本跡→SI2509, SK4009
4012	P 8 d2	N - 78° - W	円形	0.82×0.74	20	人為	平坦	外傾		
4013	P 8 e1	N - 5° - E	円形	1.36×1.32	32	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4014	P 8 e1	N - 22° - E	楕円形	1.70×1.40	46	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4015	P 8 f2	N - 22° - E	楕円形	1.49×1.31	28	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	SI2502→本跡
4016	P 8 g3	N - 86° - W	不定形	1.08×0.87	41	人為	平坦	外傾		
4017	P 8 g3	N - 76° - W	円形	0.95×0.88	19	人為	平坦	外傾	土師器片	
4018	P 8 h3	N - 10° - W	円形	1.32×1.26	45	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4019	P 8 e2	N - 41° - W	円形	1.19×1.10	68	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4020	P 8 d2	N - 27° - W	円形	1.36×1.31	42	人為	平坦	緩斜		SI2503→本跡
4022	P 8 i4	N - 69° - E	不定形	1.38×0.97	21~26	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4023	P 8 h3	N - 59° - W	楕円形	0.77×0.69	23	人為	平坦	緩斜		
4024	P 8 f1	N - 47° - W	楕円形	1.24×1.03	12~20	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4025	P 8 c1	N - 16° - W	円形	1.27×1.22	28	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	SK4004→本跡
4026	P 8 g7	N - 79° - W	楕円形	1.08×0.93	46	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4027	P 8 g7	N - 86° - E	楕円形	2.42×0.79	76	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4028	P 8 h3	N - 6° - W	楕円形	1.20×0.88	25	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4029	P 8 h3	N - 41° - W	楕円形	0.73×0.67	25	人為	平坦	緩斜	土師器片	
4030	P 8 g7	N - 11° - W	円形	1.30×1.22	32	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	
4031	P 8 f7	N - 79° - E	隅丸長方形	3.23×0.90	25	自然	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	SK4032→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4032	P 8 f 8	N - 85° - E	[長方形]	(1.53)×1.14	-	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4031, 4033
4033	P 8 f 8	N - 7° - W	長方形	2.80×0.89	11	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	SK4032→本跡
4034	P 8 f 8	N - 5° - W	橢円形	2.41×0.85	102	人為	凹凸	直立	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	
4035	P 8 f 9	N - 1° - W	長方形	4.81×0.92	52~71	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	SK4036→本跡
4036	P 8 e 9	N - 1° - W	[長方形]	[2.55]×0.79	95	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4035
4037	P 8 e 8	N - 75° - W	隅丸長方形	2.01×0.81	93	自然	平坦	直立	土師器片, 須惠器片	
4039	P 8 f 9	N - 18° - W	隅丸長方形	2.07×0.88	107	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4040	P 8 g 9	N - 42° - W	橢円形	1.37×1.24	74	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 不明鉄製品	
4041	P 8 f 2	N - 77° - W	橢円形	3.04×2.07	15~20	人為	平坦	緩斜		SI2502→本跡
4045	P 9 h 3	N - 87° - W	橢円形	1.49×0.88	38	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4046	P 9 g 3	N - 2° - E	橢円形	1.05×0.82	42	人為	平坦	外傾	土師器片	
4047	P 8 h 3	N - 2° - W	橢円形	1.00×0.74	35	人為	平坦	外傾		
4048	P 8 i 3	N - 0°	円形	0.86×0.86	29	人為	平坦	直立		SI2510→本跡→SK4049
4049	P 8 i 3	N - 46° - W	[方形]	0.66×(0.41)	22	人為	平坦	直立		SK4048→本跡
4050	P 9 e 3	N - 84° - E	橢円形	1.18×0.85	48	人為	平坦	直立	土師器片, 須惠器片	
4051	P 8 e 0	N - 82° - E	隅丸長方形	[2.09]×0.83	14	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片, 釘	
4052	P 8 c 9	N - 1° - W	橢円形	3.96×0.86	34	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 陶器片	
4053	P 8 c 0	N - 1° - W	[隅丸長方形]	3.52×(0.77)	39	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4054
4054	P 8 d 0	N - 1° - W	隅丸長方形	2.52×0.71	50	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	SK4053→本跡
4055	P 8 h 0	N - 49° - W	橢円形	1.69×1.10	60	自然	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4056	P 9 e 5	N - 44° - W	円形	0.60×0.55	38	自然	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4057	P 8 f 1	N - 86° - E	円形	1.31×1.28	20	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	第69号方形竪穴遺構→本跡
4058	P 9 d 6	N - 82° - W	橢円形	0.85×0.48	30	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4059	P 9 c 9	N - 0°	円形	0.37×0.32	49	人為	平坦	直立		
4060	P 9 b 9	N - 0°	円形	0.81×(0.77)	6	人為	平坦	緩斜		
4061	P 9 a 9	N - 79° - E	橢円形	0.34×0.27	58	人為	平坦	直立		
4064	P 8 g 1	N - 3° - W	不定形	(1.43)×1.19	17	人為	平坦	緩斜		SK4065→本跡
4065	P 8 g 1	N - 2° - W	円形	1.29×1.24	20	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	SK4066→本跡→SK4064
4066	P 8 g 1	N - 7° - E	不定形	(1.35)×0.73	22	人為	皿状	緩斜		SI2515→本跡→SK4065
4068	P 8 d 8	N - 1° - E	橢円形	2.16×0.81	38	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	SE61→本跡
4069	P 8 c 7	N - 55° - W	橢円形	1.23×0.79	24	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	
4070	P 8 d 6	N - 54° - W	円形	1.16×1.09	41	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4071	P 8 i 4	N - 23° - W	円形	0.78×0.76	33	人為	皿状	緩斜		
4072	P 9 f 3	N - 8° - E	長方形	1.14×0.98	59	人為	平坦	外傾		
4074	P 8 d 4	N - 14° - E	不定形	1.13×0.76	22	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	
4075	P 8 d 4	N - 0°	円形	1.07×1.07	28	人為	平坦	外傾	土師器片, 須惠器片	SI2506→本跡
4079	P 9 g 0	N - 4° - W	不定形	3.28×2.75	29	人為	皿状	緩斜	土師器片, 須惠器片	SK4085→本跡
4081	P 8 i 8	N - 10° - W	[橢円形]	(1.48×0.61)	58~71	人為	平坦	外傾		本跡→SE59, SE60
4083	P 9 b 9	N - 19° - W	不定形	1.26×0.80	20	人為	皿状	緩斜		
4084	P 8 g 1	N - 30° - W	不定形	1.06×0.92	23	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片	SI2515→本跡→SI2502
4085	P 9 g 0	N - 1° - W	橢円形	1.32×1.21	30	人為	皿状	緩斜	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4079
4087	P 9 h 8	N - 81° - E	円形	0.81×0.75	15	自然	平坦	緩斜		
4088	P 8 c 5	N - 81° - W	橢円形	1.70×0.78	30	人為	皿状	緩斜	土師器片, 須惠器片	SI2521→本跡
4089	P 9 h 0	N - 23° - W	橢円形	1.37×1.19	13	人為	皿状	緩斜	土師器片, 鉄滓	SK4079-4086→本跡
4090	P 8 e 3	N - 17° - W	円形	1.38×1.37	30	人為	平坦	緩斜	須惠器片	
4091	P 8 d 2	N - 11° - E	橢円形	1.46×1.27	25	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	SK4093→本跡

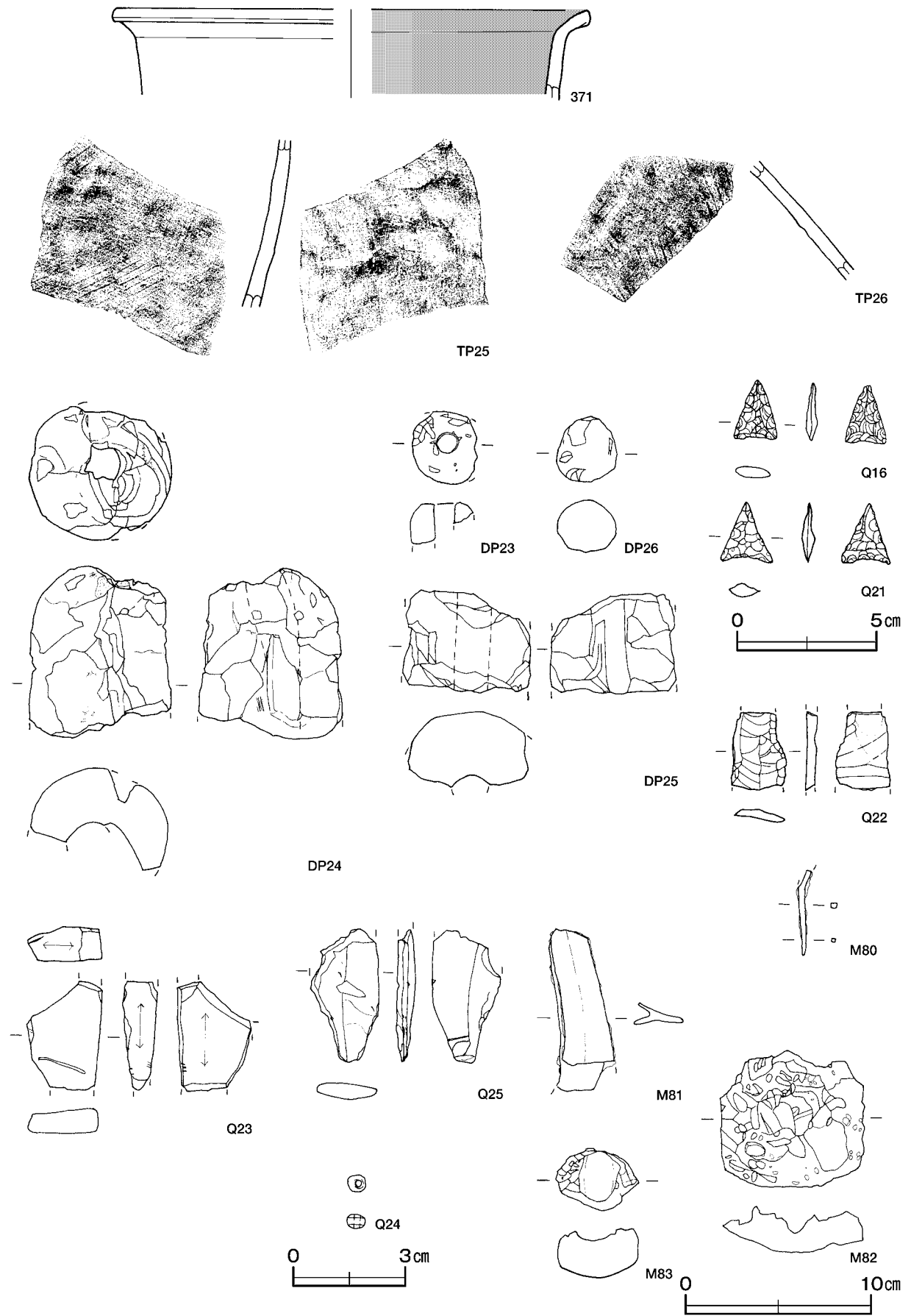
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
4092	P 8 h2	N - 7 ° - E	楕円形	0.55×0.44	60	自然	平坦	外傾	土師器片	SK4093→本跡
4093	P 8 h2	N - 2 ° - E	方形	1.64×1.60	61	人為	平坦	外傾	土師器片	本跡→SK4092
4094	P 8 g2	N - 81 ° - W	長方形	1.41×0.95	14	自然	平坦	緩斜		
4095	P 8 g2	N - 10 ° - E	楕円形	0.43×0.38	76	人為	平坦	直立	土師器片	
4096	P 8 g2	N - 47 ° - E	円形	0.37×0.35	18	自然	平坦	外傾		
4097	P 8 g2	N - 69 ° - W	楕円形	0.55×0.44	62	人為	平坦	外傾		
4098	P 8 e9	N - 24 ° - W	円形	0.87×0.81	24	人為	皿状	緩斜		
4099	P 8 g7	N - 12 ° - W	[楕円形]	(2.16)×1.18	41~58	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 鉄滓	SE63→本跡
4103	P 9 e0	N - 9 ° - W	隅丸長方形	0.82×0.71	17	人為	平坦	外傾		SF 7→本跡
4104	P 9 f9	N - 52 ° - W	円形	1.82×1.75	50	人為	皿状	緩斜	土師器片, 須恵器片	SF 7・SK4105→本跡
4105	P 9 f9	N - 14 ° - W	不定形	(1.62)×1.23	43~51	人為	平坦	緩斜	須恵器片	本跡→SK4104・4106
4106	P 9 f9	N - 17 ° - W	楕円形	2.10×1.58	38	人為	皿状	緩斜		SK4105→本跡
4109	P 9 d9	N - 81 ° - W	不定形	0.50×0.34	24	人為	平坦	緩斜	土師器片, 須恵器片	
4112	P 8 f9	N - 7 ° - W	円形	0.71×0.65	25	人為	平坦	緩斜		
4114	P 8 h0	N - 21 ° - W	楕円形	0.88×0.79	19	人為	皿状	緩斜		
4118	P 8 h0	N - 35 ° - W	不定形	(0.85×0.63)	24	人為	平坦	外傾		SK4126→本跡→SB453
4121	P 8 h0	N - 5 ° - W	不定形	1.70×(0.50)	-	人為	平坦	直立	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4116・4122・4123
4123	P 8 h0	N - 10 ° - W	不定形	0.59×0.33	43	人為	平坦	外傾	土師器片, 須恵器片	SK4122→本跡
4126	P 8 h0	N - 55 ° - E	不定形	1.35×(0.96)	23	人為	皿状	直立	土師器片, 須恵器片	本跡→SK4118・SB453

5 遺構外出土遺物(第220・221図)

今回の調査で、出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。



第220図 遺構外出土遺物実測図(1)



第221図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第220・221図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
367	須恵器	坏	[11.0]	4.3	-	長石・石英・小礫	灰	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 底部回転糸切り	表採	45% PL51
368	須恵器	坏	[12.5]	4.3	[6.1]	長石	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	表採	20%
369	土師器	高台付椀	[16.8]	6.4	7.3	長石・雲母	暗赤灰	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 底部回転糸切り	表採	45%
370	須恵器	甕	[20.6]	(7.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ	表採	10%
371	土師器	甕力	[25.1]	(4.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面ヘラナデ 底部回転糸切り	表採	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP21	縄文土器	甕	長石・雲母	灰褐	普通	単節 L R 縄文施文	表採	
TP22	縄文土器	甕	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	単節 L R 縄文施文	表採	
TP23	須恵器	鉢	長石・雲母	灰	普通	体部外面同心円状の叩き目	表採	
TP24	須恵器	鉢	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面同心円状の叩き目	表採	
TP25	須恵器	甕	長石・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	SI2521覆土中	
TP26	須恵器	甕	長石・雲母	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	SI2521覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	球状土錘	(3.9)	(3.5)	(2.2)	(22.9)	土	外面ナデ 一方向からの穿孔	表採	PL52
DP24	羽口	(9.1)	(7.6)	(7.1)	(302.2)	土	先端部残存 溶解物付着 一方向からの穿孔	表採	
DP25	羽口	(5.4)	(6.9)	(4.1)	(131.4)	土	一方向からの穿孔	表採	
DP26	不明土製品	3.5	3.2	2.8	29.4	土	断面円形 側面は平らに面取りが為されている	表採	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	石鏃	2.1	1.5	1.4	1.0	トロトロ石	凹基無茎鏃 表裏押圧剥離	SI2521覆土中	PL53
Q21	石鏃	2.2	1.9	0.5	1.2	チャート	凹基無茎鏃 指頭押圧剥離	表採	PL53
Q22	剥片	(4.2)	3.0	0.6	(8.6)	瑪瑙	両端は欠損 表面は多方向からの剥離痕からなる	表採	
Q23	砥石	(5.9)	4.0	1.3	(43.3)	凝灰岩	砥面3面 他は破断面	表採	PL53
Q24	ガラス小玉	0.3	0.3	0.1	0.1	ガラス	青色	表採	PL53
Q25	石製模造品	(8.0)	(3.7)	0.9	(30.3)	滑石	剣形品	P 8 f 0	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M80	釘	(4.6)	(0.4)	0.2~0.3	(2.8)	鉄	頭部欠損 断面方形の棒状	SK4051覆土中	
M81	鋤先	(8.8)	2.5	0.2~0.4	(38.7)	銅	U字形鋤 刃先欠損	表採	
M82	鉄滓	7.4	7.6	2.5	174.5	鉄	椀状滓	P 8 e 9	PL54
M83	鉄滓	(3.3)	(4.4)	2.7	(30.1)	鉄	椀状滓	P 8 e 9	

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

第 1 分冊

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551